

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第227集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第48集

南蛇井増光寺遺跡VI

D S 区

(本文編)

1 9 9 7

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第227集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第48集

南蛇井増光寺遺跡VI

D S 区
(本 文 編)

1 9 9 7

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日 本 道 路 公 団



遺跡を南から望む



241号土坑出土土器





844号土坑出土土器





上段左
241号土坑
上段右
430号土坑
中段
90号住居跡
下段
67号住居跡

序

関越自動車道上越線は、本県藤岡市の関越自動車道新潟線から分岐し、新潟県上越市で北陸自動車道に接続する高速自動車国道であります。現在、信州中野まで開通しており、単に交通が便利になったというに止まらず、地域にとって大きな経済的効果をもたらしております。

この関越自動車道上越線の建設に先立って、富岡市南蛇井においては昭和63年11月から平成3年3月にかけて、埋蔵文化財の大規模な発掘調査が行われました。その調査成果は既に『南蛇井増光寺遺跡発掘調査報告書』として4冊刊行しており、本地域の歴史解明のために大いに活用されております。今回報告いたしますDS区につきましては、縄文時代の土坑が集中している地区で、出土土器の様相は縄文時代中期に信越地方や東関東地方と活潑な交流が行われていたことを示しております。

発掘調査から調査報告書刊行まで日本道路公団東京第二建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、富岡市教育委員会、地元関係者等には終始御指導、ご協力を賜りました。これら関係者の皆様に感謝の意を表すると共に3年5ヶ月にわたり発掘調査を担当した職員の労をねぎらい、併せて本報告書が多くの方に活用されることを願い序といたします。

平成9年1月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長

小寺弘之

例 言

- 1 本書は、上信越自動車道建設工事に伴い調査された、南蛇井増光寺遺跡（事業名称 井出遺跡）の発掘調査報告書である。本書においては、南蛇井増光寺遺跡D S区から検出された縄文時代～近世に至る遺構・遺物のうち、5号溝の北側について報告する。
- 2 遺跡は群馬県富岡市大字南蛇井字増光寺に所在する。
- 3 発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に再委託して実施されたものである。
- 4 実際の発掘調査は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上越線地域埋蔵文化財調査を目的に設置された関越道上越線調査事務所が実施した。調査期間および担当者は以下のとおりである。
 - (1) 期 間 平成元年度 平成元年4月1日～平成2年3月31日
平成2年度 平成2年4月1日～平成2年9月12日
 - (2) 事務担当 邊見長雄（常務理事）、松本浩一（事務局長）、高橋一夫（所長）、片桐光一（平成元年度・総括次長）、大澤友治（平成2年度・総括次長）、徳江 紀（次長）、鬼形芳夫（調査課長）、宮川初太郎（係長代理）、国定 均（平成元年度・主任）、笠原秀樹（平成2年度・主任）
 - (3) 調査担当 〔平成元年度〕飯塚卓二（専門員）・新井 仁（調査研究員）・高島英之（調査研究員・4月10日～3月29日）、若林正人（調査研究員・10月23日～12月2日）、飯塚 聡（調査研究員・10月25日～3月28日）、小野和之（主任調査研究員・11月15日～3月28日）桜井美枝（調査研究員・12月11日～1月23日）
〔平成2年度〕飯塚卓二（専門員）・飛田野正佳（調査研究員）・亀山幸弘（調査研究員・4月5日～9月20日）、飯塚 聡（調査研究員・4月5日～7月27日）
- 5 遺物整理・報告書作成の期間および担当者は以下のとおりである。
 - (1) 期 間 平成7年4月1日～平成9年3月31日
 - (2) 事務担当 中村英一（平成7年度・常務理事）菅野 清（平成8年度・常務理事）、原田恒弘（事務局長）、蜂巢 実（管理部長）、神保侑史（平成7年度・調査研究部長）、赤山容造（平成8年度・調査研究第1部長）、小淵 淳（総務課長）、岸田治男（平成7年度・第2課長）、平野進一（平成8年度・第1課長）、笠原秀樹（総務係長）、国定 均（経理係長）、須田朋子（主任）、吉田有光（主任）、柳岡良宏（主任）、高橋定義（平成7年度・主事）、宮崎忠司（平成8年度・主事）
 - (3) 遺物整理・報告書作成担当
編 集 新井 仁（平成7年度・主任調査研究員）、飯塚卓二（平成8年度・主幹兼専門員）
執 筆 〔遺構本文〕新井 仁・飯塚卓二 〔石器〕桜井美枝 〔縄文土器〕小野和之 〔弥生土器〕大木紳一郎 〔土師器・須恵器・金属器〕飯塚卓二
遺構写真 発掘調査担当者
遺物写真 佐藤元彦（主任技師）
保存処理 関 邦一（主任技師）、土橋まり子（嘱託員）、小材浩一・萩原妙子（補助員）
遺物整理・報告書作成作業

(スリースペース遺物実測) 長沼久美子(囑託員)・伊藤淳子・岩淵節子・光安文子・萩原光枝・立川千栄子・南雲富子(整理補助員)

(石器の整理・報告書作成作業) 桜井美枝(担当者)・坂庭常磐(囑託員)・高橋フジ子・六本木弘子・高柳哲子・小久保ヒロミ・小林幸枝・飯野睦美(整理補助員)

(弥生土器の整理・報告書作成作業) 大木紳一郎(担当者)・関 正江・渡辺フサ枝・馬場信子・小菅優子・武永いち・高橋里佳・田村恭子・福島和恵・斉藤ひろみ(整理補助員)

(遺構および上記以外の遺物整理・報告書作成作業) 新井 仁・飯塚卓二(担当者)・小野寺仁子・牧野裕美・木暮芳枝・高田栄子・湯浅美枝子・渡辺八千代・原 由美(整理補助員)

- 6 発掘調査・報告書作成にあたり、一部を下記の機関に委託した。

〔航空写真〕(株)青高館 〔遺構測量、遺構・遺物トレース〕(株)測研、技研〔黒曜石の産地同定〕鈴木正男(立教大学) 〔縄文土器の展開写真〕小川忠博写真事務所

- 7 石材鑑定は群馬地質研究会 飯島静男氏にお願いした。

- 8 調査に至る経緯、および遺跡の地理的・歴史的環境については、『南蛇井増光寺遺跡』Ⅰ～Ⅳが刊行されているので、それによることとし、本書では省略した。

- 9 調査成果のまとめと考察については、平成8年度発行の『南蛇井増光寺遺跡Ⅴ』に含めた。

- 10 南蛇井増光寺遺跡E区166号土坑下層から出土した土器については、『南蛇井増光寺遺跡Ⅱ』(DN・E区)に未報告であったため、本報告書付編で報告した。

- 11 出土遺物・実測図・写真類は、群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。

- 12 報告書作成にあたり、下記の諸機関・諸氏に御教示・御指導をいただいた。記して謝意を表する次第である。

鈴木正男 金山喜明 大江正行

- 13 発掘調査従事者は下記の通りである。記して感謝する次第である。

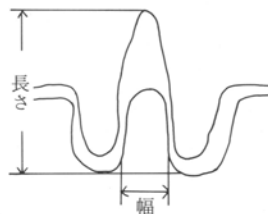
青木利夫 岩瀬 好 岩瀬ふみ子 石井るい 飯野しげ 飯野幸代 浦野幸子 恩田たけ
恩田美知子 木戸 茂 木戸るみ 小菅とみ 桜井ふみ子 佐藤信平 佐藤亜矢子 坂本松雄
清水とめ 白石 栄 高橋キヨ子 高橋しづ子 高橋友子 田中イサミ 津金沢金吾
津金沢とめ 津金沢かね 勅使河原ひさる 中島好古 半間正二 横尾富美代 渡辺 茂
渡辺とみ 黛よね子 小柴さよ子 中野よし江 大沢八重 高橋文江 佐藤三郎 黛 米子
宮澤英雄 高橋しげる 荻野 貢 黛 栄子 新井正男 久保原はつえ 久保原かつ
久保原きく 黒沢チヨ 岩井キワ 山田くめ 飯野悦子 武田けさ 阿部 滉 岩井 孝
神戸徳二郎 神戸丞二 佐藤ふみえ 久保原ナツ 中庭貞夫 富沢重子 丸沢君枝 小須田智也
重田達雄 大塚和代

凡 例

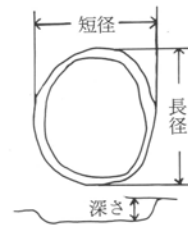
1. 遺跡位置図には、国土地理院発行25,000分の1地形図の『下仁田』『松井田』を使用した。
2. 遺跡図中の方位記号は国家座標の北を表す（国土座標Ⅸ）。
3. 遺構実測図、等高線に記した標高値は海拔標高を表す。
4. 本報告書における遺構番号は、発掘調査時に通番で付されたものを原則として使用しているが、都合により付け替えたものもある。
5. 各遺構実測図の縮尺については、住居跡1/60、炉・カマド1/30、土坑1/40としたが、これら以外については個々に縮尺を記した。
6. 竪穴住居跡の床面積は、縮尺1/30平面図をプランメーター（ローラー極式・レンズ式）を用いて3回計測し、その平均値を小数点以下3桁を四捨五入して算出した。
7. 遺構図中の等高線は、海拔標高で表示した。また、断面基準線の標高は水準基準端に示した。
8. 竪穴住居跡のグリッド位置、規模、面積、主軸方位、時代等については、一覧表にまとめた。
9. 竪穴住居跡および土坑の一覧表のうち、（ ）のあるものについては、現存する部分の長さである。
10. 方形を呈する竪穴住居跡の方位については、カマドを有する住居に関してはカマドを付設する壁の中間点と反対側の壁の中間点を結んだ軸線の方位を、また、カマドを有しない住居に関しては、北向きの壁の中間点と反対側壁の中間点を結んだ軸線の方位を採用した。
11. 住居跡および土坑の計測方法は下記による。



住 居



カマド



土 坑

12. 遺構図中のスクリーントーンは下記のことを示す。



13. 遺構図中に使用した遺物のシンボルマークは以下の通りである。



14. 遺物番号は遺物実測図、遺物観察表、写真図版ともすべて共通である。

15. 土器実測図の縮尺については、縄文1/3・1/4、弥生1/4、古墳時代以降1/3を基本としたが、それ以外の縮尺については、それぞれに記した。

16. 遺物図中のスクリーントーンは下記のことを示す。

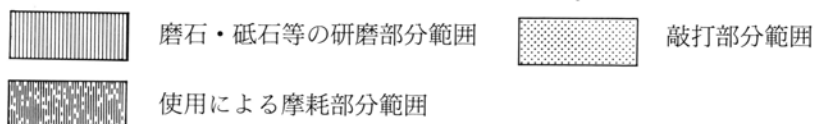


17. 遺構全体図(第496図)においては、重複する遺構に関し、重複部分の表現を上層に存在する遺構に限定した。ただし、下層遺構の範囲が全て上層遺構の下になる場合、下層遺構を破線で示した。

18. 写真図版編における遺物写真の見出しでは、遺構名称を以下の通り略した。

縦穴住居跡→住 溝状遺構→溝
(石器関係)

19. 石器実測図中の表示は以下のことを示す。



20. 石器実測図の縮尺は原則として以下のとおりで、図中の遺物ナンバーの後の()内に縮尺を示してある。

石鏃・尖頭器・石錐・楔形石器：4/5 小型の石匙：1/2
大型の石匙・打製石斧・磨製石斧・石鋏・磨石・敲石・凹石・石棒・小型の砥石：1/3
石皿・多孔石・大型の砥石：1/4

21. 石器写真図版の縮尺は原則として以下のとおりである。

石鏃・尖頭器・石錐・楔形石器：4/5 小型の石匙：1/2
大型の石匙・打製石斧・磨製石斧・石鋏・石核・二次加工ある剥片・石棒：1/3
磨石・敲石・凹石・石皿・多孔石・砥石：1/5

22. 観察・器種組成表中の器種名は、2文字以上のものは略称で示してある。略称は以下のとおりである。

楔：楔形石器 SS：スクレイパー ES：エンドスクレイパー 打斧：打製石斧 磨斧：磨製石斧
二次：二次加工ある剥片 微細：微細剝離痕ある剥片

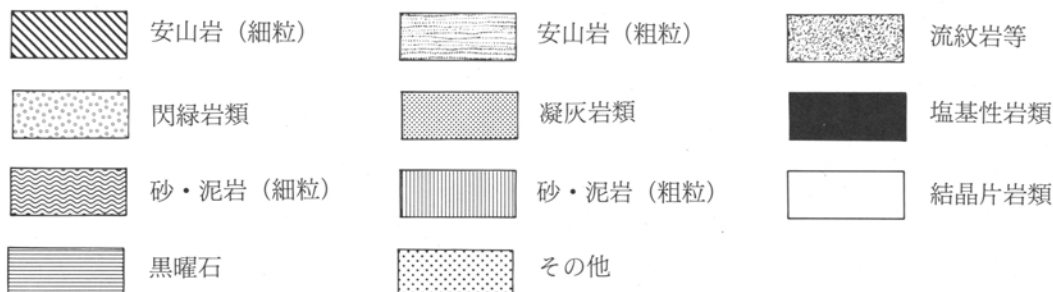
23. 観察表中の石材名は、2文字以上のものについては略称で示してある。各石材の略称は以下のとおりである。

安凝：安山岩質凝灰岩 牛砂：牛伏砂岩 雲片：雲母石英片岩 黄珩：黄色珩質岩 角安：角閃石安山岩 角閃：角閃石岩 褐珩：褐色珩質岩 かん：かんらん岩 輝安：輝石安山岩 輝凝：輝緑凝灰岩 凝砂：凝灰質砂岩 珩頁：珩質頁岩 珩準：珩質準片岩 珩粘：珩質粘板岩 珩変：珩質変質岩 硬頁：硬質頁岩 硬泥：硬質泥岩 黒安：黒色安山岩 黒頁：黒色頁岩 黒片：黒色片岩 細安：細粒輝石安山岩 砂頁：砂質頁岩 砂準：砂質準片岩 石閃：石英閃緑岩 赤珩：赤色珩質岩 粗安：粗粒輝石安山岩 チャ：チャート デイ：デイサイト デ凝：デイサイト質凝灰岩 砥沢：砥沢石 はん：はんれい岩 ひす：ひすい ひん：ひん岩 変輝：変輝緑岩 変玄：変玄武岩 変安：変質安山岩 変質玄：変質玄武岩 変蛇：変質蛇紋岩 変閃：変閃緑岩 変は：変はんれい岩 ホル：ホルンフェルス 溶凝：溶結凝灰岩 流凝：流紋岩質凝灰岩 緑凝：緑色凝灰岩 緑珩：緑色珩質岩 緑片：緑色片岩

24. 石器石材組成グラフについては、複数の石材を以下のグループにまとめて表示してある。また、各石材グループは、以下のトーンで示してある。

- ・安山岩(細粒)：黒安、細安
- ・安山岩(粗粒)：粗安、角安、輝安、変安
- ・流紋岩等：流紋、デイ、砥沢
- ・閃緑岩等：閃緑、変閃、石閃
- ・凝灰岩類：凝灰、溶凝、緑凝、デ凝、安凝、流凝
- ・塩基性岩類：輝緑、変輝、玄武、変玄、変質玄、かん、蛇紋、変蛇、変は、角閃、輝凝、はん

- ・砂・泥岩（細粒）：珪頁、硬頁、硬泥、黒頁、砂頁、頁岩、珪粘
- ・砂・泥岩（粗粒）：泥岩、砂岩、牛砂、礫岩、凝砂
- ・片岩類：雲片、黒片、緑片、珪準、砂準
- ・黒曜石
- ・その他：チャ、赤珪、褐珪、緑珪、黄珪、ひす、ひん、ホル、石英、玉髓、滑石、珪変、不明



（弥生土器関係）

25. 「器種」は壺・甕・高杯・鉢・短頸壺・台付甕・有孔鉢・台付壺・片口鉢・注口鉢・蓋・小壺・小甕・匙形土製品・ミニチュアに分類し、それぞれの大きさや容量によって大型・中型・小型を付記した。
26. 「計測値」はミリメートルを単位とし、口径・器高・底径・脚径・底孔径はそれぞれの部位における最大値を記載した。なお紡錘車は直径・厚さ・孔径・重量（g）を計測した。
27. 「文様の特徴」は施文部位を口縁部・頸部・肩部に三分し、それぞれをa・b・cに記号化して記載した。文様の種類は繁雑になることを避けるために、以下の略称を用いた。

「波」——— 櫛描波状文を指し、直前の数字は波状文帯の段数を表す。重複施文や小破片のため単位が不明瞭な場合は数字を記載しなかった。

「簾」——— 櫛描簾状文を指し、止め方と止め数を直前に記載した。「等止簾」は等間隔止め、「3止簾」は3連止め簾状文を表す。なお止め方の不明な場合は「簾」とのみ記した。

「羽」——— 櫛描羽状文を指す。

「積上」——— 口縁部の粘土紐積み上げ痕を装飾要素として残したものを指す。

「縄・編紐」——— 縄文と編み紐を指す。「斜縄」は斜縄文の略であり、直前の数字は施文単位の段数を示す。

「孔」——— 各部位に穿たれた孔を指し、直前の数字は孔数を表す。

上記以外の文様については略称を用いず、一般的に使用されている名称を記した。また赤彩については文様として扱わず、挿図での赤色表示で表すこととした。文様の先後関係については記していないが、出来る限り挿図に表すようにしたので参考にされたい。

28. 「施文具」は櫛描文の場合、最も単位の明確な簾状文から想定される幅（mm）と歯の本数を計測して記載した。簾状文のない場合は波状文や羽状文の単位に求めた。不明の場合は記していない。ただし、この数値はひとつの土器が基本的に同一施文具を用いたことを前提にしているため、この限りでないとするばこのデータは意味を持たない。なお、縄文の場合は「LR」「R」などの原体記号で表した。
29. 「整形」は内面と外面に二分し、過半を占める最終整形を記した。ただし部位を分けて記載する必要がある場合は「口ナデ胴ミガキ」のように併記した。なお整形の方向は記していないが、横位・斜位・縦位の区分は挿図で表現した。
30. 「胎土」は土器断面でのルーペ観察を行い、主に包含砂礫の特徴によってA～Hの8種に分類した。分類

基準は以下のとおりである。

- A——長石・石英・白色岩片・赤褐色粒の粗粒～細砂を含む。
- B——Aと同様の鉱物からなり細礫を多く含む。
- C——Aと同様の鉱物からなり比較的大きさの揃った粗砂を多く含む。
- D——輝石を主とする有色鉱物を多く含む。
- E——白色粘土塊と細礫を多く含む。
- F——緻密な粘土に長石・石英・白色岩片などの細砂を含む。
- G——片岩の細礫～細砂を含む。
- H——Aと同様の鉱物の細砂を少量含む。

31. 「色調」は器面の過半を占める色を選び、『標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著）と照合して色名を記載した。ただし弥生土器の色調は単一でないことが一般的なため、色名のみを記載しマンセル表示は行わなかった。
32. 「使用痕」は、主に被熱痕・煤付着・磨滅等の有無とその部位について記した。「被熱痕」は火熱を直接受けて赤色に色変したり、器面が熱のために剝離したと想定されるものを指し、「煤付着」は器面に煤が付着するものに限定し、黒斑のように還元されたものとの見分けがつかない場合は除いた。また「こげ」は甕などの内容物が炭化したものを指す。
33. 「遺存」は欠損部分と遺存部分のいずれかを記載した。部位は口縁を「口」、頸部を「頸」というように略し、大体の大きさについて分数で表示した。
34. 「出土位置」は床面と埋土中に二分し、床面出土は床からの比高5 cm以内とし、更に場所の限定できるものについては「出入口付近」「中央」「奥」「炉周辺」「左右側」「壁際」「ピット」「貯蔵穴」などの記載を行った。
35. 「備考」で靱圧痕や特殊な使用痕の他に、接合関係や特殊な型式について記載した。
36. なお観察表内で用いる（ ）は推定値や推測される器種・整形等を表している。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
抄 録	

第1章 調査の経過と方法

第1節 調査の経過	1
第2節 調査の方法	2
第3節 基本土層	3

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代の住居跡と出土遺物	4
第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物	100
第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物	167
第4節 土坑と出土遺物	278
第5節 井戸跡と出土遺物	453
第6節 溝跡と出土遺物	455
第7節 Pit について	460
第8節 遺構外出土遺物	
縄文土器	460
弥生土器	477
古墳時代以降土器	478
石 器	481
金 属 器	480

調査区地形図	503	古墳時代以降住居跡・井戸・溝全体図	511
遺構全体図	505	土坑全体図	513
縄文時代住居全体図	507	Pit 全体図	515
弥生時代住居全体図	509		

付 編

南蛇井増光寺遺跡の黒曜石の分析	1
5号溝について	11
E区166号土坑出土縄文土器追加報告	17

挿図目次

第 1 図	南蛇井増光寺遺跡位置図	1	第 60 図	65号住居跡 炉	54
第 2 図	南蛇井増光寺遺跡調査区図	2	第 61 図	65号住居跡 掘り方	55
第 3 図	DS 区グリッド配置図	3	第 62 図	65号住居跡出土遺物(1)	55
第 4 図	DS 区基本土層	3	第 63 図	65号住居跡出土遺物(2)	56
第 5 図	4号住居跡	4	第 64 図	65号住居跡出土遺物(3)	57
第 6 図	4号住居跡 炉	5	第 65 図	65号住居跡出土遺物(4)	58
第 7 図	4号住居跡出土遺物(1)	6	第 66 図	65号住居跡出土遺物(5)	59
第 8 図	4号住居跡出土遺物(2)	7	第 67 図	65号住居跡出土遺物(6)	60
第 9 図	4号住居跡出土遺物(3)	9	第 68 図	68号住居跡	62
第 10 図	4号住居跡出土遺物(4)	10	第 69 図	68号住居跡 炉	63
第 11 図	4号住居跡出土遺物(5)	11	第 70 図	68号住居跡出土遺物(1)	63
第 12 図	4号住居跡出土遺物(6)	12	第 71 図	68号住居跡出土遺物(2)	63
第 13 図	16号住居跡	13	第 72 図	68号住居跡出土遺物(3)	64
第 14 図	16号住居跡 炉	14	第 73 図	70号住居跡	66
第 15 図	16号住居跡出土遺物(1)	15	第 74 図	70号住居跡 炉	67
第 16 図	16号住居跡出土遺物(2)	16	第 75 図	70号住居跡出土遺物(1)	67
第 17 図	16号住居跡出土遺物(3)	17	第 76 図	70号住居跡出土遺物(2)	69
第 18 図	21号住居跡	18	第 77 図	70号住居跡出土遺物(3)	70
第 19 図	21号住居跡出土遺物	19	第 78 図	70号住居跡出土遺物(4)	71
第 20 図	22号住居跡	20	第 79 図	70号住居跡出土遺物(5)	72
第 21 図	22号住居跡出土遺物(1)	20	第 80 図	70号住居跡出土遺物(6)	74
第 22 図	22号住居跡出土遺物(2)	21	第 81 図	70号住居跡出土遺物(7)	75
第 23 図	22号住居跡出土遺物(3)	21	第 82 図	73号住居跡	77
第 24 図	32号住居跡	22	第 83 図	73号住居跡 炉	78
第 25 図	32号住居跡 炉	23	第 84 図	73号住居跡出土遺物(1)	78
第 26 図	32号住居跡出土遺物(1)	23	第 85 図	73号住居跡出土遺物(2)	79
第 27 図	32号住居跡出土遺物(2)	24	第 86 図	73号住居跡出土遺物(3)	80
第 28 図	33号住居跡	25	第 87 図	73号住居跡出土遺物(4)	81
第 29 図	33号住居跡 Pit	26	第 88 図	78号住居跡	82
第 30 図	33号住居跡 炉	26	第 89 図	78号住居跡 炉	83
第 31 図	33号住居跡出土遺物(1)	27	第 90 図	78号住居跡出土遺物(1)	83
第 32 図	33号住居跡出土遺物(2)	29	第 91 図	78号住居跡出土遺物(2)	84
第 33 図	33号住居跡出土遺物(3)	32	第 92 図	78号住居跡出土遺物(3)	85
第 34 図	35号住居跡	33	第 93 図	83号住居跡	86
第 35 図	35号住居跡 炉	34	第 94 図	83号住居跡 炉	86
第 36 図	35号住居跡出土遺物(1)	34	第 95 図	83号住居跡出土遺物	87
第 37 図	35号住居跡出土遺物(2)	35	第 96 図	92号住居跡	88
第 38 図	37号住居跡	36	第 97 図	92号住居跡出土遺物(1)	88
第 39 図	37号住居跡出土遺物(1)	37	第 98 図	92号住居跡出土遺物(2)	88
第 40 図	37号住居跡出土遺物(2)	38	第 99 図	93号住居跡	89
第 41 図	37号住居跡出土遺物(3)	39	第100図	93号住居跡 炉	90
第 42 図	37号住居跡出土遺物(4)	40	第101図	93号住居跡出土遺物(1)	90
第 43 図	37号住居跡出土遺物(5)	42	第102図	93号住居跡出土遺物(2)	91
第 44 図	37号住居跡出土遺物(6)	43	第103図	93号住居跡出土遺物(3)	92
第 45 図	45号住居跡 炉	45	第104図	93号住居跡出土遺物(4)	93
第 46 図	48号住居跡	46	第105図	93号住居跡出土遺物(5)	94
第 47 図	48号住居跡 炉	46	第106図	93号住居跡出土遺物(6)	95
第 48 図	48号住居跡出土遺物(1)	47	第107図	93号住居跡出土遺物(7)	98
第 49 図	48号住居跡出土遺物(2)	47	第108図	2号住居跡	100
第 50 図	48号住居跡出土遺物(3)	48	第109図	2号住居跡 柱穴	101
第 51 図	49号住居跡	49	第110図	2号住居跡 炉	101
第 52 図	50号住居跡	49	第111図	2号住居跡出土遺物(1)	102
第 53 図	50号住居跡 炉	50	第112図	2号住居跡出土遺物(2)	103
第 54 図	50号住居跡出土遺物(1)	50	第113図	6号住居跡	104
第 55 図	50号住居跡出土遺物(2)	51	第114図	6号住居跡 炉	104
第 56 図	52号住居跡	51	第115図	6号住居跡出土遺物(1)	105
第 57 図	52号住居跡出土遺物(1)	52	第116図	6号住居跡出土遺物(2)	106
第 58 図	52号住居跡出土遺物(2)	53	第117図	10号住居跡	107
第 59 図	65号住居跡	54	第118図	10号住居跡 炉・遺物出土状況断面	108

第119図	10号住居跡 掘り方	108	第181図	90号住居跡	158
第120図	10号住居跡出土遺物(1)	109	第182図	90号住居跡遺物出土状況	159
第121図	10号住居跡出土遺物(2)	109	第183図	90号住居跡 炉	159
第122図	10号住居跡出土遺物(3)	110	第184図	90号住居跡出土遺物(1)	159
第123図	13号住居跡	111	第185図	90号住居跡出土遺物(2)	160
第124図	13号住居跡 掘り方	112	第186図	90号住居跡出土遺物(3)	161
第125図	13号住居跡 炉・床下 Pit・土坑	112	第187図	90号住居跡出土遺物(4)	162
第126図	13号住居跡出土遺物(1)	113	第188図	90号住居跡出土遺物(5)	163
第127図	13号住居跡出土遺物(2)	113	第189図	90号住居跡出土遺物(6)	164
第128図	13号住居跡出土遺物(3)	114	第190図	90号住居跡出土遺物(7)	165
第129図	19号住居跡	115	第191図	1号住居跡	167
第130図	19号住居跡 炉	115	第192図	1号住居跡 カマド	168
第131図	19号住居跡出土遺物(1)	116	第193図	1号住居跡出土遺物	168
第132図	19号住居跡出土遺物(2)	116	第194図	3号住居跡	169
第133図	25号住居跡遺物出土状況	117	第195図	3号住居跡 カマド	170
第134図	25号住居跡	118	第196図	3号住居跡出土遺物(1)	171
第135図	25号住居跡 炉	119	第197図	3号住居跡出土遺物(2)	172
第136図	25号住居跡出土遺物(1)	119	第198図	5号住居跡	173
第137図	25号住居跡出土遺物(2)	120	第199図	5号住居跡 カマド	174
第138図	25号住居跡出土遺物(3)	121	第200図	5号住居跡 掘り方	174
第139図	27号住居跡	122	第201図	5号住居跡出土遺物	175
第140図	27号住居跡出土遺物	122	第202図	7号住居跡	176
第141図	29号住居跡遺物出土状況	123	第203図	7号住居跡 カマド	177
第142図	29号住居跡	124	第204図	7号住居跡出土遺物(1)	177
第143図	29号住居跡 炉	124	第205図	7号住居跡出土遺物(2)	178
第144図	29号住居跡出土遺物(1)	125	第206図	8号住居跡	179
第145図	29号住居跡出土遺物(2)	126	第207図	8号住居跡 カマド	180
第146図	29号住居跡出土遺物(3)	127	第208図	8号住居跡 掘り方	180
第147図	29号住居跡出土遺物(4)	128	第209図	8号住居跡出土遺物(1)	181
第148図	29号住居跡出土遺物(5)	129	第210図	8号住居跡出土遺物(2)	182
第149図	34号住居跡	131	第211図	9号住居跡	183
第150図	34号住居跡 掘り方	132	第212図	9号住居跡 カマド	184
第151図	34号住居跡 炉	133	第213図	9号住居跡出土遺物	185
第152図	34号住居跡出土遺物(1)	133	第214図	11号住居跡	186
第153図	34号住居跡出土遺物(2)	134	第215図	11号住居跡 カマド	186
第154図	34号住居跡出土遺物(3)	135	第216図	11号住居跡出土遺物(1)	187
第155図	34号住居跡出土遺物(4)	136	第217図	11号住居跡出土遺物(2)	187
第156図	34号住居跡出土遺物(5)	137	第218図	12号住居跡	188
第157図	38号住居跡遺物出土状況	139	第219図	12号住居跡 カマド	189
第158図	38号住居跡	140	第220図	12号住居跡出土遺物(1)	189
第159図	38号住居跡 掘り方	141	第221図	12号住居跡出土遺物(2)	190
第160図	38号住居跡 炉	142	第222図	14号住居跡	192
第161図	38号住居跡出土遺物(1)	142	第223図	14号住居跡 カマド	193
第162図	38号住居跡出土遺物(2)	143	第224図	14号住居跡出土遺物	193
第163図	38号住居跡出土遺物(3)	143	第225図	15号住居跡及びカマド	194
第164図	38号住居跡出土遺物(4)	144	第226図	15号住居跡出土遺物	195
第165図	60号住居跡	146	第227図	17号住居跡	196
第166図	60号住居跡 掘り方	147	第228図	17号住居跡 カマド	196
第167図	60号住居跡 炉	147	第229図	17号住居跡出土遺物	197
第168図	60号住居跡出土遺物(1)	148	第230図	18号住居跡	197
第169図	60号住居跡出土遺物(2)	148	第231図	18号住居跡出土遺物	198
第170図	66号住居跡	150	第232図	20号住居跡	199
第171図	66号住居跡出土遺物	151	第233図	20号住居跡 カマド	199
第172図	76号住居跡遺物出土状況	152	第234図	20号住居跡出土遺物	200
第173図	76号住居跡	153	第235図	23号住居跡	201
第174図	76号住居跡 炉	154	第236図	23号住居跡 カマド	202
第175図	76号住居跡出土遺物(1)	154	第237図	23号住居跡出土遺物	202
第176図	76号住居跡出土遺物(2)	154	第238図	24号住居跡	203
第177図	76号住居跡出土遺物(3)	155	第239図	24号住居跡 カマド	204
第178図	84号住居跡 掘り方	156	第240図	24号住居跡 掘り方	205
第179図	84号住居跡出土遺物	156	第241図	24号住居跡出土遺物(1)	205
第180図	90号住居跡	157	第242図	24号住居跡出土遺物(2)	206

第243図	26号住居跡	207	第305図	63号住居跡	251
第244図	26号住居跡 カマド	208	第306図	63号住居跡 カマド	252
第245図	26号住居跡出土遺物(1)	208	第307図	63号住居跡出土遺物	252
第246図	26号住居跡出土遺物(2)	209	第308図	64号住居跡	253
第247図	28号住居跡	210	第309図	64号住居跡 カマド	254
第248図	28号住居跡 カマド	210	第310図	64号住居跡出土遺物	254
第249図	28号住居跡出土遺物	211	第311図	67号住居跡	255
第250図	31号住居跡	212	第312図	67号住居跡 カマド	256
第251図	31号住居跡 カマド	212	第313図	67号住居跡出土遺物(1)	256
第252図	31号住居跡出土遺物	213	第314図	67号住居跡出土遺物(2)	257
第253図	36号住居跡	214	第315図	69号住居跡	258
第254図	36号住居跡 カマド	215	第316図	69号住居跡 掘り方	259
第255図	36号住居跡出土遺物	215	第317図	69号住居跡 カマド	259
第256図	39号住居跡	216	第318図	69号住居跡出土遺物	260
第257図	39号住居跡遺物出土状況	217	第319図	71号住居跡及びび出土遺物	261
第258図	39号住居跡 カマド	217	第320図	72号住居跡	261
第259図	39号住居跡出土遺物	218	第321図	75号住居跡	262
第260図	40号住居跡	219	第322図	75号住居跡 カマド	262
第261図	40号住居跡 カマド	220	第323図	75号住居跡出土遺物	262
第262図	40号住居跡 掘り方	220	第324図	77号住居跡	263
第263図	40号住居跡出土遺物	221	第325図	80号住居跡	264
第264図	41号住居跡	222	第326図	80号住居跡 カマド	265
第265図	41号住居跡 カマド	223	第327図	80号住居跡出土遺物	265
第266図	41号住居跡出土遺物	223	第328図	81号住居跡	266
第267図	43号住居跡	224	第329図	82号住居跡	266
第268図	43号住居跡 カマド	225	第330図	82号住居跡 カマド	267
第269図	43号住居跡出土遺物	226	第331図	82号住居跡出土遺物	267
第270図	44号住居跡	227	第332図	86号住居跡	268
第271図	44号住居跡 カマド	228	第333図	86号住居跡 掘り方	269
第272図	44号住居跡出土遺物	228	第334図	86号住居跡出土遺物(1)	269
第273図	46号住居跡	229	第335図	86号住居跡出土遺物(2)	270
第274図	46号住居跡出土遺物	229	第336図	87号住居跡	270
第275図	47号住居跡遺物出土状況	230	第337図	87号住居跡出土遺物	271
第276図	47号住居跡	231	第338図	88号住居跡	272
第277図	47号住居跡 掘り方	232	第339図	88号住居跡出土遺物	272
第278図	47号住居跡 カマド	233	第340図	89号住居跡	273
第279図	47号住居跡出土遺物(1)	233	第341図	89号住居跡 カマド	273
第280図	47号住居跡出土遺物(2)	234	第342図	89号住居跡出土遺物	274
第281図	47号住居跡出土遺物(3)	235	第343図	91号住居跡	275
第282図	51号住居跡	236	第344図	91号住居跡	275
第283図	51号住居跡 カマド	237	第345図	91号住居跡出土遺物	275
第284図	51号住居跡出土遺物	237	第346図	土坑遺構図	283
第285図	53号住居跡	238	第347図	土坑遺構図	284
第286図	53号住居跡 カマド	238	第348図	土坑遺構図	285
第287図	53号住居跡出土遺物	238	第349図	土坑遺構図	286
第288図	54号住居跡	239	第350図	土坑遺構図	287
第289図	54号住居跡出土遺物	240	第351図	土坑遺構図	288
第290図	55号住居跡	241	第352図	土坑遺構図	289
第291図	55号住居跡出土遺物	241	第353図	土坑遺構図	290
第292図	56号住居跡	242	第354図	土坑遺構図	291
第293図	56号住居跡 カマド	243	第355図	土坑遺構図	292
第294図	56号住居跡出土遺物	243	第356図	土坑遺構図	293
第295図	57号住居跡	244	第357図	土坑遺構図	294
第296図	57号住居跡 カマド及び床下土坑	245	第358図	土坑遺構図	295
第297図	57号住居跡出土遺物	245	第359図	土坑遺構図	296
第298図	58号住居跡	246	第360図	土坑遺構図	297
第299図	58号住居跡出土遺物	247	第361図	土坑遺構図	298
第300図	59号住居跡	247	第362図	土坑遺構図	299
第301図	59号住居跡出土遺物	248	第363図	土坑遺構図	300
第302図	62号住居跡	249	第364図	土坑遺構図	301
第303図	62号住居跡 カマド	249	第365図	土坑遺構図	302
第304図	62号住居跡出土遺物	250	第366図	土坑遺構図	303

第367図	土坑遺構図	304	第429図	土坑出土石器(4)	409
第368図	土坑遺構図	305	第430図	土坑出土石器(5)	410
第369図	土坑遺構図	306	第431図	土坑出土石器(6)	411
第370図	土坑遺構図	307	第432図	土坑出土石器(7)	412
第371図	土坑遺構図	308	第433図	土坑出土石器(8)	413
第372図	土坑遺構図	309	第434図	土坑出土石器(9)	414
第373図	土坑遺構図	310	第435図	土坑出土石器(10)	415
第374図	土坑遺構図	311	第436図	土坑出土石器(11)	416
第375図	土坑遺構図	312	第437図	土坑出土石器(12)	417
第376図	土坑遺構図	313	第438図	土坑出土石器(13)	418
第377図	土坑出土縄文土器(1)	329	第439図	土坑出土石器(14)	419
第378図	土坑出土縄文土器(2)	331	第440図	土坑出土石器(15)	420
第379図	土坑出土縄文土器(3)	333	第441図	土坑出土石器(16)	421
第380図	土坑出土縄文土器(4)	334	第442図	土坑出土石器(17)	422
第381図	土坑出土縄文土器(5)	336	第443図	土坑出土石器(18)	423
第382図	土坑出土縄文土器(6)	338	第444図	土坑出土石器(19)	424
第383図	土坑出土縄文土器(7)	339	第445図	土坑出土石器(20)	425
第384図	土坑出土縄文土器(8)	341	第446図	土坑出土石器(21)	426
第385図	土坑出土縄文土器(9)	343	第447図	土坑出土石器(22)	427
第386図	土坑出土縄文土器(10)	344	第448図	土坑出土石器(23)	428
第387図	土坑出土縄文土器(11)	346	第449図	土坑出土石器(24)	429
第388図	土坑出土縄文土器(12)	347	第450図	土坑出土石器(25)	430
第389図	土坑出土縄文土器(13)	349	第451図	土坑出土石器(26)	431
第390図	土坑出土縄文土器(14)	351	第452図	土坑出土石器(27)	432
第391図	土坑出土縄文土器(15)	352	第453図	土坑出土石器(28)	433
第392図	土坑出土縄文土器(16)	353	第454図	土坑出土石器(29)	434
第393図	土坑出土縄文土器(17)	355	第455図	土坑出土石器(30)	435
第394図	土坑出土縄文土器(18)	357	第456図	土坑出土石器(31)	436
第395図	土坑出土縄文土器(19)	359	第457図	土坑出土石器(32)	437
第396図	土坑出土縄文土器(20)	360	第458図	土坑出土古墳時代以降土器	452
第397図	土坑出土縄文土器(21)	361	第459図	1・2・3・4号井戸跡	453
第398図	土坑出土縄文土器(22)	363	第460図	5・6号井戸跡および1号井戸出土遺物	454
第399図	土坑出土縄文土器(23)	364	第461図	1・2・3号溝	455
第400図	土坑出土縄文土器(24)	366	第462図	4号溝	456
第401図	土坑出土縄文土器(25)	367	第463図	5号溝	457
第402図	土坑出土縄文土器(26)	369	第464図	溝出土遺物	459
第403図	土坑出土縄文土器(27)	371	第465図	遺構外出土縄文土器(1)	461
第404図	土坑出土縄文土器(28)	373	第466図	遺構外出土縄文土器(2)	462
第405図	土坑出土縄文土器(29)	375	第467図	遺構外出土縄文土器(3)	463
第406図	土坑出土縄文土器(30)	377	第468図	遺構外出土縄文土器(4)	465
第407図	土坑出土縄文土器(31)	378	第469図	遺構外出土縄文土器(5)	466
第408図	土坑出土縄文土器(32)	380	第470図	遺構外出土縄文土器(6)	467
第409図	土坑出土縄文土器(33)	381	第471図	遺構外出土縄文土器(7)	469
第410図	土坑出土縄文土器(34)	382	第472図	遺構外出土縄文土器(8)	470
第411図	土坑出土縄文土器(35)	384	第473図	遺構外出土縄文土器(9)	471
第412図	土坑出土縄文土器(36)	385	第474図	遺構外出土縄文土器(10)	473
第413図	土坑出土縄文土器(37)	387	第475図	遺構外出土縄文土器(11)	474
第414図	土坑出土縄文土器(38)	388	第476図	遺構外出土縄文土器(12)	475
第415図	土坑出土縄文土器(39)	389	第477図	遺構外出土弥生土器	477
第416図	土坑出土縄文土器(40)	391	第478図	遺構外出土古墳時代以降土器(1)	478
第417図	土坑出土縄文土器(41)	392	第479図	遺構外出土古墳時代以降土器(2)	479
第418図	土坑出土縄文土器(42)	394	第480図	遺構外出土金属製品	480
第419図	土坑出土縄文土器(43)	395	第481図	遺構外出土石器(1)	481
第420図	土坑出土縄文土器(44)	397	第482図	遺構外出土石器(2)	482
第421図	土坑出土縄文土器(45)	399	第483図	遺構外出土石器(3)	483
第422図	土坑出土縄文土器(46)	400	第484図	遺構外出土石器(4)	484
第423図	土坑出土縄文土器(47)	402	第485図	遺構外出土石器(5)	485
第424図	土坑出土縄文土器(48)	403	第486図	遺構外出土石器(6)	486
第425図	土坑出土縄文土器(49)	405	第487図	遺構外出土石器(7)	487
第426図	土坑出土石器(1)	406	第488図	遺構外出土石器(8)	488
第427図	土坑出土石器(2)	407	第489図	遺構外出土石器(9)	489
第428図	土坑出土石器(3)	408	第490図	遺構外出土石器(10)	490

第491図	遺構外出土石器(11).....	491	第497図	縄文時代住居跡全体図.....	507
第492図	遺構外出土石器(12).....	492	第498図	弥生時代住居跡全体図.....	509
第493図	遺構外出土石器(13).....	493	第499図	古墳時代以降住居跡・井戸・溝全体図.....	511
第494図	遺構外出土石器(14).....	494	第500図	土坑全体図.....	513
第495図	調査区地形図.....	503	第501図	Pit 全体図.....	515
第496図	遺構全体図.....	505			

表 目 次

DS区(5号溝より北側)住居跡一覧表.....	276	遺構外石器器種組成表.....	502
土坑出土石器器種組成表.....	502		

抄 録

1 遺跡の概略

本遺跡は、群馬県富岡市大字南蛇井字増光寺165、166-1、167番地他に所在する。発掘調査は昭和63年11月1日から開始され、平成3年3月をもって終了した。

遺跡は富岡市の南西、鎭川左岸の段丘上に広がる平坦面に位置し、調査前の地目は桑、こんにゃく畑であった。発掘調査により縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代にわたる各時代の住居跡、土坑、掘立柱建物跡、溝等を多数検出、鎭川上流域における有数の複合遺跡である。

2 遺構数量 (A～E区)

区	竪穴住居	掘立柱建物	溝	方形周溝墓	土坑	井戸	配石	集石	埋甕	その他
A区										
B区	178	8			26			2		
C区	383	6	9	2	263	1	5	2	1	古墓 1
DS区	87		5		838	6				
DN区	37	9	8		67	1				
E区	77	19	5		210	1	1			列石 1
計	762	42	27	2	1404	9	6	4	1	2

3 DS区の概要

縄文時代 住居は21軒で中期後半を中心とする。土坑は810基で、中期初頭から前半にかけての時期が主体となる。

弥生時代 後期樽式期の住居跡15軒を検出。

古墳時代 後期の住居跡30軒を検出。

奈良・平安時代 奈良時代の住居跡10軒、平安時代の住居跡11軒を検出。

中世・近世 推定館跡の堀が検出されているが、堀からの出土遺物は極めて少ない。また鍛冶炉と推定される洋梨型等の土坑がある。

※本報告書はDS区のうち、5号溝を含む北側についての概要である。なお5号溝より南側のDS区については、『南蛇井増光寺遺跡Ⅳ』および『南蛇井増光寺遺跡Ⅴ』で扱った。

南蛇井増光寺遺跡報告書一覧

報告書名	掲載遺跡名	事業名称	時代	発行年
南蛇井増光寺遺跡Ⅰ	南蛇井増光寺遺跡B区	井出遺跡	縄文・弥生	1992 既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅱ	南蛇井増光寺遺跡DN・E区	井出遺跡	縄文～近世	1993 既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅲ	南蛇井増光寺遺跡B区	井出遺跡	古墳・奈良・平安	1994 既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅳ	南蛇井増光寺遺跡C区	井出遺跡	古墳～近世	1996 既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅴ	南蛇井増光寺遺跡C区	井出遺跡	縄文・弥生	1997 既刊
南蛇井増光寺遺跡Ⅵ	南蛇井増光寺遺跡DS区	井出遺跡	縄文～近世	1997 本書

第1章 調査の経過と方法

第1節 調査の経過

関越自動車道上越線は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団東京第二建設局によって建設された。南蛇井増光寺遺跡の調査はこの関越自動車道上越線の建設に伴うもので、昭和63年9月の試掘調査に始まり、昭和63年11月から平成2年度まで2年5ヶ月間にわたり実施された。

本報告書で扱う5号溝北側のD区部分についての調査は、平成元年4月10日より開始された。昭和63年11月より調査が行なわれているC区の北隣で、上信電鉄線までの範囲2760㎡である。

D区はC区の土置き場となっており大きな土山が形成されていたため、この土山を移動することから開



第1図 南蛇井増光寺遺跡位置図

第1章 調査の経過と方法

始した。調査開始から2ヶ月後の6月12日には土山が除去され、調査区北半部については表土掘削も完了したので、遺構確認作業に入った。表土を除去した段階でカマドおよび土器が多数確認出来たが、地山と住居覆土が近似しているため見分けがつかず、遺構確認作業は困難を極めた。遺構確認面を乾燥させ、出来たひび割れの状態から住居プランを推定した場合もある。

調査は遺構の重複関係で最も新しい5号溝から開始した。8月8日には5号溝が掘り上がったため、同時に住居跡の調査に入った。9月5日には住居跡と重複しない土坑があることがわかり、土坑の調査へも入っていく。

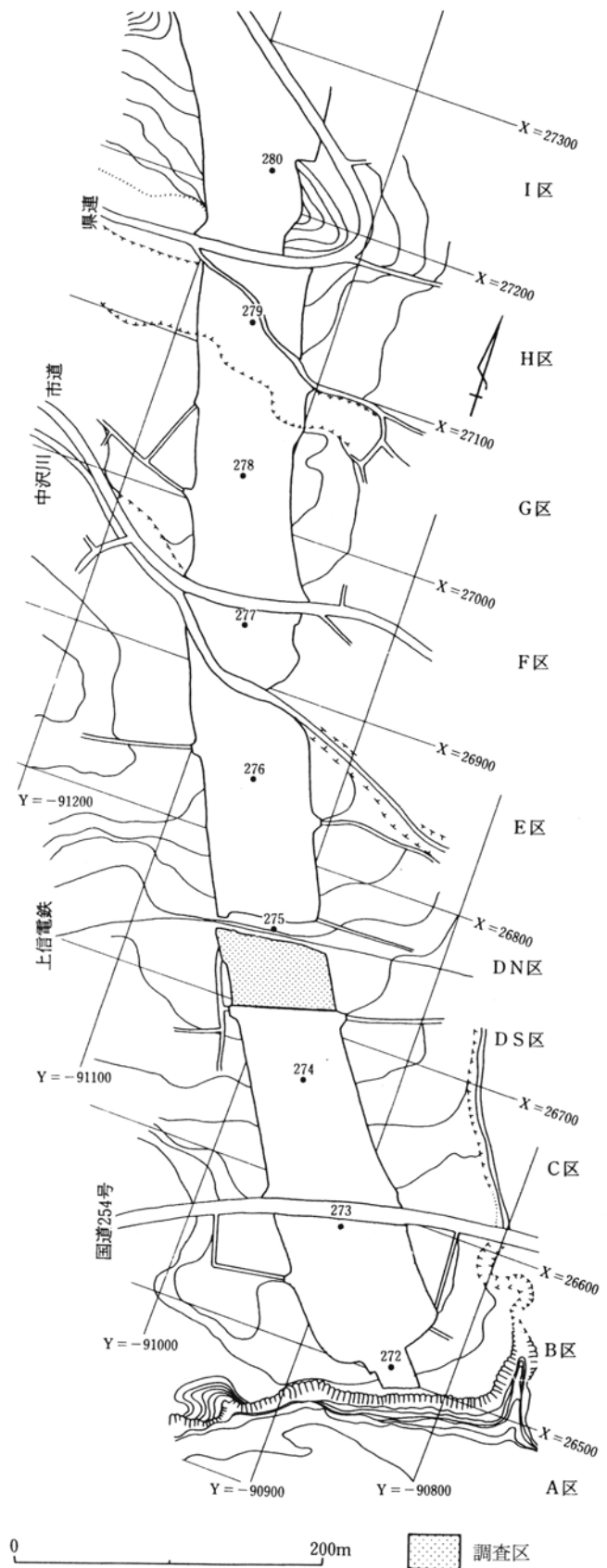
10月に入ると、道路公団側から調査区内西側に幅6mの工事用道路を設置し、上信電鉄線と交差する高架橋を建設するので、その部分の調査を12月中に終了させてほしいとの要請があった。この後、調査は工事用道路設置部分と高架橋建設部分を優先して調査を進めていく。12月22日に工事用道路部分調査終了。平成2年1月21日に高架橋建設部分の調査終了。

平成2年4月18日にバルーンによる空中撮影を実施した。この段階では住居跡78軒、土坑690基目の調査に入っていたが(全遺構の約80%)、重複遺構が多く完掘段階では消滅する遺構が少なくないと考え、この段階での撮影を実施した。

調査はその後約5ヶ月間続行し、平成2年9月12日に5号溝と上信電鉄線間のDS区についてはすべて終了した。

第2節 調査の方法

調査にあたり国家座標を基準とした方眼による杭打ちを行った。国家座標は上越線自動車道の測量杭2点を利用し、調査区内に $X = 26700$ 、 $Y = -91000$ の基点を設け、ここを基



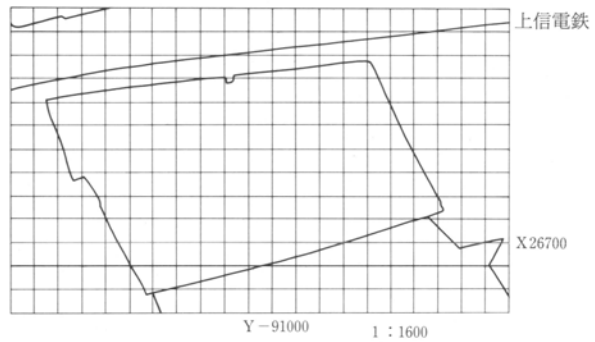
第2図 南蛇井増光寺遺跡調査区図

準として5m四方のグリッドを設定した。

グリッドについては、南蛇井増光寺遺跡の南から100mの大グリッドを設け、南からA区・B区・C区・D区・E区とした。ただし、D区については上信電鉄線路が中央部に存在するため、DS区、DN区に調査区を分割した。

グリッド軸線名称は、Y軸を南→北方向にアルファベットABCの大グリッド、同じく5mの小グリッドには小文字のabcを用いた。X軸には数字を用い東→西方向に0123・・・と付した。グリッド呼称は、5mの小グリッド南東隅部交点を用いた。

遺構の調査はA区・B区・C区等の調査区単位で実施し、遺構番号についても各区ごとに設定した。遺構の平面図および断面図については、20分の1で作成することを基本とし、住居跡の炉・カマド・詳細な遺物出土状況等は10分の1で作成した。遺物は原則として出土位置・高さを記録して取り上げることとしたが、出土位置が不明になったもの、耕作溝等の新しい遺構に伴うものについては一括して取り上げた。遺構写真撮影は、白黒写真は6×7と35mmフィルムを使用し、カラーリバーサルは35mmを使用することを原則とした。



第3図 DS区グリッド配置図

第3節 基本土層

遺跡は鑄川によって形成された段丘上に位置している。調査区内の地形は比較的平坦であるものの、北から南に向かって緩やかに傾斜している。調査区の北約200mには北西から流れる中沢川がある。この中沢川が谷あいから押し出した礫を多量に含む堆積土が遺跡の地山を形成している。

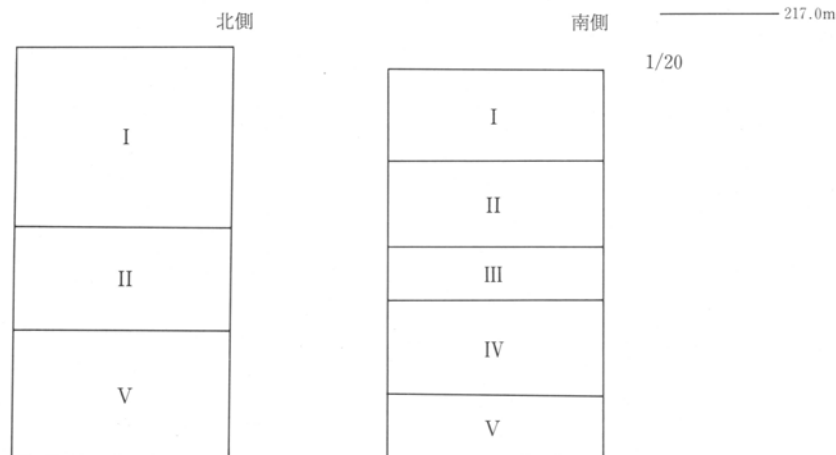
第I層 茶褐色土 現耕作土で締まりは弱い。

第II層 褐色土 粘質で小礫を含んでおり、厚さは約25cmである。

第III層 黒褐色土 砂粒・縄文土器片を多く含んでいる。

第IV層 黄暗褐色土 砂粒および縄文土器片を少量含んでいる。

第V層 黒褐色砂礫層 地山で3～5cm大の礫・砂粒を主体としている。



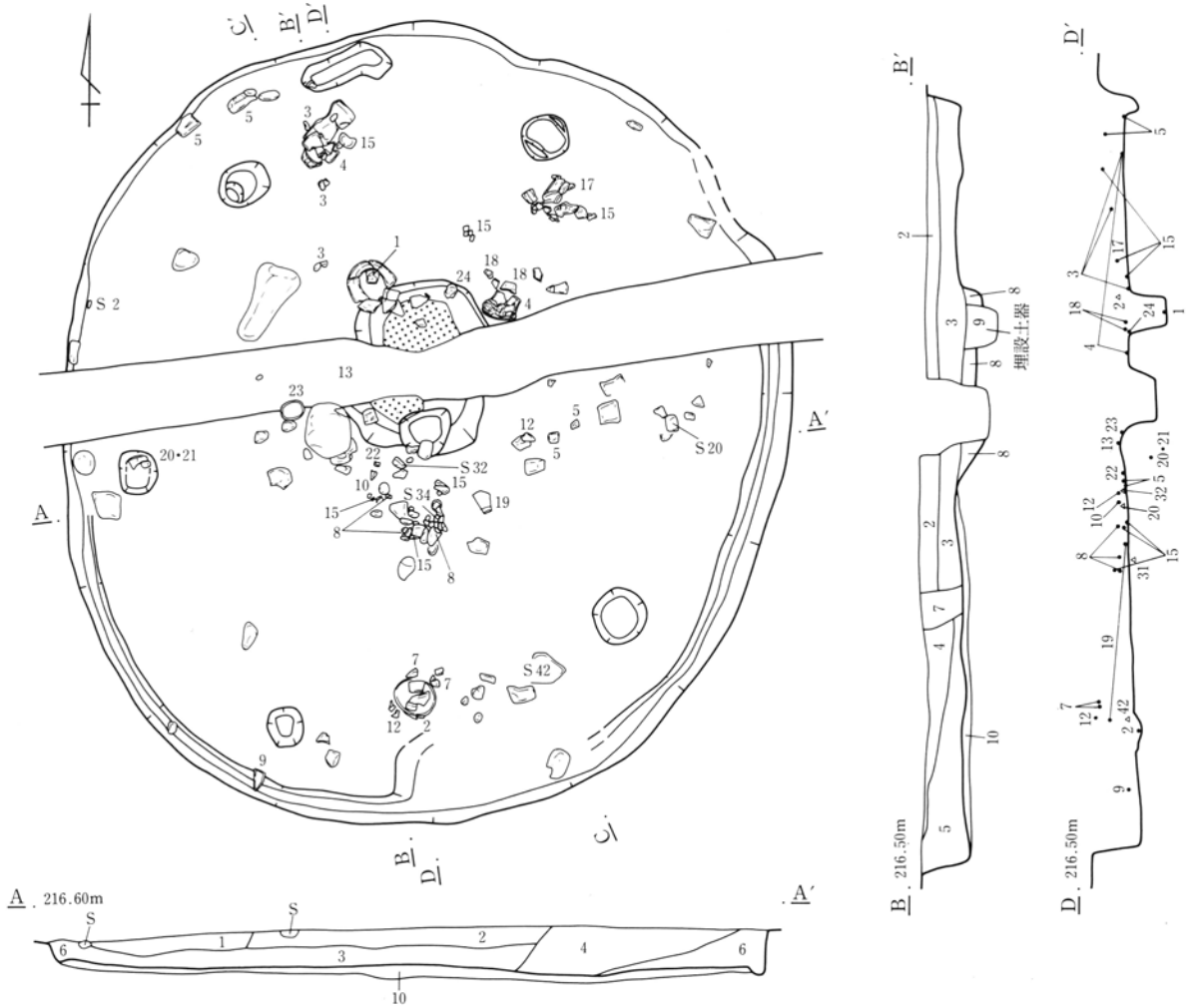
第4図 DS区基本土層

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代の住居跡と出土遺物

4号住居跡 (第5~12図、PL 5・118~120・217・218)

住居は南北にやや長い円形を呈する。ほぼ中央に東西にゴボウのサクがあり、この部分は破壊されている。住居内には、壁に接して幅18cm前後、深さ約10cmの周溝があるが、確認できるのは南側の約半分のみで



- 1 暗褐色土 白色粒子を少量、黄色粒子・砂礫を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 白色粒子・砂礫を多量に、黄色粒子を僅かに含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子・砂礫・白色粒子・黄色粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 砂礫を多く、白色粒子・黄色粒子を僅かに含む。
- 5 暗褐色土 白色粒子・黄色粒子・砂礫を少量含む。

- 6 暗褐色土 砂質。砂礫を少量含む。
- 7 暗褐色土 白色粒子・焼土粒子・黄色粒子・炭化粒子・粘質地山ブロックを少量含む。
- 8 (炉址部分)
- 9 (埋設土器部分)
- 10 褐色土 黒褐色土ブロック・焼土・暗褐色土ブロックを含む。

0 2m

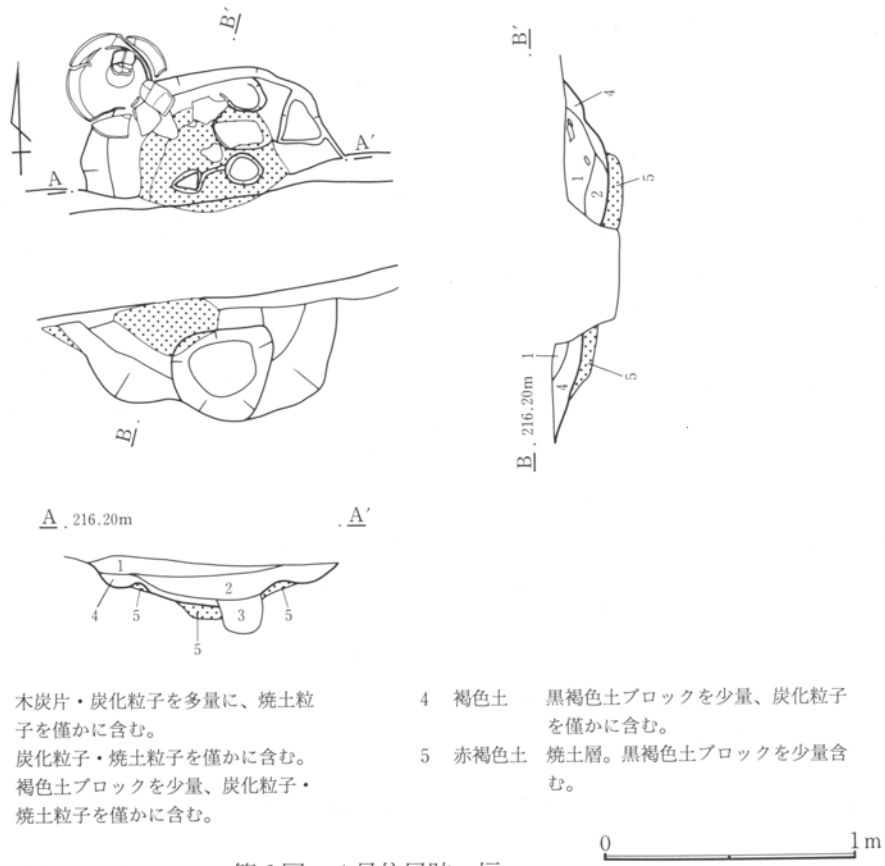
第5図 4号住居跡

側には確認できない。

床面はほぼ平坦でしっかりしている。柱穴と考えられる Pit は5ヶ所に存在する。掘り方は地山を掘り凹め、黒褐色土および暗褐色土のブロックを多く含んだ褐色土で埋めている。なお、床下に土坑等は存在しない。

炉跡は住居のほぼ中央にあり、深皿状の掘り込みである。炉の底面には焼土が堆積しており、この上面が住居廃棄時での使用面であると考えられる。

出土土器として深鉢・浅鉢・土製円盤がある。そのうち深鉢1は頸部まで、深鉢2は胴下部が埋設されていた。また石器には打製石斧・磨製石斧・磨石・石核等があり、土器とともに住居床面付近およびやや浮いた状態で出土している。



第6図 4号住居跡 炉

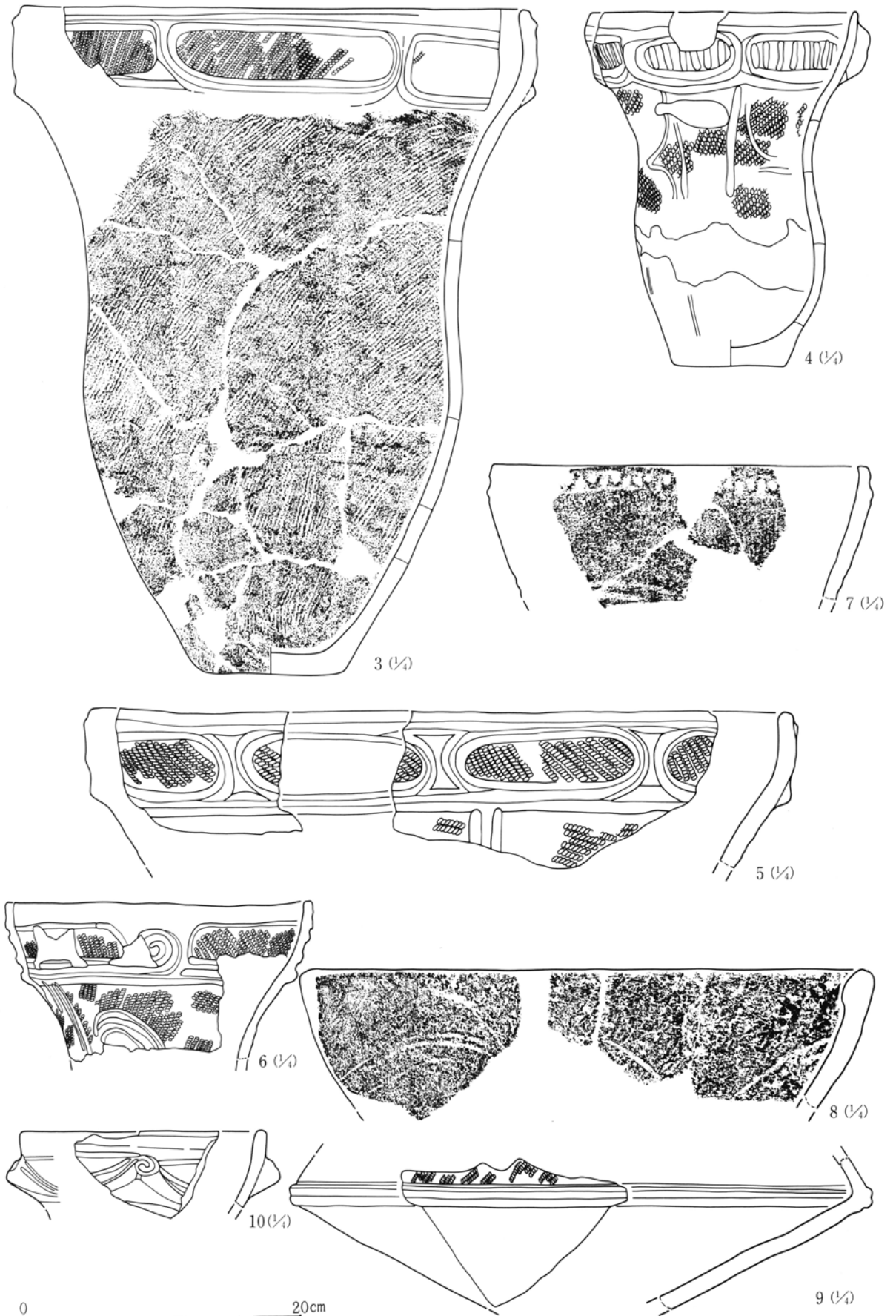
4号住居跡出土土器 (第7~10図、PL118~120・217・218)

1 はほぼ完形の深鉢型土器。口径34.0cm、底径(9.2cm)、器高42.0cm、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部は縄文 RL を縦位施文後、2~3本単位の縦位沈線が垂下し渦巻文で連結される。

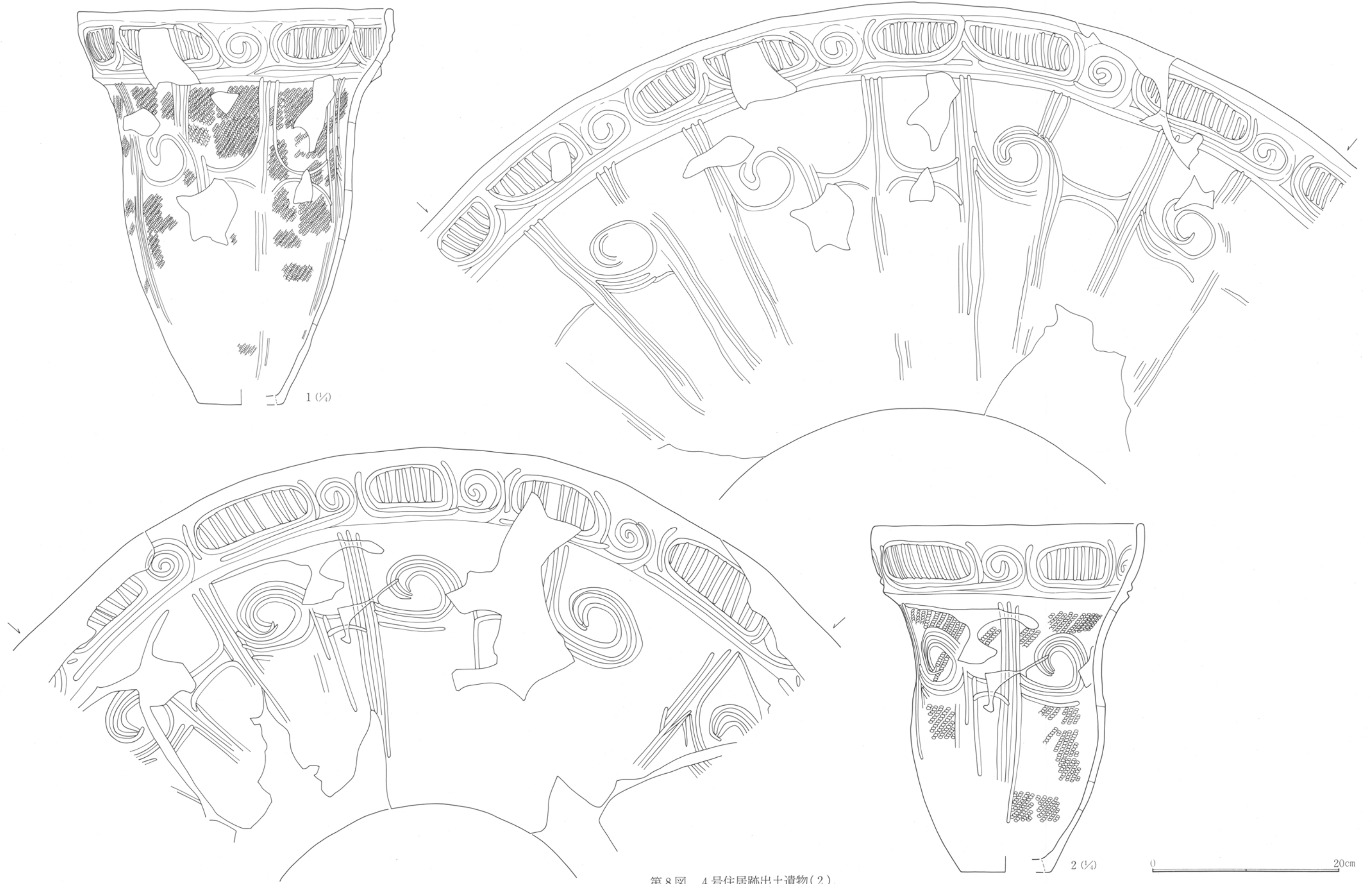
2 もほぼ完形の深鉢型土器。口径28.6cm、底径(9.5cm)、器高36.7cmで1よりもわずかに小さく作られている。文様構成は1とほとんど同じである。

3 はほぼ完形の深鉢型土器。口径(35.6cm)、底径10.2cm、器高47.2cm、口縁部は隆帯により、楕円文が構成される。楕円文内、胴部には縄文 RL が充填される。

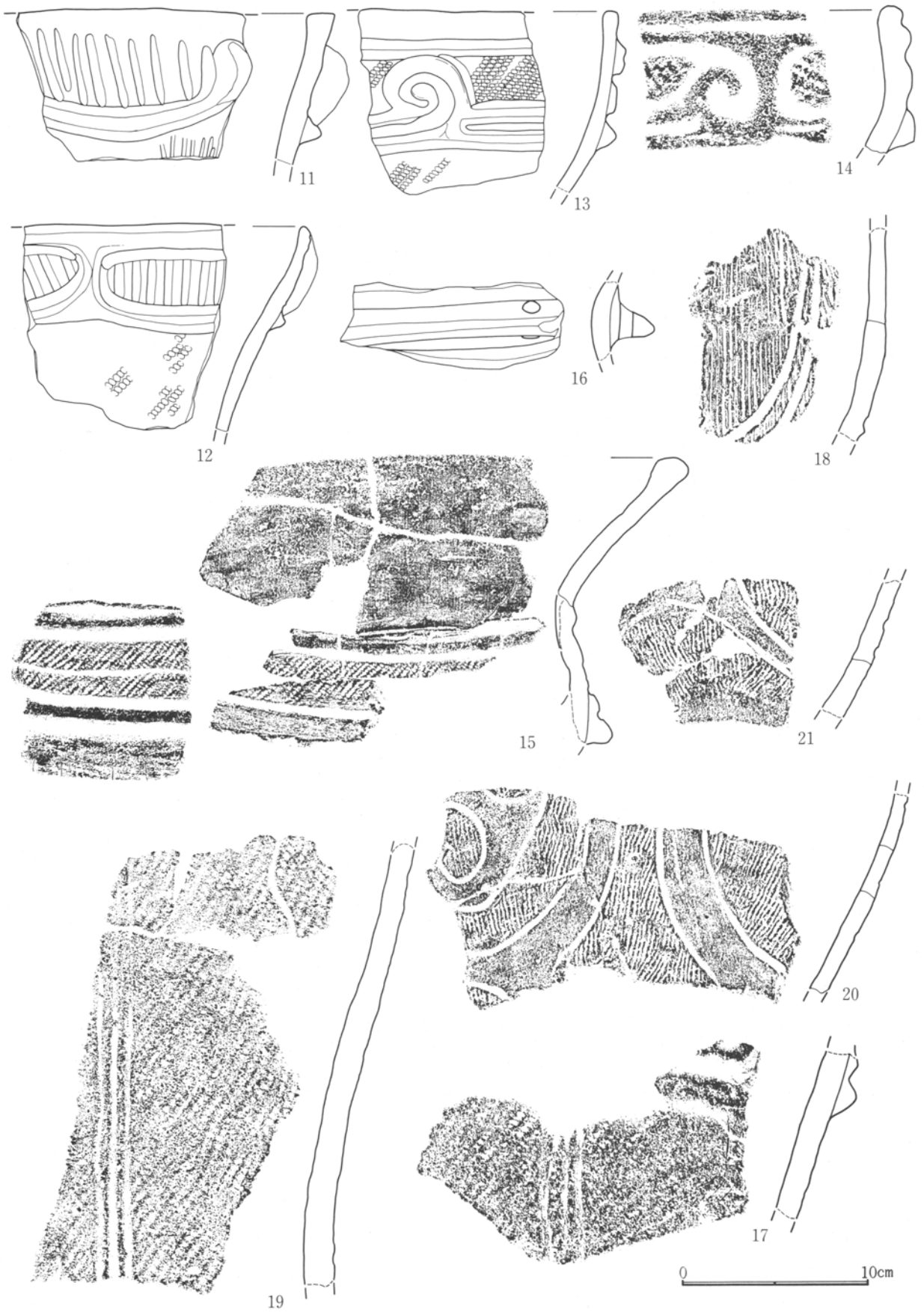
4 はほぼ完形の深鉢型土器。口径19.4cm、底径7.8cm、器高25.0cm、口縁部は隆帯により、楕円文が構成され、楕円文内に縦位沈線。胴部は縄文 RL が施文され、縦位曲線文が垂下。



第7図 4号住居跡出土遺物(1)

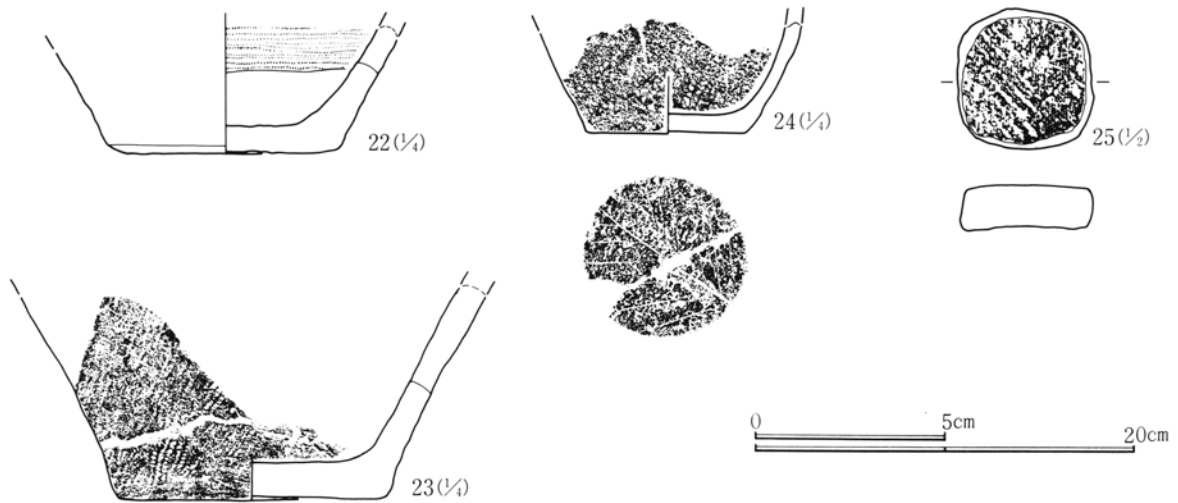


第8图 4号住居跡出土遺物(2)



第9図 4号住居跡出土遺物(3)

第2章 検出された遺構と遺物



第10図 4号住居跡出土遺物(4)

5は口縁部。口径(49.2cm)、口縁部は隆帯により楕円文が構成される。楕円文内および胴部には縄文が施文され、胴部は2本単位の沈線が垂下する。

6は胴上半部分。口径(21.6cm)、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部は縄文施文後、縦位、渦巻文が沈線により描かれる。

7は口縁部片。口径(26.8cm)、口縁部に交互刺突文。頸部に凹線。

8は口縁部口唇部丸く肥厚。上向きの連弧文が見られる。口径(40.6cm)。

9は鉢型土器か、胴部は強く「く」の字に屈曲する。屈曲部に隆帯、上半部には縄文が施文される。

10は口縁部片。口径(17.0cm)。口縁部は隆帯により半月状の区画文が構成され、各連結部は高まり渦巻状となる。

11は口縁部片。隆帯が下向き弧状に配され、縦沈線文が見られる。

12は口縁部片。口縁部は隆帯により、楕円文が構成される。楕円文内は縦沈線文。

13は口縁部片。隆帯により、端が渦巻文となる区画文が構成され、区画文内、胴部には縄文 RL が縦位施文される。

14は口縁部片。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画文内には縄文が充填される。

15は口縁部片。口縁部無文で外反する。口唇部は丸く肥厚。頸部に凹線、縄文帯、隆帯が巡る。

16は頸部屈曲部に巡る断面三角の隆帯部分。円孔が上下に貫通している。

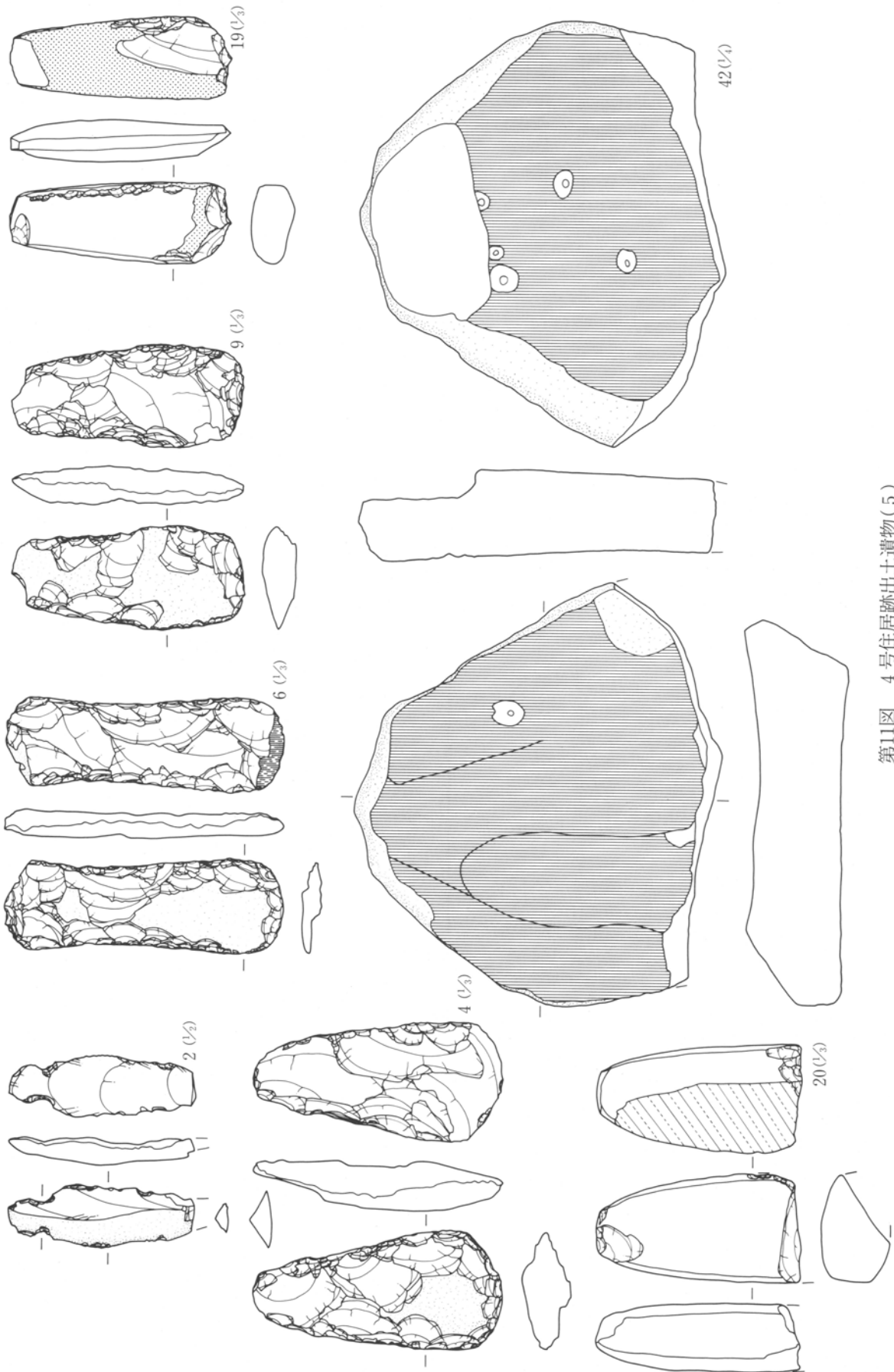
17・19は胴部片。縄文 RL を縦位施文後、3本の沈線を垂下させる。17は横位隆帯の1部が見られる。

18は胴部片。縦位条線と2本の弧状沈線が見られる。

20・21は胴部片。細い擦糸 R を縦位に施文後、内部を磨り消した渦巻文が沈線で描かれる。

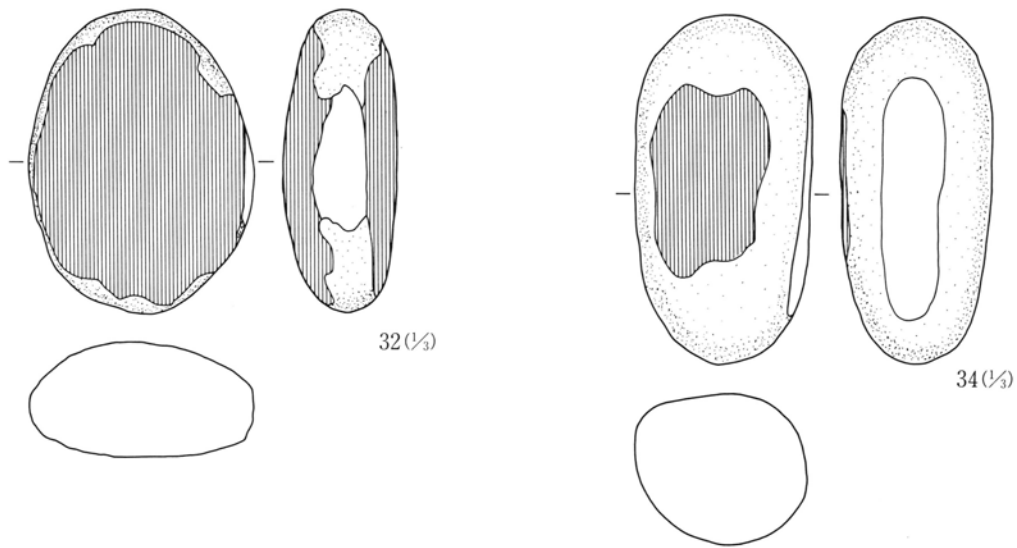
22~24は底部片。22は底径11.4cm、無文。23は底径14.0cm、細縄文 RL が縦位施文される。24は底径8.5cm、縄文 RL が施文され底面には木葉痕が見られる。

25は胴部片を利用した土製円盤である。やや四角形状を呈す。硬質で縄文 RL が施文されるが施文は不鮮明である。



第11図 4号住居跡出土遺物(5)

第2章 検出された遺構と遺物



第12図 4号住居跡出土遺物(6)

4号住居跡出土石器観察表

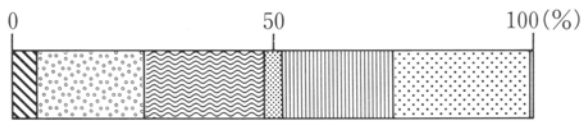
No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	破片	1.4	0.6	0.3	0.2	黒曜	先端部破片。形状不明。
2	石匙	下位	一部欠	6.5	2.2	1.0	9.4	硬泥	調整は主につまみ部に施され、他はほとんど未加工。
3	SS	覆土	完形	2.8	1.7	0.6	2.8	黒曜	剥片腹面の上部・下辺に調整。左側上部にノッチ状の調整。
4	打斧	覆土	完形	13.0	6.2	2.6	171.0	細安	II b類。
5	打斧	覆土	3/4	12.8	5.7	3.4	214.1	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。II b類。
6	打斧	覆土	完形	14.5	4.9	1.4	127.6	硬泥	器表面かなり風化。II b類。
7	打斧	覆土	完形	12.6	4.6	1.7	131.5	珪頁	器表面かなり風化。II b類。
8	打斧	覆土	完形	9.8	5.0	1.9	99.3	粗安	刃部磨耗。II b類。
9	打斧	覆土	完形	12.1	5.3	2.0	149.2	硬泥	II b類。
10	打斧	覆土	一部欠	10.4	5.1	1.8	10.2	粗安	刃部磨耗。基部一部欠損。III類。
11	打斧	覆土	一部欠	10.1	5.0	2.3	101.9	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。II b類。
12	打斧	覆土	2/3	9.3	4.4	2.0	123.9	変玄	刃部欠損。III類。
13	打斧	覆土	1/2	7.2	4.4	2.5	80.6	硬泥	刃部欠損。III類。
14	打斧	下位	1/3	7.6	5.3	2.1	105.1	硬泥	刃部欠損。III類。
15	打斧	覆土	1/2	9.7	6.6	3.1	188.0	硬泥	両端欠損。III類。
16	打斧	覆土	1/2	9.1	6.0	2.8	206.2	硬泥	両端欠損。III類。
17	打斧	覆土	破片	5.2	5.2	2.0	63.5	硬泥	両端欠損。形状不明。
18	打斧	覆土	2/3	7.8	3.5	1.1	37.7	硬泥	刃部欠損。III類。
19	磨斧	覆土	完形	11.6	4.2	2.1	179.3	変玄	整形後、刃部・表面右側に剥離と敲打による調整。裏面敲打。
20	磨斧	床直	1/2	10.5	5.6	3.6	335.5	変輝	刃部・裏面欠損。
21	石核	覆土	完形	4.7	4.6	2.2	55.1	黒安	相対する二辺の両面で剥片剥離。
22	石核	下位	完形	5.2	5.4	4.3	89.9	硬泥	賽子状。打面・作業面90° 転移しながら剥片剥離。
23	石核	覆土	完形	5.4	5.1	4.6	188.2	細安	賽子状。打面・作業面90° 転移しながら剥片剥離。
24	石核	覆土	完形	7.4	6.0	2.6	98.6	硬泥	剥片の一端腹面側で少数の剥片剥離。
25	石核	覆土	完形	10.2	7.6	4.1	319.6	硬泥	剥片の主に一側両面で剥片剥離。
26	石核	覆土	完形	9.9	6.1	3.7	180.7	硬泥	剥片の一端背面側で少数の剥片剥離。
27	石核	覆土	完形	9.1	4.3	3.4	143.1	硬泥	剥片の一端両面で剥片剥離。
28	敲石	下位	完形	15.3	9.2	4.3	786.4	デイ	盤状の円礫。両端に敲打痕。
29	磨石	覆土	完形	6.7	5.9	4.8	247.0	砂岩	盤状の円礫。表裏に弱い研磨・敲打痕、両側・両端に敲打痕。
30	磨石	覆土	完形	4.7	4.4	1.1	32.7	硬泥	円盤状の円礫。ほぼ全面研磨。側面に一部横方向の線状痕。
31	磨石	下位	ほぼ完	12.3	12.4	7.8	1622.0	粗安	円盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
32	磨石	床直	完形	11.8	9.0	4.5	584.9	変安	盤状の円礫。表裏に研磨面。
33	磨石	床直	一部欠	15.4	10.2	2.7	509.1	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨、左側に敲打痕。上部欠損。
34	磨石	床直	完形	13.6	7.1	6.1	892.5	粗安	棒状の円礫。表面に弱い研磨面。右側を面取り。
35	磨石	下位	一部欠	8.3	0.6	5.3	306.1	粗安	円盤状の円礫。表裏に弱い研磨、両端に敲打痕。器表面かなり剥落。
36	磨石	覆土	破片	6.7	4.9	3.4	121.3	粗安	円礫素材。表裏に弱い研磨。
37	磨石	覆土	完形	6.7	5.9	3.8	187.8	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨面。

第1節 縄文時代の住居跡と出土遺物

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
38	磨石	中位	破片	6.3	8.8	5.6	291.9	デイ	表裏研磨、上端に敲打痕。下部欠損。
39	多孔	床直	完形	16.1	15.7	13.8	4200.0	デイ	球状の円礫。表裏に凹み各1個。
40	砥石	床直	完形	10.6	8.1	2.9	290.7	砂岩	盤状の円礫。表裏に使用面。表面は中央が浅い溝状にくぼむ。
41	砥石	覆土	破片	6.9	3.9	1.0	30.1	凝砂	盤状の亜角礫。表面に弱い使用面。
42	砥石	床直	1/2	25.4	29.3	7.2	5560.0	砂岩	盤状の角礫素材。表裏に使用面・凹み。

4号住居跡器種組成表

器種	石鏃	石匙	SS	打斧	磨斧	二次	微細	石核	敲石	磨石	多孔	砥石	剥片
個数	1	1	1	15	2	6	5	9	1	10	1	3	74

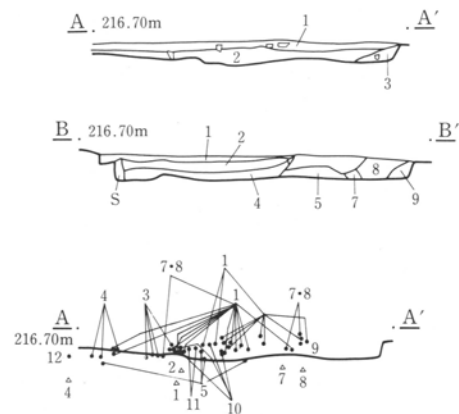
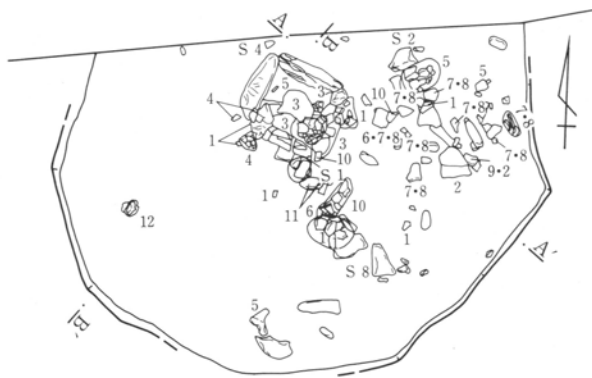


4号住居跡石材重量組成グラフ

16号住居跡 (第13~17図、PL 5・121・122・219)

住居の約半分が調査区域外のため明確ではないが、円形あるいは小判形と考えられる。住居は地山を掘り込み、それをそのまま床面として使用しており、床面はやや凹凸があり軟弱である。

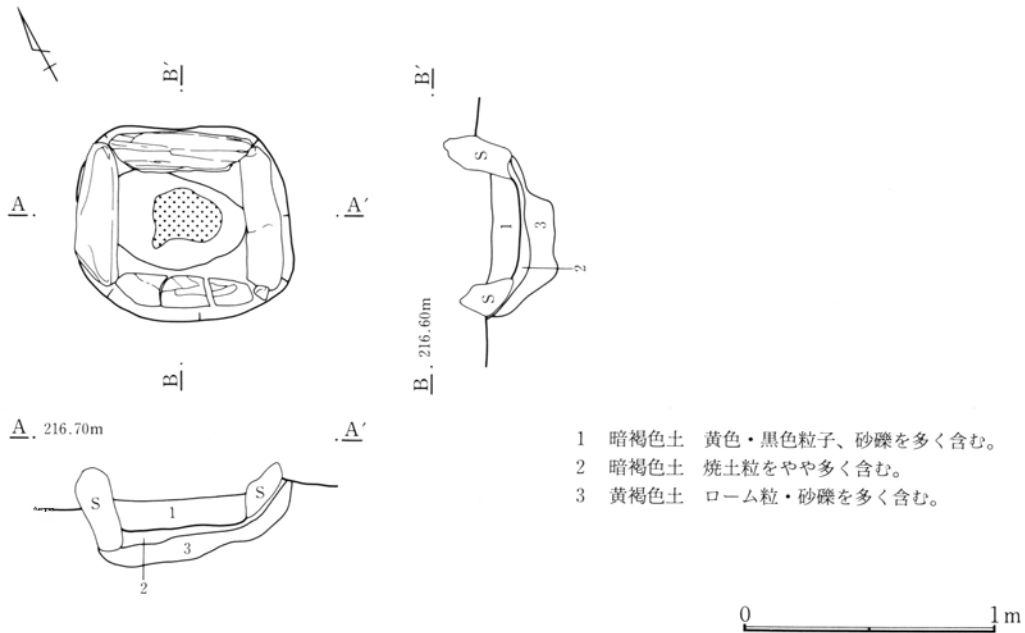
炉は地山をやや掘り込み、石を方形に囲って造られている。炉中央部には焼土が若干遺存していた。出土土器には深鉢があるが、破片となり住居床面付近およびやや浮いた状態で出土している。また石器には打製石斧・磨製石斧・磨石等がある。



- 1 暗褐色土 白・黄色粒を多く含む。
- 2 暗黄褐色土 白・黄色粒を1層より多く含む。
- 3 黄褐色土 粘性。白・黄色粒、ローム粒を含む。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。
- 5 黄褐色土 ローム粒を主体とし、風化礫を少量含む。
- 6 暗褐色土 白・黄色粒、小礫を含む。
- 7 暗黄色土 ローム粒・小礫を含む。
- 8 暗褐色土 礫を僅かに含む。
- 9 黄褐色土 ローム・小礫を含む。

0 2m

第13図 16号住居跡



第14図 16号住居跡 炉

16号住居跡出土土器 (第15・16図、PL121・122)

1 は深鉢型土器。口縁部から胴上半部分。口径38.0cm、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内、胴部には縄文 LR が施文される。

2 は深鉢型土器。口縁部から胴部。口径(30.7cm)、口縁部無文部がやや広く口縁部文様帯は上下を隆帯で画され、渦巻文、楕円文が構成される。胴部は無文。

3 は口縁部から胴部。口径(36.0cm)、口縁部は隆帯により渦巻文、楕円文が構成される。区画内は縦沈線で、胴部は「ハ」の字状の沈線が乱雑に施文されている。

4 は口縁部。口径(33.8cm)、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画内は縦沈線が充填。胴部は縦方向の沈線、沈線間は綾杉状の集合沈線で充填される。

5 は口縁部分を欠く深鉢型土器。底径6.2cm。口縁部は隆帯による区画文が構成されるものと思われる。胴部は中位でやや膨らみをもち、沈線で画された縦位無文帯。縄文 RL が縦位施文される。

6 は鉢型土器。口縁部はやや内湾。口径(35.2cm)、口縁部に横位の沈線。無文である。

7 は口縁部片、隆帯により、楕円文が構成され、楕円文内は縦の沈線で充填され、胴部は縦の波状沈線が垂下する。

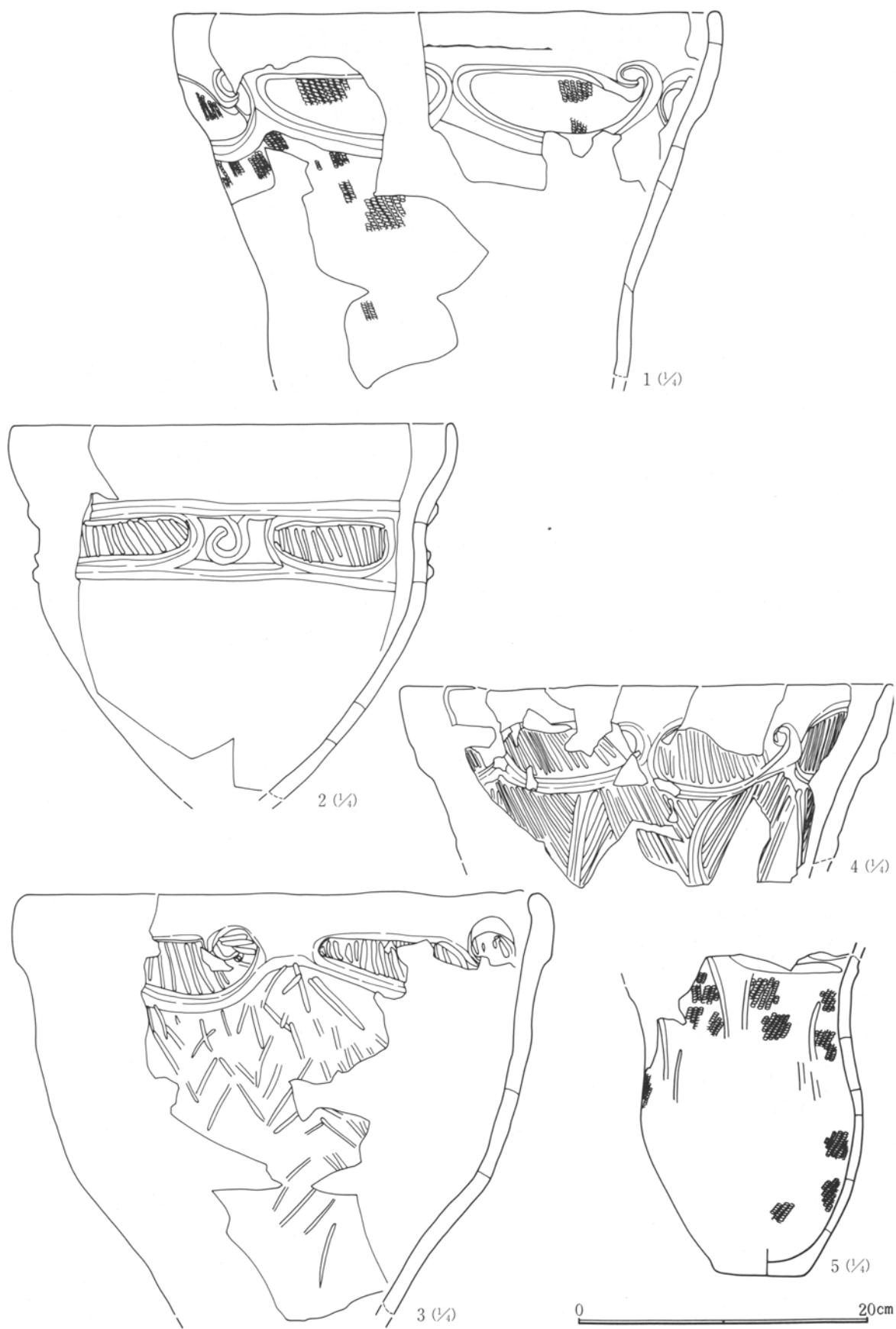
8 は膨らみをもつ胴部片。波状沈線が垂下する。

9 口縁部片。口縁部は隆帯により、連弧状文による区画を構成、連結部には円形文が見られる。区画内には縦位沈線が付される。

10 は口縁部。口縁部に沈線を廻し、刺突文を持った隆帯で弧状の口縁部文様帯を構成、縦位、矢羽状の太い沈線文が充填される。

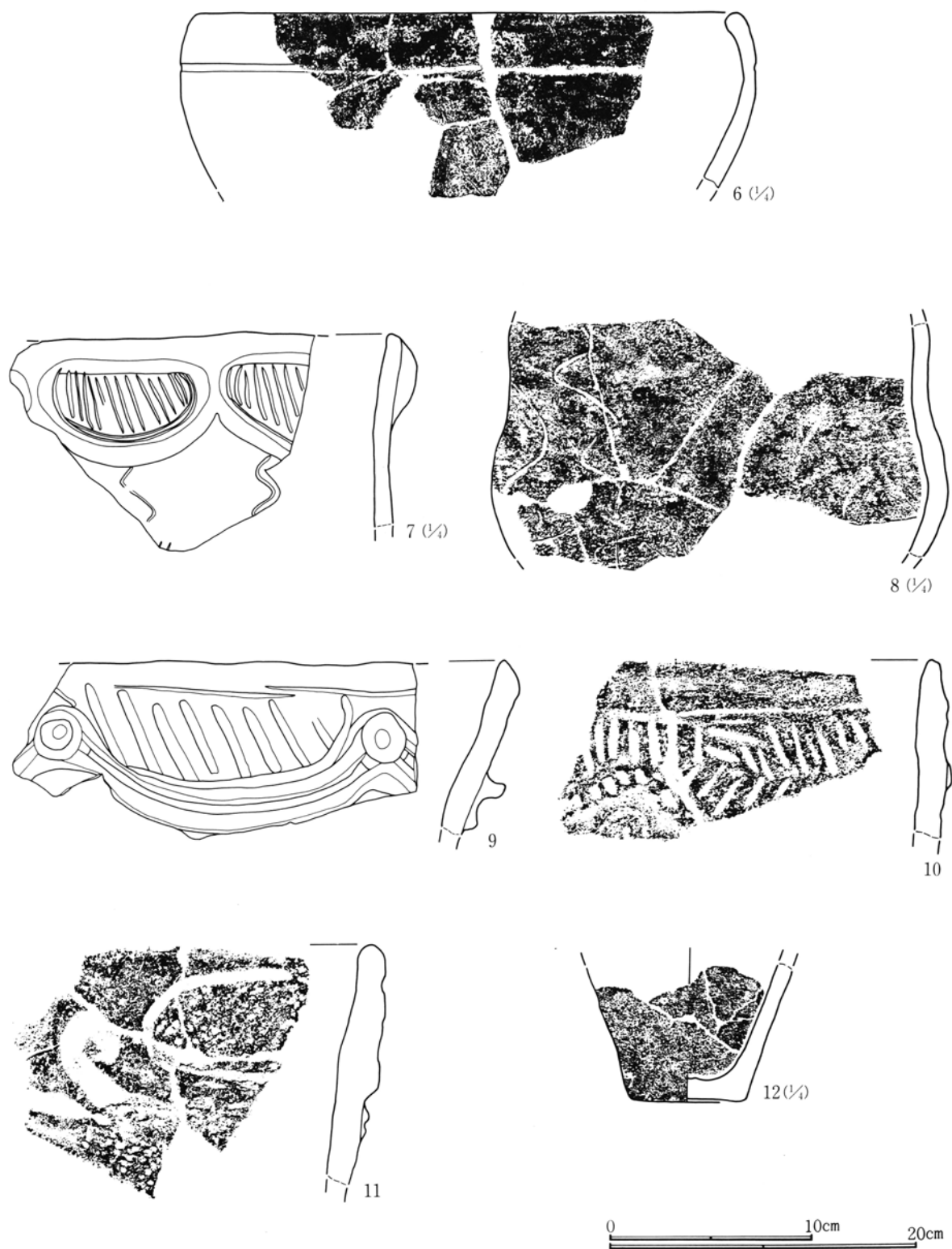
11 は口縁部片。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。縄文が充填されている。

12 は底部。底径7.6cm、無文である。

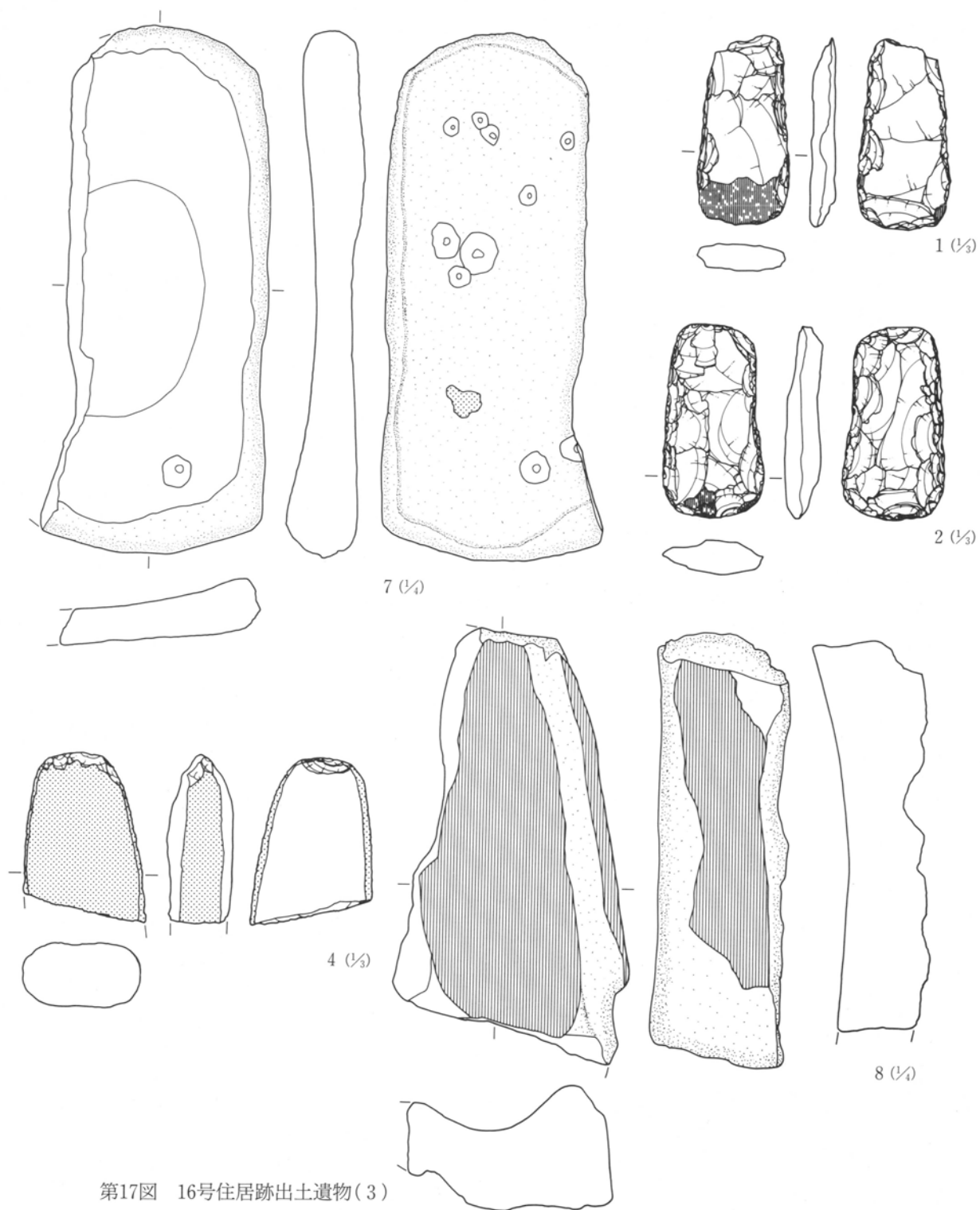


第15図 16号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



第16図 16号住居跡出土遺物(2)



第17図 16号住居跡出土遺物(3)

16号住居跡出土石器観察表

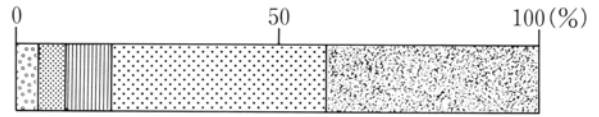
No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	床下	完形	9.4	4.6	1.4	88.5	変玄	刃部磨耗。II b類。
2	打斧	床直	完形	9.6	5.1	11.8	105.3	硬泥	刃部磨耗。III類。
3	打斧	覆土	破片	5.6	4.6	1.6	34.9	硬泥	両端欠損。形状不明。
4	磨斧	床下	1/2	8.3	6.2	3.4	285.0	変玄	研磨は裏面のみ。他は敲打痕残す。刃部欠損。

第2章 検出された遺構と遺物

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
5	磨石	床下	完形	7.9	6.4	5.5	392.4	粗安	棒状の円礫。表裏に弱い研磨、両端に敲打痕。
6	石核	床下	完形	12.4	10.1	4.6	471.3	硬泥	剥片の一端腹面側で少数の剥片剥離。
7	石皿	床下	1/2	34.8	14.9	4.8	3930.0	緑片	盤状の円礫。内面使用により平滑。内外面に凹み。
8	砥石	床下	1/2	28.2	15.7	6.1	3900.0	砂岩	表面・右側に使用面。表面は溝状に湾曲。

16号住居跡器種組成表

器種	打斧	磨斧	二次	石核	磨石	石皿	砥石	剥片
個数	3	1	1	1	1	1	1	9



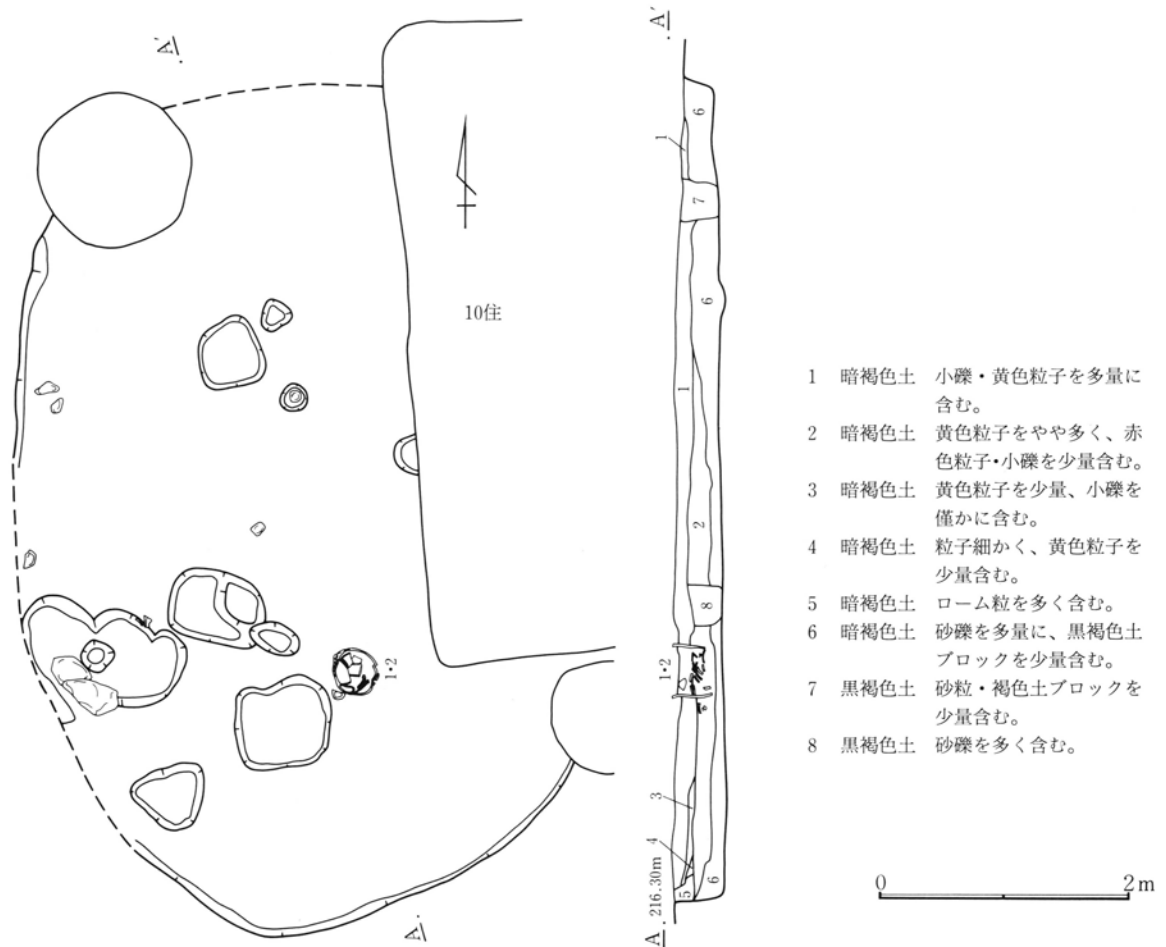
16号住居跡石材重量組成グラフ

21号住居跡 (第18・19図、PL 6・122)

住居は、廃棄後に造られた多くの遺構によって破壊されており、一部残存している壁から平面形は小判形とも推定出来る。床面は地山を平坦に掘り込んだ面である。床面には若干凹凸はあるものの、ほぼ平坦であり、比較的固くしまっている。

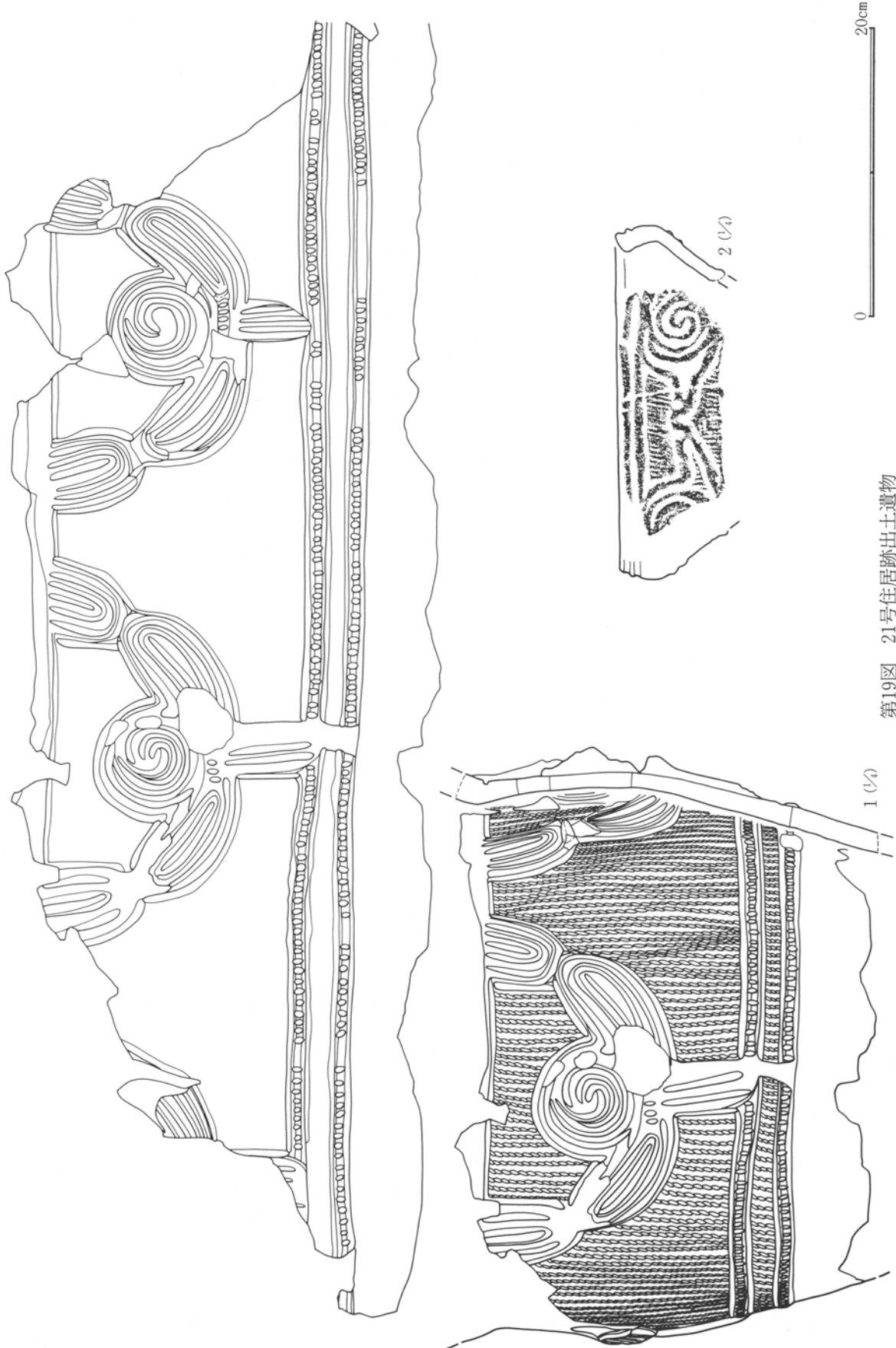
Pit は若干検出されているが、柱穴ははっきりしない。また床面上には深さ5～10cmの浅い土坑状の掘り込みがある。なお、炉跡は発見されなかった。

出土遺物として深鉢型および浅鉢型土器がある。深鉢型土器は胴部のみであるが、床面上に置かれた状態で出土している。



- 1 暗褐色土 小礫・黄色粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土 黄色粒子をやや多く、赤色粒子・小礫を少量含む。
- 3 暗褐色土 黄色粒子を少量、小礫を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 粒子細かく、黄色粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
- 6 暗褐色土 砂礫を多量に、黒褐色土ブロックを少量含む。
- 7 黒褐色土 砂粒・褐色土ブロックを少量含む。
- 8 黒褐色土 砂礫を多く含む。

第18図 21号住居跡



第19図 21号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

21号住居跡出土土器 (第19図、PL122)

1は大型深鉢型土器の胴部分である。いわゆる樽型を呈し、口縁部は外反するものと思われる。胴部に幅広の文様帯を持つ。撚糸文Lが縦に充填施文され、幅広で絞り部を持つ複数隆線により、渦巻文をもつ「Y」字状の抽象文が4単位施される。渦巻文の中央は高まる。下位は2本の刻みをもつ隆帯で画され、以下は無文である。

2は口縁部。口径(23.2cm)、口縁部に横位の隆線が廻り、隆帯による渦巻文が横に連結して描かれる。地文には縦位の条線文が施文されている。

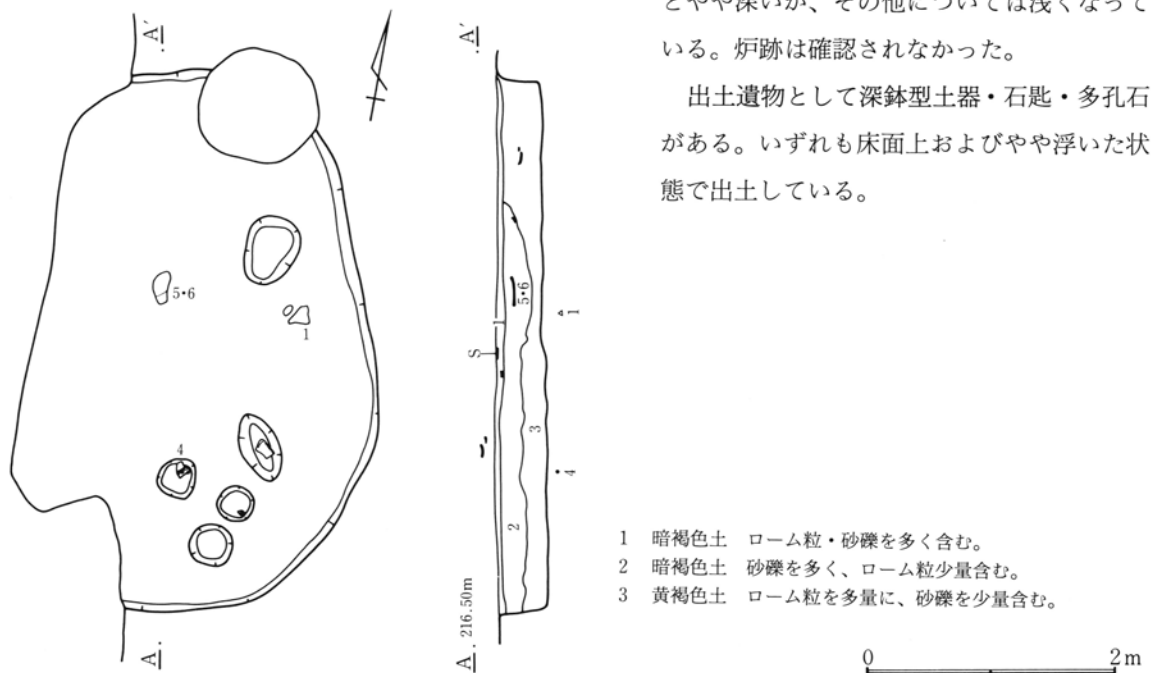
22号住居跡 (第20～23図、PL 6・122・123・219)

住居西側約2分の1は、2号住居跡および10号住居跡によって破壊されており、東側約半分の残存である。平面形は円形あるいは小判形と考えられるが、はっきりしない。

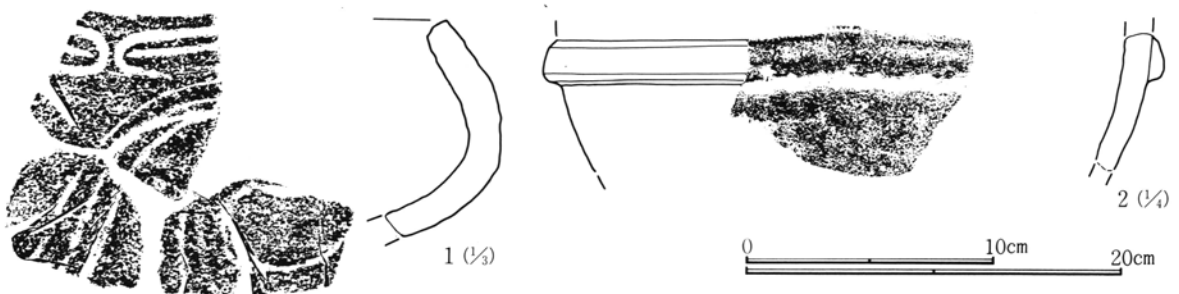
床面は、中央部が周辺に比べてやや高くなっているが、それ以外に凹凸は少なく平坦である。床面下に掘り方は存在せず、地山を平坦に掘り込んだ面をそのまま床面としていると考えられる。なお、床面は軟弱であった。

明確な柱穴は確認されていないが、最も南に位置する Pit および北に隣接する Pit については深さ約20cmとやや深いが、その他については浅くなっている。炉跡は確認されなかった。

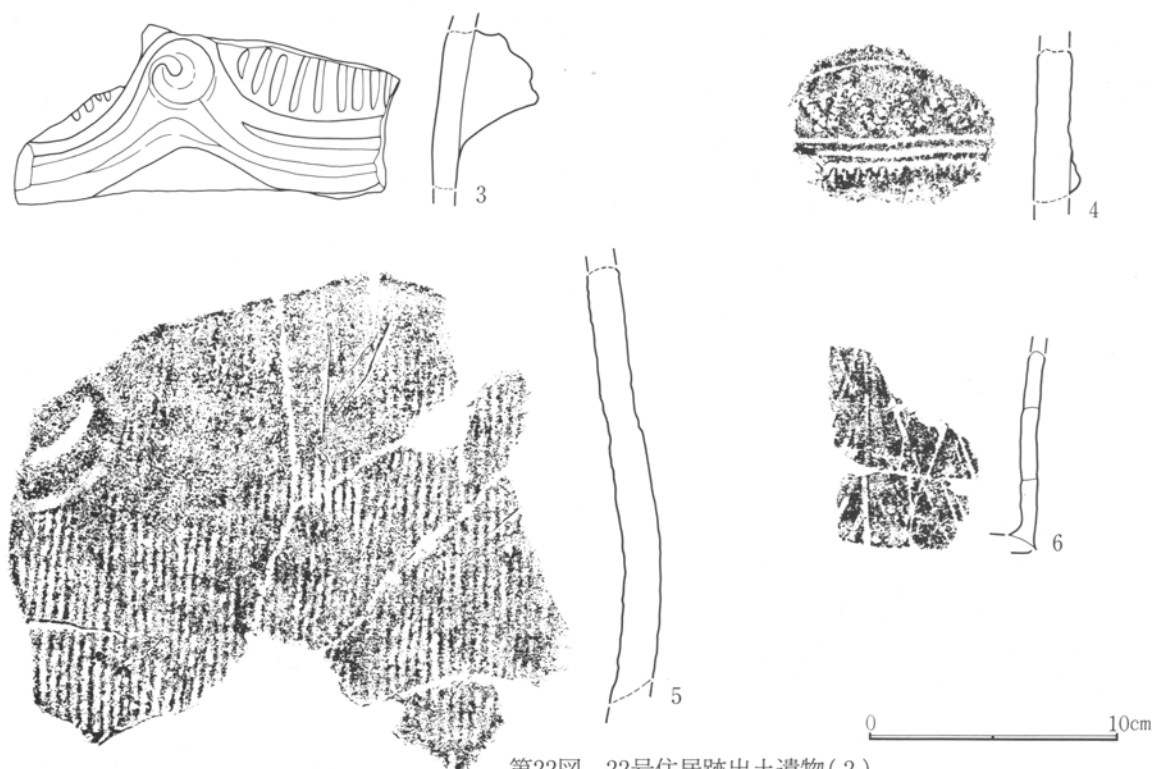
出土遺物として深鉢型土器・石匙・多孔石がある。いずれも床面上およびやや浮いた状態で出土している。



第20図 22号住居跡



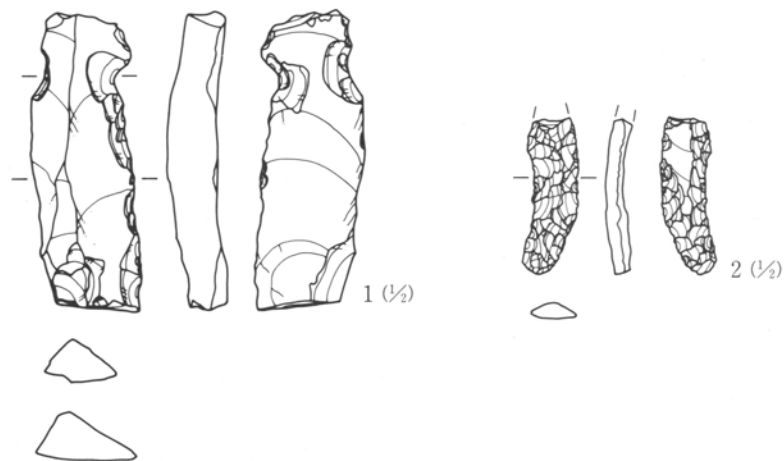
第21図 22号住居跡出土遺物(1)



第22図 22号住居跡出土遺物(2)

22号住居跡出土土器 (第21・22図、PL122・123・219)

- 1 は口縁部片で強く内湾する。沈線による曲線文が描かれる。
- 2 は胴部片。やや幅広の隆帯が横に廻る。無文である。
- 3 は口縁部文様帯部分。隆帯により連結部が渦巻となる。弧状文が構成され、区画文内には縦位沈線が見られる。
- 4 は地文に縄文施文後、横位沈線、刻みをもつ隆線が廻る。
- 5 は胴部片。縦位に太めの撚糸文Lが施文され、沈線による渦巻文の一部が見られる。
- 6 は底部片。縦位綾杉状文が沈線で描かれる。



第23図 22号住居跡出土遺物(3)

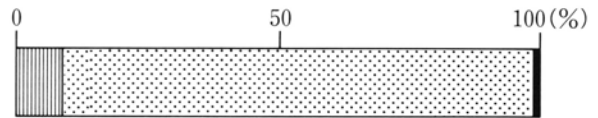
第2章 検出された遺構と遺物

22号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石匙	覆土	完形	7.9	3.0	1.6	33.5	黒頁	両側上部に抉り入れつまみ部形成。調整は主に表面右側のみ。
2	石匙	覆土	2/3	4.1	1.5	0.7	3.4	黒曜	両面を丁寧に調整。裏面に素材面残す。つまみ欠損。
3	打斧	覆土	完形	9.9	4.2	2.0	83.3	硬泥	刃部磨耗。II b類。
4	多孔	床下	破片	16.3	19.0	4.2	1183.6	砂岩	盤状の亜角礫。表面に凹み・敲打痕、裏面に弱い研磨。

22号住居跡器種組成表

器種	石匙	打斧	二次	微細	多孔
個数	2	1	2	2	1



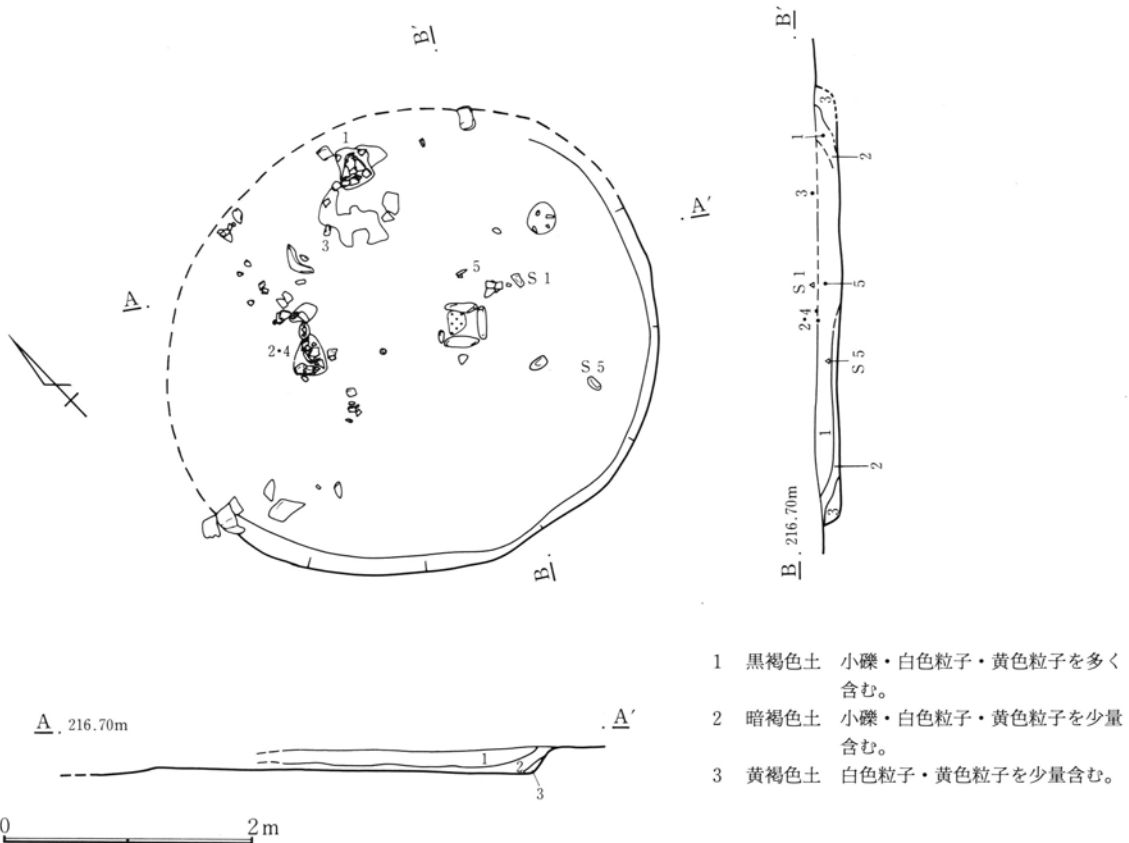
22号住居跡石材重量組成グラフ

32号住居跡 (第24~27図、PL 6・123・219)

住居は33号住居跡の埋没後に造られている。平面形は円形となるものと推定されるが、33号住居跡と床面の高さが同じであり、明確な範囲を確定することは難しい。

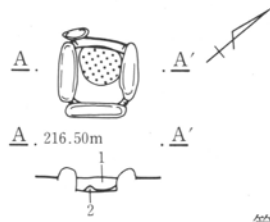
床面は地山を掘り凹めて造られており、掘り込んだ面をそのまま床面としている。床面は若干凹凸があるものの、概ね平坦である。

炉跡は床面を掘り込んで造られており、河原石を方形に配している。炉内には焼土が薄く残されていた。出土遺物として深鉢型土器と打製石斧がある。いずれも床面よりやや浮いた状態で出土しており、土器は破片としての出土である。



第24図 32号住居跡

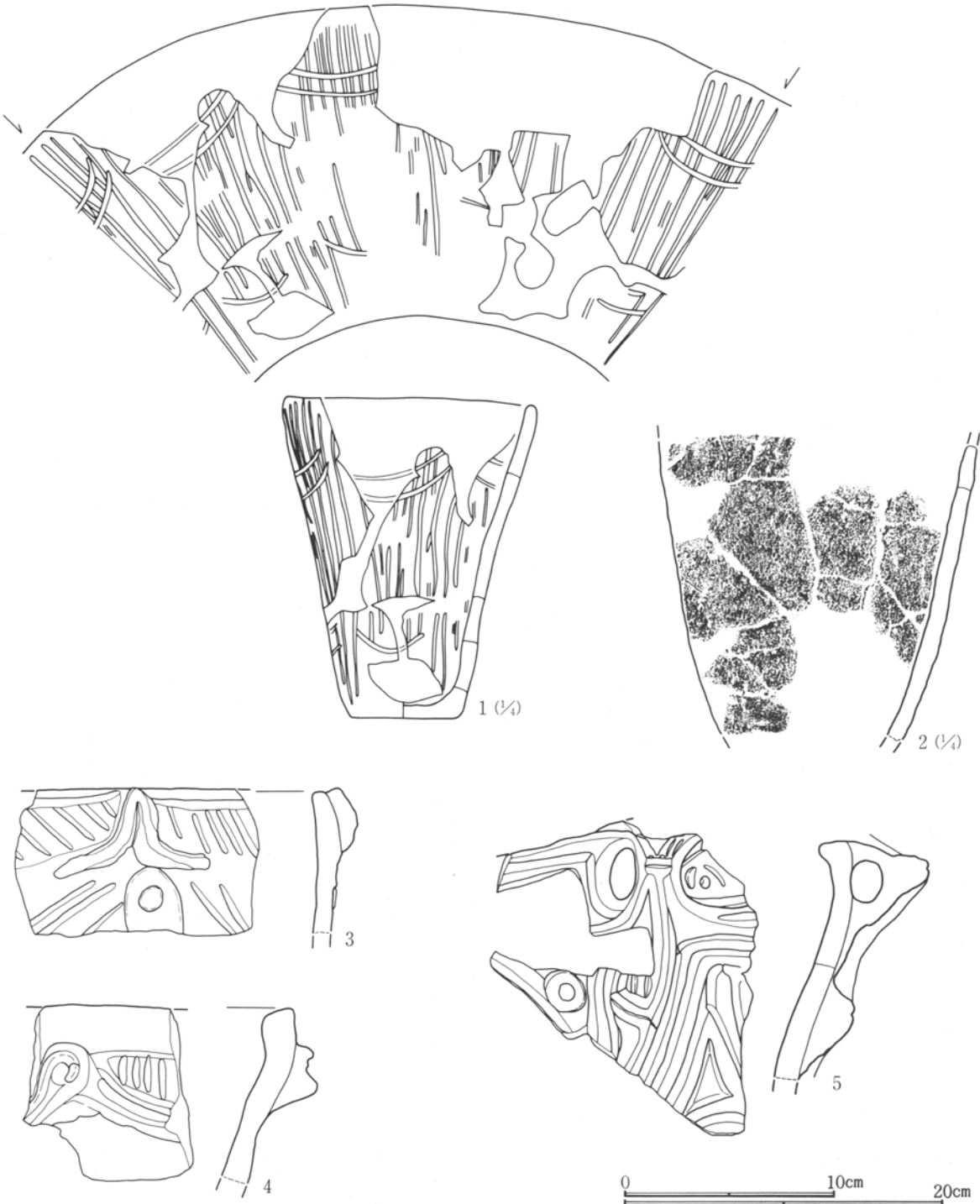
第1節 縄文時代の住居跡と出土遺物



- 1 黒色土 小礫・ロームブロック・炭化物を含む。
- 2 黄褐色土 地山ロームブロックを主体とし、混入物少ない。

第25図 32号住居跡 炉

0 50cm



第26図 32号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

32号住居跡出土土器 (第26図、PL123・219)

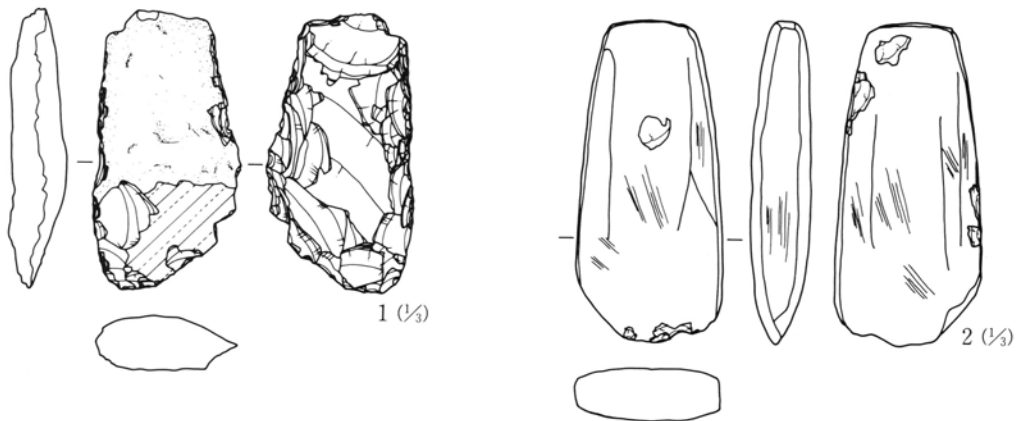
1 はほぼ完形の深鉢型土器。口径15.6cm、器高20.1cm、底径6.7cm、全面に粗く縦位沈線施文後、口縁部には沈線で2本単位の連弧文、胴下部には1本の連弧文が施文される。

2 は無文の胴部。

3 は口縁部片。口縁部には「人」字状の隆帯文が付され、左右には斜沈線文。隆帯直下には円形の凹みが見られ、やはり左右に斜沈線文。

4 は口縁部片。隆帯により連結部が盛り上がり渦巻となる弧状文が構成され、縦位沈線が見られる。

5 は眼鏡状突起を持ち、隆線による曲線文。



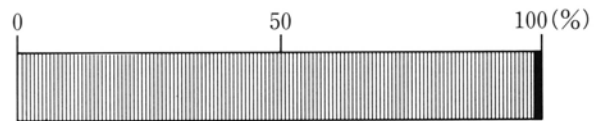
第27図 32号住居跡出土遺物(2)

32号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特	徴
				長さ	幅	厚さ	重量			
1	打斧	中位	完形	11.0	5.9	2.3	156.5	硬泥	II b類。	
2	磨斧	覆土	完形	12.7	5.8	2.1	293.7	蛇紋	全面丁寧に研磨。刃部使用により磨滅。	

32号住居跡器種組成表

器種	打斧	磨斧	二次	微細	剝片
個数	1	1	2	2	10



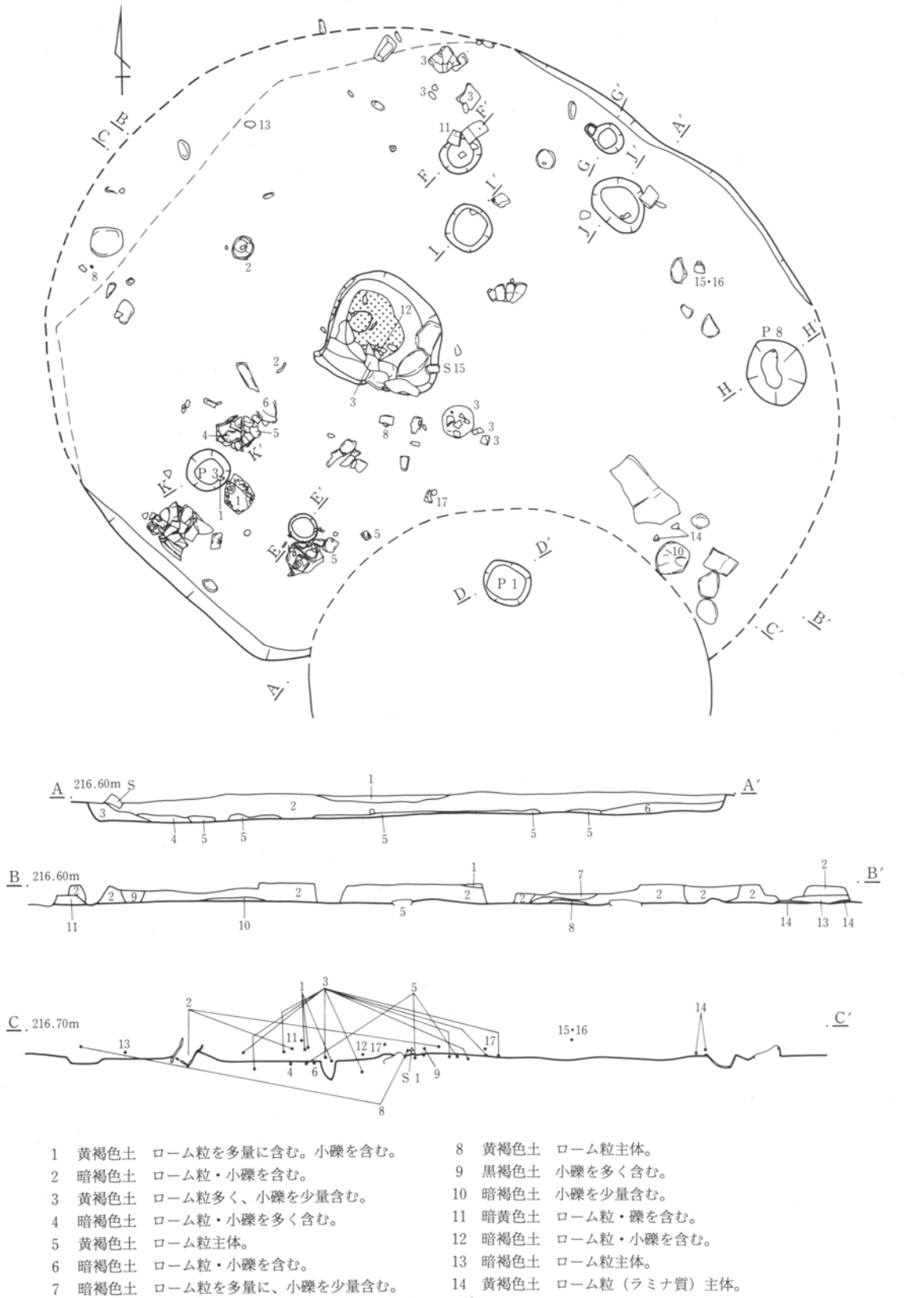
32号住居跡石材重量組成グラフ

33号住居跡 (第28～33図、PL 6・7・123～125・220)

本住居跡は、南側を32号住居跡によって床面の一部が削られている。また東南部分は50号住居跡と重複しているため、壁は確認されていない。住居の平面形は小判形と推定出来る。

床面は地山を掘り込み、その面に粘質のロームを貼っている。ほぼ平坦な床面で、比較的固くしまっている。柱穴とも考えられる Pit は、壁近くに確認されたが、住居北西部分にはみられなかった。炉は住居のほぼ中央を掘り込んで造られており、炉壁には石が置かれていた。

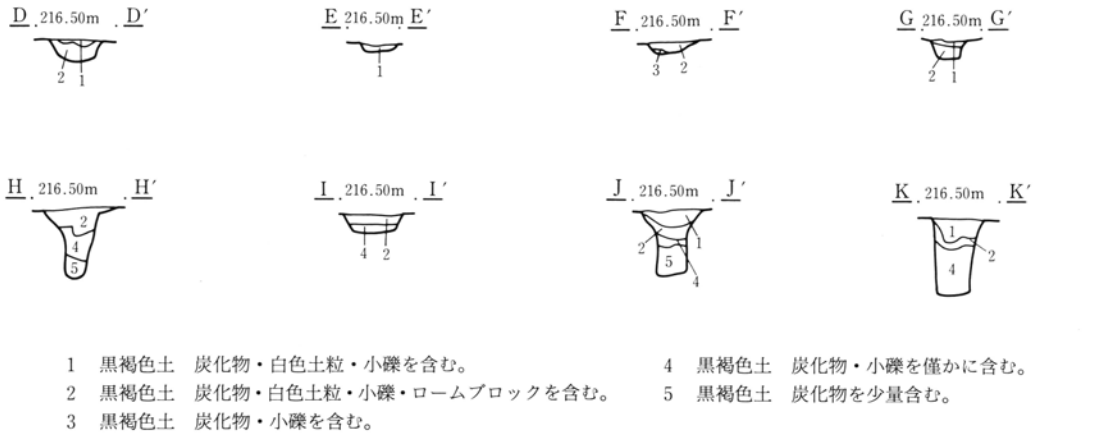
出土遺物として深鉢型土器・打製石斧・多孔石・凹石・敲石・石鏃がある。土器2は胴下部が埋設されている。また土器1は、大きく割れた破片が床面に押しつぶされたような状態での出土である。



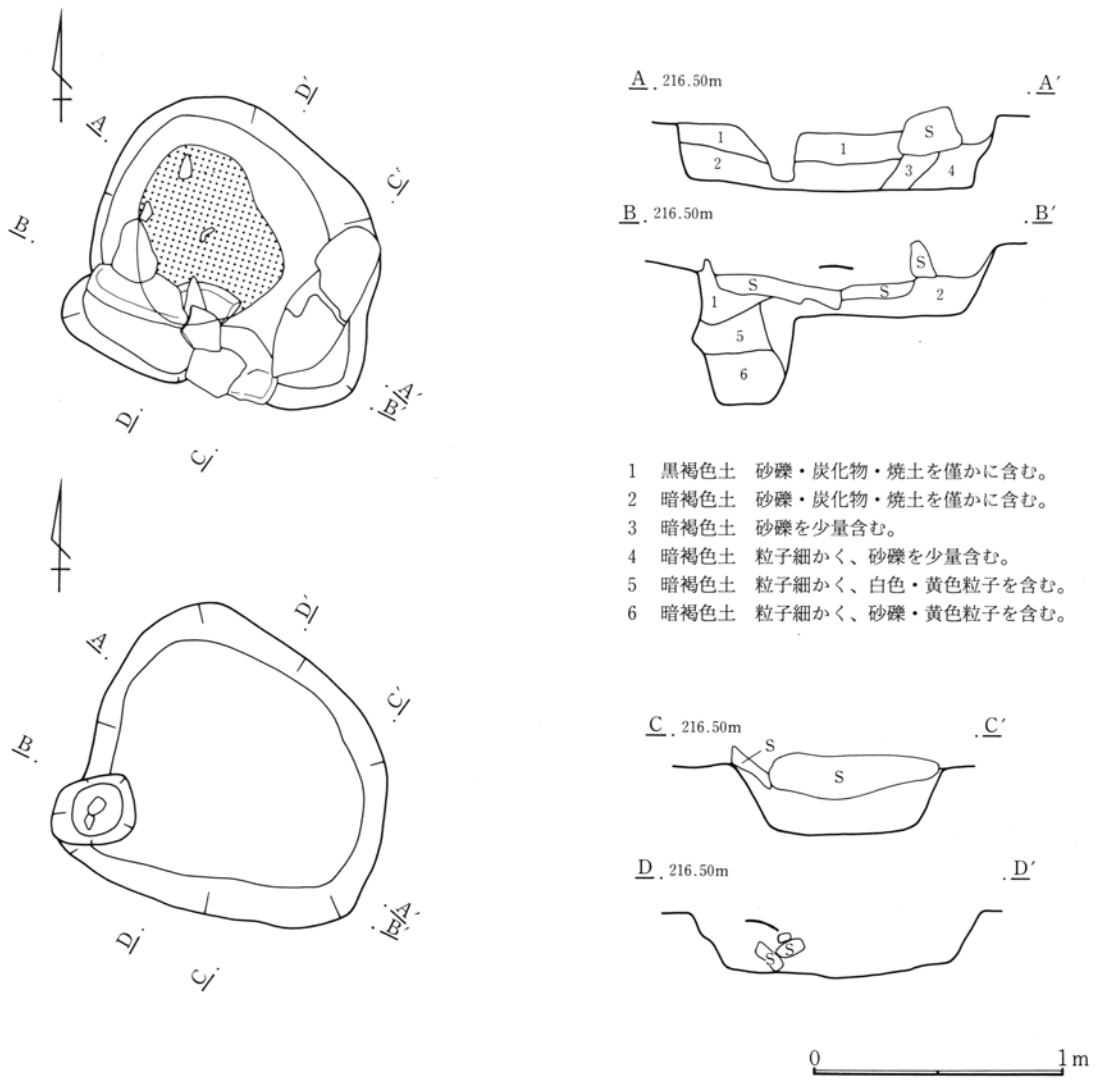
0 2m

第28図 33号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物



第29図 33号住居跡 Pit



第30図 33号住居跡 炉



第31图 33号住居跡出土遺物(1)



第32图 33号住居跡出土遺物(2)

33号住居跡出土土器 (第31・32図、PL123~125)

1は口縁部から胴部下半部にかけての深鉢型土器。口径37.5cm。比較的締まった底部から胴部はやや開いて立ち上がる。胴部上位でわずかに締まり、口縁部はわずかに開く。施文は口縁部隆帯により、端部が渦巻文となる区画文が構成され、区画内には斜位沈線。胴部は口縁部隆帯からつながる隆線による渦巻文を横位連結する。渦巻文から隆線が垂下し、さらにその間には、上端が蕨手状となる波状隆線が垂下。地文には部分的に斜位の沈線文が見られる。

2はほぼ完形の深鉢型土器。口径23.1cm、器高(37.3cm)、底径8.9cm。胴部の膨らみは弱く、上位部分でわずかに締まる。口縁部は隆帯により、連結部が口縁部上にまで盛り上がり、渦巻となる弧状文が構成される。区画文内には縦位沈線が充填される。渦巻から2本の隆線が垂下し、胴部には縄文 RL が施文されるが、下半部分には施文が見られない。

3は比較的大型の深鉢型土器。口縁部がわずかに外反する樽形を呈す。口径38.4cm。口縁部に沿って横位沈線が廻り、以下区画帯には2本単位の沈線で横位の連弧文を配す。頸部には接合部分が押圧で幅広になった隆帯が見られる。胴部には縦位集合条線が施文される。

4は深鉢型土器。口径33.4cm。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部には上端が丸まったヘアピン状の縦位沈線文が描かれる。

5は深鉢型土器の胴部片。器形がやや異なるものの、隆線により1とほとんど同様の文様を描く。器面上に砂粒が目立つ。

6は胴部片。横位隆帯により上下文様帯を区切る。上位には横位に円形区画文。区画内には沈線による円形文、C字状文が配される。胴部には隆帯による曲線文が垂下し、曲線文間には斜沈線が付される。かなり脆弱な土器である。

7は胴部から底部。底径7.4cm。沈線による紡錘文を描き中を縄文施文する。

8は鉢型土器。口径(22.6cm)。口縁部は段をもって内側に入り、短く立ち上がる。胴部には沈線で画した楕円文、円形文を描き文様内部を縦位沈線で埋める。

9は深鉢型土器の胴部。3本単位の沈線が垂下し、縄文 RL が施文されている。

10は底部。底径11.5cm。縄文施文後、3本単位の縦位沈線。

11は口縁部片。隆帯で口縁部文様帯を画す。2本の横位沈線文間を斜めの短沈線で埋める。隆線以下には斜位の集合沈線文。

12は口縁部片。口唇部がやや薄く仕上げられている。隆帯で口縁部文様帯を画す。隆線による渦巻文で横単位に区切り、単位文内には縦位沈線文。

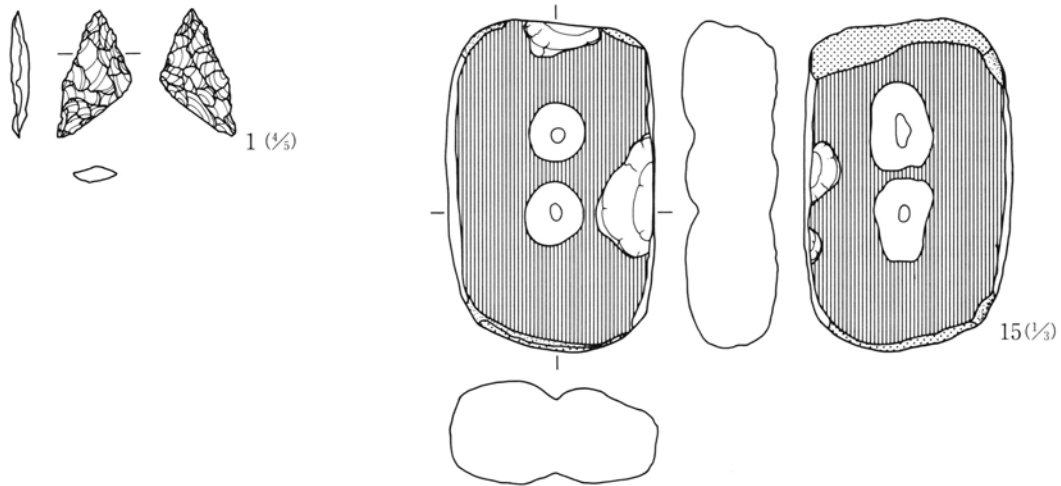
13は口縁部の小波頂部分片。波頂部に横位隆線でつながった渦巻文が描かれる。以下隆線による区画文が描かれ、縄文が充填される。

14は胴部片。隆帯による曲線文を描く。

15・16は胴部片。縦位波状集合条線が施文される。

17は把手片。口縁部に三角柱状に立ち上がり、沈線、刺突文で加飾施文される。

第2章 検出された遺構と遺物



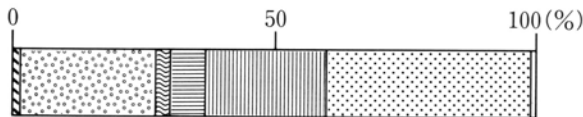
第33図 33号住居跡出土遺物(3)

33号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	完形	2.1	1.1	0.3	0.6	黒曜	平基無茎鏃。基部斜状。破損後の再調整のためか。
2	打斧	床直	一部欠	10.7	5.2	1.8	106.6	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。Ⅲ類。
3	打斧	床直	ほぼ完	12.3	5.3	2.4	169.5	変安	基部・刃部一部欠損。Ⅲ類。
4	打斧	中位	完形	11.1	4.6	2.1	106.1	硬泥	刃部磨耗。基部側にも一部磨耗みられる。Ⅲ類。
5	打斧	下位	2/3	7.5	3.8	1.5	57.4	硬泥	基部破片。Ⅲ類。
6	打斧	下位	完形	13.8	4.3	2.1	165.8	デイ	Ⅲ類。
7	打斧	床下	一部欠	11.9	4.6	1.4	96.4	粗安	刃部一部欠損。Ⅲ類。
8	打斧	床下	完形	12.8	4.7	3.1	230.0	硬泥	刃部磨耗。Ⅲ類。
9	打斧	床直	1/2	6.5	4.5	1.4	54.4	粗安	基部破片。形状不明。
10	打斧	床直	1/2	6.8	4.6	2.0	64.5	硬泥	両端欠損。Ⅱb類。
11	打斧	床直	1/3	6.5	6.0	1.7	73.5	粗安	刃部破片。先端かなり磨耗。Ⅱb類。
12	打斧	覆土	1/2	8.8	5.4	2.3	138.0	珪頁	刃部磨耗。Ⅲ類。
13	打斧	床下	破片	7.6	5.7	2.9	141.2	硬泥	刃部破片。形状不明。
14	凹石	床下	一部欠	12.1	7.1	4.2	480.9	変安	盤状の円礫。表面に凹み・敲打痕、裏面・上端に敲打痕。
15	凹石	下位	完形	13.1	8.3	4.0	710.8	砂岩	両側を面取り、両端に敲打。表裏に凹み各2個・研磨面。
16	敲石	床直	完形	9.2	5.7	4.5	397.9	閃緑	棒状の円礫。両端に敲打痕。
17	多孔	下位	1/3	13.7	22.2	7.0	1643.2	砂岩	盤状の角礫。表裏に大小の凹み。

33号住居跡器種組成表

器種	石鏃	打斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	多孔	剥片
個数	1	12	1	5	3	1	2	1	1	31



33号住居跡石材重量組成グラフ

35号住居跡 (第34~37図、PL 7・126・220・221)

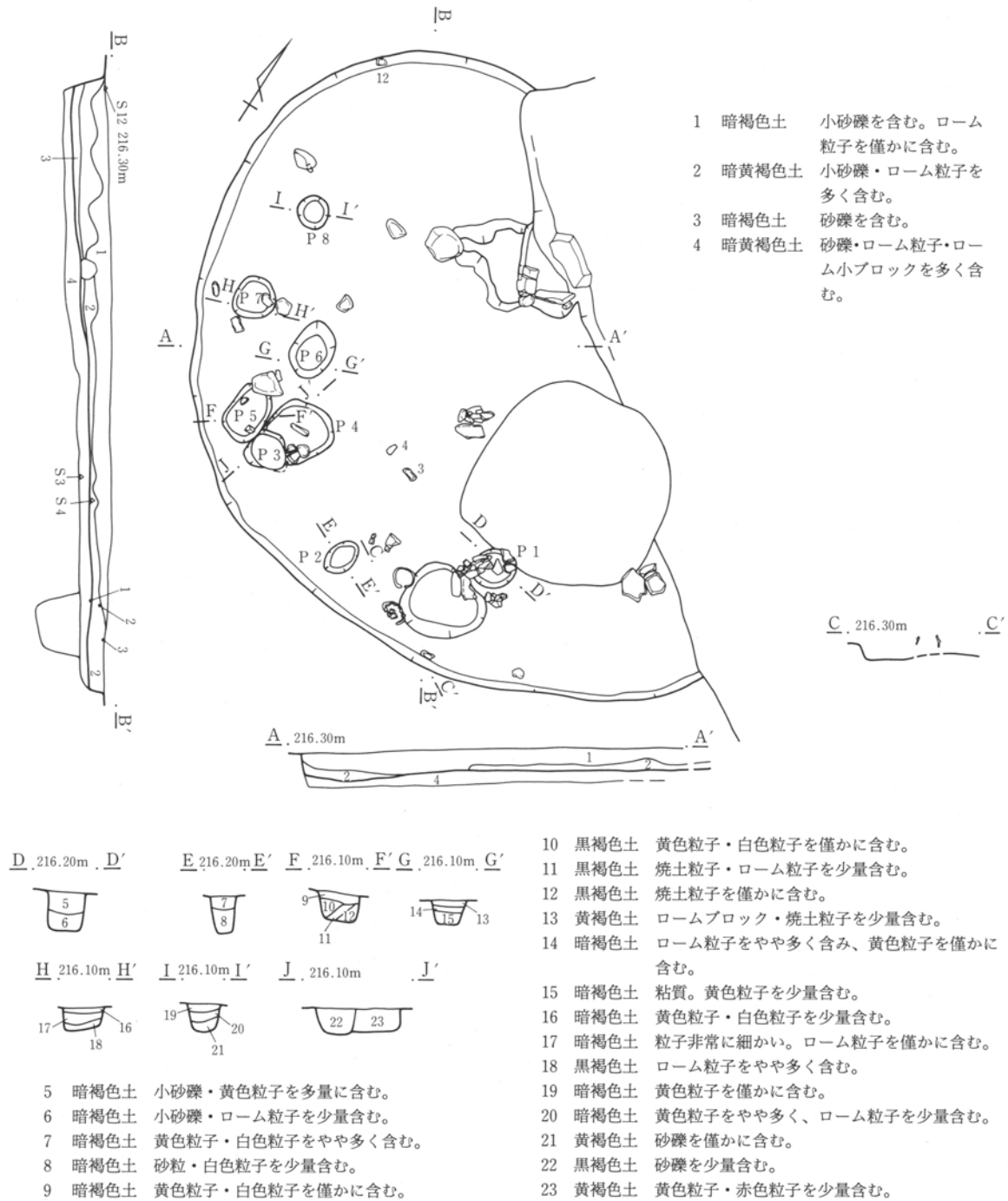
本住居跡は、34号住居跡および1号井戸によって約半分が破壊されている。平面形は小判形になるものと推定される。

床面はほぼ平坦で、ローム粒・ロームブロックを多く含む褐色土で貼床しており、比較的しっかりしている。柱穴とも考えられる Pit は、住居西側から南側にかけて集中している。また深さ約30cm前後で、やや大きな掘り込みもみられる。

第1節 縄文時代の住居跡と出土遺物

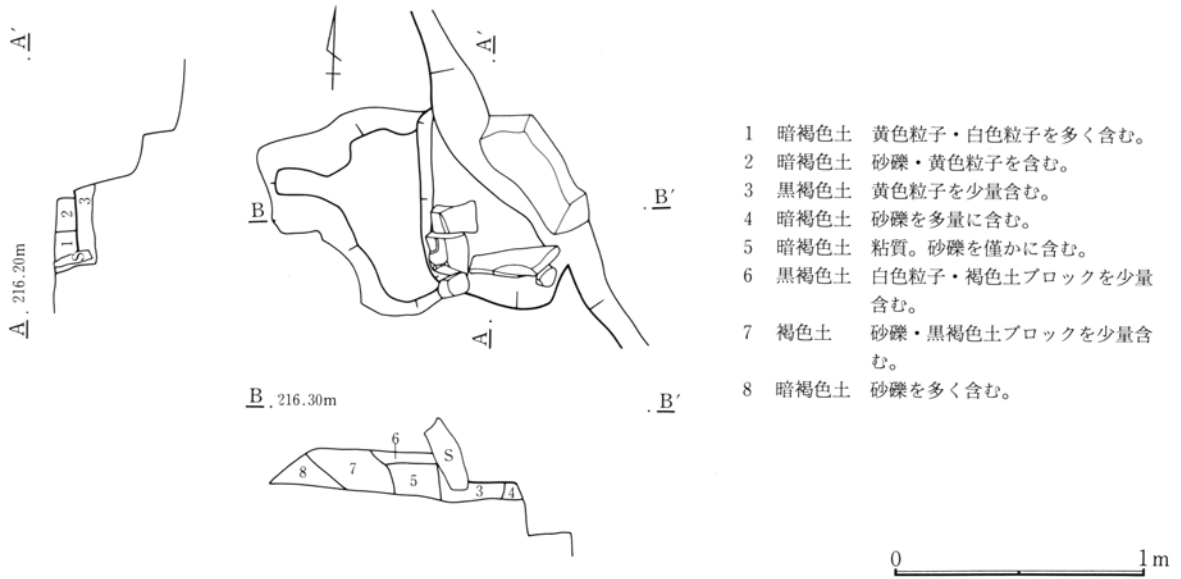
掘り方は凹凸が少なく、ほぼ水平である。炉跡は住居の中心よりやや北側に発見されたが、34号住居跡によって半分以上は破壊されていた。炉の残存部分から推定すると、方形に地山を掘り込み、炉壁に石を巡らしていたものと思われる。

出土遺物として深鉢型土器・浅鉢型土器・打製石斧・磨製石斧・磨石がある。いずれも床面付近およびやや浮いた状態で出土している。



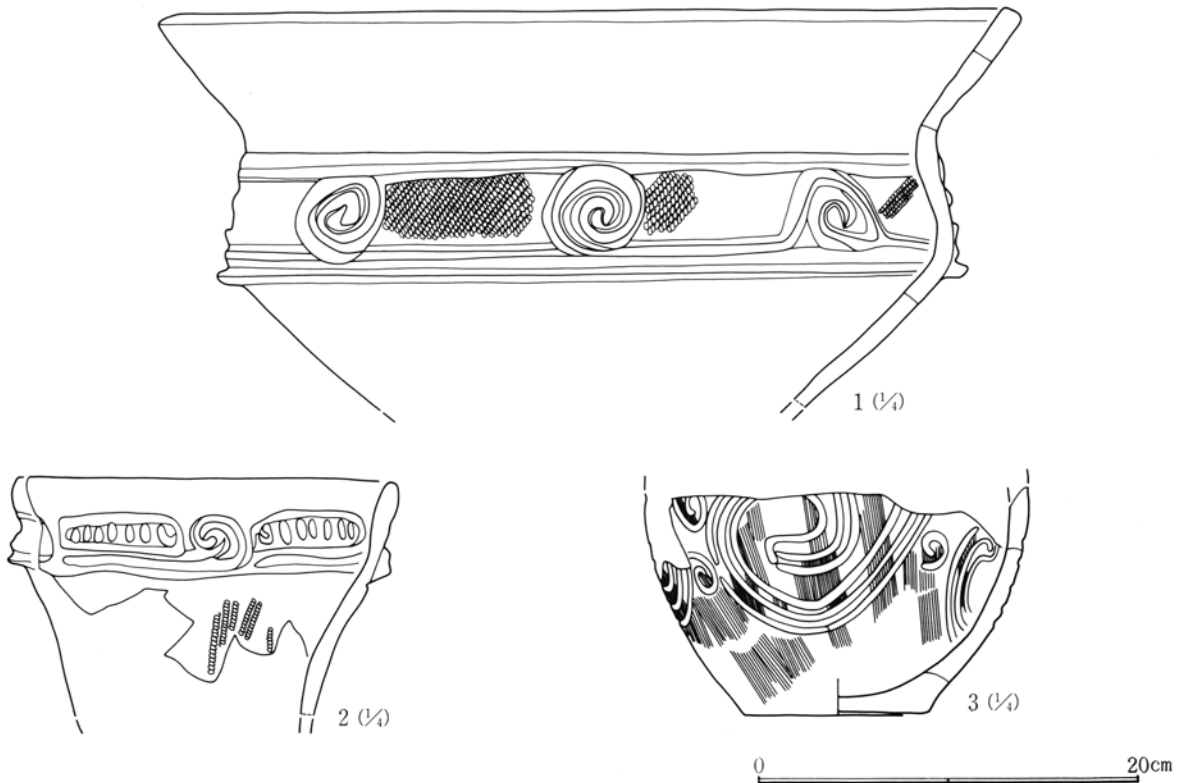
第34図 35号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物



- 1 暗褐色土 黄色粒子・白色粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫・黄色粒子を含む。
- 3 黒褐色土 黄色粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 砂礫を多量に含む。
- 5 暗褐色土 粘質。砂礫を僅かに含む。
- 6 黒褐色土 白色粒子・褐色土ブロックを少量含む。
- 7 褐色土 砂礫・黒褐色土ブロックを少量含む。
- 8 暗褐色土 砂礫を多く含む。

第35図 35号住居跡 炉



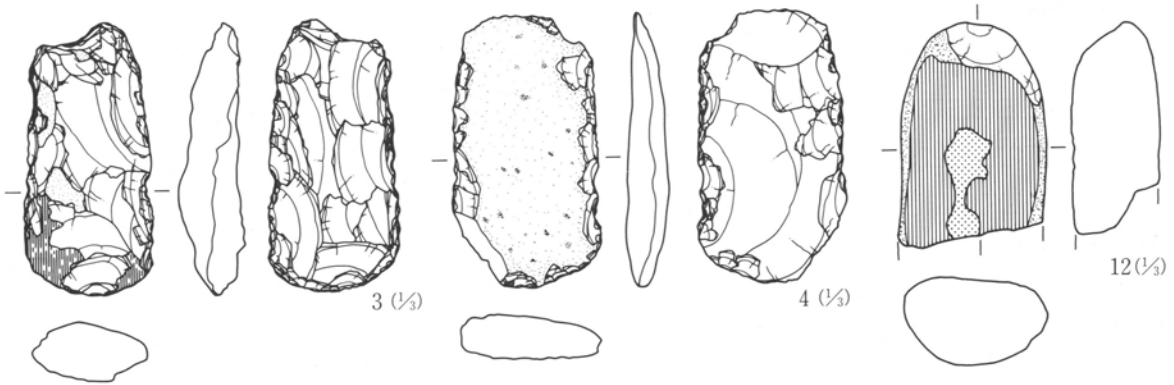
第36図 35号住居跡出土遺物(1)

35号住居跡出土土器 (第36図、PL126)

1 は鉢型土器。頸部で「く」の字に折れて外反する。口縁部は無文、文様帯は上下を隆帯によって画し、隆帯により、渦巻文が構成され、縄文が施文される。口径 (45.6cm)。

2 は甗上半部。口径20.0cm、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画内に縦沈線文。

3 は胴下半部丸みを持つ。底径9.5cm、縦位条線施文後、3本単位の沈線で渦巻文。



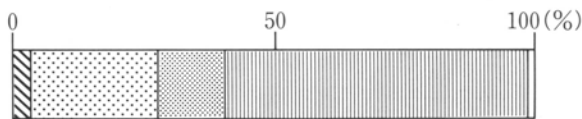
第37図 35号住居跡出土遺物(2)

35号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	覆土	完形	11.4	5.4	2.4	153.2	変安	刃部磨耗。II b類。
2	打斧	中位	一部欠	10.3	5.0	1.3	85.4	変玄	基部一部欠損。II b類。
3	打斧	下位	完形	10.7	5.1	2.6	149.7	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。III類。
4	打斧	床直	ほぼ完	10.8	5.9	1.8	131.5	粗安	III類。
5	打斧	覆土	1/2	6.9	4.4	1.6	59.1	硬泥	刃部欠損。III類。
6	打斧	覆土	1/2	6.3	4.2	2.4	56.7	珪頁	刃部欠損。II b類。
7	打斧	覆土	破片	5.4	4.9	1.4	37.8	硬泥	基部破片。形状不明。
8	打斧	覆土	1/2	7.1	5.3	1.3	60.8	粗安	基部欠損。III類。
9	打斧	覆土	完形	10.0	4.2	1.7	74.6	粗安	III類。
10	磨斧	中位	破片	7.4	5.5	3.3	164.9	変玄	未製品の破片。剥離による整形途中。
11	磨石	覆土	完形	7.8	5.2	1.4	102.6	変玄	円盤状の円礫。表裏に研磨面・線状痕。
12	磨石	中位	1/2	8.8	5.9	3.5	251.0	変安	盤状の円礫。表面に研磨・敲打痕。

35号住居跡器種組成表

器種	打斧	磨斧	二次	微細	石核	磨石	剥片
個数	9	1	11	1	2	2	29



35号住居跡石材重量組成グラフ

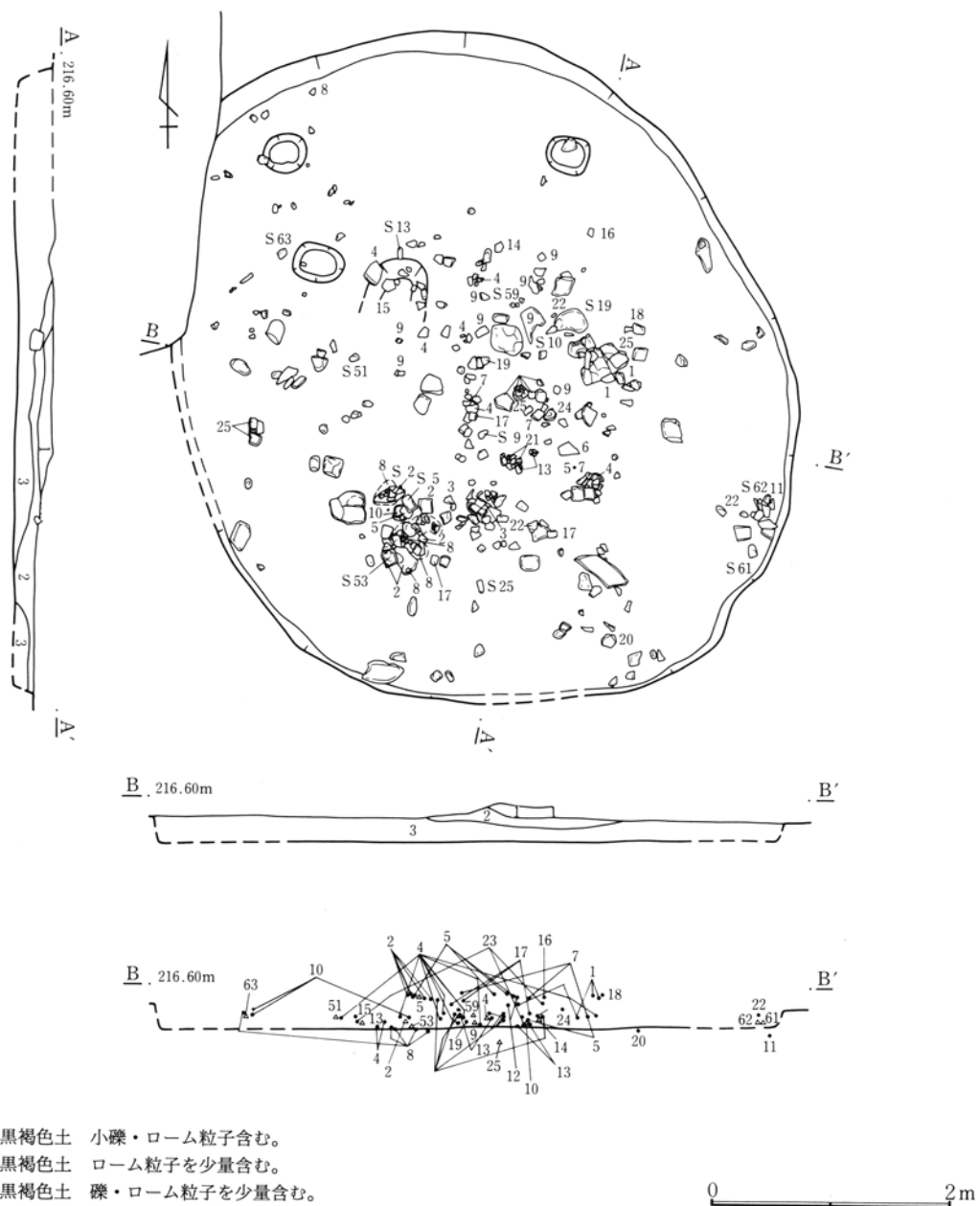
第2章 検出された遺構と遺物

37号住居跡 (第38~44図、PL 7・8・126~128・221~223)

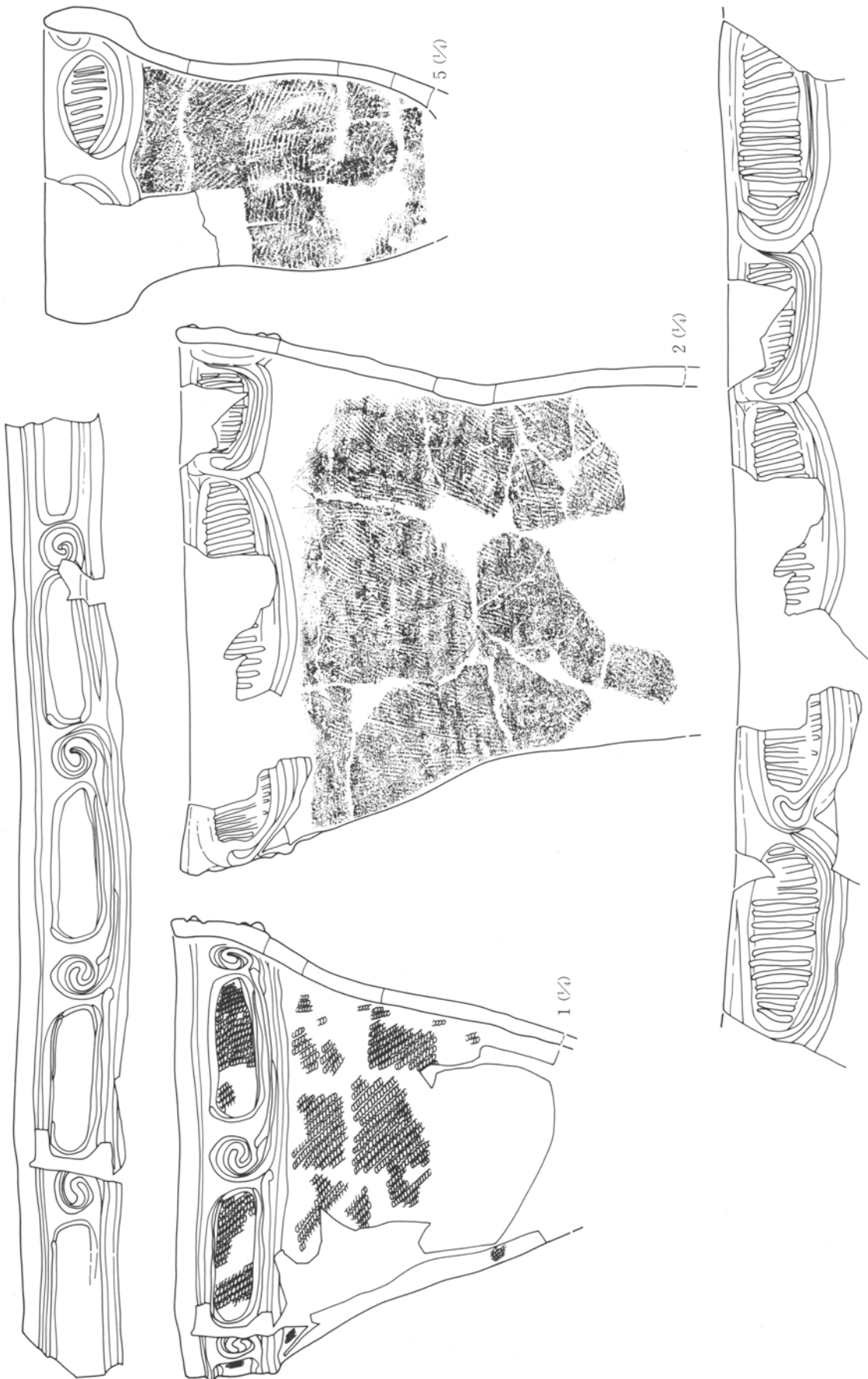
本住居跡は不整形円形を呈する。壁の西北部は25号住居跡によって破壊されている。住居西側と南側の一部については、壁および床面を捉えることが困難な部分があり、破線で示した。

床面は、砂礫を含んだ黒褐色土で貼床をしており、平坦ではあるが住居中央付近の一部を除いて軟弱である。柱穴として可能性のある位置に3基の Pit が検出されているが、いずれも深さ5cmと浅いものである。炉跡については確認されなかった。

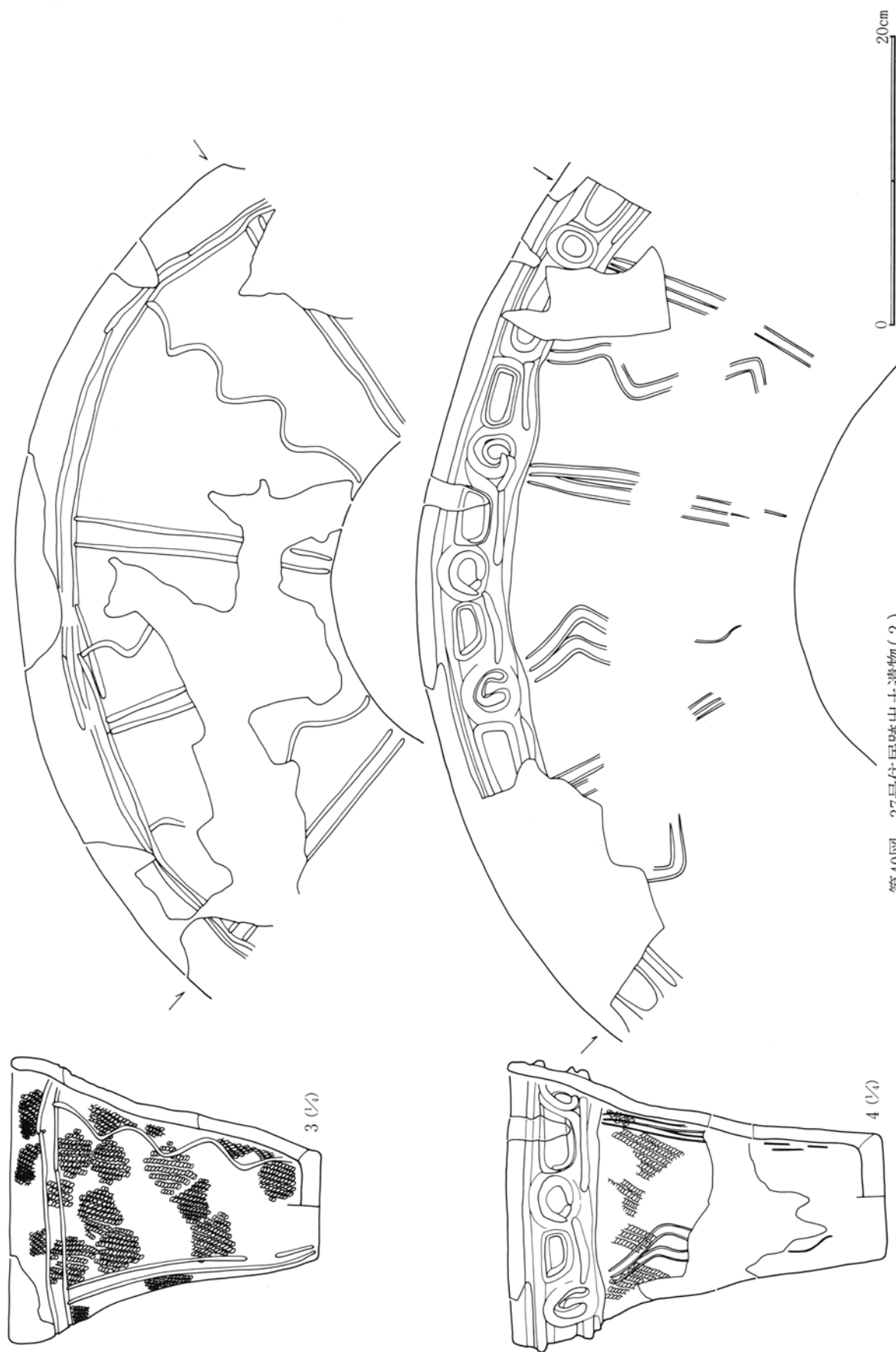
出土遺物は多く、住居全体から出土しているが、比較的床面に近い遺物については住居中央付近に集中する傾向がみられる。出土遺物には打製石斧・石核・磨石・石皿・石匙等がある。図示した遺物については、いずれも床面直上から約30cm上方の間である。



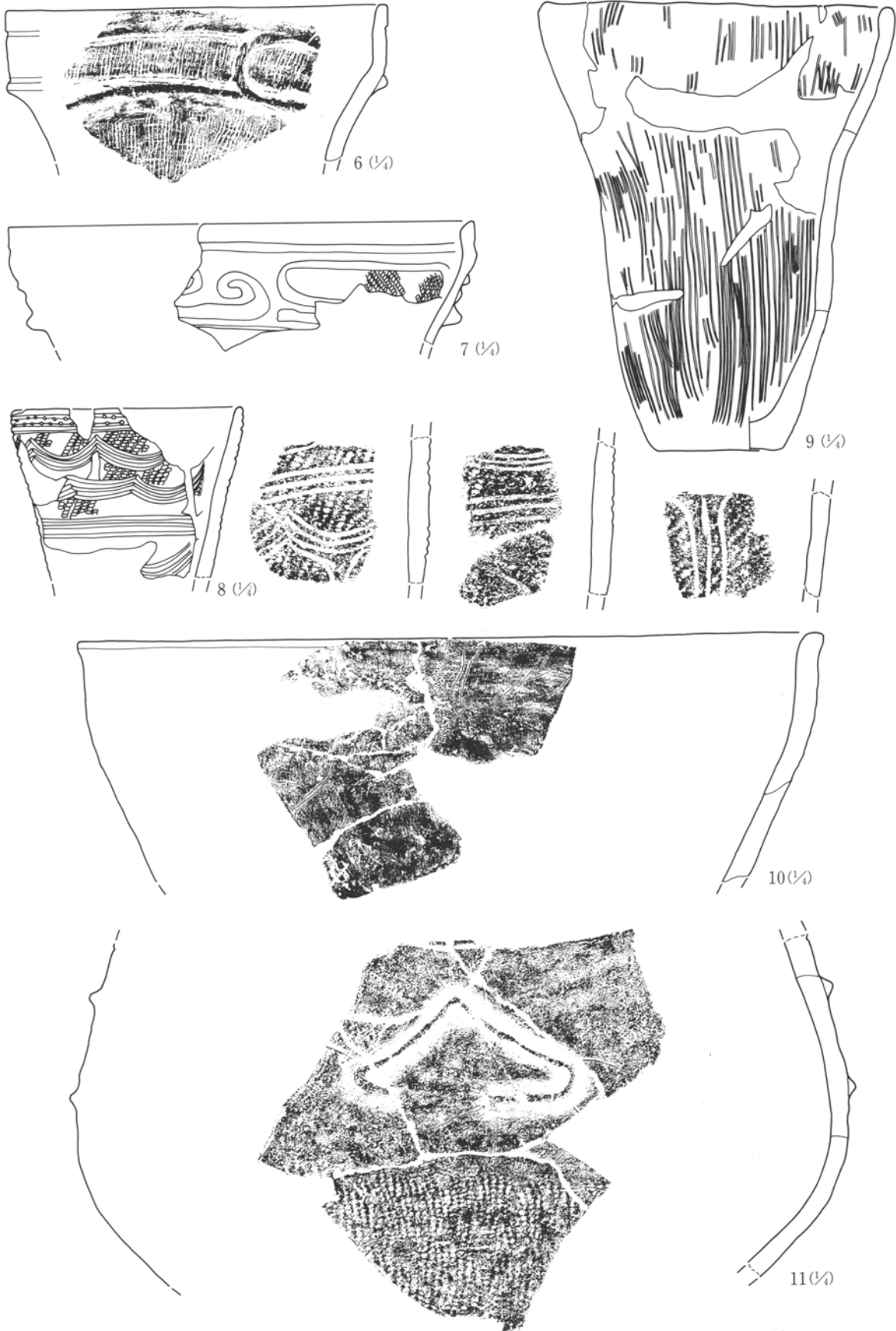
第38図 37号住居跡



第39図 37号住居跡出土遺物(1)

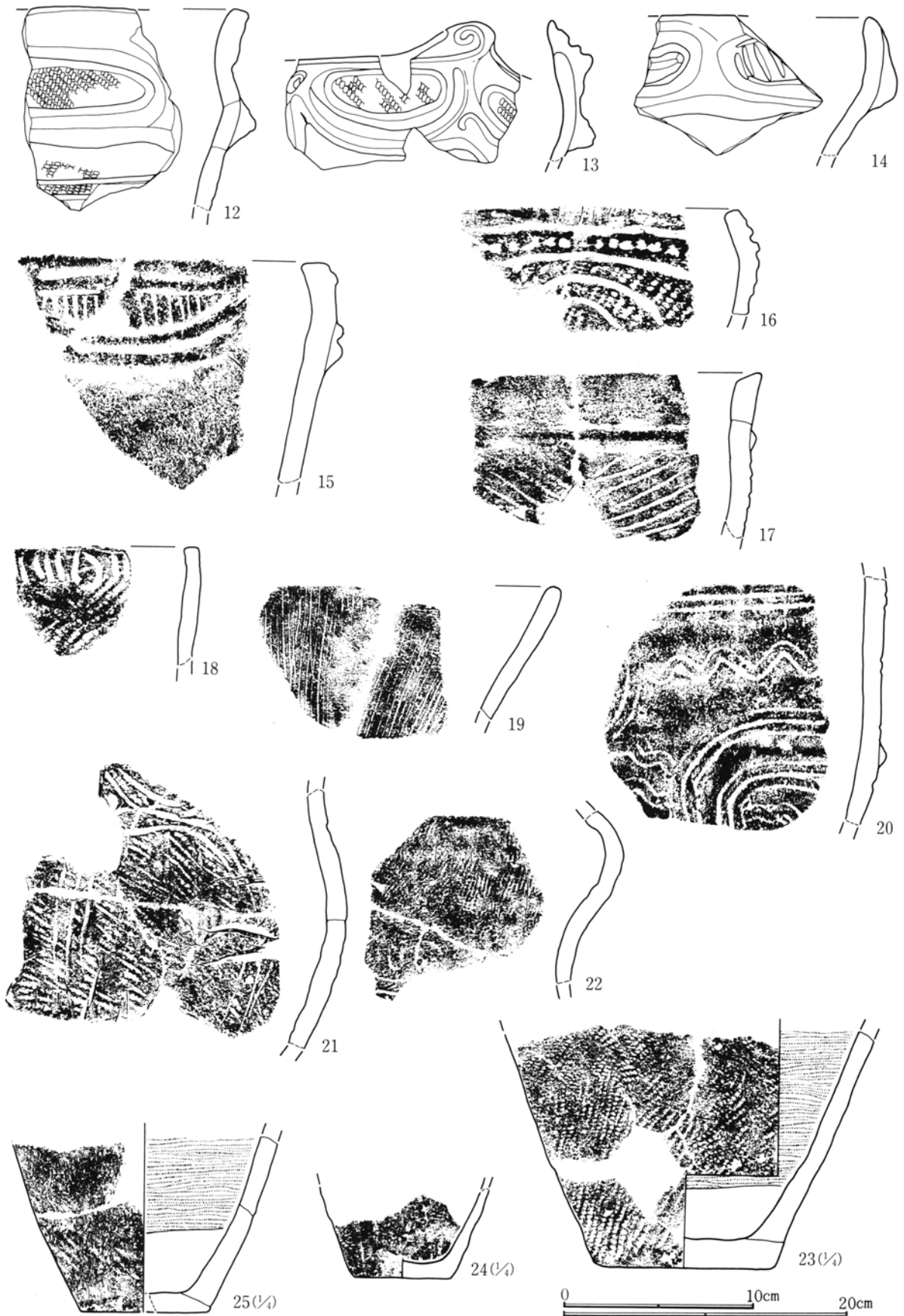


第40図 37号住居跡出土遺物(2)



第41図 37号住居跡出土遺物(3)

第2章 検出された遺構と遺物



第42図 37号住居跡出土遺物(4)

37号住居跡出土土器 (第39～42図、PL126～128)

1は口縁部から胴部にかけての深鉢型土器。胴下部はやや締まる。口径30.7cm。口縁部に沿って横位の隆帯が廻る。口縁部文様帯は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画内には縄文が充填される。胴部は縄文 LR が縦位施文される。

2は口縁部から胴部。胴中位でやや括れる。口径36.5cm。口縁部は隆帯により、楕円文が構成され、縦位沈線が充填施文される。胴部は縄文 RL が縦位施文される。

3はほぼ完形の深鉢型土器。口径19.3cm、器高21.6cm、底径7.2cm。口縁部に2本の沈線を横に廻し、2本単位の沈線が4本、および1本の波状沈線が3本交互に垂下する。地文には縄文 RL が施文されるが部分的に無文部分が見られる。

4は口縁部から底部。口径19.5cm、器高(26.1cm)、底径8.1cm。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部はRL 縄文施文後、2本単位の並行、波状沈線が垂下する。

5は口縁部から胴部。口径(19.9cm)。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、縦位沈線が充填される。胴部には縄文が充填施文される。

6は口縁部。口径(26.6cm)。口縁部は隆帯により、楕円区画文が構成される。口縁部、胴部に縦位の条線が見られる。

7は口縁部。口径(32.0cm)。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。

8は口縁部から胴上半部。口径(15.7cm)。口縁部、胴部に横位の沈線を廻す。口縁部の沈線は刺突文を伴う。以下2段の連弧文が施文される。縄文 RL が施文される。

9は口縁部から底部。口径24.2cm、器高31.0cm、底径8.8cm。縦位条線が充填施文される。

10は口縁部。口径(52.0cm)。大型の無文土器。

11は大型深鉢の胴部片。中位に最大径を持つ丸みを帯びた器形を呈す。横位沈線、隆線による三角文。下半部には縄文 RL が施文される。

12は口縁部片。隆帯により、楕円文が構成され、内部は縄文が施文される。

13は口縁部片。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。口縁部には肥厚した渦巻文。

14は口縁部片。隆帯により、縦位沈線を持つ楕円文が構成される。

15は口縁部片。隆帯により、縦位沈線を持つ楕円文が構成される。

16は口縁部片。口縁部に沈線と刺突文列。下位に沈線による渦巻文。縄文 RL が施文される。

17は口縁部に隆帯で画された無文帯を持ち、以下、矢羽状の縦位沈線文。

18は口縁部片。口縁部に沿って縦位沈線文。地文には羽状縄文。

19は口縁部片。縦位条線文。

20は胴部片。並行沈線による横位線文、波状文。隆帯による区画文が描かれる。

21は胴部片。地文に LR 縄文。沈線による曲線文が見られる。

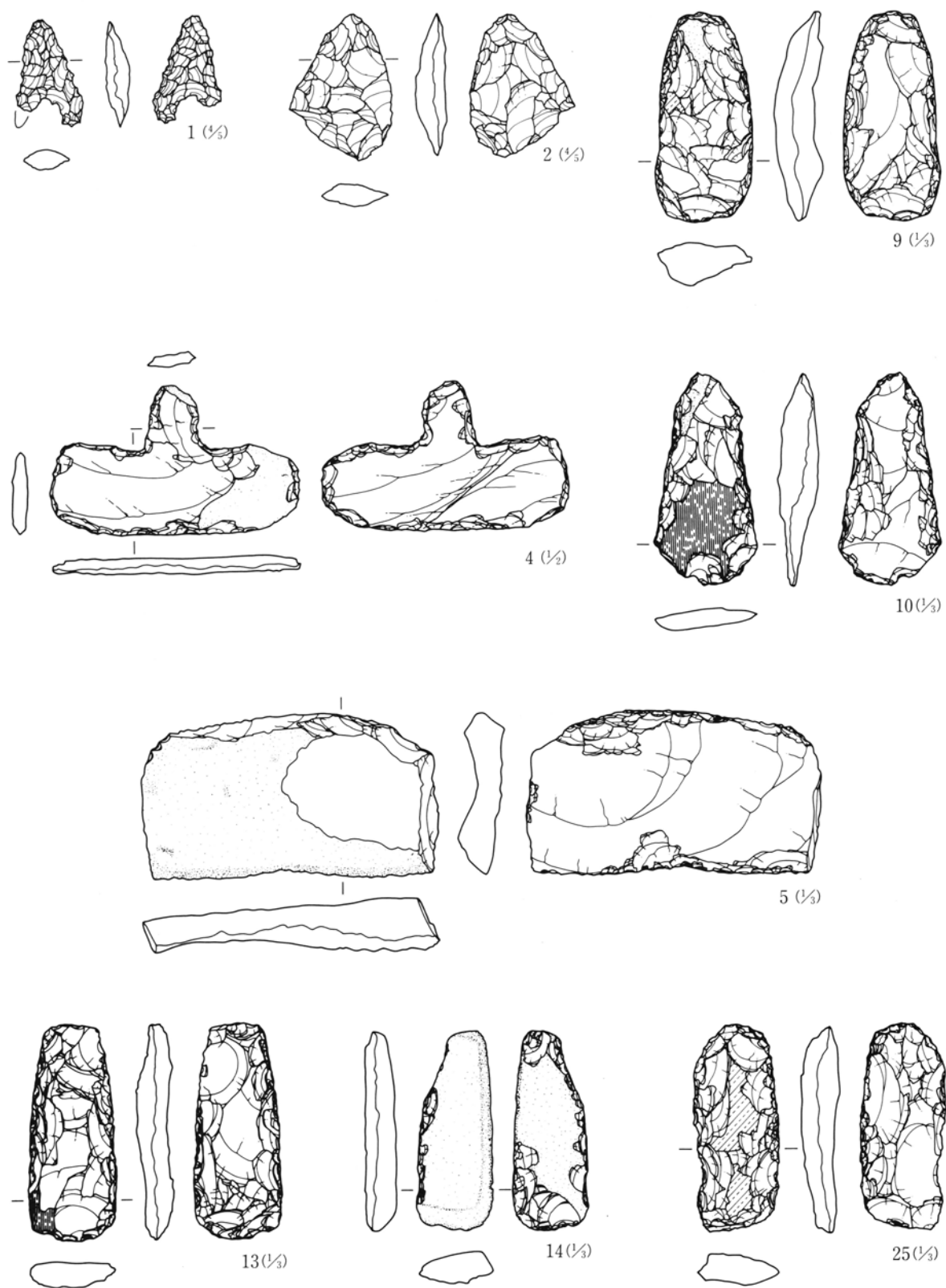
22は屈曲した胴部片。細縄文 RL が施文される。

23は底部片。底径(9.0cm)。縄文が施文されるが不鮮明である。

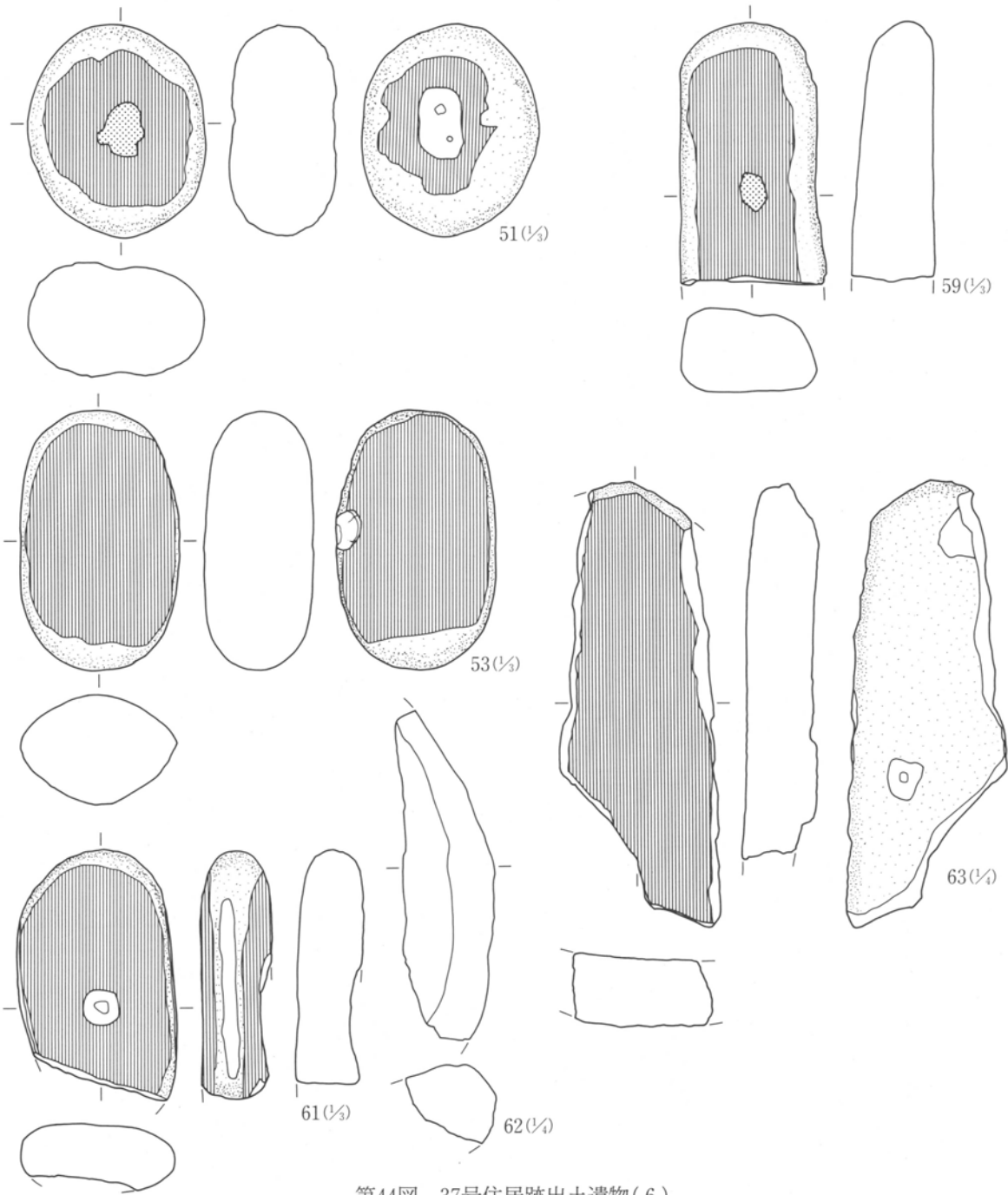
24は底部片。底径6.8cm。施文は不明。

25は底部。底径12.9cm。縄文 RL が施文される。

第2章 検出された遺構と遺物



第43図 37号住居跡出土遺物(5)



第44図 37号住居跡出土遺物(6)

37号住居跡出土石器観察表

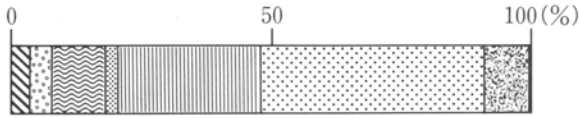
No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特	徴
				長さ	幅	厚さ	重量			
1	石鏃	覆土	一部欠	2.2	1.4	0.5	1.0	黒曜	凹基無茎鏃。左脚欠損。	
2	石鏃	床直	完形	3.0	2.1	0.7	3.5	黒安	凸基無茎鏃。調整やや粗い。未製品か。	
3	楔	覆土	完形	1.6	1.3	0.4	0.7	黒曜	両端に剝離痕。	
4	石匙	下位	完形	4.9	8.2	0.6	23.2	珪準	横型。周辺両面に調整。	
5	SS	下位	完形	8.1	14.6	2.6	311.0	粗安	横長剝片の両端に調整。	
6	打斧	中位	完形	9.5	4.7	1.9	99.3	硬泥	刃部先端わずかに磨耗。基部磨耗。II b類。	
7	打斧	中位	完形	9.1	4.1	1.5	63.2	硬泥	剝片素材。刃部磨耗。II b類。	
8	打斧	下位	一部欠	10.8	4.9	2.4	127.3	硬泥	刃部磨耗。一部欠損。II b類。	
9	打斧	床直	完形	10.3	4.8	2.4	116.4	細安	器表面一部熱により剝落。II b類。	

第2章 検出された遺構と遺物

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
10	打斧	床直	完形	10.5	5.1	2.0	88.2	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。II b類。
11	打斧	覆土	完形	9.5	4.7	2.1	102.4	硬泥	II b類。
12	打斧	覆土	完形	9.8	4.3	1.9	84.2	珪頁	刃部磨耗。II b類。
13	打斧	床直	完形	10.6	4.3	1.8	86.4	硬泥	刃部磨耗。II b類。
14	打斧	下位	完形	9.8	3.7	1.5	74.8	硬泥	小型盤状礫の周辺に調整加え整形。II b類。
15	打斧	中位	完形	12.3	4.9	2.0	125.8	硬泥	II a類。
16	打斧	覆土	完形	10.3	4.2	0.9	68.4	緑片	刃部磨耗。III類。
17	打斧	覆土	完形	7.5	3.3	1.2	30.8	珪頁	器表面かなり風化。II b類。
18	打斧	下位	1/2	6.6	4.0	1.8	48.8	硬泥	基部破片。III類。
19	打斧	覆土	1/3	6.0	4.1	1.6	47.5	硬泥	基部破片。形状不明。
20	打斧	覆土	1/2	6.3	3.9	1.9	42.8	硬泥	基部破片。形状不明。
21	打斧	中位	破片	5.1	4.0	1.6	3.7	珪頁	両端欠損。形状不明。
22	打斧	下位	1/2	7.2	4.6	1.1	37.3	硬泥	基部欠損。II b類。
23	打斧	中位	1/2	6.5	4.4	1.4	53.6	硬泥	基部欠損。II b類。
24	打斧	下位	1/3	5.9	4.2	1.0	31.7	硬泥	両端欠損。形状不明。
25	打斧	床下	完形	10.1	4.2	1.9	82.9	細安	III類。
26	打斧	床直	完形	12.7	4.8	2.5	183.5	頁岩	III類。
27	打斧	中位	3/4	9.9	5.2	1.5	92.2	珪頁	基部欠損。III類。
28	打斧	下位	1/2	9.7	6.4	3.5	244.2	粗安	刃部欠損。III類。
29	打斧	床下	1/2	8.1	4.1	2.1	72.8	凝砂	刃部欠損。III類。
30	打斧	床直	1/2	7.2	4.9	2.5	101.3	変安	刃部磨耗。基部欠損。II b類。
31	打斧	床下	1/2	7.3	5.2	2.3	105.6	硬泥	刃部破片。形状不明。
32	打斧	下位	1/2	8.3	4.5	1.6	66.2	細安	刃部先端磨耗。基部欠損。III類。
33	打斧	下位	2/3	8.4	3.8	1.1	45.2	珪頁	刃部欠損。III類。
34	打斧	下位	3/4	10.2	3.4	1.0	28.9	硬泥	刃部磨耗。右側下半欠損。II b類。
35	打斧	下位	3/4	9.9	3.7	1.2	62.3	珪頁	刃部欠損。III類。
36	打斧	下位	破片	5.4	4.9	2.0	58.2	硬泥	基部破片。形状不明。
37	石核	床下	完形	7.9	7.3	3.6	92.8	硬泥	剥片の腹面を打面とし背面側で小型の剥片剥離。
38	石核	床下	完形	9.3	6.9	4.7	321.1	硬泥	盤状の石核。表裏で周辺から剥片剥離。
39	石核	下位	完形	10.6	8.1	3.1	249.7	硬泥	剥片の周辺一部で剥片剥離。
40	石核	下位	完形	9.9	6.0	2.9	164.6	硬泥	剥片端部で少数の剥片剥離。
41	石核	中位	完形	6.6	6.9	4.0	174.6	細安	両面の一部周辺から剥片剥離。
42	石核	覆土	完形	6.0	7.9	3.6	116.7	硬泥	盤状の石核。剥片の両面で周辺から剥片剥離。裏面に磨耗。
43	石核	中位	完形	7.7	8.1	3.0	184.1	硬泥	小型の礫素材。主に表面で周辺から剥片剥離。
44	石核	床下	完形	7.6	6.4	3.5	208.0	硬泥	剥片の周辺を折り取るように剥片剥離。
45	石核	床直	完形	8.8	6.2	3.7	251.4	硬泥	小型の礫素材。打面・作業面を90°転移して剥片剥離。
46	石核	下位	完形	12.6	7.4	5.8	543.4	硬泥	分割礫の両端で剥片剥離。
47	石核	床直	完形	12.2	11.0	5.4	578.4	硬泥	剥片の端部両面で小型の剥片剥離。
48	石核	中位	完形	8.0	13.6	6.7	873.5	砂岩	礫の分割面打面とし周辺で剥片剥離。下辺からも両面で剥片剥離。
49	石核	下位	2/3	12.0	11.3	6.5	576.8	硬泥	大型の剥片の周辺を折り取るように剥片剥離。下半欠損。
50	石核	下位	完形	7.1	7.8	5.6	323.1	細安	厚手の盤状石核。表裏周辺から求芯状に剥片剥離。
51	凹石	下位	完形	9.5	8.2	5.1	512.8	デイ	円盤状の円礫。表面に敲打痕・研磨面、裏面に凹み・研磨面。
52	敲石	下位	完形	8.9	4.5	3.6	180.2	変安	棒状の円礫。両端に敲打痕。
53	磨石	床直	完形	11.7	7.3	5.0	568.9	デイ	盤状の円礫。表裏に弱い研磨面。
54	磨石	下位	完形	6.1	4.9	3.5	128.3	デイ	円盤状の円礫。表裏に研磨面。
55	磨石	覆土	完形	6.9	2.4	1.2	25.1	硬泥	盤状の円礫。全面に研磨。
56	磨石	床直	完形	16.2	9.6	6.1	1205.6	デイ	盤状の円礫。右側面取り。表裏に研磨面。
57	磨石	下位	完形	16.0	7.2	6.5	1041.8	砂岩	棒状の円礫。右側面取り。表裏に研磨面。
58	磨石	下位	完形	11.9	10.3	3.2	536.3	砂岩	円盤状の円礫。表裏に研磨面。両端・右側に敲打痕。
59	磨石	覆土	2/3	11.9	6.7	3.9	491.3	デイ	棒状の円礫。表面に敲打痕・研磨面。裏面に一部敲打痕。
60	磨石	下位	破片	4.9	7.9	4.8	265.9	デイ	表裏に研磨面。両端欠損。
61	磨石	下位	2/3	11.3	7.3	3.2	387.0	砂岩	盤状の円礫。両側敲打、表面凹み・研磨、裏面研磨。裏面大きく剥落。
62	石皿	下位	破片	20.2	5.9	4.9	619.6	緑片	内面使用により平滑。
63	石皿	下位	破片	27.0	9.9	4.8	1962.4	緑片	内面緩やかにへこみ、裏面に凹みあり。
64	砥石	覆土	破片	4.8	5.1	0.9	28.0	砂岩	薄い盤状。表裏に使用面。
65	台石	中位	1/2	44.0	18.5	10.8	10.6kg	砂岩	盤状の亜角礫。表面敲打により皿状に凹む。研磨面あり。右側欠損。

37号住居跡器種組成表

器種	石鏃	楔	石匙	SS	打斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	石皿	砥石	台石	剥片
個数	2	1	1	1	31	18	35	20	1	1	9	2	1	1	104

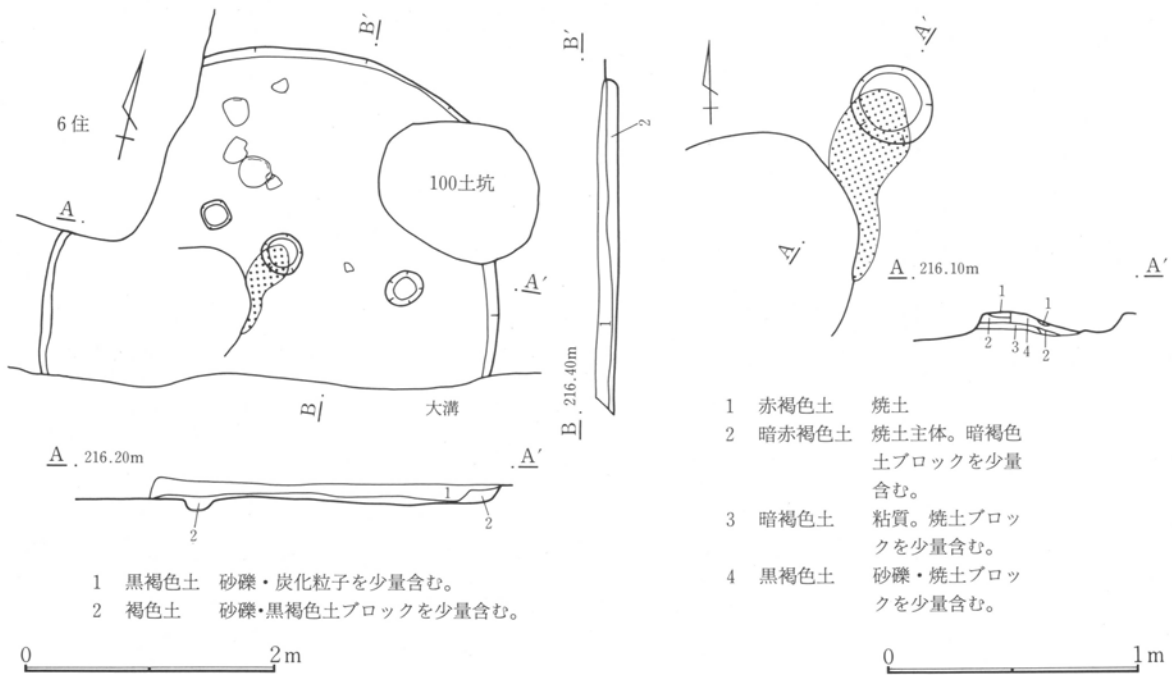


37号住居跡石材重量組成グラフ

45号住居跡 (第45図、PL 8・223)

本住居跡は円形あるいは小判形と考えられる。地山を平坦に掘り込み、その面を床面としているが、床面は比較的軟弱である。柱穴は明確ではないが、3基の Pit のうち東側の Pit は深さ17cmであり、柱穴とも考えられる。しかし西側の Pit は深さ8cmで、東側の Pit とは異なる。

炉は住居跡中央付近に確認された。床面を浅い皿状に掘り込んでおり、使用面には焼土が堆積していた。



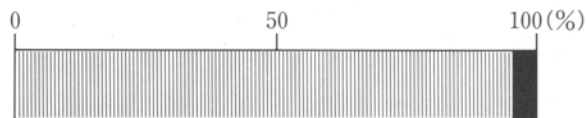
第45図 45号住居跡 炉

45号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	敲石	覆土	ほぼ完	12.1	3.4	3.1	197.5	珪頁	棒状の円礫。両端に敲打痕。

45号住居跡器種組成表

器種	二次	敲石	剥片
個数	2	1	3



45号住居跡石材重量組成グラフ

第2章 検出された遺構と遺物

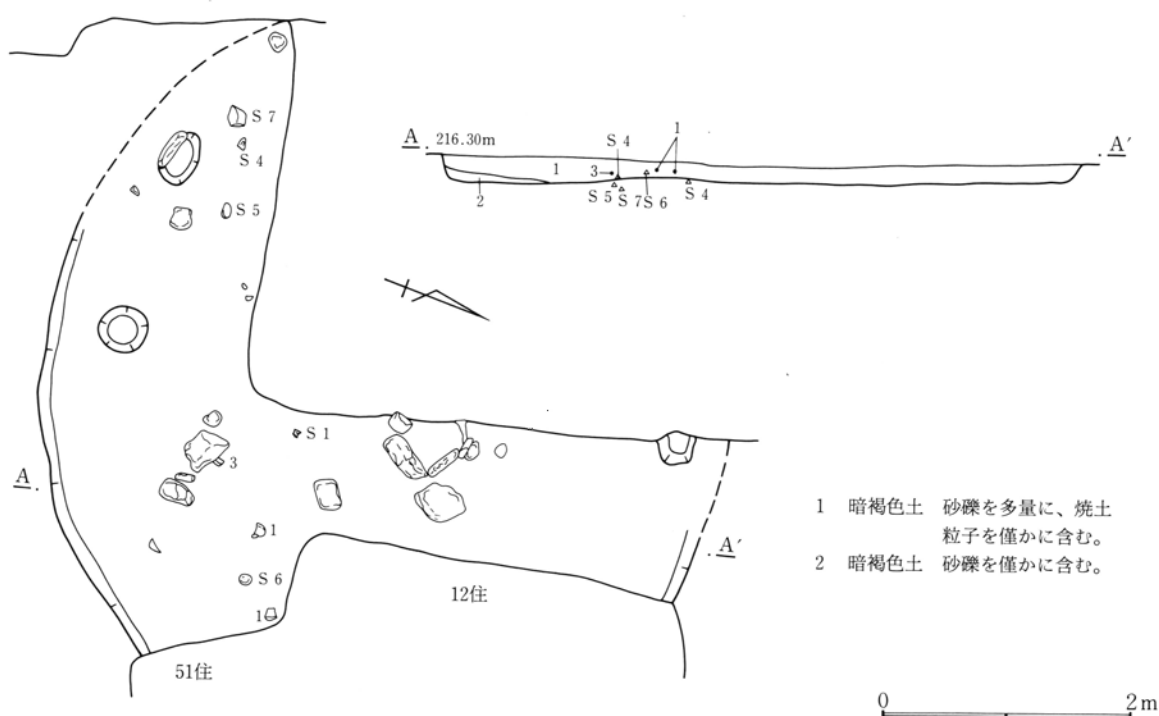
48号住居跡 (第46~50図、PL 8・128・224)

本住居跡は、埋設後に造られた他の住居等によって多くの部分が破壊されている。そのため住居の平面形ははっきりしないが、円形となる可能性がある。

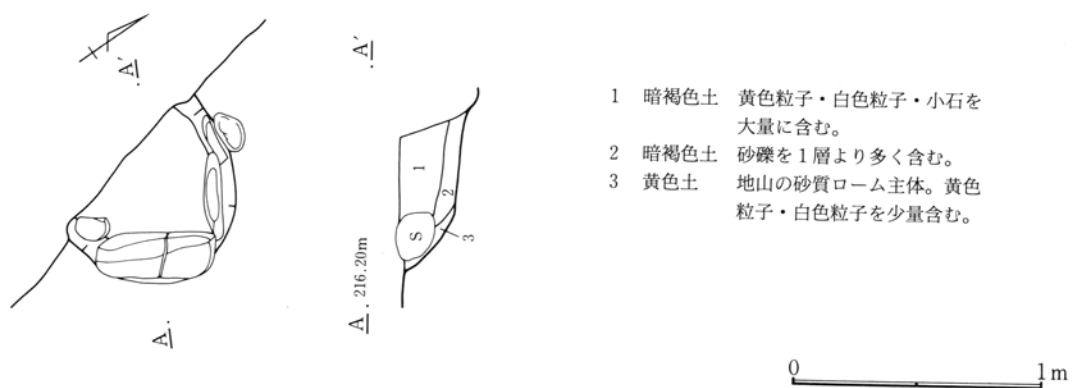
床面はほぼ平坦である。地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている。柱穴とも考えられる Pit は、北側および南側の壁近くにある。いずれも深さ約25cm~30cmである。

炉跡は住居のほぼ中央で確認された。炉は床面を皿状に掘り込み、石を方形に組んで造られていたものと考えられる。なお、炉内に焼土は確認されなかった。

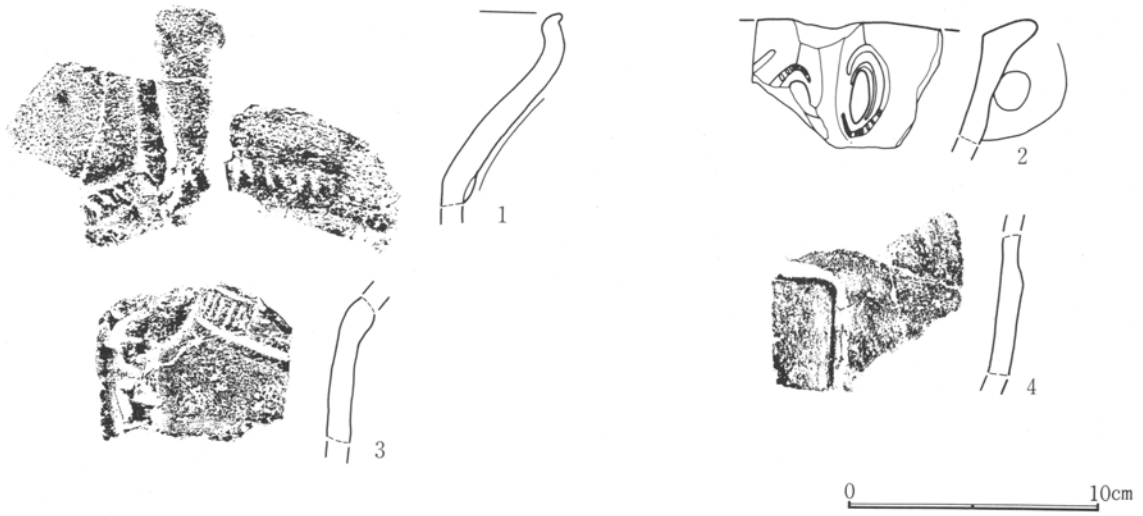
出土土器には深鉢型土器があるが、いずれも小破片である。出土石器には打製石斧・磨製石斧・磨石・石匙・凹石・多孔石がある。



第46図 48号住居跡



第47図 48号住居跡 炉



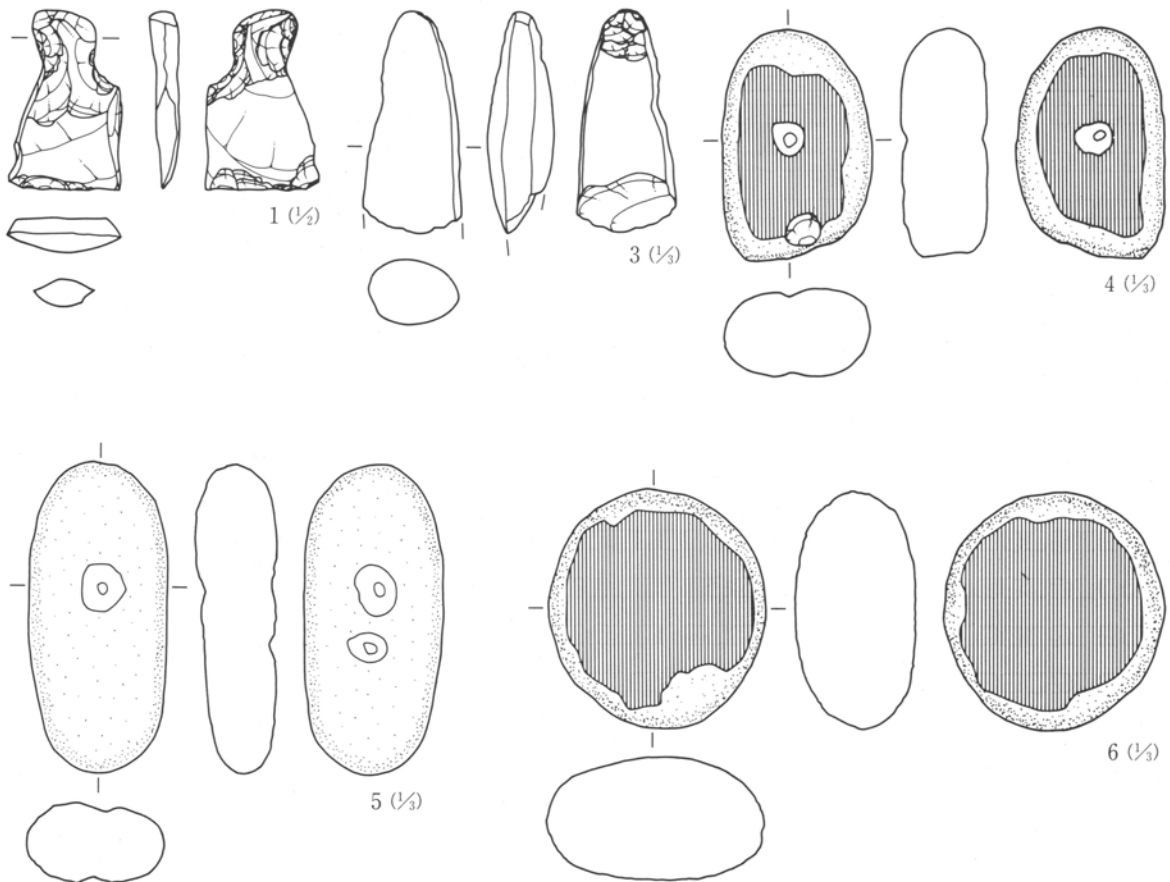
第48図 48号住居跡出土遺物(1)

48号住居跡出土土器 (第48図、PL128・224)

1 は深鉢型土器の口縁部片。口縁部から隆帯が垂下し、頸部にも刻みを持つ横位隆帯。

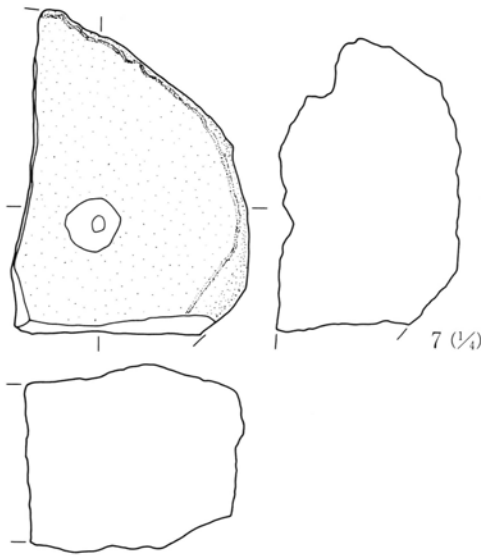
2 は頸部に付された眼鏡状把手部分。

3・4 は胴部片。隆帯文が付される。



第49図 48号住居跡出土遺物(2)

第2章 検出された遺構と遺物



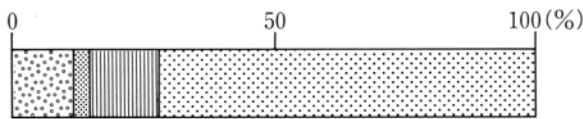
第50図 48号住居跡出土遺物(3)

48号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石匙	床下	1/2	4.7	3.0	0.9	14.0	珪頁	横型。両側欠損。器表面かなり風化。
2	打斧	覆土	1/3	7.3	5.3	1.3	55.3	硬泥	基部破片。形状不明。
3	磨斧	覆土	2/3	8.7	4.0	2.7	126.5	変玄	あまりきちんと整形されず素材の形状残す。刃部欠損。
4	凹石	床直	完形	9.1	5.9	3.4	271.6	砂岩	盤状の円礫。表裏に凹み・研磨面。
5	凹石	床下	完形	12.1	5.5	3.3	287.7	砂岩	盤状の円礫。表裏に凹み。外面かなり磨滅。
6	磨石	床直	完形	9.3	8.8	4.8	493.3	変安	円盤状の円礫。表裏に研磨面。
7	多孔	床下	破片	17.1	12.5	9.9	2450.0	砂岩	表面に凹み。

48号住居跡器種組成表

器種	石匙	打斧	磨斧	二次	凹石	磨石	多孔	剝片
個数	1	1	1	5	2	1	1	3



48号住居跡石材重量組成グラフ

49号住居跡 (第51図、PL 8)

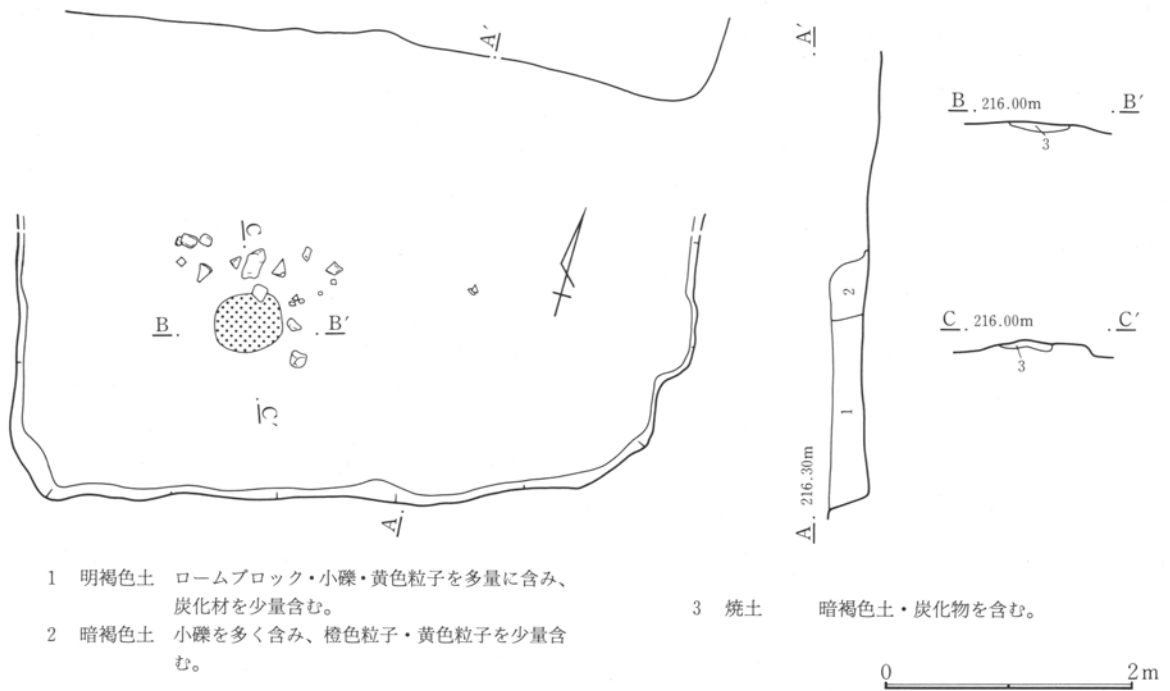
本住居跡は、2号住居跡等によって削られている部分が多い。近くに存在する縄文時代の21号住居跡および22号住居跡と重複していた可能性が考えられるが、住居の重複による新旧関係については確認出来なかった。住居の形態については残存部分から判断すると方形あるいは長方形と考えられる。住居は南壁にたいして東壁が鈍角となっており、また、コーナー部はいずれも丸味をおびている。

床面は、ほぼ平坦で比較的固くしまっている。床面下から掘り方は検出されず、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としてしているとみられる。柱穴は確認されなかった。

炉は直径約50cmの円形で、床面を6cmほど皿状に掘り込んで造られている。炉内には炭化物を含んだ焼土が残されていた。

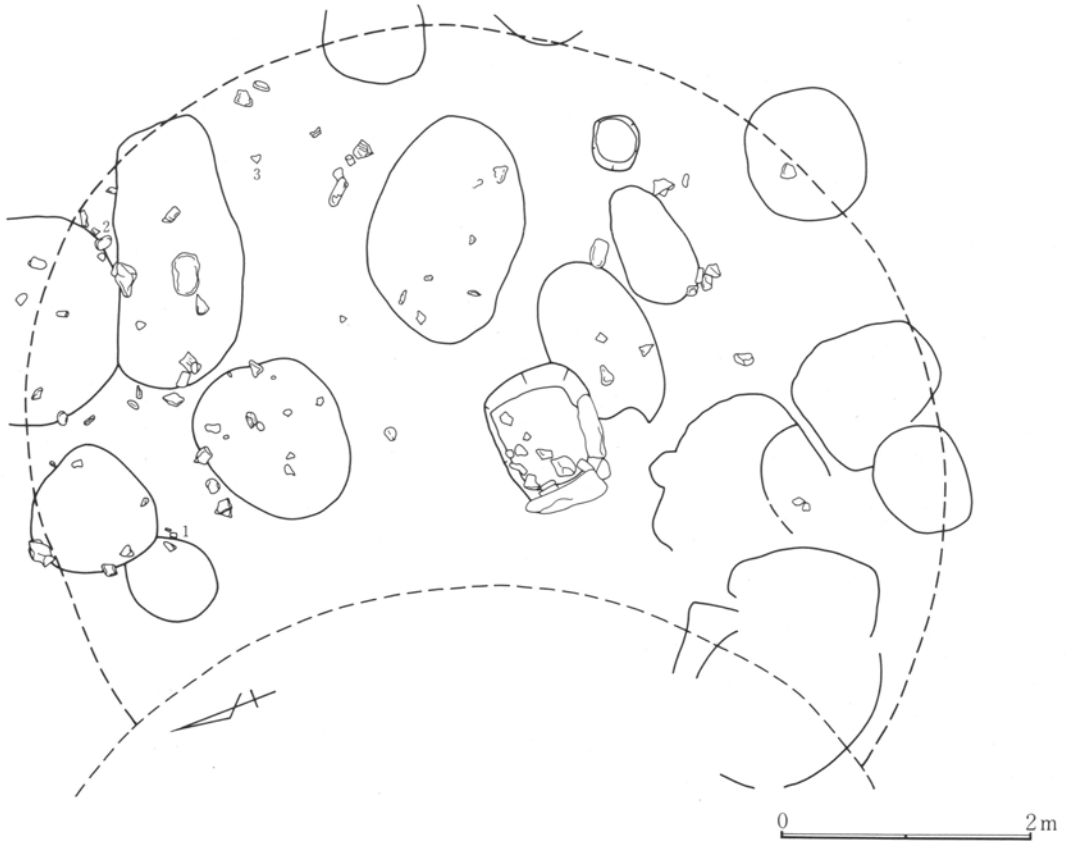
出土遺物は皆無に等しく、図示出来るものは存在しなかった。

第1節 縄文時代の住居跡と出土遺物



第51図 49号住居跡

50号住居跡 (第52~55図、PL 8・128・224)



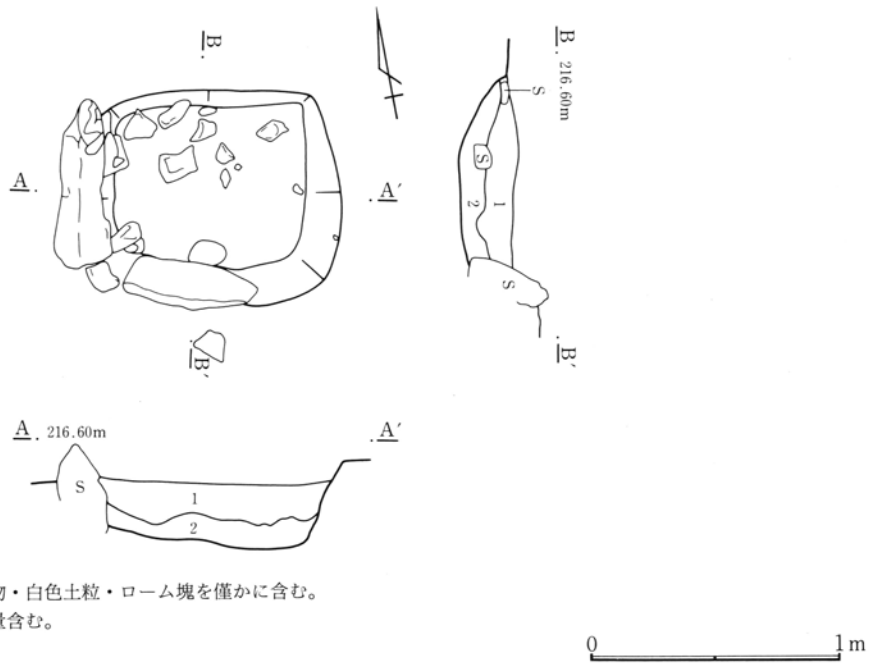
第52図 50号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

50号住居跡は、32号・33号・78号住居跡および多くの土坑と重複している。重複遺構の殆どが縄文時代で埋没土の差異が顕著ではなく、遺構の重複状態から重複遺構との新旧関係を明らかにすることは出来なかった。

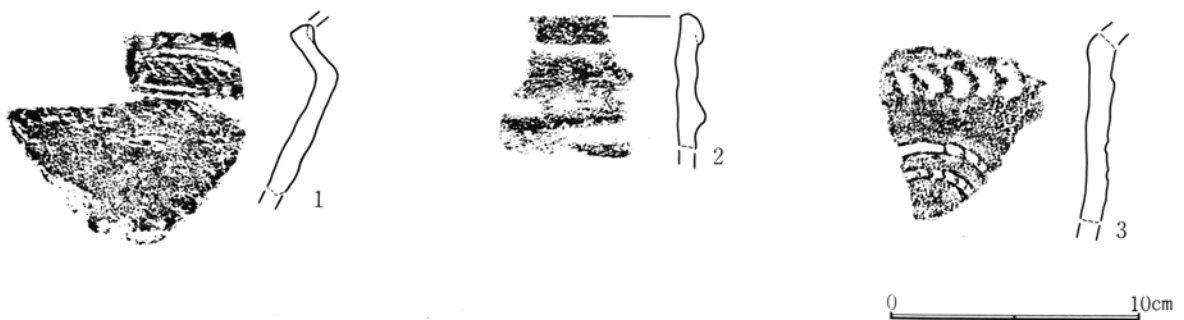
本住居においては、炉跡周辺を除いて床面は確認出来ていない。また柱穴も確認されなかった。炉は床面を方形の皿状に掘り込み、方形に石組みをして造られている。炉内には炭化物が若干みられたものの、焼土は殆ど確認されなかった。

出土遺物として深鉢型土器・磨製石斧・敲石がある。



- 1 黒褐色土 小礫・炭化物・白色土粒・ローム塊を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 炭化物を少量含む。

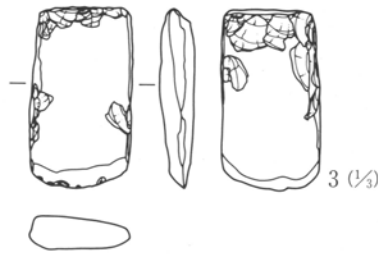
第53図 50号住居跡 炉



第54図 50号住居跡出土遺物(1)

50号住居跡出土土器 (第54図、PL128)

- 1 は口縁部片。「く」の字に折れた口縁部にはペン先状の連続刺突文を巡らす。浅鉢か。
- 2 は口縁部片。口唇部は外側に折り返されて肥厚。口縁部は隆帯に画された無文帯。
- 3 は胴部片。ひだ状文。結節沈線で渦巻文を描く。



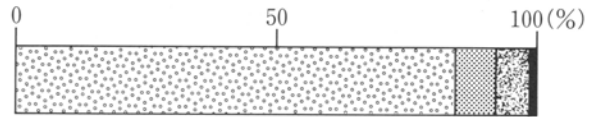
第55図 50号住居跡出土遺物(2)

50号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	覆土	完形	12.6	5.3	2.8	225.3	硬泥	刃部磨耗。II b類。
2	打斧	覆土	完形	12.2	4.7	1.4	87.7	輝凝	II b類。
3	磨斧	覆土	完形	7.1	4.0	1.4	70.8	変玄	刃部は片刃状。かなり薄手。基部に剝離痕残す。
4	敲石	上位	完形	16.7	6.6	5.1	773.5	変安	棒状の円礫。表裏・両端に敲打痕。
5	磨石	覆土	完形	10.0	11.4	5.2	826.0	流紋	円盤状の円礫。表裏に研磨面、両端に敲打痕。

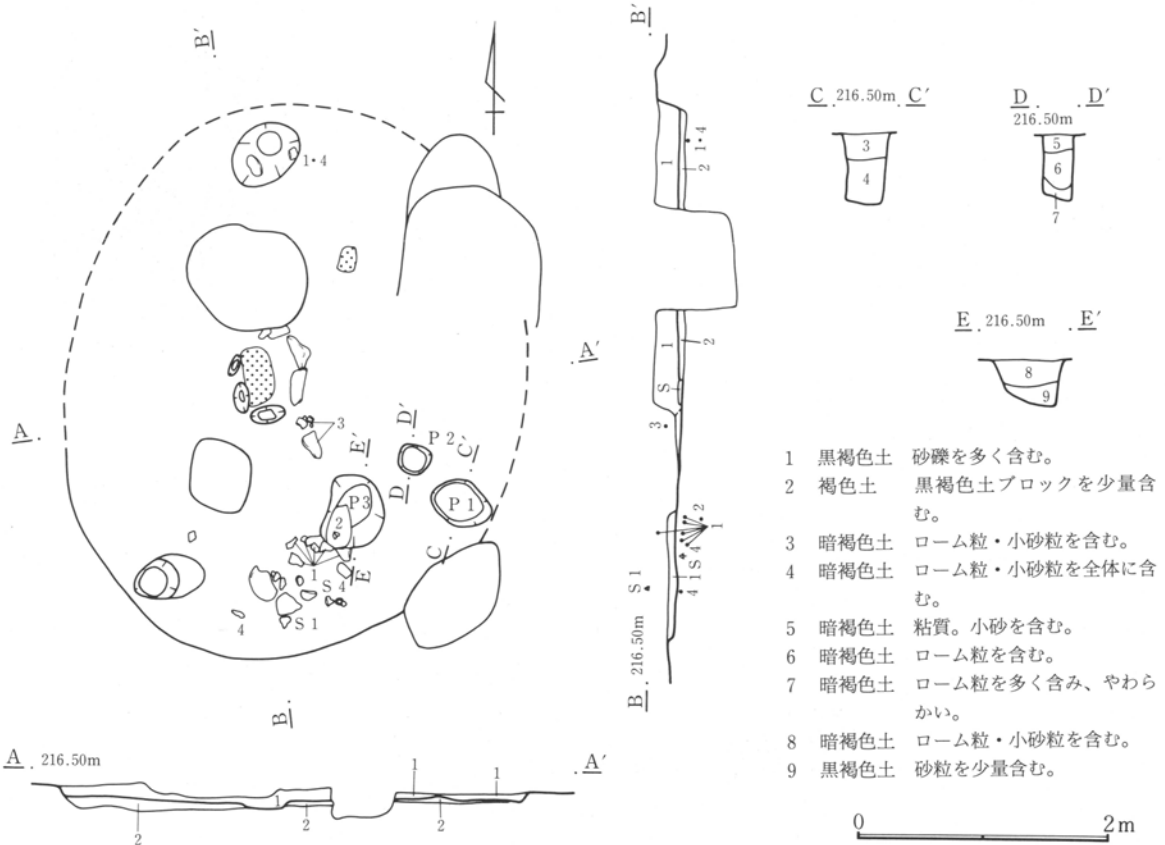
50号住居跡器種組成表

器種	磨斧	打斧	二次	石核	磨石	敲石
個数	1	2	2	1	1	1



50号住居跡石材重量組成グラフ

52号住居跡 (第56~58図、PL 8・128・129・224)



第56図 52号住居跡

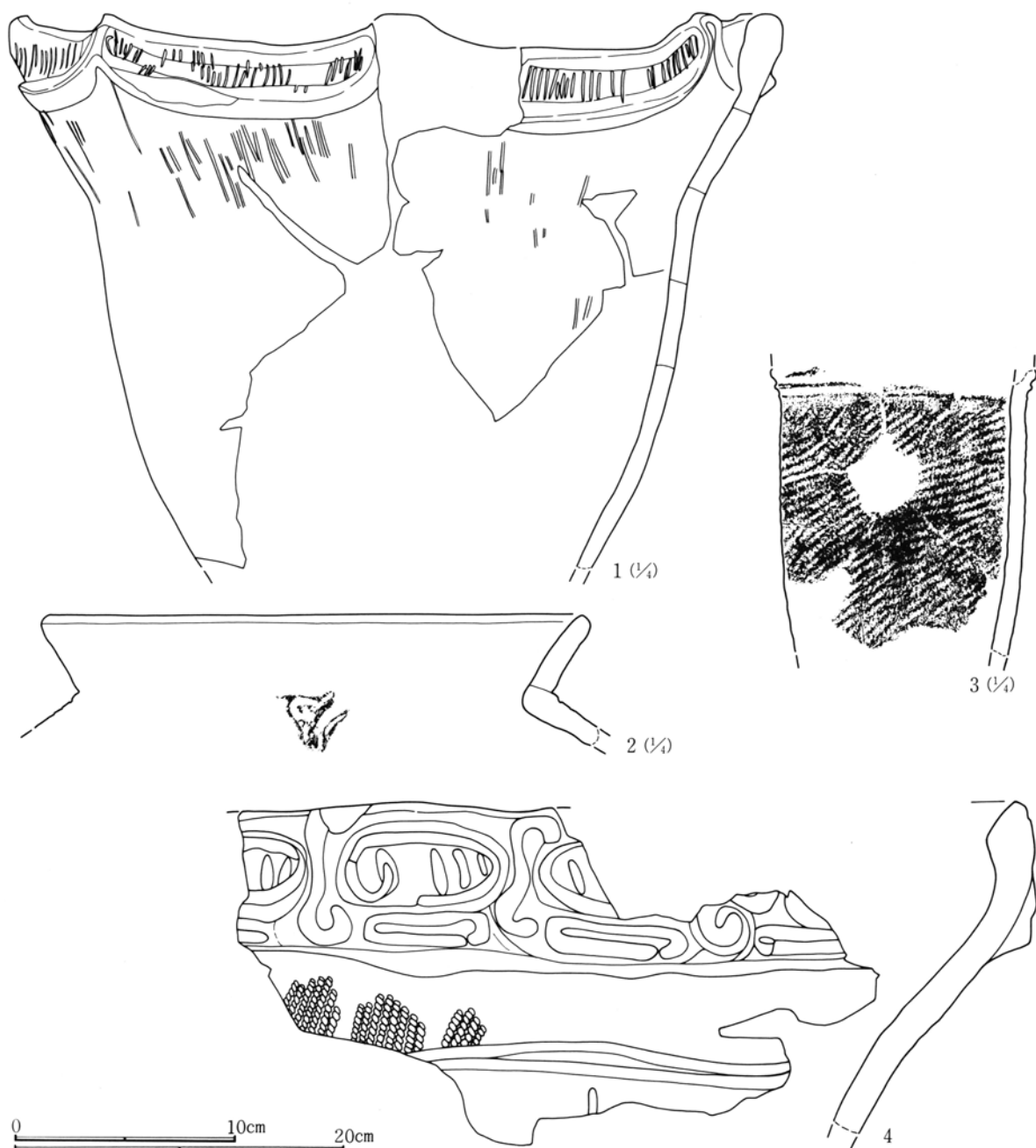
第2章 検出された遺構と遺物

52号住居跡は、14号住居跡によって北西部分を削られている。また東側部分は33号住居跡と重複しているが、両住居跡の埋没土が近似しているため、重複の状況から新旧を明らかにすることは出来なかった。

住居南側部分においては、地山を掘り込んだ面をそのまま床面としているが、中央付近より北側にかけては、褐色土で埋めた面を床面としている。柱穴ははっきりしないが、柱穴とも考えられる Pit が住居南半分に3基確認されている。

炉跡はほぼ中央と考えられる位置に確認された。床面を皿状に掘り込み、方形に石組みをしている。なお、炉中央部には焼土が残されていた。

出土遺物として深鉢型土器片・多孔石・石皿・凹石・砥石がある。土器3は炉跡および周辺から出土している。



第57図 52号住居跡出土遺物 (1)

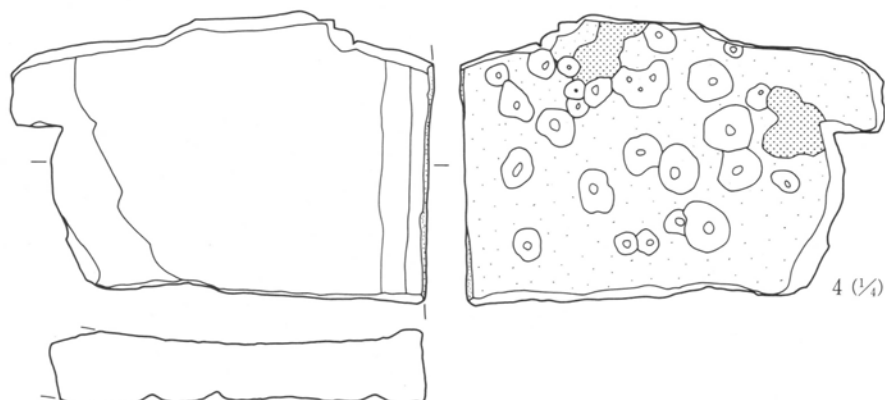
52号住居跡出土土器 (第57・58図、PL128・129)

1は口縁部から胴部。口径(45.0cm)。口縁部は隆帯により、楕円文が構成され、区画内には縦位沈線文が施文される。胴部には縦位条線文がわずかに見られる。

2は「く」の字に折れた口縁部片。口径 (32.0cm)。頸部に隆起文。

3は深鉢型土器胴部。上部には沈線を伴う隆線が廻り、以下縄文が全面施文される。

4は深鉢型土器の口縁部。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、以下縄文が施文されている。頸部には2条の沈線が廻り、縦位沈線が見える。



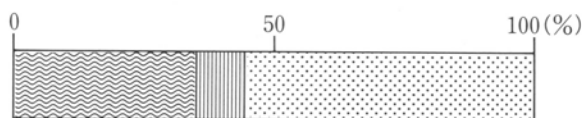
第58図 52号住居跡出土遺物(2)

52号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石棒	上位	破片	11.8	11.8	9.0	1637.6	デイ	未製品。柱状節理にそって割れた角礫。ほとんど未加工。
2	凹石	覆土	完形	11.7	9.8	5.5	867.6	粗安	右側面取り。表面に3、裏面に1個の凹み。表裏に研磨面。
3	石皿	床直	1/3	19.7	13.3	2.7	800.3	砂岩	盤状の亜角礫。裏面使用により平滑。表面に凹み。
4	石皿	床下	1/3	15.5	22.6	4.2	1777.5	砂岩	内面片側に直線状の縁、他方は欠損。裏面に大小の凹み。
5	砥石	覆土	完形	10.2	7.8	1.2	99.9	砂岩	盤状の亜円礫。表裏に使用面。

52号住居跡器種組成表

器種	石棒	凹石	砥石	石皿	剝片
個数	1	1	1	2	12



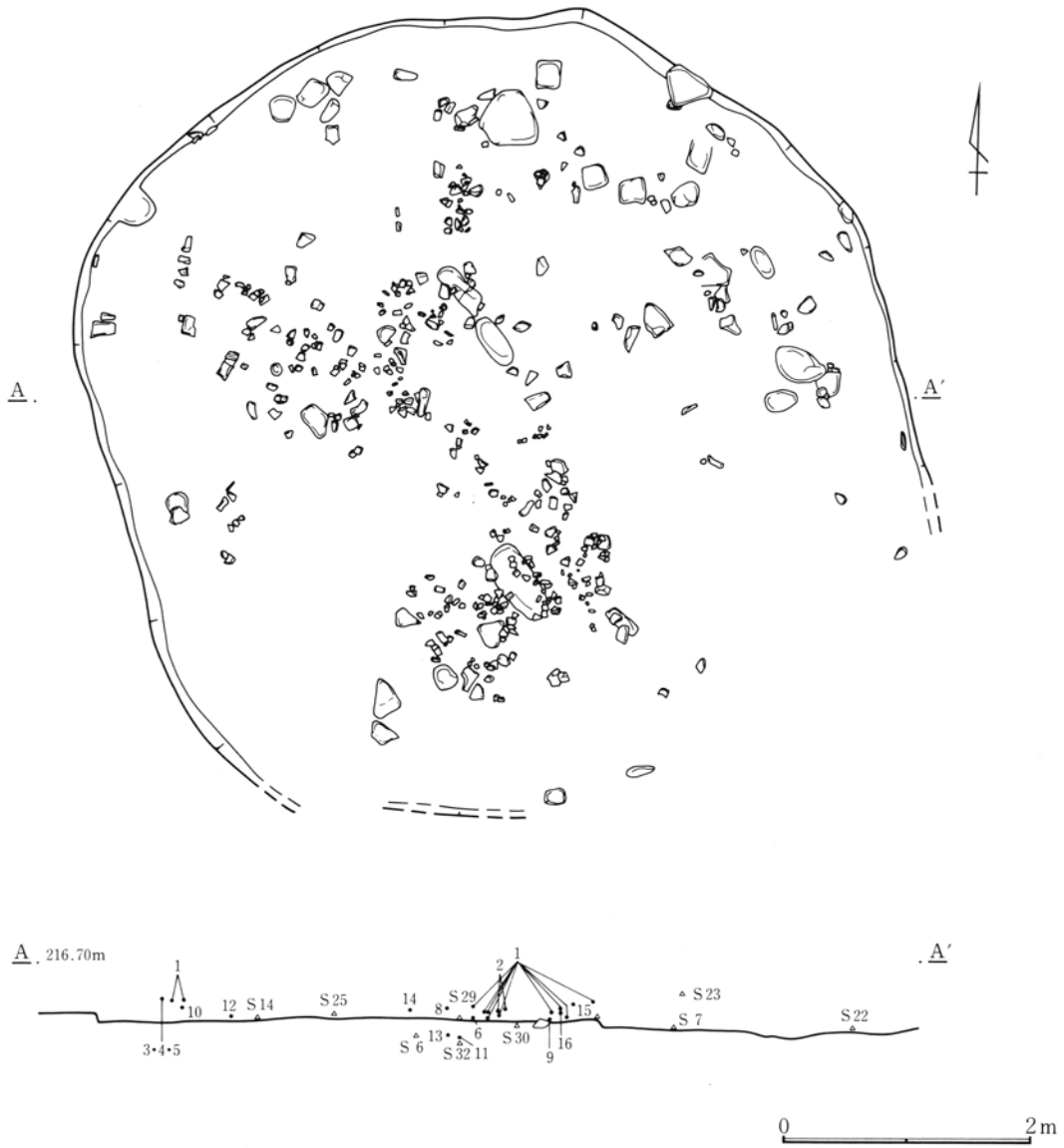
52号住居跡石材重量組成グラフ

65号住居跡 (第59～67図、PL 9・129・130・225～227)

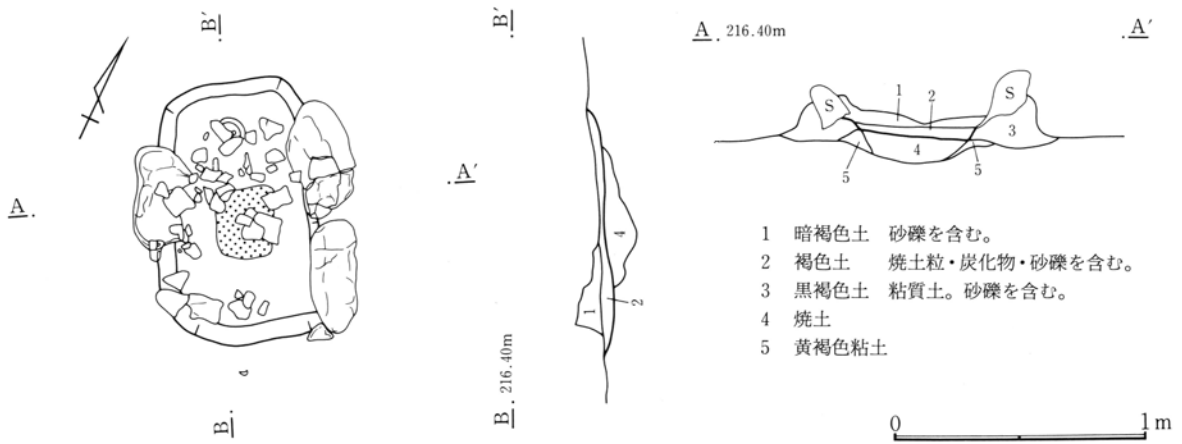
本住居跡は南側の一部を7号住居跡によって削られ、また土坑と重複している。平面形はほぼ円形になるものと考えられる。床面は掘り方をそのまま床面として使用していると考えられるが、はっきりしない。

柱穴とも考えられる Pit は数ヶ所で存在するが、本住居の Pit であるか否かは明確ではない。炉は住居中央やや北寄りに発見されており、長方形の掘り方をもち壁に接して河原石を組んでいる。使用面には若干焼土および炭化物が残されていた。

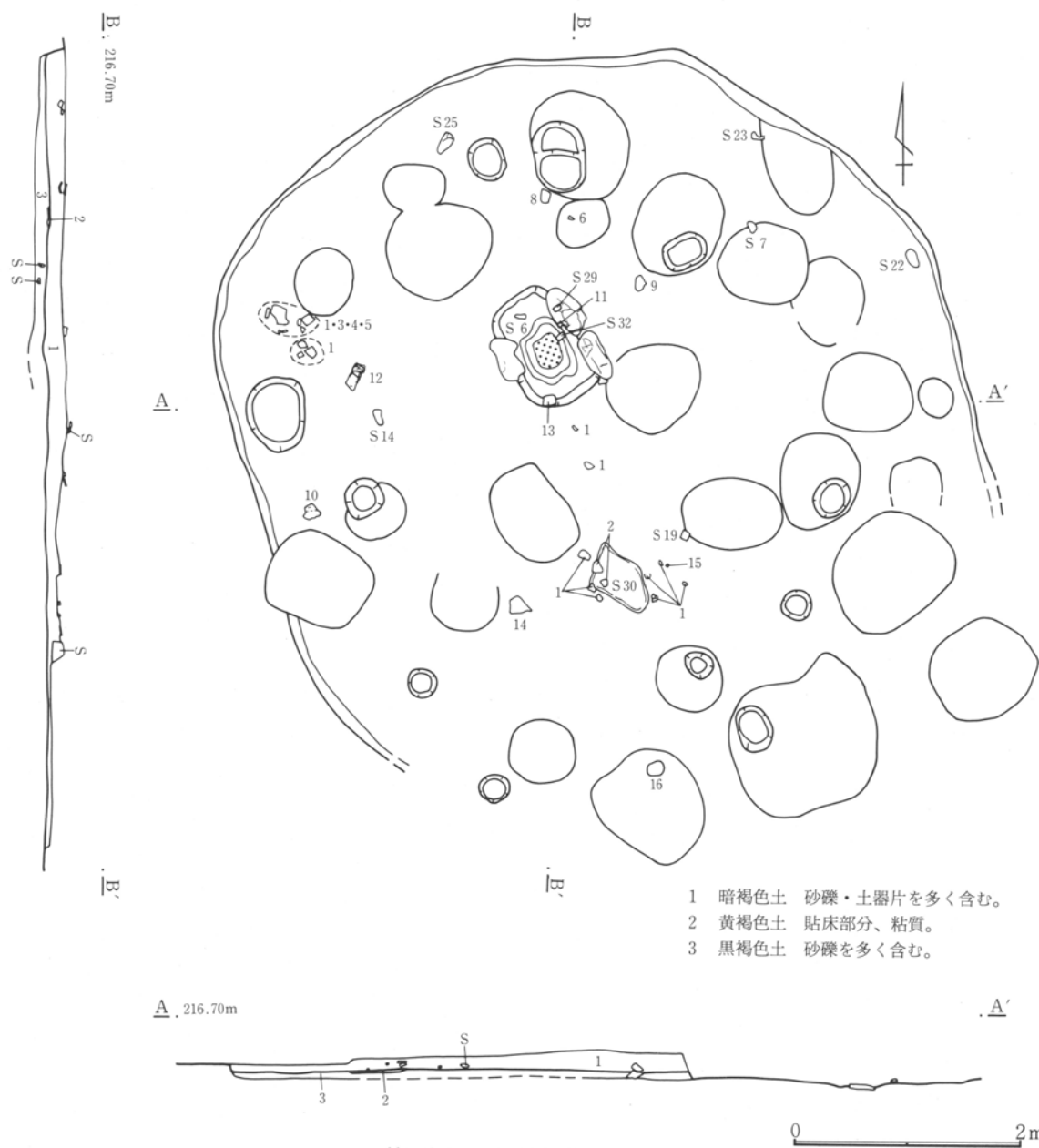
出土遺物として土器と石器があるが、石器に比べて土器の量は少ない。土器としては深鉢の破片のみであるが、炉内に小破片が散乱していた。石器には打製石斧・多孔石・磨石等34点が出土している。



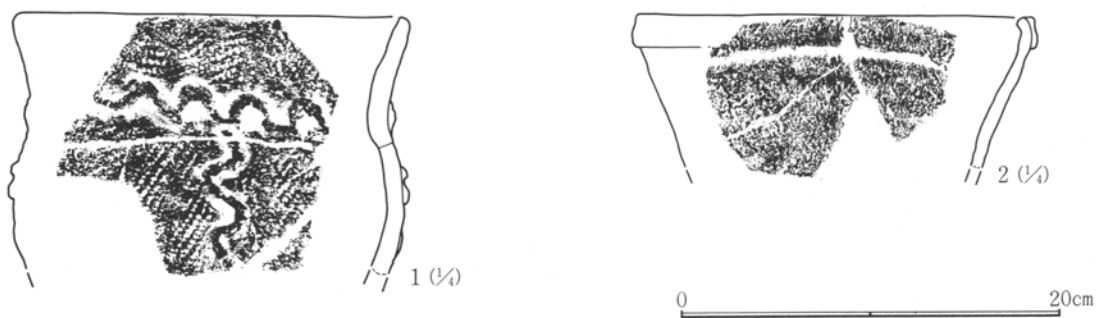
第59図 65号住居跡



第60図 65号住居跡 炉



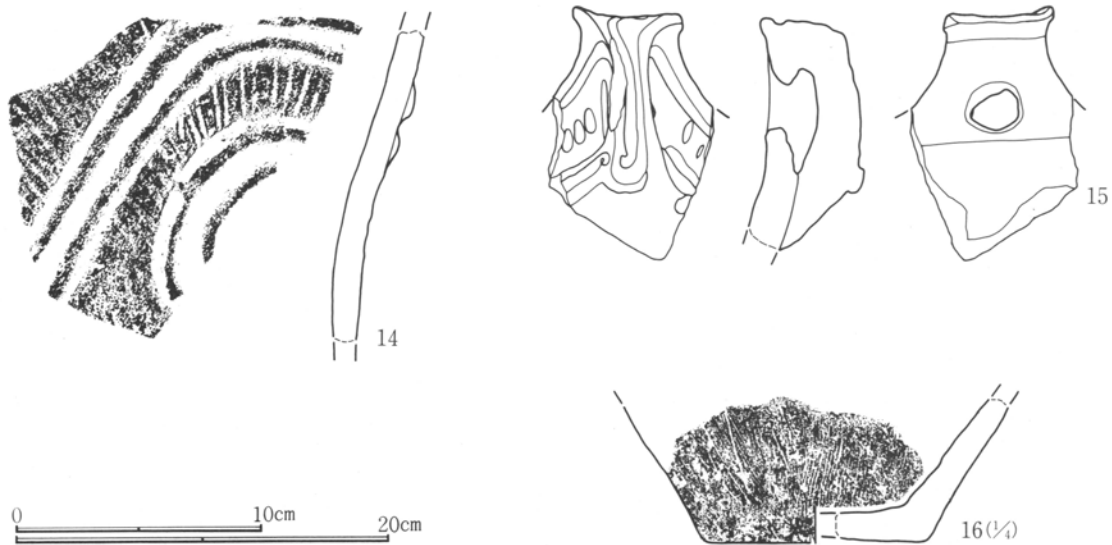
第61図 65号住居跡 掘り方



第62図 65号住居跡出土遺物(1)



第63図 65号住居跡出土遺物(2)

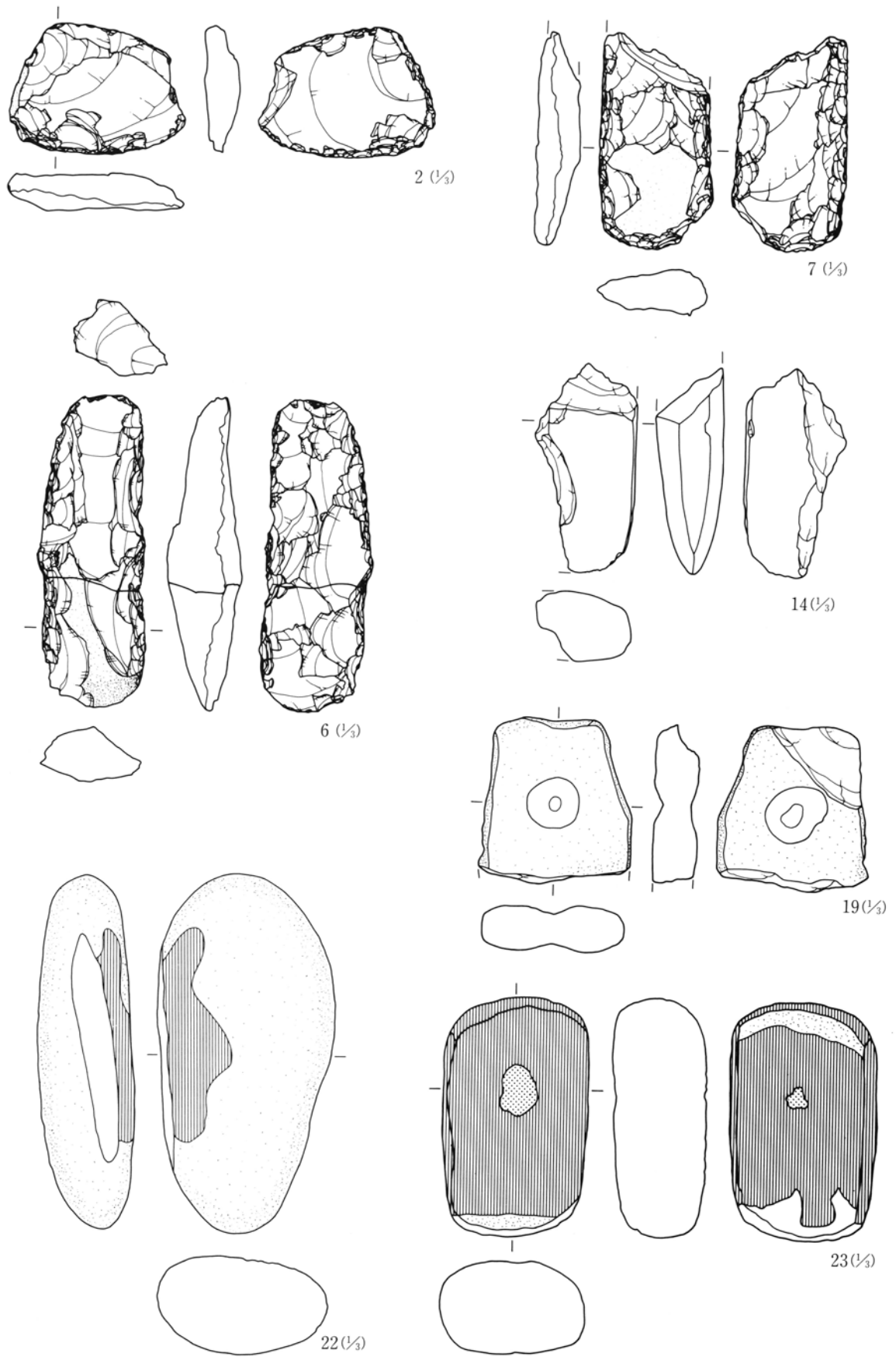


第64図 65号住居跡出土遺物(3)

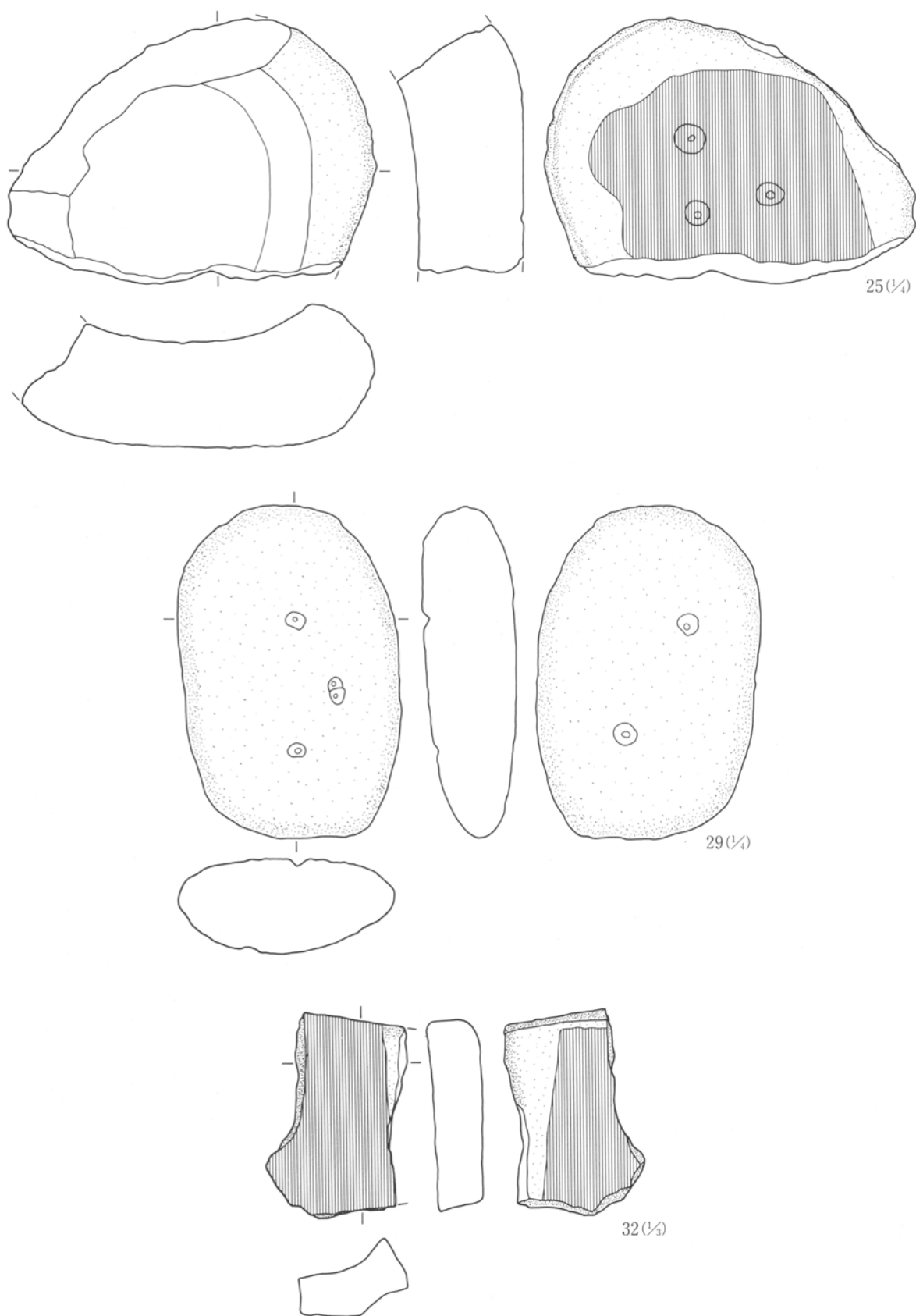
65号住居跡出土土器 (第62~64図、PL129・130)

- 1は口縁部から胴部。口径20.6cm縄文RLが全面に施文され、粘土紐により横位、縦位の波状文が付される。
- 2は口縁部片。口径(20.3cm)、口縁部には粘土帯が廻り、以下無文。
- 3は口縁部片。口唇部内側に肥厚する。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部にはわずかに縦位の条線が見える。
- 4は胴部片。地文に縦位条線施文後、沈線により曲線文様を描く。
- 5は胴部片。上部には隆帯による曲線文、鉤状に垂れた隆線に縦位隆線、沈線に沿って走り、縦位条線文が見られる。
- 6・8は口縁部片。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内には縦位沈線。6は胴部に縦位条線が見られる。
- 7は口縁部内屈し、隆線による口縁部区画文。隆線上には小さい円形の刺突文が付され、内側には連続の爪形文が巡らされる。
- 9は口縁部隆帯による連弧状の区画文。縦位沈線が施文される。
- 10は口縁部片。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。
- 11は無文の口縁部片。円孔が穿けられる。
- 12は口縁部には刺突文を持つ隆帯が廻され、胴部には縦の沈線が付される。
- 13は口縁部片。隆帯による連弧状の区画文。内部には縦位の沈線文、胴部は縦位条線。
- 14は胴部片。条線施文後、隆線による曲線文を描く。
- 15は波頂部片。区画文を構成する左右からの隆線が口縁部に突起し、先端部は扇状を呈す。突起部面には沈線によるS字文。また口縁部には内側から穿けられた穴が見られる。
- 16は底部片。底径(11.5cm)、縦位条線が見られる。

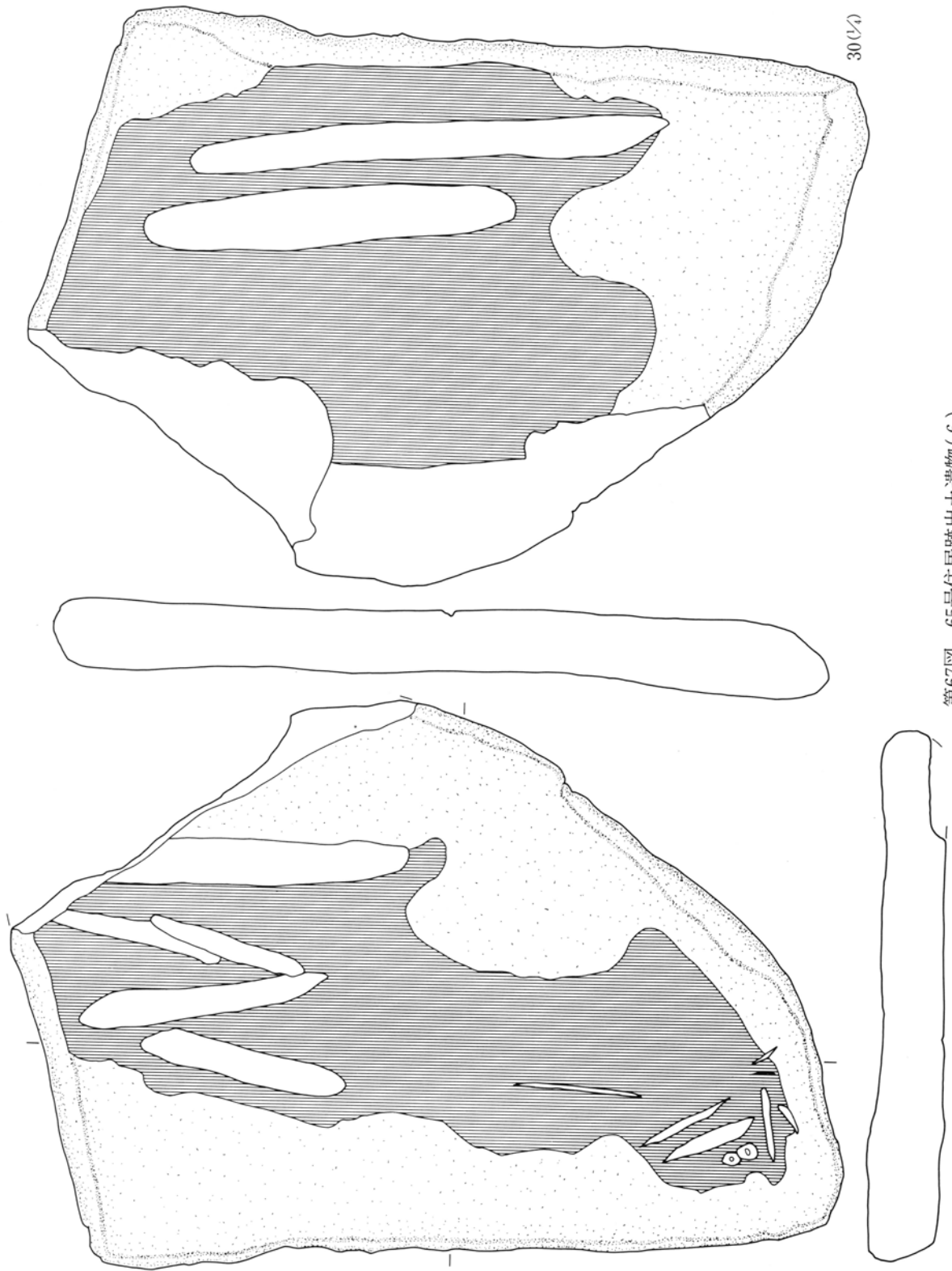
第2章 検出された遺構と遺物



第65図 65号住居跡出土遺物(4)



第66図 65号住居跡出土遺物(5)



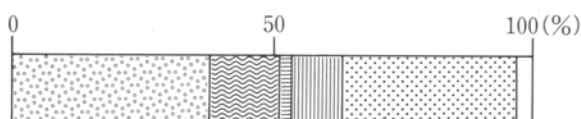
第67図 65号住居跡出土遺物(6)

65号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	2.9	1.8	0.8	3.7	黒曜	剥片の周辺両面に調整。
2	SS	覆土	完形	9.0	6.5	1.9	16.0	硬泥	剥片の周辺に調整。器体下辺のみ両面に調整加え刃部形成。
3	打斧	床直	2/3	10.4	5.3	1.5	87.0	硬泥	刃部欠損。II a類。
4	打斧	覆土	完形	10.5	4.2	1.1	69.9	緑片	II b類。
5	打斧	覆土	一部欠	8.6	4.3	1.1	50.3	珪頁	刃部磨耗を切って再調整。基部一部欠損。II b類。
6	打斧	床下	完形	15.9	5.6	3.8	294.0	硬泥	III類。
7	打斧	床直	2/3	10.9	5.8	2.3	167.8	粗安	基部欠損。III類。
8	打斧	床直	2/3	9.8	5.2	2.5	171.2	緑片	基部欠損。III類。
9	打斧	覆土	完形	9.8	3.8	1.3	58.2	珪頁	III類。
10	打斧	覆土	ほぼ完	8.7	4.2	1.4	58.9	硬泥	刃部磨耗。刃部左側わずかに欠損。II b類。
11	打斧	覆土	1/2	7.0	4.6	2.0	69.4	硬泥	基部欠損。III類。
12	打斧	覆土	完形	7.1	4.6	1.8	48.5	硬泥	幅に比して長さ短い。再調整の結果か。II b類。
13	打斧	覆土	1/3	7.8	5.0	2.6	89.1	硬泥	基部破片。II b類。
14	磨斧	床直	破片	10.6	5.2	3.5	240.9	変玄	刃部破片。
15	石核	下位	完形	10.5	14.3	4.2	646.6	硬泥	剥片の先端背面側で小型の剥片剥離。
16	石核	覆土	完形	10.9	10.3	3.0	391.3	硬泥	盤状の石核両面で周辺から剥片剥離。
17	石核	床下	完形	12.0	11.7	3.8	418.0	粗安	剥片の一侧背面側で剥片剥離。
18	石核	下位	完形	4.9	5.5	3.1	86.2	硬泥	小型の剥片の一端で少数の剥片剥離。
19	凹石	床直	完形	8.3	7.8	2.4	194.3	砂岩	円盤状の角礫素材。表裏に凹み。
20	敲石	床直	完形	14.5	7.4	4.3	682.8	粗安	盤状の円礫。両端に敲打痕。
21	敲石	床下	2/3	15.3	8.0	5.5	762.4	デイ	両側面取り。両端に敲打痕。
22	磨石	床直	完形	18.3	9.1	4.9	1034.4	デイ	盤状の円礫。左側を面取り。表面左端に研磨面。
23	磨石	中位	完形	12.1	7.5	4.9	753.2	石閃	両側・両端面取りし直方体状。表裏に研磨・敲打、両側・上面弱い研磨。
24	磨石	床下	完形	8.5	7.7	2.3	218.5	石閃	円盤状の円礫。両面に研磨、全周に敲打・敲打による剥離痕。
25	石皿	床直	1/2	18.0	25.1	9.7	5600.0	粗安	石皿破片。内面強い研磨。裏面に研磨面と凹み3個。
26	石皿	床直	破片	17.1	7.3	3.0	387.6	緑片	内面使用により平滑。
27	台石	下位	1/2	25.2	13.1	8.2	4100.0	変安	盤状の円礫。表裏に磨耗。
28	多孔	床直	完形	20.5	22.0	6.0	3450.0	デイ	円盤状の円礫。表面に3個、裏面に1個の凹み。
29	多孔	床直	完形	22.7	15.2	6.5	3050.0	変安	盤状の円礫。表裏に凹み。
30	砥石	床下	一部欠	54.7	37.3	5.5	11.3kg	砂岩	盤状の角礫素材。表裏に使用面・浅い溝状のへこみあり。
31	砥石	床下	1/2	15.0	22.5	4.5	1500.0	砂岩	盤状の亜円礫。表面に使用面。
32	砥石	床下	破片	10.4	7.1	3.9	217.5	砂岩	盤状の角礫素材。表裏に研磨面。

65号住居跡器種組成表

器種	楔	SS	打斧	磨斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	磨石	石皿	多孔	砥石	台石	剥片
個数	1	1	11	1	7	1	6	1	1	2	3	2	2	3	1	48



65号住居跡石材重量組成グラフ

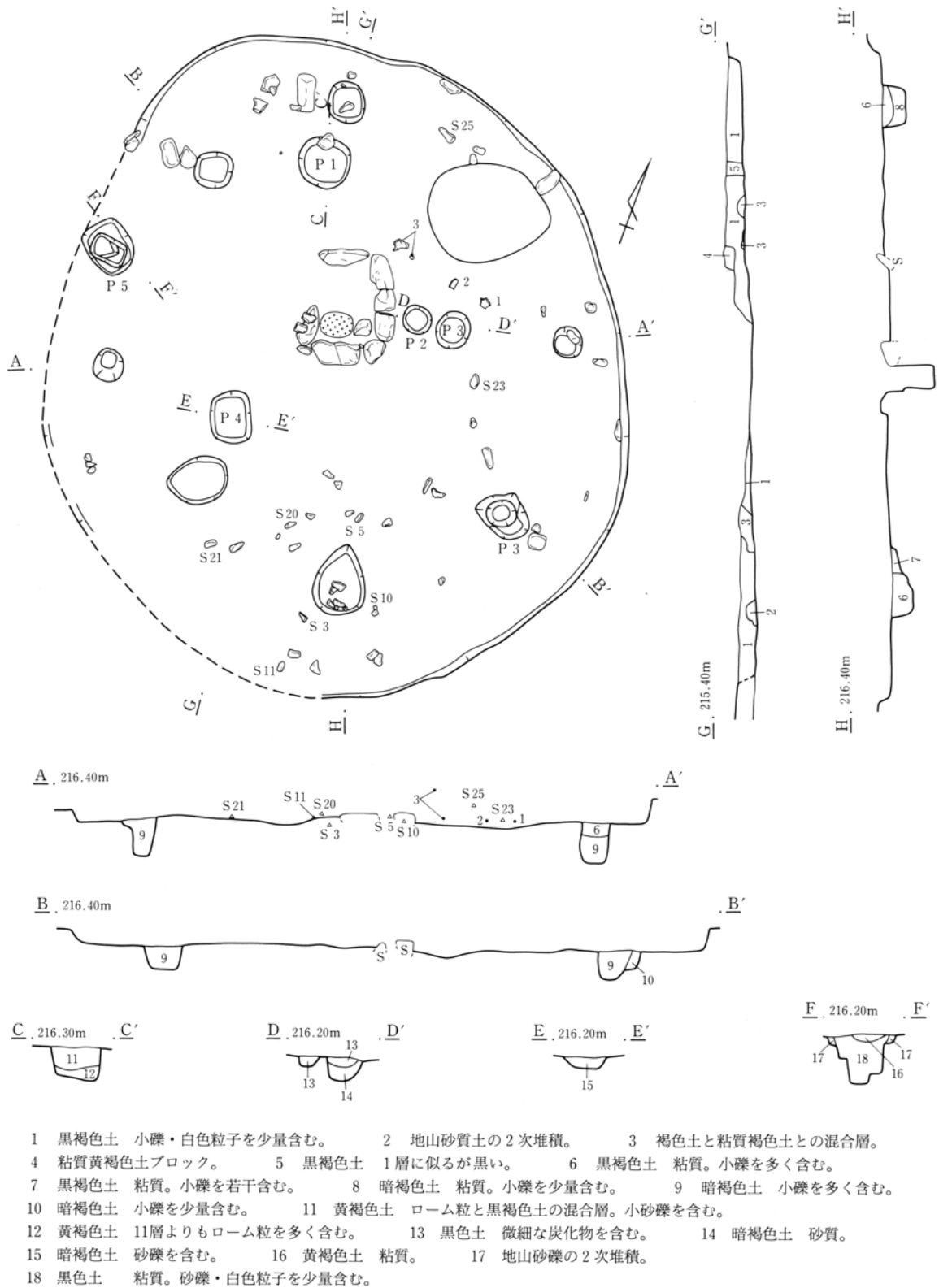
68号住居跡 (第68~73図、PL 9・130・227・228)

住居は西側を23号住居跡・36号住居跡によって壁および床面の一部を削られている。平面形はほぼ円形を呈する。床面は若干凹凸はあるものの、ほぼ平坦である。住居内から多くの Pit が検出された。これらの Pit には柱穴となるもののほか、本住居に属さないものも含まれている可能性があるが、個々の Pit についてその性格ははっきりしない。

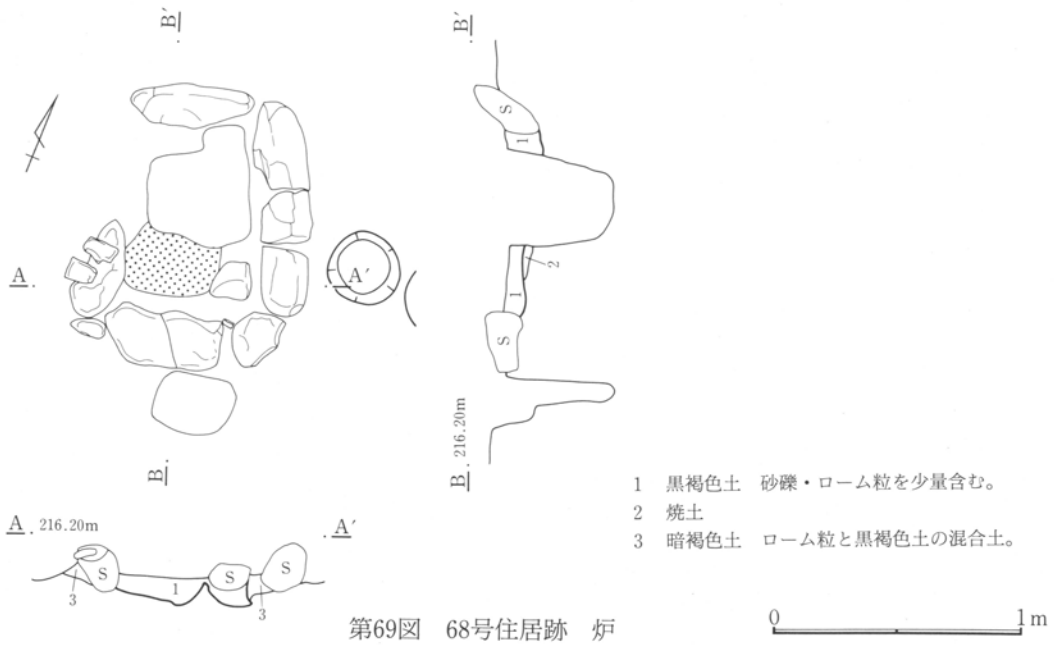
掘り方は検出されず、掘り方面が床面であったと考えられる。炉は住居中央やや北寄りに発見された。炉は長方形の石組炉で、長方形に床面を掘り内側に河原石を置いて造られている。なお使用面には焼土が残されていた。

第2章 検出された遺構と遺物

出土遺物としては、少量の深鉢型土器片と石器がやや多く出土している。出土位置は床面付近が多いものの25cmほど床面より浮いた遺物も少なくない。

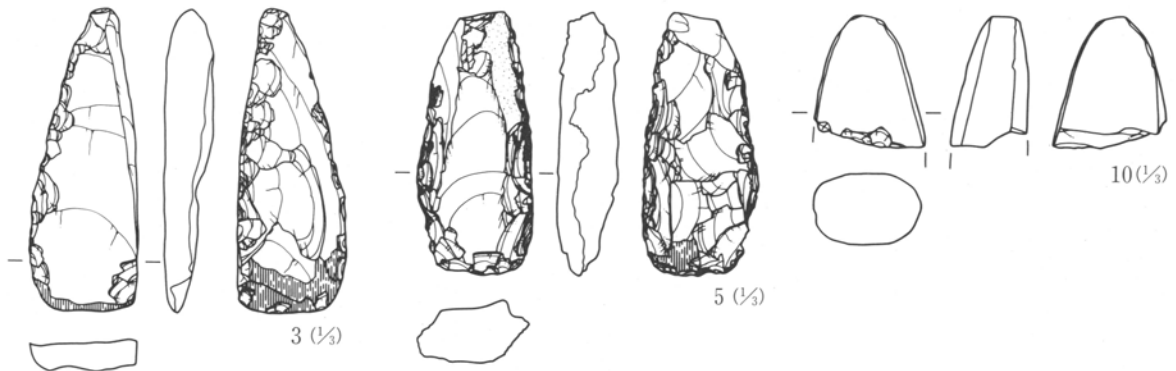


第68図 68号住居跡

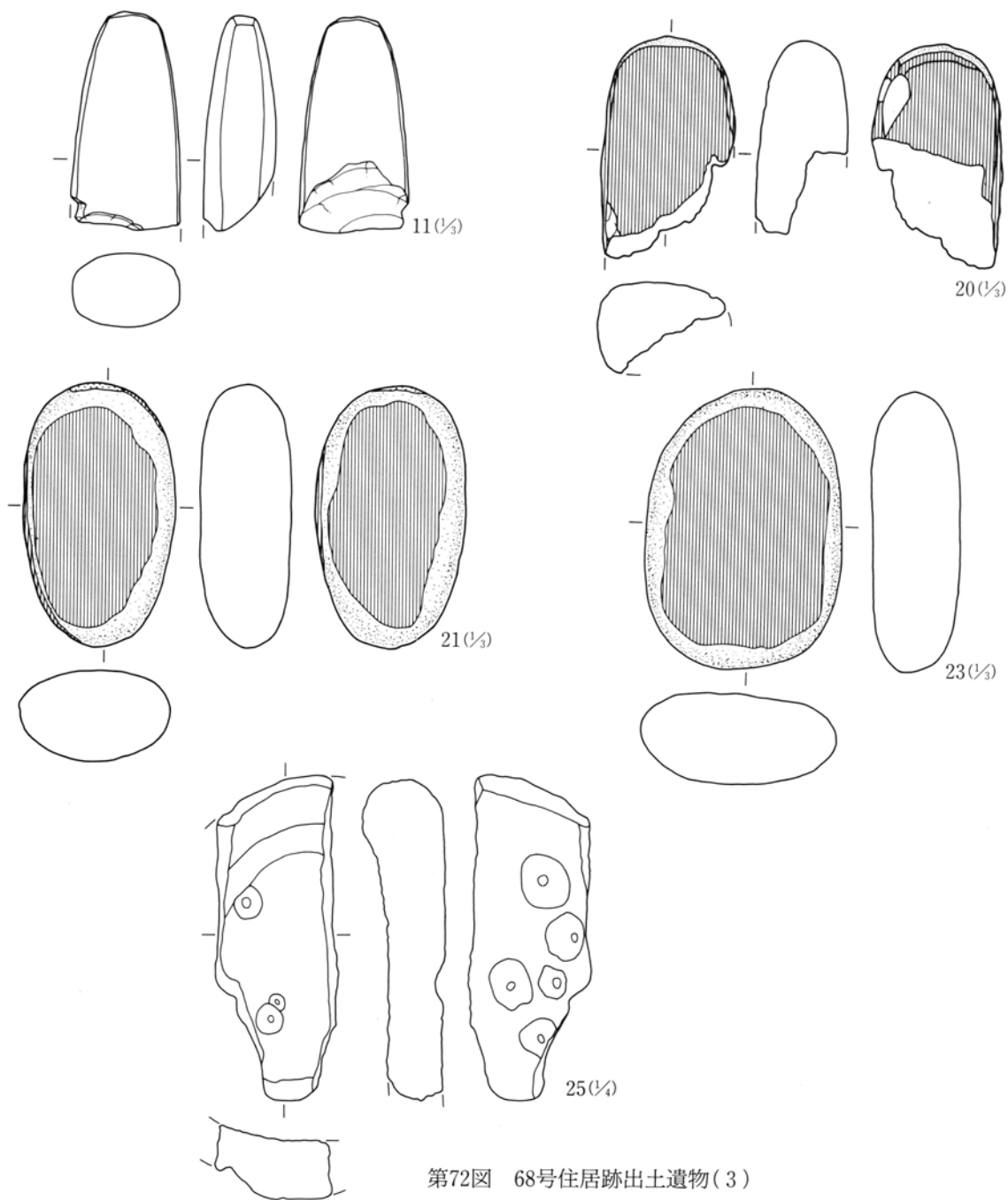


68号住居跡出土土器 (第70図、PL130)

1・2は口縁部片。隆帯により楕円文が構成され、区画内には縦位沈線文、胴部には縦位条線。
 3は底部片。底径9.6cm。縄文LRが縦位施文される。やや上げ底状を呈す。



第2章 検出された遺構と遺物



第72図 68号住居跡出土遺物(3)

68号住居跡出土石器観察表

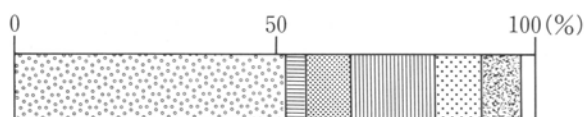
No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	一部欠	1.7	1.5	0.3	0.7	黒曜	凹基無茎鏃。右脚欠損。
2	打斧	覆土	破片	6.7	2.7	1.3	37.1	変輝	刃部破片。形状不明。
3	打斧	床直	完形	11.9	4.3	2.0	106.1	硬泥	刃部磨耗。II b類。
4	打斧	覆土	完形	11.3	4.8	2.1	121.6	硬泥	II b類。
5	打斧	下位	完形	10.3	4.7	2.5	137.2	硬泥	刃部磨耗。II b類。
6	打斧	下位	一部欠	11.1	4.3	2.1	116.8	硬泥	刃部欠損。II b類。
7	打斧	覆土	完形	11.5	5.2	1.9	127.6	硬泥	刃部磨耗。III類。
8	打斧	覆土	ほぼ完	8.7	5.7	1.7	119.5	細安	刃部磨耗。基部も一部磨耗。III類。
9	打斧	床直	破片	5.8	6.2	2.8	114.4	粗安	刃部破片。形状不明。

第1節 縄文時代の住居跡と出土遺物

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
10	磨斧	下位	破片	5.2	4.5	3.0	96.2	変玄	基部破片。
11	磨斧	下位	2/3	9.6	5.0	3.3	275.3	変玄	刃部欠損。
12	磨斧	床直	1/2	8.2	5.8	3.7	285.3	変玄	未製品の基部破片。敲打による整形途中。
13	磨斧	下位	1/2	10.0	8.7	3.6	514.1	変玄	未製品の刃部破片。剝離・敲打による整形途中。
14	石核	下位	完形	7.9	8.3	2.4	164.2	硬泥	盤状石核の両面で周辺から剝片剝離。
15	石核	中位	完形	7.1	11.2	3.3	251.9	硬泥	剝片の腹側で少数の剝片剝離。
16	敲石	床下	完形	17.2	6.9	4.6	815.9	粗安	盤状の亜円礫。両端に敲打・敲打による剝離痕。
17	敲石	覆土	1/2	6.4	5.3	3.2	174.9	粗安	盤状の円礫。表裏・上端に敲打痕。下半欠損。
18	磨石	覆土	一部欠	13.9	8.8	6.3	1083.6	粗安	盤状の円礫。両側面取り。表裏に研磨、上端に敲打痕。
19	磨石	床直	完形	8.3	6.7	5.1	398.1	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
20	磨石	下位	1/2	9.8	5.9	4.0	257.5	粗安	両側面取り。表裏に研磨面。上端に敲打痕。下半欠損。
21	磨石	下位	完形	11.7	6.8	4.1	508.3	閃緑	盤状の円礫。表裏・両側に研磨面。上端に敲打痕。
22	磨石	下位	一部欠	12.5	6.2	2.7	259.0	デイ	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
23	磨石	床直	完形	12.5	8.8	4.1	728.0	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
24	砥石	中位	破片	8.9	13.9	3.1	465.3	砂岩	盤状の亜角礫。表裏に使用面。
25	石皿	下位	破片	19.4	7.4	5.0	1051.8	緑片	石皿の破片。皿部内面および裏面に凹みあり。
26	多孔	中位	ほぼ完	29.0	14.0	7.0	3400.0	粗安	盤状の円礫。表裏に凹み。
27	多孔	中位	1/2	13.4	11.2	2.6	481.0	砂岩	盤状の亜円礫。表面に凹み。裏面に敲打痕。
28	砥石	中位	破片	8.0	11.8	2.7	297.9	砂岩	盤状の亜角礫。表裏に弱い使用面。

68号住居跡器種組成表

器種	石鏃	打斧	磨斧	二次	微細	石核	敲石	磨石	石皿	多孔	砥石	剝片
個数	1	8	4	5	2	4	2	6	1	2	2	17



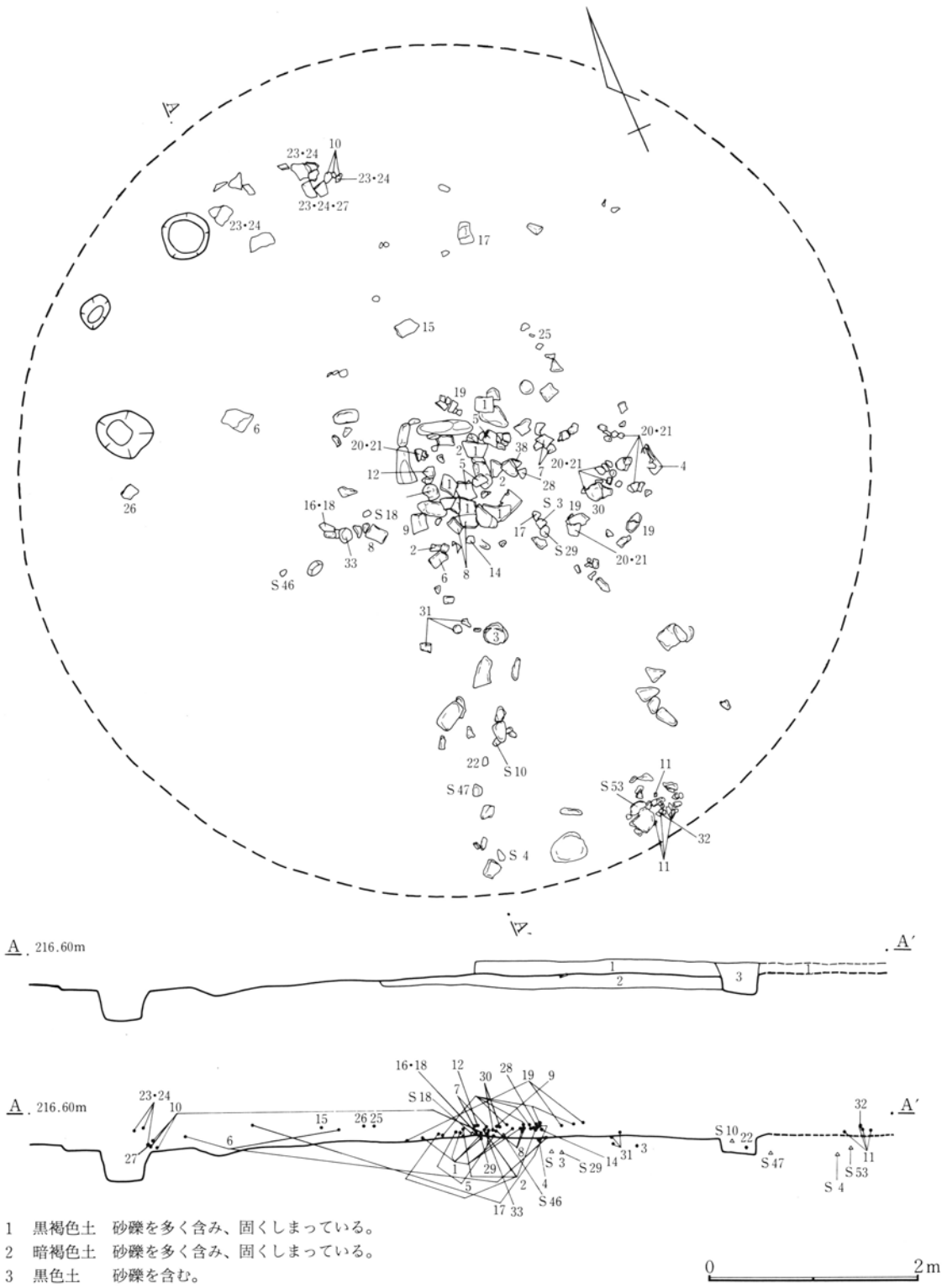
70号住居跡 (第73~81図、PL 9・10・130~133・228~230)

本住居跡は36号住居跡によって東側部分を削られ、縄文時代の78号住居跡と重複しているとみられる。住居の壁および床面は、調査の過程において殆ど確認出来なかった。なお、住居の推定範囲図は、調査の過程で作成した遺物分布図と、僅かに確認出来た床面より作成したものである。

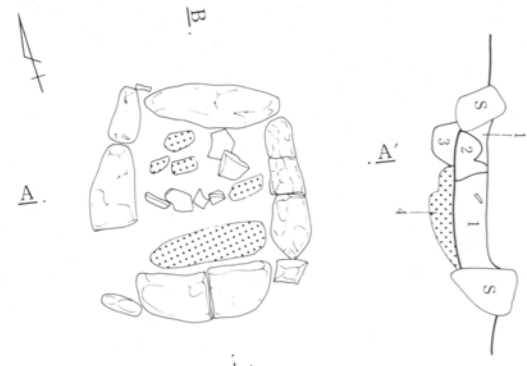
柱穴については、住居の推定範囲内に3基のPitが存在しており、比較的大きなPit 2基については、いずれも直径約40cm、深さ約35cmで柱穴の可能性が考えられなくもない。住居の他の部分における柱穴の可能性のあるPitについては、床下に多くの土坑が存在しているため、検出は困難であった。掘り方については、炉周辺で確認されており、床面から約6cm、凹凸はあまりない。

炉は河原石による石組炉である。炉は長辺1m、短辺90cm、深さ30cmの隅丸方形の掘り込みをもち、この内側で河原石を方形に組んでいる。炉跡には、炉掘り方面直上に焼土が認められ、この焼土は炉跡内全域にわたっている。なお焼土の厚さは約9cmであるが、焼土の上面は床面より約15cm下方であり、床面レベルから焼土上面までの間においては、焼土は殆ど含まれていない。

出土遺物は多い。土器については、浅鉢型土器および深鉢型土器がある。深鉢1は、炉跡内およびその周辺からの出土である。石器には台石・凹石・砥石・磨石・打製石斧・磨製石斧・石核等がある。これらの遺物は、床面直上あるいは床面より約10cm上方から出土している。

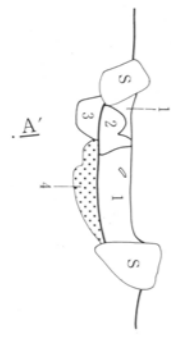


第73図 70号住居跡



A, 216.70m

B, 216.70m



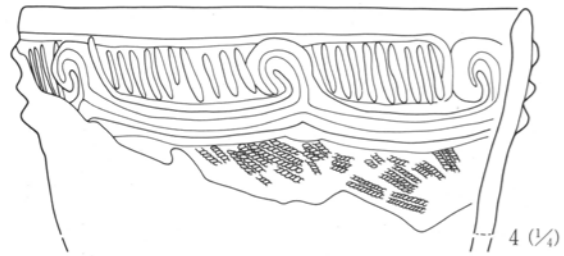
A'

B'

- 1 暗褐色土 炭化粒子・焼土粒子・ローム粒子を僅かに含む。
- 2 暗黄褐色土 褐色土ブロックを僅かに含む。
- 3 暗褐色土 砂質。砂礫・焼土粒を含む。
- 4 焼土

0 1m

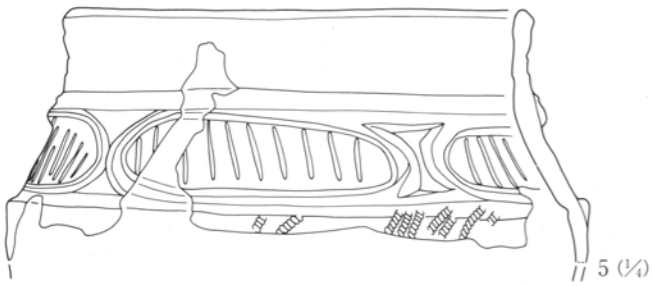
第74図 70号住居跡 炉



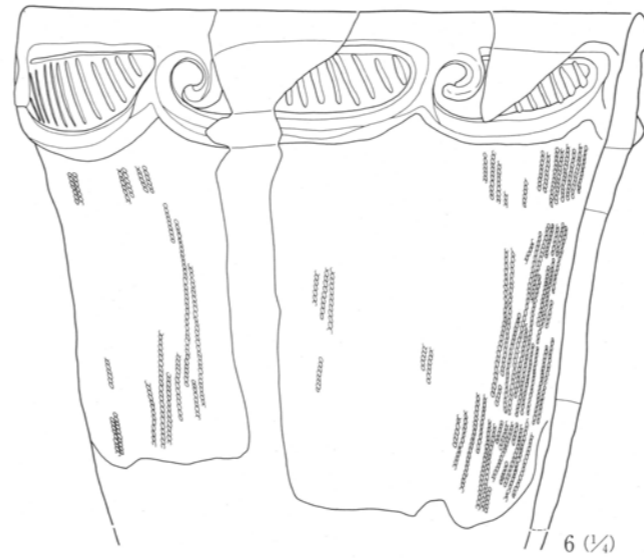
4/10



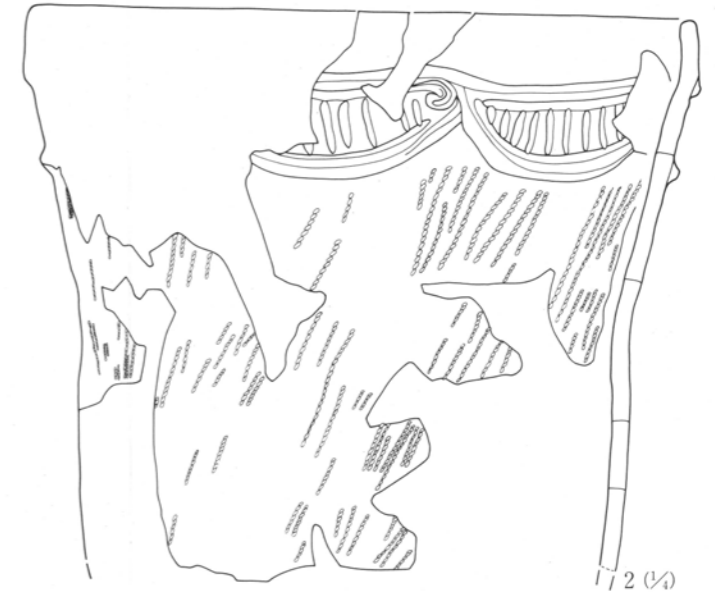
7/10



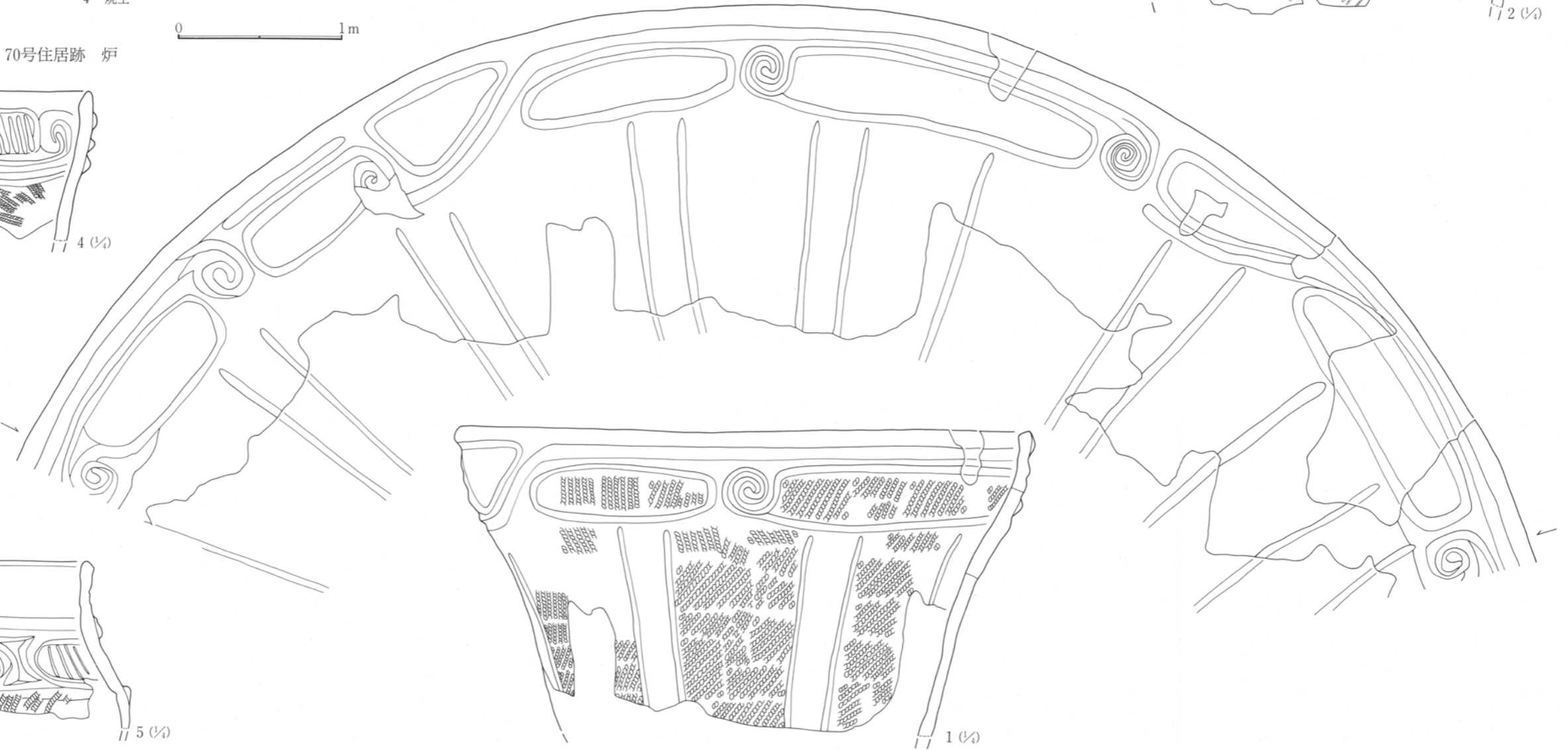
5/10



6/10



2/10



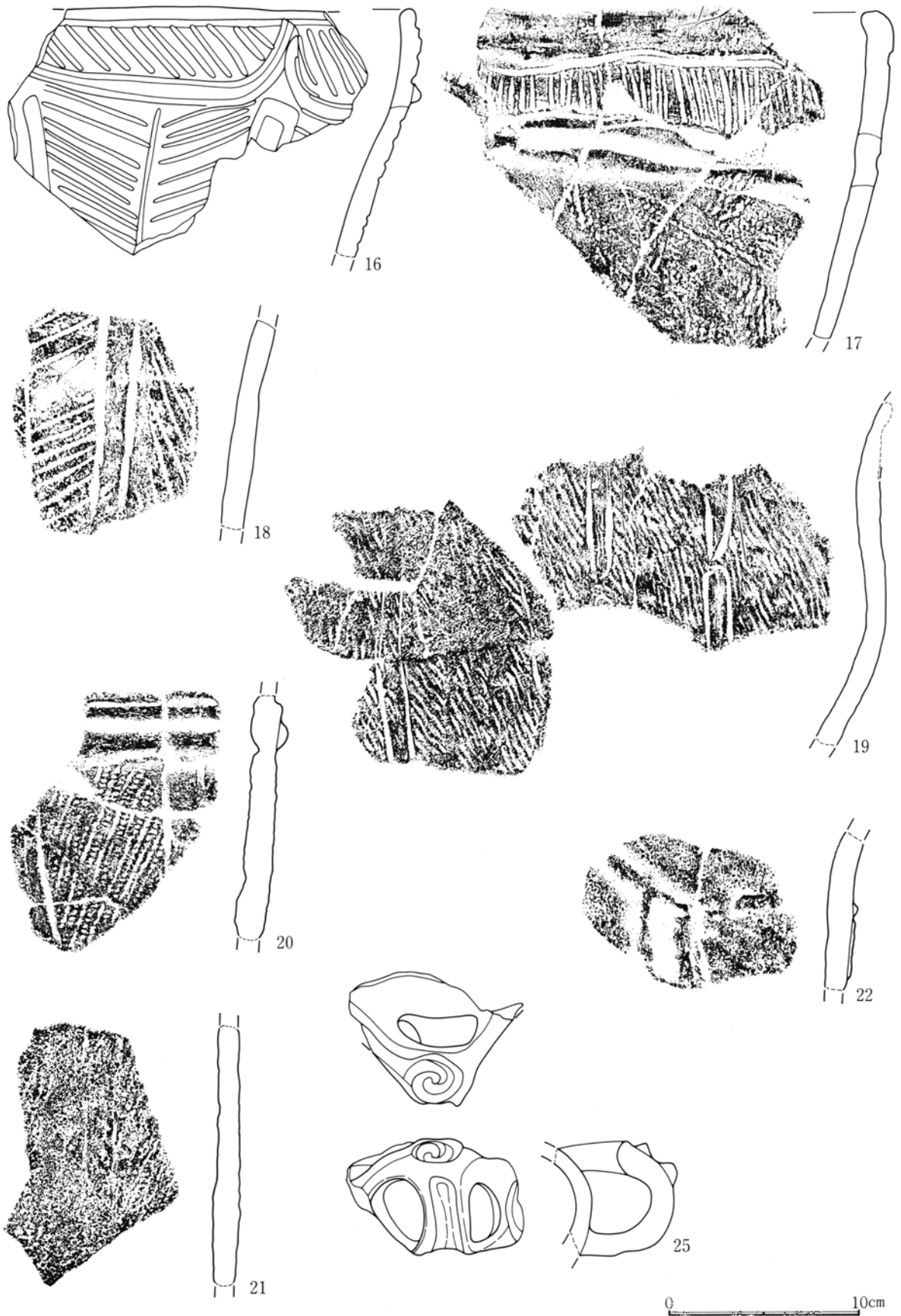
1/10

0 20cm

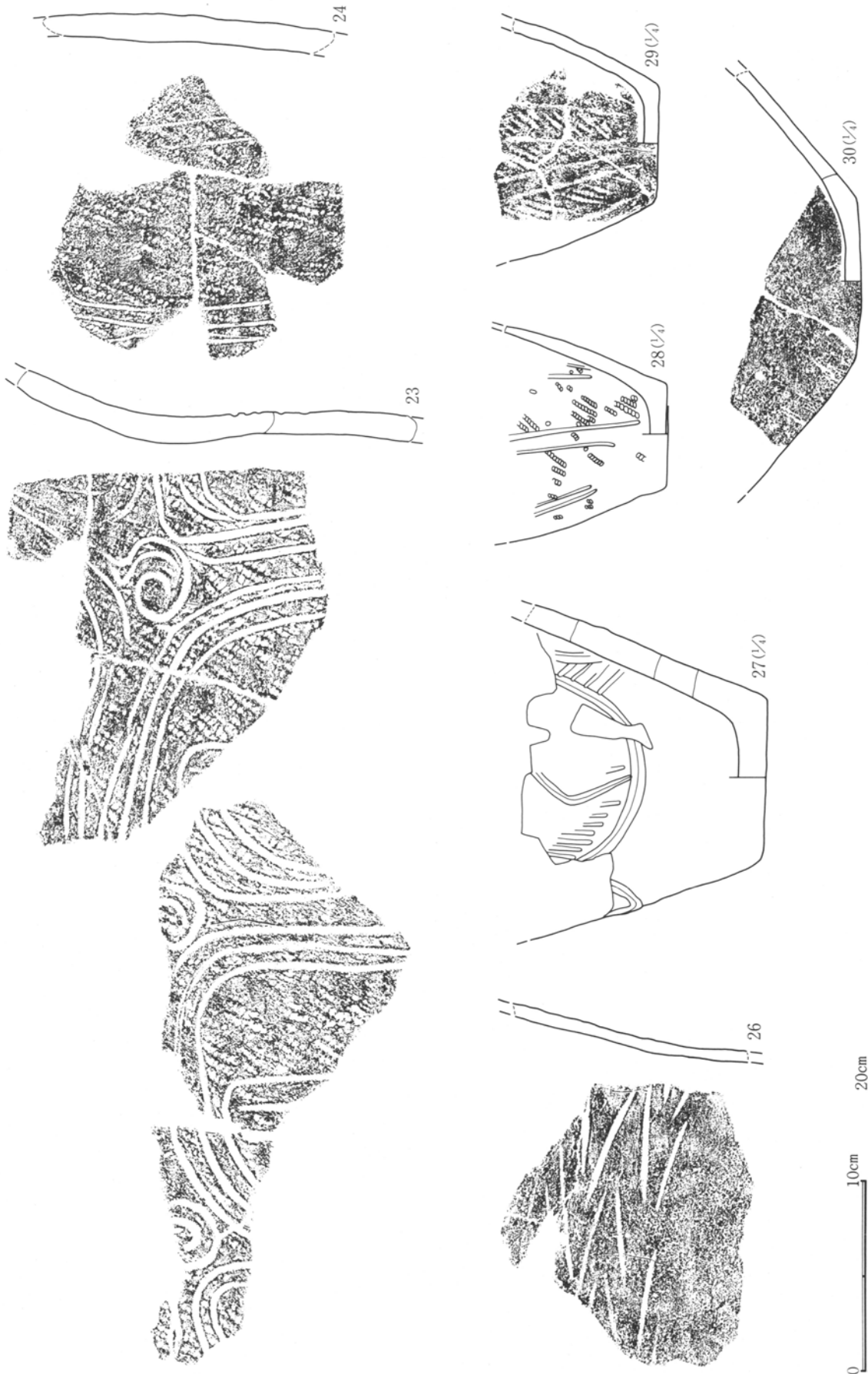
第75図 70号住居跡出土遺物(1)



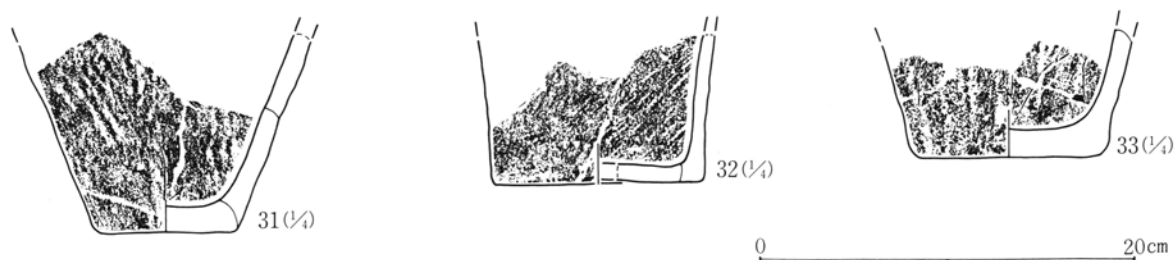
第76図 70号住居跡出土遺物(2)



第77図 70号住居跡出土遺物(3)



第78図 70号住居跡出土遺物(4)



第79図 70号住居跡出土遺物(5)

70号住居跡出土土器 (第75～79図、PL130～133)

1は大形の深鉢型土器胴上半部分。口径45.5cm、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内、胴部には縄文が施文され、胴部は沈線で縦位無文帯を構成する。

2は深鉢型土器。口径(34.2cm)、口縁部には隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内は縦の沈線文、胴部には間隔を持つやや斜方向の捺糸文Lが施文される。

3はほぼ完形の深鉢型土器。口径25.3cm、器高30.5cm、底径8.4cm。口縁部は下位の隆帯が強く肥厚した、渦巻文、楕円文が構成される。区画内には縦位沈線文が、胴部には縦位条線と波状文が見られる。

4は口縁部。口径(26.7cm)。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成され、区画内は縦の沈線で、胴部は縄文LRが施文される。

5は口縁部。口径24.0cm。口縁部がやや締まる。直立気味の口縁部には無文帯、口縁部文様帯は隆帯により、楕円文が構成される。楕円文内は縦位沈線文、胴部には縄文RLが施文される。

6は深鉢型土器。口径32.6cm。口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内は縦位沈線で埋められ、胴部には縦位の捺糸文Rが施文される。

7は胴部。丸みを持ち、口縁部が外反。口径(16.7cm)、口唇部はやや厚みを持つ。無文土器である。

8・9は無文の鉢型土器である。共に頸部で「く」の字に折れて口縁部は外反する。8は口径(39.0cm)。9は口径(41.0cm)である。

10は深鉢型土器の胴部。隆線により蕨手状文を描き、周囲には斜沈線文が施文される。

11は深鉢型土器の口縁部片。口縁部に隆線による区画帯、斜沈線で充填する。頸部には横位隆帯で画された無文帯が見られる。

12は口縁部に隆帯文、胴部には縦位条線文。

13は口縁部片。口縁部が丸く突起状に肥厚し、そこに波状隆線が垂下する。5本単位の沈線で文様が描かれる。

14は口縁部片。隆帯により円文が構成される。

15は口縁部片。隆帯により弧状文が構成される。連結部より2本単位の沈線が垂下する。

16は口縁部片。隆帯により、楕円文が構成される。連結部から沈線が垂下し、その間は綾杉状の沈線文が付される。

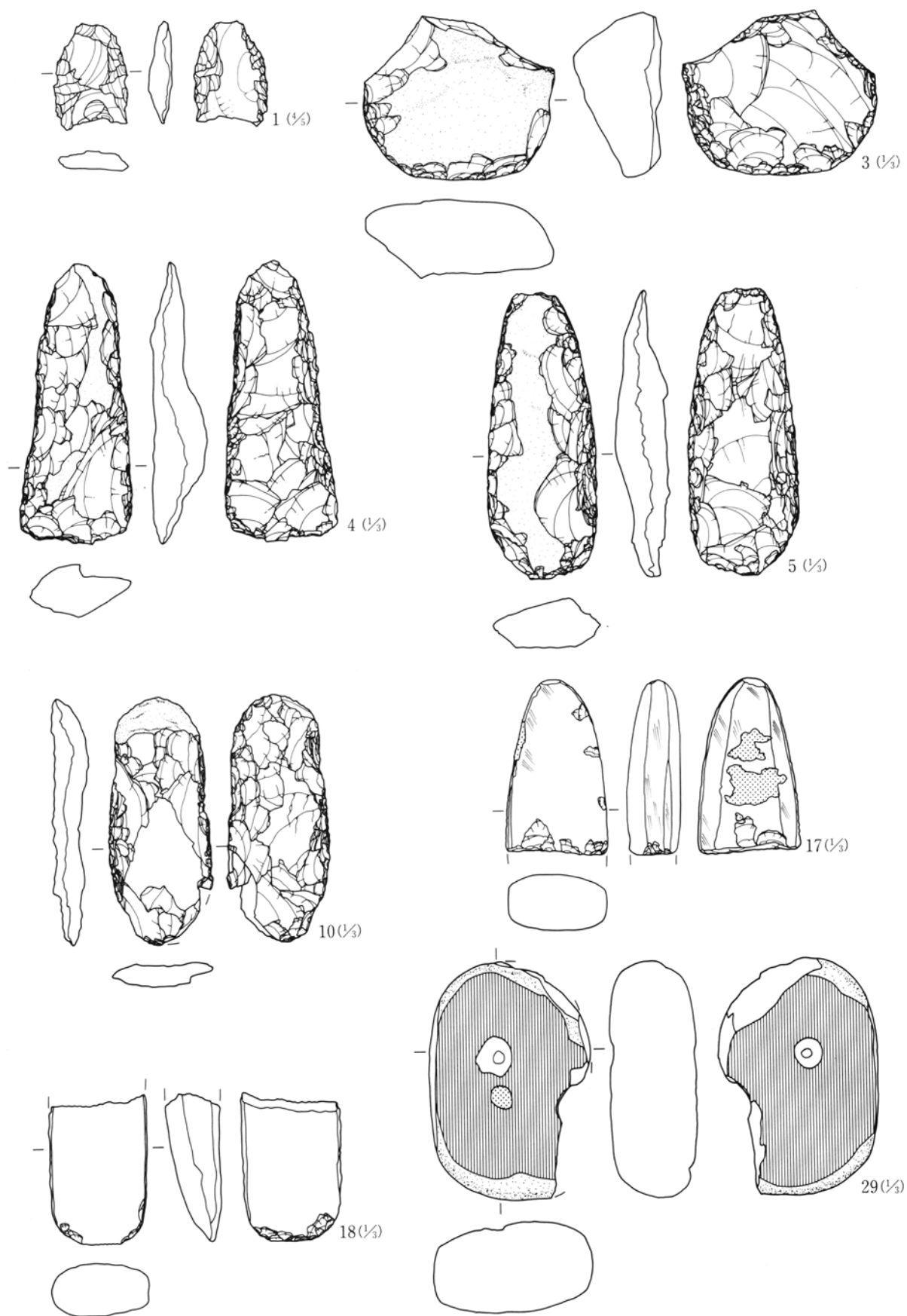
17は口縁部片。沈線により、横長の区画文が構成される。区画の中は縦位沈線文、胴部には縦位の捺糸文Lが施文される。

18は胴部片。2本の縦沈線と綾杉文が見られる。16と同一個体か。

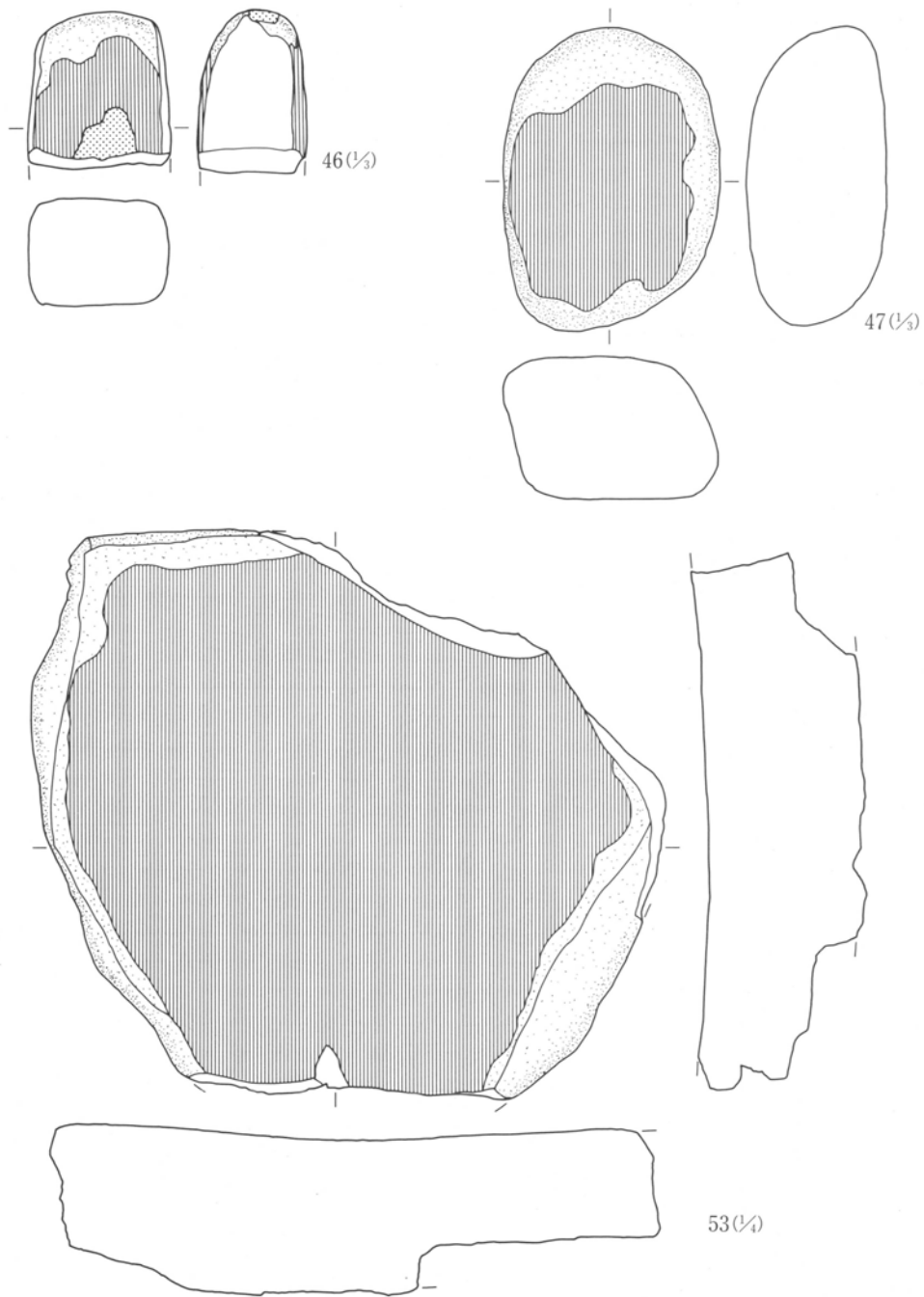
19は胴部片。地文に縄文施文後、縦位2本単位の沈線文を垂下させている。

- 20は胴部片。横位隆帯以下縄文 RL が縦位施文される。
- 21は胴部片。縄文 RL と、縦位の沈線文。
- 22は胴部片。横位、縦位の隆線文。
- 23は地文に縄文 RL を縦位施文後、沈線による曲線文、渦巻文を組み合わせ文様を描く。
- 24は胴部片。縄文施文後沈線による文様を描く。
- 25は上部に透かし孔を有す環状把手部分。上面に沈線による渦巻文が見られる。
- 26は胴部片。横位矢羽状の沈線文が見られる比較的薄手の土器である。時期的には後期後半に比定されるもので、本址には伴わないものである。
- 27～33は底部である。27は底径11.0cm厚手の土器である。隆線による弧状文、沈線文が付される。
- 28は底径7.0cm。縄文 RL 施文後、縦位の並行沈線を施文。
- 29は底径8.0cm。施文は28と同様である。
- 30は鉢の底部と思われる。底径11.0cm。大きく開き無文である。
- 31は底径7.6cm。撚糸文かとも見えるがはっきりしない。
- 32は底径 (11.0cm)。胴部は直立して立ち上がる。縄文が施文されるが不鮮明。
- 33は底径10.0cm。施文は RL か。

第2章 検出された遺構と遺物



第80図 70号住居跡出土遺物(6)



第81図 70号住居跡出土遺物(7)

70号住居跡出土石器観察表

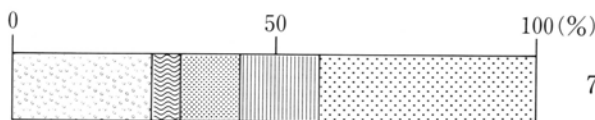
No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特	徴
				長さ	幅	厚さ	重量			
1	石鏃	覆土	完形	2.2	1.6	0.6	2.0	黒曜	未製品。剝片の周辺両面に調整。	
2	楔	覆土	完形	1.8	1.2	0.6	1.6	黒曜	下端に剝離痕。	
3	SS	床下	完形	8.6	10.1	5.7	435.9	硬泥	剝片の打面側両面に調整加え弧状の刃部形成。	
4	打斧	床下	完形	14.7	5.9	2.9	205.3	硬泥	II b類。	
5	打斧	覆土	完形	15.0	5.7	2.8	236.8	硬泥	II b類。	
6	打斧	覆土	2/3	9.6	5.4	2.2	132.9	硬泥	基部欠損。II b類。	
7	打斧	覆土	2/3	8.4	4.8	2.3	95.5	珪頁	刃部磨耗。基部欠損。II b類。	
8	打斧	床下	完形	12.9	4.9	2.0	85.8	硬泥	II b類。	
9	打斧	床下	1/2	9.2	5.4	2.6	115.4	硬泥	刃部欠損。II b類。	

第2章 検出された遺構と遺物

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
10	打斧	P内	一部欠	12.9	5.5	2.0	135.9	硬泥	器表面熱により一部剥落。刃部一部欠損。Ⅲ類。
11	打斧	床下	ほぼ完	12.4	4.5	2.5	148.0	硬泥	刃部磨耗。器表面熱によりかなり剥落。Ⅲ類。
12	打斧	覆土	1/3	6.7	4.0	2.2	49.5	細安	基部破片。形状不明。
13	打斧	床直	2/3	11.1	5.1	1.5	87.0	粗安	刃部欠損。Ⅲ類。
14	打斧	覆土	1/3	6.1	4.0	1.5	37.4	珪頁	基部破片。形状不明。
15	打斧	覆土	1/4	4.8	4.6	1.6	37.3	細安	刃部破片。磨耗みられる。形状不明。
16	打斧	覆土	1/2	7.3	4.6	2.1	75.1	変安	刃部磨耗。基部欠損。Ⅲ類。
17	磨斧	覆土	1/2	9.2	5.3	2.9	256.3	変玄	刃部欠損。表裏に剝離・敲打痕残る。
18	磨斧	下位	1/2	7.8	5.2	2.9	188.2	変玄	基部破片。器体表面かなり風化。
19	磨斧	覆土	1/2	8.8	6.8	4.5	346.8	変玄	未製品の基部破片。剝離・敲打による整形途中。
20	磨斧	下位	1/3	7.7	6.2	3.3	213.3	変玄	未製品の基部破片。剝離・敲打による整形途中。
21	磨斧	覆土	1/3	6.5	4.6	2.6	107.6	変玄	未製品の刃部破片。剝離・敲打による整形途中。
22	磨斧	覆土	1/2	7.1	5.1	3.0	184.1	変玄	基部破片。器表面かなり風化。
23	磨斧	覆土	1/2	7.6	5.3	2.5	144.3	変玄	未製品の破損品。両端欠損。
24	磨斧	覆土	1/2	8.8	4.9	2.5	165.8	変輝	刃部破片。
25	石核	床直	完形	10.7	13.3	6.4	948.5	硬泥	礫の一端両面で交互に剝片剝離。
26	石核	下位	完形	11.7	9.8	5.1	691.5	変玄	分割礫の周辺を折り取るように剝片剝離。
27	石核	下位	完形	17.3	8.2	4.9	561.1	硬泥	礫の両端・両面で交互に剝片剝離。
28	石核	覆土	完形	7.4	8.1	3.1	180.6	硬泥	盤状石核の両面で周辺から剝片剝離。
29	凹石	床下	一部欠	12.4	8.4	4.7	668.0	デイ	盤状の円礫。両側を面取り。表裏に凹み・研磨面。
30	凹石	床下	完形	22.5	12.5	5.5	2050.0	砂岩	盤状の円礫。表裏に凹み各1個。
31	凹石	覆土	完形	13.7	7.6	4.1	452.1	砂岩	盤状の角礫。表裏に凹み各1個。
32	敲石	床直	完形	8.8	6.2	4.4	389.8	粗安	盤状の円礫。上端に敲打痕。
33	敲石	下位	破片	5.8	7.5	6.5	261.6	デイ	上端に敲打痕。下部欠損。
34	敲石	下位	完形	20.1	5.9	4.3	804.9	粗安	棒状の円礫。表面上部・両端に敲打痕。
35	敲石	床下	一部欠	19.0	6.6	5.0	910.1	変安	棒状の垂円礫。表裏・上端に敲打痕。下端欠損。
36	敲石	床下	完形	19.6	5.0	4.7	704.6	粗安	棒状の円礫。両端に敲打痕。
37	敲石	床下	完形	11.2	5.1	4.3	328.8	粗安	棒状の円礫。下端に敲打痕。
38	敲石	下位	完形	7.7	5.3	2.8	162.9	溶凝	盤状の垂円礫。両端に敲打痕。
39	敲石	下位	完形	13.4	5.0	2.8	289.6	変玄	盤状の円礫。両端に敲打痕。
40	敲石	床直	完形	16.9	8.3	7.0	1406.8	変安	左側面取り。表面・上端に敲打痕。
41	磨石	下位	完形	7.3	5.8	3.8	220.1	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。両端に敲打痕。
42	磨石	下位	一部欠	8.0	7.3	5.4	455.4	粗安	円盤状の円礫。表裏に研磨面。裏面一部欠損。
43	磨石	下位	破片	9.8	6.0	4.9	324.9	デイ	表裏に研磨面。上端に敲打痕。下部欠損。
44	磨石	床直	完形	6.5	8.1	4.9	668.9	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨。表面・両端に敲打痕。
45	磨石	床直	一部欠	16.3	10.1	3.9	712.9	デイ	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。裏面一部欠損。
46	磨石	床直	1/3	6.4	5.9	4.6	271.9	変安	両側を面取り。表裏に敲打・弱い研磨面。上端に敲打痕。
47	磨石	床下	完形	12.4	9.0	5.7	1020.5	変安	盤状の円礫。表面に研磨面。
48	石皿	下位	破片	17.0	14.8	5.2	1548.6	粗安	表面浅く凹み、内面研磨。
49	砥石	床直	破片	11.1	12.1	4.5	747.8	砂岩	盤状の角礫。表面に使用面。
50	砥石	下位	1/2	7.6	8.5	2.0	155.1	砂岩	盤状の垂円礫。表面に使用面。下部欠損。
51	砥石	床下	破片	6.3	19.3	6.5	809.2	砂岩	盤状の垂角礫。表面に使用面、緩く内湾。
52	台石	下位	破片	15.6	11.7	6.0	1423.1	粗安	盤状の垂角礫。表裏に使用による磨耗面。
53	台石	床直	一部欠	31.2	35.0	9.8	12.1kg	砂岩	盤状の角礫。表面使用により平滑。

70号住居跡器種組成表

器種	石鏃	楔	SS	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	石皿	砥石	台石	剝片
個数	1	1	1	13	8	5	4	4	3	9	7	1	3	2	36



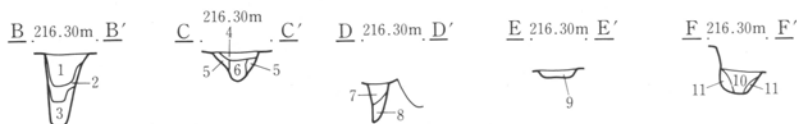
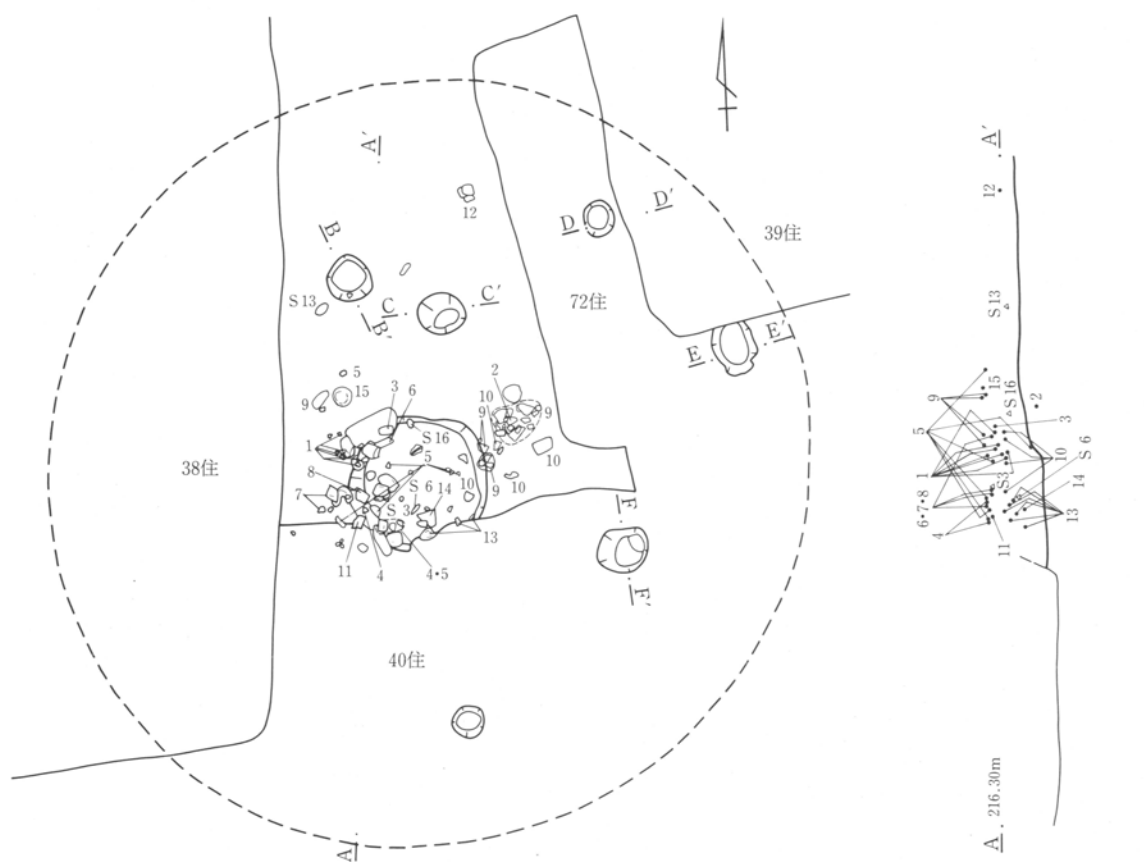
70号住居跡石材重量組成グラフ

73号住居跡 (第82~87図、PL10・133・134・230・231)

住居は他の住居によって多くの部分が削られている。壁が確認出来なかったため、残存床面部分から範囲を推定した。床面は砂礫を含む黄褐色土で貼床をしているが、軟弱である。Pit は 6 基検出されたが、柱穴・他遺構に関わる Pit 等存在すると思われるが、個々の Pit について性格は明確ではない。

炉は円形の掘り込みの内側に河原石を並べて造られている。火床面は床面よりやや下がった位置にあるが、焼土が若干みられる程度である。なお火床面の下の掘り方からは、河原石および砂岩の割石が敷かれたような状態で発見されている。

出土遺物として深鉢型土器・石皿・凹石・磨石・打製石斧等がある。炉周辺に遺物は集中しているが、床面より20cmほど浮いた状態での出土遺物が多い。

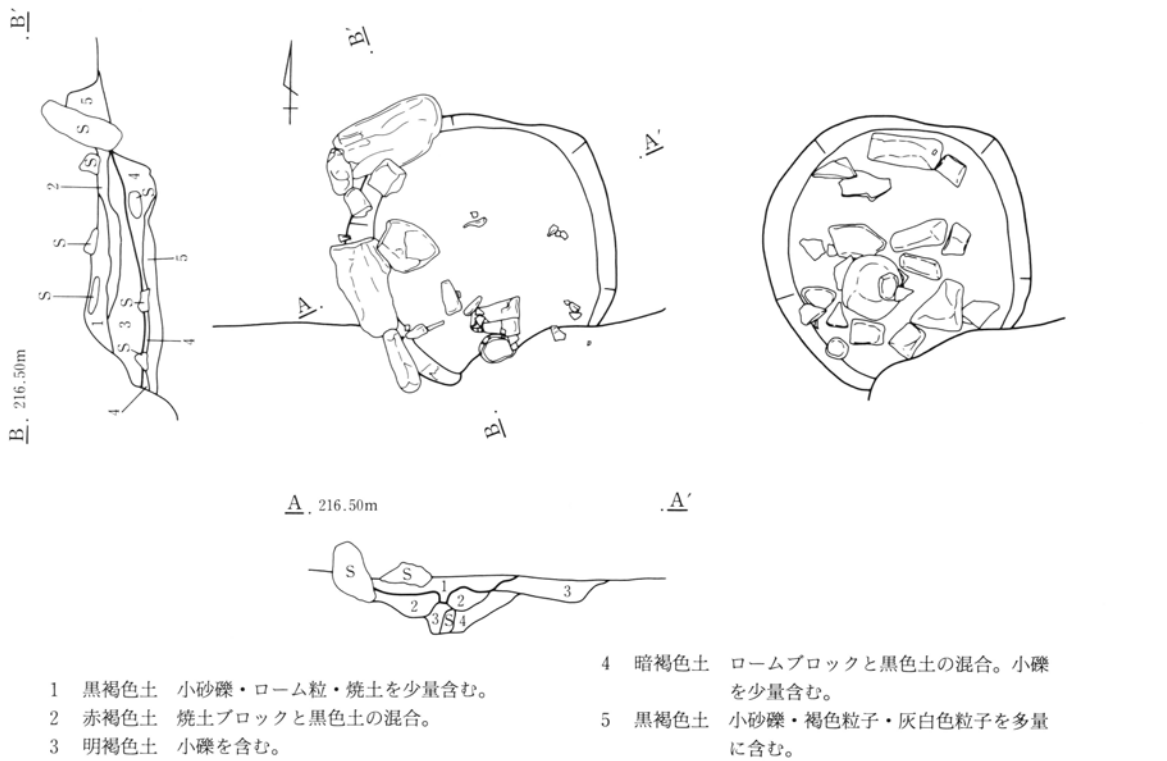


- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色土 砂礫を少量含む。 | 7 黒褐色土 砂礫を多く含む。 |
| 2 黒褐色土 大粒の砂礫を少量含む。 | 8 黒褐色土 砂礫を特に多く含む。 |
| 3 黒褐色土 砂質地山土を含む。 | 9 黒褐色土 砂礫・ローム粒子を含む。 |
| 4 黒褐色土 ロームブロック・砂礫を若干含む。 | 10 黒褐色土 砂礫を多く含む。 |
| 5 黄褐色土 ロームブロック・砂礫を含む。 | 11 黒褐色土 砂礫を多く含み、地山砂質土を若干含む。 |
| 6 黄褐色土 ローム粒を多く含む。 | |

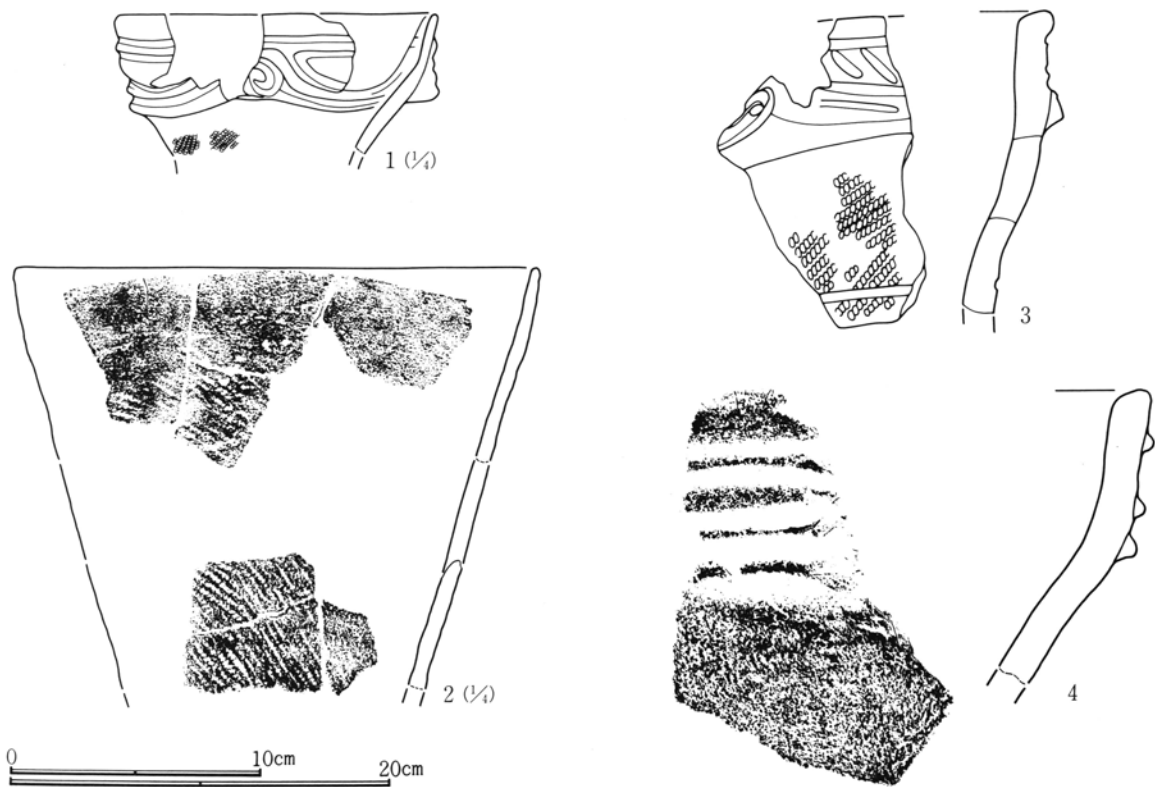
0 2m

第82図 73号住居跡

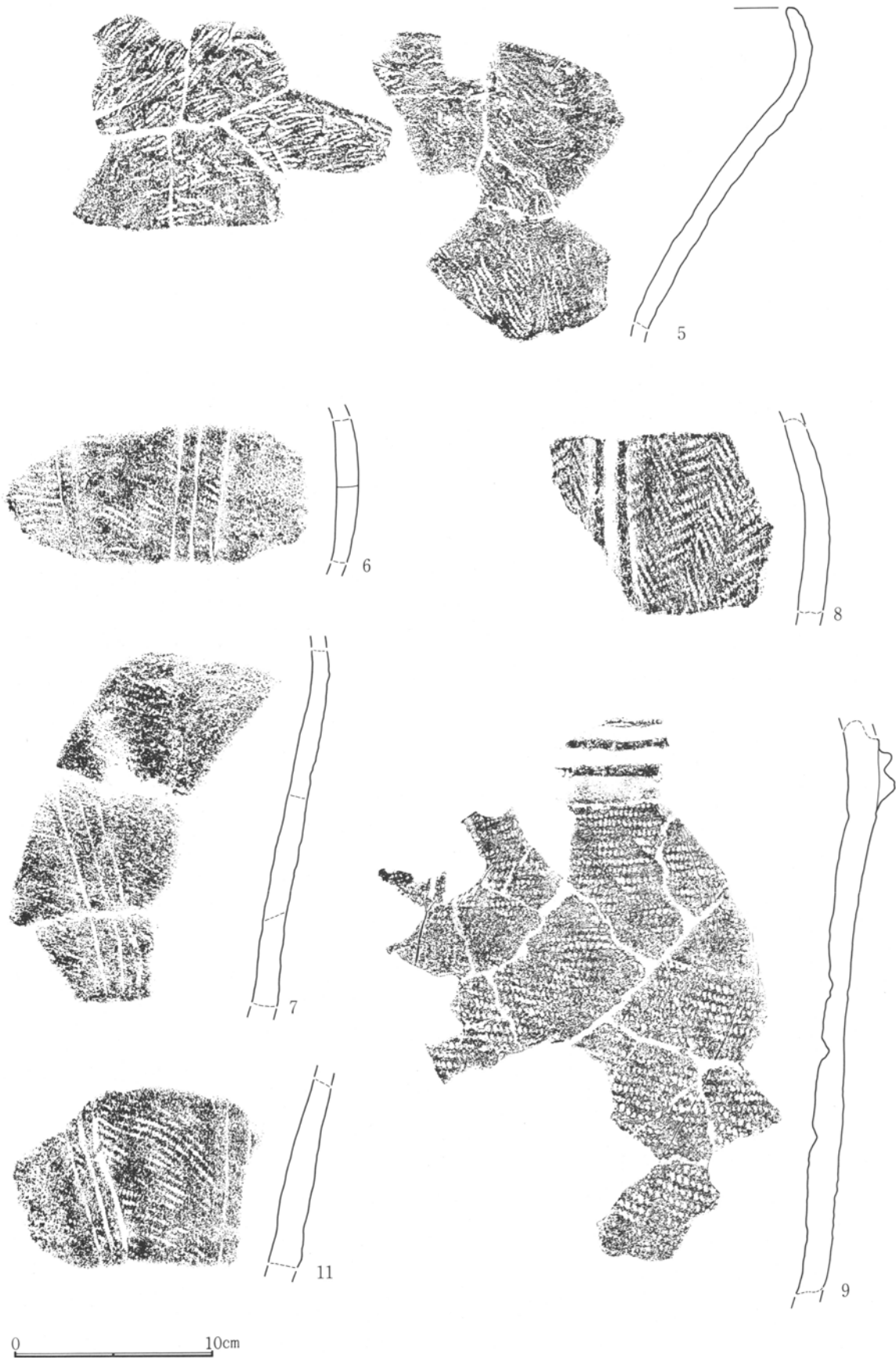
第2章 検出された遺構と遺物



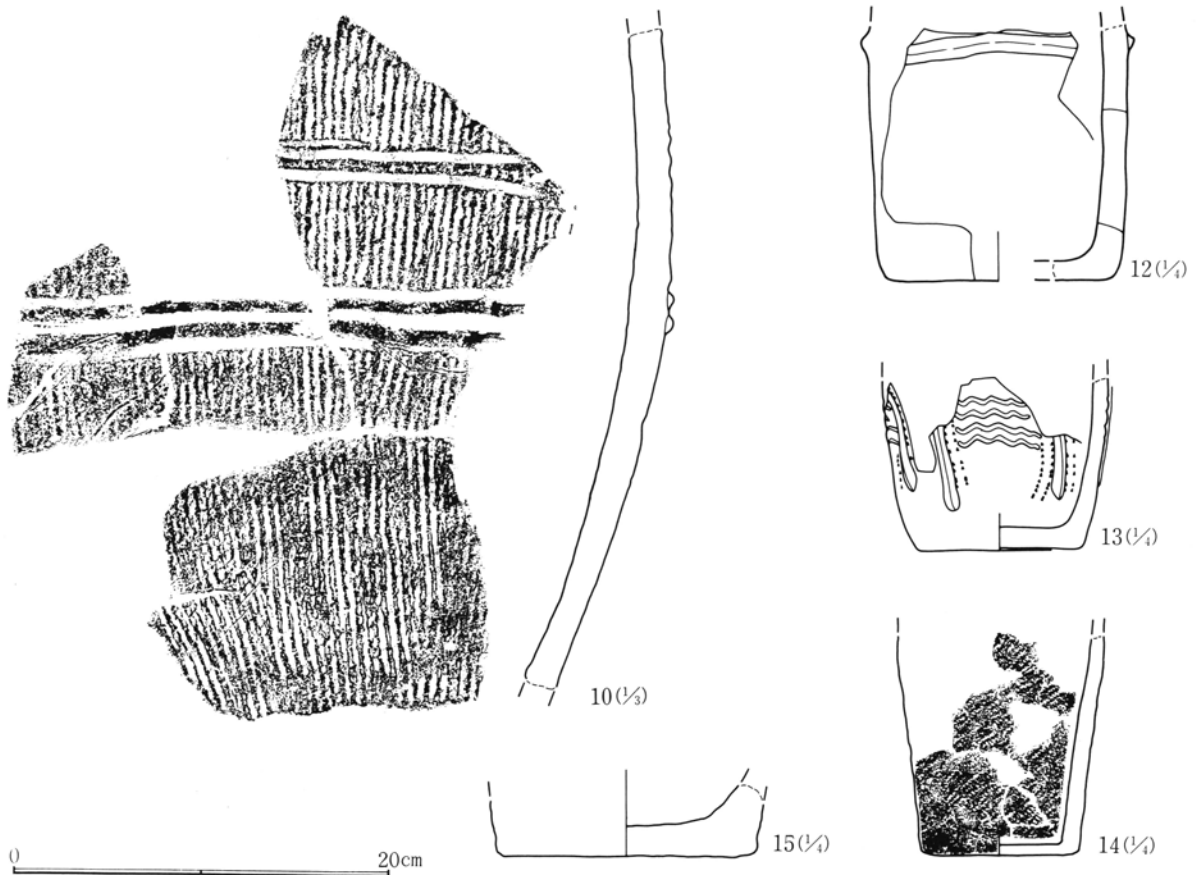
第83図 73号住居跡 炉



第84図 73号住居跡出土遺物(1)



第85図 73号住居跡出土遺物(2)



第86図 73号住居跡出土遺物(3)

73号住居跡出土土器 (第84～86図、PL133・134)

1は口縁部。口径(16.7cm)、口縁部は隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。胴部には縄文RLが縦位施文される。

2はほぼ直線的に立ち上がる深鉢型土器。口径(28.0cm)、口縁部に無文部分を持ち、胴部はLRが充填施文される。

3は口縁部片。隆帯により、渦巻文、楕円文が構成される。区画文内は縦沈線が、胴部には縄文が施文され、横位沈線文が見られる。

4は口縁部に隆帯による区画文が構成されている。

5は口縁部片。縄文Lが充填施文される。

6～8は胴部片。縄文施文後、3本単位の沈線を垂下させている。

9は横位隆帯を持ち以下縄文RLが全面に施文されている。

10は胴部片。縦位縄文L施文後、横位の沈線、隆線が廻される。

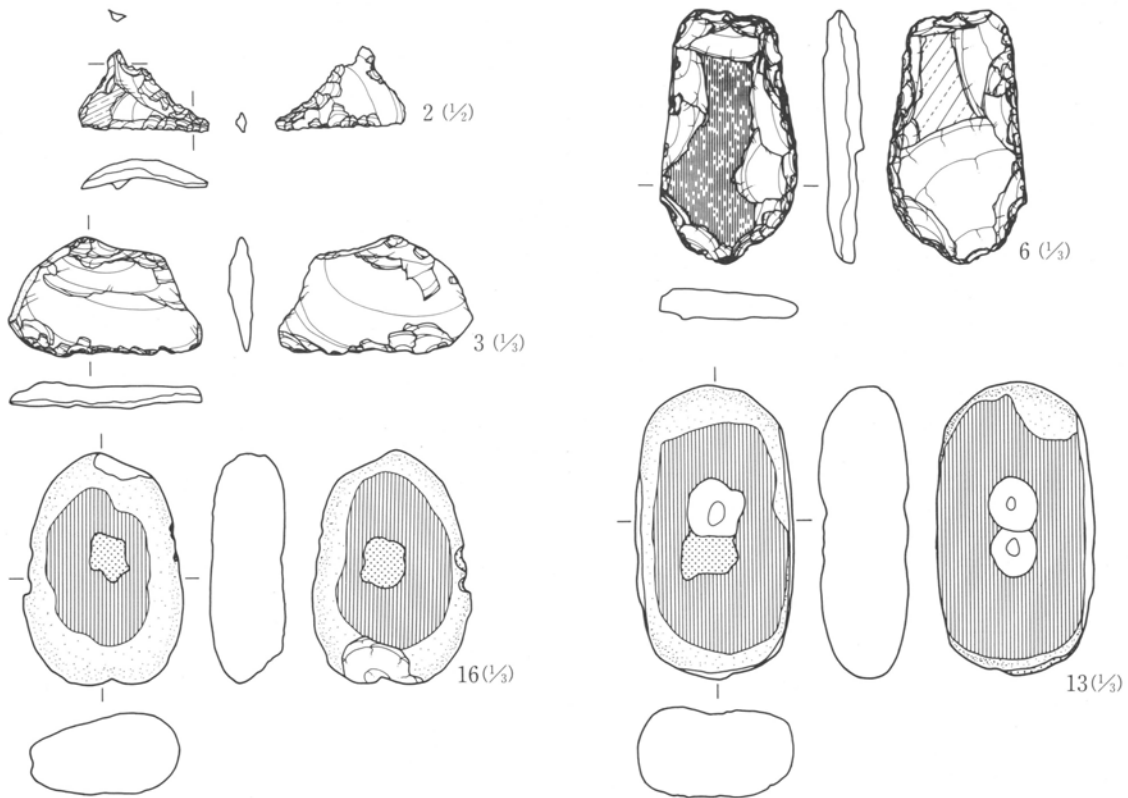
11は胴部片。LR・RLで羽状縄文を作り、縦位の沈線文。

12～15は底部片。12は底径(12.0cm)。無文で横位隆帯を持つ。

13は底径8.3cm。半截竹管による横位波状沈線文施文後、縦に刺突文を伴う隆線が垂下。

14は底径8.4cm。全面に縄文RLが縦位施文される。

15は底径13.6cm。無文。



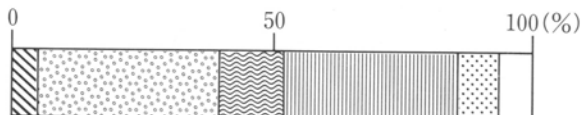
第87図 73号住居跡出土遺物(4)

73号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	1.9	1.5	0.5	1.6	黒曜	両端に剝離痕。
2	石匙	覆土	完形	2.2	3.4	0.8	3.1	黒曜	横型。右側を細く作り出す。
3	SS	中位	完形	4.7	7.7	1.1	38.6	細安	横長剥片の先端両面に調整加え刃部形成。
4	打斧	中位	2/3	7.5	4.6	1.5	57.3	硬泥	撥形。刃部磨耗。基部欠損。
5	打斧	上位	1/3	10.1	7.4	2.9	249.4	粗安	大型の基部破片。調整粗く、未製品か。
6	打斧	上位	完形	10.0	5.5	1.6	108.9	珪頁	表面磨耗を切って再調整。II b類。
7	打斧	覆土	1/2	9.6	5.2	1.7	106.3	硬泥	基部・刃部一部欠損。刃部磨耗。III類。
8	打斧	中位	2/3	10.1	4.4	3.4	134.8	硬泥	両端欠損。III類。
9	打斧	覆土	完形	10.6	4.5	2.1	146.0	細安	両端磨耗。III類。
10	打斧	中位	破片	4.6	4.6	1.9	44.1	硬泥	刃部破片。形状不明。
11	打斧	覆土	1/3	6.0	4.4	0.9	36.1	細安	両端欠損。形状不明。
12	石核	覆土	完形	8.5	7.3	3.7	185.0	硬泥	剥片の両面で周辺から剥片剝離。
13	凹石	中位	完形	11.6	6.3	3.6	398.0	デイ	両側を面取り。表裏に凹み・研磨面。
14	凹石	覆土	1/2	8.1	7.9	4.4	381.3	砂岩	盤状の円礫。表面に凹み・研磨、裏面研磨。上端・側辺に敲打痕。
15	磨石	床直	完形	6.0	4.9	4.7	185.2	ひん	球状の円礫。ほぼ全面に弱い研磨。両端に敲打痕。
16	磨石	中位	ほぼ完	9.1	6.3	3.2	257.4	砂岩	盤状の円礫。表裏に研磨・敲打痕。両側に刻み入る。
17	石皿	中位	破片	10.8	7.5	6.1	840.6	粗安	表面使用により平滑。熱により赤化。

73号住居跡器種組成表

器種	楔	石匙	SS	打斧	二次	微細	石核	凹石	磨石	石皿	剥片
個数	1	1	1	8	5	1	4	2	2	1	19



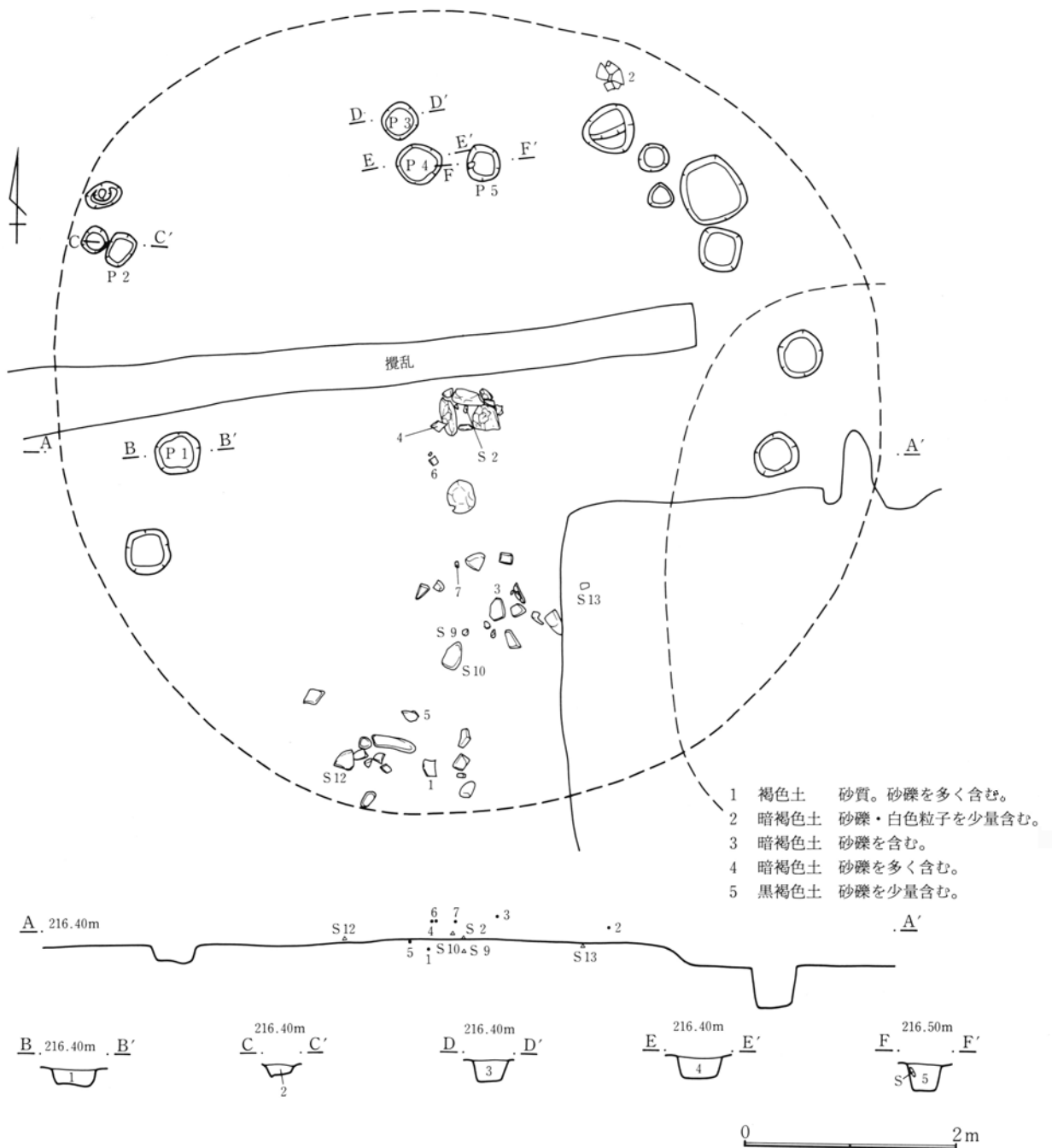
73号住居跡石材重量組成グラフ

第2章 検出された遺構と遺物

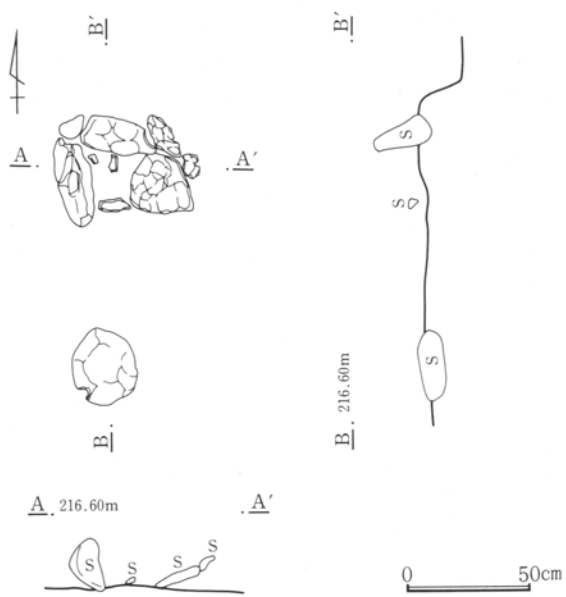
78号住居跡 (第88~92図、PL10・134・231・232)

本住居跡は炉および炉周辺の床面のみの確認である。床面は炉周辺がやや高くなっているが、比較的凹凸は少ない。柱穴については、本住居跡が他の遺構によって削られている部分が多いことから、既に消滅したものが多と思われる。なお、住居推定範囲における Pit は図示したが、柱穴を確定することは難しい。

炉は床面上に河原石をほぼ正方形に組んでいる。炉内に焼土はあまりみられなかった。出土土器として浅鉢および深鉢がある。深鉢については小破片での出土である。出土石器には石皿・打製石斧・石核・敲石・磨石・砥石・石棒・多孔石・石匙がある。



第88図 78号住居跡



第89図 78号住居跡 炉



第90図 78号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

78号住居跡出土土器 (第90図、PL134)

1 は浅鉢である。大きく開いた胴部に内屈した口縁部が付く。口径(38.0cm)、口縁部は隆帯により、楕円文が構成される。区画文内には隆帯に沿って結節沈線が配され、さらに波状文が描かれる。

2 もほぼ完形の浅鉢型土器である。口径21.6cm、器高8.7cm、底径5.6cm。器形は大きく逆「ハ」の字形に開く。無文である。

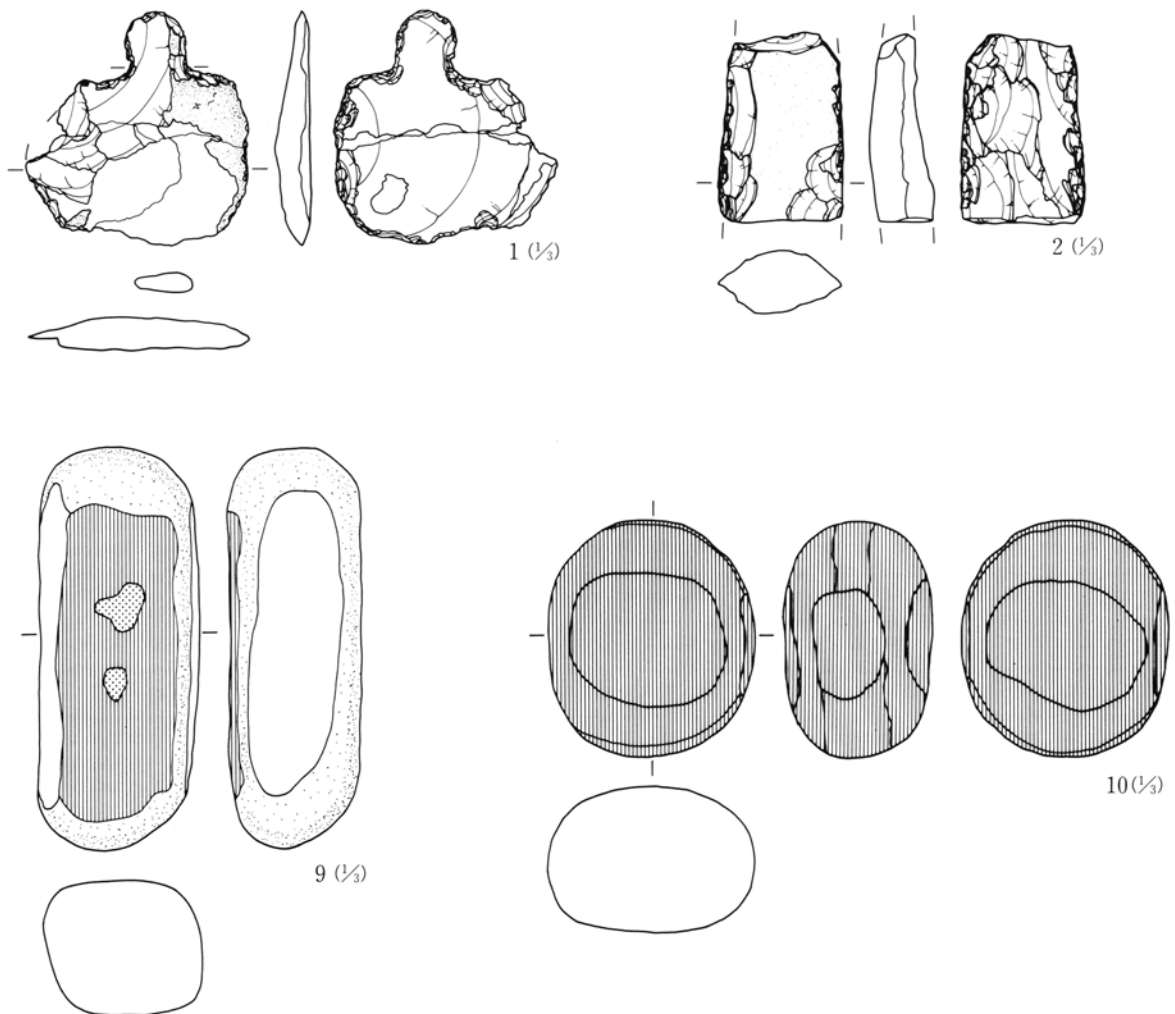
3 は口縁部波頂部。隆帯により、楕円文が構成され、波頂部には横位蕨手状に凹線。区画文内には縄文が充填される。

4 は胴部片である。隆帯による楕円文、渦巻文が描かれ、隆帯上には縄文が付される。また各文様内には縦位沈線が見られる。

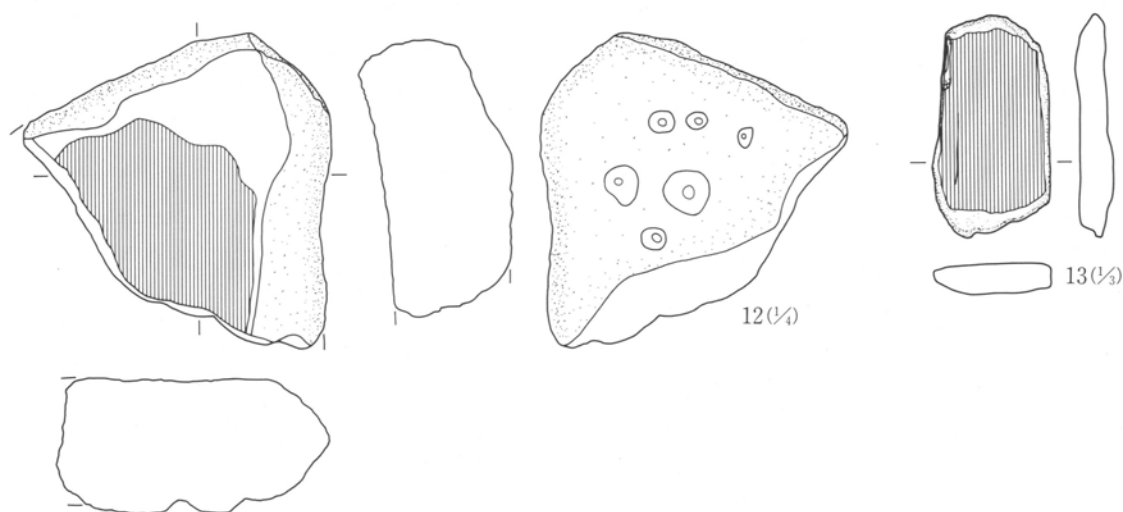
5 は口縁部。隆帯による渦巻文部分。

6 は胴部片。刻みをもつ横位、縦位の隆帯文。地文に撚糸文Lが付される。

7 は器台型土器。脚の端部はやや内湾気味に内側に入る。底径(12.0cm)。縦位沈線、渦巻文を有し、円形の透かし孔を持つ。



第91図 78号住居跡出土遺物(2)



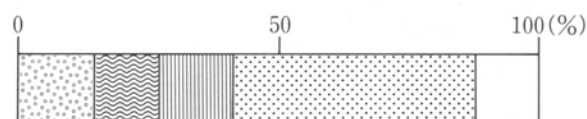
第92図 78号住居跡出土遺物(3)

78号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石匙	覆土	一部欠	8.9	9.3	1.3	93.9	珪頁	剥片の周辺両面に調整。熱により器表面一部剥落。
2	打斧	床直	1/2	7.5	4.9	2.5	118.7	変玄	両端欠損。Ⅲ類。
3	石核	下位	完形	9.9	8.9	5.5	538.7	硬泥	礫の一端で交互に剥片剥離。
4	石核	覆土	完形	11.7	10.6	4.4	626.7	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
5	石核	覆土	完形	9.3	7.8	3.2	263.3	硬泥	剥片端部で交互に剥片剥離。
6	石核	下位	1/2	8.5	6.9	3.9	214.1	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。右側欠損。
7	石棒	覆土	破片	10.0	3.3	1.9	88.0	緑片	表面に敲打痕。形状不明。
8	敲石	下位	一部欠	13.6	10.0	6.8	1047.0	粗安	盤状の円礫。表裏に敲打痕。
9	磨石	床下	完形	15.8	6.4	5.3	889.9	流紋	棒状の円礫。表面に敲打痕・研磨面。両側を面取り。
10	磨石	下位	完形	9.4	8.2	5.8	663.6	ひん	円盤状の円礫。ほぼ全面研磨、表裏面の中央特に強い。
11	多孔	下位	破片	6.3	11.3	3.5	269.9	凝砂	裏面に凹み。
12	石皿	床直	1/4	16.6	16.4	8.2	1985.7	砂岩	盤状の角礫。表面皿部分研磨。裏面に凹み6個。
13	砥石	床下	完形	8.8	4.7	1.5	63.5	凝砂	盤状の亜角礫。表面に弱い使用面・線状痕。
14	砥石	下位	ほぼ完	15.8	10.2	5.6	1043.1	砂岩	盤状の亜角礫。表裏に使用面。

78号住居跡器種組成表

器種	石匙	打斧	石核	石棒	敲石	磨石	石皿	多孔	砥石	剥片
個数	1	1	4	1	1	2	1	1	2	3



78号住居跡石材重量組成グラフ

83号住居跡 (第93～95図、PL11・232)

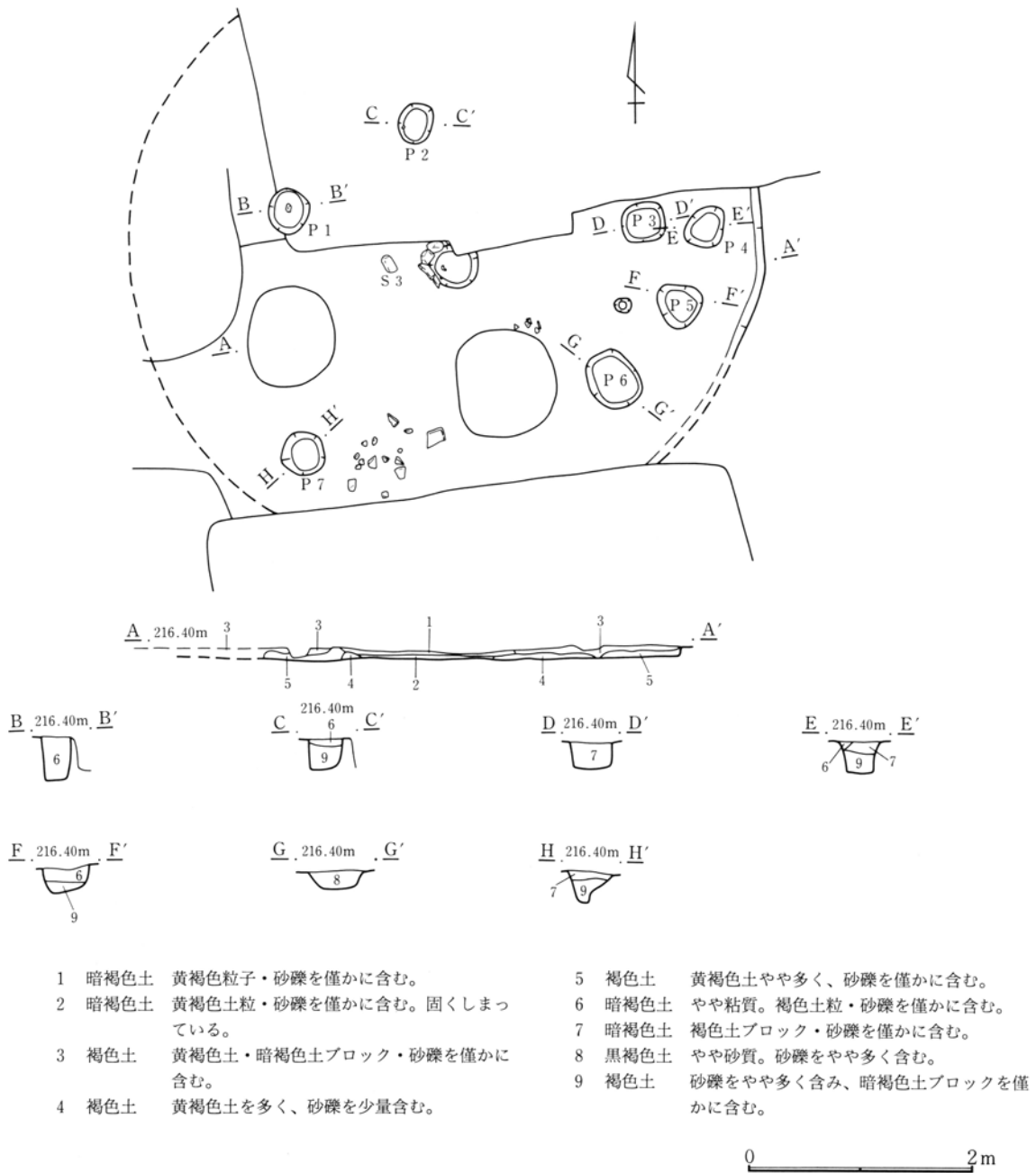
住居は他の住居および土坑によって多くの部分が削られている。平面形は残存している壁・床面から円形となる可能性もあるが、明確ではない。

床面は、平坦にした掘り方の面をそのまま床面として使用している。床面は炉周辺を中心として比較的しっかりしている。柱穴については明確ではないが、柱穴の可能性のある Pit を図示した。

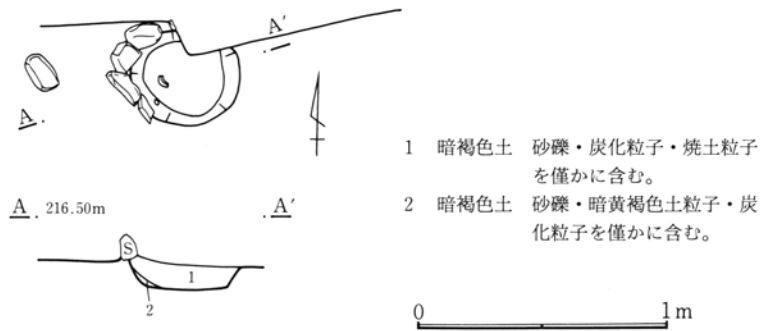
炉は深皿状の円形の穴を掘り込み、周囲に砂岩の割石および河原石を置いて造られている。炉内には焼土がみられず、埋没土中に焼土粒子が僅かに含まれていたのみである。

出土遺物には磨石・スクレイパー・ピエスエスキューがある。いずれも床面からは浮いた状態での出土である。なお土器については、極小破片を除いては存在しなかった。

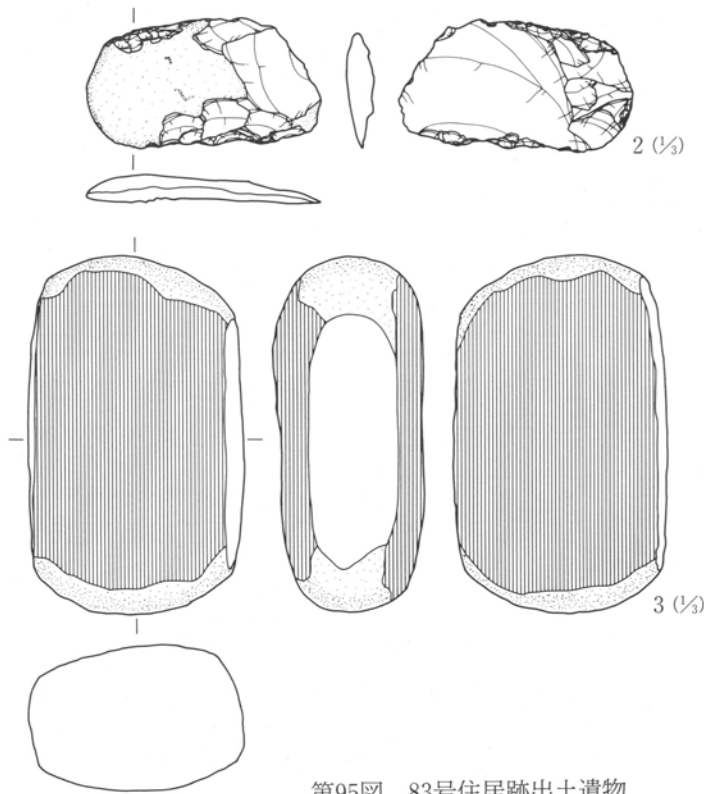
第2章 検出された遺構と遺物



第93図 83号住居跡



第94図 83号住居跡 炉



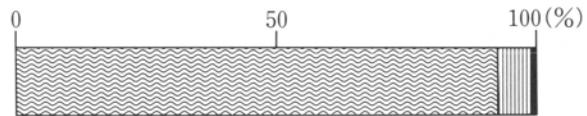
第95図 83号住居跡出土遺物

83号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	2.7	2.0	0.8	3.3	黒曜	両端に剝離痕。
2	SS	覆土	完形	5.1	9.3	1.1	52.4	珪頁	横長剥片の両端を調整。
3	磨石	下位	完形	14.1	8.6	6.0	1072.9	ダイ	両側を面取り。表裏に研磨面。

83号住居跡器種組成表

器種	楔	SS	二次	磨石	剥片
個数	1	1	1	1	3



83号住居跡石材重量組成グラフ

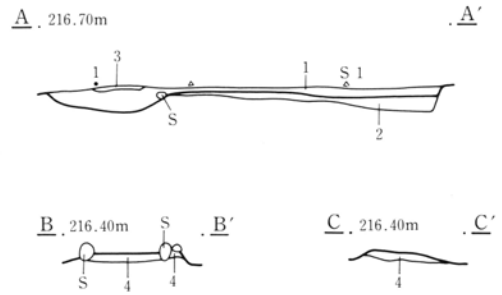
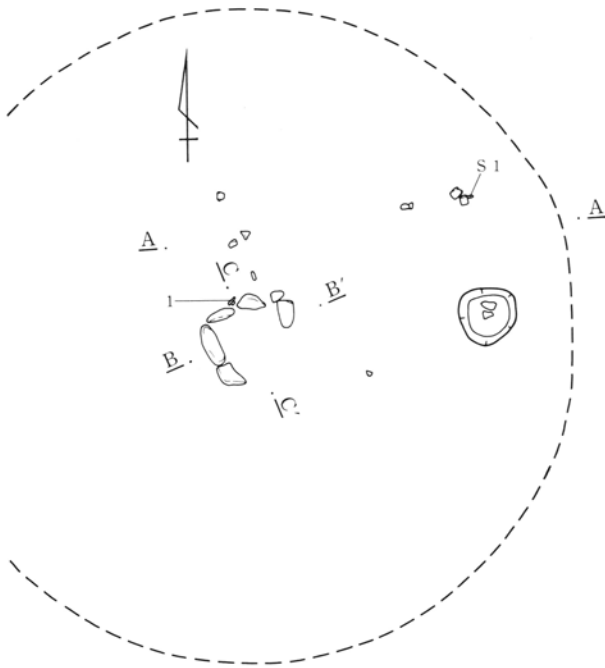
92号住居跡 (第96~98図、PL11・232)

本住居跡は多くの住居・土坑によって削られており、炉周辺のみ確認である。床面は炉周辺では比較的しっかりしているが、周辺部ではしだいに不明確となる。住居掘り方は凹凸があり、砂礫を含む暗褐色土で貼床をしている。

炉は床面を方形に浅く掘り込み、この掘り込みの周囲に河原石を置いて造られている。なお、炉内には焼土がみられなかった。

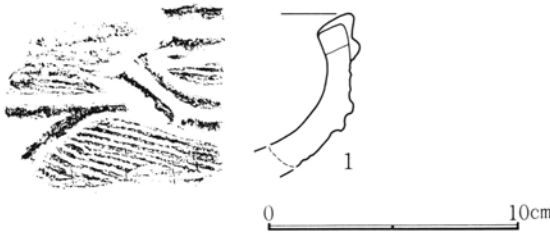
出土遺物には深鉢型土器片・打製石斧がある。

第2章 検出された遺構と遺物



- 1 暗褐色土 砂礫・ローム粒をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 砂礫・ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土 (土坑覆土)
- 4 暗褐色土 小砂礫・ローム粒を含む (焼土含まず)。

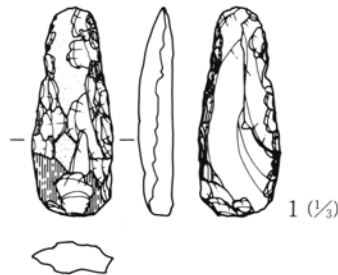
第96図 92号住居跡



92号住居跡出土土器 (第97図、PL135)

1 は口縁部片。地文に撚糸文Rを横位施文後、隆線による横位の区画状文。

第97図 92号住居跡出土遺物(1)



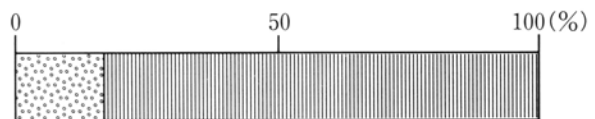
第98図 92号住居跡出土遺物(2)

92号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	床直	完形	8.2	3.2	1.4	37.5	硬泥	小型のII b類。刃部磨耗。
2	打斧	覆土	破片	4.3	4.7	1.5	36.9	珪頁	基部破片。形状不明。

92号住居跡器種組成表

器種	打斧	二次	剝片
個数	2	2	3



92号住居跡石材重量組成グラフ

93号住居跡 (第99~107図、PL11・135~138・232・233)

本住居跡は他の住居・土坑・溝等により多くの部分が削られている。住居の壁については、壁部分が他の住居との重複が多いこと、また床面が浅いことから壁残存部分においても確認が難しかったことによる。

床面は砂粒を含む黄褐色土で貼床をしており、比較的しっかりしている。柱穴については、その可能性のある Pit を図示したが、本住居跡と無関係の Pit も含まれているものとみられ、柱穴の確定は難しい。

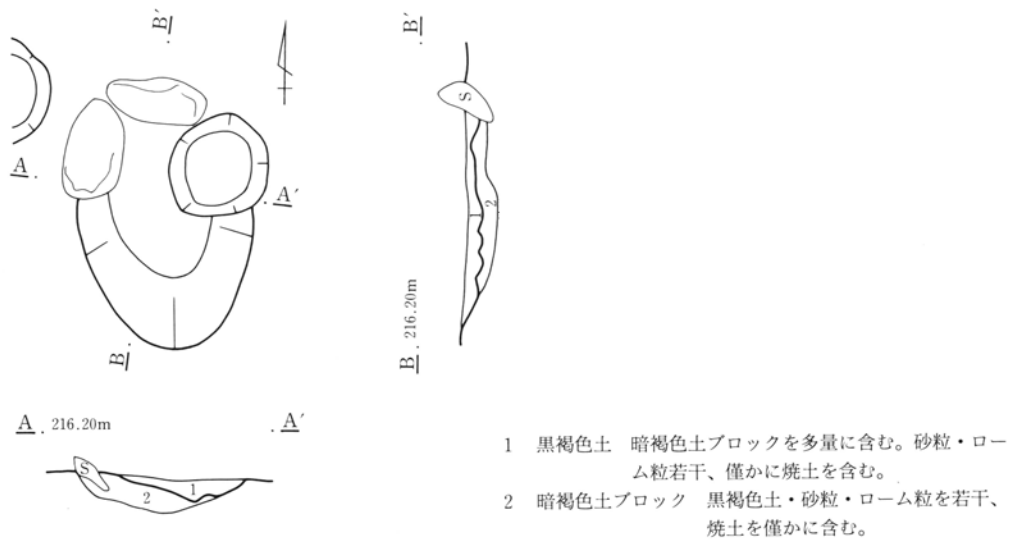
炉は床面を楕円形の皿状に掘り込み、内側の周囲に扁平な河原石を貼り付けて造られている。火床面には焼土が残されていたが僅かである。

出土遺物については、土器および石器とも多い。土器は深鉢および浅鉢であるが、炉付近から南側にかけて集中している。石器については、総数41点と多い。遺物は床面に密着しているものもあるが、大部分は床面より5cm前後浮いた状態での出土である。



第99図 93号住居跡

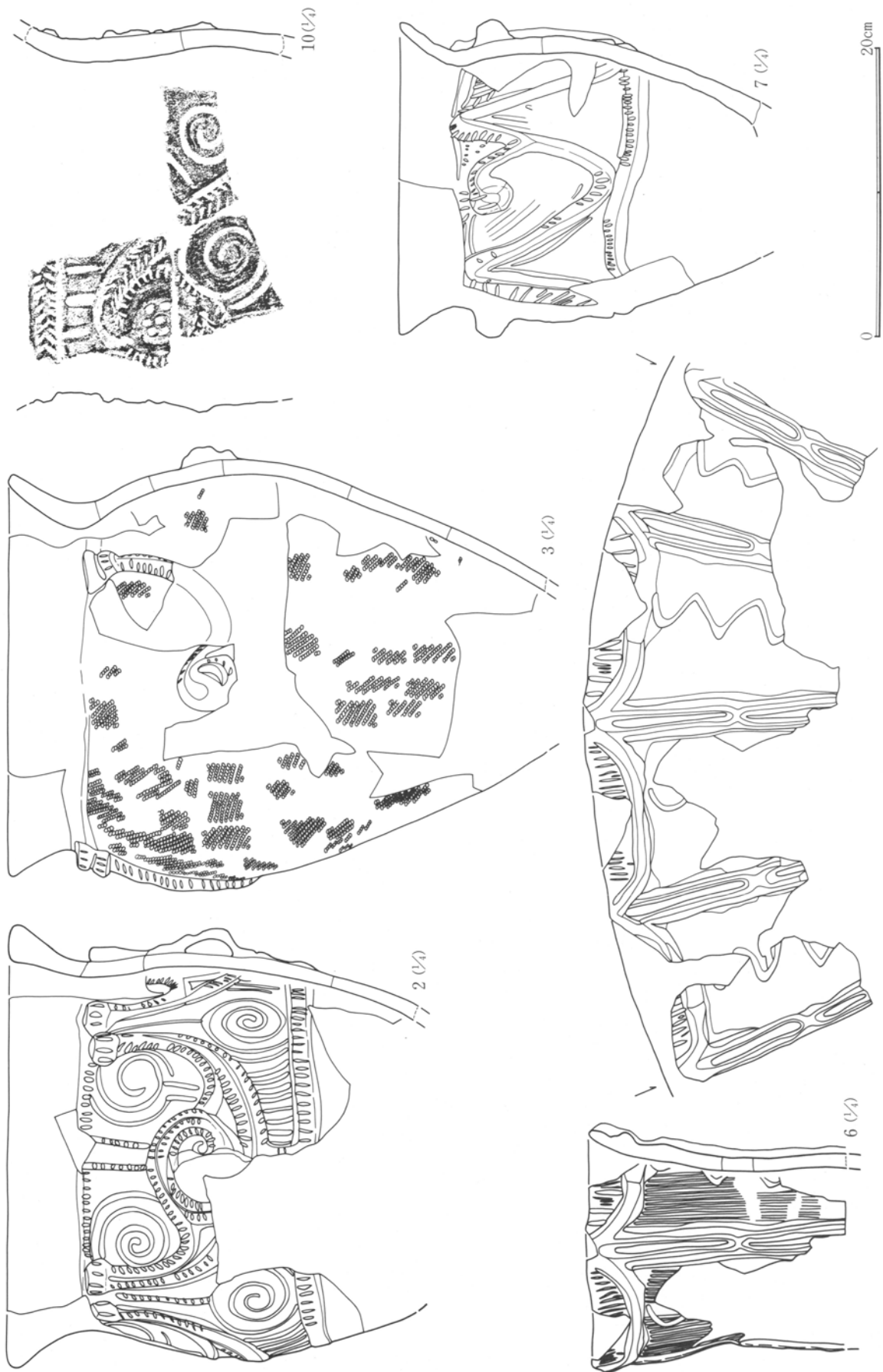
第2章 検出された遺構と遺物



第100図 93号住居跡 炉

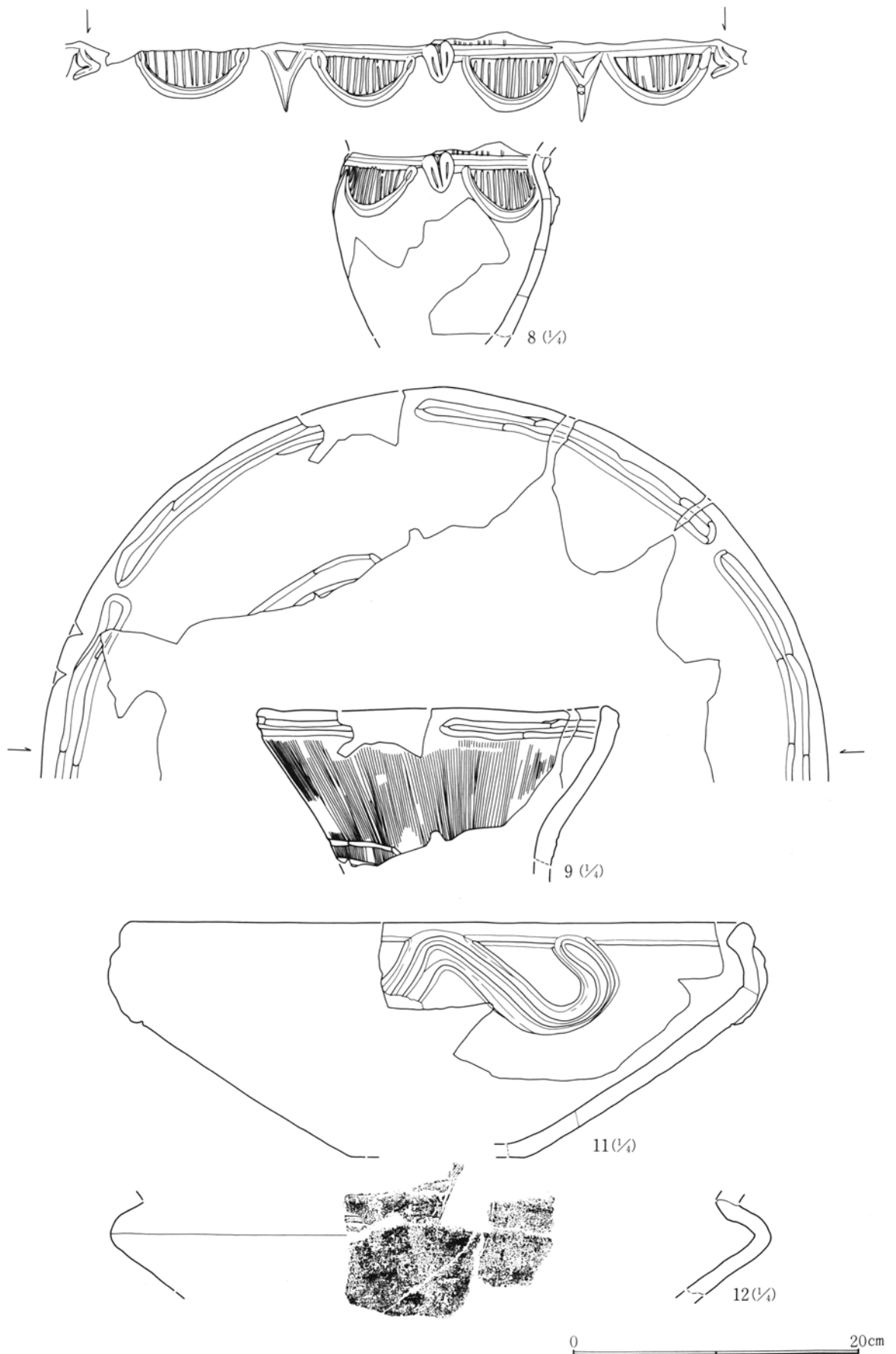


第101図 93号住居跡出土遺物(1)

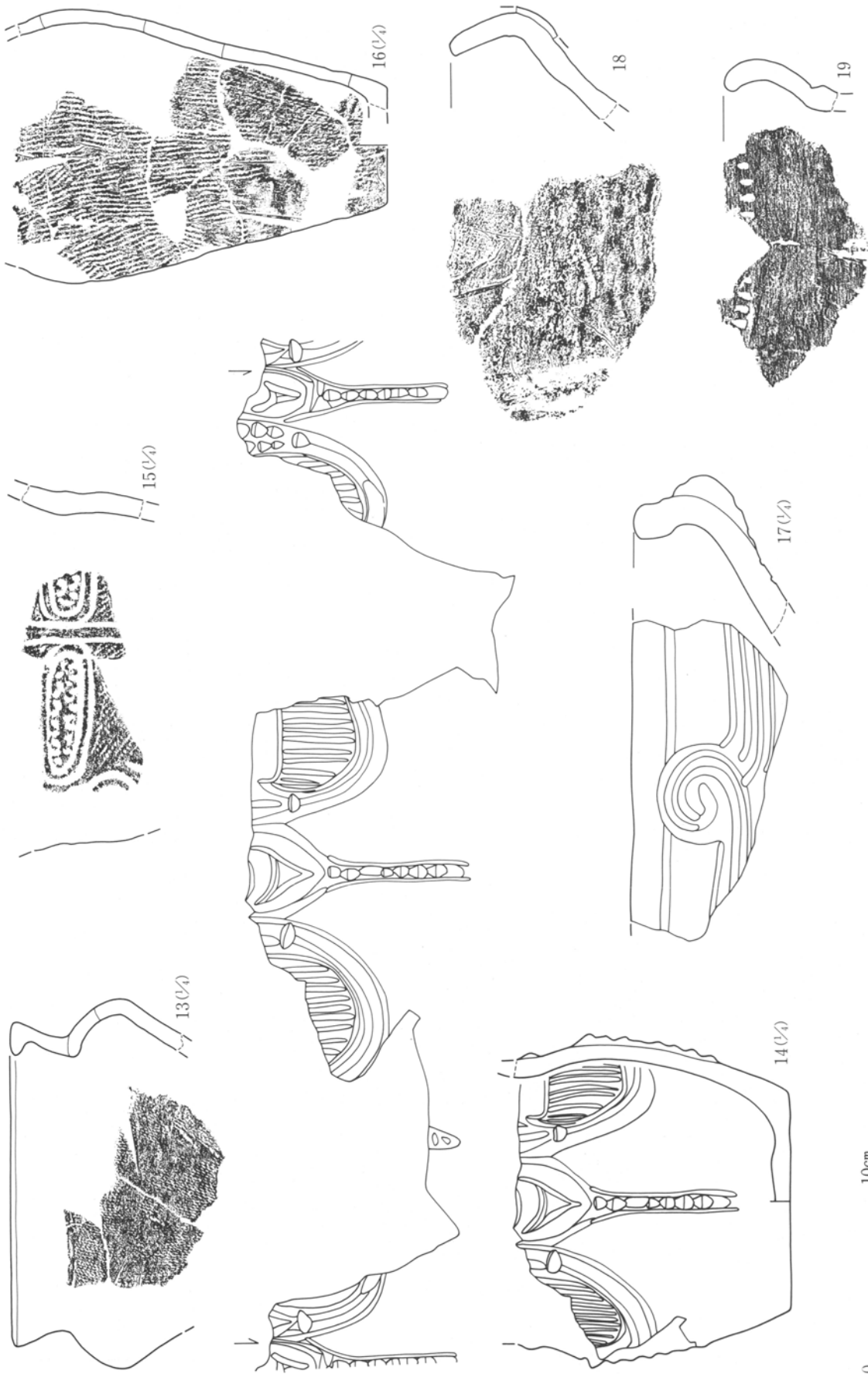


第102図 93号住居跡出土遺物(2)

第2章 検出された遺構と遺物

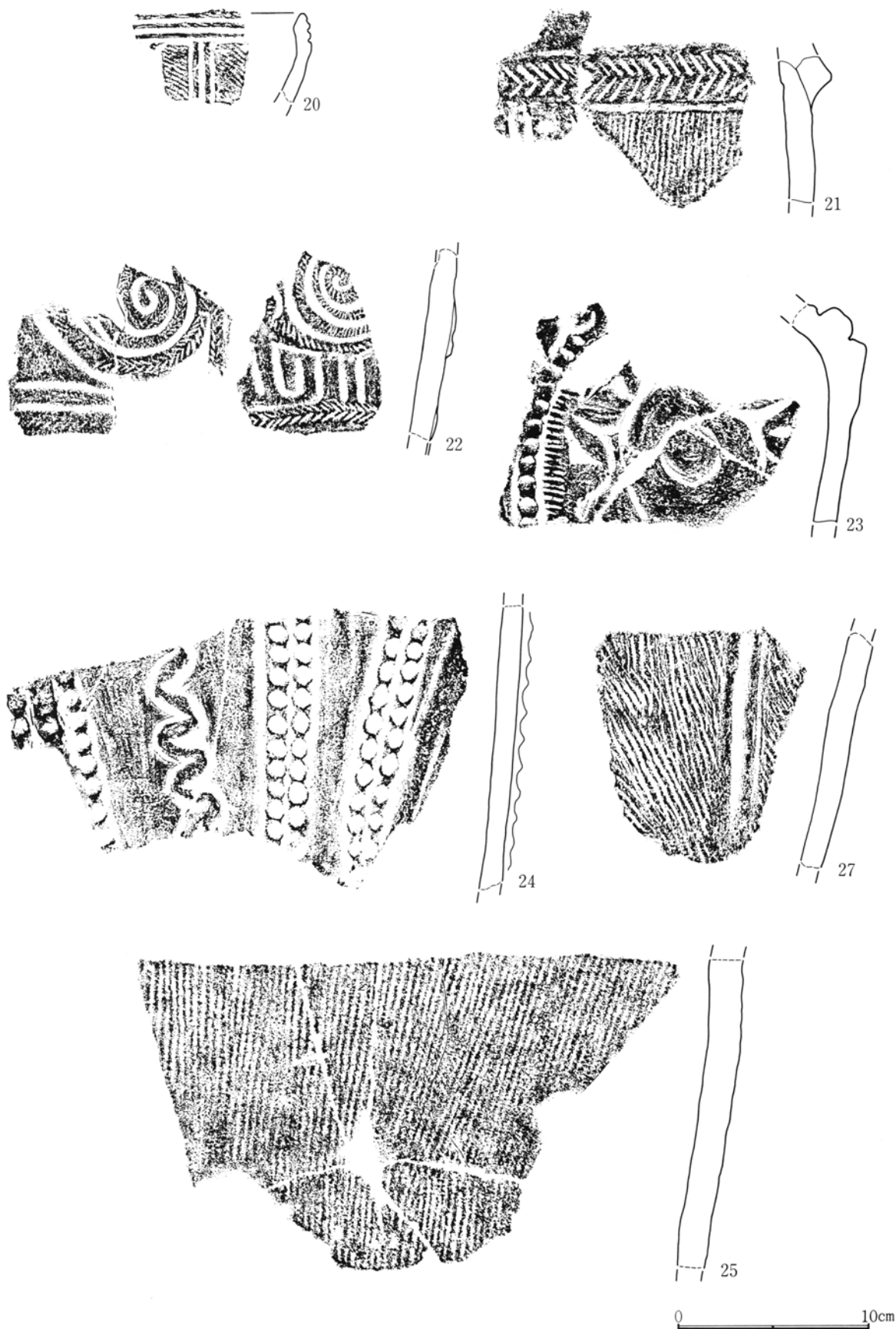


第103図 93号住居跡出土遺物(3)

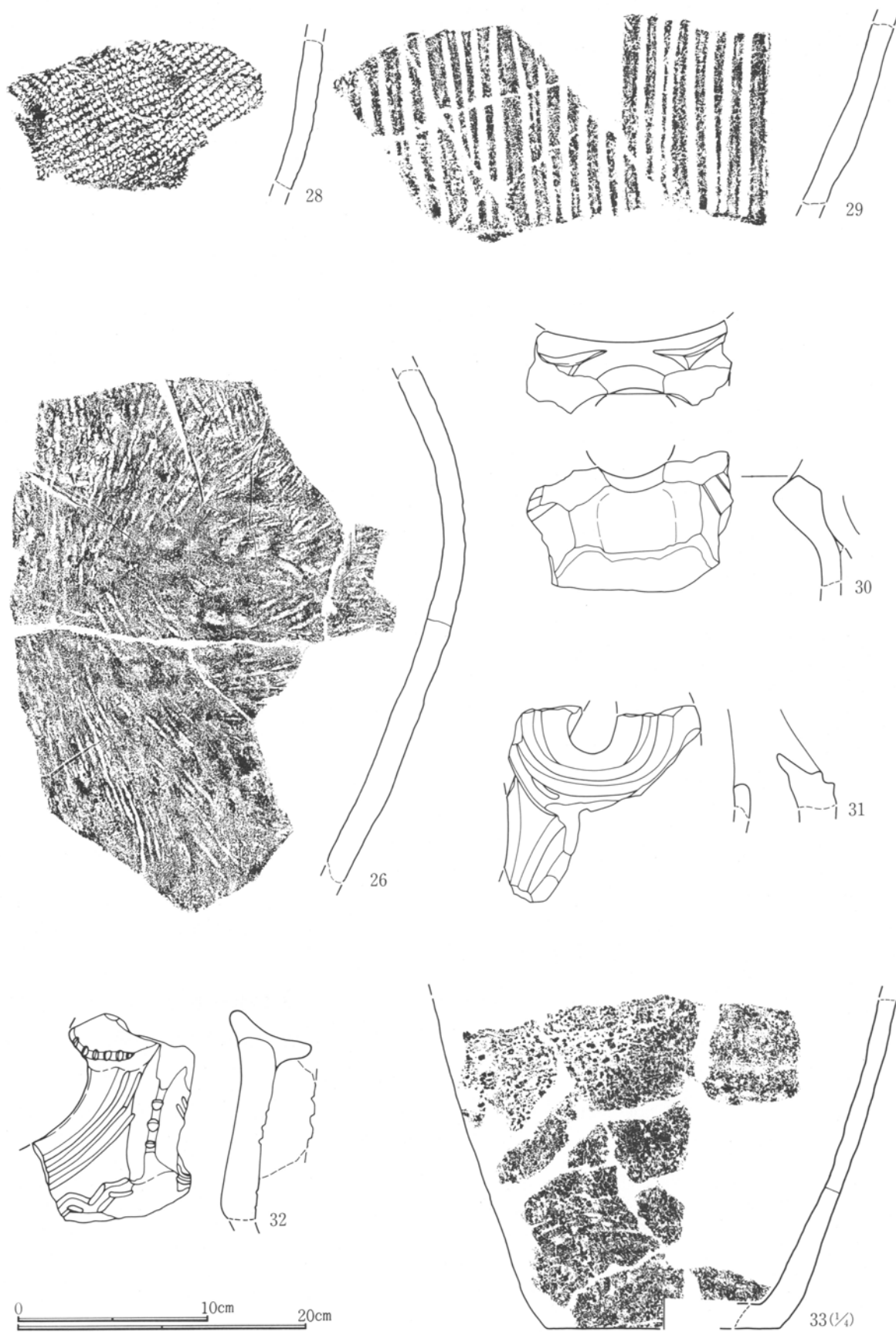


第104図 93号住居跡出土遺物(4)

0 10cm 20cm



第105図 93号住居跡出土遺物(5)



第106図 93号住居跡出土遺物(6)

第2章 検出された遺構と遺物

93号住居跡出土土器 (第101～106図、PL135～138)

1は口縁部から胴部。口径(48.8cm)。頸部は「く」の字に折れて口縁部外反する。口縁部分は無文で、胴部には隆帯による渦巻を基調とした抽象文が描かれる。隆帯には矢羽状の刻み目を有す。また渦巻部分は盛り上がり中空となっている。

2は口縁部から胴部。口径(30.3cm)、口縁部は端部が肥厚し平らとなる。胴部には刻みを持つ隆帯による渦巻文を基調とした抽象文が描かれ、渦巻文部分は盛り上がり中空となる。また空隙にも沈線による渦巻文、縦位沈線文が配されている。文様のモチーフは1と共通する。

3は口縁部から胴部。口径(27.5cm)。胴上半部で最大径をとり、頸部は括れて口縁部は外反する。胴部には縄文LRが施文され、頸部より4本の「J」字状の隆帯文が垂れる。隆帯の端部は隆帯が付されて丸く肥厚している。また隆帯上には刻みが付されている。

4は比較的小型の深鉢型土器、口縁部から胴部。口径(18.6cm)。胴部は直線的に開いて立ち上がり、口縁部がわずかに肥厚する。胴上半部に文様帯を持ち、2本単位の隆帯が4カ所垂下し、その間は縦位沈線で埋められる。

5は口縁部から胴部上半部。口径(19.9cm)。地文は縦位の撚糸文か。口縁部に廻された沈線からつながった蕨手文が垂下する。頸部には横位の沈線文が廻る。

6は口縁部から胴部。口径(16.2cm)、口縁部は隆帯により、連弧状の区画文が構成され、区画内は縦の沈線で埋められる。また連結部より隆帯による縦長の「H」状文が胴部に垂下し、その間は縦位条線、波状沈線文が見られる。

7は口縁部から胴部。口径(21.4cm)。胴部には横位隆帯で画された文様帯を作る。隆帯により上下につながる波状文を描き、一部に端部が丸く肥厚する蕨手状に延びる部分を持つ。隆帯上には刻みを付し、地文には沈線文が見られる。

8は胴部。頸部に隆帯が廻りその下側に4単位の連弧状の区画文が隆帯によって描かれ、連弧間には「V」字状文、「S」字状文、眼鏡状の小突起文が付されている。

9は口縁部。口径23.8cm、口縁部には3単位の横長の沈線による楕円文が描かれる。以下縦位条線が施文され頸部にも横位沈線文が見られる。

10は深鉢型土器の胴部。頸部に横位隆帯、さらに胴部には隆帯、沈線による渦巻文が描かれる。隆帯上には矢羽状に刻みが付されている。

11は浅鉢型土器。口径(42.6cm)、器高(16.4cm)、底径(12.0cm)。大きく開いた胴部から口縁部はやや内湾する。口縁部下に沈線が廻され、口縁部には中央に凹線を持つ幅広の隆帯による横「S」字状文が描かれる。

12は浅鉢型土器。強く内湾する肩部に、屈曲して立ち上がる口縁が付くものと思われる。無文である。

13は深鉢型土器。口径(21.4cm)。肩部分が張り、屈曲して口縁部は立ち上がる。口唇部は平らで内側に肥厚する。撚糸文Lが全面施文される。

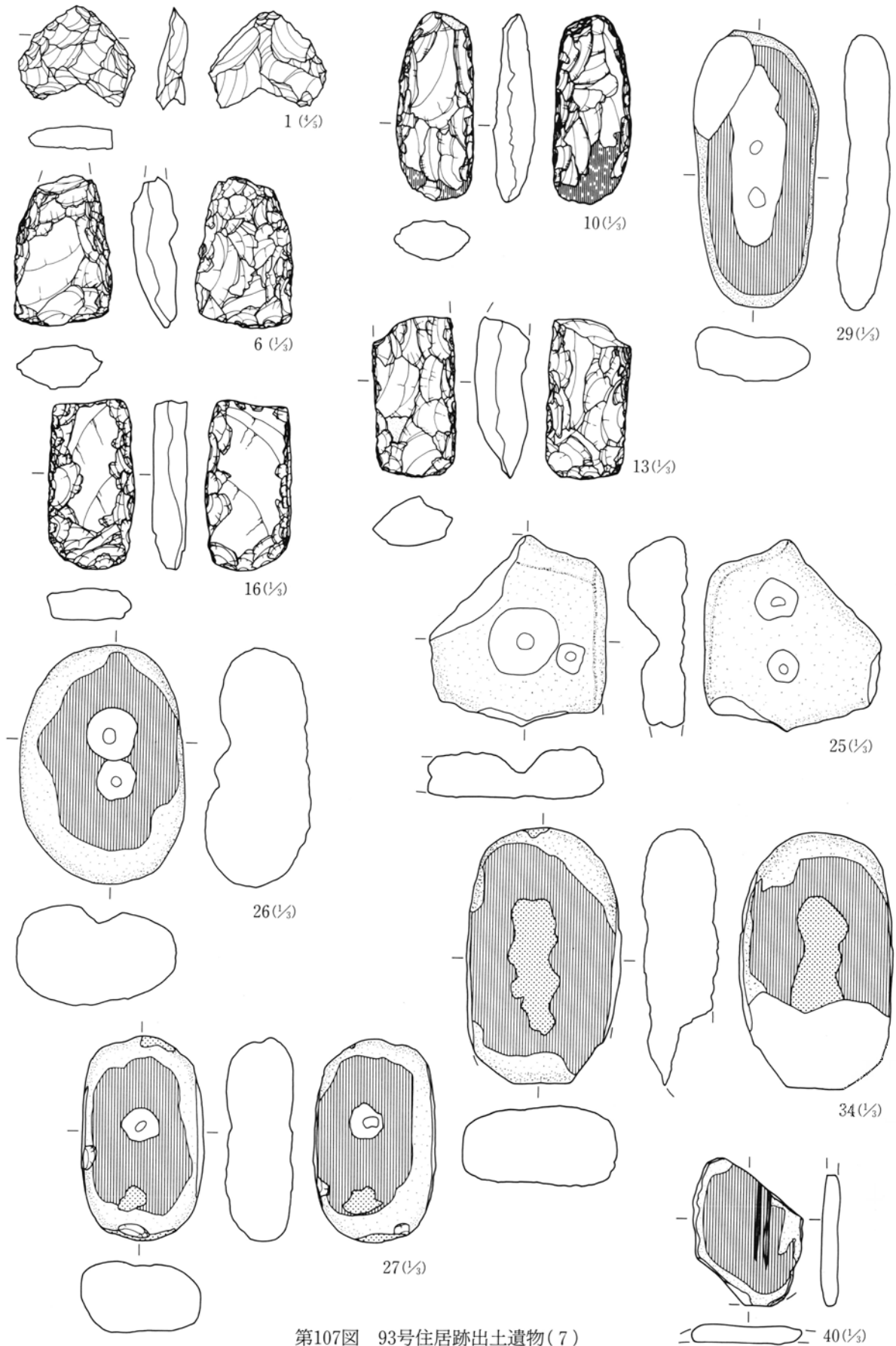
14は深鉢型土器の胴部から底部。底径14.6cm。連弧状の区画文が隆帯によって描かれ、連弧間には垂下した部分に篋押し文を持つ「Y」字状文が付されている。弧文の中は縦の沈線で充填されている。8と共通のモチーフである。

15は胴部片。沈線による楕円文と縦に沈線。楕円文内には「C」字状の刺突文が配される。

16は胴部から底部。底径(8.0cm)。やや細身で、胴上半部分に最大径を持つ。撚糸文Rが全面施文される。

17は口縁部片。口縁部は隆帯により、渦巻文が構成される。

- 18は口縁部片。無文の口縁部分に隆帯が垂下する。
- 19は口縁部片。口縁部に横位の刺突文が見られる。
- 20は口縁部片。口縁部に2本の横位沈線を廻し、そこから縦方向に沈線を下げ区画し、区画内には縄文 RL が施文される。
- 21は胴部片。矢羽状の刻みを持つ横位隆帯と縦位の沈線文。縦位条線が見られる。
- 22は胴部片。隆帯による渦巻文が描かれ、隆帯上には矢羽状に刻みが付されている。空隙部分には縦の沈線が見られる。
- 23は胴部片。刻みを持った隆帯文、および印刻による三叉文が見られる。
- 24は胴部片。円形の押圧文を持った隆帯と波状隆帯が縦位に付される。
- 25は胴部片。縦位撚糸文 R か。
- 26は胴部片。無節縄文が多方向施文される。
- 27は胴部片。中央に凹線を伴う縦位隆帯および縄文が施文される。
- 28は胴部片。縄文 RL が施文される。
- 29は胴部片。縦位沈線文。
- 30は把手部分。横向きの環状把手か、環部分を欠損している。上面土器との接合部に三叉文が見られる。
- 31は把手部分。上下方向の眼鏡状を呈すものと思われるが、欠損している。
- 32は口縁部、扇状把手部分。隆帯に刻みを持ち、沈線による平行線文、山形文が見られる。
- 33 底部。底径 (16.0cm)。無文である。



第107図 93号住居跡出土遺物(7)

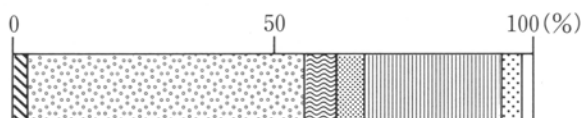
第1節 縄文時代の住居跡と出土遺物

93号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	完形	2.2	2.6	0.7	3.0	黒曜	未製品。凹基無茎鏃か。
2	打斧	覆土	完形	9.4	4.9	1.8	82.0	珪頁	刃部磨耗。II b類。
3	打斧	覆土	完形	9.0	4.1	6.8	78.8	珪頁	刃部再調整により斜状。II b類。
4	打斧	覆土	一部欠	9.8	5.2	1.4	92.8	硬泥	刃部磨耗。基部わずかに欠損。II b類。
5	打斧	下位	1/2	7.8	5.2	1.9	77.9	細安	刃部欠損。II a類。
6	打斧	下位	2/3	7.9	5.1	2.4	100.3	硬泥	基部欠損。II b類。
7	打斧	下位	1/2	7.5	4.4	1.5	56.9	粗安	刃部欠損。II b類。
8	打斧	覆土	1/2	7.3	5.1	1.7	59.2	硬泥	基部欠損。III類。
9	打斧	床直	完形	9.2	3.7	1.6	56.8	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。III類。
10	打斧	床下	完形	9.8	4.1	2.2	96.6	硬泥	刃部磨耗。III類。
11	打斧	覆土	完形	8.6	4.8	1.6	85.8	粗安	刃部磨耗。III類。
12	打斧	覆土	3/4	11.3	5.2	2.5	178.4	硬泥	刃部欠損。III類。
13	打斧	下位	1/2	8.4	4.4	2.8	117.9	硬泥	基部欠損。III類。
14	打斧	覆土	破片	4.3	4.7	1.3	36.7	細安	基部破片。形状不明。
15	磨斧	下位	完形	12.3	5.5	4.5	368.4	変玄	未製品。敲打により整形後基部の一部研磨。
16	打斧	床下	2/3	8.9	4.5	1.8	144.3	変玄	基部欠損。III類。
17	石核	覆土	完形	10.7	8.3	3.3	292.8	硬泥	剥片の周辺を折り取るように剥片剥離。
18	石核	床直	完形	7.2	9.2	2.3	144.2	粗安	剥片の背面側で一部周辺から剥片剥離。
19	石核	覆土	完形	8.1	8.0	2.5	161.0	細安	小型盤状の円礫の一端両面で剥片剥離。
20	石核	床下	完形	5.5	7.0	2.7	82.9	黒安	盤状の石核。主に表面で周辺から剥片剥離。
21	石核	下位	完形	7.5	7.3	5.7	351.2	赤珪	礫の分割面を打面とし、周辺で剥片剥離。
22	石核	床下	完形	8.3	6.5	3.5	222.7	硬泥	剥片の腹面側で両極打撃による剥片剥離。
23	石核	床下	完形	11.5	8.7	4.8	480.3	硬泥	剥片の両面で一部周辺から少数の剥片剥離。
24	石核	床下	完形	12.1	9.8	6.3	715.8	硬泥	厚手の盤状石核。両面で周辺から剥片剥離。
25	凹石	床下	2/3	10.0	9.3	3.2	294.0	凝砂	盤状の角礫。表裏に凹み。
26	凹石	床下	完形	12.3	8.8	5.6	798.9	粗安	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面。
27	凹石	床直	完形	10.6	6.4	3.7	462.1	変玄	盤状の円礫。表裏に凹み・研磨面。両側を面取り。両端に敲打痕。
28	凹石	床下	完形	10.2	9.9	5.5	679.9	粗安	円盤状の円礫。表裏に凹み・研磨・敲打痕。両端・両側に敲打痕。
29	凹石	床下	ほぼ完	14.3	6.6	2.6	262.0	砂岩	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面。裏面磨滅著しい。
30	敲石	床下	完形	10.8	8.7	4.7	549.1	粗安	盤状の円礫。ほぼ全周に敲打痕。
31	磨石	床下	2/3	9.8	8.8	5.8	585.6	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨・敲打痕。上端に敲打痕。下部欠損。
32	磨石	床下	2/3	9.7	9.1	6.1	693.2	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。上端敲打痕。下部欠損。
33	磨石	床下	一部欠	13.5	8.4	4.5	671.5	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨・敲打痕。左側に敲打痕。上端一部欠損。
34	磨石	床下	2/3	13.5	8.1	4.2	561.3	粗安	盤状の円礫。両側面取り。表裏に敲打・研磨面。上端に敲打痕。
35	磨石	床下	1/3	6.8	7.1	5.1	281.0	粗安	両側面取り。表裏研磨面。上端敲打痕。下部欠損。
36	磨石	覆土	破片	5.8	7.7	3.5	136.9	粗安	盤状の円礫。表面に弱い研磨。上端に敲打痕。
37	磨石	床下	完形	13.3	9.5	8.0	1150.3	デイ	棒状の円礫。表裏に弱い研磨。器表面の風化激しい。
38	磨石	床下	完形	12.5	10.5	7.0	1212.6	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨・敲打痕。両端に敲打痕。器表面の風化激しい。
39	磨石	床下	完形	11.5	6.8	4.6	471.8	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
40	砥石	覆土	破片	5.8	7.7	1.1	49.2	砂岩	薄い盤状の亜角礫。表面に使用面・浅い溝2条。
41	台石	下位	1/3	13.1	24.9	6.1	2750.0	変安	盤状の円礫。表面に使用面。

93号住居跡器種組成表

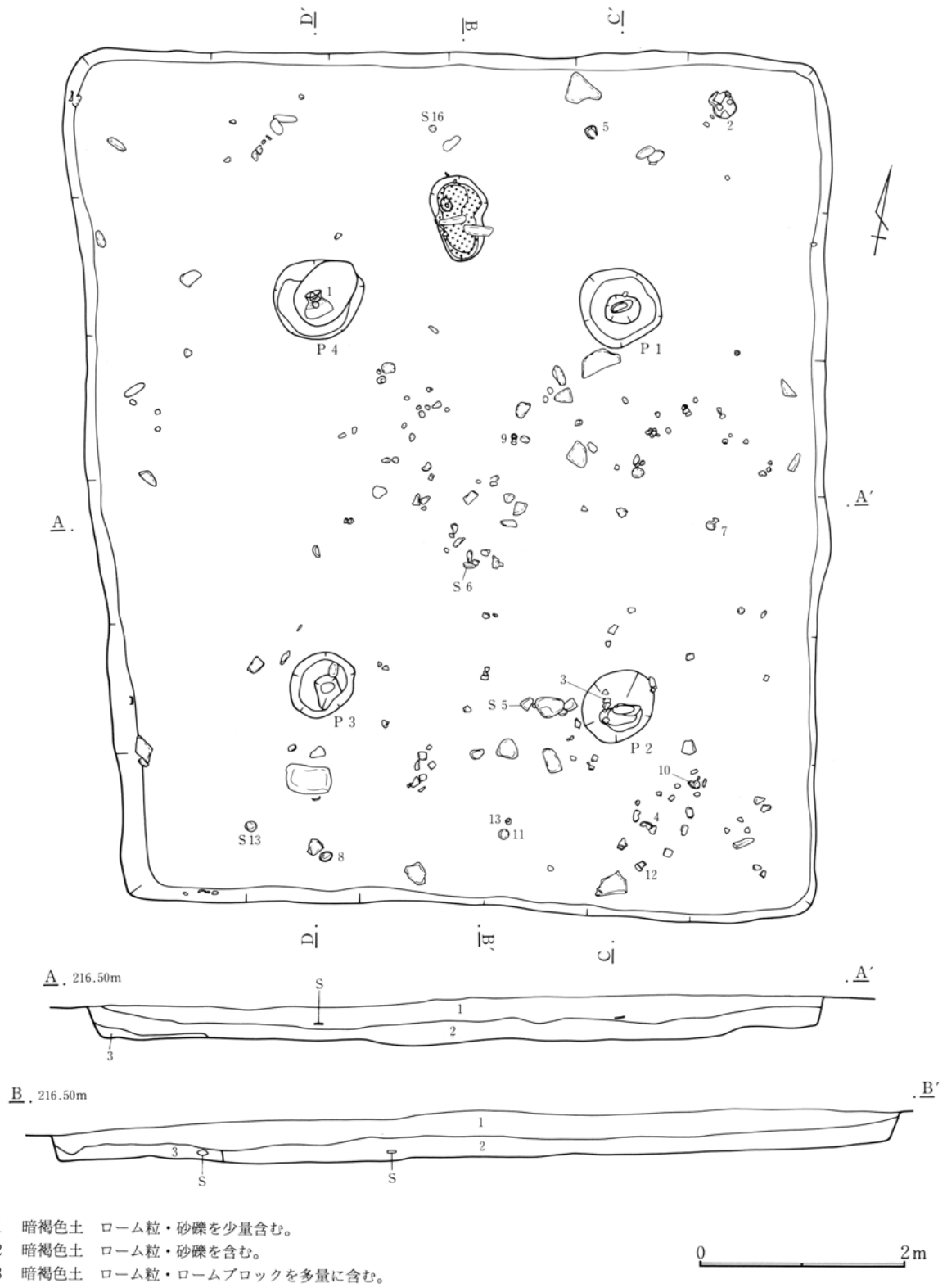
器種	石鏃	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	砥石	台石	剥片
個数	1	14	1	12	9	10	5	1	9	1	1	48



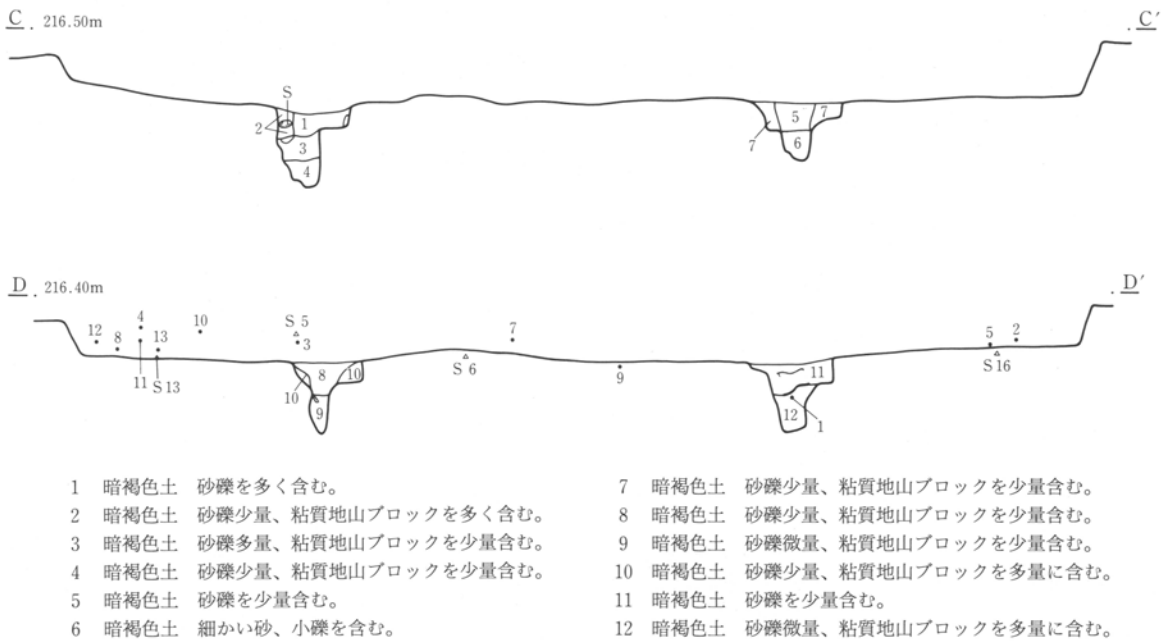
93号住居跡石材重量組成グラフ

第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物

2号住居跡 (第108~112図、PL12・195・234)

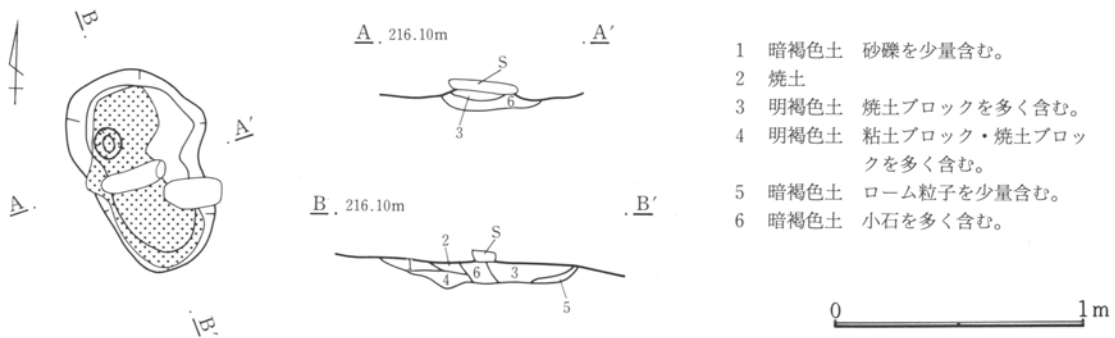


第108図 2号住居跡



0 2m

第109図 2号住居跡 柱穴



0 1m

第110図 2号住居跡 炉

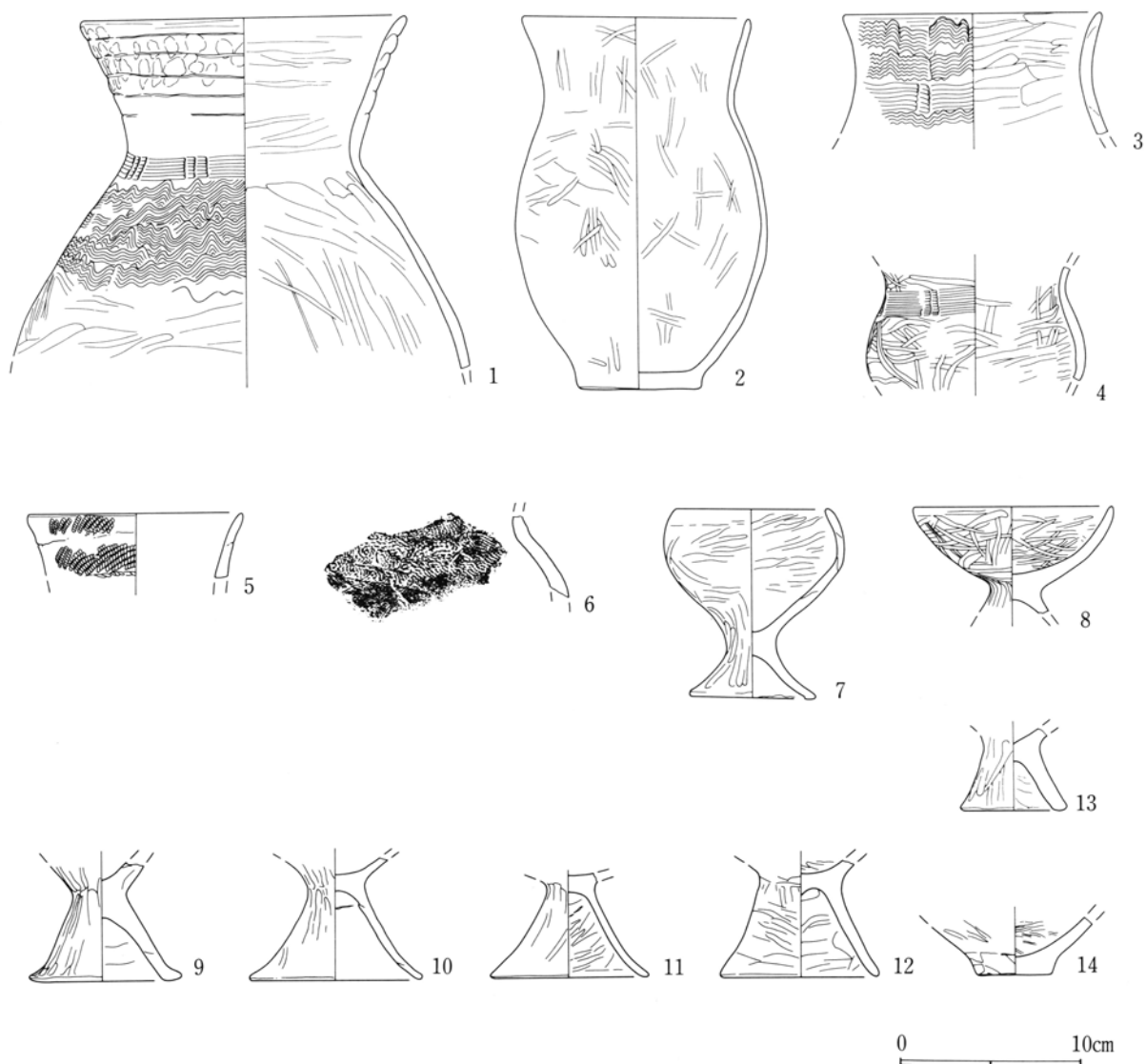
2号住居跡はほぼ正方形を呈する。北東コーナー部は直角であるが、西壁と南壁がやや短くなっており、そのため南西壁は鈍角となる。

床面は若干の凹凸はあるものの、ほぼ平坦である。地山を掘り込み、その面を床面としている。柱穴は住居のほぼ対角線上に4ヶ所確認された。

炉は北壁近くの柱穴より外側に確認できた。地山を浅く掘り凹めて造られており、2個の炉石とともに、使用面にはほぼ全面に焼土が残されていた。

遺物は住居の全域から出土している。土器については甕・高坏があるが中規模の甕についてはいずれも破片である。石器は磨石・凹石・打製石斧等がある。

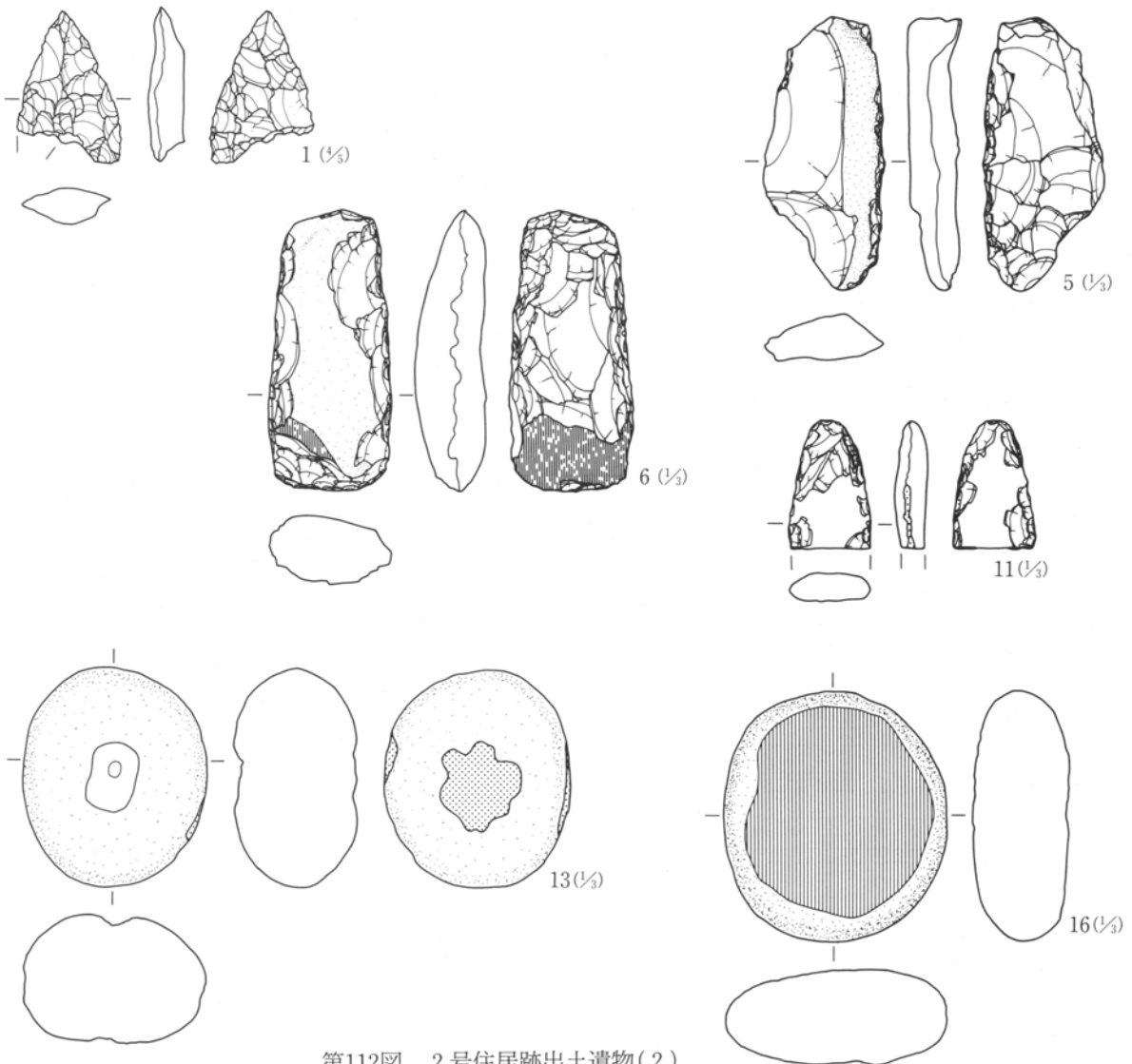
第2章 検出された遺構と遺物



第111図 2号住居跡出土遺物(1)

2号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値(mm)			文様の特徴			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置	備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	胴(c)		幅(mm)	本数						
1	195	甕	180			a 5 積上 b 3 止簾 c 5 波	13/7		口ミガキ 胴ナデ	ミガキ	A	橙	胴被熱	口〜胴	ビット4		
2	195	小型甕	127	210	68					ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	胴下被熱	口〜底1/3	埋土	
3		小型甕	(144)			a 2 波 b 2 止簾 c 波	15/8			ミガキ		A	にぶい黄橙	被熱	口片	埋土	
4		(台付甕)				b 2 止簾	16/9			ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	胴被熱か	頸〜胴1/2	埋土	
5		小型甕	(120)			a 斜縄	LR					A	にぶい橙		口1/4	ビット2	
6		壺				c 編紐				ミガキ		A	にぶい橙		肩片	埋土	
7	195	小型台付鉢	(85)	104	70					ミガキ	ミガキ	B	橙		口〜体1/2欠	埋土	
8	195	小型高杯	112							ミガキ	ミガキ	A	淡黄		杯部のみ	床入口中央	
9	195	高杯			(84)					ナデ	ミガキ	D	橙		胴1/2	埋土	
10	195	小型高杯			96					ナデ	ミガキ	D	淡黄		脚のみ	床入口	
11	195	小型高杯			89					ミガキ	ミガキ	A	淡黄		脚のみ	埋土	
12		台付甕			87					ケズリ	ミガキ	C	橙	被熱	脚のみ	床中央	
13		小型台付甕			60					ナデ	ミガキ	C	橙	被熱	脚のみ	埋土	
14		(鉢)			40					ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		底部	埋土	



第112図 2号住居跡出土遺物(2)

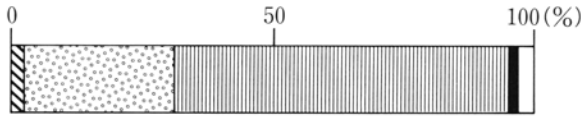
2号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	一部欠	2.6	1.8	0.7	2.1	黒曜	凹基無茎鏃。左脚欠損。
2	楔	覆土	完形	2.8	2.0	0.9	3.4	黒曜	表面周辺に調整。裏面両端に剥離痕。
3	打斧	覆土	完形	11.4	5.8	2.1	141.2	頁岩	刃部先端磨耗。II b類。
4	打斧	覆土	1/2	12.4	5.8	1.8	1232.0	硬泥	両端欠損。形状不明。
5	打斧	下位	一部欠	11.2	5.1	2.2	121.9	硬泥	刃部一部欠損。II b類。
6	打斧	床下	完形	11.7	5.2	3.0	226.9	粗安	刃部磨耗。II b類。
7	打斧	覆土	一部欠	10.3	5.4	2.2	143.4	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。III類。
8	打斧	中位	1/3	8.9	4.6	1.6	57.5	硬泥	基部欠損。形状不明。刃部磨耗。
9	打斧	覆土	1/3	7.0	4.7	1.5	67.1	硬泥	基部破片。形状不明。
10	打斧	覆土	1/2	8.7	5.9	2.0	91.2	硬泥	両端欠損。形状不明。
11	磨斧	覆土	1/2	5.3	3.4	1.4	40.5	変玄	両面に剥離痕残す。刃部欠損。
12	石核	床下	完形	8.8	9.7	5.4	392.0	硬泥	剥片端部の背面側で剥片剥離。
13	凹石	床下	完形	9.1	7.7	5.3	506.6	粗安	円盤状の円礫。表面に凹み。裏・両側に敲打痕。器表面磨耗激しい。
14	敲石	中位	完形	10.9	9.0	2.7	384.1	粗安	円盤状の円礫。両側に敲打による剥離痕。
15	磨石	中位	破片	12.2	3.5	3.8	176.5	変安	側辺面取り。両面に研磨面。両端に敲打痕。
16	磨石	床下	完形	10.4	9.3	4.0	532.7	粗安	円盤状の円礫。表面に弱い研磨面。
17	砥石	覆土	破片	5.4	4.1	1.1	24.4	砂岩	盤状の円礫。表裏に使用面。表面に溝2条。

第2章 検出された遺構と遺物

2号住居跡器種組成表

器種	石鏃	楔	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	砥石	剥片
個数	1	1	8	1	13	15	10	1	1	2	1	72



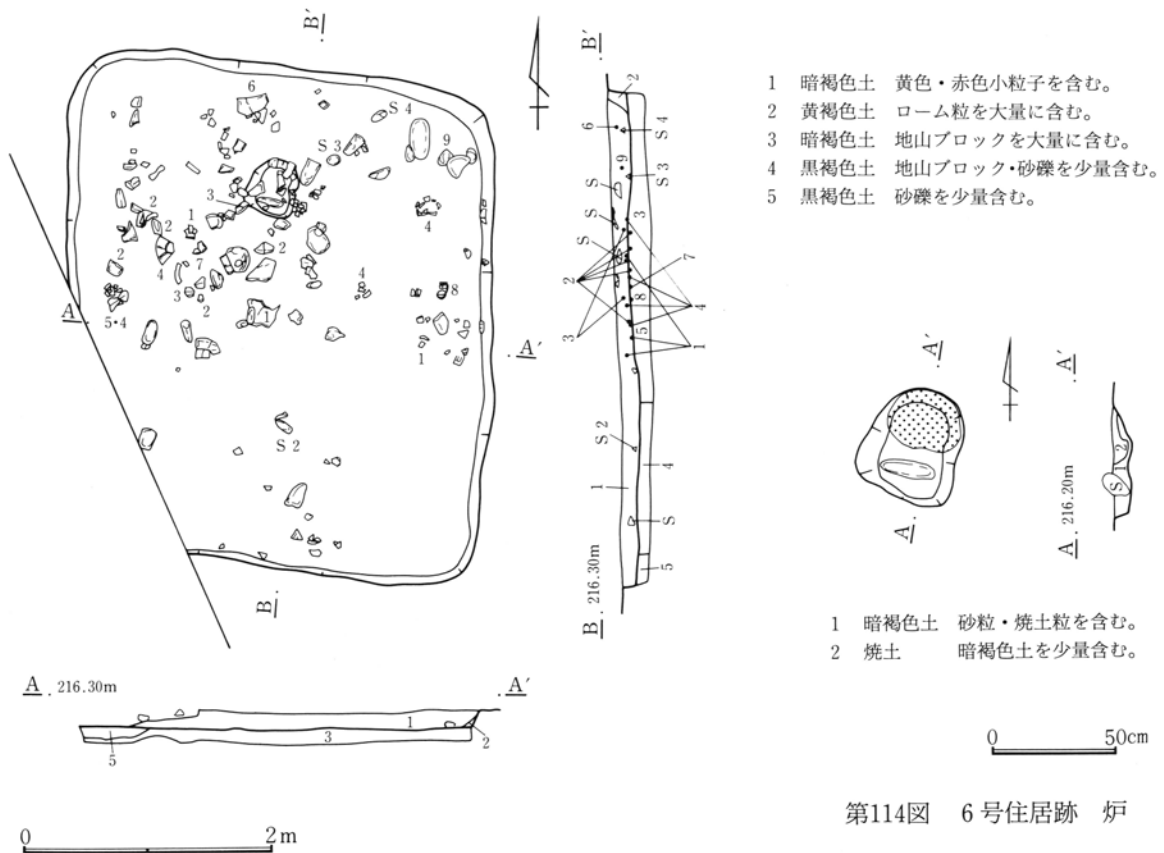
2号住居跡石材重量組成グラフ

6号住居跡 (第113~116図、PL12・195・234)

小規模な住居跡である。平面形は隅丸長方形であるが、やや菱形である。西南コーナー部は調査区域外となっている。

床面は概して平坦ではあるが、部分的には凹凸もみられる。床面は貼床で、直径2cm~5cmの地山ブロックを多量に含む暗褐色土を貼っている。柱穴は確認されなかった。掘り方は約12cmと深いが、ほぼ平坦である。

炉は住居中央と北壁のほぼ中間に確認された。炉は35cm×45cmの規模で、皿状に掘り凹められており、河原石の炉石が炉内南寄りに置かれていた。また炉内北半部には20cm×30cm、深さ6cmの範囲に焼土が堆積し



第113図 6号住居跡

第114図 6号住居跡 炉

ていた。

出土遺物として壺・甕・高杯・凹石・磨石・石核があり、床面より2cm～5cmほど浮いた状態での出土が多い。住居内での遺物出土位置は炉が位置する北半部に集中している。

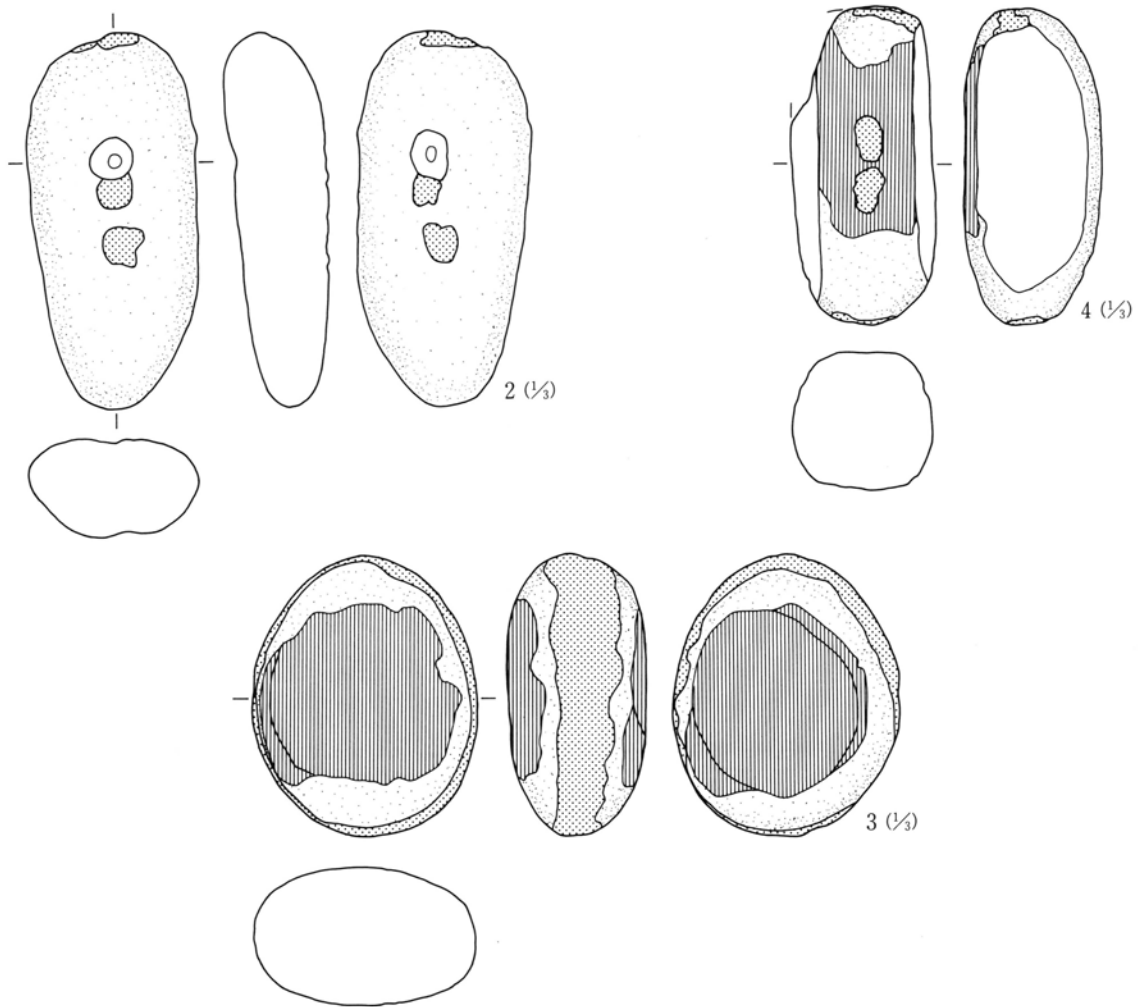


第115図 6号住居跡出土遺物(1)

6号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	胴(c)		幅(mm)/本数	内					
1	195	大型壺	266			b 4 止簾 c 波		17/10	剝離	ミガキ	B	橙		口～頸2/3	埋土	
2	195	壺	213			a 波 b 3 止簾 c 波		15/8	ミガキか	ミガキ	E	にぶい橙		口～肩	埋土	
3		(壺)				b 3 止簾 c 波		16/8	口ミガキ削ナデ	ミガキ	A	にぶい黄橙		肩片	埋土	
4	195	小型甕	140			a 4 波 b 2 止簾 c 2 波		17/13	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	胴下被熱	口～胴3/4	埋土	
5	195	小型甕	124	174	66	a 3 積上			ミガキ	ミガキ	C	にぶい赤褐	全体被熱	3/4	埋土	
6	195	小型甕	(120)			a 2 波 b 2 止簾 c 2 波		14/9	ミガキ	ミガキ	A	褐色	胴被熱	口～胴2/3	埋土	
7		小型甕	(115)			a 斜縄 c 斜縄			ミガキ	ナデ	G	褐色		口片	埋土	
8	195	高杯	(125)			a 2 積上			口ナデ削ミガキ	ミガキ	A	橙		口～体1/2	埋土	
9	195	鉢	(158)	78	48				ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙		口～底1/3	埋土	
10		有孔鉢			50	孔18			ミガキ	剝離	B	にぶい黄橙		底1/2	埋土	

第2章 検出された遺構と遺物



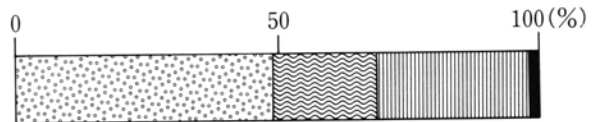
第116図 6号住居跡出土遺物(2)

6号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石核	下位	完形	11.3	8.2	5.8	544.8	硬泥	礫の両面で周辺から剥片剥離。
2	凹石	下位	完形	14.8	6.8	4.1	508.5	変安	盤状の円礫。表裏に浅い凹みと敲打痕。上端に敲打痕。
3	磨石	下位	完形	11.1	8.9	5.5	792.8	粗安	円盤状の円礫。表裏に研磨面。側面全周に敲打痕。
4	磨石	下位	一部欠	12.5	5.8	5.4	534.9	デイ	両側を面取り。表面に敲打痕・研磨面。両端に敲打痕。

6号住居跡器種組成表

器種	二次	微細	石核	凹石	磨石	剥片
個数	3	2	3	1	2	19

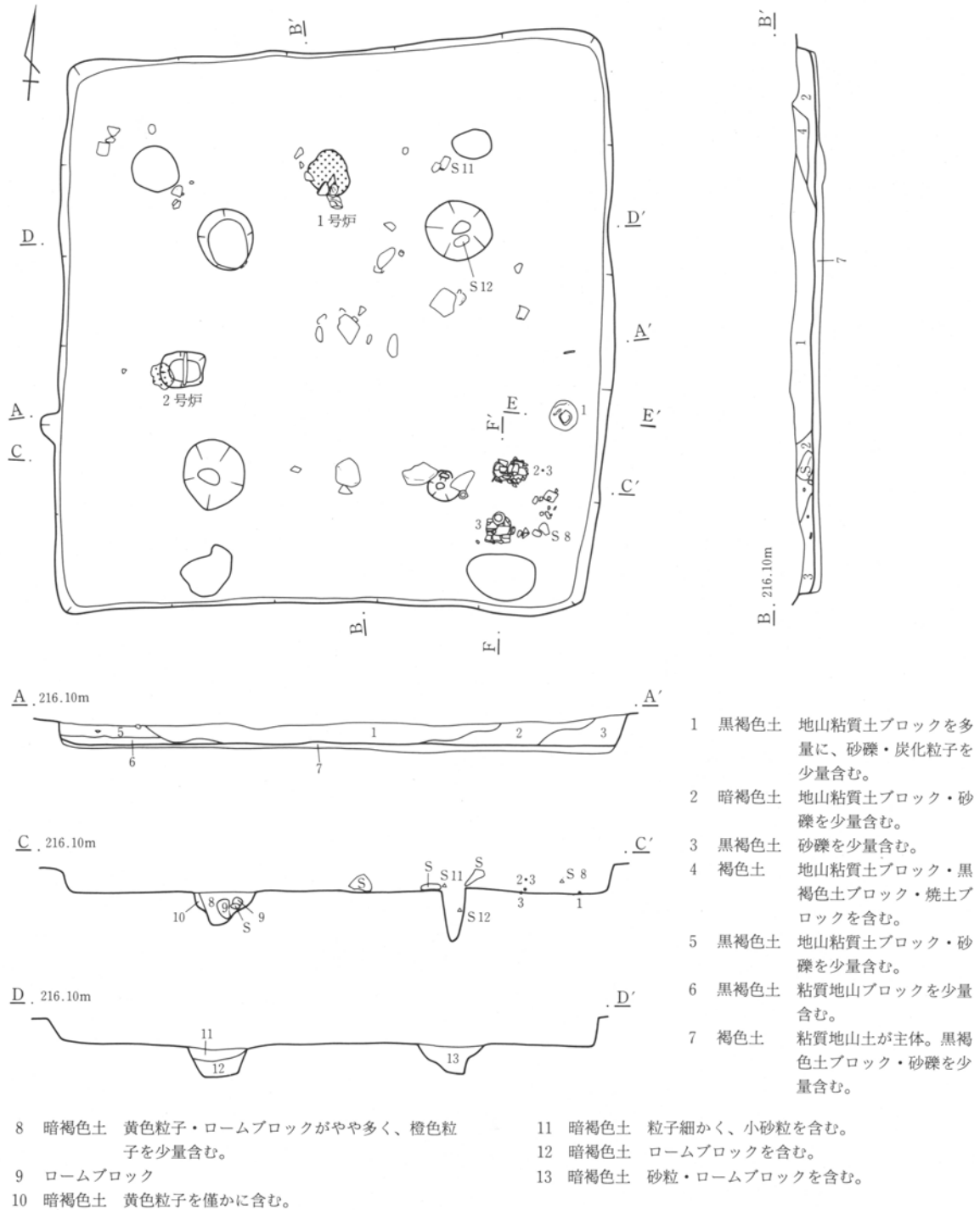


6号住居跡石材重量組成グラフ

10号住居跡 (第117~122図、PL12・13・195・235)

住居はほぼ正方形を呈するが、西壁が東壁に比べてやや短くなっている。床面は地山の粘質土を貼っており、平坦である。柱穴はほぼ対角線上に4本確認されている。掘り方は浅く、比較的平坦である。

炉は2ヶ所確認された。共に柱穴の外側で、1号炉跡は北壁近く、2号炉跡は柱穴の西側である。1号炉は皿状の浅い掘り込みで、使用面には全面焼土が確認された。2号炉跡は中央南北に炉石が置かれており、



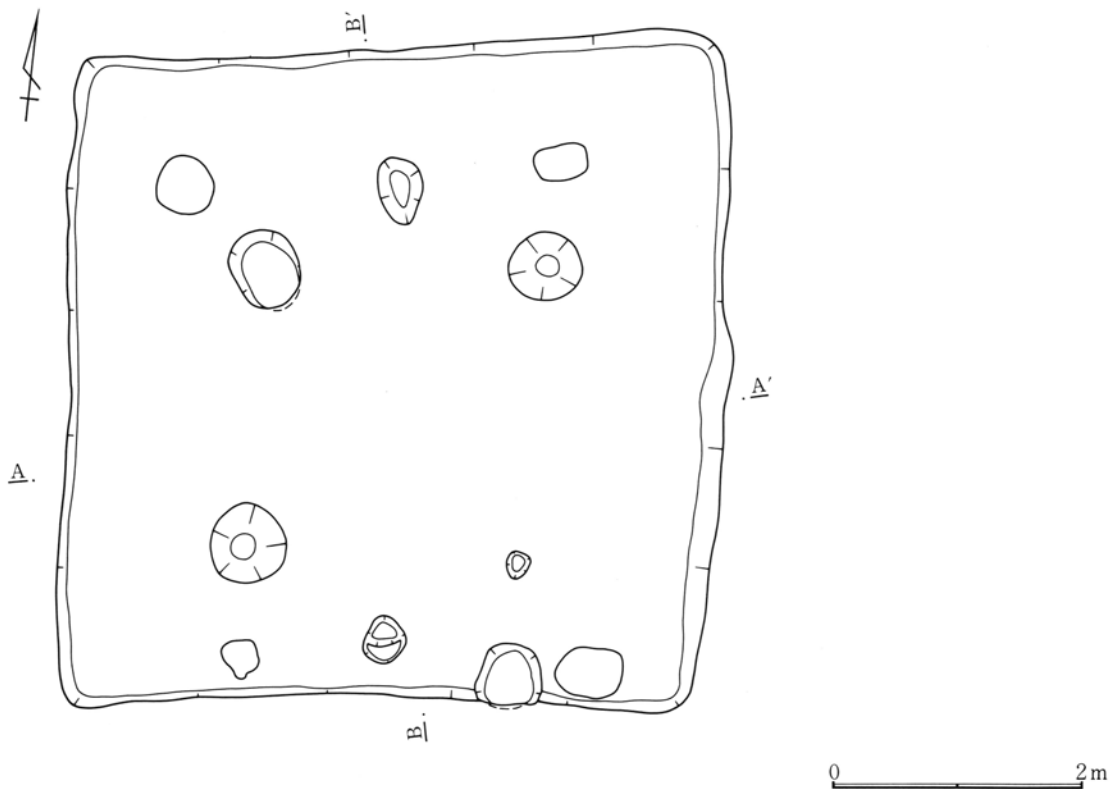
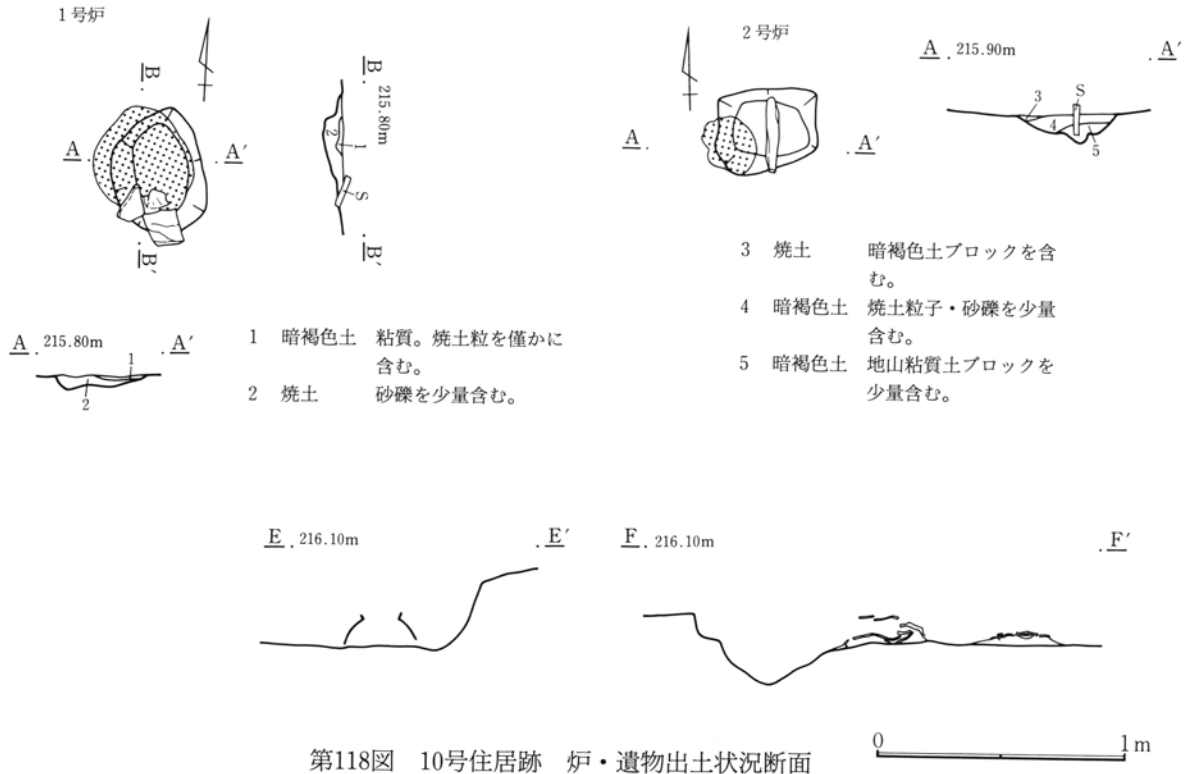
第117図 10号住居跡

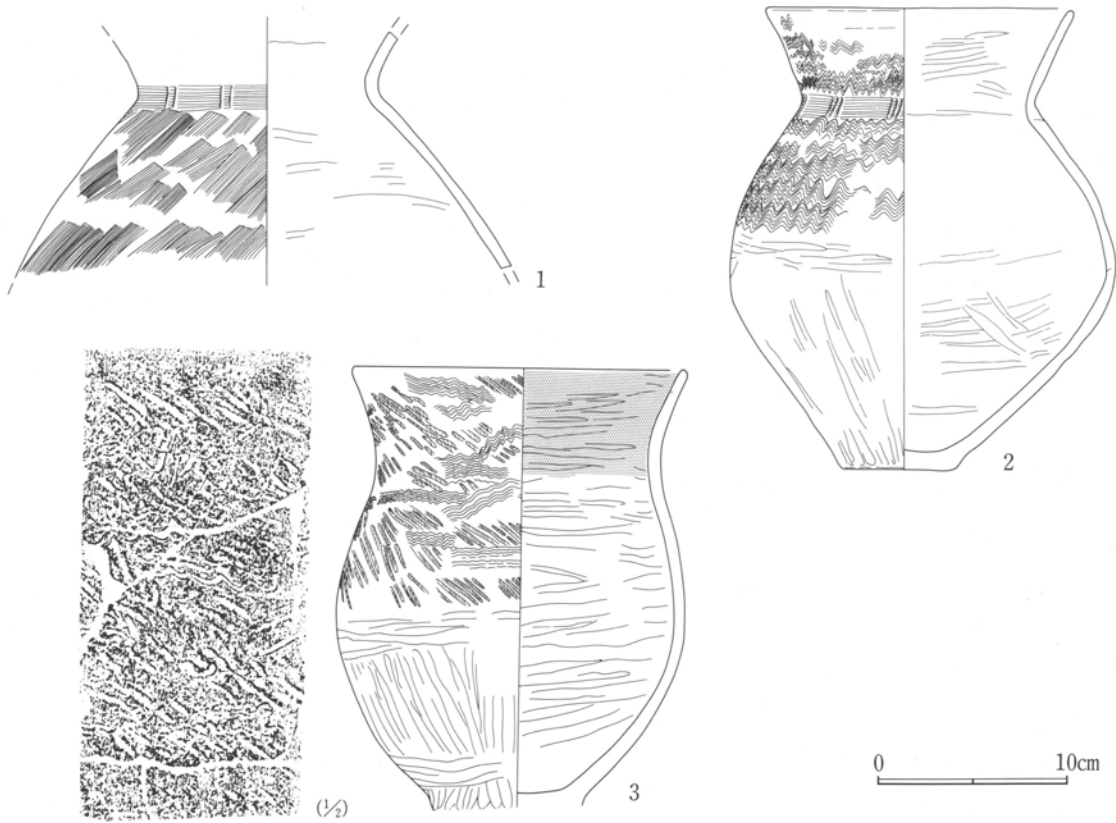
0 2m

第2章 検出された遺構と遺物

使用面に遺存した焼土は量も少なく範囲も狭い。

出土遺物としては壺・甕のほか、磨石・打製石斧・石錘等がある。いずれも床面付近の出土である。

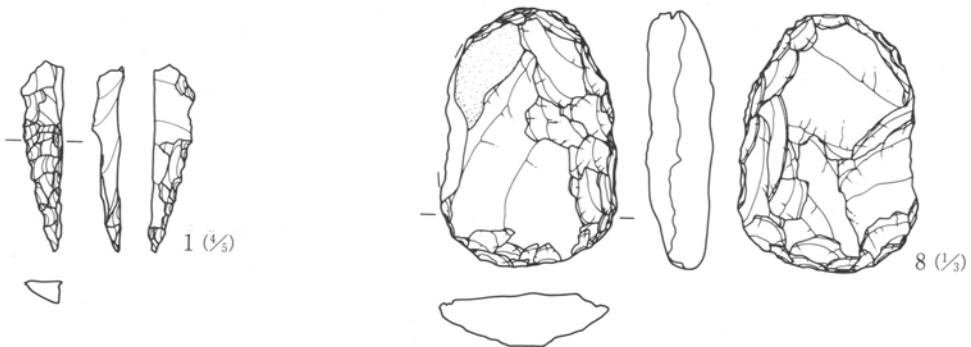




第120図 10号住居跡出土遺物(1)

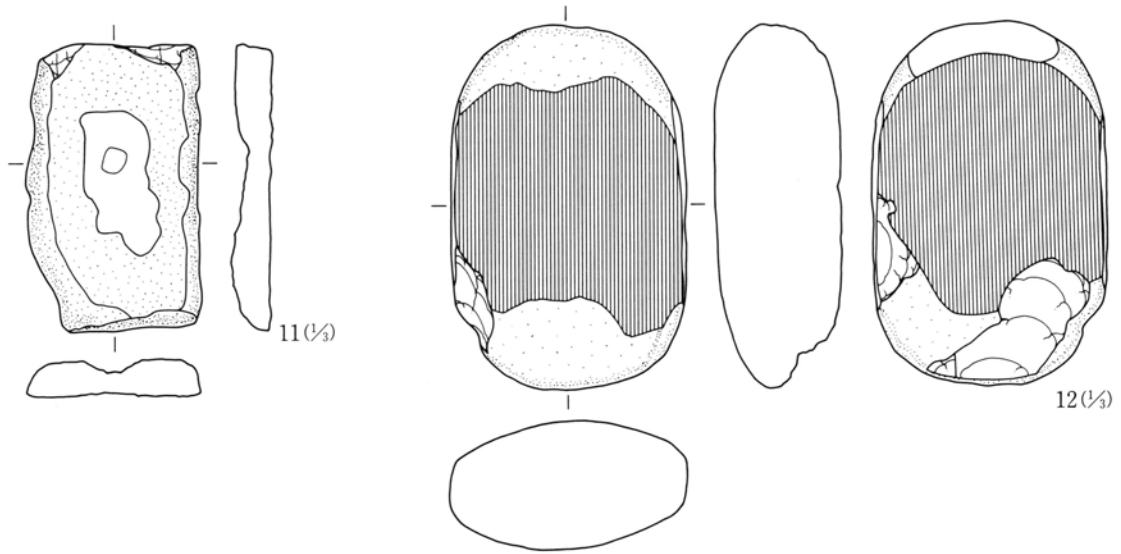
10号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	肩(c)		幅(m)/本数	内					
1		壺				a 2 止簾 c 3 斜線	14/8	ナデ	ミガキ	D	にぶい橙		頸～肩	床壁際		
2	195	甕	(163)	242	60	a 4 波 b 3 止簾 c 5 波	13/8		ミガキ	ミガキ	C	にぶい橙	肩煤刷被熱	口胴一部欠	床壁際 内面コゲ	
3	195	甕	178	236	78	a～c 斜縄の上に波	R		ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	胴被熱か	口一部欠	床壁際	



第121図 10号住居跡出土遺物(2)

第2章 検出された遺構と遺物



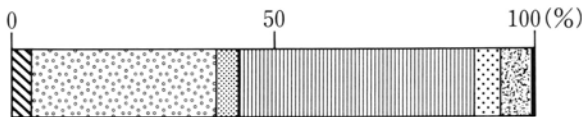
第122図 10号住居跡出土遺物(3)

10号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石錐	覆土	完形	3.1	0.7	0.6	0.6	黒曜	調整は表面と裏面右側。
2	SS	覆土	2/3	11.2	4.6	1.4	73.7	粗安	横長剥片素材。器体左側に刃部形成。下部欠損。
3	打斧	覆土	完形	11.3	4.5	2.7	144.1	硬泥	細身で刃部わずかに広がる。撥形。
4	打斧	覆土	完形	10.1	4.8	2.2	102.7	硬泥	II b類。
5	打斧	覆土	完形	8.9	4.5	1.8	72.2	硬泥	刃部磨耗。II b類。
6	打斧	下位	1/2	9.0	5.0	2.5	130.6	硬泥	刃部欠損。形状不明。
7	打斧	覆土	1/2	7.4	5.0	1.4	51.0	硬泥	刃部破片。磨耗みられる。
8	打斧	下位	ほぼ完	10.2	7.1	2.7	197.0	砂岩	幅に比して長さ短い。左側一部欠損。II b類。
9	磨斧	下位	1/2	8.1	4.7	2.5	152.5	変玄	表裏に剝離・敲打痕残す。刃部欠損。
10	石核	下位	完形	9.8	7.3	3.6	295.5	硬泥	盤状石核。両面で周辺から剥片剝離。
11	凹石	下位	1/2	11.3	7.0	1.7	236.3	緑片	盤状の円礫。表面に凹み。裏面剝落。
12	磨石	P内	ほぼ完	14.2	9.4	5.0	1076.3	粗安	盤状の円礫。両側を面取り。表裏に研磨面。

10号住居跡器種組成表

器種	石錐	SS	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	磨石	剥片
個数	1	1	6	1	4	4	3	1	1	22

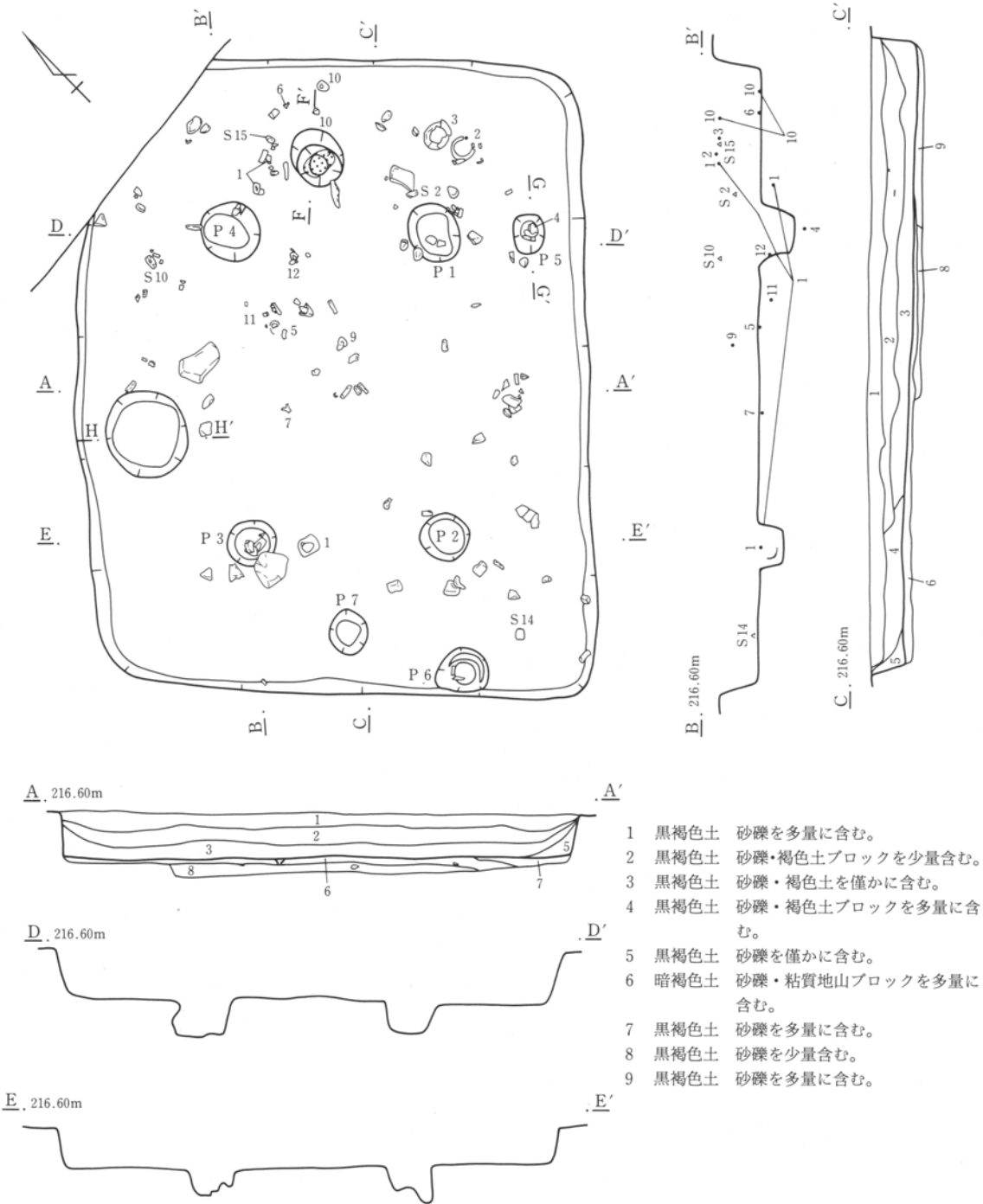


10号住居跡石材重量組成グラフ

13号住居跡 (第123~128図、PL13・196・235・236)

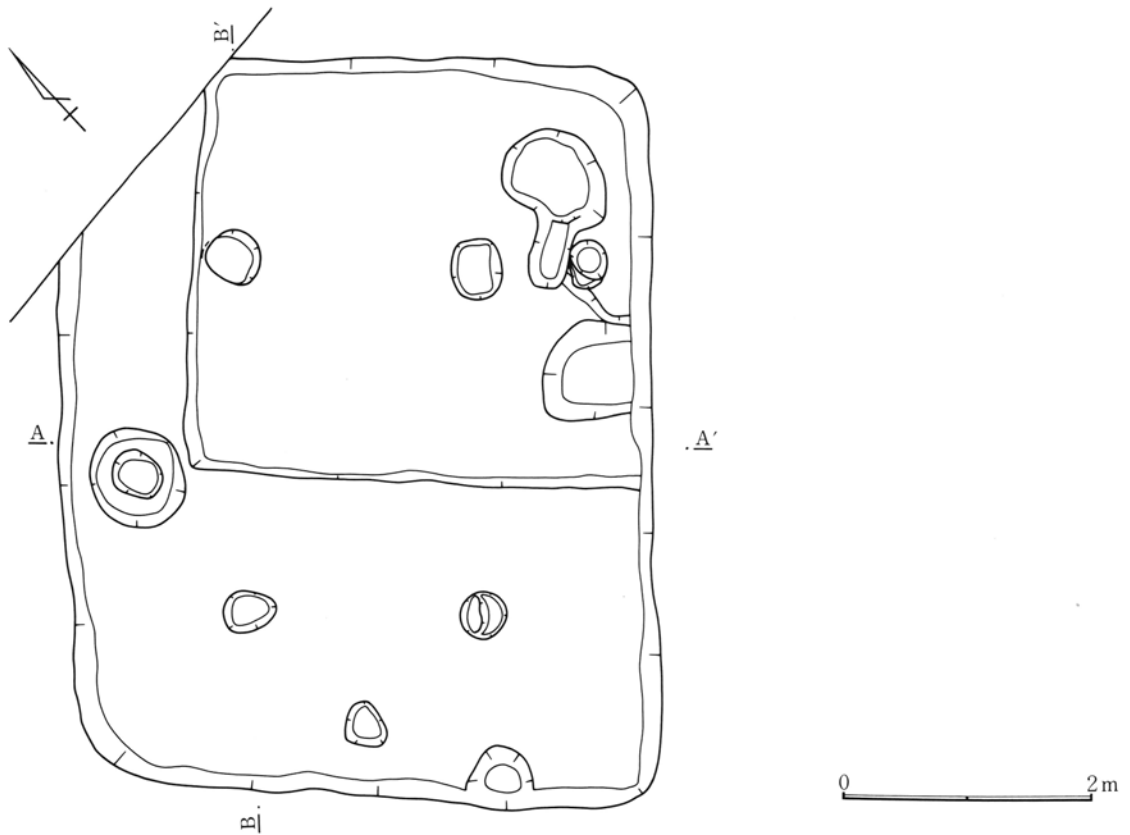
住居の形態は隅丸長方形である。床面は砂礫を多量に含んだ黒褐色土で貼床としており、平坦ではあるがやや軟弱である。

柱穴は対角線上に4ヶ所存在する。またこの柱穴の外側に柱穴状のPitが3ヶ所存在する。掘り方はほぼ平坦であるが、西壁近くには床下土坑があり、住居の北東部分には約10cmほど深くなった方形の部分がある。

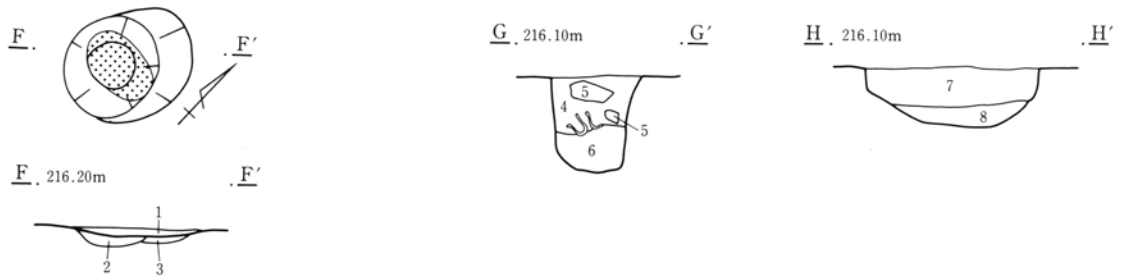


第123図 13号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物



第124図 13号住居跡 掘り方



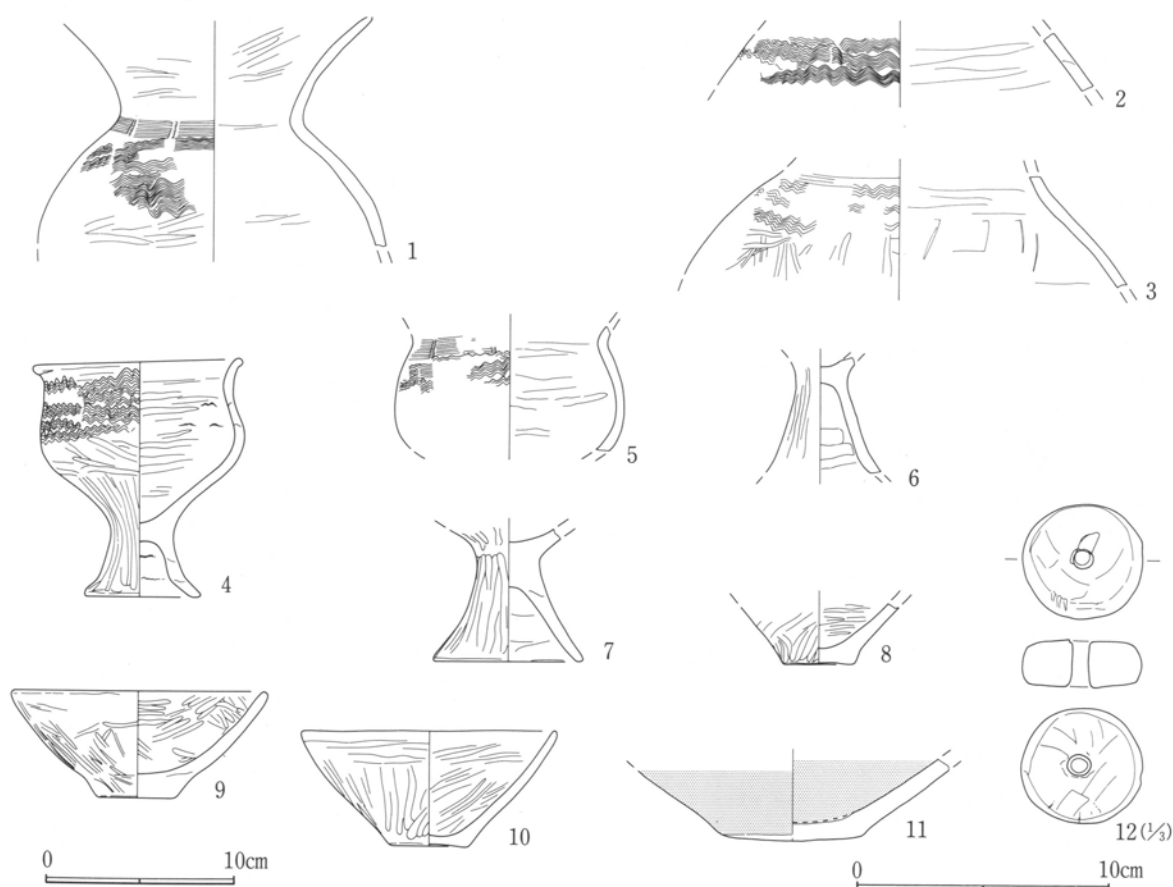
- | | | | |
|---------|------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒子を多く、砂礫を若干含む。 | 4 黒褐色土 | 砂礫・褐色土ブロックを少量含む。 |
| 2 暗赤褐色土 | 焼土を主体とし、砂礫を少量含む。 | 5 褐色土 | 粘質地山ブロック。 |
| 3 暗褐色土 | 砂礫を少量含む。 | 6 暗褐色土 | 黒褐色土ブロックを少量含む。 |
| | | 7 黒褐色土 | 砂礫・炭化粒子を少量含む。 |
| | | 8 黒褐色土 | 砂礫を少量含む。 |

第125図 13号住居跡 炉・床下 Pit・土坑

炉跡は柱穴の外側、北側壁との間で確認された。浅く皿状に掘り込んでおり、使用面には焼土が遺存していた。

出土遺物には土器と石器がある。土器は甕・壺・小型甕・高坏・紡錘車が、石器は磨石・打製石斧・磨製石斧・石棒・石核等が出土している。

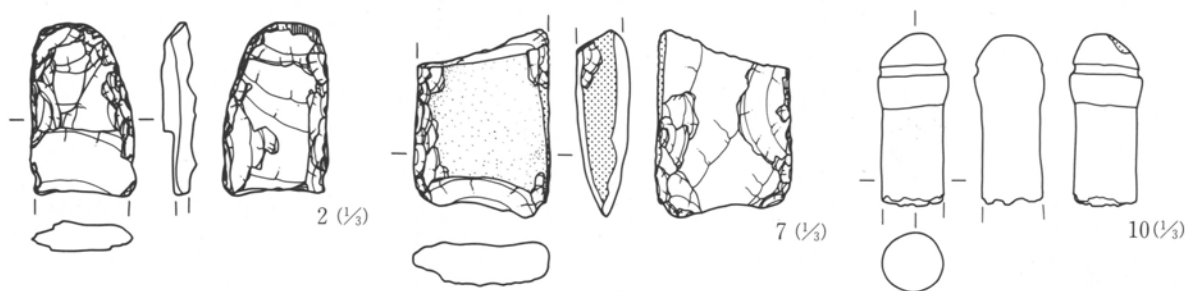
第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物



第126図 13号住居跡出土遺物(1)

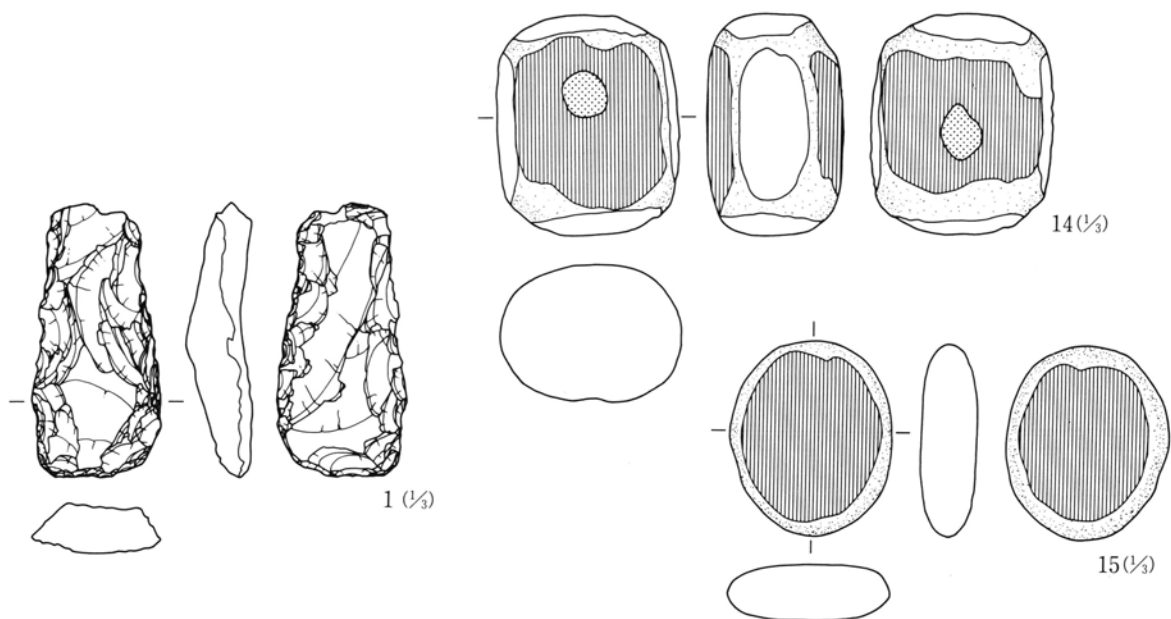
13号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴			施文具 幅(mm)/本数	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置	備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	肩(c)		内	外						
1	196	壺	(167)			b 2止簾 c 6波		13/-	ミガキ	ミガキ	C	橙		口～肩3/4	床中央		
2		壺				c波		10/7	ナデ	—	B	明黄褐		肩	埋土		
3		壺				b簾 c 3波			ナデ	ミガキ	A	橙	被熱	肩	炉周辺		
4	196	小型台付壺	110	123	60	a～c 4波		11/6	口ナデ肩ミガキ	ミガキ	A	褐色	胴中被熱	完形	不明		
5	196	台付壺				b 2止簾 c波		-/-	ミガキか	胴ミガキか	A	にぶい黄橙	被熱か	頸～胴1/2	埋土		
6		高杯							ナデ	ミガキ	D	淡黄		脚柱部	床奥		
7	196	台付壺			76				ナデ	ミガキ	A	にぶい橙	被熱	脚のみ	床中央		
8		小型鉢			40				ミガキ	ミガキ	B	にぶい黄橙		底のみ	埋土		
9		小型鉢	(135)	55	(40)				ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		口～底1/4	埋土		
10	196	小型鉢	137	60	40				ミガキ	口ナデ体ミガキ	D	にぶい橙		口～底2/3	炉周辺		
11		壺			(74)				ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		底のみ	床中央		
12	196	紡錘車	48	厚 19	孔 6	重49g			ナデ	ナデ	A	にぶい黄橙		完形	埋土		



第127図 13号住居跡出土遺物(2)

第2章 検出された遺構と遺物



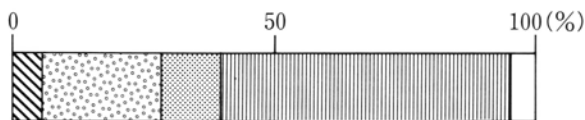
第128図 13号住居跡出土遺物(3)

13号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	覆土	完形	10.8	5.1	2.6	128.2	細安	II b類。
2	打斧	中位	1/2	6.8	4.2	1.4	100.1	硬泥	基部破片。形状不明。基部末端に磨耗。
3	打斧	上位	2/3	12.3	4.8	2.9	195.7	硬泥	刃部欠損。II b類。
4	打斧	覆土	ほぼ完	11.3	4.2	1.6	129.1	緑片	刃部に潰れ。III類。
5	打斧	覆土	2/3	8.6	5.6	3.3	172.1	粗安	両端欠損。II b類。
6	打斧	覆土	2/3	7.1	4.3	1.1	44.1	細安	両端欠損。II b類。
7	磨斧	覆土	1/3	7.3	5.5	2.2	139.1	変玄	未製品の刃部破片。剝離・敲打による整形途中。
8	石核	上位	完形	10.2	13.4	7.0	970.3	硬泥	礫の分割面打面とし、一部で剝片剝離。
9	石核	上位	完形	8.2	11.8	4.2	456.3	硬泥	剝片端部で交互に剝片剝離。
10	石棒	上位	破片	6.8	2.8	2.8	83.3	緑片	頭部破片。先端に一条の溝めぐる。
11	敲石	覆土	完形	10.4	3.1	2.0	79.1	珪頁	棒状の円礫。両端に敲打痕。
12	敲石	中位	完形	17.5	5.7	3.8	581.5	変輝	棒状の円礫。表裏上部・両端に敲打痕。
13	敲石	上位	完形	11.1	9.0	5.2	830.0	粗安	円盤状の円礫。表裏に敲打痕。
14	磨石	下位	完形	8.6	7.2	5.4	519.2	粗安	両側・両端面取し隅丸の直方体状に整形。表裏に研磨。下半欠損。
15	磨石	上位	完形	7.7	6.4	2.2	139.0	泥岩	円盤状の円礫。表裏に研磨面。
16	磨石	上位	1/2	7.5	7.5	5.2	348.1	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。下半欠損。

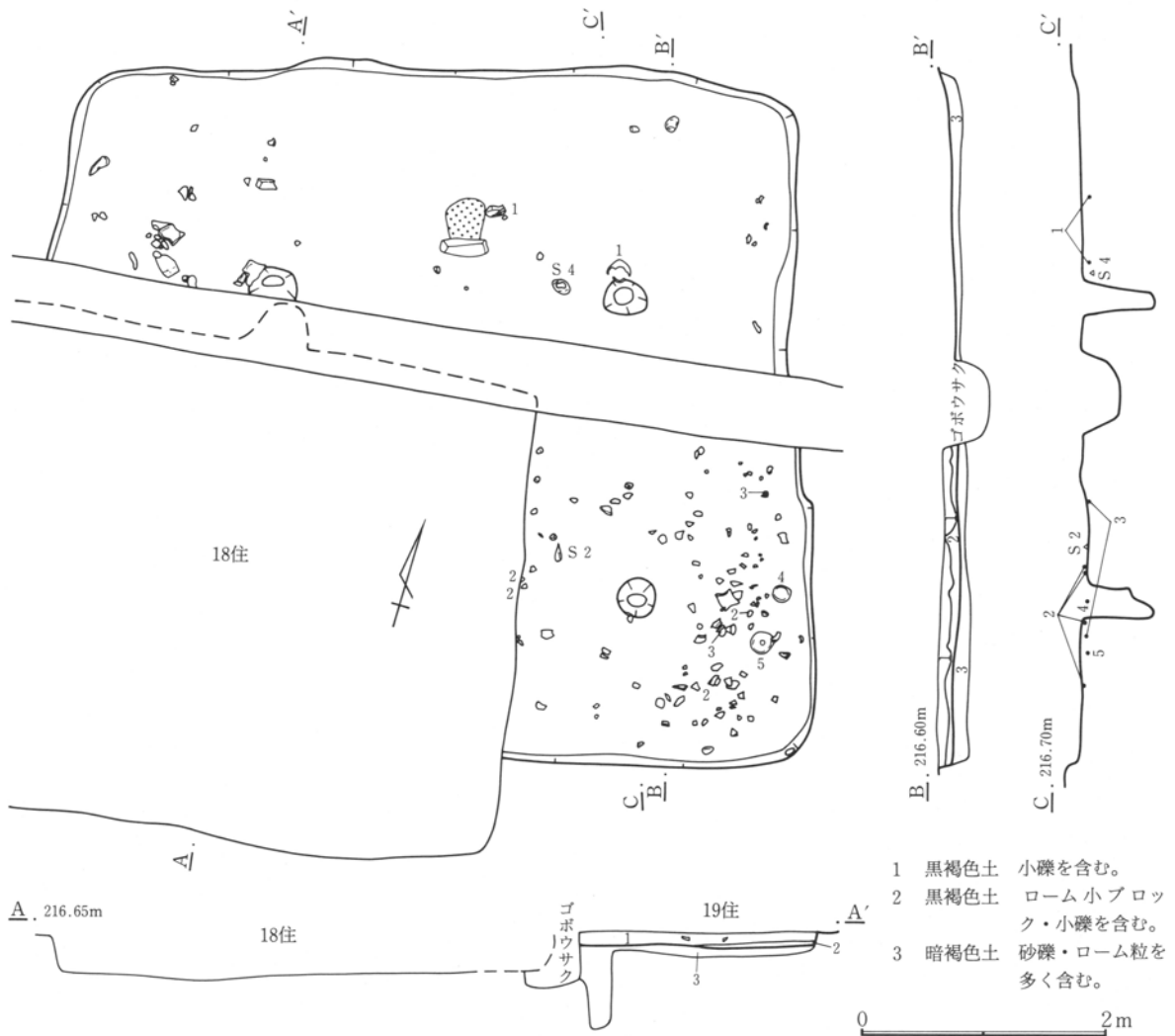
13号住居跡器種組成表

器種	打斧	磨斧	二次	微細	石核	石棒	敲石	磨石	剝片
個数	6	1	9	8	2	1	3	3	22

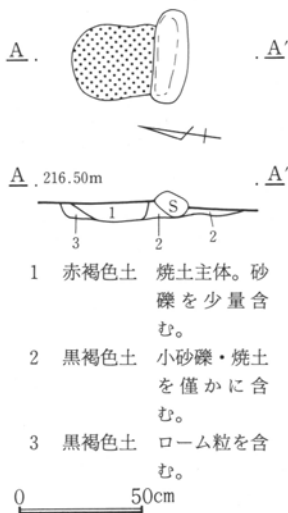


13号住居跡石材重量組成グラフ

19号住居跡 (第129~132図、PL13・14・196・236)



第129図 19号住居跡



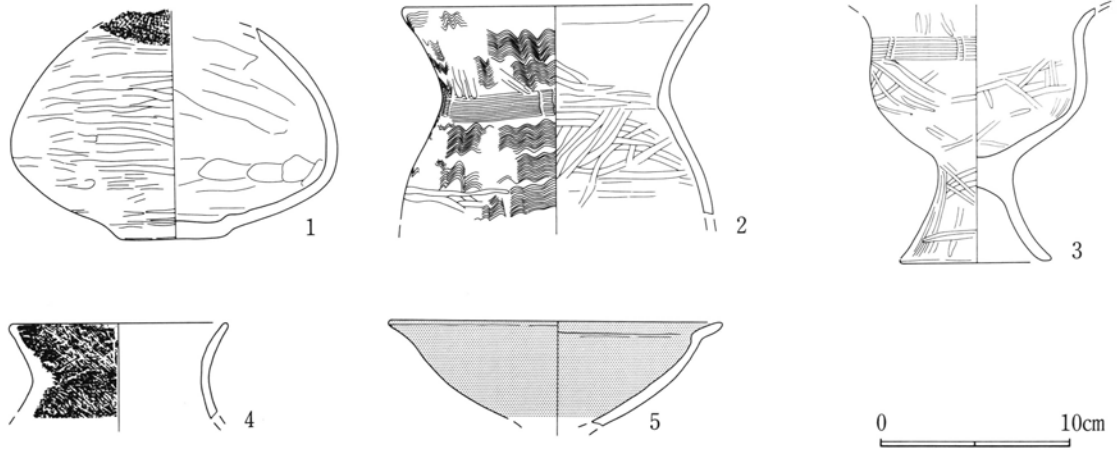
第130図 19号住居跡 炉

本住居跡は、18号住居およびゴボウの耕作溝によって一部が破壊されている。平面形は隅丸方形と推定される。床面には若干凹凸があり、比較的軟弱である。

柱穴は3ヶ所で確認されているが、本来は対角線上に4ヶ所存在したのと考えられる。掘り方はほぼ平坦で、掘り込み等は見られなかった。炉跡は柱穴の外側北寄りで確認されたが、浅い皿状の掘り込みで、焼土によって埋まっていた。

出土遺物として、壺・甕・台付甕・高坏・磨石・打製石斧がある。いずれも床面付近の出土である。

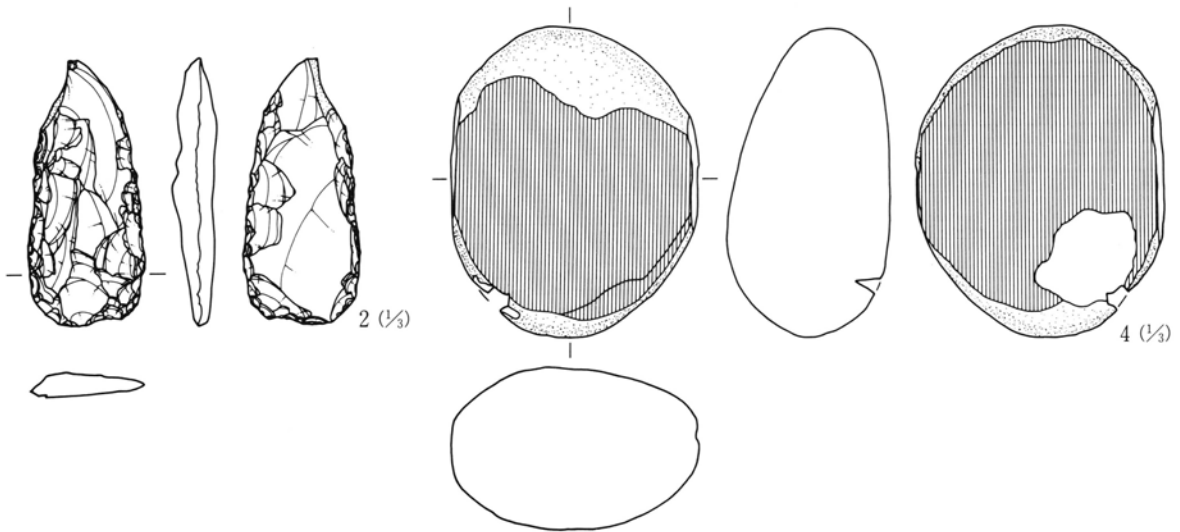
第2章 検出された遺構と遺物



第131図 19号住居跡出土遺物(1)

19号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	肩(c)		幅(mm)/本数	内					
1	196	小型壺			56	c 編紐			ケズリ ナデ	ミガキ	B	にぶい橙		頸～底3/4	郊周辺 ビット1	
2	196	甕	163			a 波 b 2 止簾 c 波	14/10		口ナゲ胴ミガキ	ミガキ	B	橙	肩煤	口～肩1/2	埋土	
3	196	小型台付甕			(80)	b 2 止簾	12/7		ミガキ	ミガキ	A	橙	脚刷被熱	口～体3/4欠	埋土	
4		小型甕	116			a 2 斜縄		R	ミガキか		A	にぶい橙		口～頸	埋土	
5	196	高杯	175						ミガキ	ミガキ	F	にぶい橙		口一部、脚欠	床右壁際	



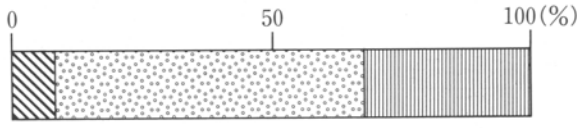
第132図 19号住居跡出土遺物(2)

19号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	打斧	床下	1/3	8.2	6.1	2.4	110.8	硬泥	両端欠損。II b 類。
2	打斧	床直	完形	10.5	4.7	1.8	75.5	硬泥	II b 類。
3	打斧	床下	1/2	7.4	3.7	1.4	43.2	硬泥	刃部欠損。III 類。
4	磨石	床下	ほぼ完	12.1	9.9	6.5	989.4	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。両側を面取り。

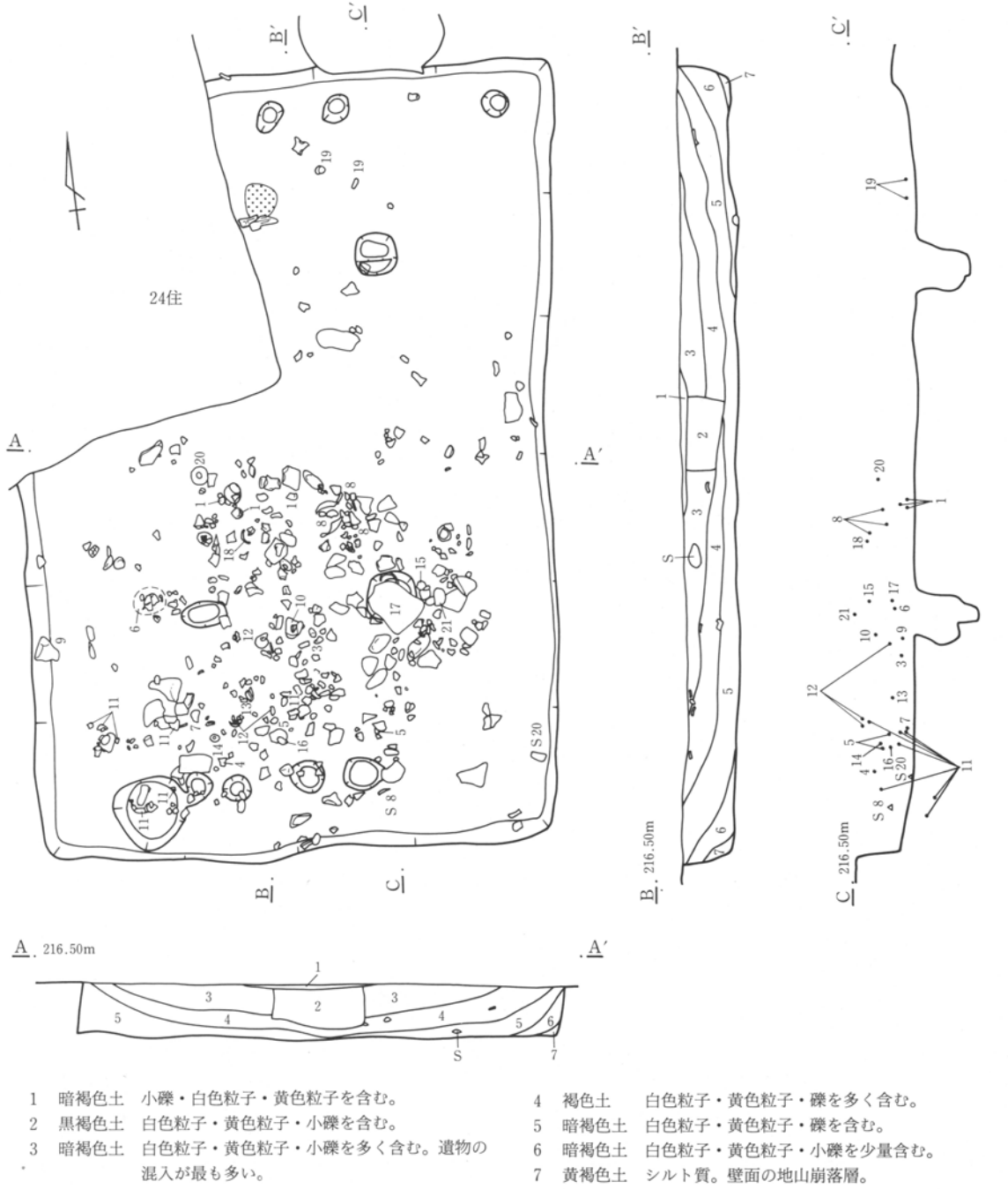
19号住居跡器種組成表

器種	打斧	微細	磨石	剥片
個数	3	2	1	8



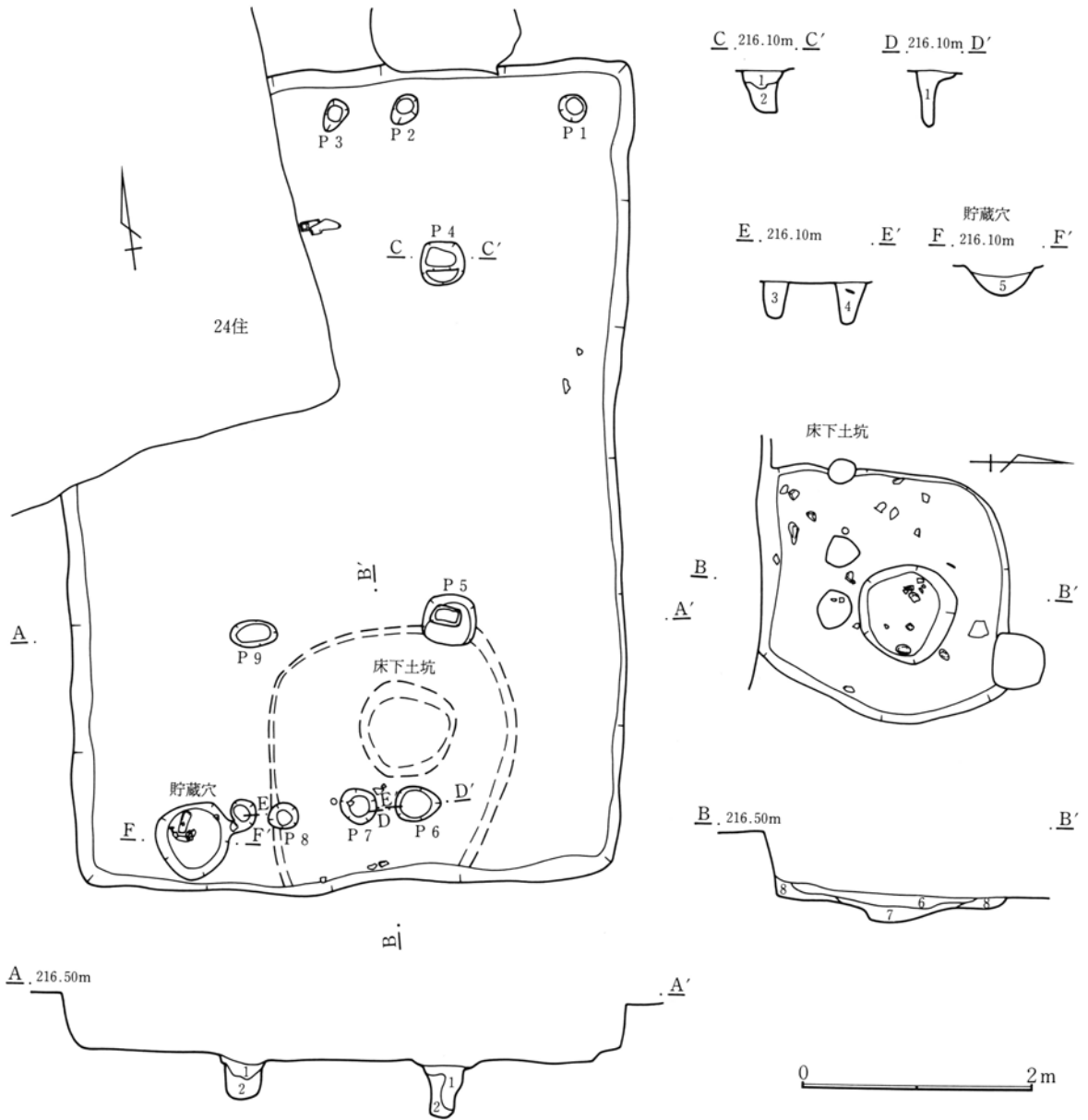
19号住居跡石材重量組成グラフ

25号住居跡 (第133~138図、PL14・196・197・236・237)



0 2m

第133図 25号住居跡遺物出土状況



- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色土 小砂礫・褐色土粒・灰白色粒子を含む。 | 5 黒褐色土 砂礫・黄色粒子を少量含む。 |
| 2 暗褐色土 砂礫・褐色土を大量に、黒褐色土塊・暗褐色土塊を若干含む。 | 6 黒褐色土 砂礫・ローム粒を若干、炭化物を僅かに含む。 |
| 3 明褐色土 ローム粒・砂礫を多く含む。 | 7 黒褐色土 砂礫・ローム粒を多く含む。 |
| 4 明褐色土 ローム粒・小石を多く含む。 | 8 黄褐色土 ローム粒を主体とし、黒色土ブロックを含む。 |

第134図 25号住居跡

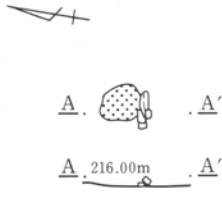
本住居跡は長方形を呈する。北西コーナー部付近は、24号住居跡により破壊されているため存在しない。床面はほぼ平坦であり、地山を掘り凹め、それをそのまま床面としている。支柱穴は3ヶ所確認された。24号住居によって破壊された部分に1ヶ所存在したことが推定出来るため、対角線上に4ヶ所存在したものと考えることができる。なお北側壁近くに3ヶ所、南側壁近くに4ヶ所、それぞれ小規模な柱穴状の Pit が並んでいる。また南壁に接して西寄りに貯蔵穴がある。

第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物

住居跡床面を削ったところ、南壁に接して床下土坑が確認された。床下土坑の形状は不整形、比較的浅く大きい。

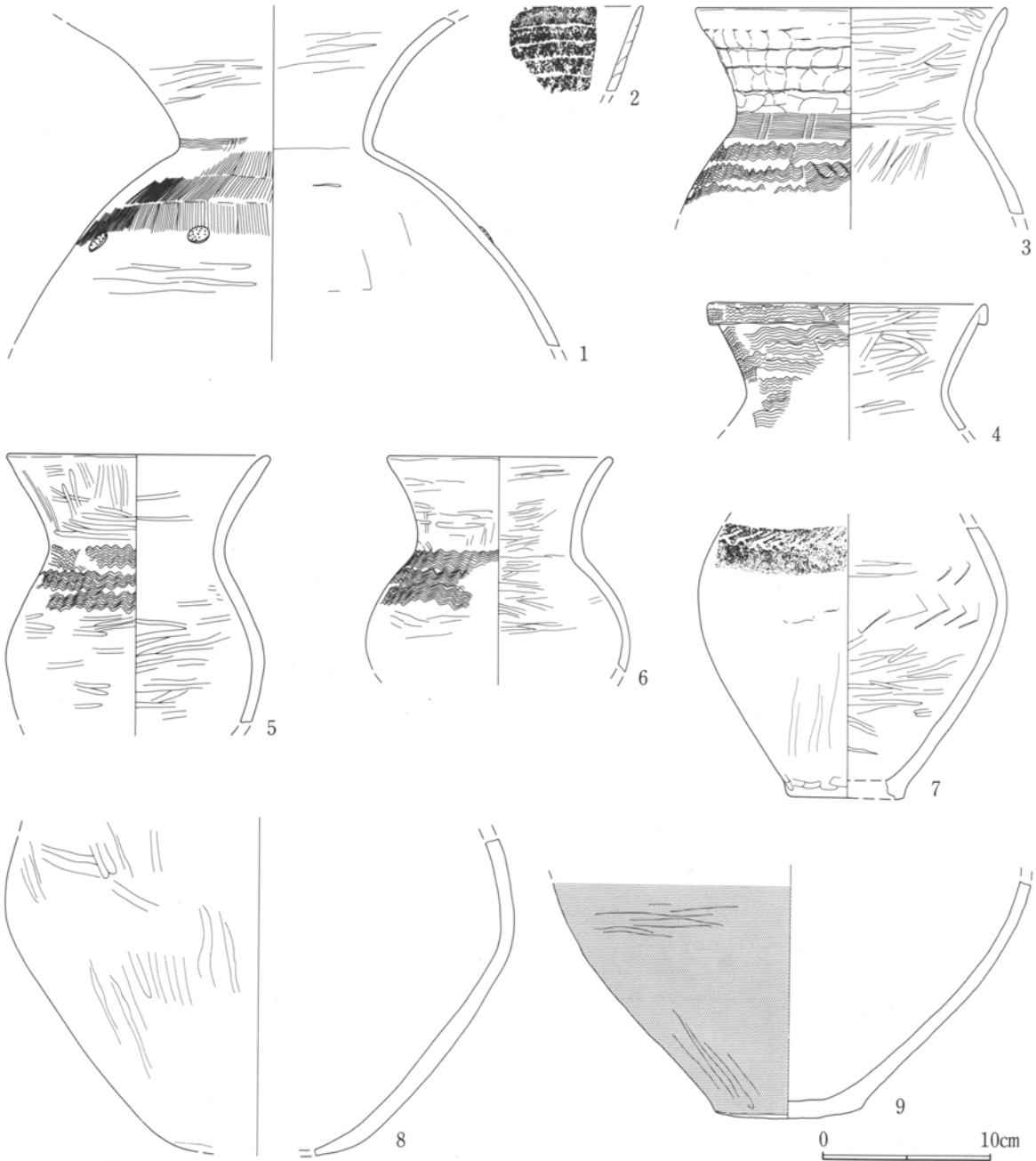
炉跡は北側柱穴のやや北側、東側壁と西側壁のほぼ中間で発見された。極めて浅い皿状の掘り込みで、底面には炉石と共に焼土が遺存していた。

住居からの出土遺物として、土器と石器がある。土器は壺・甕・台付甕・高坏・坏等であるが、床面よりやや浮いた状態での出土が少なくない。また石器も多く出土しているが、出土位置は土器と同様で床面よりやや浮いた状態のものがある。



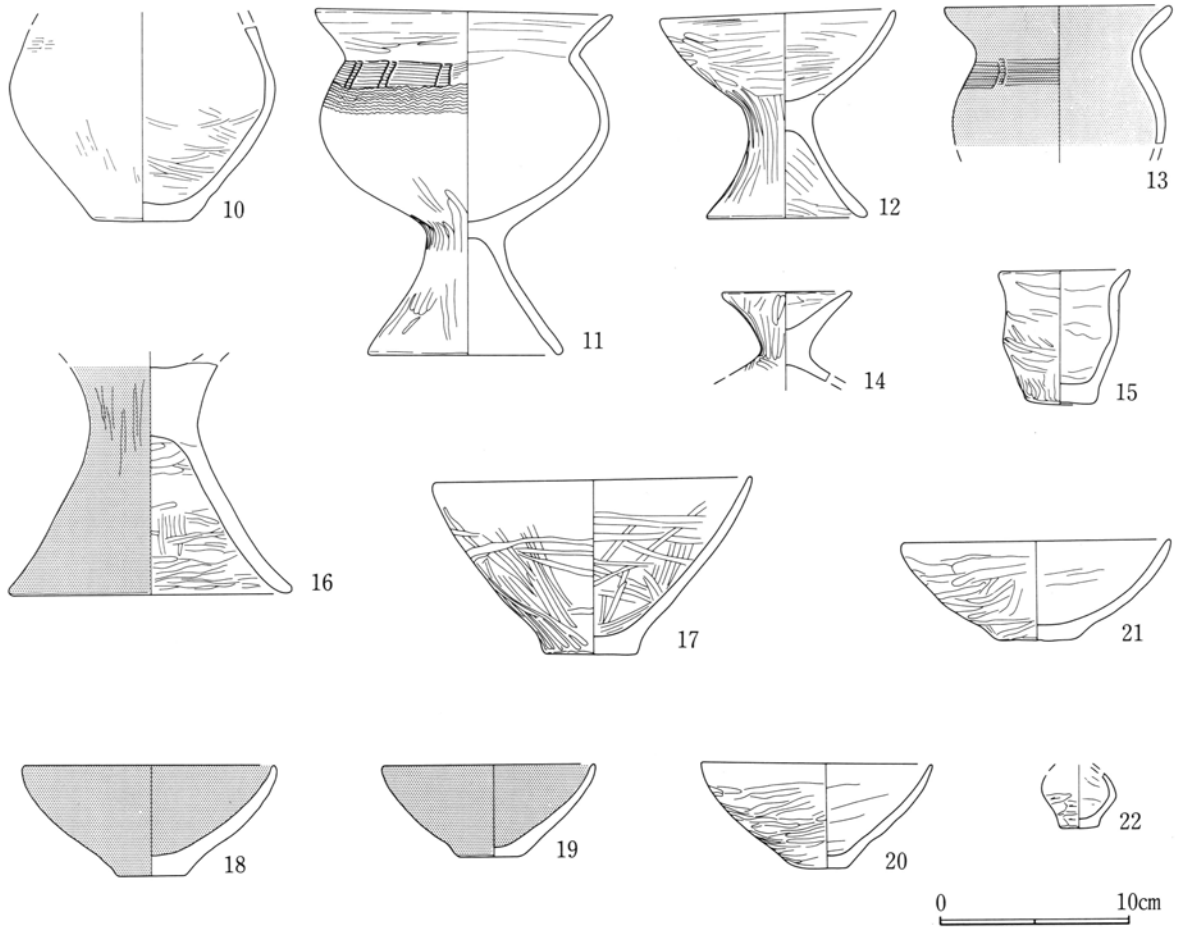
0 50cm

第135図 25号住居跡 炉



第136図 25号住居跡出土遺物(1)

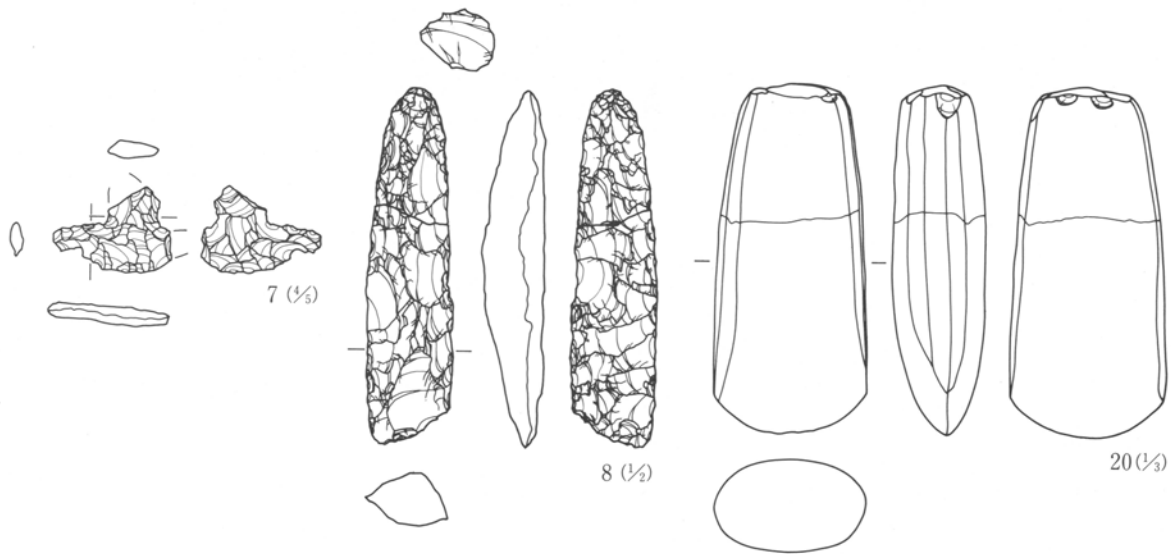
第2章 検出された遺構と遺物



第137図 25号住居跡出土遺物(2)

25号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徵			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置	備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	肩(c)		幅(mm)	本数						
1	196	大型壺				b 3止簾 c 3羽 円形貼付			口ミガキ割ナデ	ミガキ	D	にぶい橙		口1/2~胴1/4	埋土		
2		甕				a 編紐 積上				ミガキ	A	にぶい橙		口片	埋土		
3	196	甕	186			a 4積上 b 2止簾 c 波	17/13		ミガキ	口ナデ	B	橙	片面被熱	口~肩	埋土		
4	196	甕	(167)			a~c 波			ミガキ		B	橙		口~頸1/2	埋土		
5	196	甕	(155)			c 3波	11/7		ミガキ	ミガキ	B	にぶい黄橙	全体被熱	口~胴1/2	埋土		
6	197	小型甕	(134)			c 3波	15/9		ミガキ	ミガキ	C	明褐灰		口~胴1/3	埋土		
7	197	甕				c 斜縄	LR		ケズリミガキ	ミガキか	D	橙	全体被熱	頸~底	埋土		
8	197	壺								ミガキ	D	橙	被熱	胴下半	埋土		
9	197	壺			86				ナデ	ミガキ	D	にぶい褐		胴下半1/2	埋土		
10	196	小型壺			50	b 簾か			ミガキ	ミガキ	C	橙		胴~底1/3	埋土		
11	197	台付甕	156	181	103	b 2止簾 c 波	17/10		ナデ	口ナデ割ミガキ	D	浅黄橙	胴下煤	口胴一部欠	埋土		
12	197	小型高杯	125	108	85				口ナデ割ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		杯1/2欠	埋土		
13		台付鉢	(120)			b 2止簾	15/9		ミガキ	ミガキ	A	橙		口~肩1/5	埋土		
14		(蓋)	68						ナデ	ミガキ	A	橙	被熱	つまみ	埋土		
15	197	小壺	70	71	37				ナデ	ミガキ	C	にぶい橙	被熱	口一部欠	埋土		
16		高杯			(150)				ミガキ	ミガキ	D	淡橙		脚4/5	埋土		
17	197	小型鉢	(169)	90	50				ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	全体被熱	口2/3欠	埋土		
18	197	小型鉢	(133)	59	36				ミガキ	ミガキ	A	橙			埋土		
19		小型鉢	(133)	49	35				ミガキ	ミガキ	F	浅黄橙		口~底1/3	埋土		
20	197	小型鉢	122	57	31				ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙		口1/3欠	埋土		
21	197	小型鉢	(143)	53	45				ミガキ	ミガキ	C	にぶい橙		口~底1/2	埋土		
22	197	ミニチュア壺			20				ナデ	ケズリ	A	にぶい橙		口~頸欠	埋土		



第138図 25号住居跡出土遺物(3)

25号住居跡出土石器観察表

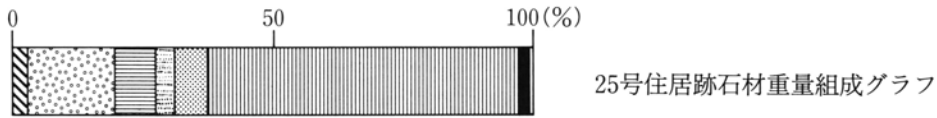
No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	完形	2.3	2.1	0.6	3.0	黒曜	未製品。
2	石鏃	覆土	完形	1.8	1.8	0.4	1.2	黒曜	未製品。両面全面に調整及ぶがやや粗い。
3	石鏃	覆土	一部欠	1.9	1.7	0.4	1.0	黒曜	凹基無茎鏃。脚部欠損。
4	石鏃	覆土	ほぼ完	1.6	1.2	0.4	0.5	黒曜	周辺にのみ調整。未製品か。先端わずかに欠損。
5	楔	覆土	2/3	2.4	1.7	0.8	2.5	黒曜	表面周辺に調整。左側欠損。
6	楔	覆土	完形	2.3	1.8	0.5	1.6	黒曜	両端に剥離痕。
7	*	覆土	一部欠	1.4	1.9	0.3	0.7	黒曜	*異形石器。上部つまみ状。先端欠損。左側細く作出。石匙破損品か。
8	*	覆土	完形	9.4	2.3	1.7	33.5	黒曜	*ヘラ状石器。両面丁寧に調整。断面三角形状。先端片刃状。
9	楔	下位	完形	6.9	4.4	1.2	39.5	珪頁	剥片の両端に細かな調整。かなり薄手。
10	打斧	中位	一部欠	10.1	5.9	2.0	125.5	硬泥	両端・挟り部分に磨耗。上端一部欠損。I類。
11	打斧	下位	完形	13.2	4.7	1.7	126.4	硬泥	刃部磨耗。II b類。
12	打斧	上位	完形	10.4	5.3	1.7	115.9	硬泥	刃部磨耗。II b類。
13	打斧	下位	完形	9.7	4.2	2.2	98.1	硬泥	刃部弱い磨耗。II b類。
14	打斧	中位	2/3	7.4	3.7	1.4	37.7	硬泥	刃部欠損。II b類。
15	打斧	上位	3/4	13.5	5.3	1.8	13.7	変輝	刃部欠損。III類。
16	打斧	下位	完形	10.7	4.4	1.6	98.0	硬泥	刃部磨耗。II b類。
17	打斧	下位	完形	9.2	4.5	1.7	103.0	硬泥	刃部磨耗。III類。
18	打斧	上位	完形	10.9	4.6	1.6	97.6	硬泥	刃部弱い磨耗。III類。
19	打斧	中位	1/2	9.3	5.6	2.5	153.4	硬泥	刃部欠損。III類。
20	磨斧	下位	完形	13.8	6.1	3.7	576.4	変は	刃部丁寧に研磨されるが、上1/3程は敲打痕残す。着柄痕か。
21	石核	下位	完形	11.6	8.6	3.5	327.7	硬泥	盤状の石核の主に表面で剥片剥離。
22	石核	中位	完形	7.1	6.5	5.2	227.6	硬泥	礫の分割面打面とし周辺で剥片剥離。
23	石核	中位	完形	11.4	7.9	5.1	410.4	硬泥	分割礫の一端で少数の剥片剥離。
24	石核	下位	完形	10.1	9.0	4.0	433.5	珪頁	円盤状の石核両面で周辺から剥片剥離。
25	石核	中位	完形	10.5	12.2	6.8	1000.3	硬泥	厚手の石核の裏面と側面で剥片剥離。
26	凹石	中位	2/3	7.5	7.8	3.5	243.6	粗安	両側を面取り。表裏に凹み・研磨面。両端欠損。
27	敲石	上位	完形	10.8	9.0	6.5	820.7	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。表面に敲打痕。
28	敲石	下位	1/2	9.4	8.2	3.2	279.5	変安	盤状の円礫。表面に敲打痕。裏面欠損。
29	磨石	中位	1/2	9.0	6.6	4.9	335.1	テ凝	盤状の円礫。表裏に研磨面。両端欠損。
30	磨石	上位	完形	13.3	8.6	4.1	734.1	閃緑	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。両端・両側に敲打痕。
31	砥石	覆土	破片	3.5	3.5	0.7	10.4	砂岩	薄手・小型の砥石。表裏に使用面。

25号住居跡器種組成表

器種	*1	*2	石鏃	楔	打斧	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	砥石	剥片
個数	1	1	4	3	10	1	17	4	12	1	2	2	1	63

*1 異形石器 *2 ヘラ状石器

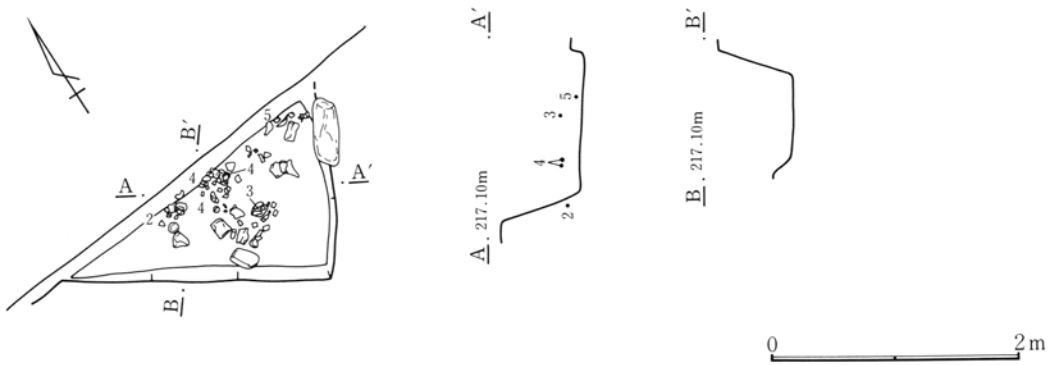
第2章 検出された遺構と遺物



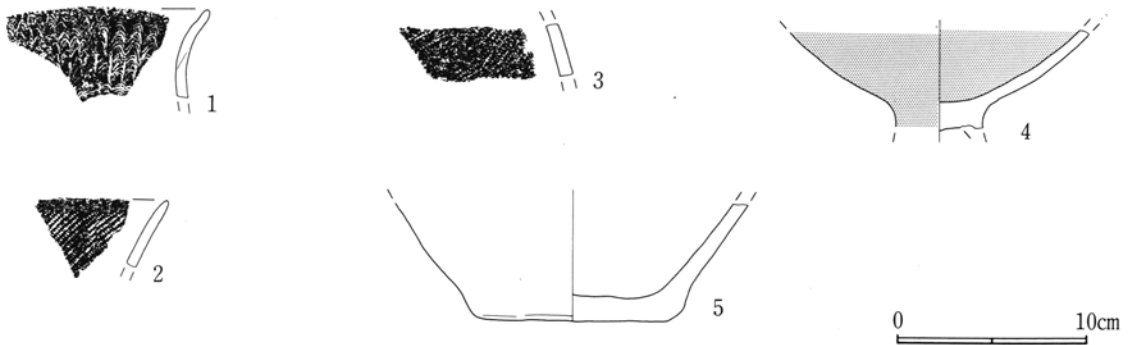
27号住居跡 (第139・140図、PL14・237)

住居は大部分が調査区域外と考えられる。南側コーナー部分のみの確認である。住居周辺部のためか、貼床は確認出来なかった。掘り方を床面としている可能性もある。検出範囲内には、柱穴・炉跡は確認されなかった。

出土遺物として壺・甕・高杯があるが、いずれも破片である。石器は台石と磨石が出土している。



第139図 27号住居跡



第140図 27号住居跡出土遺物

27号住居跡出土土器観察表

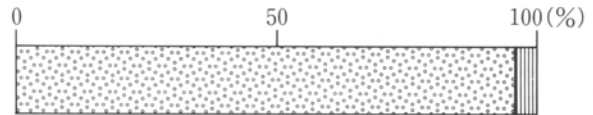
番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴			施文具 幅(mm)/本数	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置	備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	肩(c)		内	外						
1		甕				a 波				ミガキ		A	明黄橙		口片	埋土	
2		甕				a 斜縄		LR		ミガキ		A	にぶい黄橙		口片	埋土	
3		甕				c 斜縄		LR		ミガキ		A	明黄褐		肩片	埋土	
4		高杯								ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙		杯1/4	埋土	
5		大型壺			108					ナデ	ミガキ	E	橙		底	埋土	

27号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	磨石	床下	3/4	9.5	7.7	6.6	694.0	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。
2	磨石	上位	ほぼ完	7.5	7.4	4.5	308.0	粗安	円盤状の円礫。表裏に研磨面。
3	台石	上位	破片	11.5	12.0	7.0	1899.1	粗安	盤状の円礫。

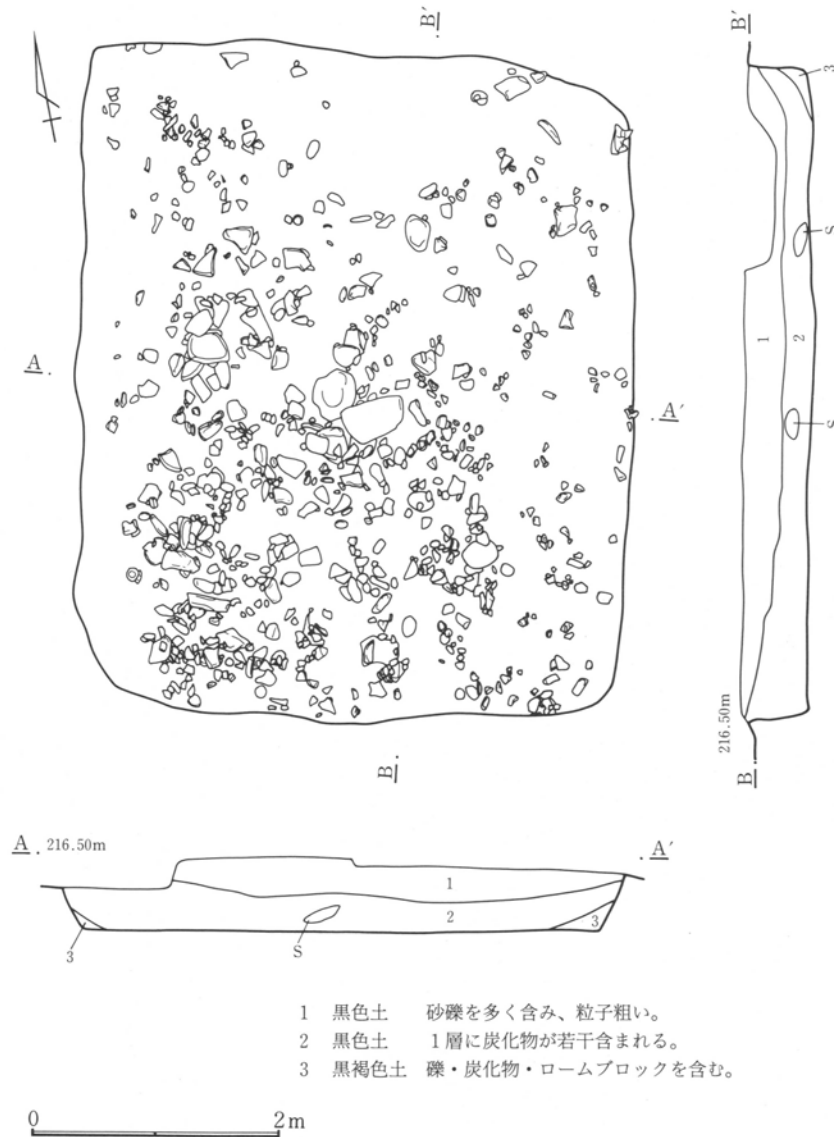
27号住居跡器種組成表

器種	微細	磨石	砥石	剥片
個数	1	2	1	1



27号住居跡石材重量組成グラフ

29号住居跡 (第141~148図、PL14・197・198・238~240)



- 1 黒色土 砂礫を多く含み、粒子粗い。
- 2 黒色土 1層に炭化物が若干含まれる。
- 3 黒褐色土 礫・炭化物・ロームブロックを含む。

第141図 29号住居跡遺物出土状況

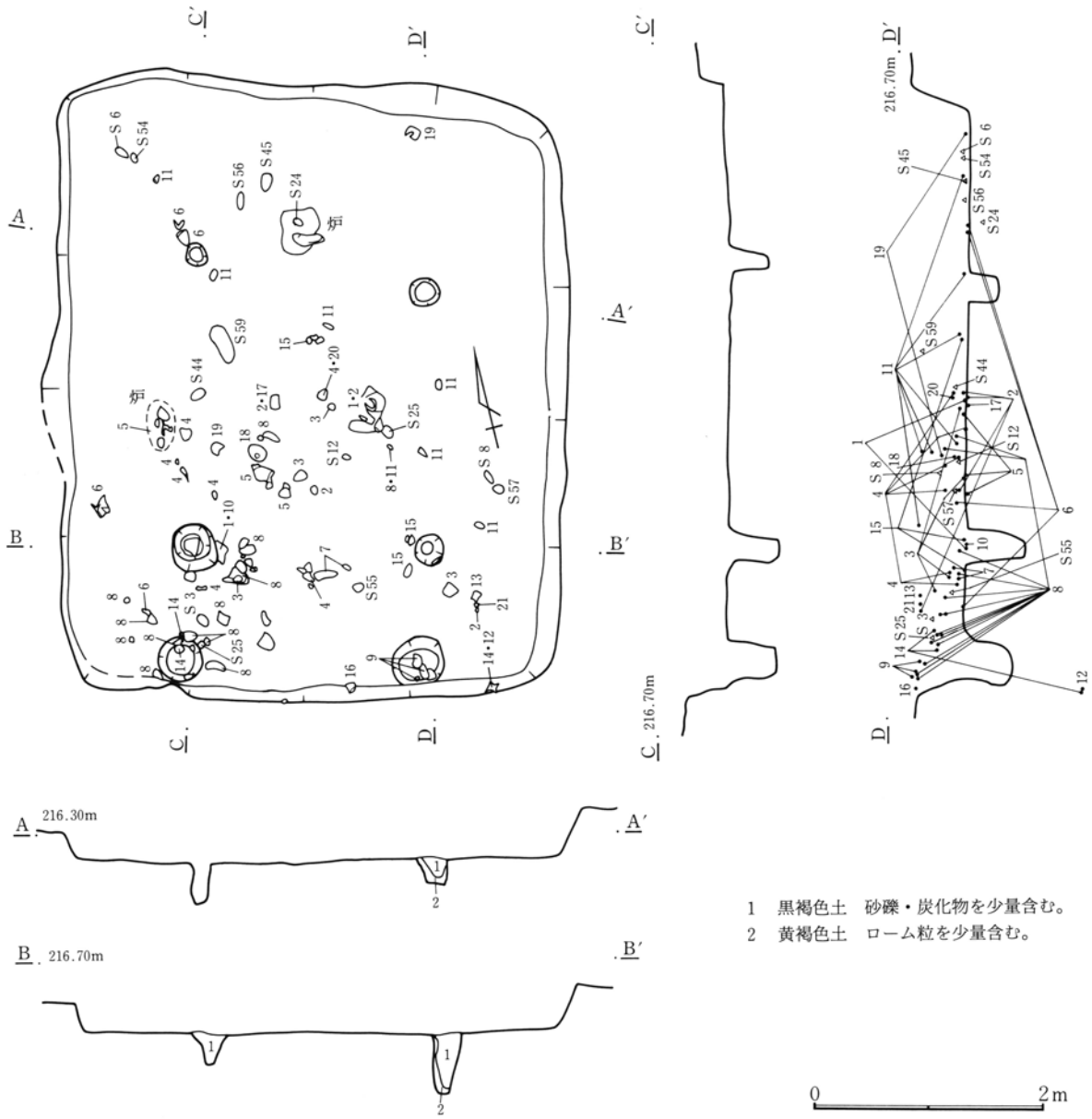
住居は隅丸長方形を呈する。しかし東側壁よりも西側壁の方が若干長くなっており、そのため北側壁と南側壁は僅かなところで平行しない。

床面は、地山を掘り込んだ面をそのまま使用しており、平坦で比較的固くしまっている。柱穴と推定できる Pit は6ヶ所確認された。住居の対角線上に4ヶ所と、南側壁の近くおよび南側壁に接する2ヶ所である。

炉跡は柱穴と北側壁の間、柱穴寄りでは西側壁と東側壁のほぼ中間で発見された。床面を皿状に掘り凹めており、炉石とともに使用面には焼土が遺存していた。

出土遺物はかなり多い。土器には壺・甕・台付甕・高坏等があり、石

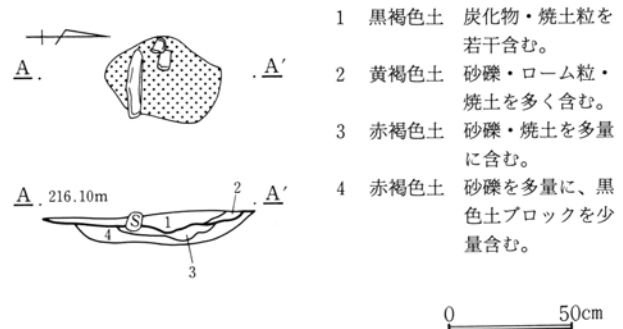
第2章 検出された遺構と遺物



- 1 黒褐色土 砂礫・炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒を少量含む。

第142図 29号住居跡

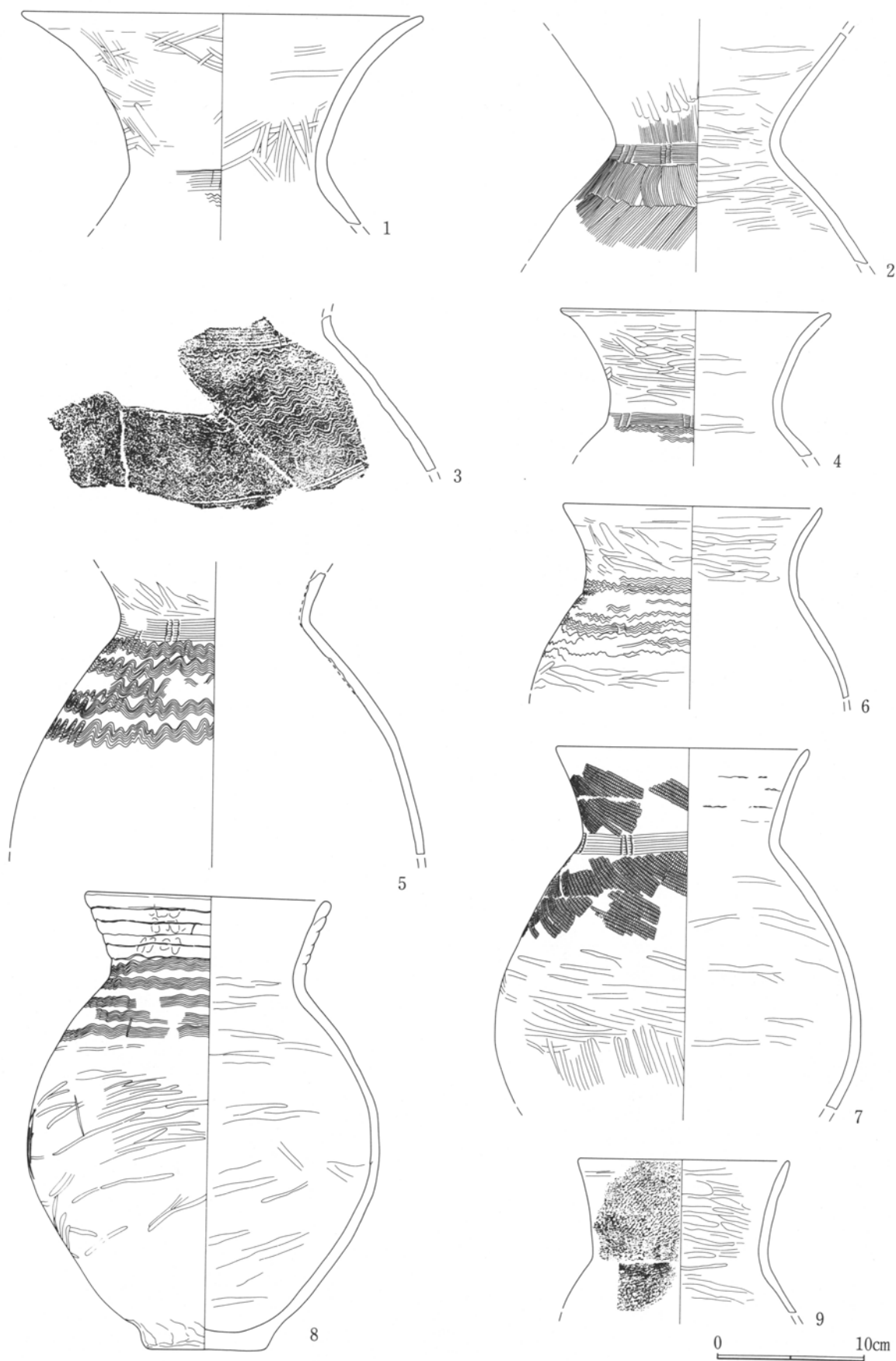
器には砥石・凹石・磨石・打製石斧等がある。これらの遺物の大部分は床面より約25cmほど浮いた状態で出土している。



- 1 黒褐色土 炭化物・焼土粒を若干含む。
- 2 黄褐色土 砂礫・ローム粒・焼土を多く含む。
- 3 赤褐色土 砂礫・焼土を多量に含む。
- 4 赤褐色土 砂礫を多量に、黒色土ブロックを少量含む。

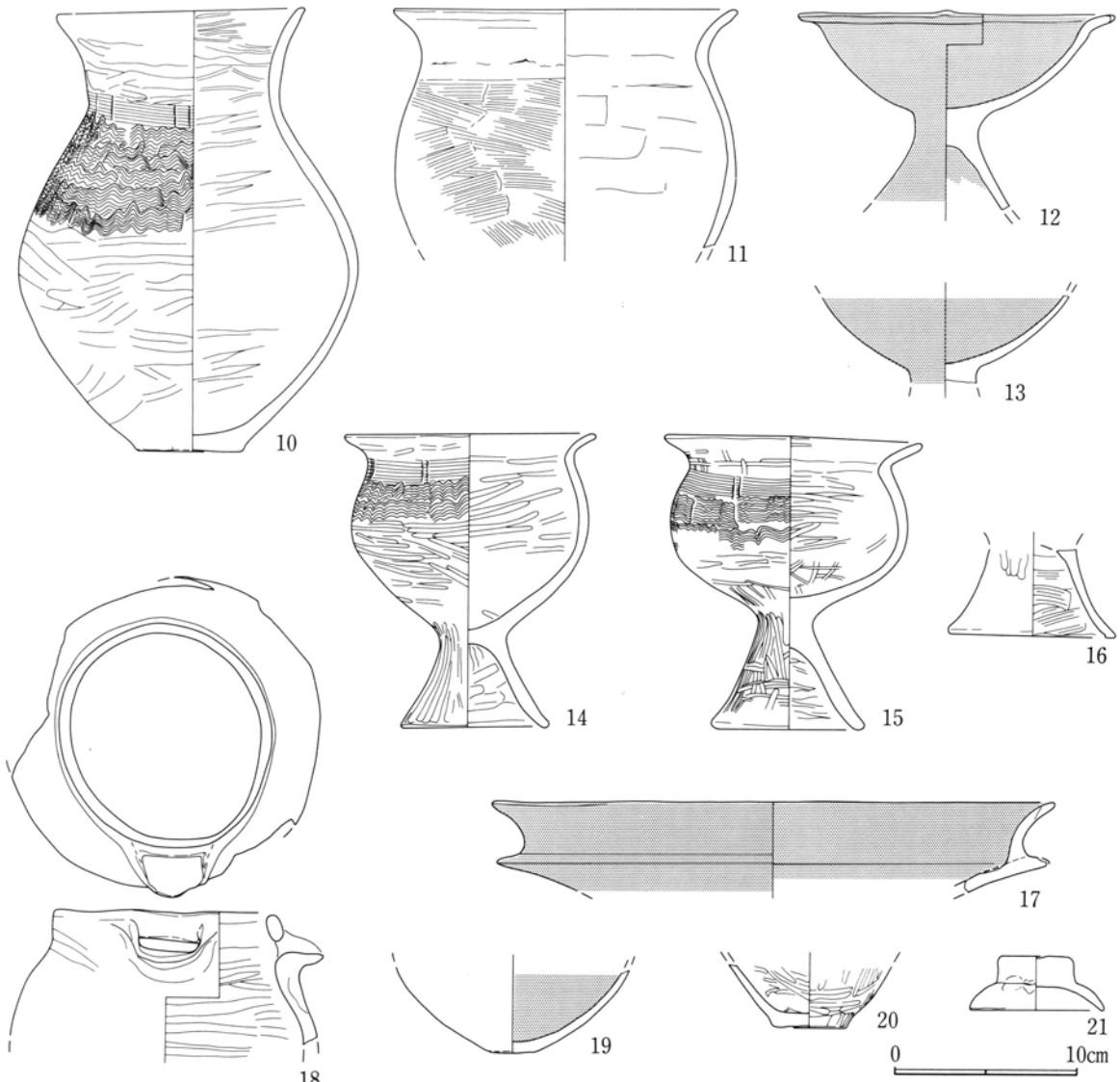
第143図 29号住居跡 炉

第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物



第144図 29号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



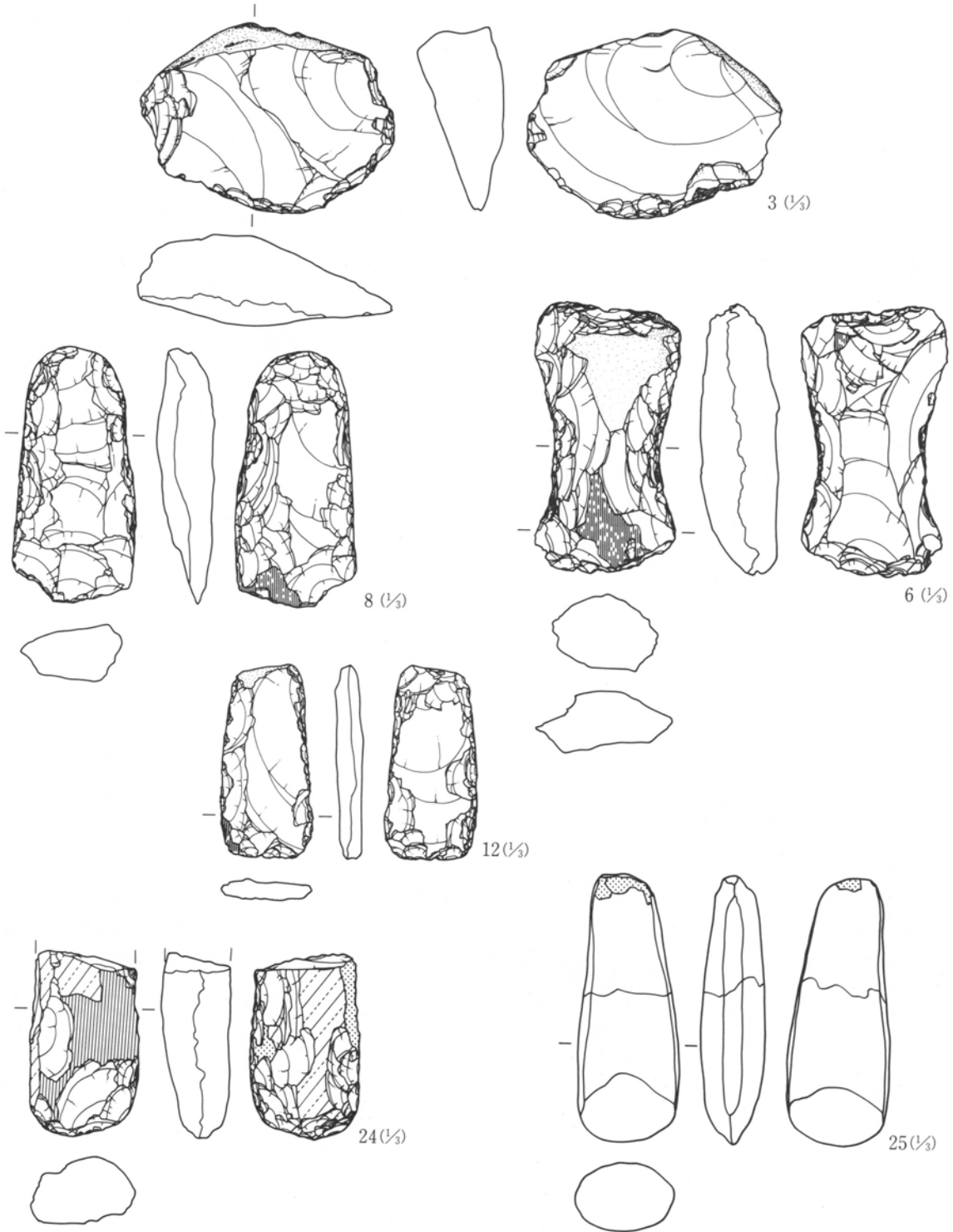
第145図 29号住居跡出土遺物(2)

29号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値(mm)			文様の特徴			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置	備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	肩(c)		幅(mm)/本数	内						
1	197	大型壺	(272)			b 2止簾 c 波		15/7	ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙		口~頸	床中央		
2	198	壺				b 3止簾 c 羽		14/11	ミガキ	ハケのちミガキ	A	にぶい橙		頸~肩	床中央	埋土	
3		壺				b 2止簾 c 6波 2止簾		16/8			B	橙		肩片	床中央	埋土	
4	198	甕	182			b 2止簾 c 波		10/8	ミガキか	ミガキ	B	にぶい黄橙		口~頸2/3	床中央	埋土	
5	198	壺				b 3止簾 c 5波		15/8	剝離	ミガキ	D	橙		頸~肩	床左壁際	床中央	
6	198	甕	(177)			b~c 波		-/-	口ミガキ割ナデ	ミガキ	A	にぶい橙	胴被熱	口~肩2/3	343土坑付近	埋土	
7	198	甕	173			a 2斜縄 b 2止簾 c 2斜縄	RL	16/7	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	肩一部煤	口~肩	床中央	埋土	
8	198	甕	170	308	83	a 5積上 b~c 5波		9/6	ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	肩煤胴被熱	口~肩1/4欠		埋土	
9	199	小型甕	(145)			a~c 編紐			ミガキ	口ナデ	A	にぶい黄橙		口~肩1/3		埋土	
10	198	小型甕	138	243	60	b 2止簾 c 6波		13/7	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	肩煤	口肩一部欠		床中央	
11		甕	190						ナデ	口ナデ割ハケメ	A	橙		口~肩1/4		埋土	
12		高杯	(172)			a 瘤状突起			ミガキ	ミガキ	A	浅橙		口~脚1/2		埋土	
13		高杯							ミガキ	ミガキ	A	にぶい黄橙		杯下		埋土	
14	197	小型台付甕	140	162	80	b 2止簾 c 2波		14/8	ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙	脚被熱	口肩一部欠		埋土	
15	199	小型台付甕	143	161	85	c 2止簾 2波		15/9	ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	胴下脚被熱	胴一部欠		床中央	埋土
16		台付甕			92				ハケナデ	剝離	B	橙	被熱	脚3/4		埋土	
17		大型高杯	(310)						ミガキ	ミガキ	F	淡黄		口片		床中央	
18	199	注口鉢	120						ミガキ	ミガキ	B	褐	体中煤	体上		埋土	

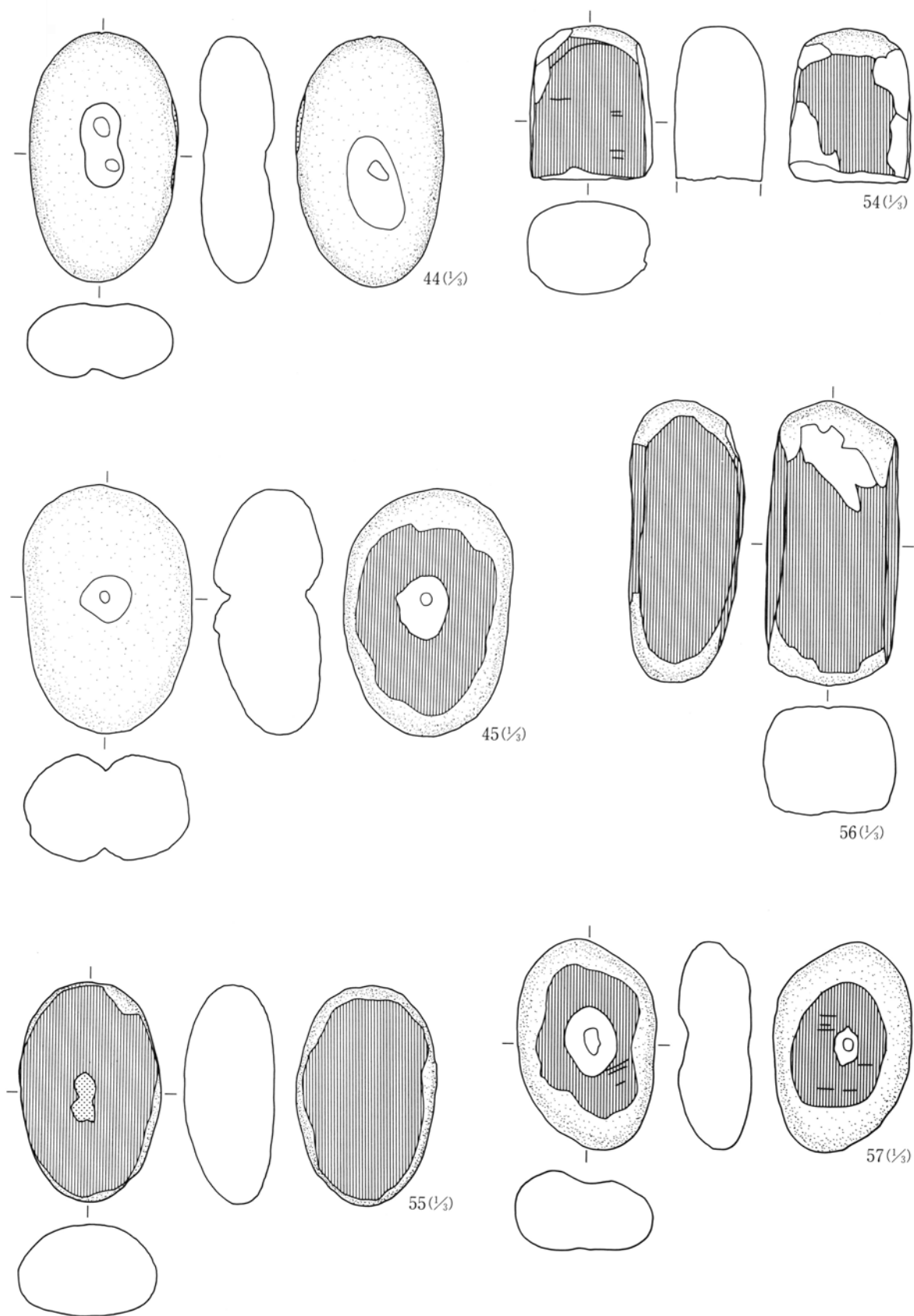
第2章 弥生時代の住居跡と出土遺物

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴 口(a) 頸(b) 胴(c)	施文具 幅(mm)/本数	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考
			口	高	底・脚			内	外					
19		小型鉢			26			ミガキ	剝離	A	浅黄橙		体下~底1/4	床奥 埋土
20		小型壺			40			ミガキ	ミガキ	A	にぶい黄橙		胴下~底	埋土
21		(蓋)	(74)	30				ナデ	ナデ	C	浅黄橙		2/3	埋土

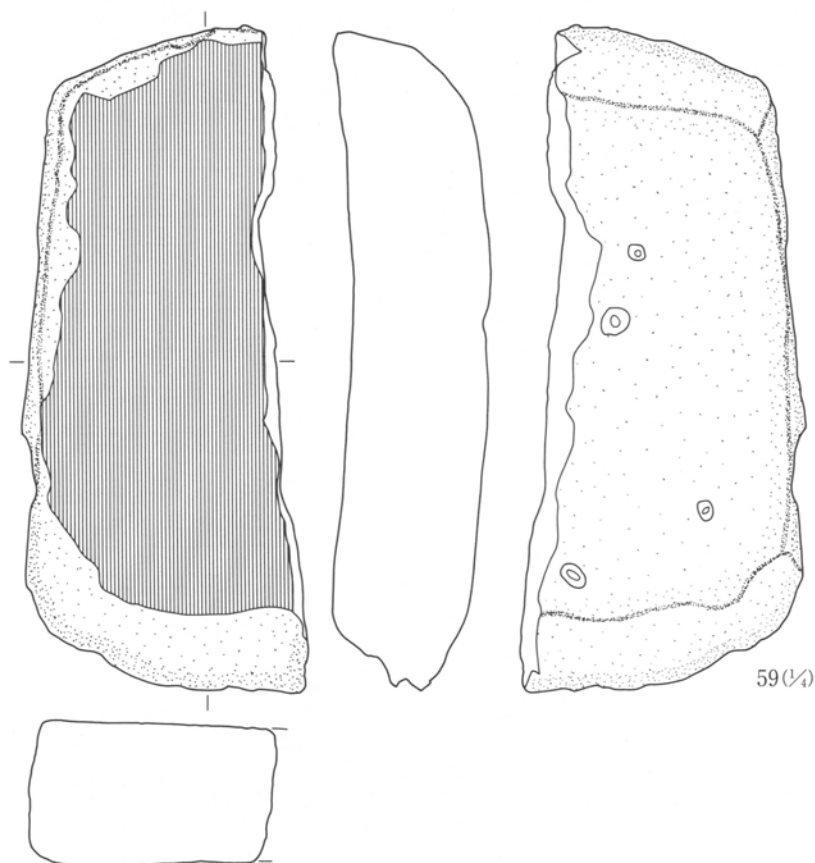


第146図 29号住居跡出土遺物(3)

第2章 検出された遺構と遺物



第147図 29号住居跡出土遺物(4)



第148図 29号住居跡出土遺物(5)

29号住居跡出土石器観察表

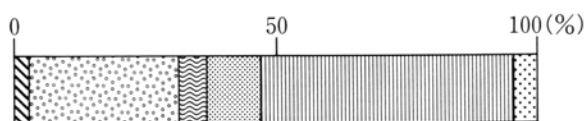
No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	2.4	0.8	0.5	1.2	黒曜	両端に剝離痕。
2	SS	覆土	1/2	9.1	7.3	2.3	155.2	硬泥	剝片の先端に薄い刃部形成。打面側は厚い。右半欠損。
3	SS	中位	完形	8.9	12.2	4.3	409.9	硬泥	剝片の一侧両面に調整加え刃部形成。
4	打斧	中位	完形	11.3	5.2	2.2	114.0	硬泥	刃部磨耗。II b類。
5	打斧	上位	完形	10.3	5.4	2.3	110.0	硬泥	II b類。
6	打斧	下位	完形	12.9	7.0	3.8	390.0	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。基部にも磨耗。I類。
7	打斧	床直	完形	10.5	3.5	1.6	74.2	緑片	側面敲打により整形。III類。
8	打斧	中位	完形	12.2	5.9	2.8	204.9	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。II b類。
9	打斧	中位	2/3	11.1	5.5	2.1	140.9	硬泥	刃部欠損。III類。
10	打斧	上位	完形	11.4	5.2	3.3	151.8	硬泥	III類。
11	打斧	上位	完形	11.9	6.2	2.8	236.7	変玄	右側辺が外に広がる。III類。
12	打斧	床直	完形	9.2	4.4	1.4	65.7	硬泥	刃部先端磨耗。II b類。
13	打斧	上位	一部欠	10.8	5.3	2.5	129.3	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。
14	打斧	中位	1/3	8.7	6.2	2.5	133.2	硬泥	刃部欠損。II b類。
15	打斧	下位	1/2	7.7	5.1	2.6	118.8	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。III類。
16	打斧	中位	1/2	8.2	4.6	1.5	69.4	硬泥	刃部欠損。III類。
17	打斧	中位	1/2	8.2	5.0	1.4	69.1	珪頁	基部破片。形状不明。
18	打斧	中位	1/2	7.4	5.1	3.2	110.7	硬泥	基部欠損。III類。
19	打斧	中位	破片	5.6	4.1	1.7	46.8	硬泥	刃部破片。形状不明。
20	打斧	下位	1/2	7.1	6.6	1.8	71.2	細安	刃部磨耗。基部欠損。II a類。
21	打斧	上位	1/2	8.3	5.7	2.2	97.6	硬泥	基部・裏面欠損。II b類。
22	打斧	覆土	1/3	7.7	5.9	2.2	88.9	細安	両端欠損。II b類。
23	打斧	床直	1/2	6.4	5.6	2.2	80.6	硬泥	基部欠損。III類。
24	磨斧	床下	1/2	8.8	5.3	3.4	268.4	変は	未製品の刃部破片。表面研磨。裏面剝離・敲打による整形途中。
25	磨斧	中位	完形	12.6	5.0	3.2	314.9	変玄	素材形状大きく変えない。刃部強い研磨。上約1/2に手擦れ様の磨耗。

第2章 検出された遺構と遺物

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
26	磨斧	下位	1/2	9.3	5.6	3.5	275.3	変玄	未製品の基部破片。剥離・敲打による整形途中。
27	磨斧	下位	1/3	8.6	6.7	4.3	376.8	変玄	未製品の基部破片。剥離・敲打による整形途中。
28	磨斧	下位	1/3	9.5	8.1	5.6	577.1	変玄	未製品の刃部破片。剥離による整形途中。
29	磨斧	覆土	1/2	8.2	5.1	2.0	143.5	硬泥	基部破片。両面に剥離痕残す。
30	磨斧	床直	破片	3.6	6.3	4.4	148.7	変玄	刃部破片。かなり厚手。
31	石核	下位	破片	6.2	8.2	5.9	278.3	硬泥	厚手の盤状石核の両面で周辺から剥片剥離。
32	石核	下位	完形	8.4	7.3	4.1	254.9	硬泥	盤状の礫の片面で、一端から剥片剥離。
33	石核	中位	完形	10.7	7.9	3.7	393.1	硬泥	盤状の石核の主に片面で周辺から剥片剥離。
34	石核	下位	完形	9.7	5.9	4.5	272.0	硬泥	不定形。礫の一端で少数の剥片剥離。
35	石核	下位	完形	8.3	7.6	4.0	226.9	硬泥	盤状石核の両面で周辺から剥片剥離。
36	石核	下位	完形	7.6	6.8	3.4	143.4	硬泥	盤状石核の両面で周辺から剥片剥離。
37	石核	床下	完形	6.8	9.7	3.6	285.9	珪頁	盤状の円礫の一端両面で交互に剥片剥離。
38	石核	床直	完形	10.3	9.4	7.5	787.9	硬泥	塊状。不規則に打面・作業面転移して剥片剥離。
39	石核	下位	完形	9.8	11.8	3.4	439.8	珪頁	円盤状の石核の主に片面で周辺から剥片剥離。
40	石核	下位	完形	10.9	9.7	3.7	581.2	変安	盤状の石核の一部で周辺から剥片剥離。
41	石核	中位	完形	10.3	12.9	5.3	765.0	硬泥	円盤状の石核の片面で周辺から剥片剥離。
42	原石	下位	完形	10.9	4.7	2.7	199.3	変玄	盤状の円礫。磨製石斧の原石か。
43	凹石	下位	完形	11.3	8.0	5.8	720.5	粗安	盤状の円礫。表面に凹み2個。表裏に弱い研磨。両端に敲打痕。
44	凹石	下位	完形	12.5	7.6	3.8	547.2	粗安	盤状の円礫。表裏に凹み。右側に敲打痕。
45	凹石	床直	完形	12.4	8.6	5.5	617.0	粗安	盤状の円礫。表裏に凹み。裏面に弱い研磨面。
46	凹石	床直	完形	12.3	12.4	9.7	1936.8	粗安	球状の円礫。表面に1、裏面に2個の凹み。
47	凹石	上位	一部欠	9.5	7.7	5.4	490.4	粗安	盤状の円礫。表面に凹み2個。表裏に研磨。裏面に敲打痕。
48	凹石	下位	2/3	10.2	5.7	3.3	262.3	粗安	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面。裏面に研磨・敲打痕。
49	凹石	下位	破片	7.7	6.8	3.7	210.0	砂岩	表裏に凹み・研磨面。
50	凹石	下位	破片	5.2	10.7	7.2	587.4	デイ	表面に凹み。両端欠損。
51	凹石	中位	1/2	8.8	8.3	3.8	315.3	砂岩	両側面取り。表裏に凹み・研磨面。両端欠損。
52	敲石	上位	一部欠	10.7	8.0	6.2	536.9	粗安	盤状の円礫。表裏に敲打痕。
53	敲石	中位	ほぼ完	14.8	6.0	3.1	385.6	変玄	盤状の円礫。表裏・両端・両側の上部1/3程に敲打痕。
54	磨石	床直	1/2	7.7	6.2	4.6	374.5	デイ	盤状の円礫。両側を面取り。表裏に研磨面。表面横方向に線状痕。
55	磨石	床直	完形	11.0	7.2	4.6	536.4	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。表面に敲打痕。
56	磨石	床直	完形	14.3	6.7	5.5	847.0	粗安	棒状の円礫。両側を面取り。表裏に研磨面。
57	磨石	下位	完形	10.5	7.1	4.0	374.8	デイ	盤状の円礫。両面に凹み・研磨面、横方向の細かな線状痕。
58	磨石	床直	一部欠	12.1	5.3	5.2	428.3	粗安	両側を面取り。表裏に弱い研磨。両端に敲打痕。
59	砥石	上位	1/2	35.2	15.2	8.6	6200.0	砂岩	盤状の垂角礫。表面に使用面。裏面に小さな凹み。

29号住居跡器種組成表

器種	楔	SS	打斧	磨斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	磨石	砥石	剥片
個数	1	2	20	7	17	10	13	1	9	2	5	1	88



29号住居跡石材重量組成グラフ

34号住居跡 (第149～156図、PL14・15・199～201・240～242)

本住居跡はほぼ長方形を呈するが、北西壁は南東壁よりもやや長い。また北側コーナー部は異形を呈する。なお、南西壁の一部が1号井戸によって破壊され、本住居跡の覆土中には11号住居跡が存在した。

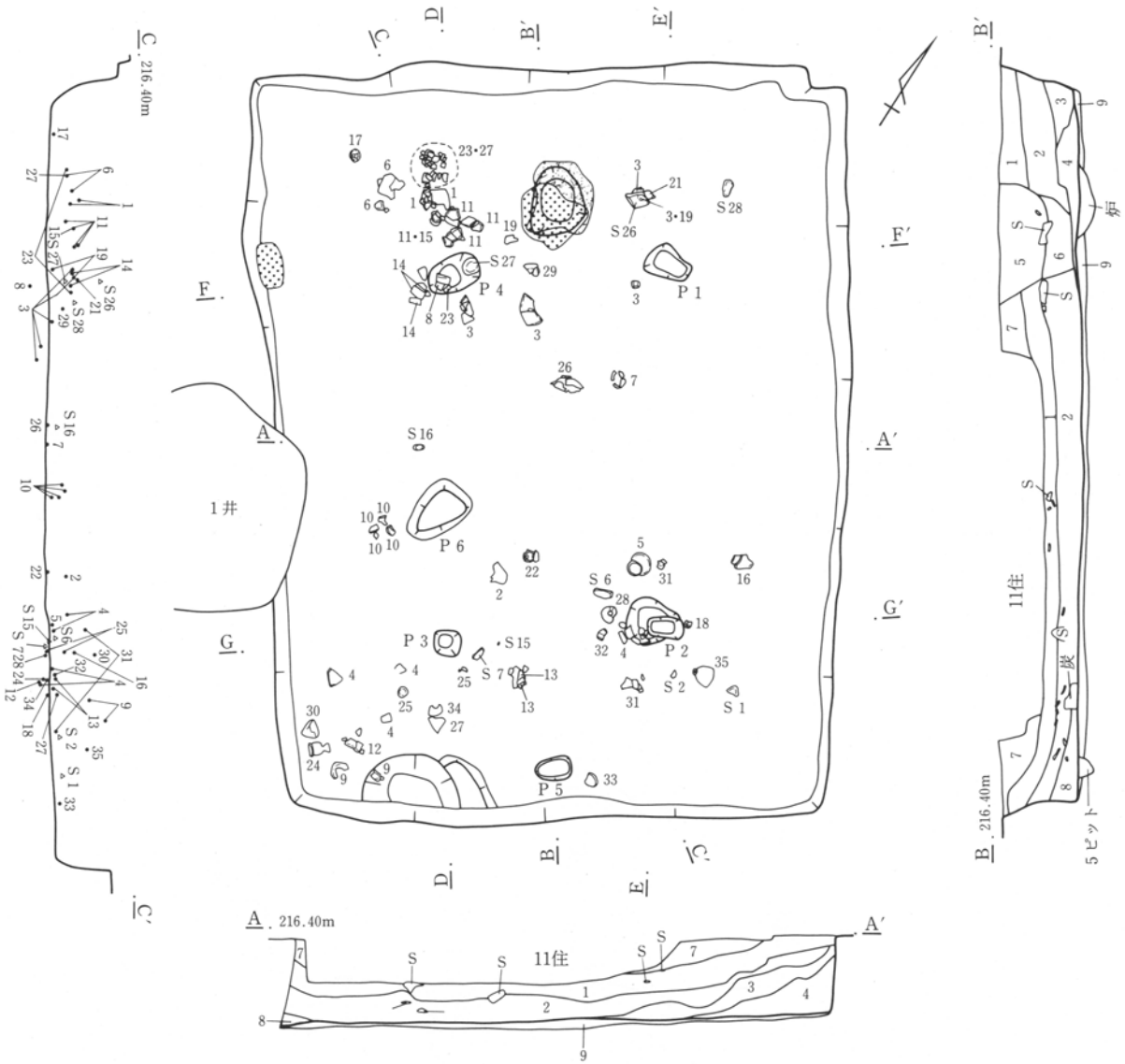
床面は、若干凹凸があるもののほぼ平坦で、ロームブロックを多く含んだ褐色土で貼床としている。柱穴は住居の対角線上に4ヶ所確認された。

掘り方はほぼ平坦であるが、北側コーナー部に1.5m×2mの範囲で深さ約15cmの掘り込みがある。しかしコーナー部から北東壁に接した部分では、この掘り込みはない。また西側コーナー部から西南壁に接して幅約0.6m、長さ約2.3m、深さ約8cmの掘り込みがある。

第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物

炉跡は北西壁寄りで柱穴の外側で確認された。床面を皿状に掘り凹めており、使用面には焼土・炭化物・灰が残されていた。

出土遺物として土器および石器があるが、いずれも量が多い。土器は壺・甕・台付甕・高坏・坏・有孔鉢・紡錘車があり、床面付近およびやや浮いた状態で出土している。石器には砥石・凹石・石皿・磨製石斧・打製石斧等がある。

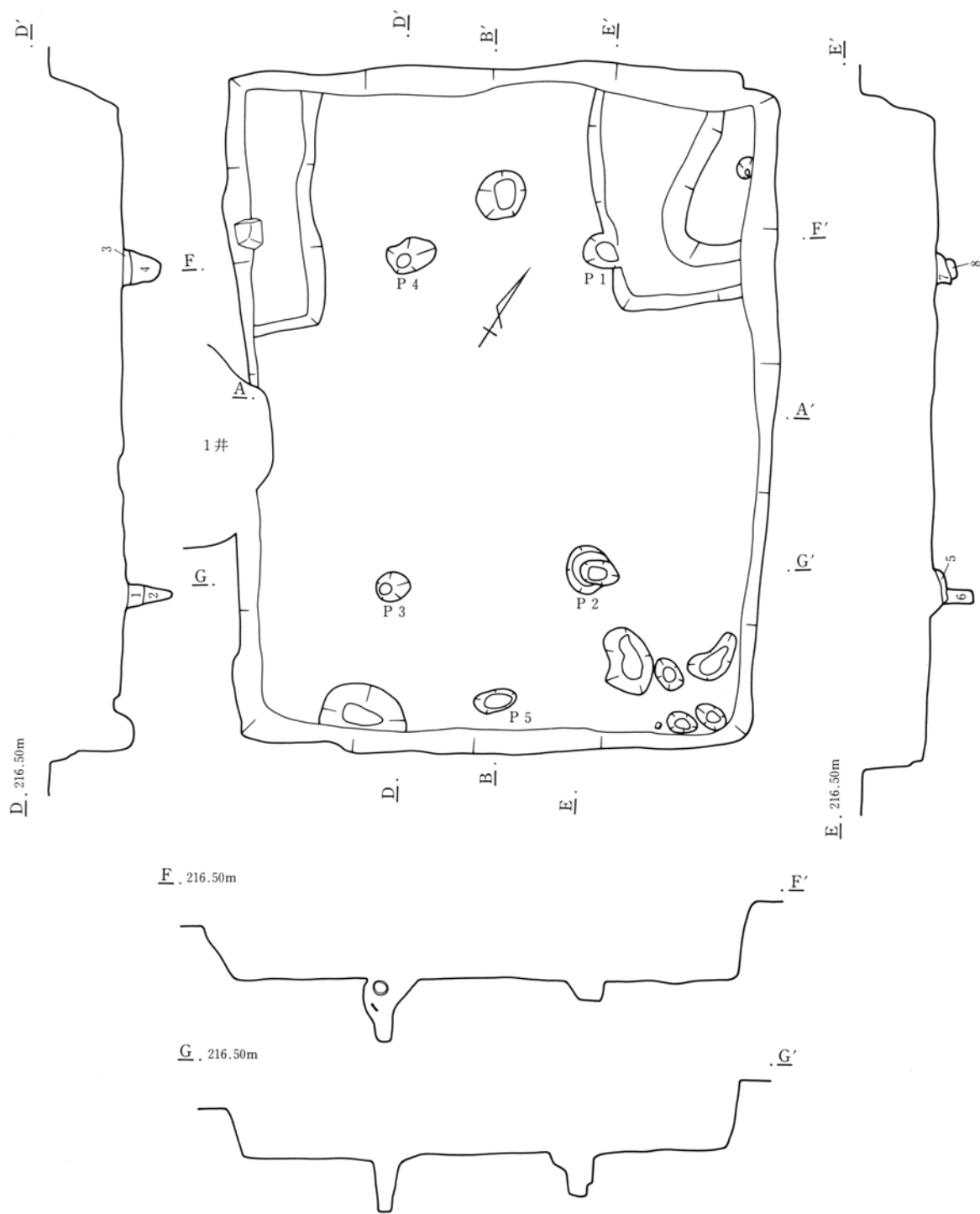


- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色土 砂礫を多く含む。 | 6 暗褐色土 砂礫・ロームブロックを含む。 |
| 2 暗褐色土 砂礫を多く含む。黒っぽい。 | 7 暗褐色土 砂礫を多く含む。白っぽい。 |
| 3 暗褐色土 砂礫・ローム小ブロックを含む。 | 8 暗褐色土 砂礫を少量、ローム粒を含む。 |
| 4 暗褐色土 砂礫少量、ロームブロックを多く含む。 | 9 褐色土 砂礫少量、ロームブロックを多く含む。 |
| 5 暗褐色土 砂礫を含む。 | |

0 2m

第149図 34号住居跡

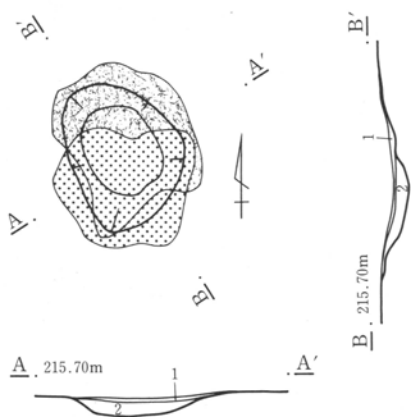
第2章 検出された遺構と遺物



- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロックを多く含む。 | 5 黒褐色土 | 砂礫・ロームブロックを少量含む。 |
| 2 褐色土 | 粘質。暗褐色土ブロックを少量含む。 | 6 暗褐色土 | 砂礫・ロームブロックを含む。 |
| 3 暗褐色土 | 白色・褐色小粒子を少量含む。 | 7 暗褐色土 | 砂礫・ロームブロックを少量含む。 |
| 4 暗褐色土 | 白色・褐色粒子を僅かに含む。 | 8 褐色土 | 粘質。暗褐色土ブロックを少量含む。 |

0 2m

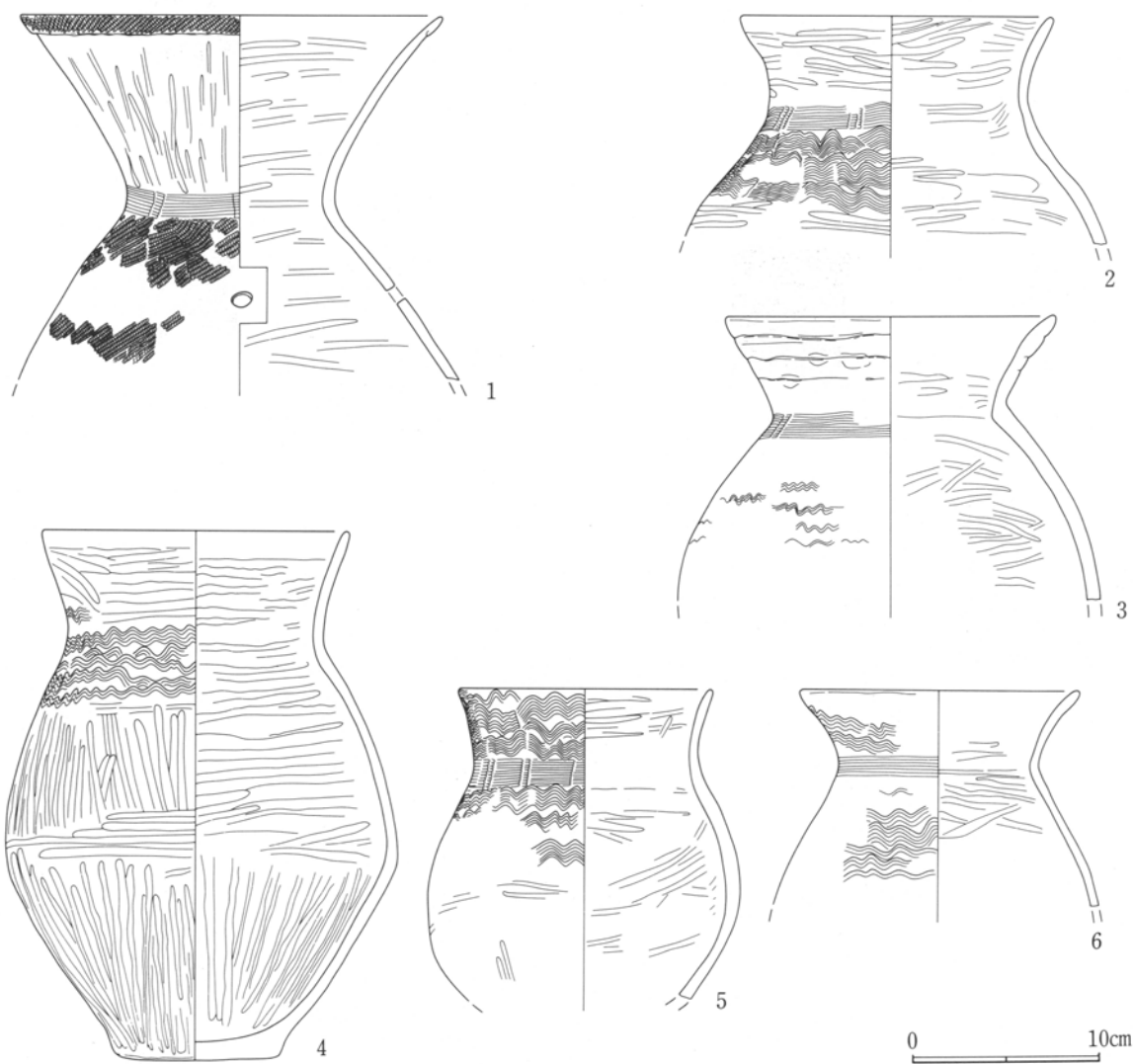
第150図 34号住居跡 掘り方



- 1 黒色土 焼土粒子を大量、砂礫を少量含む。
- 2 赤褐色土 粘土が焼土化したもの。

0 50cm

第151図 34号住居跡 炉

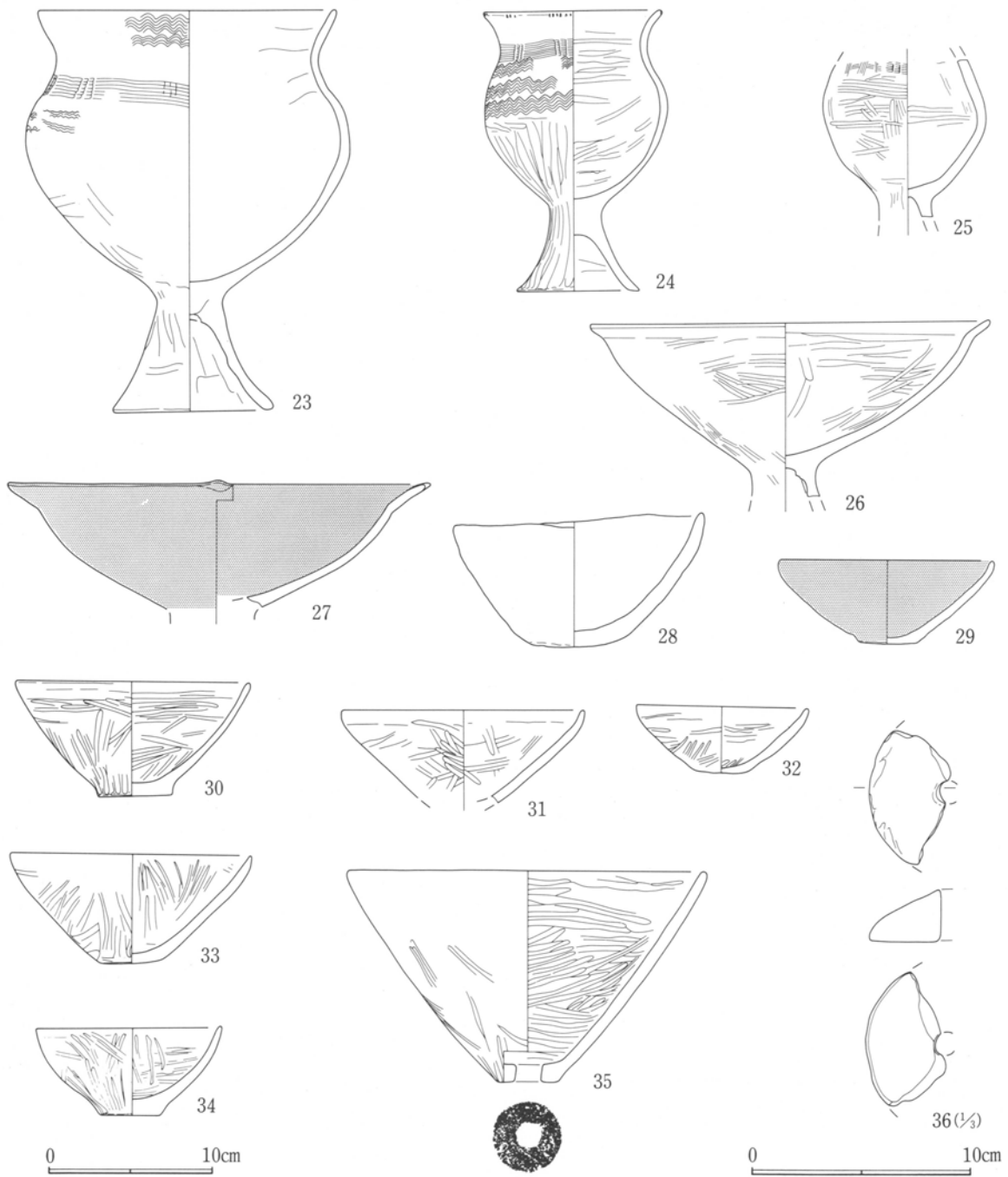


第152図 34号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



第153図 34号住居跡出土遺物(2)



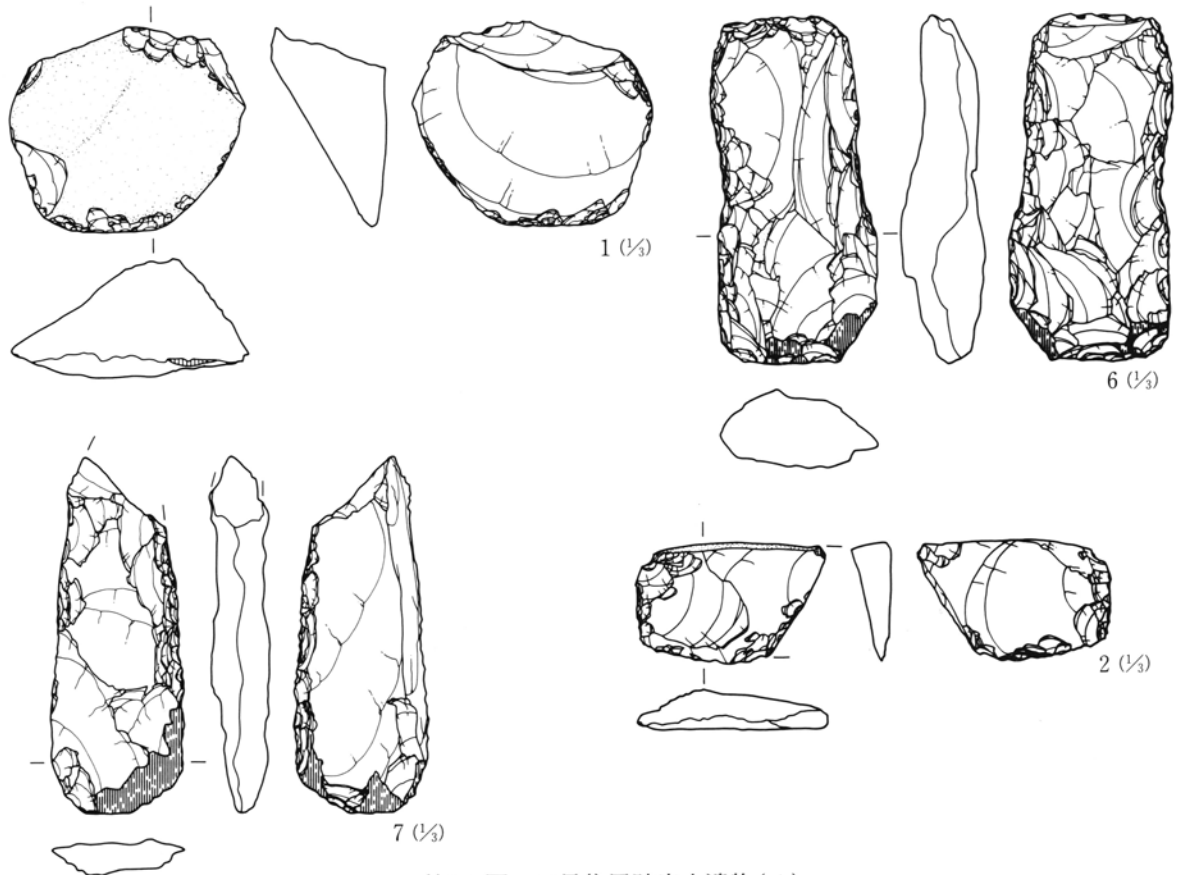
第154図 34号住居跡出土遺物(3)

34号住居跡出土土器観察表

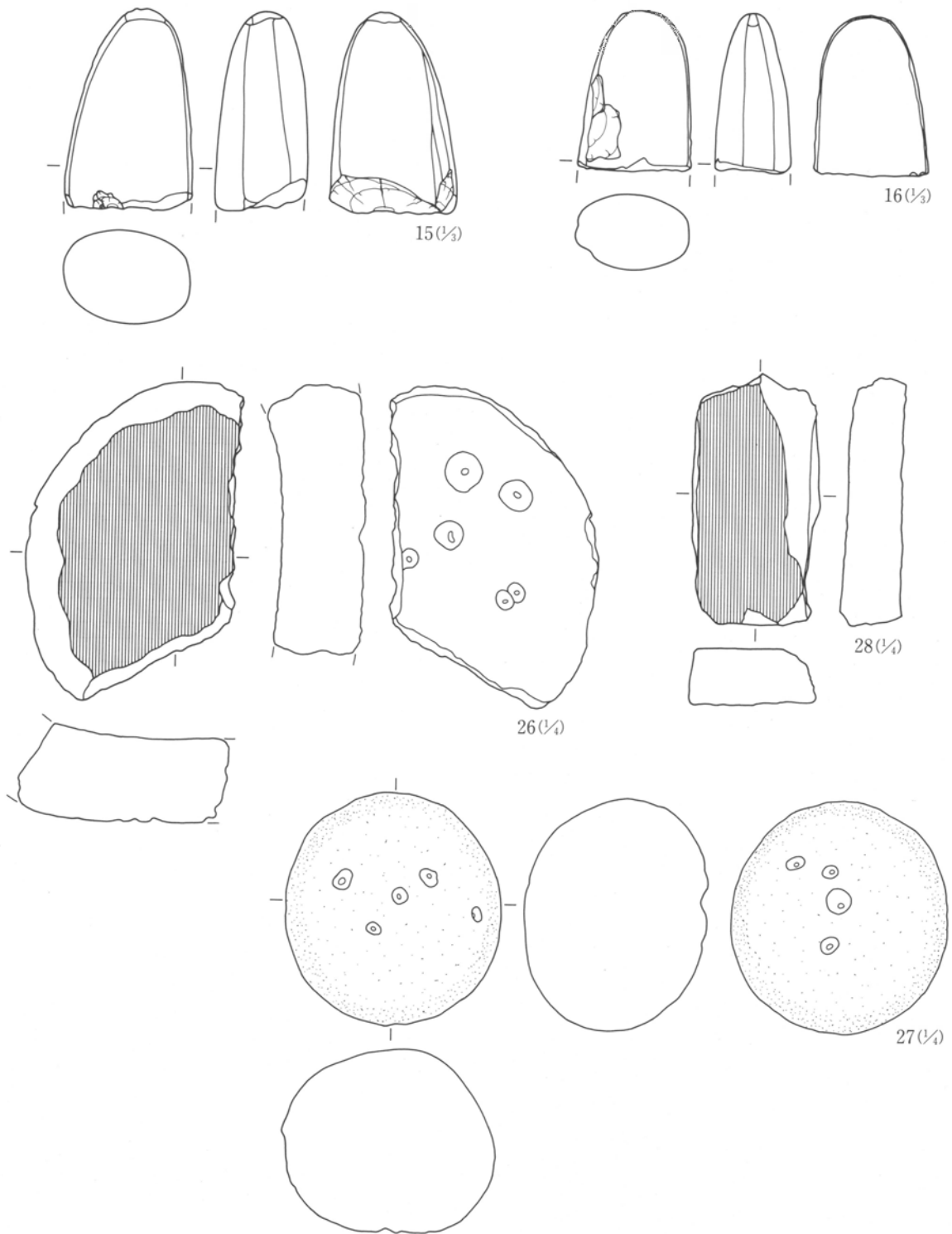
番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徵			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	胴(c)		幅(mm)/本数	内					
1	199	大型甗	(230)			a斜縄 b 2止廉 c 2斜縄	15/10LR	ミガキ	ミガキ	A	橙		口~胴	埋土	胴中穿孔	
2	199	甗	(169)			b 3止廉 c 4波	13/8	ミガキ	ミガキ	A	橙	肩煤	口~肩1/3	埋土		
3	199	甗	178			a 3横上 b 2止廉 c 波	17/10	ミガキ		AD	橙		口~肩	床中央	埋土	
4	199	甗	166	283	86	b~c 6波	10/5	ミガキ	ミガキ	A	褐色	肩煤	胴2/3欠	埋土		
5	199	小型甗	137			a 3波 b 2止廉 c 3波	15/10	ミガキ	ミガキか	C	にぶい橙	胴被熱	口~胴	床中央		
6	199	甗	(150)			a 波 b 廉 c 波		ミガキ	剥離	A	にぶい橙	胴被熱	口~胴1/2	埋土		
7	199	甗	(150)			a~c 波 b 2止廉	14/12	ミガキ		A	にぶい橙		口~肩1/4	埋土		
8	199	小型甗	129			a~c 7波	11/5	ミガキ	ミガキか	A	にぶい橙	頸煤	口~胴上	埋土		
9	199	小型甗	(150)			a~c 波 b 2止廉	25/16	ミガキ		F	褐色		口~肩1/2	埋土		

第2章 検出された遺構と遺物

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置	備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	胴(c)		内	外						
10	200	甕	150			a 3 積上			ミガキ	剥離	B	褐灰				埋土	
11	200	甕				a 積上 b~c 斜縄	RLR		ミガキ	ミガキ	B	赤褐	被熱			埋土	
12	200	甕	(155)			a 斜縄 b 2 止簾 c 3 斜縄	16/- LR		ミガキ		A	にぶい橙	被熱	口~胴上1/3	床左		
13	200	小型甕	170			a~c 2 斜縄	LR		ミガキ		G	橙	全体被熱	口~胴上3/4	埋土		
14	200	小型甕	135			a~c 斜縄	RL		ミガキ	ハケメ	A	にぶい橙		口~頸	埋土		
15	200	小型甕	106			a 積上 a~c 斜縄	RL		ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	胴被熱	口~胴上	埋土		
16		(台付甕)	(153)			b 2 止簾 c 波	14/10		ミガキ		A	にぶい橙	口~肩被熱	口~肩1/4	埋土		
17	200	小型甕	(98)	110	46				ミガキか	剥離	A	赤褐	全体被熱	口~底1/4	床奥左		
18		小壺			37				ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		口~体2/3欠	床右		
19	200	小型甕			58				剥離	剥離	G	橙		頸~底1/2	炉周辺 埋土		
20		甕			(60)				ミガキ	ミガキ	A	橙	被熱	体下~底1/2	埋土		
21		甕			60				ミガキ	ミガキ	A	明赤褐	胴被熱	底	埋土		
22		甕			63				剥離	剥離	A	橙	胴下被熱	底	床中央		
23	200	台付甕	183	244	99	a 波 b 3 止簾 c 波	15/7		ナデか	ミガキ	A	淡黄		口胴1/4欠	埋土		
24	200	小型台付甕	110	170	76	a 刻み b 3 止簾 c 3 波	12/8		ミガキ	ミガキ	B	明褐	胴脚被熱	口一部欠	床入口左		
25	200	小型台付甕				b 部分的簾状文			ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		口脚欠	床中央		
26	200	高杯	245						ミガキ	ミガキ	A	橙		口1/3 脚欠	床中央		
27		高杯	(280)			a 瘤状突起			ミガキ	ミガキ	F	褐色		杯1/4	埋土		
28	200	鉢	154	82	54				ナデ	剥離	A	浅黄橙			床中央		
29	200	小型鉢	130	52	37				ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		口一部欠	炉周辺		
30	200	小型鉢	145	70	45				ミガキ	ミガキ	A	橙		口一部欠	埋土		
31	201	(小型鉢)	143						ミガキ	ミガキ	A	浅黄橙		口~体1/2	埋土		
32		小型鉢	(106)	51	32				ミガキ	ミガキ	A	明赤褐		口~底1/4	埋土		
33	201	小型鉢	147	62	37				ミガキ	ミガキ	B	橙			埋土		
34		小型鉢	114	53	35				ミガキ	ミガキ	B	橙		口1/2欠	床入口左		
35	201	有孔鉢	(221)	129	39	孔13			ミガキ	剥離	A	橙		口~底1/3	埋土		
36	201	紡錘車	(76)	厚 24		重40g			ナデ	ナデ	A	橙		1/3	埋土		



第155図 34号住居跡出土遺物(4)



第156図 34号住居跡出土遺物(5)

34号住居跡出土石器観察表

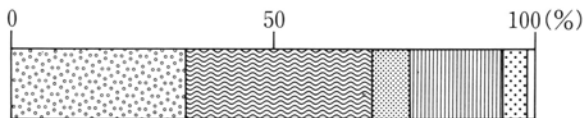
No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	SS	床下	完形	8.1	9.4	4.7	290.8	硬泥	剥片先端両面に調整加え刃部形成。
2	SS	下位	1/2	4.8	7.6	1.6	59.7	硬泥	剥片の打面～側両面に調整。右側欠損。
3	SS	覆土	完形	4.7	7.3	2.1	84.1	硬泥	剥片の側表裏に調整加え刃部形成。

第2章 検出された遺構と遺物

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
4	打斧	覆土	一部欠	7.2	4.8	1.3	51.1	硬泥	幅に比して長さ短い。再調整の結果か。刃部磨耗。Ⅲ類。
5	打斧	下位	完形	20.7	6.1	2.2	310.9	変玄	両面の周辺のみに調整。Ⅲ類。
6	打斧	床直	完形	13.7	6.5	3.3	307.1	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。Ⅲ類。
7	打斧	床直	一部欠	14.0	5.3	2.4	192.8	粗安	刃部磨耗。基部一部欠損。Ⅱb類。
8	打斧	覆土	完形	7.2	3.8	1.1	29.8	粗安	刃部わずかに磨耗。Ⅱb類。
9	打斧	覆土	一部欠	8.5	3.9	1.6	79.4	硬泥	基部欠損。刃部先端磨耗。Ⅲ類。
10	打斧	覆土	完形	10.5	4.8	1.6	129.0	硬泥	刃部磨耗。Ⅱb類。
11	打斧	覆土	完形	9.9	3.8	1.5	70.2	粗安	Ⅲ類。
12	打斧	中位	1/2	8.5	5.1	2.6	129.9	硬泥	両端欠損。Ⅱa類。
13	打斧	覆土	2/3	7.1	4.0	1.1	39.2	細安	刃部磨耗。基部欠損。Ⅲ類。
14	打斧	覆土	1/2	4.6	8.0	2.2	89.4	硬泥	両端欠損。形状不明。
15	磨斧	床直	1/2	9.5	6.2	4.4	385.7	変玄	刃部欠損。
16	磨斧	床下	1/2	7.6	5.5	3.7	258.5	変玄	刃部欠損。表面に一部剝離痕残す。
17	磨斧	覆土	2/3	6.3	2.7	1.2	34.9	変玄	小型で細身。刃部欠損。
18	磨斧	覆土	1/3	5.6	5.0	3.0	119.5	変玄	刃部破片。先端に使用による剝離痕。
19	石核	中位	完形	7.1	9.4	4.4	247.7	硬泥	剥片の背面側一端で剥片剝離。
20	石核	上位	完形	4.7	5.7	2.0	47.9	硬泥	剥片の一端で交互に剥片剝離。
21	石核	覆土	ほぼ完	7.1	9.3	4.5	234.0	硬泥	剥片の分割面を打面とし、腹面側で剥片剝離。
22	凹石	覆土	完形	11.1	4.0	3.4	215.2	粗安	棒状の円礫。表面凹み。表裏に研磨面。
23	凹石	上位	完形	21.1	10.3	7.7	2220.0	粗安	盤状の円礫。表面に凹み。
24	敲石	中位	完形	21.8	12.0	8.5	2900.0	デイ	盤状の円礫。両端・両側に敲打痕。
25	磨石	床直	破片	7.4	5.7	4.5	250.4	変安	側辺を面取り。両面に研磨面。
26	石皿	上位	1/4	13.7	20.5	7.5	2320.0	粗安	皿部分内面弱い研磨。裏面に凹みあり。
27	多孔	下位	完形	14.8	13.8	11.8	3000.0	デイ	球状の円礫。表面に5個、裏面に4個の凹み。
28	砥石	床下	完形	16.2	8.1	4.0	738.9	砂岩	盤状の角礫。表面に研磨面。

34号住居跡器種組成表

器種	SS	打斧	磨斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	磨石	石皿	多孔	砥石	剥片
個数	3	11	4	4	8	6	1	2	1	1	1	1	1	28



34号住居跡石材重量組成グラフ

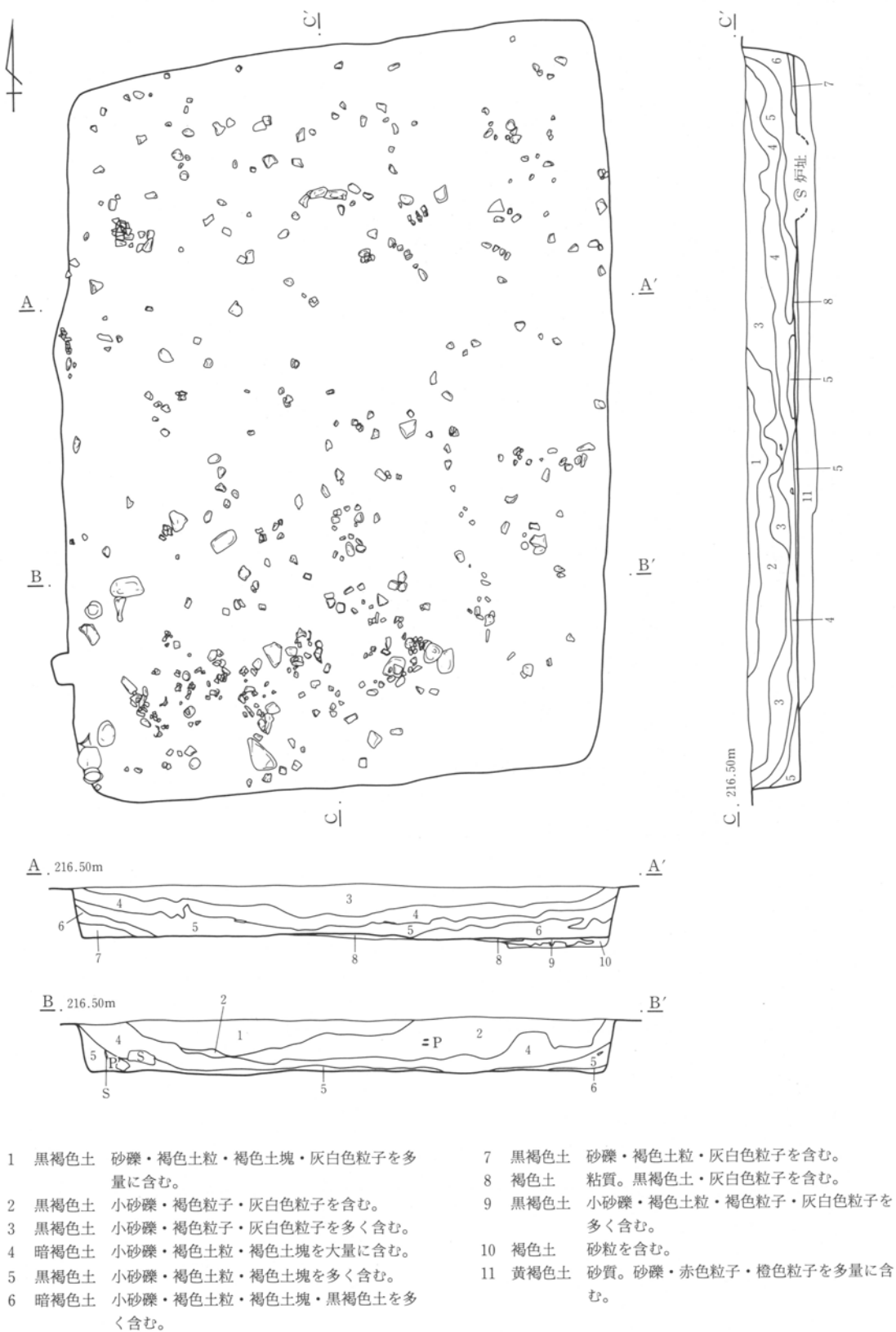
38号住居跡 (第157~164図、PL15・201・202・242~244)

本住居跡はやや菱形となる長方形を呈する。床面は平坦であるが、やや軟弱である。地山を掘り凹め、地山土を平坦にならしてそれを床面としている。

柱穴は4ヶ所で、ほぼ対角線上に存在する。なお南壁近くに柱穴より小さなPitが4ヶ所存在する。掘り方は平坦ではなく、やや深く掘り込まれている部分、やや高く掘り残されている部分等が存在する。

炉は北壁よりの柱穴より外側で発見された。床面を皿状に掘り凹めており、使用面には炉石2個と焼土が一部残されていた。

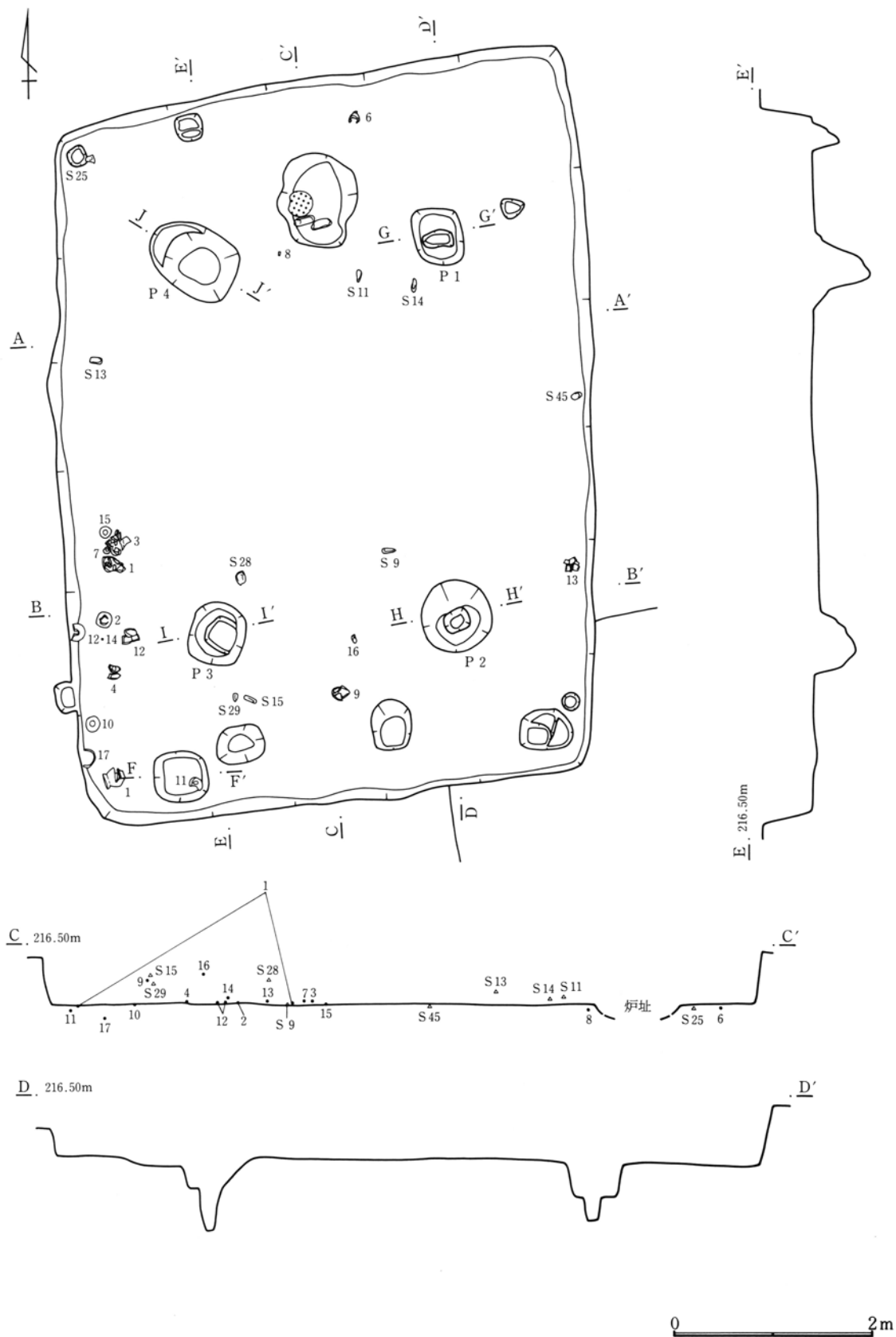
出土土器には壺・甕・高坏・坏・有孔鉢等があり、住居南西部コーナー付近には甕・坏・有孔鉢(1・12・17)がまとまって出土しているが、写真にある最も大きな甕については行方不明となった。出土石器はかなり多く54点となる。出土遺物は住居内全域にわたっており、床面より25cmほど浮いているものもあるが、床面付近からの出土が多い。



第157図 38号住居跡遺物出土状況

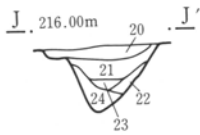
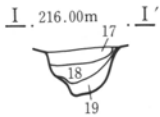
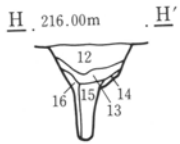
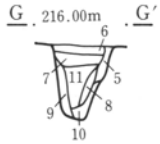
0 2m

第2章 検出された遺構と遺物

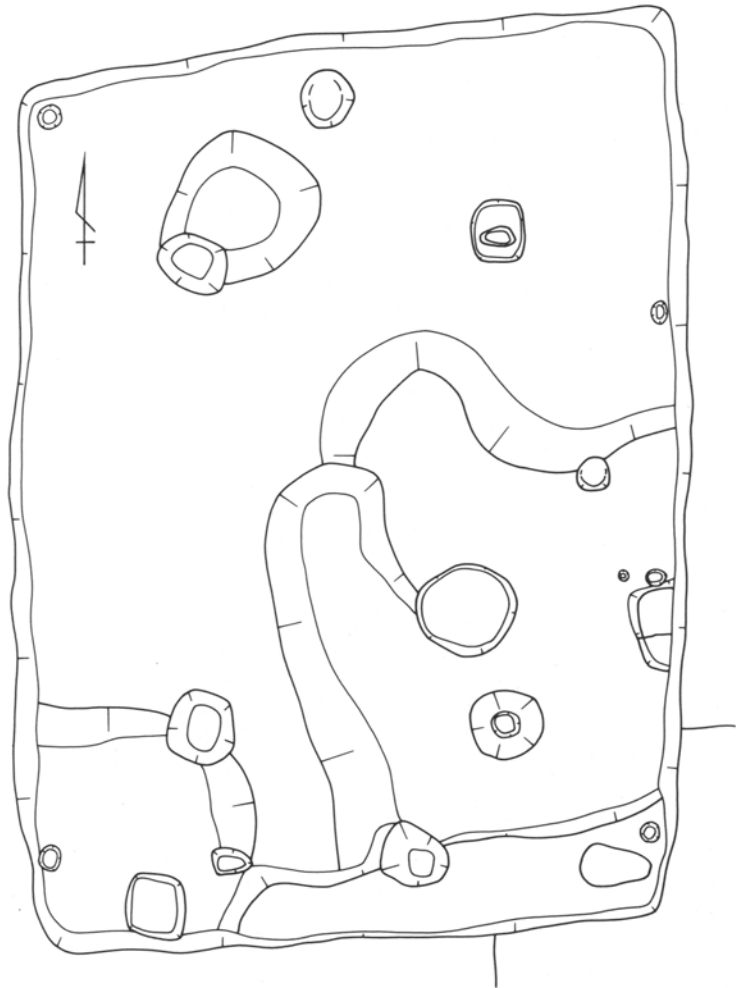


第158図 38号住居跡

第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物



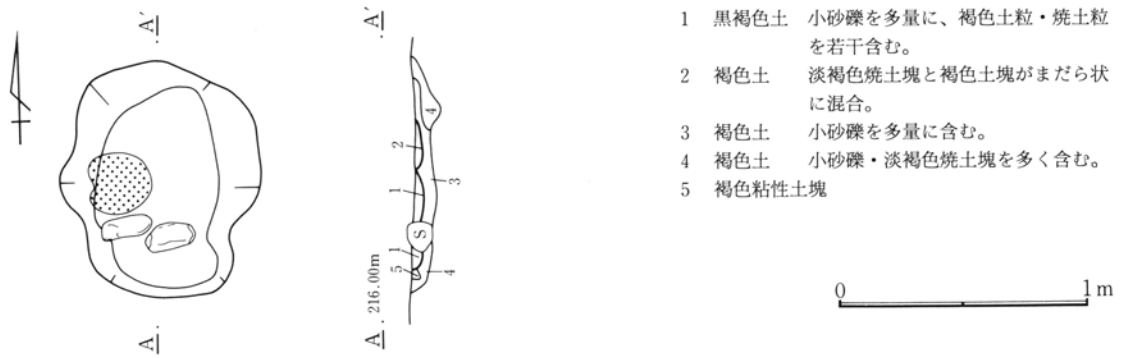
- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|------------------------|
| 1 暗褐色土 | 黄色粒子を少量含む。 | 13 黄褐色土 | 黄色粒子・ローム粒を多量に、砂礫を少量含む。 |
| 2 黒褐色土 | 黄色粒子を少量含む。 | 14 黄色土 | 砂質。砂礫を少量含む。 |
| 3 暗褐色土 | 黄色粒子・砂礫を少量含む。 | 15 黄褐色土 | 砂礫・黄褐色土ブロックを含む。 |
| 4 黒色土 | 砂質。礫を含む。 | 16 黄褐色土 | 小石を少量含む。 |
| 5 暗褐色土 | 黄色粒子を多く含む。 | 17 暗褐色土 | 黄色粒子・橙色粒子を少量含む。 |
| 6 黒褐色土 | ロームブロック・黄色粒子を少量含む。 | 18 暗褐色土 | 黄色粒子をやや多く、ローム粒を少量含む。 |
| 7 暗褐色土 | 黒色土ブロック・砂礫を含む。 | 19 黄褐色土 | 砂質。ローム粒・砂粒を多量に含む。 |
| 8 暗褐色土 | ローム粒をやや多く、黒色土ブロックを少量含む。 | 20 暗褐色土 | 黄色粒子・白色粒子・砂礫を多量に含む。 |
| 9 黄褐色土 | 黒色土ブロックを多く含む。 | 21 暗褐色土 | 砂礫・黄色粒子を含む。 |
| 10 黄色土 | 砂質。砂礫を少量含む。 | 22 黄褐色土 | 砂質。砂礫を含む。 |
| 11 黄褐色土 | ローム粒・砂礫を多く、黒色土ブロックを若干含む。 | 23 暗褐色土 | 小石・黄色粒子を含む。 |
| 12 黒褐色土 | 砂礫・黄色粒子をやや多く含む。 | 24 黒褐色土 | ローム粒・砂礫を少量含む。 |



0 2m

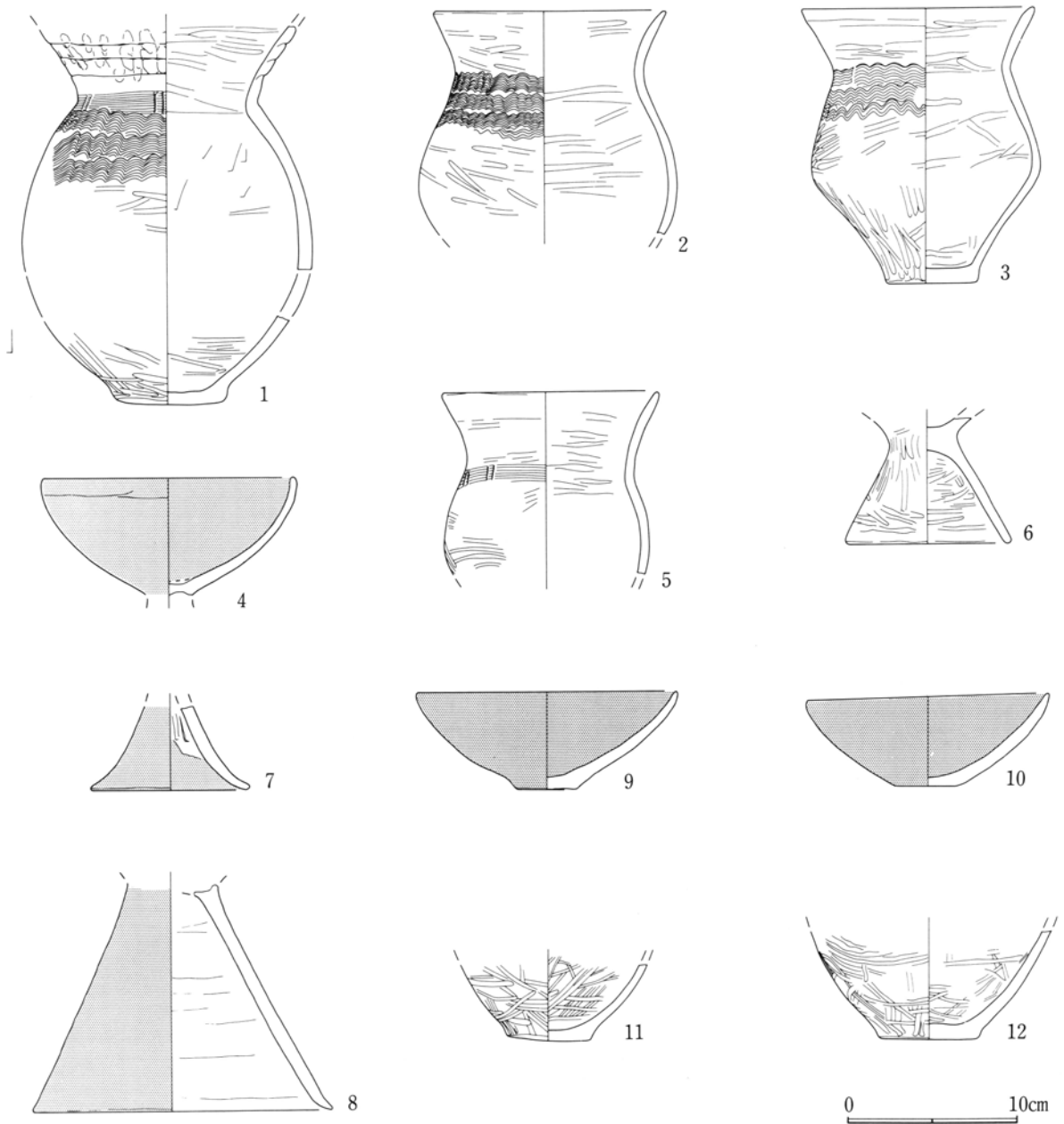
第159図 38号住居跡 掘り方

第2章 検出された遺構と遺物

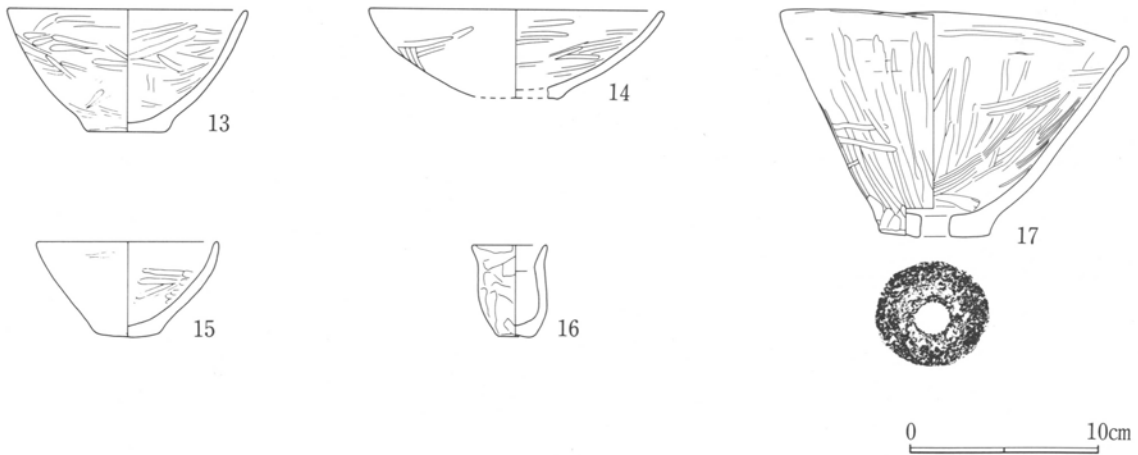


- 1 黒褐色土 小砂礫を多量に、褐色土粒・焼土粒を若干含む。
- 2 褐色土 淡褐色焼土塊と褐色土塊がまだら状に混合。
- 3 褐色土 小砂礫を多量に含む。
- 4 褐色土 小砂礫・淡褐色焼土塊を多く含む。
- 5 褐色粘性土塊

第160図 38号住居跡 炉



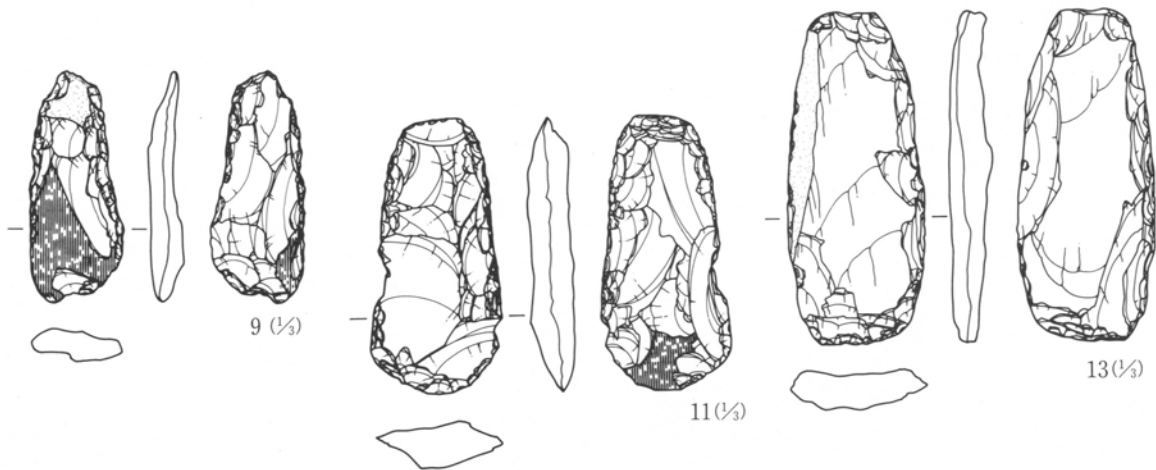
第161図 38号住居跡出土遺物(1)



第162図 38号住居跡出土遺物(2)

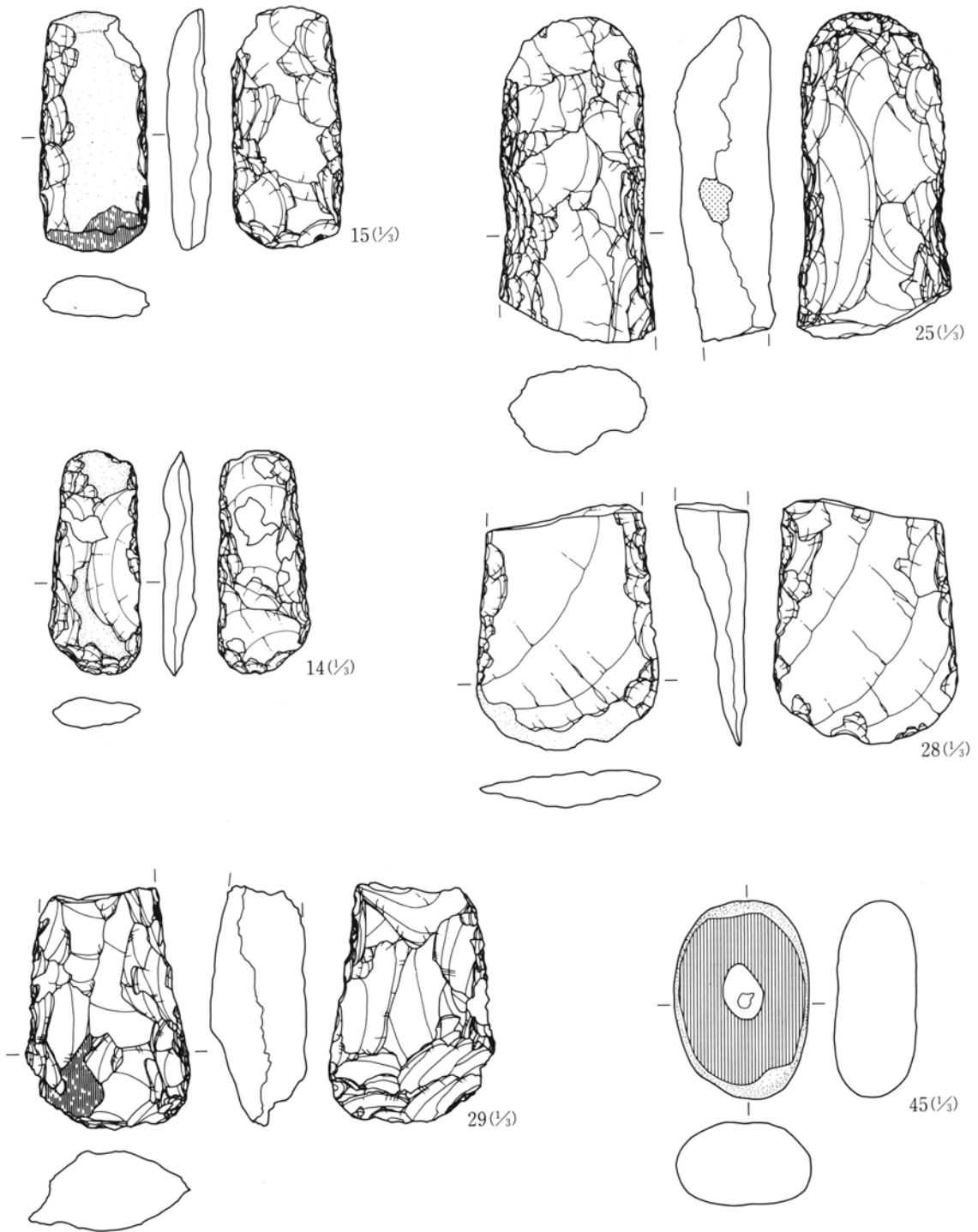
38号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値(mm)			文様の特徴			施文具 幅(mm)/本数	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	胴(c)		内	外					
1	201	甕	(150)		65	a 積上 b 2 止簾 c 3 波	17/11	口ミガキ 胴ナデ	ミガキ	A	赤褐色	胴被熱	口~底	埋土		
2	201	小型甕	(140)			b 3 波	11/7	ミガキ	ミガキ	A	褐色	胴被熱	口~胴1/2	床壁際左		
3	201	小型甕	140	162	53	b 3 波	10/5	ミガキ	ミガキ	A	褐色	口~胴被熱	口胴1/2欠	床左		
4	201	高杯	150					ミガキ	ミガキ	F	橙		杯1/3	床壁際左		
5	201	小型甕	130			b 2 止簾	10/7	ミガキ	ミガキ	A	褐色	被熱	口~胴	埋土		
6		台付甕			98			ミガキ	ミガキ	A	橙		脚2/3	埋土		
7	201	高杯			95			ナデ	ミガキ	F	にぶい橙		脚のみ	床壁際左		
8	201	高杯			180			ナデ	ミガキ	A	にぶい橙		脚のみ	床壁際左		
9	201	鉢	(152)	58	36			ミガキ	ミガキ	B	橙		1/3	埋土		
10	201	小型鉢	145	55	40			ミガキ	ミガキ	F	淡黄		口一部欠	床壁際左		
11		小型甕			50			ミガキ	ミガキ	A	赤褐	胴下被熱	底のみ	埋土		
12		甕			60			ミガキ	ミガキ	A	にぶい赤褐	被熱	胴下~底	床壁際左		
13	201	小型鉢	(128)	65	43			ミガキ	ミガキ	A	橙		口~体1/3欠	埋土		
14	201	鉢	156	47	(45)			ミガキ	ミガキ	A	にぶい橙		1/2	床壁際左		
15	201	小型鉢	98	50	33			ミガキ	剥離	B	にぶい橙		完形	床左		
16	202	ミニチュア甕	41	48	19			ナデ	ナデ	A	にぶい黄橙		口一部欠	埋土		
17	202	有孔鉢	184	117	58	孔15		ミガキ	ミガキ	B	橙		口一部欠	埋土		



第163図 38号住居跡出土遺物(3)

第2章 検出された遺構と遺物



第164図 38号住居跡出土遺物(4)

38号住居跡出土石器観察表

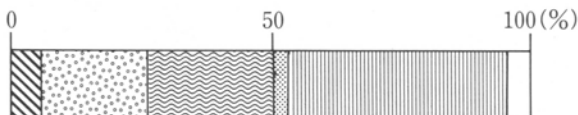
No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	1.5	1.3	0.4	0.7	黒曜	両端に剝離痕。
2	楔	覆土	完形	1.5	1.3	0.6	1.1	黒曜	両端に剝離痕。
3	楔	覆土	完形	2.4	2.3	0.6	3.0	黒曜	両端に剝離痕。
4	打斧	覆土	ほぼ完	11.8	4.9	1.6	90.3	細安	II b類。

第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
5	打斧	上位	完形	11.5	5.5	1.9	114.5	凝砂	II b類。
6	打斧	床直	2/3	10.0	5.5	3.3	177.4	硬泥	刃部欠損。II b類。
7	打斧	中位	2/3	10.2	4.4	1.7	81.5	珪頁	刃部欠損。II b類。
8	打斧	中位	2/3	9.0	4.8	1.8	90.1	硬泥	刃部欠損。II b類。
9	打斧	床直	完形	9.1	3.7	1.4	47.8	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。II b類。
10	打斧	中位	ほぼ完	10.0	5.1	2.2	123.0	硬泥	刃部磨耗。基部わずかに欠損。II b類。
11	打斧	下位	完形	10.9	5.2	1.8	111.0	硬泥	刃部磨耗。II b類。
12	打斧	下位	完形	11.2	5.1	1.9	135.3	凝砂	刃部磨耗。II b類。
13	打斧	下位	完形	13.1	5.4	1.7	176.1	緑片	II b類。
14	打斧	下位	完形	10.3	4.3	1.6	78.9	凝砂	熱により器表面一部剝落。II b類。
15	打斧	中位	ほぼ完	11.0	5.1	2.0	150.5	硬泥	刃部磨耗。III類。
16	打斧	中位	完形	8.3	4.2	1.6	65.8	珪頁	器表面かなり風化。III類。
17	打斧	覆土	1/2	8.8	4.6	1.7	75.6	硬泥	刃部欠損。II b類。
18	打斧	床下	1/3	6.8	3.9	2.5	71.4	硬泥	基部破片。形状不明。
19	打斧	中位	1/2	7.4	5.1	1.6	72.1	珪頁	基部欠損。II b類。
20	打斧	覆土	1/2	7.8	3.9	1.8	55.5	細安	両端欠損。III類。
21	打斧	床下	1/2	6.9	4.9	1.9	68.6	硬泥	基部欠損。刃部磨耗。III類。
22	打斧	床下	1/3	7.7	4.5	1.9	66.4	砂頁	刃部欠損。形状不明。
23	打斧	覆土	1/2	8.4	5.7	1.8	106.0	硬泥	基部欠損。形状不明。刃部磨耗。
24	打斧	床下	1/2	8.5	5.6	2.5	141.6	硬泥	刃部磨耗。基部欠損。III類。
25	石鍬	床下	2/3	15.0	7.1	4.6	605.7	硬泥	刃部欠損。右側一部敲打により整形。
26	石鍬	床直	破片	6.3	6.9	3.2	157.5	硬泥	刃部破片。上部・右半欠損。
27	石鍬	覆土	破片	6.3	11.6	3.1	236.6	硬泥	刃部破片。
28	石鍬	中位	1/2	11.2	8.4	3.4	343.4	粗安	基部欠損。器表面かなり風化。
29	石鍬	中位	2/3	11.1	7.7	4.4	374.3	細安	刃部磨耗。基部欠損。II b類。
30	磨斧	下位	1/2	8.1	5.5	2.8	201.8	変玄	未製品の基部破片。剝離・敲打による整形途中。
31	磨斧	中位	1/3	8.0	5.8	4.3	277.0	石閃	未製品の基部破片。敲打による整形途中。
32	磨斧	床下	1/2	7.3	2.7	1.5	46.0	変玄	両端欠損。丁寧な仕上げ。断面隅丸の長方形。
33	磨斧	下位	1/2	8.3	4.8	2.6	191.5	変玄	両端欠損。原礫の形状あまり変えずに研磨して整形。
34	石核	中位	1/2	10.0	7.5	5.6	369.0	硬泥	剝片の側面両面で交互に剝片剝離。上半欠損。
35	石核	中位	完形	9.0	6.2	6.3	340.9	硬泥	賽子状。打面・作業面を転移しながら剝片剝離。
36	石核	中位	完形	9.9	7.3	4.2	276.3	硬泥	盤状礫。表面では両端から、裏面では右側から剝片剝離。
37	石核	下位	完形	12.8	7.1	4.3	482.1	硬泥	礫の一端で剝片剝離。
38	石核	床直	完形	15.8	9.8	6.1	798.5	硬泥	分割礫の両端で交互に剝片剝離。
39	石核	下位	完形	8.9	8.3	3.8	238.1	硬泥	剝片の背面側で周辺から剝片剝離。
40	石核	床直	1/2	6.9	8.3	2.9	161.8	硬泥	剝片背面側で周辺から剝片剝離。上半欠損。
41	石核	床直	完形	9.4	5.9	3.2	195.2	硬泥	剝片の主に両端で剝片剝離。形状は楔状。
42	石核	下位	完形	9.9	11.3	4.3	517.1	細安	剝片の側の主に腹面側で剝片剝離。
43	原石	覆土	完形	5.0	4.8	1.7	51.2	玉髓	盤状の角礫。脈状に生成したもの。
44	凹石	下位	完形	11.7	9.2	5.3	759.2	粗安	右側面取り。表面1、裏面2個の凹み。表裏研磨、左側・両端に敲打痕。
45	凹石	床下	完形	9.1	6.3	3.8	307.2	デイ	盤状の円礫。表面に凹み・弱い研磨面。裏面に一部敲打痕。
46	凹石	中位	完形	11.3	7.1	5.3	644.9	粗安	両側面取り。表裏に凹み・研磨面。
47	凹石	下位	2/3	11.4	6.4	4.6	481.0	変安	両側面取り。表面に2個の凹み。裏面・上端に敲打痕。表裏に研磨。
48	凹石	下位	完形	11.8	8.7	5.2	676.9	デイ	盤状の円礫。表裏に研磨・凹み各2個。両側・両端に敲打痕。
49	敲石	中位	完形	10.9	7.5	4.2	428.9	粗安	盤状の円礫。表裏・両端に敲打痕。
50	磨石	中位	1/2	7.1	5.6	3.8	192.9	デイ	盤状の円礫。表裏に研磨面。下半欠損。
51	磨石	下位	1/2	8.5	7.0	4.6	420.8	粗安	盤状の円礫。両側面取り。表裏に研磨面。上端に敲打痕。
52	磨石	中位	一部欠	10.1	8.1	5.5	610.8	粗安	盤状の円礫。表裏に研磨面。裏面欠損。
53	多孔	下位	1/2	19.2	18.5	9.0	3960.0	デイ	盤状の円礫。表面に1、裏面に2個の凹み。
54	砥石	覆土	破片	3.8	3.5	1.4	14.9	凝砂	表裏・側面に使用面。

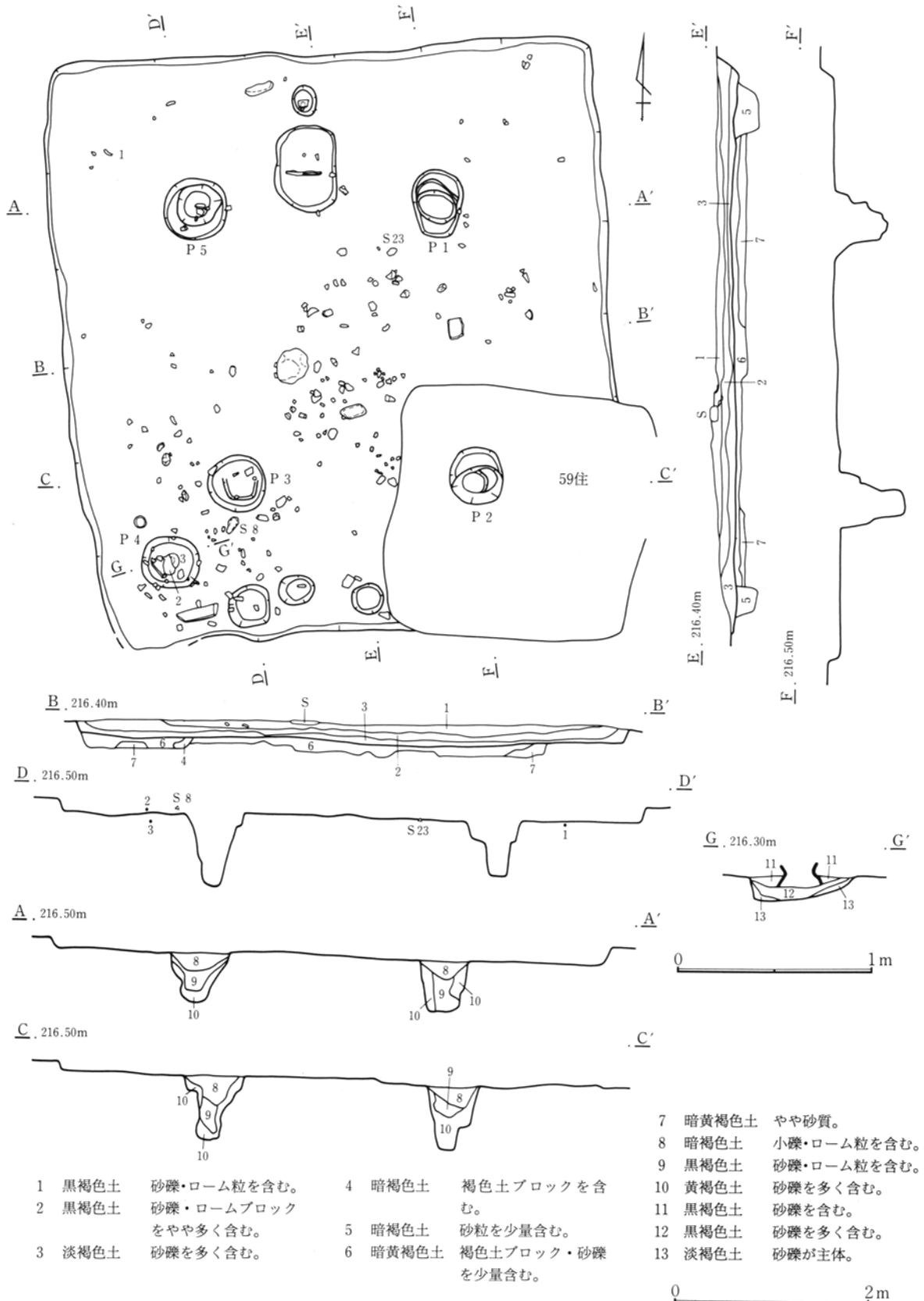
38号住居跡器種組成表

器種	楔	打斧	石鍬	磨斧	二次	微細	石核	原石	凹石	敲石	磨石	多孔	砥石	剝片
個数	3	21	5	4	18	8	17	2	5	1	3	1	1	102



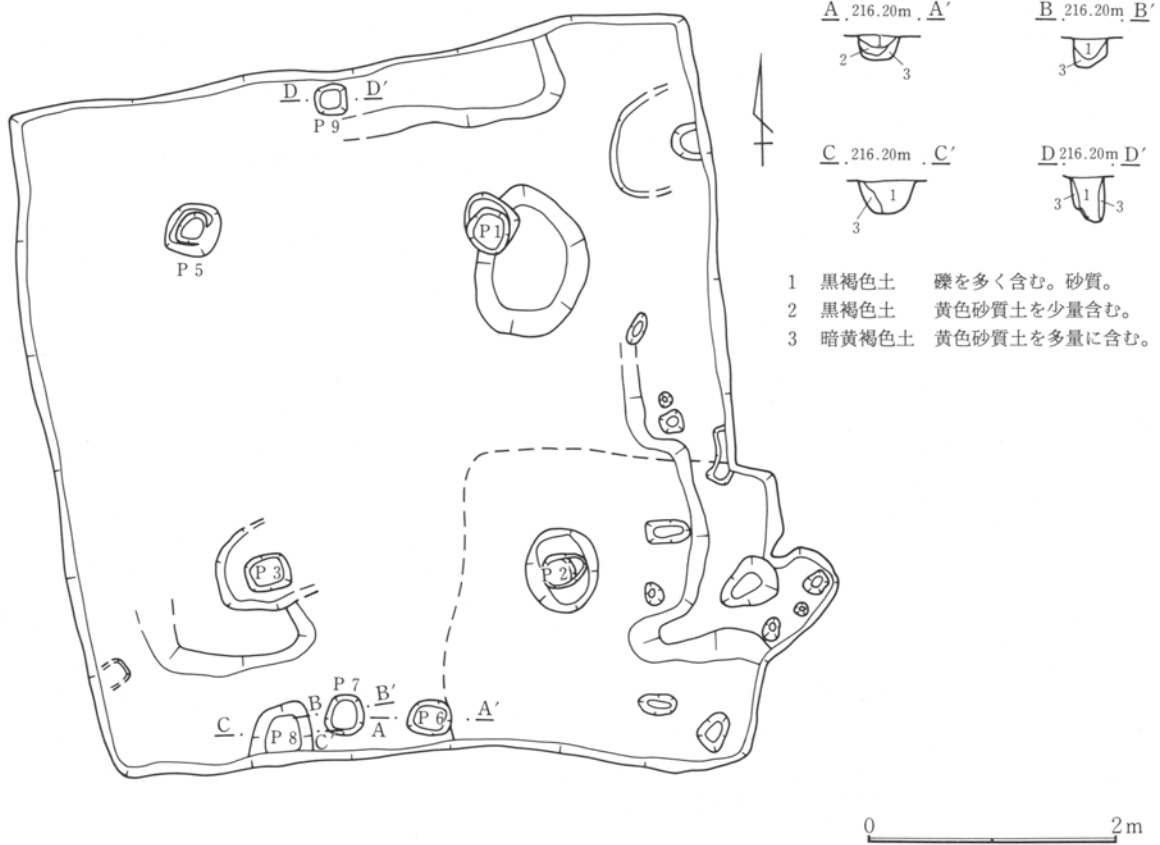
38号住居跡石材重量組成グラフ

60号住居跡 (第165~169図、PL16・202・244・245)



第165図 60号住居跡

第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物



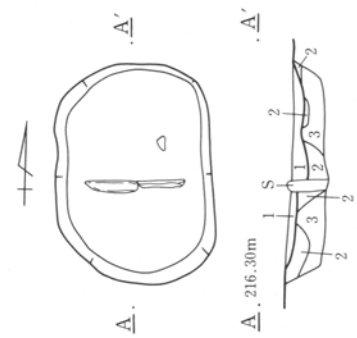
第166図 60号住居跡 掘り方

60号住居跡はほぼ正方形を呈する。東南コーナー付近は59号住居跡によって破壊されている。床面は、地山を掘り込んだ面を褐色土ブロックを含む暗黄褐色土で埋めて平坦にしている。なお、59号住居によって東南コーナー付近の床面は、約3cm削られている。

柱穴は4本で、住居の対角線上に発見された。また住居の北側と南側に小規模なPit、および南西コーナー近くに貯蔵穴と推定されるPitがある。

掘り方は凹凸がやや多く、深く掘られている部分とやや掘り残している部分とがある。炉は北側壁近くの柱穴と柱穴のほぼ中間で発見された。炉中央部に比較的扁平な石が2個並べて立った状態で置かれていたが、焼土は殆ど残されていなかった。

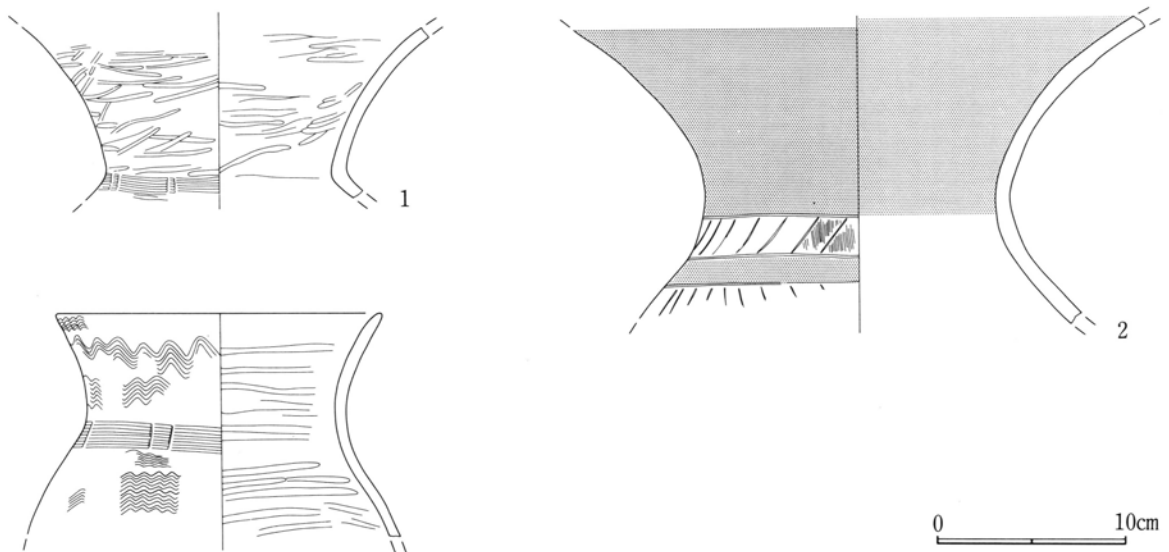
出土土器として壺・甕があるが、いずれも完形とはならない。出土石器は24点と多い。



- 1 黒褐色土 小礫・少量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 小石・ローム粒を少量含む。
- 3 黄褐色土 ローム粒を多く含む。

第167図 60号住居跡 炉

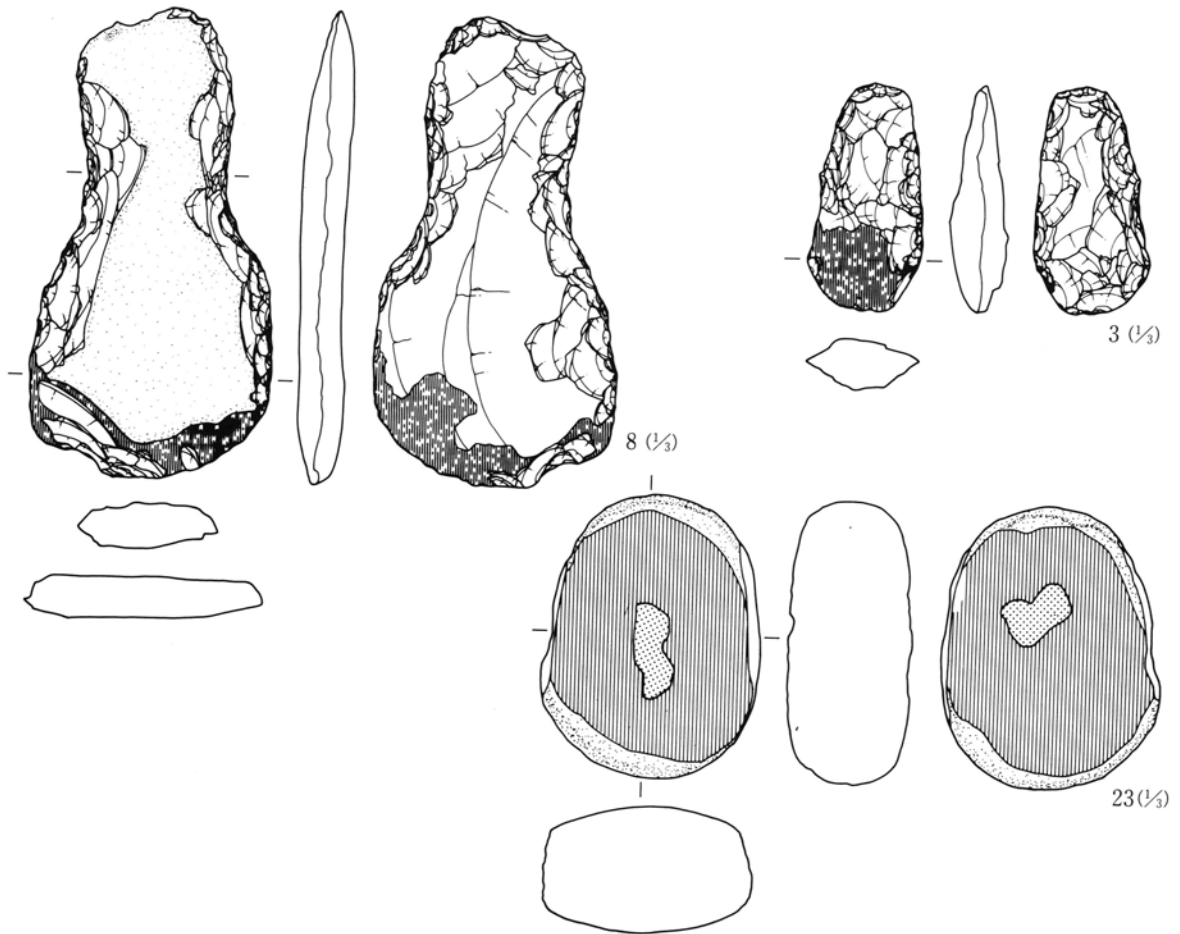
第2章 検出された遺構と遺物



3 第168図 60号住居跡出土遺物(1)

60号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値(mm)			文様の特徴			施文具 幅(mm)/本数	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	肩(c)		内	外					
1	202	壺				b 2止簾				ミガキ	ミガキ	C	にぶい橙		口	埋土
2		大型壺				c 羽			ヘラ	ミガキ	ミガキ	C	橙		口頸1/3	埋土
3	202	甕	175			a 4波	b 2止簾	c 3波	14/9	ミガキ		D	黄褐	頸肩被熱	口~胴上	埋土



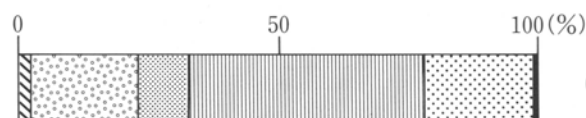
第169図 60号住居跡出土遺物(2)

60号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	楔	覆土	完形	2.7	1.4	1.0	3.8	黒曜	両端に剥離痕。
2	打斧	床直	1/2	7.7	4.7	2.0	86.3	粗安	刃部欠損。II a類。
3	打斧	覆土	完形	9.0	4.6	2.4	86.5	硬泥	刃部磨耗。II b類。
4	打斧	覆土	完形	9.9	4.9	2.0	89.4	硬泥	刃部わずかに磨耗。II b類。
5	打斧	床直	1/3	5.9	4.8	2.3	70.7	硬泥	刃部欠損。II b類。
6	打斧	下位	破片	6.9	5.3	2.2	56.4	硬泥	熱により破損。形状不明。
7	磨斧	床直	2/3	12.0	7.3	4.6	640.0	変玄	未製品の基部破片。剥離・敲打による整形途中。
8	石鍬	床直	完形	18.6	9.6	2.0	418.2	粗安	刃部が撥形に広がる。刃部磨耗。
9	石核	床直	完形	12.2	6.7	6.7	485.3	硬泥	分割礫の側で剥片剥離。
10	石核	床直	完形	10.1	6.5	4.7	292.6	硬泥	剥片の原礫面を打面として剥片剥離。
11	石核	床直	1/3	8.4	5.4	2.2	11.2	硬泥	盤状の円礫の両面で周辺から剥片剥離。
12	石核	下位	完形	8.8	6.9	4.0	227.6	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
13	石核	床下	完形	9.4	7.6	5.3	340.5	硬泥	分割礫の一端で、分割面打面として剥片剥離。
14	石核	床下	完形	6.3	8.8	4.4	225.9	硬泥	作業面を固定して、相対する側辺から剥片剥離。
15	石核	下位	完形	8.2	4.9	3.2	163.8	硬泥	剥片の側腹面側で剥片剥離。
16	石核	下位	破片	6.0	10.8	4.4	387.3	硬泥	礫の両面で周辺から剥片剥離。両側欠損。
17	石核	床直	完形	11.9	10.5	5.2	541.5	硬泥	盤状の石核。両面で周辺から剥片剥離。
18	石核	床下	完形	5.1	7.2	3.5	116.5	硬泥	剥片の一端で少数の剥片剥離。
19	石核	床直	完形	5.8	8.9	3.3	132.3	細安	剥片の両面で周辺から剥片剥離。形状は不定形。
20	石核	床下	完形	7.7	7.0	2.2	124.2	硬泥	剥片の一端で少数の剥片剥離。
21	敲石	下位	1/3	8.6	8.5	4.1	396.5	粗安	盤状の円礫。上端に敲打痕。下半欠損。
22	凹石	床直	完形	6.7	10.0	5.5	371.6	砂岩	棒状の角礫。表裏に凹み。
23	磨石	床直	完形	11.0	8.7	4.9	653.6	粗安	盤状の円礫。両側を面取り。表裏に敲打・強い研磨。
24	砥石	床下	1/4	19.4	12.8	4.1	1408.9	砂岩	盤状の垂角礫。表面に使用面。

60号住居跡器種組成表

器種	楔	打斧	石鍬	磨斧	二次	微細	石核	凹石	敲石	磨石	砥石	剥片
個数	1	5	1	1	9	6	14	1	1	1	1	48



60号住居跡石材重量組成グラフ

66号住居跡 (第170・171図、PL16・202)

本住居跡は5号溝によって南側の半分以上を削られている。また東壁と北壁の東側部分においても8号住居跡および84号住居跡によって削られている。住居の平面形は残存している北西コーナーからすると隅丸方形あるいは隅丸長方形と考えられる。

床面はやや粘質の褐色土で貼床している。床面は若干凹凸はあるものの概して平坦であり、あまりしまっていない。柱穴と考えられる Pit は5号溝近くで2ヶ所確認された。西側の柱穴の中心は西壁から1.8mの位置にあることから東西壁の長さを推定すると約6.2mとなる。掘り方は凹凸が多く、床面からの深さは5cm～12cmである。

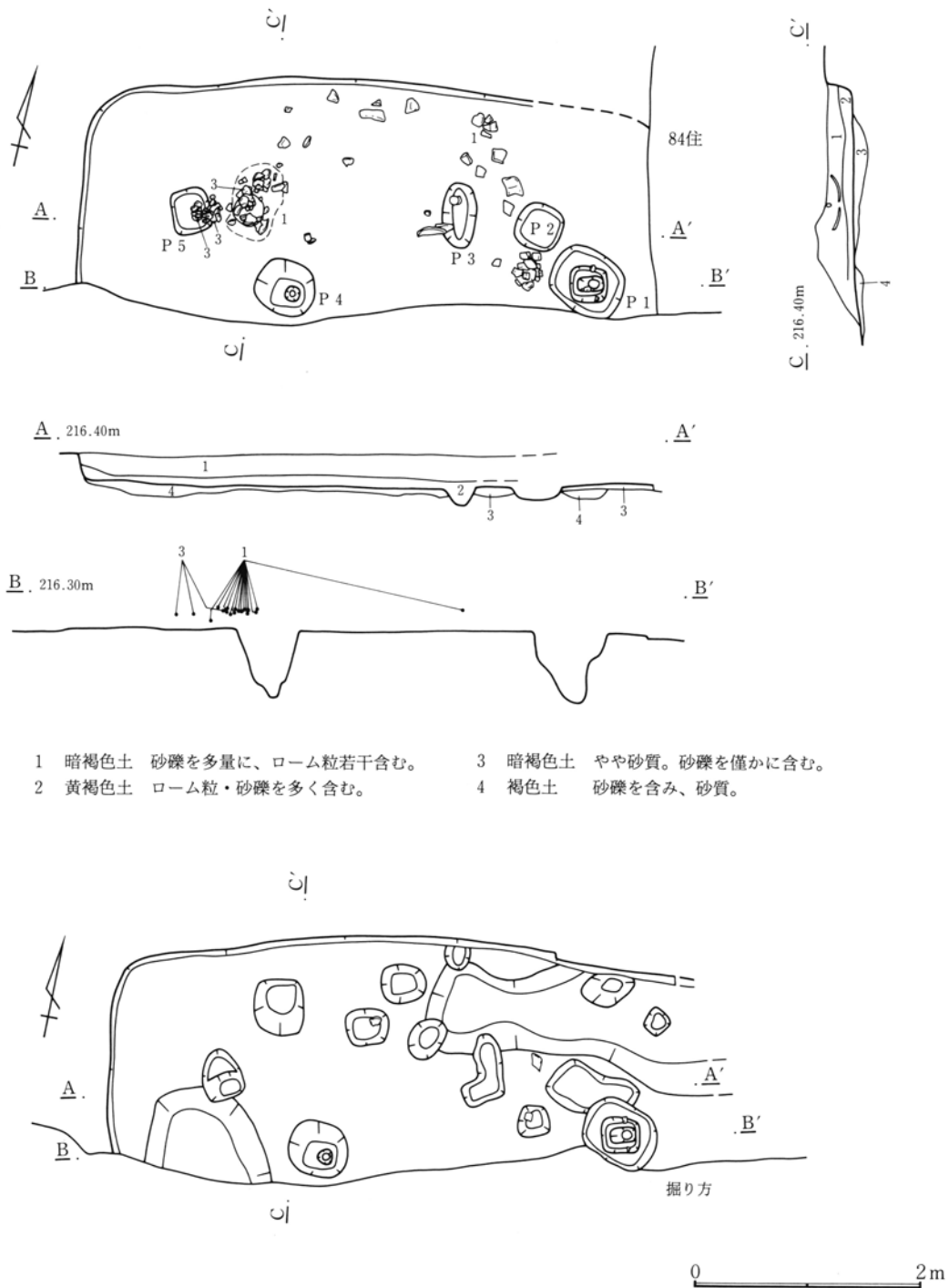
炉については焼土・灰が確認されないため明確ではないが、2ヶ所の柱穴のほぼ中間でやや北寄りに炉石とも考えられる石が発見されている。またこの石と一部重なる形で東側に、長径55cm、短径30cm、深さ約10

第2章 検出された遺構と遺物

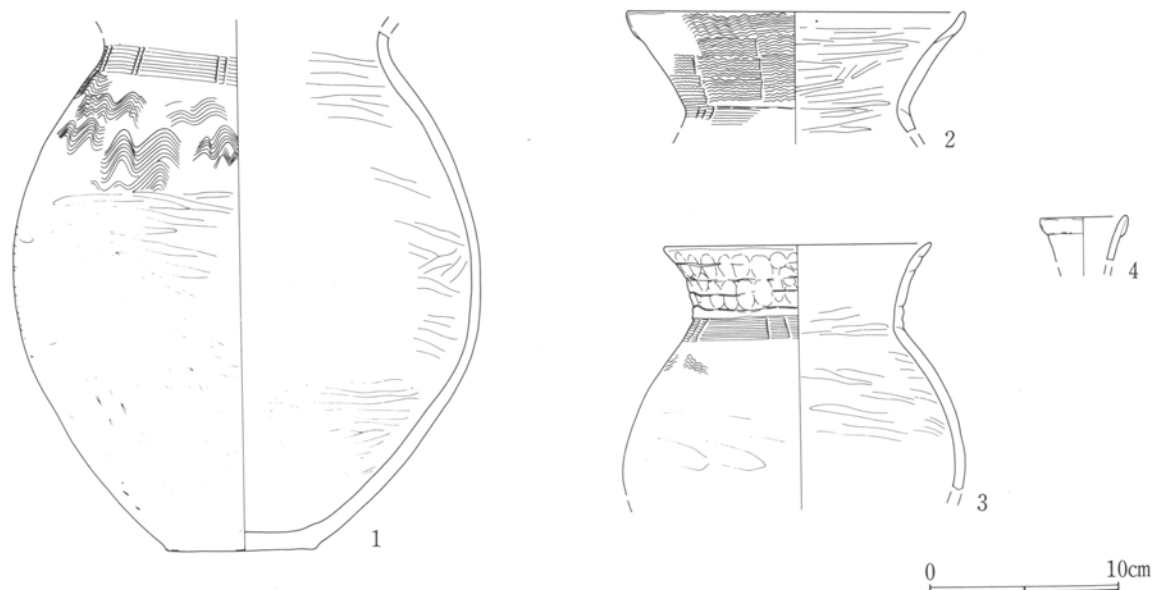
cmの規模をもつ長円形の掘り込みがあり、これが炉であった可能性が考えられる。

柱穴および炉と推定される Pit 以外に 2 基の Pit がある。西側の柱穴と北西コーナーのほぼ中間に位置する Pit と東側柱穴と炉のやや中間に位置する Pit である。いずれも一辺が20cmほどで隅丸方形を呈するという共通した特徴をもつが、これらの Pit についての性格については明らかにし得なかった。

出土遺物として壺および甕等があるが、いずれも破片となって出土しており、完形とはならない。これらの遺物は床面より約12cm浮いた状態で出土している。



第170図 66号住居跡



第171図 66号住居跡出土遺物

66号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置	備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	肩(c)		幅(mm)/本数	内						
1	202	甕			80	b 2 止簾 c 4 波	16/7	ミガキ	ミガキ	A	浅黄橙	胴煤	口胴一部欠	埋土			
2		甕	(180)			a 4 波 b 3 止簾	16/9	ミガキ		A	橙		口片	埋土			
3	202	小型甕	144			a 4 積上 b 2 止簾 c 波	17/11	ミガキ	ミガキ	B	にぶい橙	肩被熱	口~胴上3/4	埋土			
4		ミニチュア壺	(45)					ナデ	ナデ	A	黄橙		口頸	埋土			

66号住居跡器種組成表

器種	石核	剥片
個数	1	1

76号住居跡 (第172~177図、PL16・17・202・246)

住居は3号住居跡、52号住居跡、62号住居跡、67号住居跡、69号住居跡によって多くの部分が削られている。住居の残存部分から判断すると、ほぼ隅丸方形と考えられるものの、南壁は北壁と平行とはならず、東壁は西壁に比べて短くなる可能性がある。

床面は地山を平坦に掘り凹めた面である。そのため床面は固くしっかりしている。柱穴は住居の対角線上に4基確認されたが、やや住居中央に寄っているという特徴がある。なお柱穴には、北東部の1基を除いてかつて柱が存在した形跡が柱穴内の土層状況により認められた。

炉は住居の北寄りと西寄りから発見されているが、いずれも柱穴の中間よりやや壁寄りである。北側の炉(1号炉)は、長円形で長径65cm、短径50cm、深さ約15cmの規模をもつ。1号炉内には、中央やや北寄りに砂岩の割石を用いた炉石があり、約6cmの厚さの焼土と、やや大きな炭化材が遺存していた。西壁近くの2号炉は不整形で浅い皿状の掘り込みをもつ。2号炉は炉内やや西寄りに河原石の炉石がみられ、規模は長径約1m、短径約70cm、深さ約4cmである。2号炉に焼土、炭化物はみられなかった。

住居の北壁近くに土坑が3基みられる。3基の土坑は西から楕円形、隅丸長方形、長円形を呈しているが、

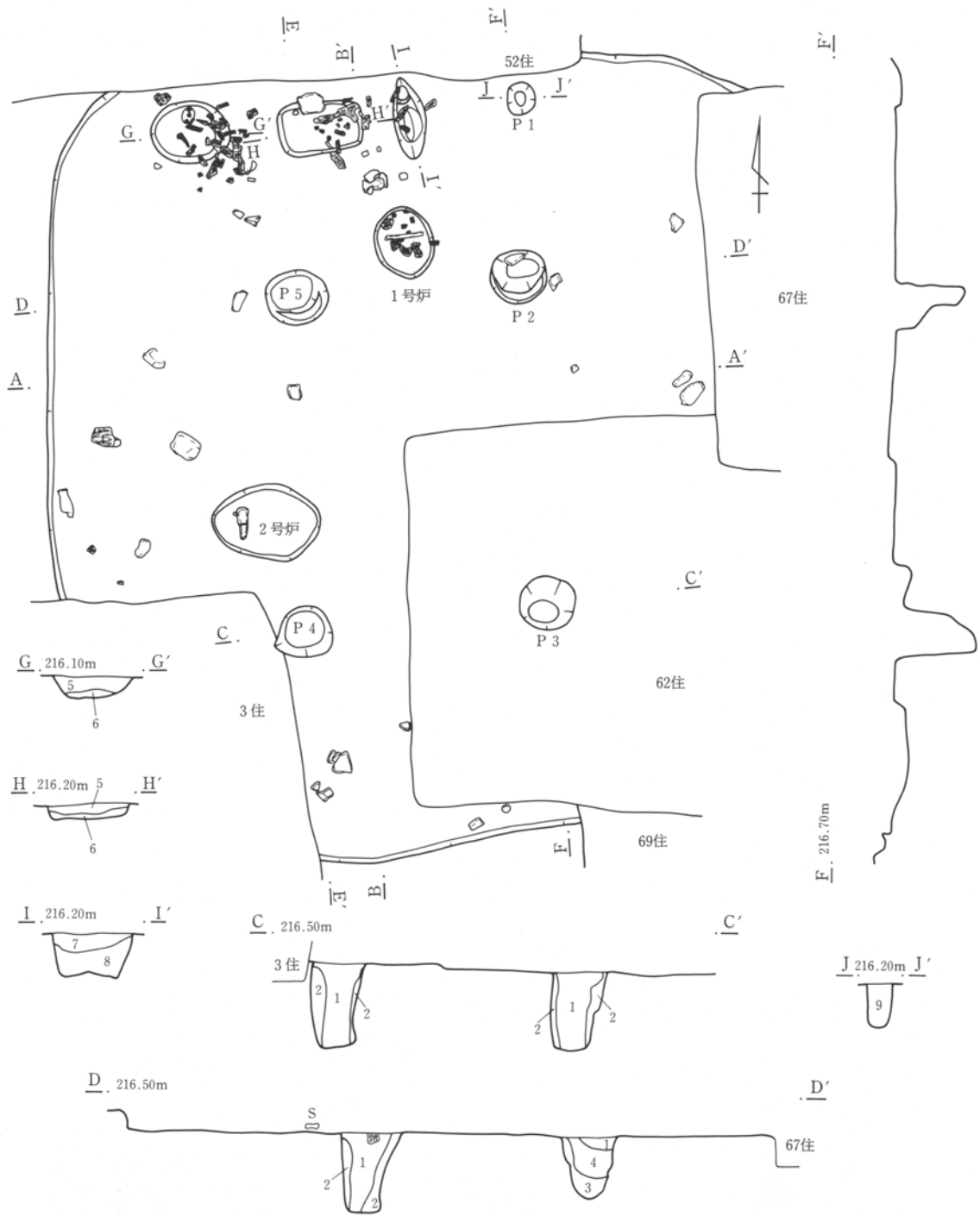
第2章 検出された遺構と遺物

深さはいずれも約15cmである。これらの土坑覆土の上半部には炭が含まれていることから、火災の際に焼け落ちた建築材の一部と考えられ、この3基の土坑は火災直前まで使用されていた可能性がある。

出土遺物として壺の底部・土製紡錘車・砥石・多孔石・石匙等があり、いずれも床面近くの出土である。



第172図 76号住居跡遺物出土状況



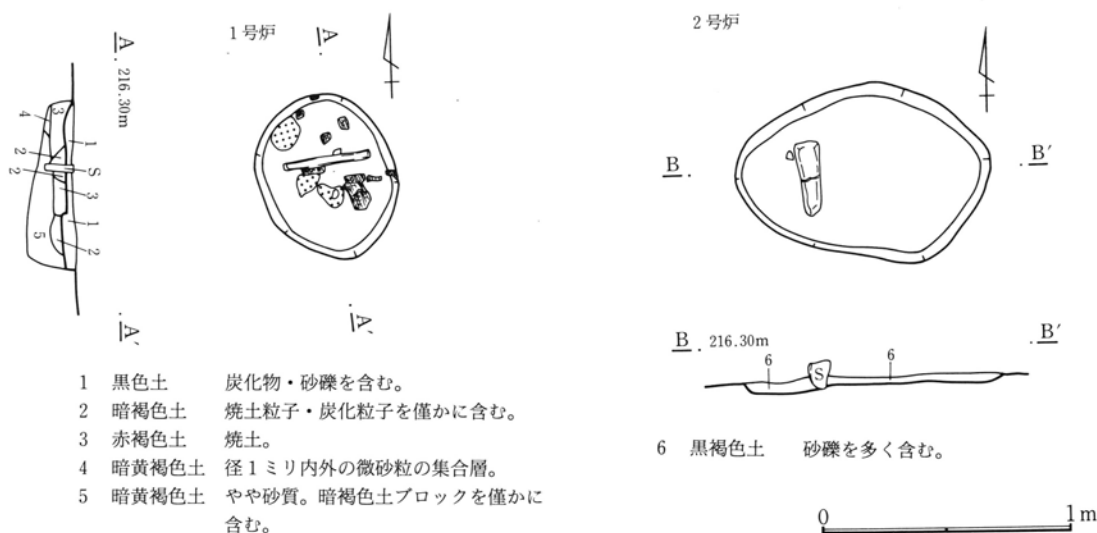
- 1 黒褐色土 砂礫・焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 砂礫を多く含む。
- 3 暗褐色土 砂質。褐色土を多量に、砂礫を若干含む。
- 4 暗褐色土 砂礫・焼土粒子を含む。
- 5 黒褐色土 砂質。炭化物を含む。

- 6 黒褐色土 砂質。地山ブロックを多く含む。
- 7 黒色土 炭化物を含む。
- 8 暗褐色土 砂質。
- 9 黒色土 炭化物を含む。

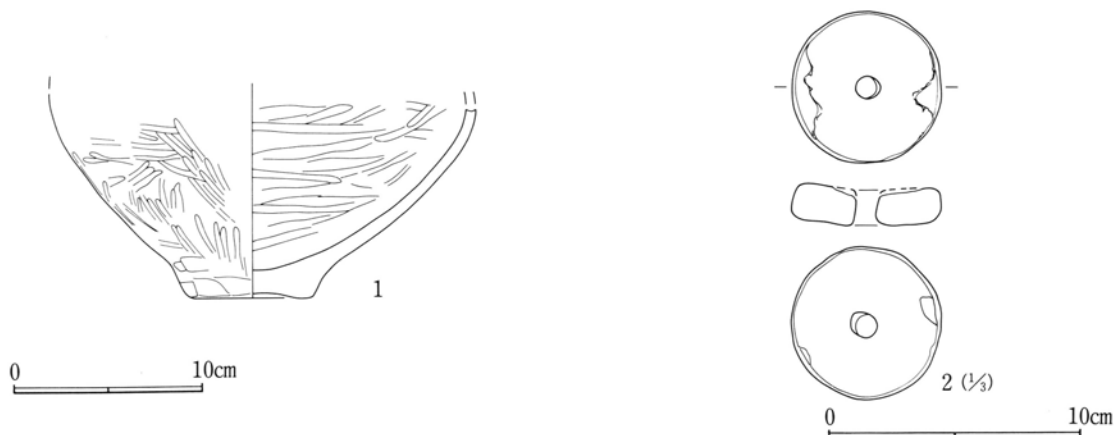
0 2m

第173図 76号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物



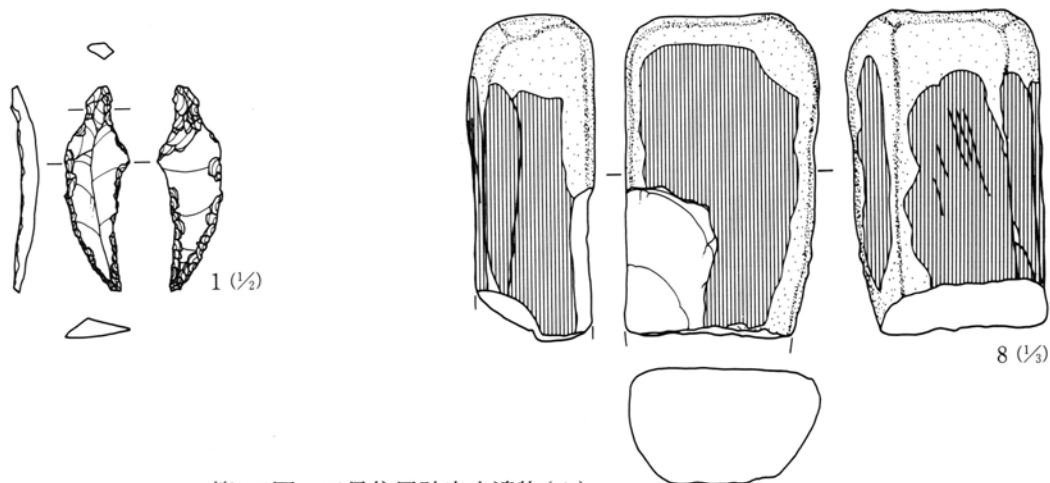
第174図 76号住居跡 炉



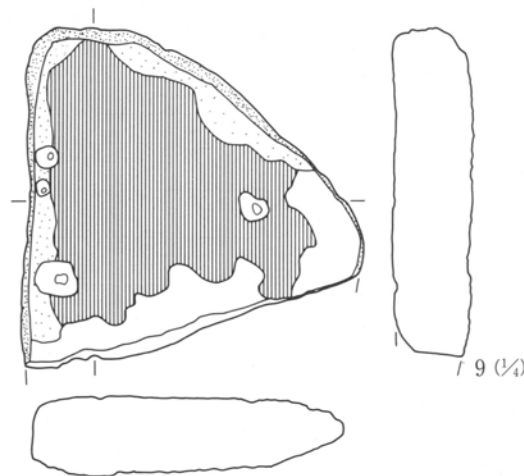
第175図 76号住居跡出土遺物(1)

76号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徴			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置	備考
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	肩(c)		幅(mm)/本数	内						
1	202	甕			65					ミガキ	ミガキ	C	橙	胴下被熱	胴～底	埋土	
2	202	紡錘車	60	厚 15	孔 9	重59g				ミガキ	ミガキ	A	にぶい黄橙		中央剥離	埋土	



第176図 76号住居跡出土遺物(2)



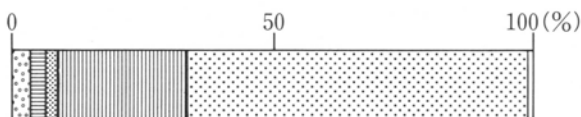
第177図 76号住居跡出土遺物(3)

76号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石匙	覆土	完形	5.4	1.7	0.8	3.9	黒曜	剝片の周辺両面に調整。調整はつまみ部と器体下半に集中。
2	打斧	覆土	完形	9.1	5.1	1.9	92.7	硬泥	刃部先端磨耗。II b類。
3	打斧	覆土	完形	13.0	5.2	1.6	94.1	硬泥	II b類。
4	打斧	覆土	破片	5.9	4.4	1.7	38.1	硬泥	両端欠損。形状不明。
5	石核	覆土	破片	7.5	4.6	2.8	126.8	硬泥	両面で周辺から剝片剝離。
6	敲石	覆土	破片	6.2	6.3	3.2	201.7	石閃	盤状の円礫。表面に敲打痕。両端欠損。
7	敲石	覆土	完形	10.7	6.5	4.1	434.5	変安	盤状の円礫。表裏・両端に敲打痕。
8	砥石	床直	2/3	12.8	7.9	4.6	712.4	砂岩	表裏・両側面に研磨面。裏・左側面に線状痕。断面は逆台形。
9	多孔	下位	1/3	18.0	18.3	4.4	1590.0	砂岩	盤状の角礫。表面に大小の凹み、使用により平滑。
10	炉石	床下	ほぼ完	38.4	13.6	3.1	2120.0	砂岩	盤状の角礫。熱により劣化。

76号住居跡器種組成表

器種	石匙	打斧	二次	微細	石核	敲石	多孔	砥石	炉石	剝片
個数	1	3	6	2	3	2	1	1	1	17



76号住居跡石材重量組成グラフ

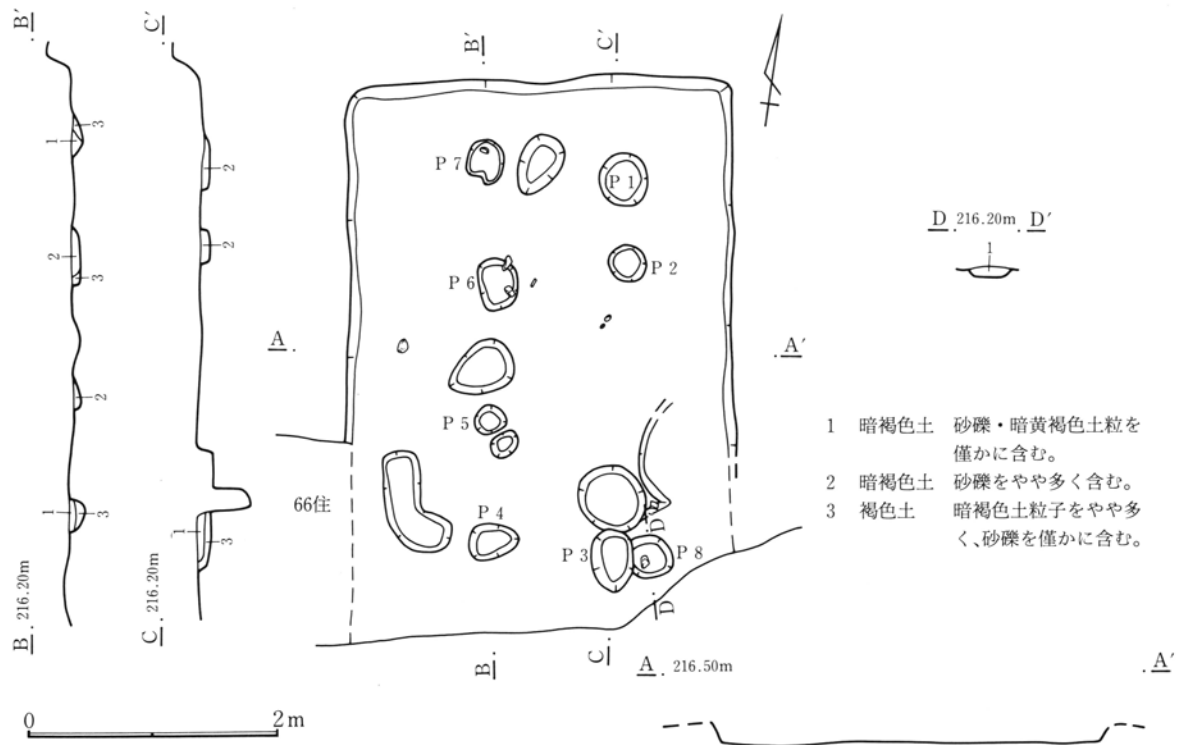
84号住居跡 (第178・179図、PL17・246)

平面形は長方形と推定されるが、南側は5号溝によって削られている。また西壁の南側付近は66号住居跡と重複しているが、両者の新旧関係は不明である。

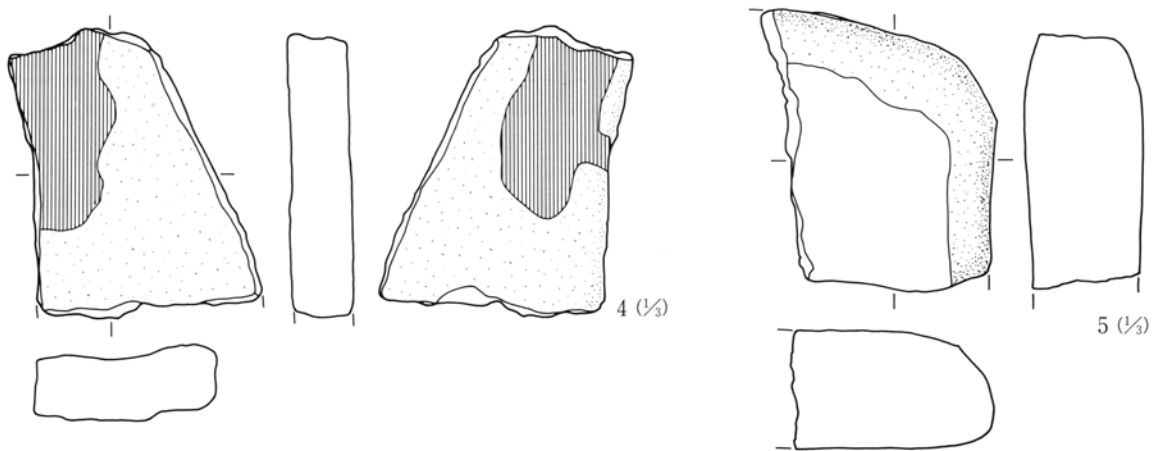
床面は確認することが出来なかった。第178図は掘り方である。Pitが多く存在するが浅いものが殆どで、柱穴と考えるのには無理がある。北側にPitが3ヶ所東西方向に並んでいるが、中間のPitは長径50cm、短径30cm、深さ2cmで、炉の掘り込みと考えられないこともないが、焼土・炭化物は確認されていない。

出土遺物として砥石・敲石があるが、土器は確認されなかった。

第2章 検出された遺構と遺物



第178図 84号住居跡 掘り方



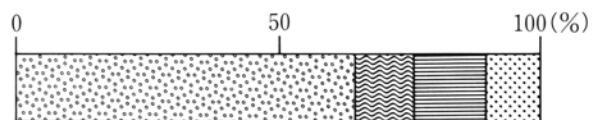
第179図 84号住居跡出土遺物

84号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	敲石	覆土	完形	6.5	5.3	2.7	124.5	変安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
2	敲石	覆土	1/2	9.1	6.7	4.8	432.2	石閃	盤状の円礫。表裏に弱い研磨、上端に敲打痕。
3	敲石	覆土	1/3	10.2	5.8	4.3	351.3	デイ	左側面取り。表裏に弱い研磨、上端に敲打痕。
4	砥石	炉内	1/2	11.4	10.0	3.0	324.5	砂岩	盤状の角礫素材。表裏に研磨面。
5	砥石	炉内	1/4	15.0	12.4	6.3	1887.7	粗安	盤状の亜円礫素材。表面に研磨面。

84号住居跡器種組成表

器種	敲石	砥石
個数	3	2



84号住居跡石材重量組成グラフ

90号住居跡 (第180~190図、PL17・202~205・246~248)

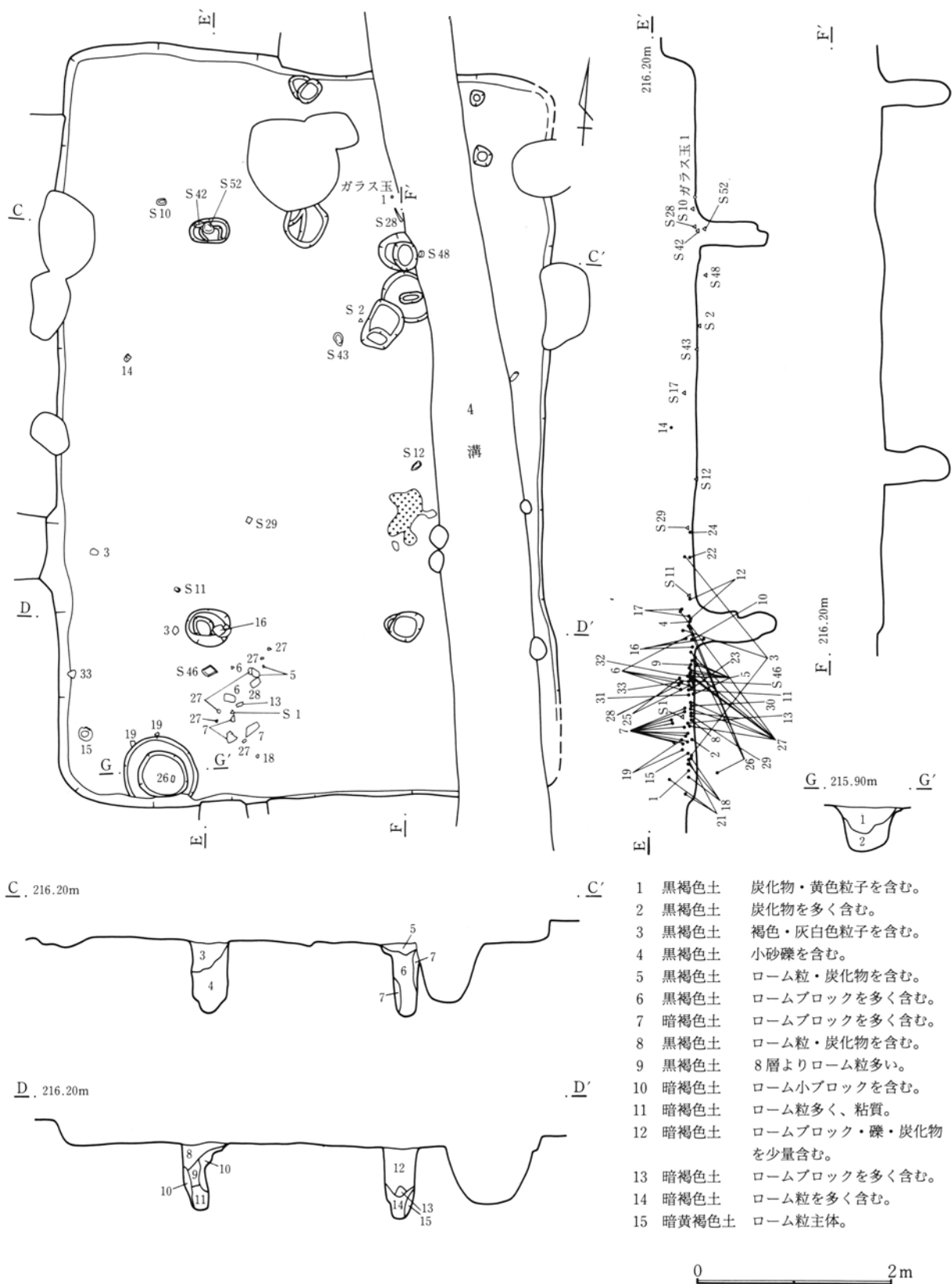
住居は、やや隅の丸い長方形である。4号溝および土坑によって床面の一部を破壊されている。なお、43号・44号・87号・88号住居跡が本住居跡の埋没後に造られているが、壁の一部が破壊されているのみで、床面までは破壊が及んでいない。

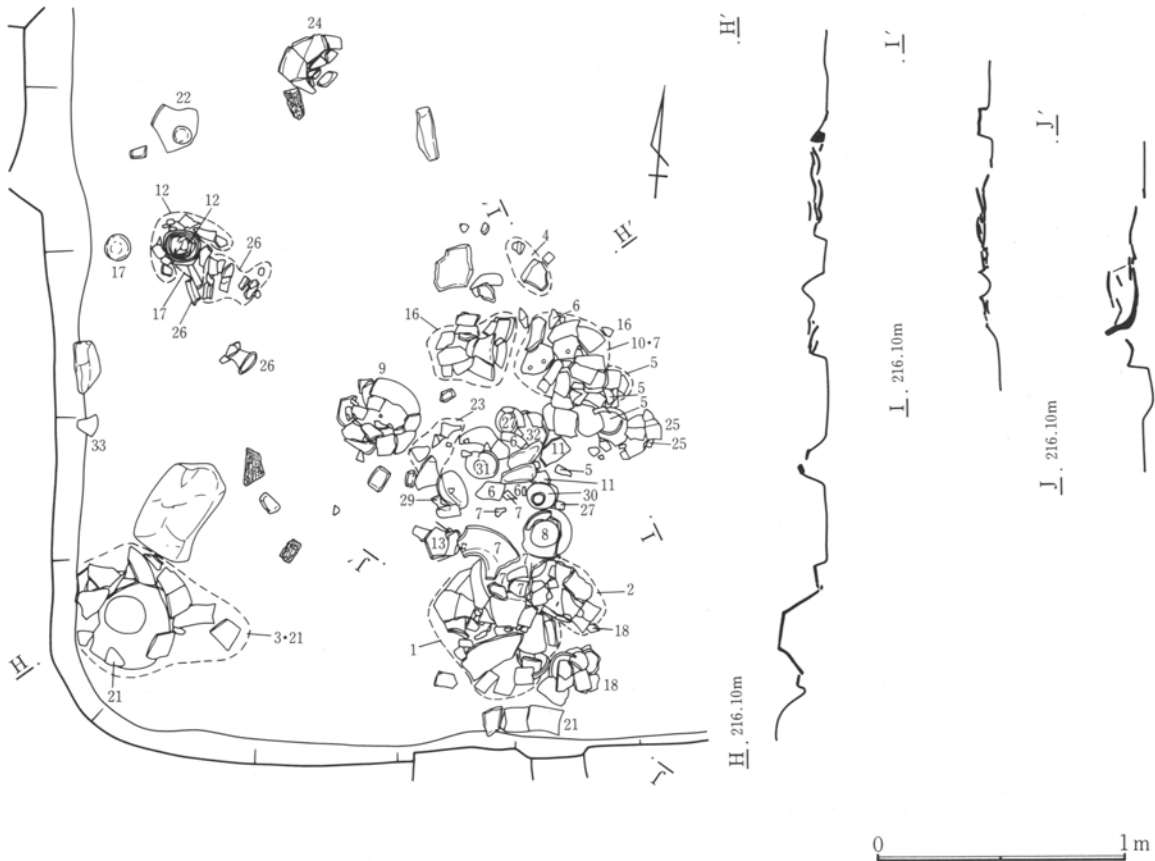


- | | | | |
|--------|-------------------------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色土 | 褐色粒子・灰白色粒子・褐色土粒・淡褐色土塊を多量に、小砂礫を若干含む。 | 4 暗褐色土 | 褐色ローム土粒・砂礫を多量に含む。 |
| 2 黒褐色土 | 小砂礫・褐色粒子・灰白色粒子を多量に含む。 | 5 黒褐色土 | 小砂礫・褐色ローム土塊を若干含む。 |
| 3 黒褐色土 | 褐色粒子・灰白色粒子を多量に、小砂礫・褐色土粒を若干含む。 | 6 淡褐色土 | 小砂礫・灰白色粒子を多量に含む。 |
| | | 7 褐色土 | 小砂礫・黒褐色土を若干含む。 |
| | | 8 褐色土 | 粘質。砂礫・黒褐色土を僅かに含む。 |

第180図 90号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物



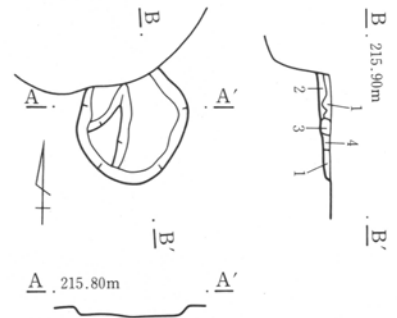


第182図 90号住居跡遺物出土状況

床面は地山を掘り込み、褐色土・淡褐色土で平坦にした上で固めている。柱穴は住居のほぼ対角線上に4ヶ所確認された。なお、この柱穴以外にも、床面で確認されたPitが5ヶ所ある。

貯蔵穴は南壁に接して、西南コーナー近くに発見された。炉は北側柱穴のほぼ中間にあるが、一部を土坑によって切られている。炉跡に炉石は発見されず、焼土も僅かにみられたのみである。

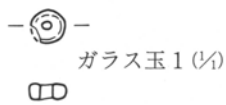
出土遺物は、土器・石器ともに多い。土器は壺・甕・台付甕・坏・高坏等であるが、これらの大部分は南西コーナー近くの床面付近に集中して発見された。石器は52点と多いものの、多くは床面よりかなり浮いた状態で出土している。なお、床面上からガラス玉1個が出土している。



- 1 淡褐色土 灰褐色焼土粒・灰白色粒子・褐色土粒を含む。
- 2 黒褐色土 褐色・灰白色粒子を含む。
- 3 褐色土 やや粘性。灰白色粒子を含む。
- 4 黒褐色土 砂礫・褐色土塊を含む。

0 1m

第183図 90号住居跡 炉



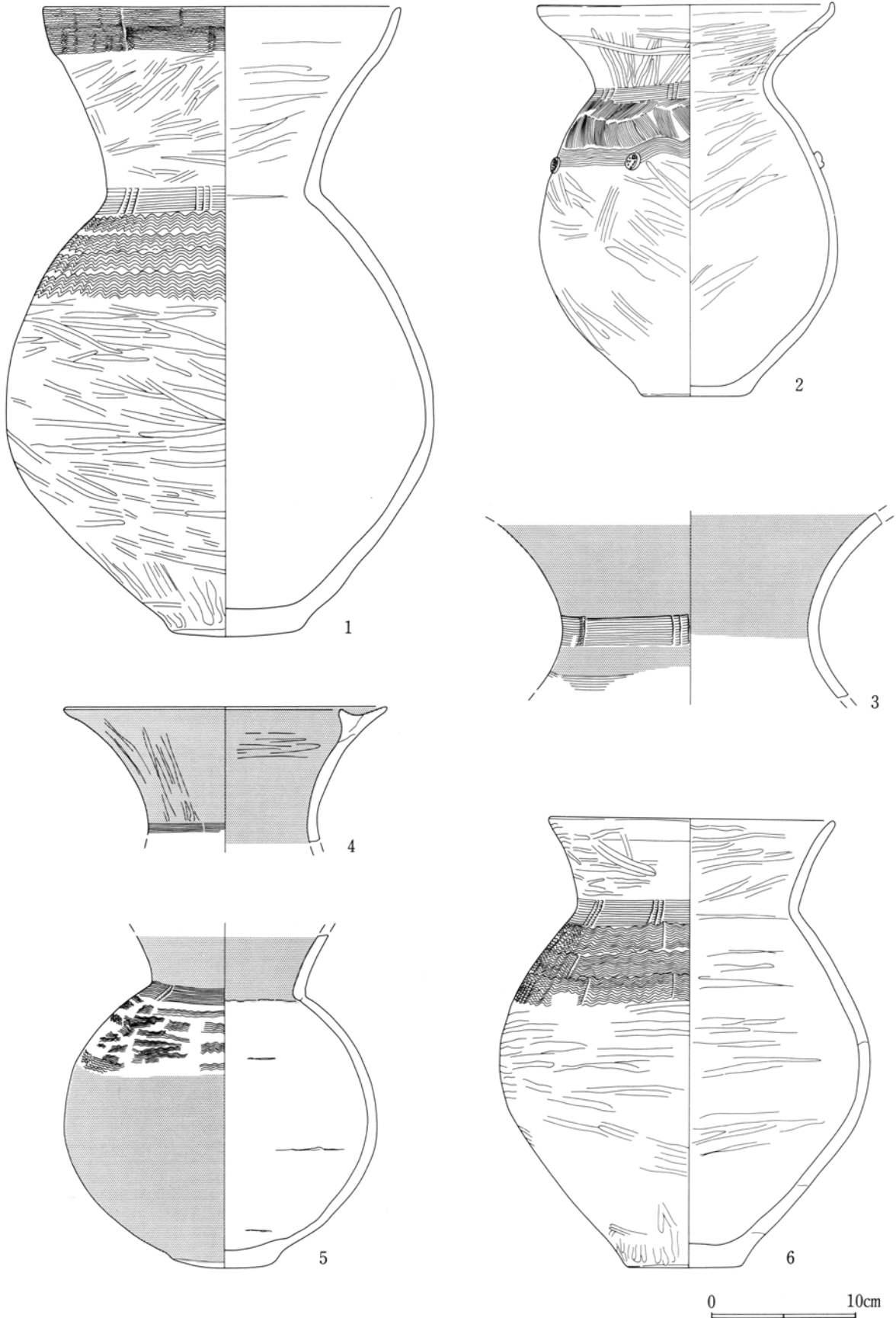
ガラス玉 1 (1/4)

ガラス玉 1 PL205
径4.5mm・厚2.2mm・孔径0.4mm
色調はコバルトブルー
融解により丸みを帯びる。

0 2.5cm

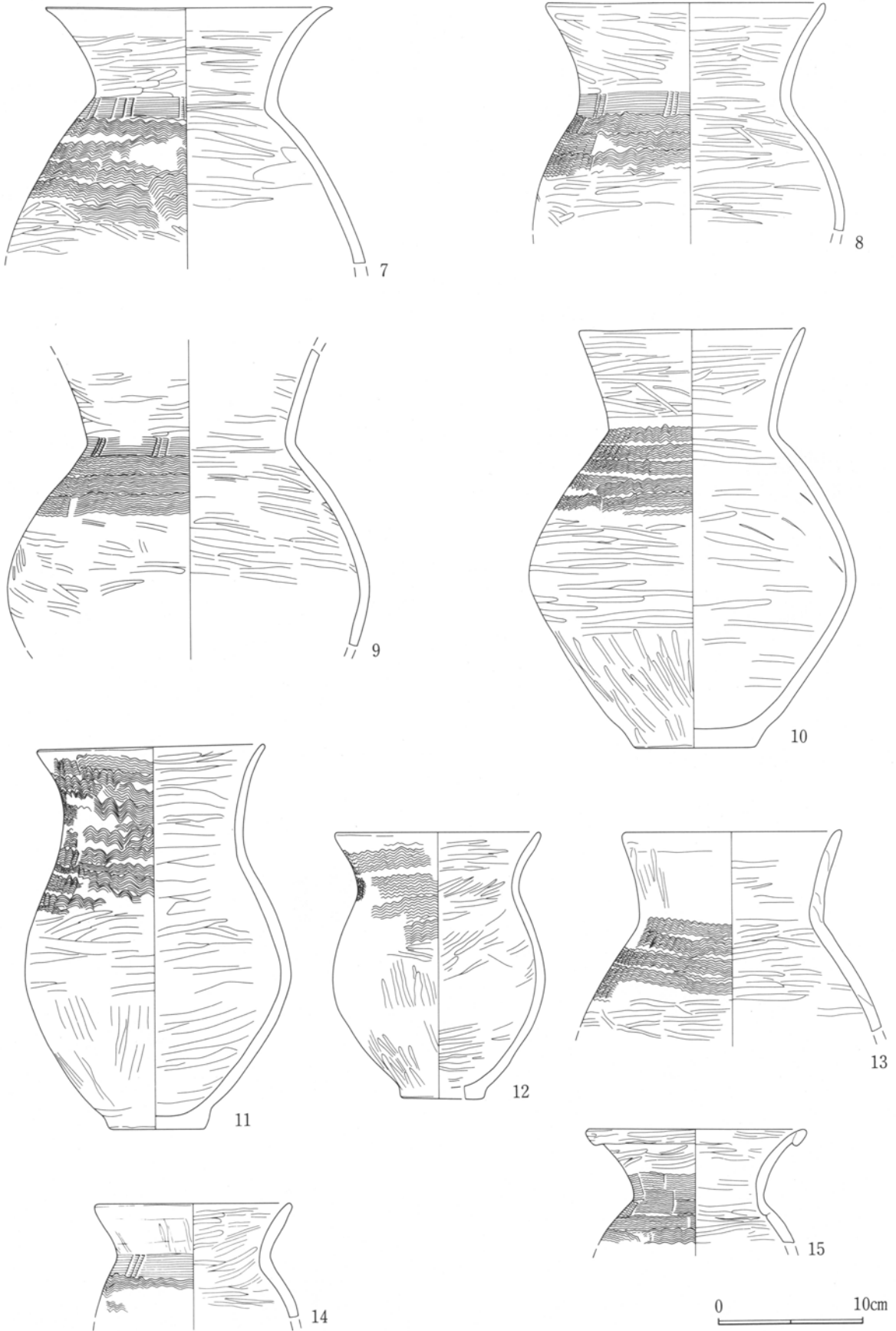
第184図 90号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



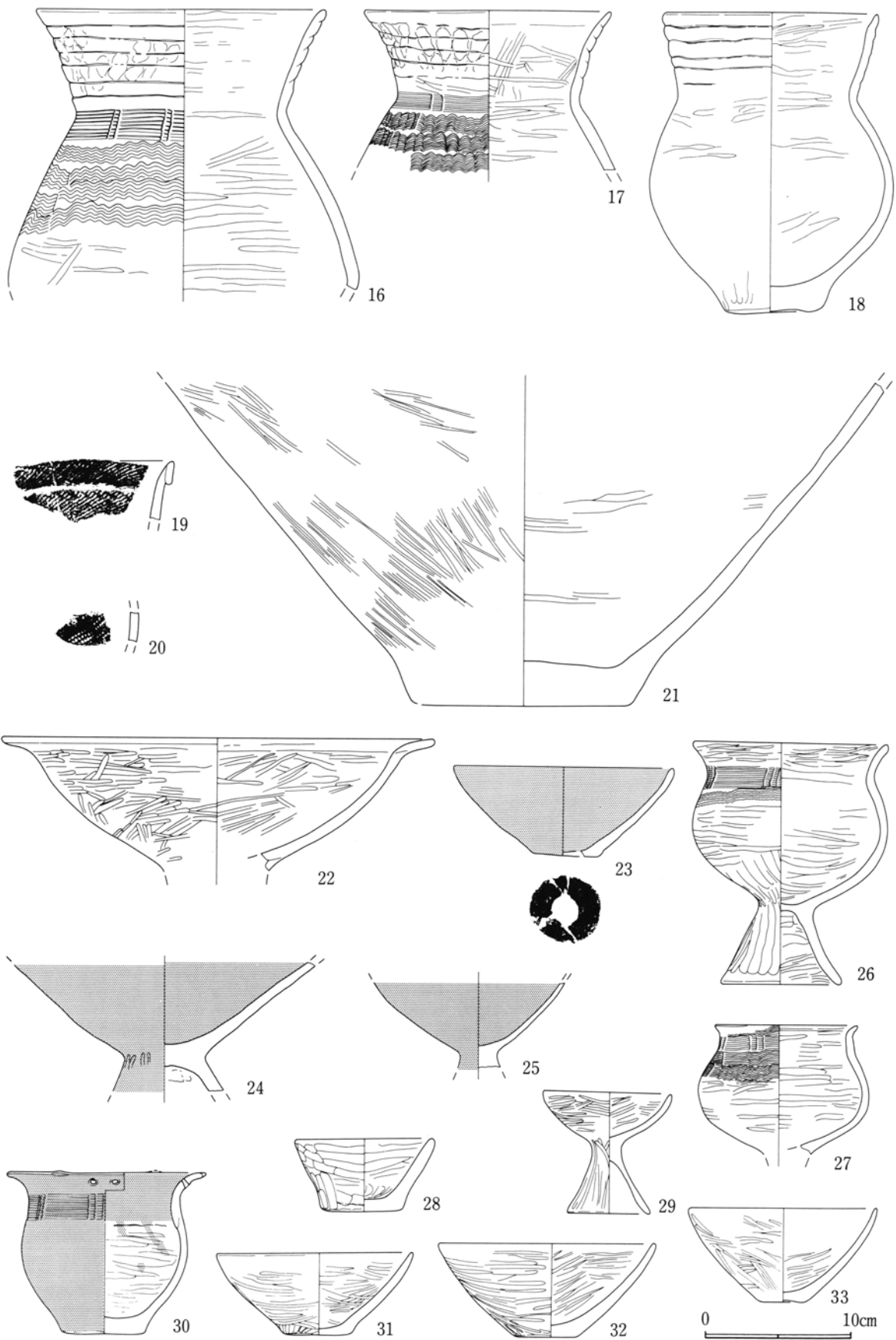
第185図 90号住居跡出土遺物(2)

第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物



第186図 90号住居跡出土遺物(3)

第2章 検出された遺構と遺物

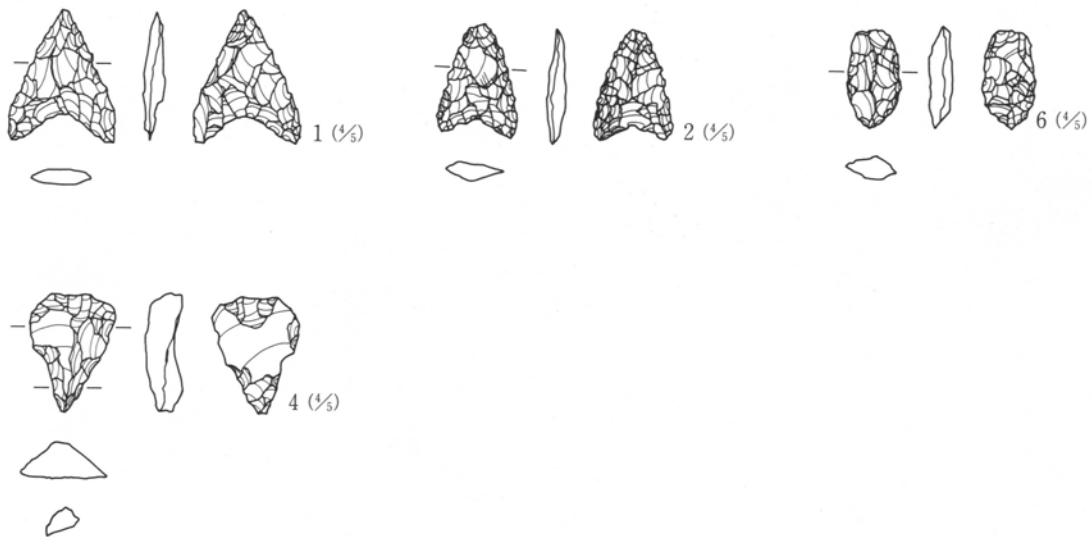


第187図 90号住居跡出土遺物(4)

第2節 弥生時代の住居跡と出土遺物

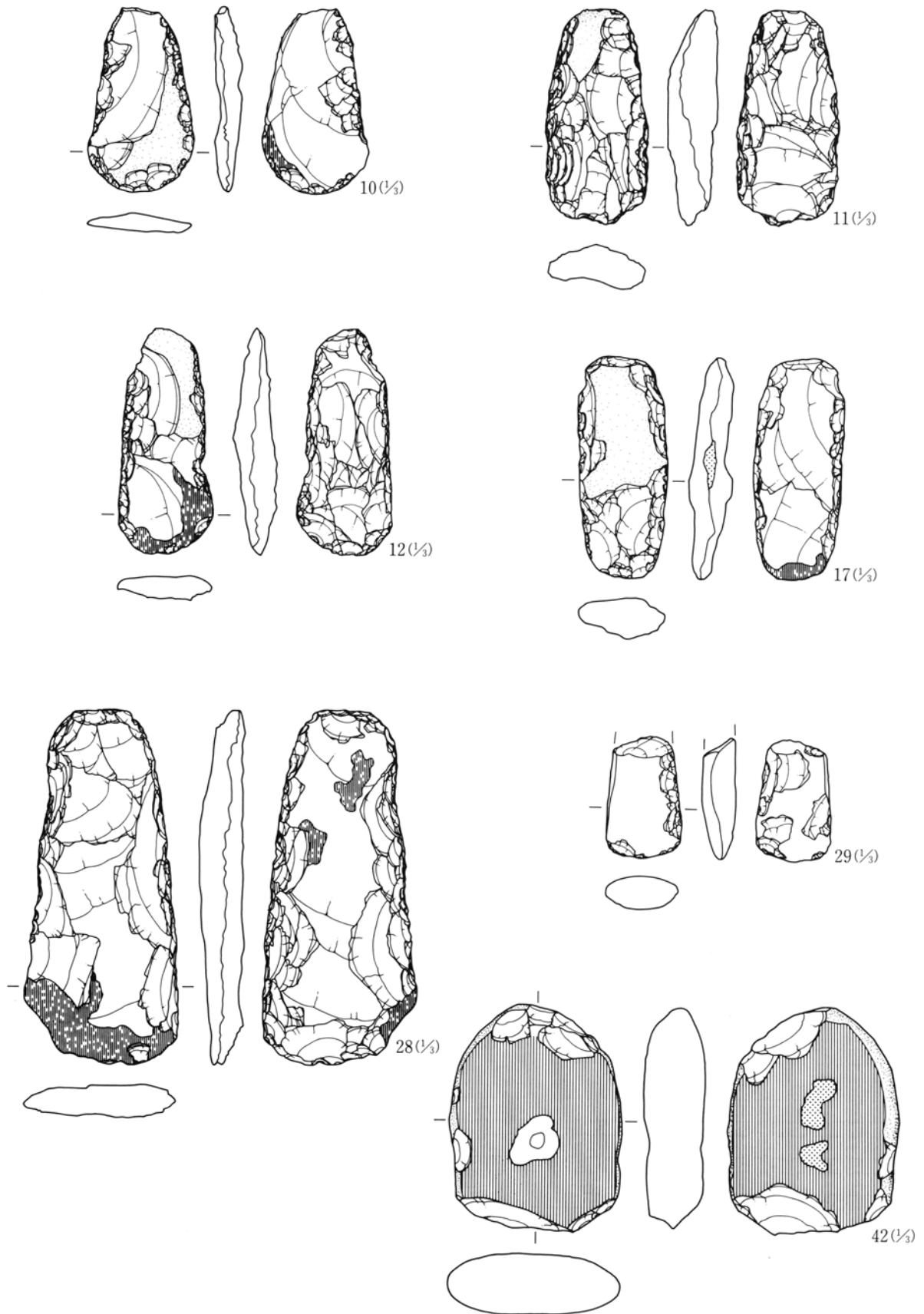
90号住居跡出土土器観察表

番号	PL	器種	計測値 (mm)			文様の特徵			施文具	整形		胎土	色調	使用痕	遺存	出土位置 備考	
			口	高	底・脚	口(a)	頸(b)	胴(c)		幅(mm)	本数						内
1	203	大型壺	(250)	435	90	a 2波	b 3止簾	c 4波	20/12	口ミガキ	胴ナデ	ミガキ	B	にぶい橙		口1/2欠	埋土
2	203	中型壺	210	270	60	b 2止簾	c 羽、横線、貼付		13/11	ミガキ		ミガキ	A	橙		口1/2欠	床入口貼付文9ヶ所
3		甕				b 3止簾	c 横線文		21/12	剝離		ミガキ	A	橙			埋土
4		中型壺	(226)			b 簾か					ミガキ	ミガキ	F	淡黄		口片	埋土
5	204	中型壺			72	b 2止簾	c 多段波		15/12	剝離		ミガキ	B	淡橙		口欠	床入口
6	203	甕	200	313	81	b 3止簾	c 3波		22/11	ミガキ		ミガキ	B	浅黄橙	内面コゲ	胴1/3欠	床中央
7	202	大型壺	(200)			b 3止簾	c 5波		17/13	ミガキ		ミガキ	B	橙		口~胴	床中央
8	203	甕	194			b 3止簾	c 3波		17/10	ミガキ		ミガキ	A	にぶい黄橙	肩煤	口~胴3/4	床入口
9	202	甕				b 3止簾	c 3波		16/9	ミガキ		ミガキ	A	にぶい黄橙	肩煤	頸~胴	埋土
10	203	小型壺	157	288	82	b~c 6波			11/6	ミガキ		ミガキ	A	明褐	胴下被熱	1/2	床中央
11	204	甕	159	265	67	a~c 12波			12/6	ミガキ		ミガキ	A	にぶい黄橙	頸~胴上煤	口胴一部欠	埋土
12	204	小型甕	(144)			a~c 4波			-/-	ミガキ		ミガキ	C	明赤褐	胴被熱	口~胴1/2	埋土
13	204	甕	152			b 5波			16/6	ミガキ	口ナデ	胴ミガキ	A	橙	胴被熱	口~胴2/3	埋土
14	203	小型甕	135			b 3止簾	c 波		16/8	ミガキ		ナデ	C	にぶい赤褐	肩被熱	口~肩	埋土
15	204	小型甕	153			b 多段波				ミガキ		ミガキ	B	赤橙	肩煤	口~肩	埋土
16	204	甕	200			a 6積上	b 2止簾	c 4波	23/8	ミガキ		ミガキ	D	橙	片側被熱	口~胴	床中央
17	203	甕	170			a 5積上	b 2止簾	c 3波	13/10	ミガキ			A	橙		口~肩	埋土
18	204	小型甕	146	206	68	a 5積上				ミガキ		ミガキ	A	にぶい赤褐	胴被熱	胴1/3欠	床入口
19		甕				a 斜縄			LR	ミガキか			D	にぶい橙		口片	埋土
20		甕				斜縄			LR	ミガキ			A	にぶい橙		破片	埋土
21	205	大型壺			120					ミガキ		ミガキ	A	にぶい橙	被熱	胴~底	埋土
22	204	大型高杯	(300)							ミガキ		ミガキ	C	にぶい橙		杯1/3	埋土
23	204	小型鉢	152	(62)	(48)	孔20				ミガキ		ミガキ	A	褐		口底1/4欠	埋土有孔鉢に転用
24	204	高杯								ミガキ		ミガキ	A	橙		口脚欠	埋土
25	204	高杯								ミガキ		ミガキ	A	褐		杯1/2	床入口
26	204	小型台付甕	135	166	84	b 3止簾	c 波		16/12	ミガキ		ミガキ	A	にぶい橙	肩胴煤	口~胴1/3欠	埋土
27	204	小型台付甕	98			a 波	b 3止簾	c 2波	12/8	ミガキ		ミガキ	A	にぶい橙	胴被熱	脚欠	床入口
28		小型鉢	96	50	56					ナデ	ナデ		B	橙		完形	埋土
29	205	ミニチュア高杯	89	84	57					ミガキ		ミガキ	C	橙		口一部欠	埋土
30	205	小型短頸壺	(136)	111	57	a 2孔4瘤突起	b 3止簾		18/11	ミガキ			A	橙		口3/4欠	床入口
31	205	小型鉢	135	61	47					ミガキ		ミガキ	D	淡黄		口一部欠	埋土
32	205	鉢	(150)							ミガキ		ミガキ	B	にぶい橙		口~底1/2	埋土
33		小型鉢	(130)	65	30					ミガキ		ミガキ	A	にぶい橙		口~底1/4	埋土

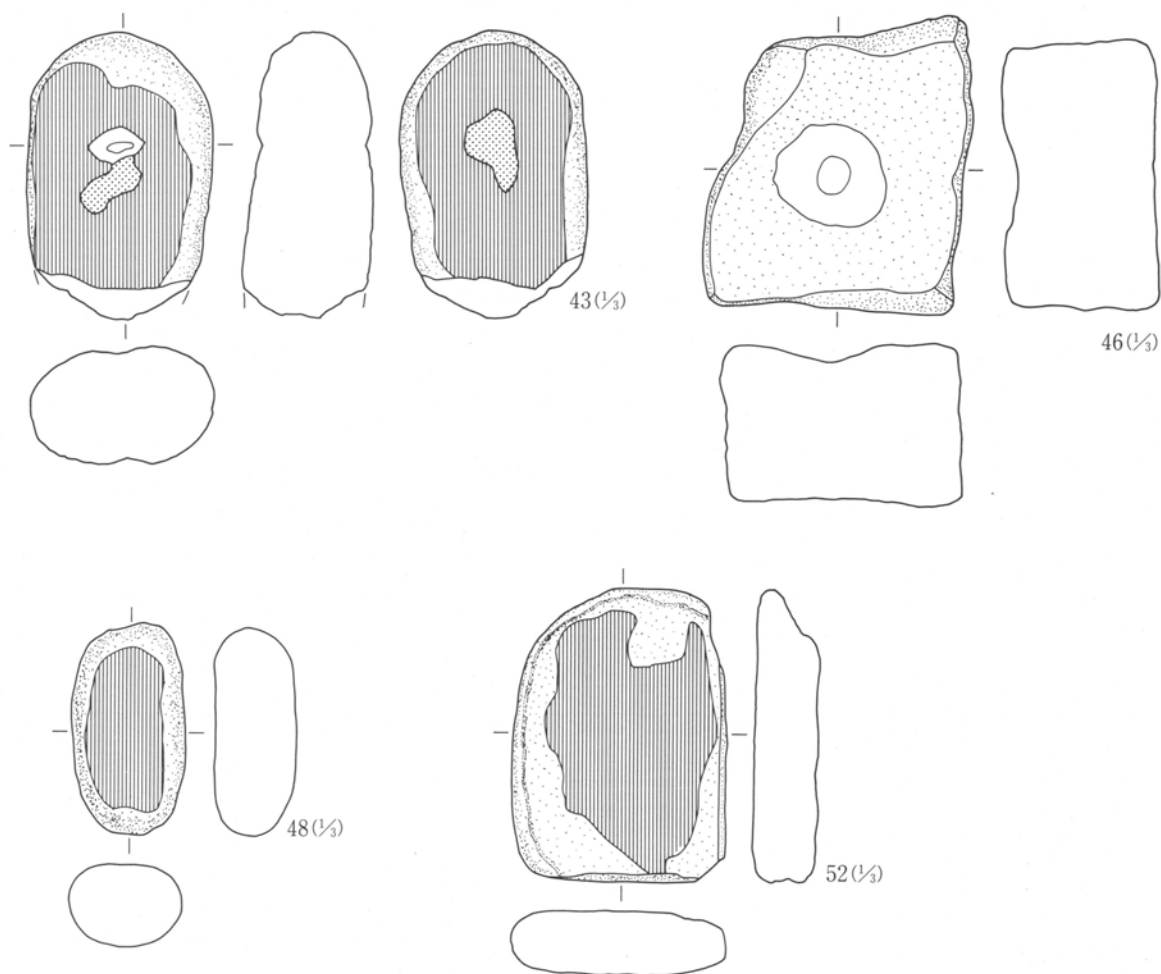


第188図 90号住居跡出土遺物(5)

第2章 検出された遺構と遺物



第189図 90号住居跡出土遺物(6)



第190図 90号住居跡出土遺物(7)

90号住居跡出土石器観察表

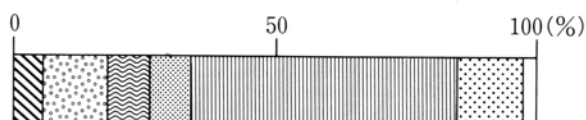
No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	石鏃	覆土	完形	2.2	1.8	0.4	0.7	黒曜	凹基無茎鏃。
2	石鏃	覆土	完形	1.8	1.4	0.3	0.7	黒曜	凹基無茎鏃。
3	石鏃	覆土	1/2	1.3	1.8	0.3	0.6	黒曜	凹基無茎鏃。先端欠損。
4	石錐	覆土	完形	1.9	1.4	0.7	1.3	黒曜	器体上部および刃部両面に調整。
5	石錐	覆土	破片	1.9	0.7	0.7	1.0	黒曜	刃部破片。下半の稜線磨耗。
6	楔	覆土	完形	1.6	0.9	0.4	0.6	黒曜	両面ほぼ全面に調整。
7	楔	覆土	完形	1.4	1.0	0.5	0.7	黒曜	両端に剝離痕。
8	楔	覆土	完形	1.7	0.9	0.5	0.8	黒曜	両端に剝離痕。
9	打斧	下位	1/2	8.5	5.0	1.4	77.3	粗安	刃部磨耗。基部欠損。II b類。
10	打斧	床直	完形	9.5	5.5	1.4	69.3	硬泥	刃部磨耗を切って再調整。II b類。
11	打斧	床下	完形	11.0	5.2	2.6	166.2	粗安	II b類。
12	打斧	床下	完形	11.5	4.8	2.2	125.4	硬泥	刃部磨耗。II b類。
13	打斧	下位	2/3	9.7	5.0	1.6	80.4	変安	刃部欠損。III類。
14	打斧	床直	2/3	10.0	5.9	1.6	28.5	粗安	刃部欠損。II b類。
15	打斧	床直	2/3	9.7	4.8	1.7	84.3	細安	基部欠損。II b類。
16	打斧	下位	2/3	8.4	4.7	1.5	73.6	珪頁	刃部磨耗。基部欠損。II b類。
17	打斧	下位	完形	11.3	4.7	2.3	139.1	変閃	刃部磨耗。III類。
18	打斧	下位	一部欠	10.2	4.5	1.5	84.3	硬泥	刃部欠損。III類。
19	打斧	中位	完形	10.6	3.5	1.9	90.2	珪頁	刃部磨耗。III類。
20	打斧	中位	1/2	9.3	4.6	1.9	78.0	硬泥	刃部欠損。II b類。

第2章 検出された遺構と遺物

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
21	打斧	床直	1/3	7.3	4.1	1.6	46.7	細安	刃部破片。形状不明。磨耗みられる。
22	打斧	下位	1/2	7.1	5.0	1.5	77.2	硬泥	両端欠損。形状不明。
23	打斧	床直	2/3	8.8	4.9	1.4	73.2	細安	基部欠損。Ⅲ類。
24	打斧	床直	1/2	7.4	5.3	2.0	99.9	珪頁	基部欠損。器表面風化激しい。Ⅲ類。
25	打斧	床直	破片	5.3	4.0	1.4	40.8	硬泥	基部破片。形状不明。
26	打斧	床直	1/3	5.2	4.1	2.2	41.0	珪頁	刃部破片。形状不明。
27	打斧	床下	1/3	7.9	5.0	1.4	64.0	細安	刃部欠損。Ⅱb類。
28	石鎌	床直	完形	18.2	8.0	2.4	404.0	細安	刃部広がる。刃部・裏面上部に磨耗。
29	磨斧	下位	1/2	6.3	3.9	1.9	71.1	変玄	基部欠損。両面に剥離痕残す。
30	磨斧	下位	1/3	7.0	4.8	2.2	113.7	変玄	未製品の破損品。敲打による整形途中。未研磨。
31	磨斧	下位	1/3	7.0	6.4	2.7	182.4	変玄	刃部破片。表面は研磨してあるが、裏面は剥離痕残す。
32	石核	上位	完形	9.6	7.9	3.9	306.2	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
33	石核	床下	完形	7.9	7.9	4.2	308.8	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
34	石核	床直	破片	5.8	6.5	2.4	98.6	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
35	石核	床直	破片	7.0	5.3	3.2	108.7	硬泥	盤状の石核の両面で周辺から剥片剥離。
36	石核	下位	完形	9.0	7.1	4.9	250.1	硬泥	分割礫の一端で少数の剥片剥離。
37	石核	下位	完形	5.5	6.2	2.5	82.5	硬泥	小型の盤状石核。両面で周辺から剥片剥離。
38	石核	床直	完形	7.3	6.0	3.2	131.8	硬泥	剥片の周辺を折り取るように剥片剥離。
39	石核	床下	完形	11.2	7.1	4.0	270.2	硬泥	剥片の一側腹面側で剥片剥離。
40	石核	床直	完形	11.5	7.5	8.1	888.6	硬泥	賽子状。打面・作業面90°転移して剥片剥離。
41	石核	床下	完形	15.2	9.3	6.5	874.8	硬泥	分割礫の一端で少数の剥片剥離。
42	凹石	床直	一部欠	11.6	8.9	3.1	490.1	凝砂	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面、裏面に敲打・研磨面。
43	凹石	床直	2/3	11.3	7.5	5.2	589.4	デイ	盤状の円礫。表面に凹み・研磨面、裏面に敲打・研磨面。
44	凹石	下位	完形	11.8	4.5	3.1	226.7	デイ	棒状の円礫。表裏に凹み、両端に敲打痕。
45	凹石	下位	1/3	7.7	8.0	5.8	412.3	デイ	表裏に凹み・研磨面。下半欠損。
46	凹石	床直	完形	10.8	11.7	6.4	1197.5	砂岩	盤状の角礫。表面に凹み。
47	磨石	下位	完形	8.8	4.4	4.4	235.2	変安	棒状の円礫。表裏・両側に弱い研磨。両端に敲打痕。
48	磨石	床下	完形	8.2	4.5	3.3	163.0	凝砂	棒状の円礫。表面に弱い研磨面。
49	磨石	床直	1/3	6.1	7.6	4.2	264.2	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。下半欠損。
50	磨石	下位	1/2	7.3	6.1	3.8	189.7	デイ	盤状の円礫。表面に弱い研磨・敲打痕、上端に敲打痕。
51	磨石	下位	完形	16.6	8.0	3.6	631.4	粗安	盤状の円礫。表裏に弱い研磨。
52	砥石	床下	完形	11.5	8.7	2.6	361.9	凝砂	盤状の垂角礫。表面に使用面。

90号住居跡器種組成表

器種	石鎌	石錐	楔	打斧	石鎌	磨斧	二次	微細	石核	凹石	磨石	砥石	剥片
個数	3	2	3	19	1	3	23	24	25	5	5	1	205



90号住居跡石材重量組成グラフ

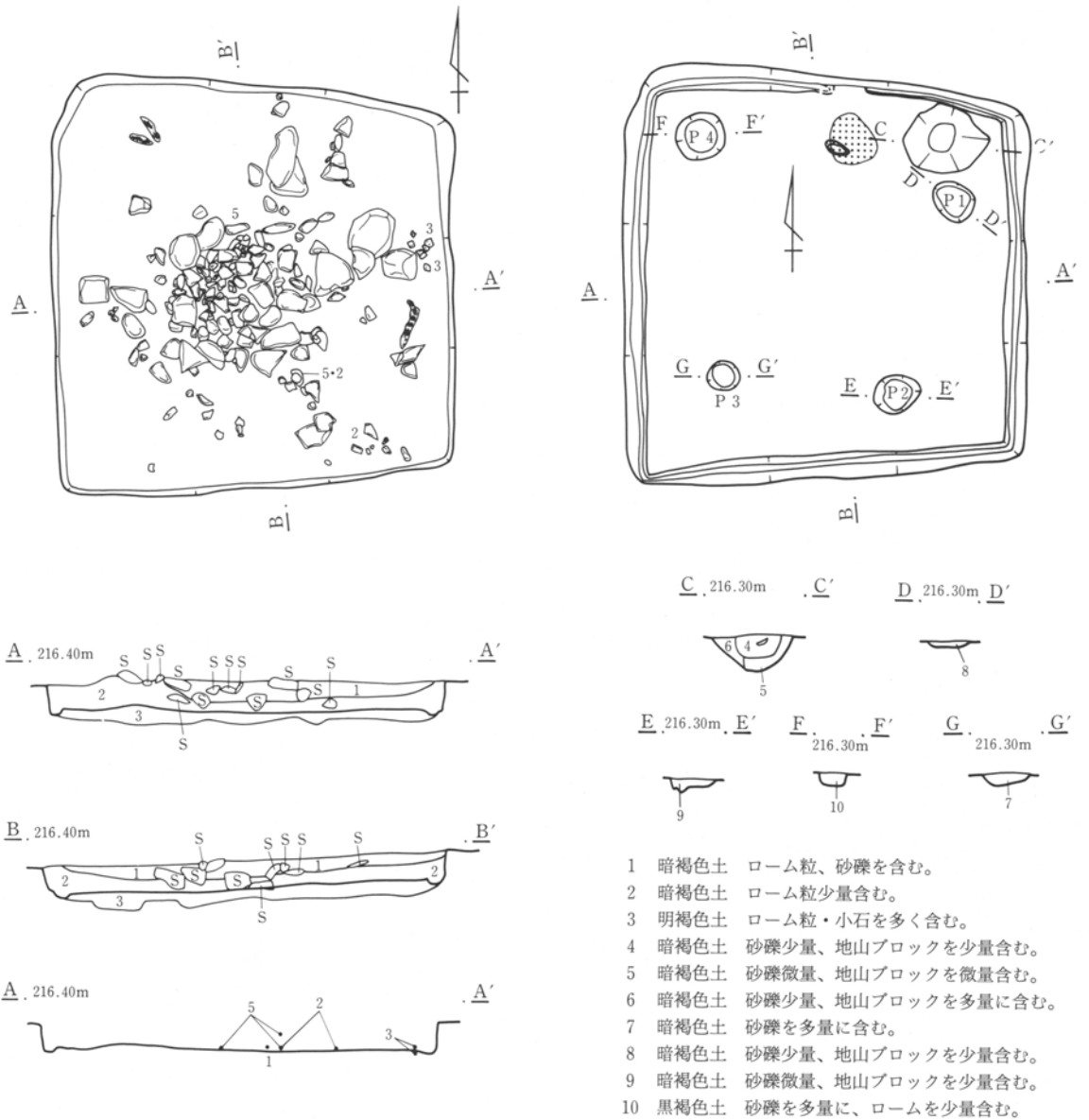
第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

1号住居跡 (第191~193図、PL18・206)

住居の平面形態は隅丸方形であるが、東壁が西壁よりも短いため台形を呈している。貯蔵穴は楕円形で、底部は狭いが深くなっており、立ち上がりは比較的急である。床面は、ローム・小礫を含む明褐色土で貼床としているものの、比較的軟弱である。掘り方はやや凹凸があるが、全体としては平坦となっている。

住居内には、中央から周辺にかけ長径5cm~50cmの礫が多量に含まれているが、中央部には小礫が多く、周辺部には大礫が多くなっている。また、北西部と東部からは炭化材が少量出土している。

カマドは残存状態が極めて悪く、壁溝の切れ目で位置がわかるだけである。なお、住居内の礫については、

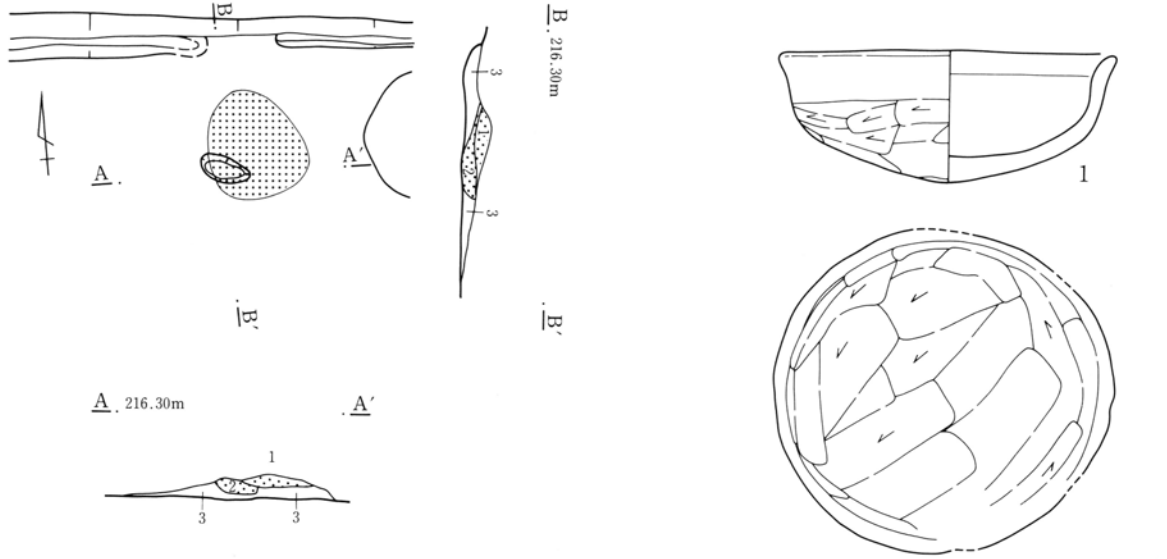


第191図 1号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

中央から周辺にかけてレンズ状に入っているため、住居の埋没途中で入れられた可能性が高い。

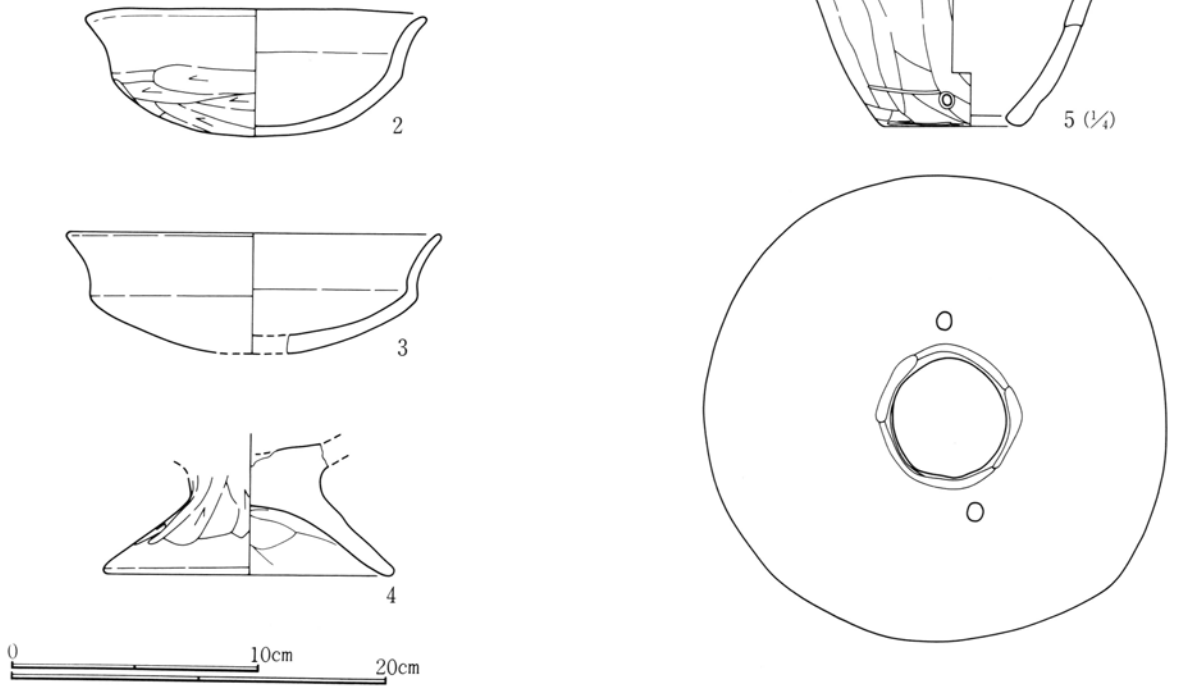
出土遺物として、炭化材の他に土師器坏・土師器台付甕・土師器甕が出土している。



- 1 暗褐色土 砂礫・地山ブロック・焼土粒子を含む。
- 2 焼土 暗褐色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 砂礫を少量含む。

0 1m

第192図 1号住居跡 カマド

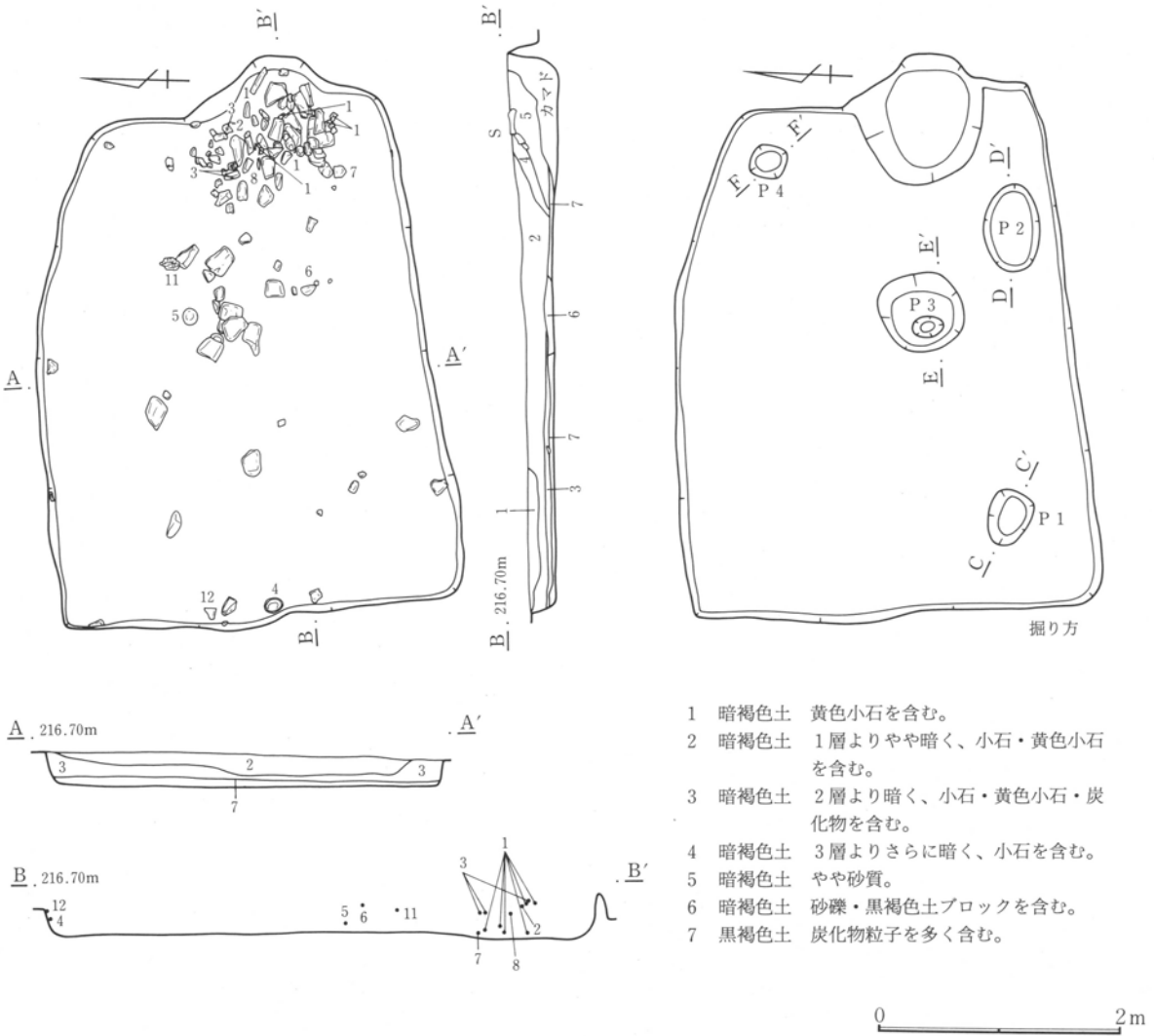


第193図 1号住居跡出土遺物

1号住居跡出土土器観察表

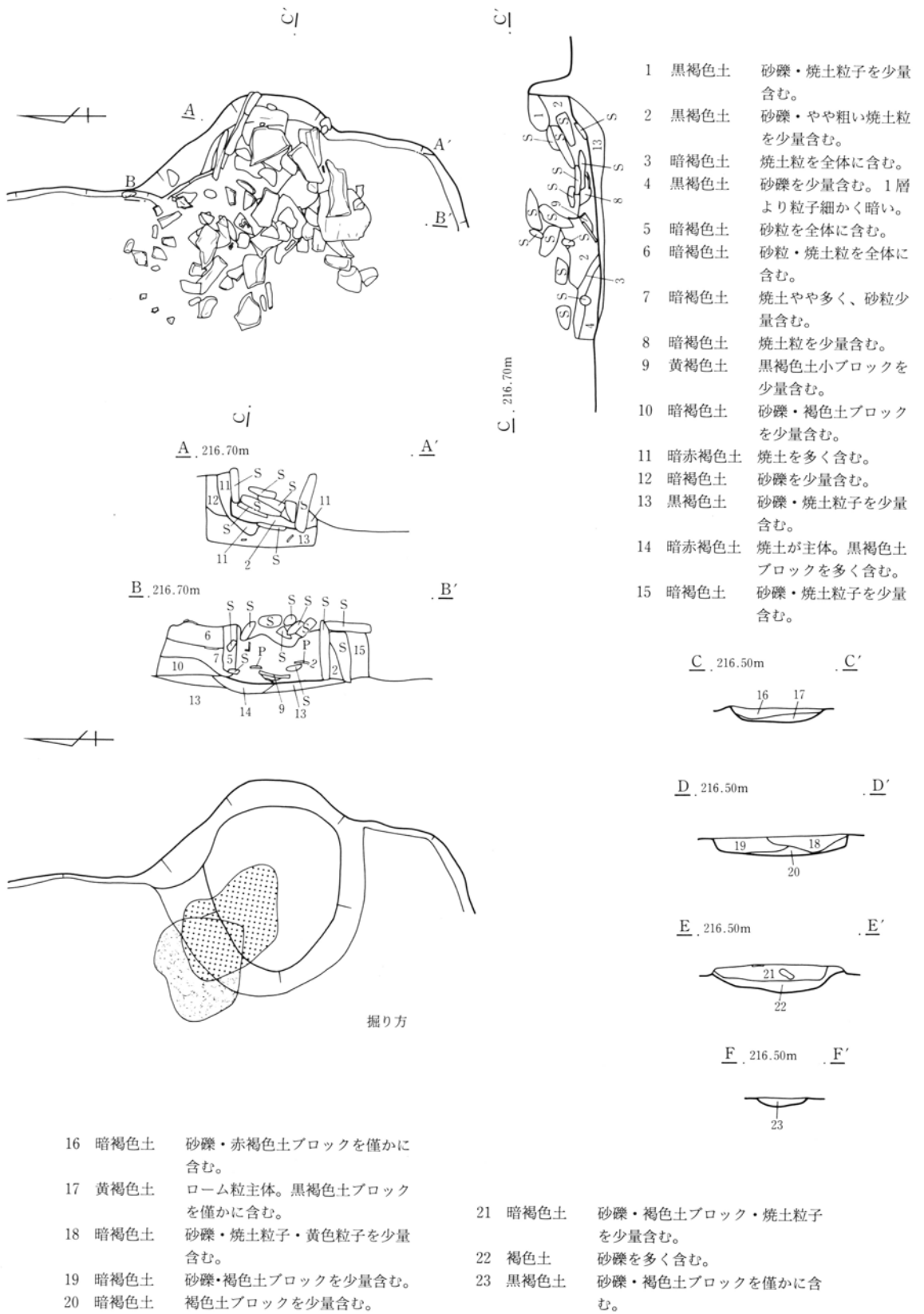
番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	床中央	13.1	5.2	砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	一部欠損
2	土師器 坏	床南側	13.6	5.0	小石・砂粒 を含む	鈍い黄 橙	不良	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	2/3
3	土師器 坏	床東側	(14.8)		砂粒を含む	橙	普通	内外面磨滅のため不明	2/5
4	土師器 台付 甕	埋土			砂粒を含む	褐灰	不良	外 横撫で後篋削り 内 撫で	
5	土師器 甕	床中央	(11.5) 7.4	21.0	砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部横撫で 体部篋横撫で	2/3 下部に焼成前 一對の穿孔

3号住居跡 (第194~197図、PL18・206)



第194図 3号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物



第195図 3号住居跡 カマド

第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

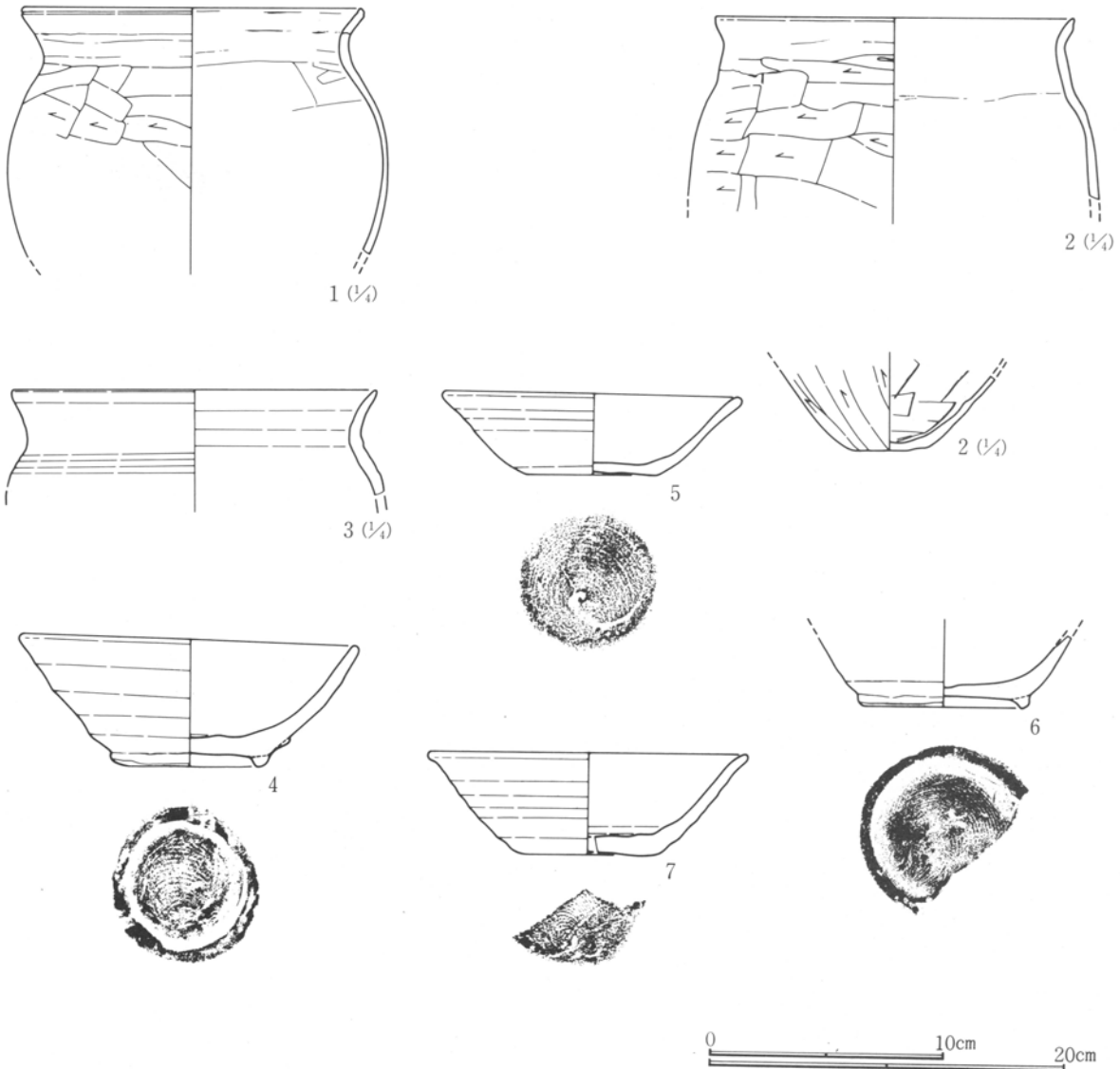
3号住居跡は隅丸長方形であるが、東壁北側が短く北壁は途中で折れる形となる。床面は炭化物を含む黒褐色土で貼床としており、ほぼ平坦。掘り方も平坦であり、Pit 状の掘り込みが4ヶ所検出されている。

遺物は、カマドおよびカマド西側と西壁際の床面付近から比較的残りの良い状態で出土しており、カマド構築材と考えられる石も多くみられる。

カマドは砂岩の切り石を構築材としており、側壁・天井等すべてに使用されていたと考えられ、多量の砂岩が出土している。火床面は床面とほぼ同レベルで、よく焼けている。その左手前に薄い粘土塊が検出されている。

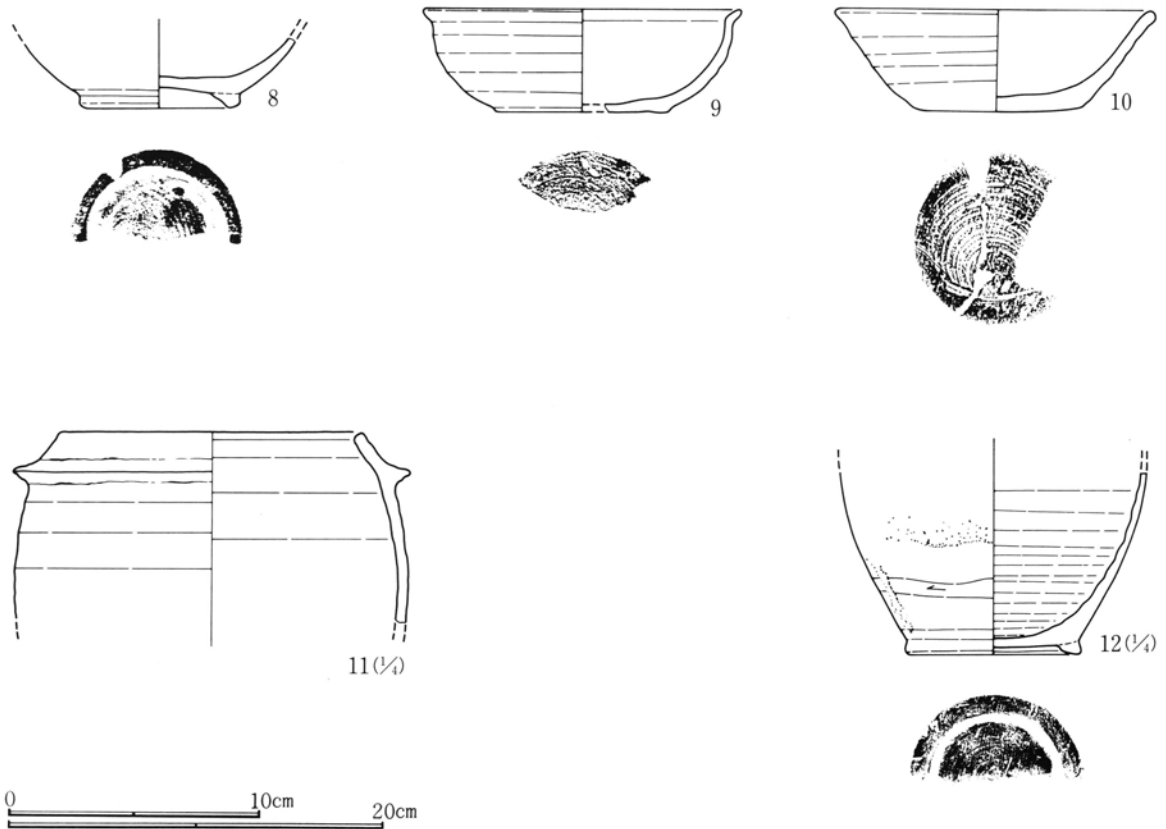
カマドの構築材である砂岩は、側壁部および袖の一部は残存しているものの、天井部のものは燃焼部に落ち、他は燃焼部から手前に崩れ出ている。砂岩の間から土器片も少量出土している。

住居跡からの出土遺物のうち、土師器坏・土師器甕・須恵器坏の破片が多い。そのほか羽釜・灰釉陶器瓶が若干出土している。



第196図 3号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



第197図 3号住居跡出土遺物(2)

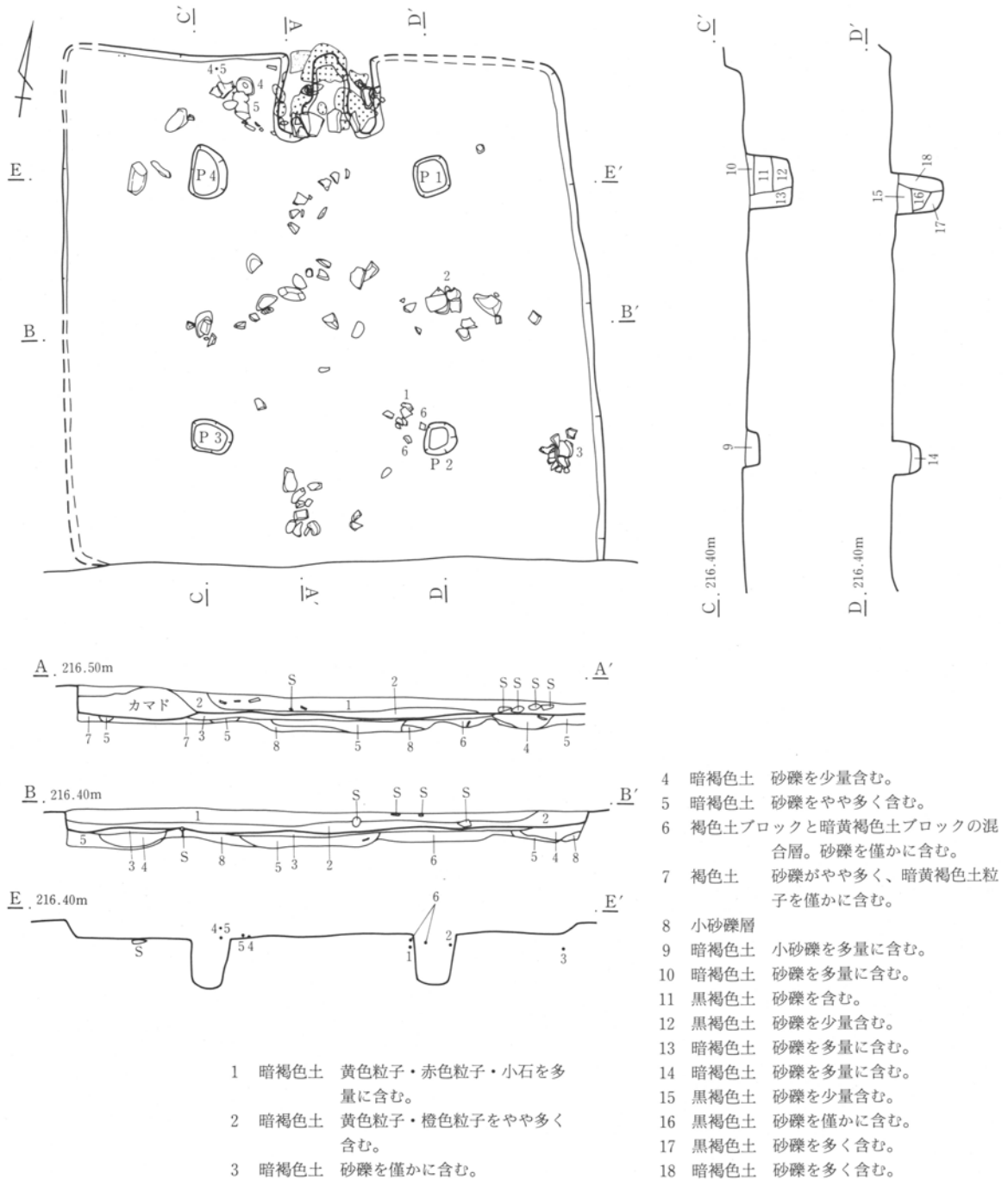
3号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 甕	カマド周 辺	18.7		精製	鈍い褐	良好	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
2	土師器 甕	埋土	(19.8) (4.0)		小砂粒を含 む	鈍い褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	外面スス付着
3	土師器 甕	埋土	20.3		小砂粒を含 む	鈍い黄 橙	普通	内外面横撫で	
4	須恵器 坏	埋土	14.1 6.5	5.5	微砂粒を含 む	灰	不良	ロクロ整形 底面回転糸切り 付け高台	完形
5	須恵器 坏	床中央	12.4 (4.0)	3.5	微砂粒を含 む	鈍い黄 橙	不良	ロクロ整形 底面回転糸切り	一部欠損
6	須恵器 坏	埋土		(6.6)	微砂粒を含 む	灰	普通	ロクロ整形 底面回転糸切り	1/3
7	須恵器 坏	カマド周 辺	(13.4) (5.6)	(4.2)	微砂粒を含 む	灰	普通	ロクロ整形 底面回転糸切り	1/4
8	須恵器 坏	埋土	(5.8)		微砂粒を含 む	灰白	不良	ロクロ整形 底面回転糸切り	1/4
9	須恵器 坏	埋土	(12.5) (6.8)	(4.0)	微砂粒を含 む	灰黄・ 黒	不良	ロクロ整形 内面篋磨き 底面回転糸切り	1/5
10	須恵器 坏	埋土	12.6 6.6	4.1	砂粒を含 む	灰	普通	ロクロ整形 底面回転糸切り	4/5 口唇部に自然 釉
11	須恵器 羽釜	埋土	(16.0)		砂粒を含 む	灰黄	普通	ロクロ整形	
12	灰釉陶器 瓶	埋土	(9.1)		精製	灰白	良好	ロクロ整形	

5号住居跡 (第198~201図、PL18・19・206)

平面形態は方形と考えられる。柱穴が住居の対角線上に4基検出された。貯蔵穴は確認されていない。床面は暗褐色土で貼床としており、凹凸が多く、比較的軟弱である。

掘り方は、東壁中央部下から南壁を経て西壁中央下まで、幅40cm~70cm、深さ10cmのコの字形の溝状の掘り込みと、中央部に長径1.4m、短径1.3m、深さ15cmの土坑状の掘り込みが検出されているが、他は平坦な掘り方である。



第198図 5号住居跡

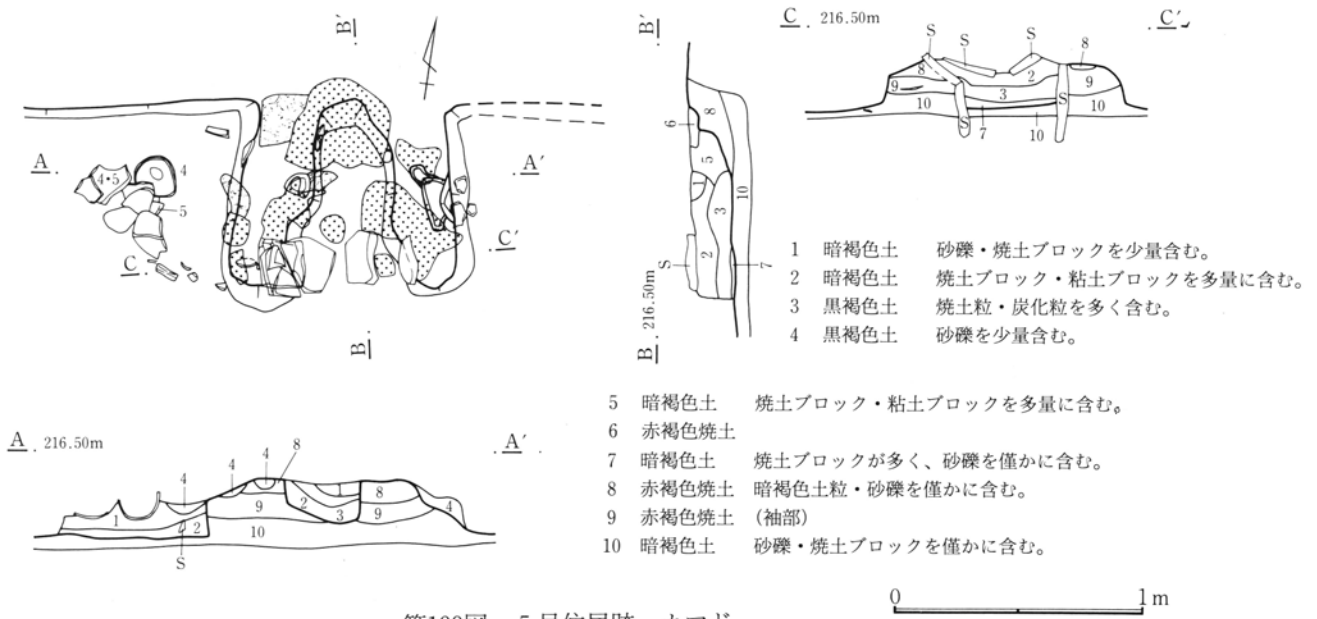
0 2m

第2章 検出された遺構と遺物

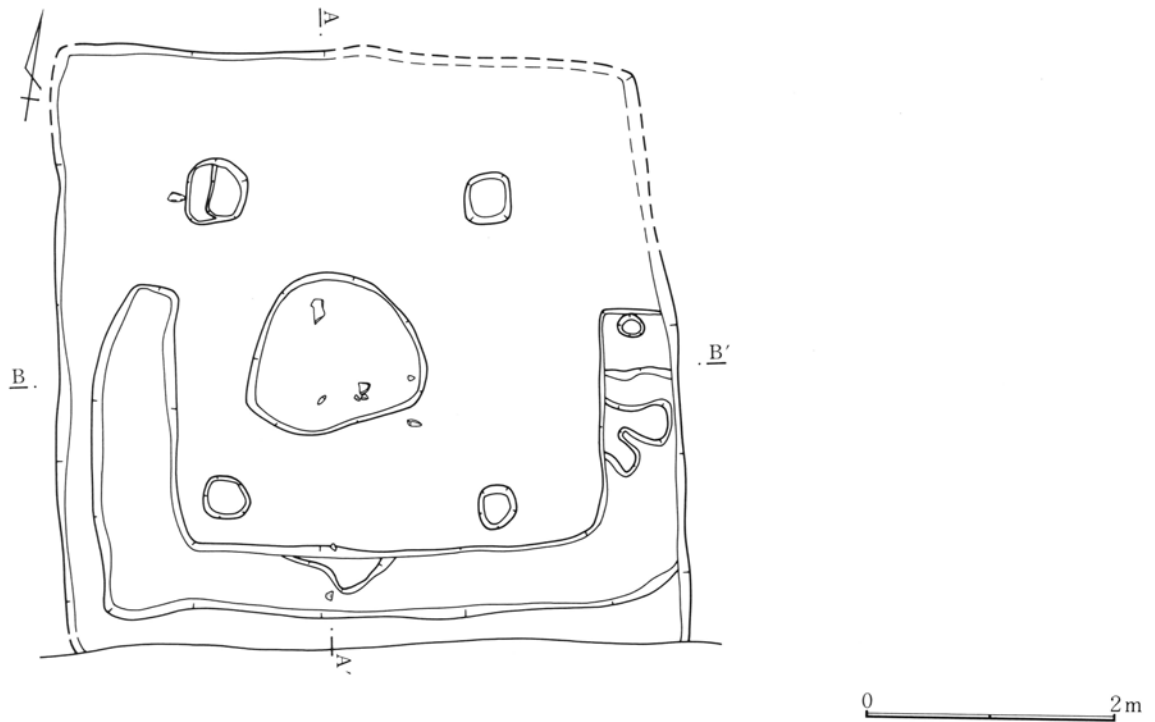
遺物は、住居跡全域から残りの良い状態で出土したが、東壁際は少ない。中央部と南壁中央付近から礫が比較的まとまって出土しており、こも編石の可能性も考えられるが、形態・規模等不規則である。

カマドは砂岩の切り石を芯材として袖を構築しており、天井石も砂岩を使用している。煙道部手前から天井石の下にかけて、焼土が多量に検出されており、天井部の崩落土と考えられる。火床面は床面と同レベルで、あまり焼けていない。

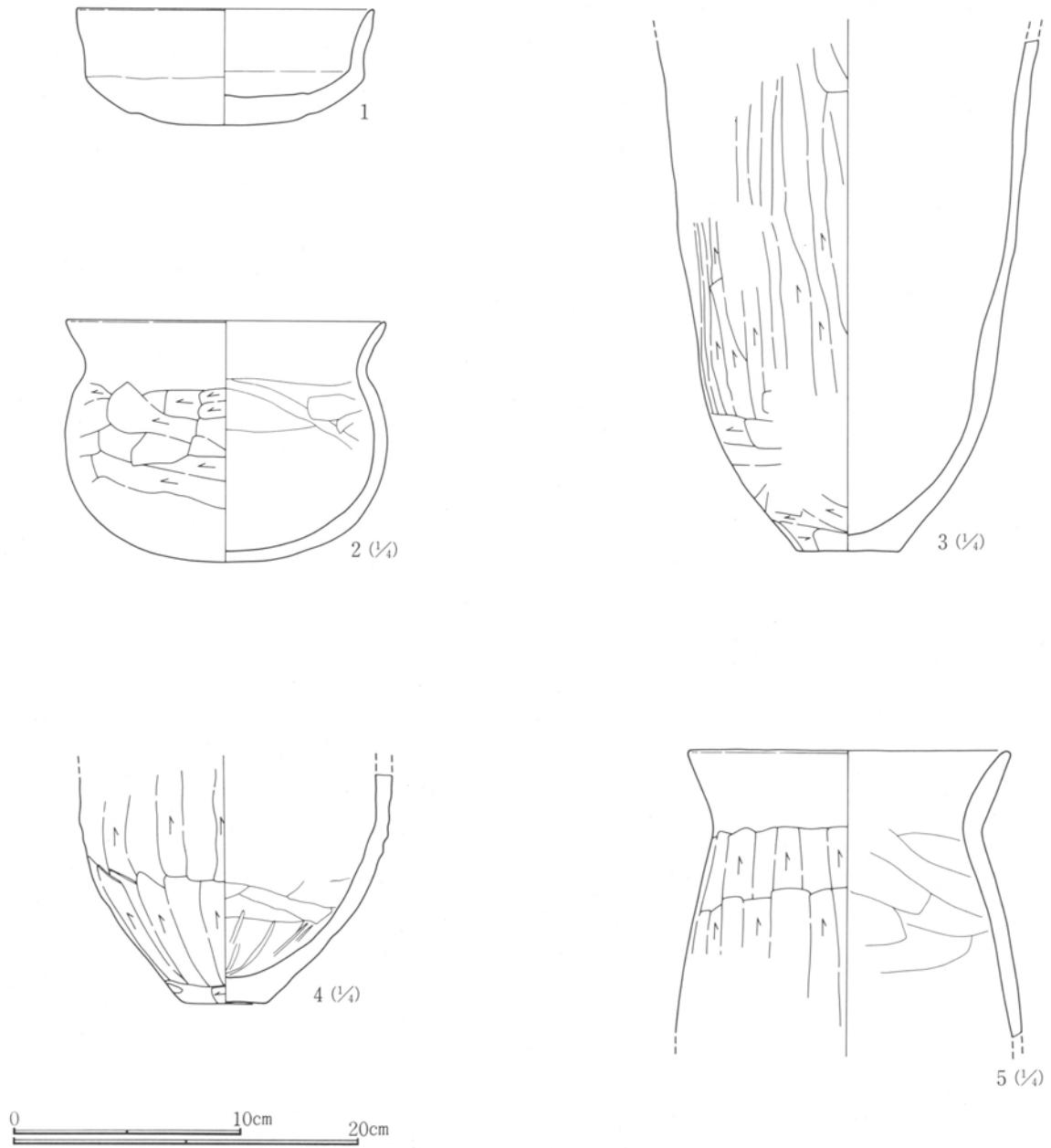
出土遺物としては、カマド左脇から大型の甕の破片が出土している。住居内からの遺物の出土量は少ないものの、残存状態は比較的良好である。土師器坏・土師器甕が出土している。



第199図 5号住居跡 カマド



第200図 5号住居跡 掘り方



第201図 5号住居跡出土遺物

5号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床南側	(13.0)	5.0	砂粒を含む	橙	普通	内外面磨滅のため不明	1/2
2	土師器 甕	床南側	18.4 2.8	14.0	砂粒を含む	鈍い黄 褐	普通	外 口縁部横撫で 内 口縁部～体部横撫で	2/3 内面黒斑あり
3	土師器 甕	床東側		6.0	小石・砂粒 を含む	明褐	普通	外 篋削り 内 撫で	2/3 外面スス附着
4	土師器 甕	床北側		4.7	小石・砂粒 を含む	鈍い褐	普通	外 篋削り 内 撫で	
5	土師器 甕	床北側	(18.4)		砂粒を含む	赤褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	2/3

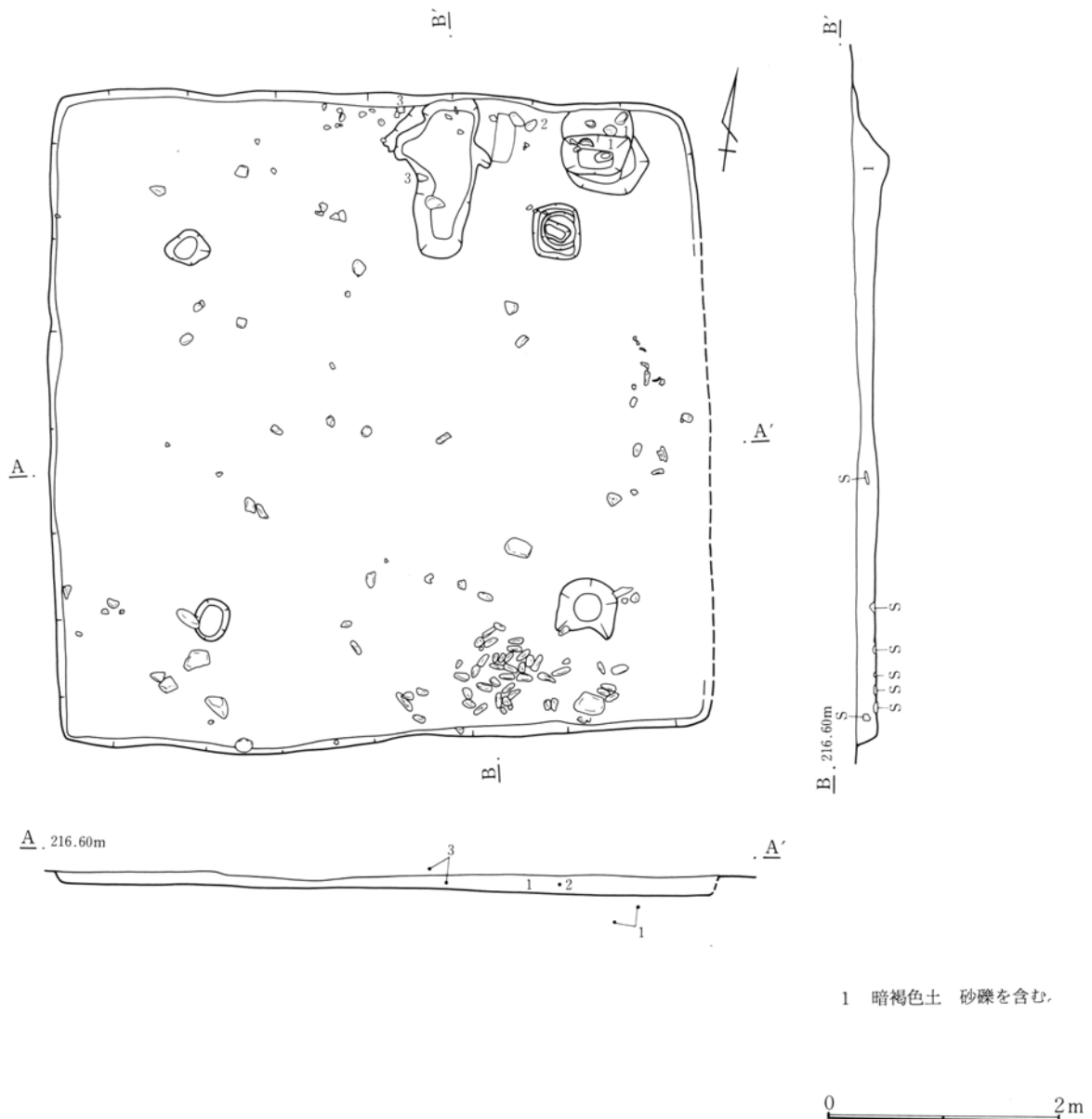
第2章 検出された遺構と遺物

7号住居跡 (第202~205図、PL19・207・249・250)

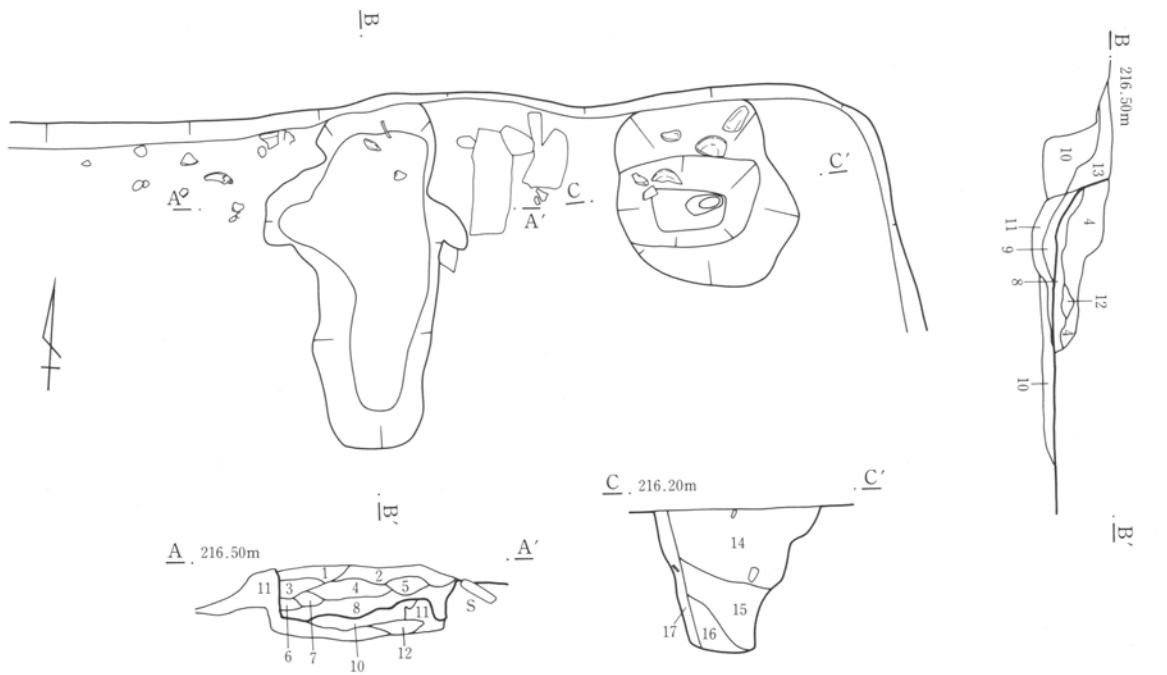
住居は正方形を呈する。地山を平坦に掘り込んでおり、掘り込んだ面をそのまま床面としている。床面は若干凹凸があるものの、ほぼ平坦で固くしまっている。柱穴は住居の対角線上に4ヶ所確認された。柱穴の深さはいずれも床面より約45cmであるが、形態はそれぞれ異なっている。

貯蔵穴は北東コーナーとカマドの中間にあり、平面形は不整円形で底面付近は長方形を呈している。貯蔵穴の深さは約55cmと深い。カマドは北壁の中央よりやや東寄りに確認された。カマドの袖は焼土を含んだ暗褐色土および砂岩の割石で造られているが、残存状況は良くない。カマドの焚口は床面を15cm程度掘り凹めて造られているが、灰・焼土が多く残されており、廃絶時の火床面は床面とほぼ同レベルであった。

出土遺物としては、南壁近くの床面上からこも編石が集中して出土している。土器は住居全域から出土しているが、小破片が多い。



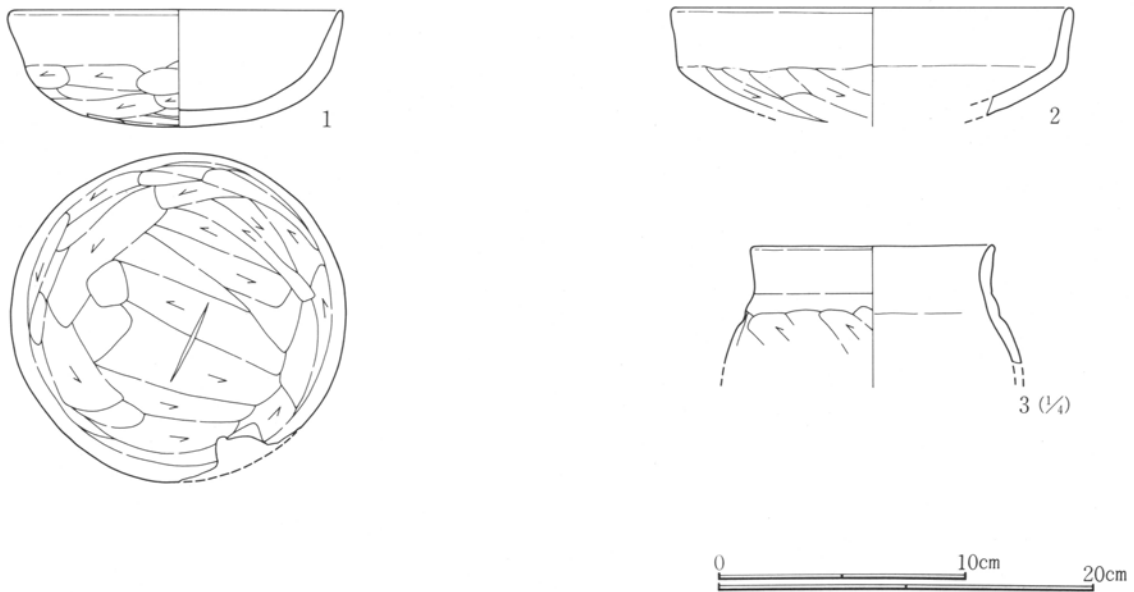
第202図 7号住居跡



- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 砂礫を少量含む。 | 10 暗褐色土 小砂粒を含む。 |
| 2 暗褐色土 焼土粒・炭化物を少量含む。 | 11 暗褐色土 焼土を全体に含む。 |
| 3 暗褐色土 焼土粒・炭化物・小石を僅かに含む。 | 12 暗褐色土 焼土粒・焼土塊を多く含む。 |
| 4 暗褐色土 焼土粒をやや多く含む。 | 13 暗褐色土 小砂礫・焼土粒を少量含む。 |
| 5 暗褐色土 砂礫・黄色粒子をやや多く、焼土粒を僅かに含む。 | 14 暗褐色土 砂礫を多量に含む。 |
| 6 暗褐色土 黄色粒子を少量含む。 | 15 暗褐色土 砂礫・焼土粒を僅かに含む。 |
| 7 暗褐色土 黄色粒子・小石をやや多く含む。 | 16 褐色土 黒褐色土ブロックを多く含む。 |
| 8 暗褐色土 径約5mmの焼土塊を含む。 | 17 黒褐色土 砂礫・焼土粒を僅かに含む。 |
| 9 暗褐色土 焼土粒・灰を多量に含む。 | |

0 1m

第203図 7号住居跡 カマド

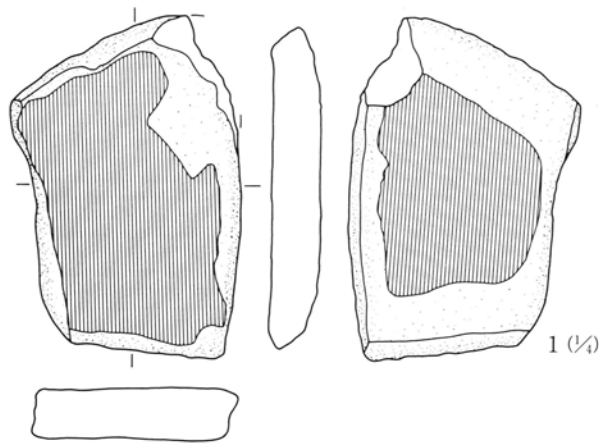


第204図 7号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

7号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	貯蔵穴	13.1 2.5	4.6	砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	ほぼ完形
2	土師器 坏	カマド周 辺	(15.8)		砂粒を含む	鈍い黄 橙		外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	1/4
3	土師器 小型甕	カマド周 辺	(12.5)		砂粒を含む	明赤褐		外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	1/2



第205図 7号住居跡出土遺物(2)

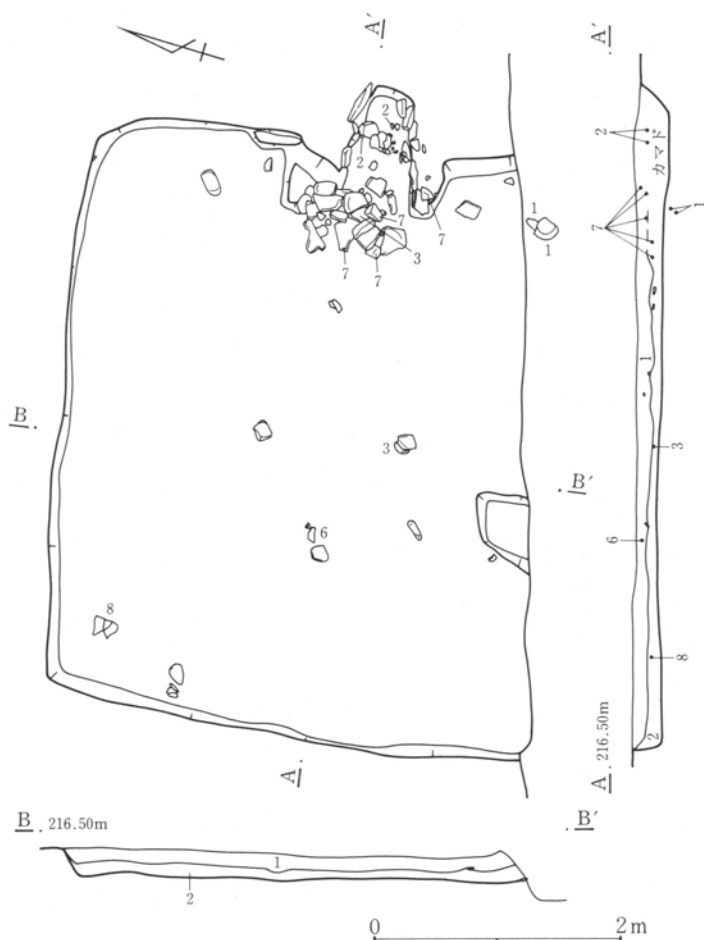
7号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存 状況	計測値 (cm・g)				石材名	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	砥石	不明	1/3	18.1	12.3	2.8	817.7	砂岩	盤状の角礫。表裏に弱い研磨面。
2	こも	床下	完形	11.6	5.2	4.7	305.3	変安	棒状の円礫。両端に敲打痕。
3	こも	床下	一部欠	11.3	6.5	2.9	238.5	変安	盤状の円礫。裏面剥落。
4	こも	床下	完形	11.7	5.6	4.2	356.6	変安	盤状の円礫。
5	こも	床下	完形	13.1	4.9	3.5	269.8	粗安	棒状の垂円礫。
6	こも	床下	完形	12.6	6.9	2.9	303.5	粗安	盤状の円礫。
7	こも	床下	完形	11.2	6.6	3.3	359.6	粗安	盤状の円礫。
8	こも	床下	完形	10.0	5.7	2.9	254.0	変安	盤状の円礫。
9	こも	床下	完形	10.1	5.7	4.1	346.2	粗安	盤状の円礫。
10	こも	床下	完形	9.7	5.8	4.4	357.2	変安	盤状の円礫。
11	こも	床下	完形	12.4	5.3	3.3	256.8	変安	盤状の円礫。
12	こも	床直	完形	15.7	6.2	0.6	635.0	珪頁	棒状の円礫。
13	こも	床下	完形	12.0	5.4	4.6	454.6	砂岩	棒状の円礫。
14	こも	床下	完形	11.0	5.7	4.3	324.8	変安	棒状の円礫。
15	こも	床下	完形	13.2	5.0	3.9	347.1	変安	棒状の円礫。
16	こも	床下	完形	12.4	6.3	3.5	352.2	デイ	盤状の円礫。
17	こも	床下	完形	11.8	6.4	3.5	284.8	デ凝	盤状の円礫
18	こも	床下	完形	11.3	5.5	4.8	339.5	砂岩	盤状の円礫。
19	こも	床下	完形	13.3	5.2	4.1	427.3	デイ	棒状の円礫。
20	こも	床下	完形	12.4	4.1	4.0	290.4	変安	棒状の円礫。
21	こも	床下	完形	13.3	5.4	3.4	308.3	珪頁	棒状の円礫。下端に敲打痕。
22	こも	床下	完形	10.9	6.5	3.9	340.6	粗安	盤状の円礫。
23	こも	床下	完形	9.8	4.9	4.1	323.8	チャ	棒状の垂角礫。
24	こも	床下	完形	11.3	5.2	3.3	255.2	砂岩	盤状の円礫。両端に敲打痕。
25	こも	床下	完形	13.2	4.5	4.1	302.7	泥岩	棒状の円礫。両端に敲打痕。
26	こも	床下	完形	1.7	6.8	3.1	295.6	砂岩	盤状の円礫。両端に敲打痕。

第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
27	こも	床下	完形	10.5	5.4	4.6	315.6	粗安	盤状の円礫。
28	こも	床下	完形	11.9	4.6	3.5	328.3	砂岩	棒状の亜角礫。
29	こも	床下	完形	12.0	6.1	2.6	296.1	変安	盤状の円礫。
30	こも	床下	一部欠	12.4	5.0	3.8	300.7	粗安	棒状の円礫。
31	こも	床下	完形	10.0	5.6	3.0	240.3	粗安	盤状の円礫。
32	こも	床下	完形	13.1	5.9	2.9	262.3	変安	盤状の円礫。両端に敲打痕。
33	こも	床下	完形	10.3	4.8	3.8	261.2	珪準	棒状の亜角礫。
34	こも	床下	完形	9.3	4.5	3.5	265.7	砂岩	棒状の円礫。
35	こも	床下	一部欠	12.9	4.5	3.5	257.4	ひん	棒状の円礫。
36	こも	床下	完形	11.4	4.9	3.8	339.4	石閃	棒状の亜円礫。
37	こも	床下	完形	11.2	6.0	3.2	254.6	変安	盤状の円礫。
38	こも	床下	完形	10.5	5.3	3.4	263.9	変安	盤状の円礫。
39	こも	床下	完形	13.9	4.7	2.5	249.6	玄武	盤状の円礫。
40	こも	床下	完形	14.1	5.5	2.7	299.6	珪頁	盤状の円礫。
41	こも	床下	1/2	12.8	5.4	3.3	256.5	デイ	盤状の円礫。左側・裏面欠損。
42	こも	床直	完形	11.1	5.2	3.1	305.7	玄武	棒状の円礫。
43	こも	床下	完形	12.1	5.7	2.3	253.5	玄武	盤状の円礫。両端に敲打痕。

8号住居跡 (第206~210図、PL19・207)



- 1 暗褐色土 砂礫を多量に、焼土を少量含む。
- 2 暗褐色土 砂礫・焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 砂礫・焼土・粘土を少量含む。
- 4 褐色土と黄褐色粘土との混合。

第206図 8号住居跡

住居は5号溝によって南側の3分の1程度を削られている。平面形は隅丸方形とも考えられるが、北西コーナーは鈍角となっており、東壁と西壁は平行しない。

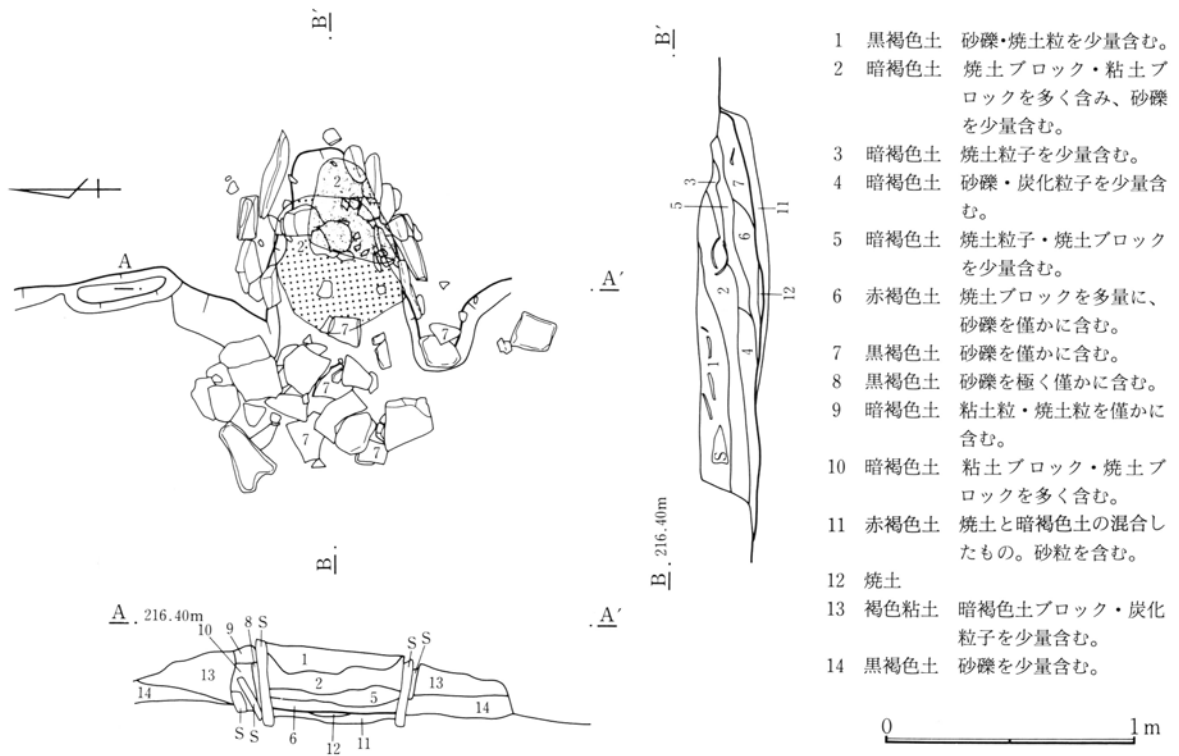
床面は、地山および84号住居跡埋没土を掘り込んだ面をそのまま床面としている。平坦な床面であるが、比較的軟弱である。柱穴は検出されず、また貯蔵穴も調査範囲内からは確認されなかった。

カマドは東壁に付設されている。カマドの残存状況は良く、砂岩の割石を袖から側壁にかけて構築材として使用している。また、袖は褐色粘土で造られている。火床面は2面あり、いずれも良く焼けているが、古い方の火床面が床面とほぼ同レベルである。

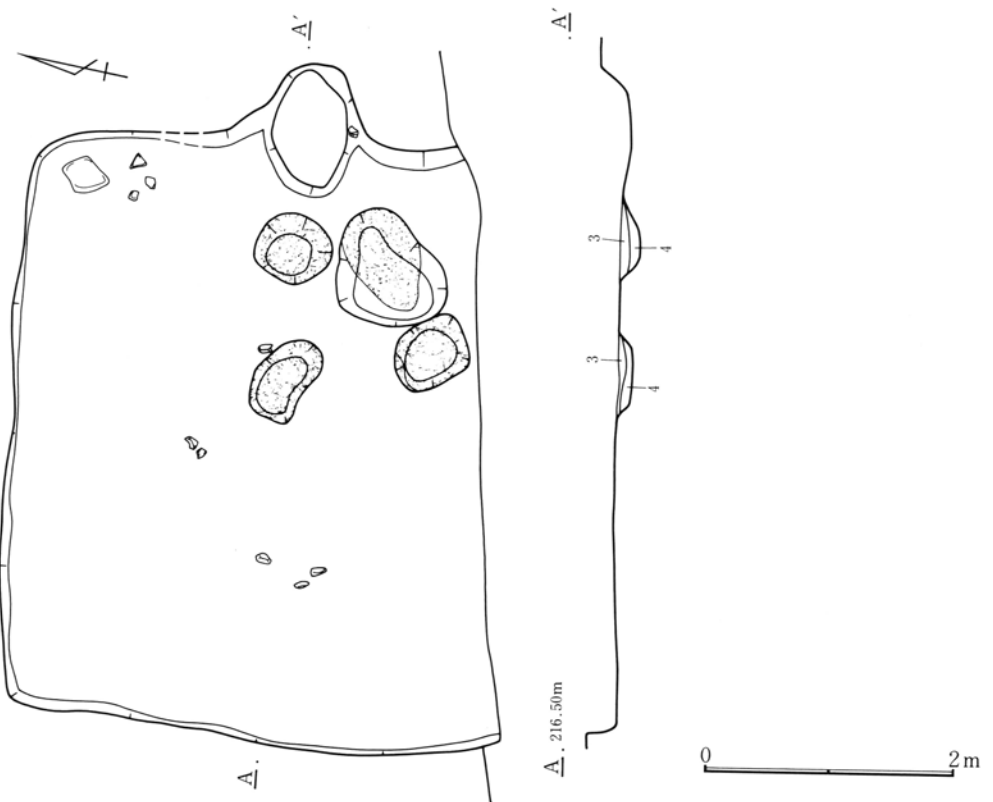
住居内南側に5号溝に一部を削られた不整形のPitが存在するが、深さは約7cm、性格については不明である。

遺物は住居内全域から出土しているものの、小破片が多い。カマドから比較的大型の破片が出土している。

第2章 検出された遺構と遺物

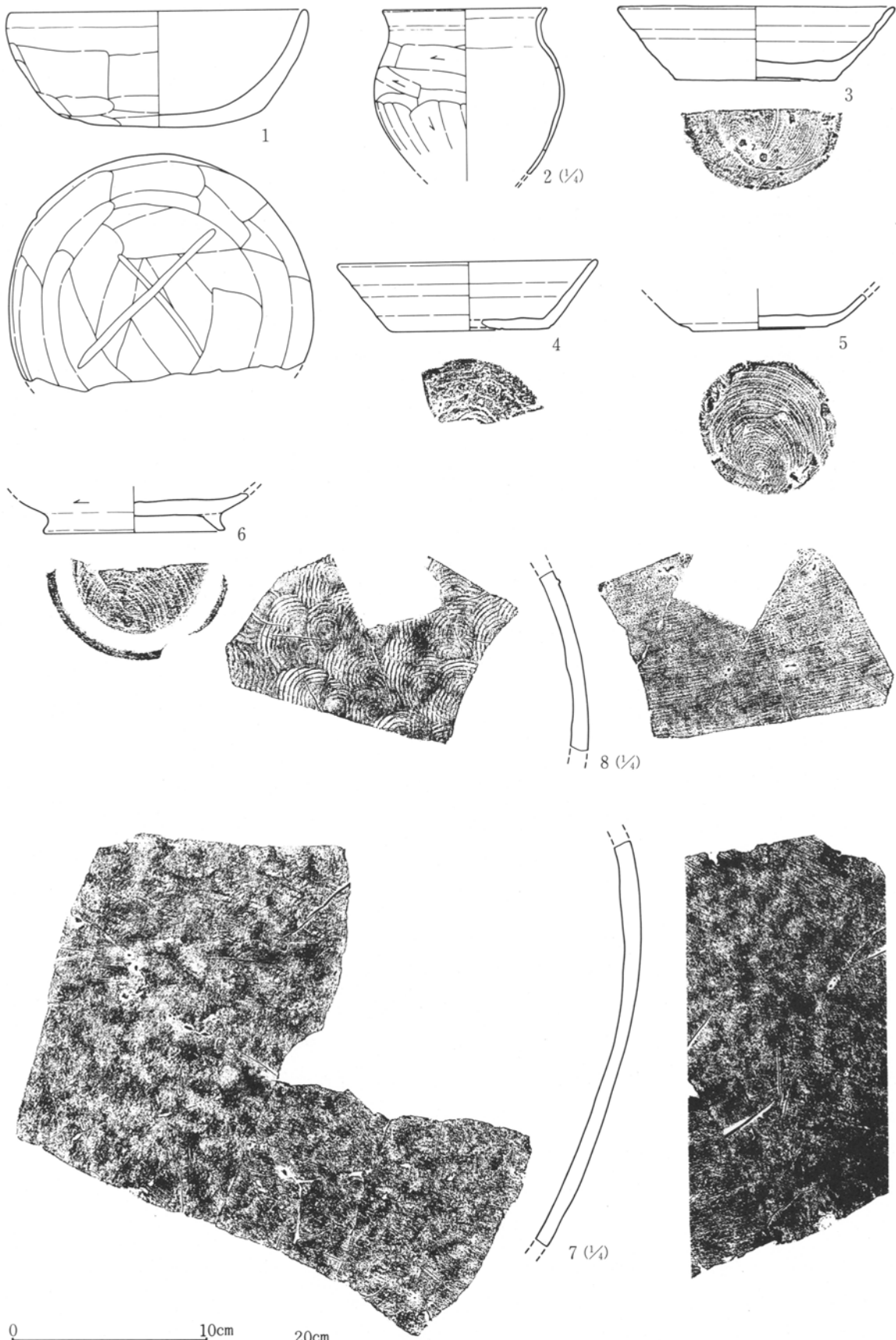


第207図 8号住居跡 カマド



第208図 8号住居跡 掘り方

第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

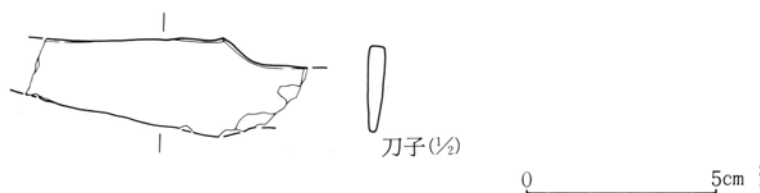


第209図 8号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

8号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床南側	15.0	5.9	砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外 体部篋削り 内 磨滅のため不明	3/5
2	土師器 台付 甕	カマド内	11.2		小砂粒を含 む	明赤褐	良好	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	脚部欠損
3	須恵器 坏	床中央	(14.0) (8.2)	3.7	精製	灰	良好	ロクロ整形 底面回転糸切り	1/2
4	須恵器 坏	埋土	(13.1) (8.2)	3.5	精製	灰	良好	ロクロ整形 底面回転篋切り無調整	1/4
5	須恵器 坏	埋土		6.8	精製	灰	良好	ロクロ整形 底面回転糸切り	
6	須恵器 坏	埋土		(9.2)	精製	黄灰	普通	ロクロ整形 底面回転糸切り 付け高台	
7	須恵器 甕	カマド内	厚さ0.8～1.3		砂粒を含む	灰	普通	内外面叩き	
8	須恵器 甕	床西側	厚さ0.9～1.2		精製	灰	良好	内外面叩き	外面自然袖付着



第210図 8号住居跡出土遺物(2)

刀子

住居覆土中からの出土である。両端を欠損しており、残存長7.5cmである。刀部がかなり減っており、使用時における研磨に起因するものと考えられる。

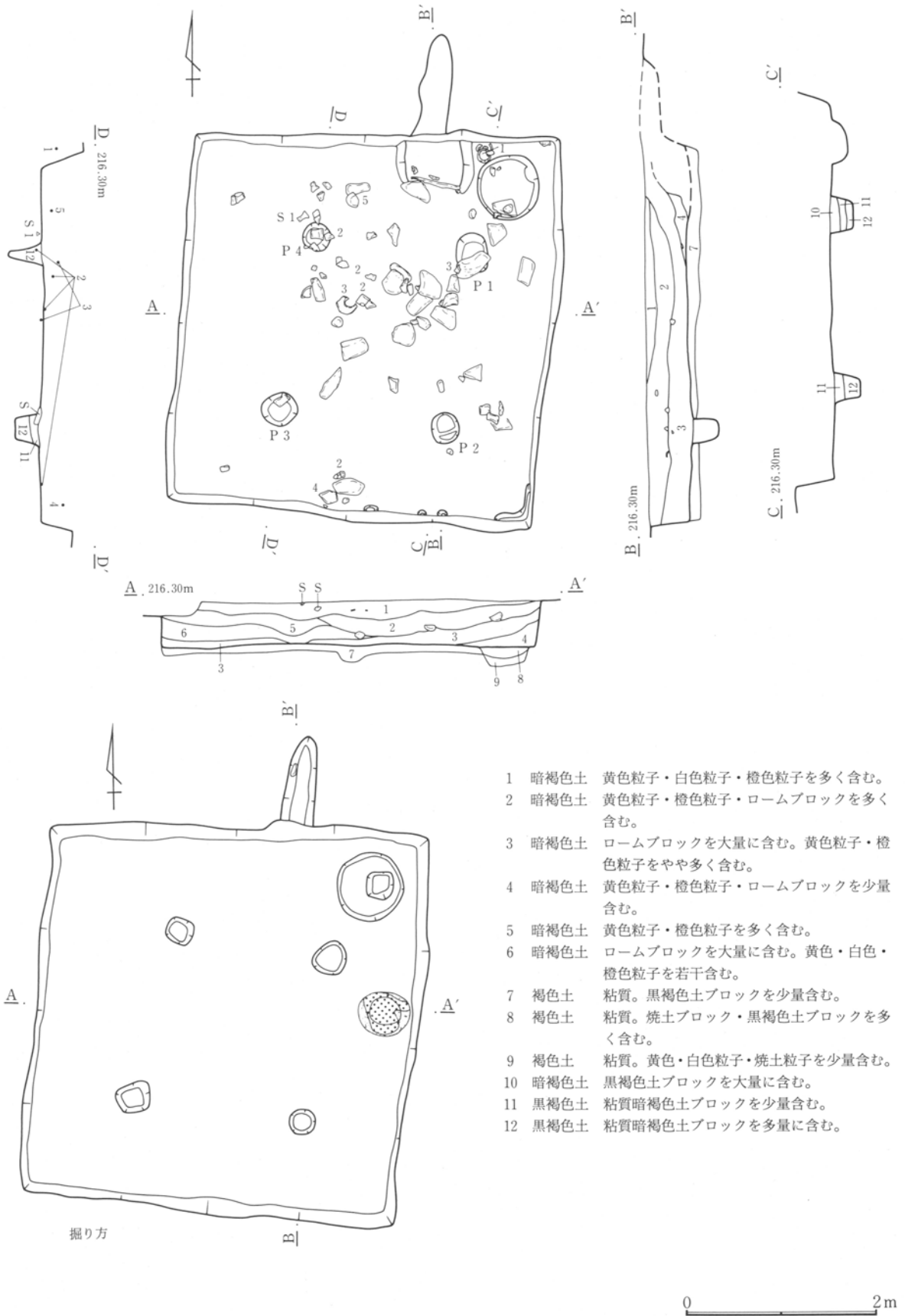
9号住居跡 (第211～213図、PL19・20・207・250)

住居は正方形であるが、西壁が東壁に比べてやや短くなっている。床面は褐色粘質土で厚さ10cm～15cmの貼床をしており、若干の凹凸はあるものの平坦であり比較的しまっている。

柱穴は4基検出されているが、住居の対角線上からはずれている。貯蔵穴は北東コーナー近くに発見された。貯蔵穴は直径約65cmの円形であるが、底部にさらに径30cm、深さ15cmほどの掘り込みがある。掘り方については、床面から5cm～15cm下方であるが、若干凹凸があるものの比較的平坦である。東壁中央近くの床面下より長径55cm、深さ20cmの楕円形の Pit が発見されている。この Pit の上層ほぼ全域には焼土が遺存していた。

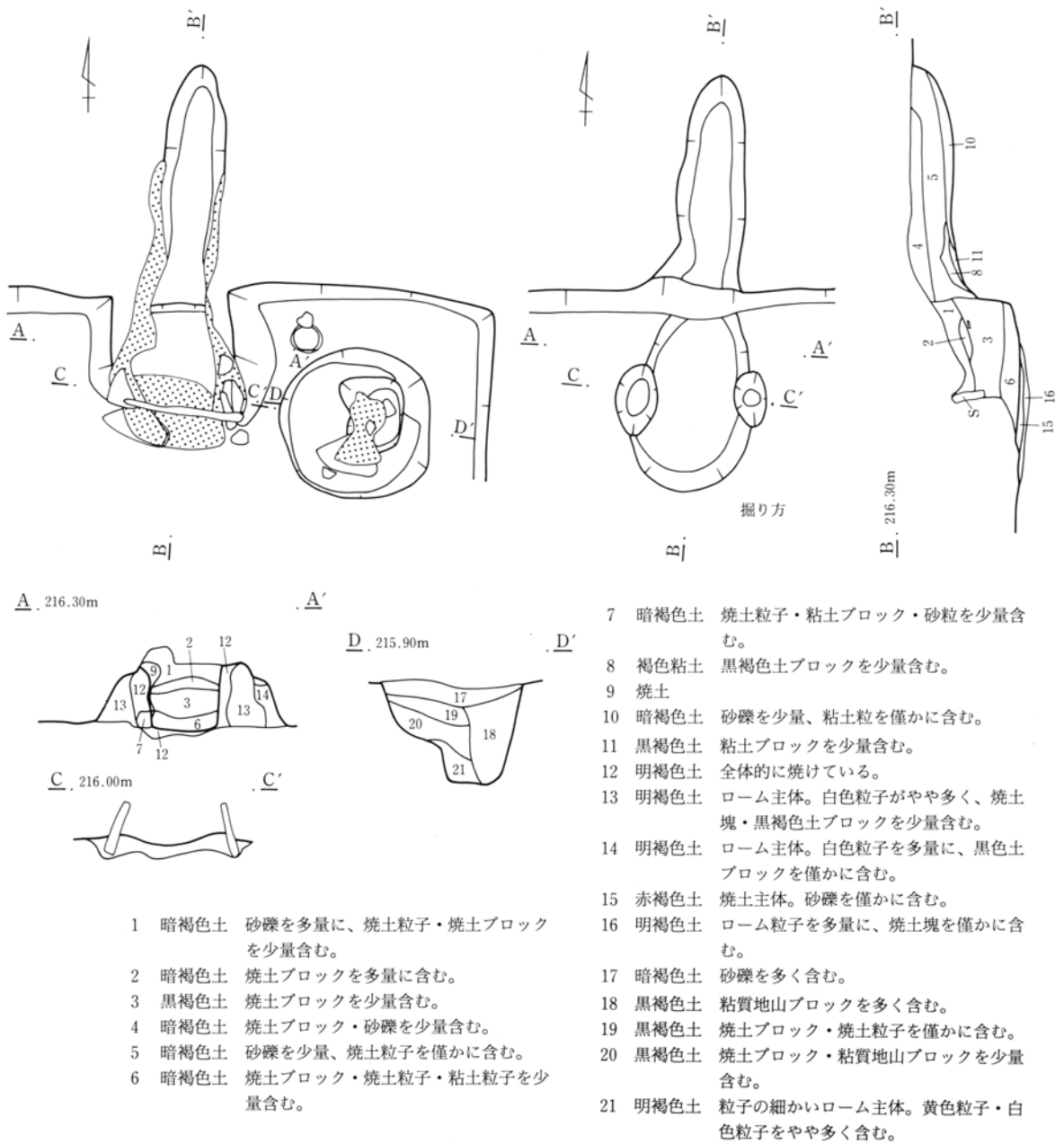
カマドは砂岩の割石を芯材として粘土で袖を構築している。また、カマド焚口付近の天井部にも砂岩の割石が使用されていた。火床面は床面とほぼ同レベルで、よく焼けている。煙道部の両側壁も、焚口より1mぐらい奥まで良く焼けている。

出土遺物として甕・壺・坏・砥石がある。坏はカマド右脇の床面よりやや浮いた状態で、砥石は貯蔵穴近くの床面上から出土している。



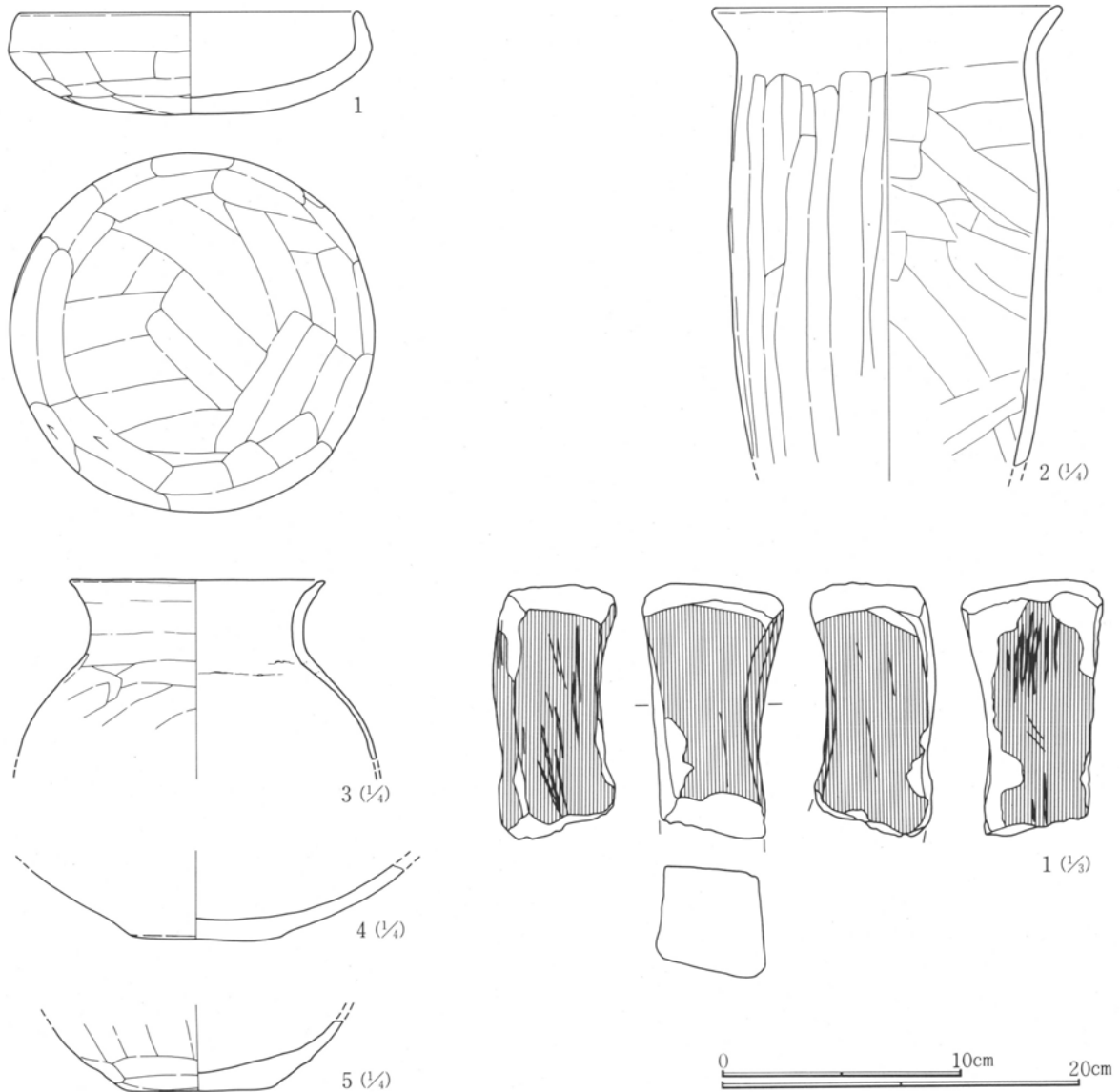
第211図 9号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物



第212図 9号住居跡 カマド

第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物



第213図 9号住居跡出土遺物

9号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	14.0	4.3	砂粒を含む	灰黄褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	完形
2	土師器 甕	床中央	(19.2)		砂粒を含む	灰黄	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部横撫で 体部篋撫で	
3	土師器 甕	床中央	(14.2)		砂粒を含む	鈍い黄 橙	不良	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部篋削り	
4	土師器 壺	埋土		7.4	砂粒を含む	橙	良好	内外面磨滅のため不明	
5	土師器 甕	床北側		8.7	砂粒を含む	黒	不良	外 篋削り 内 磨滅のため不明	

9号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	砥石	床直	2/3	10.6	5.9	5.1	413.7	砥沢	表裏両側に研磨面・線状痕。表・両側の研磨強く、反り返っている。

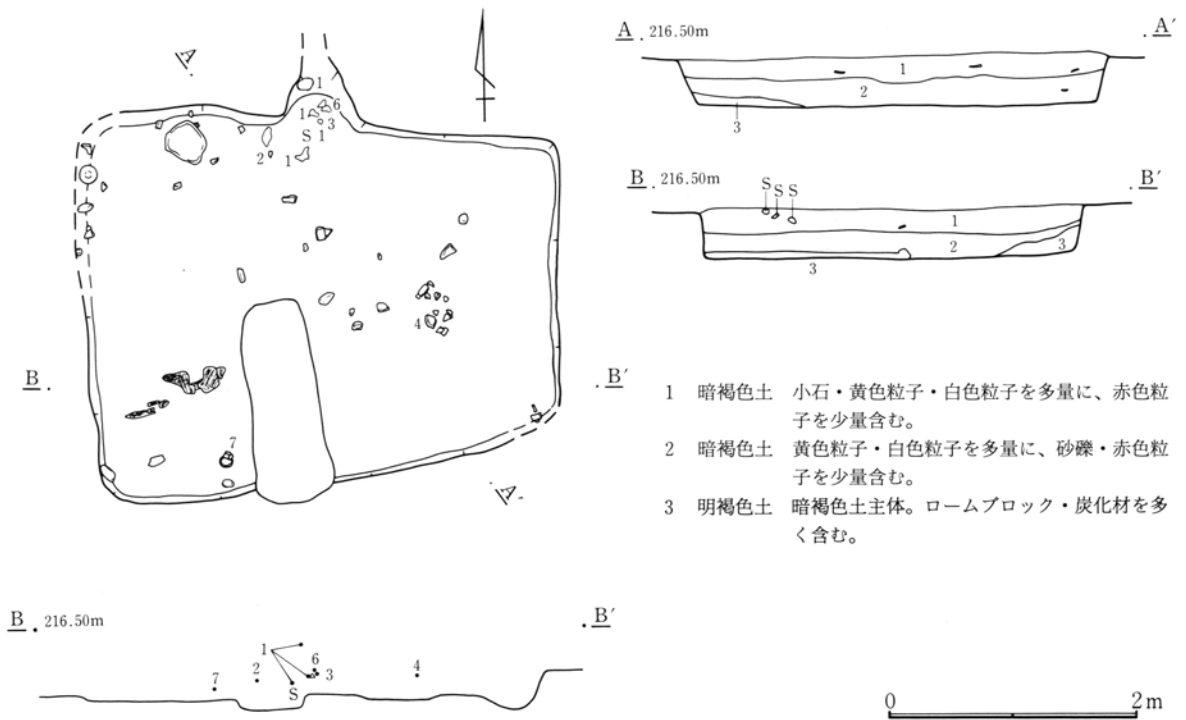
第2章 検出された遺構と遺物

11号住居跡 (第214~217図、PL20・207・250)

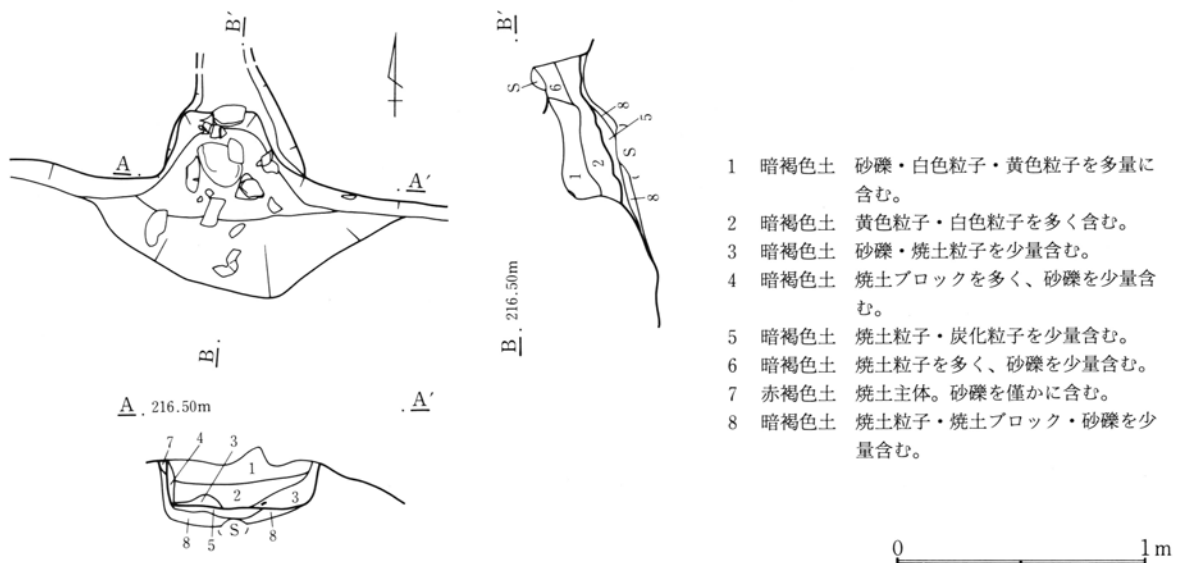
住居は隅丸長方形を呈しているが、東壁が短いため台形状となっている。床面は、34号住居跡の埋没土を掘り込んで造られている。ほぼ平坦な床面である。柱穴は確認されなかった。

カマドの残存状況は悪く、袖部は殆ど残っていない。火床面ははっきりしないが、床面よりやや高くなる可能性もある。カマドの側壁は良く焼けている。

出土土器として土師器坏が4個体と小型甕、須恵器坏があるが、須恵器坏を除いて破片である。床面より12cmぐらい浮いた状態で発見されている。その他に砥石が出土している。

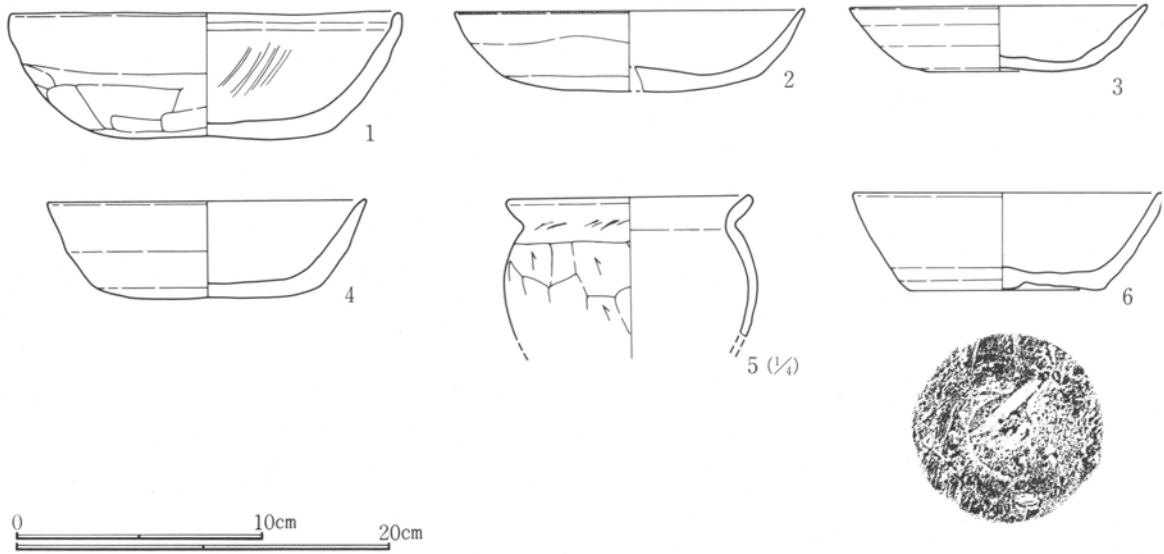


第214図 11号住居跡



第215図 11号住居跡 カマド

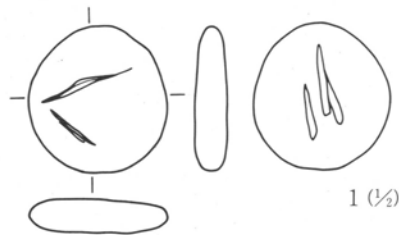
第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物



第216図 11号住居跡出土遺物(1)

11号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	15.4 10.0	5.0	小砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	1/2
2	土師器 坏	埋土	(14.1)		微砂粒を含む	鈍い黄 橙	良好	内外面磨滅のため不明	
3	土師器 坏	埋土	(11.9) (2.5) (7.2)		微砂粒を含む	鈍い黄 橙	良好	内外面磨滅のため不明	1/2
4	土師器 坏	埋土	(12.8) (3.8) (9.2)		微砂粒を含む	鈍い橙	良好	内外面磨滅のため不明	1/3
5	土師器 小型甕	埋土	(13.1) (7.4)		精製	鈍い赤 褐	良好	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
6	須恵器 坏	埋土	12.4 7.7	3.7	精製	灰	良好	ロクロ整形 底面回転篋削り後一部調整	ほぼ完形



第217図 11号住居跡出土遺物(2)

11号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	砥石	下位	完形	3.9	3.7	0.9	15.5	硬泥	小形の円盤状の円礫素材。表裏に浅い溝。

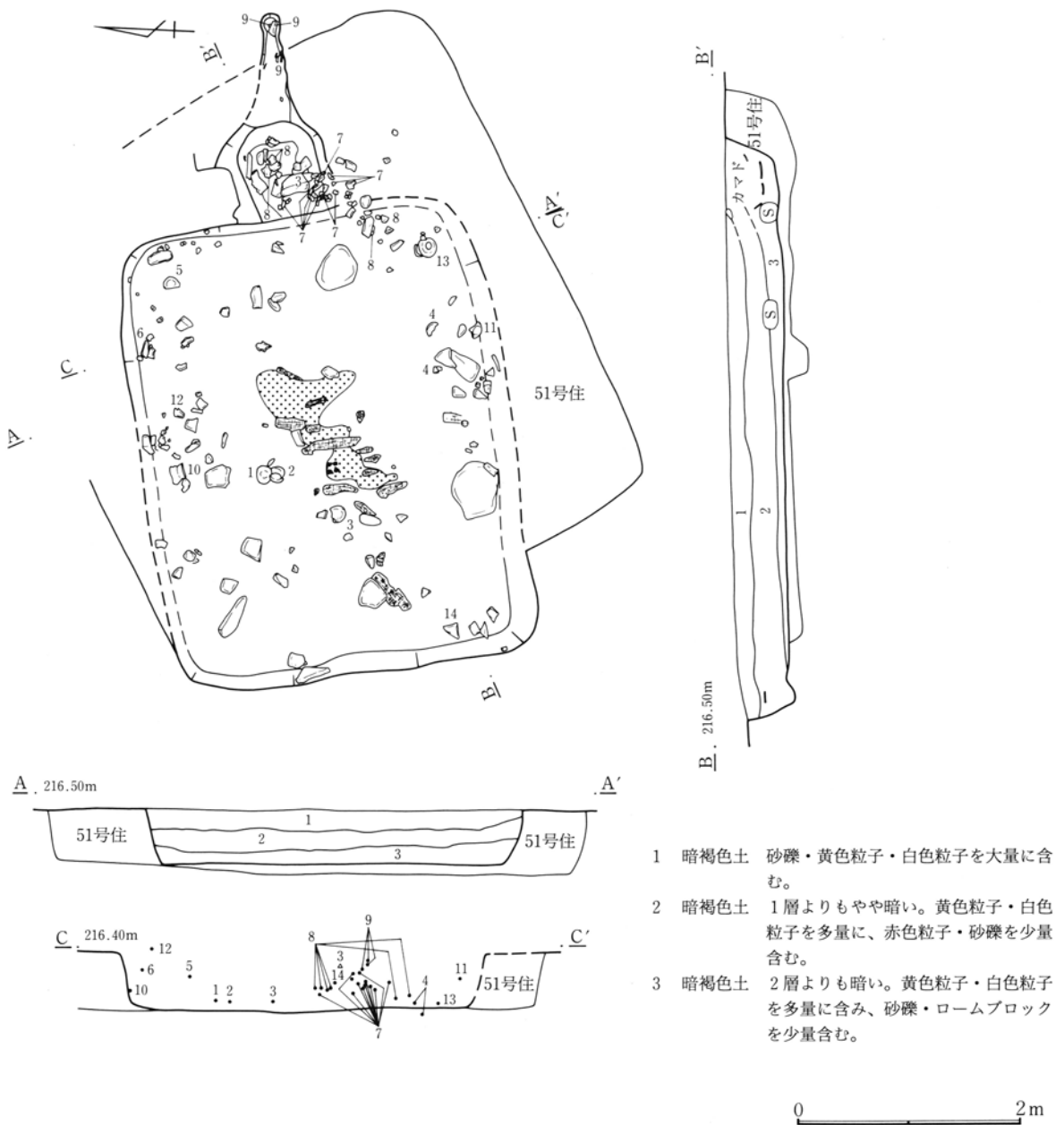
第2章 検出された遺構と遺物

12号住居跡 (第218~221図、PL20・208)

住居の大部分は51号住居跡の埋没土中に造られているため、壁の検出が困難であった部分が多い。住居は隅丸長方形と考えられる。

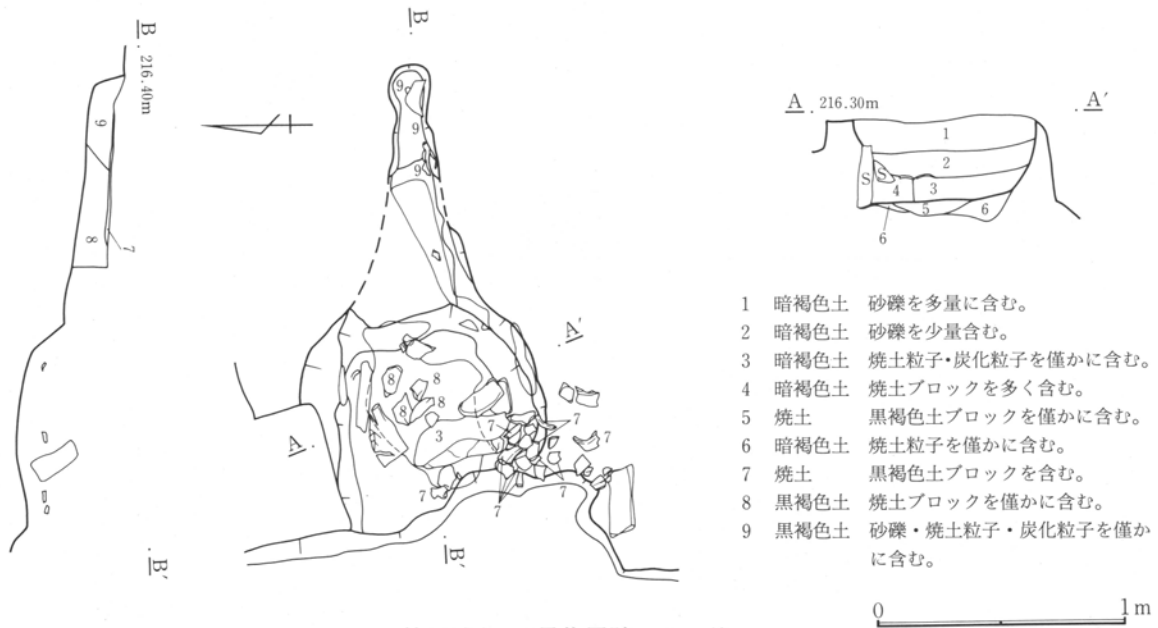
床面は平坦であり、51号住居跡の埋没土を比較的よく踏み固めてはいるものの、カマド付近から住居中央部を除いては軟弱である。柱穴および貯蔵穴は確認されなかった。掘り方については検出されず、地山および51号住居跡の埋没土をそのまま床面としているものと考えられる。

カマドは東壁中央に付設されている。カマド焚口が住居の外側となっており、他の住居とは形態が異なるが、カマドから排出されたとみられる焼土・灰が住居内に存在しており、本住居跡の東壁に付設されたカマ

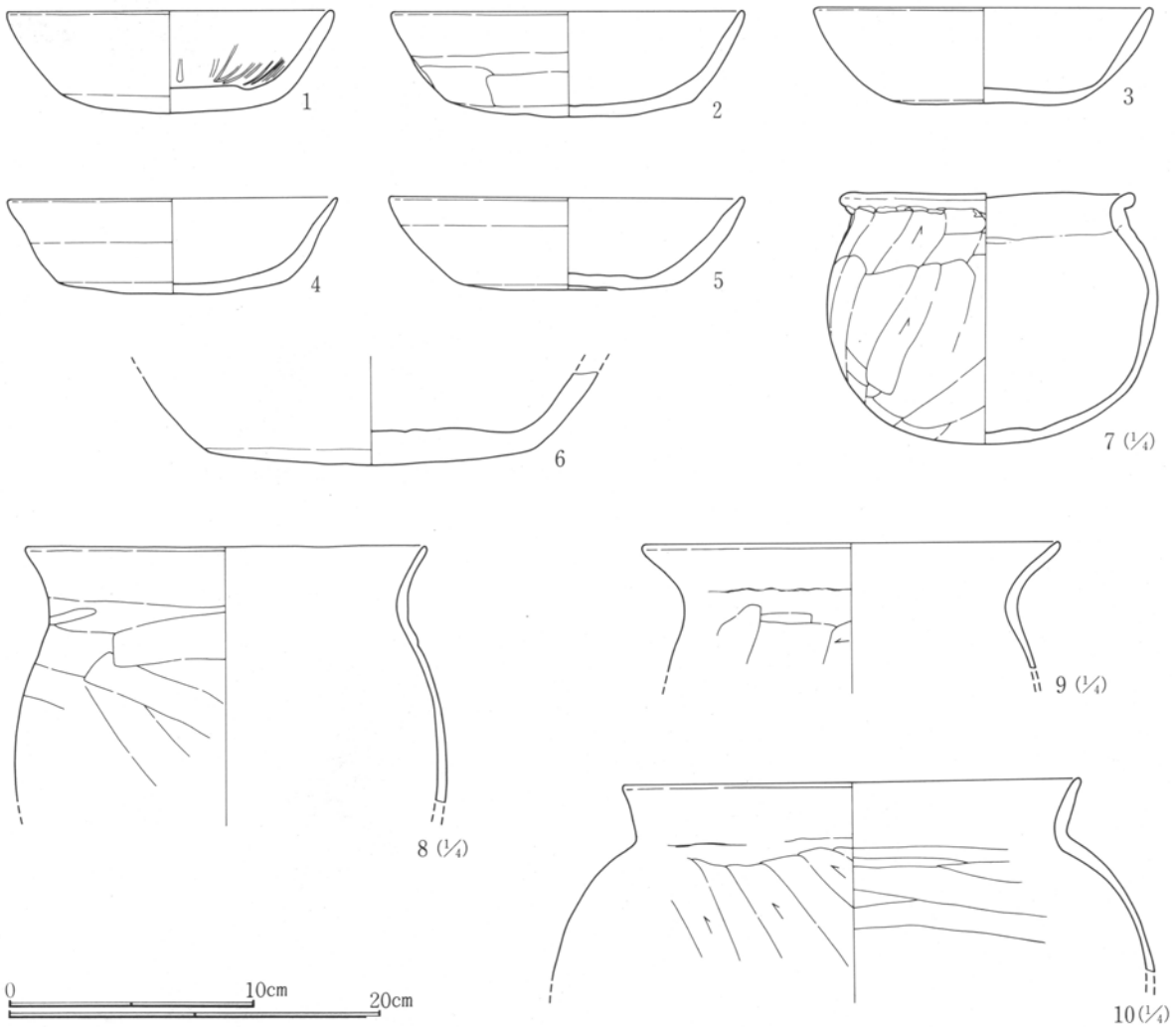


第218図 12号住居跡

第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

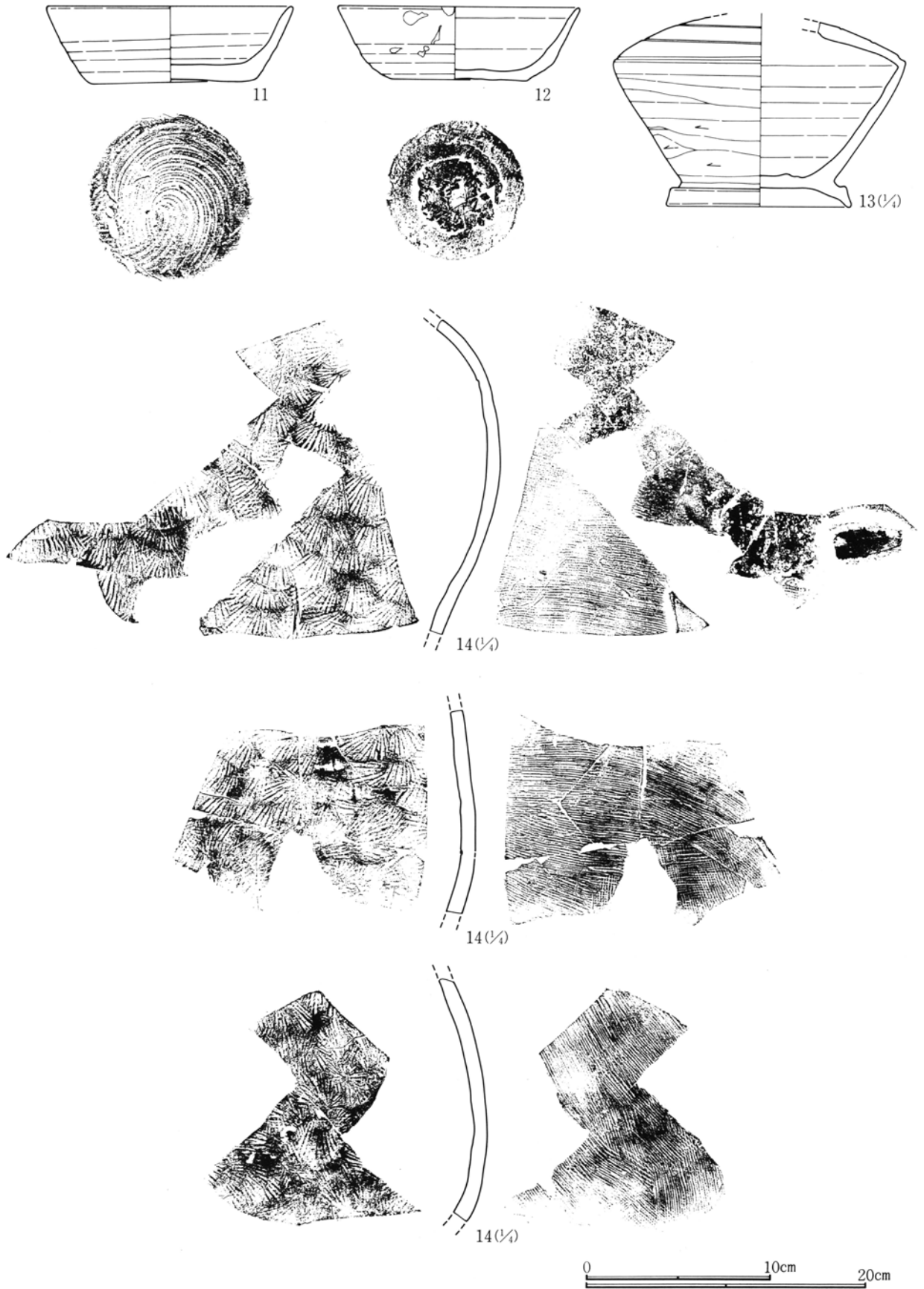


第219図 12号住居跡 カマド



第220図 12号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



0 10cm 20cm

第221図 12号住居跡出土遺物(2)

12号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	床中央	13.0 8.8	4.3	小砂粒を含む	橙	良好	外 磨滅のため不明 内 横撫で後、暗文施文	完形
2	土師器 坏	床中央	14.0 9.8	4.2	小砂粒を含む	橙	良好	内外面磨滅のため不明	ほぼ完形
3	土師器 坏	床中央	13.2 7.5	3.9	小砂粒を含む	橙	良好	内外面磨滅のため不明	ほぼ完形
4	土師器 坏	床南側	13.3 9.2	3.8	砂粒を含む	浅黄橙	良好	内外面磨滅のため不明	ほぼ完形
5	土師器 坏	埋土	(14.2) (8.6)	(3.6)	小砂粒を含む	橙	良好	内外面磨滅のため不明	2/3
6	土師器 坏	埋土	13.4		小砂粒を含む	橙	良好	外 篋削り 内 磨滅のため不明	
7	土師器 甕	埋土	15.2	13.4	砂粒を多く含む	鈍い赤褐	普通	外 篋削り 内 撫で	ほぼ完形
8	土師器 甕	カマド周 辺	21.5		砂粒を多く含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
9	土師器 甕	埋土	(22.3)		砂粒を多く含む	赤褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
10	土師器 甕	床北側	(24.3)		砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
11	須恵器 坏	埋土	13.0 9.0	4.0	精製	灰	良好	ロクロ整形 底面回転糸切り	2/3
12	須恵器 坏	埋土	12.8 7.3	4.4	精製	灰	良好	ロクロ整形 底面回転篋切り	2/3
13	須恵器 長頸壺	床南側	13.2		精製	灰	良好	ロクロ整形	
14	須恵器 甕	埋土	厚さ1.1		精製	黄灰	良好	内外面叩き	胴部破片 外面自然釉付着

ドと考えられる。カマド側壁左側には砂岩の切り石が使用されている。また、住居およびカマド内には砂岩の割石が存在しており、カマドに砂岩の割石が多用されていた可能性がある。火床面は床面よりも約10cm高くなっている。火床面はよく焼けており、また側壁も一部焼けている。煙道部には、天井から落下したと思われる焼土が薄く残存していた。

出土遺物は住居全域にわたっている。カマド内からは土師器坏3、土師器甕7・8が破片となって出土しているほか、住居床面から約10cm上方からの出土遺物が多い。また住居中央部には建築材とも考えられる炭化材が焼土と共に出土している。焼土粒、炭化物粒は住居周辺部にも若干認められており、火災住居である可能性が高い。

14号住居跡（第222～224図、PL21・208）

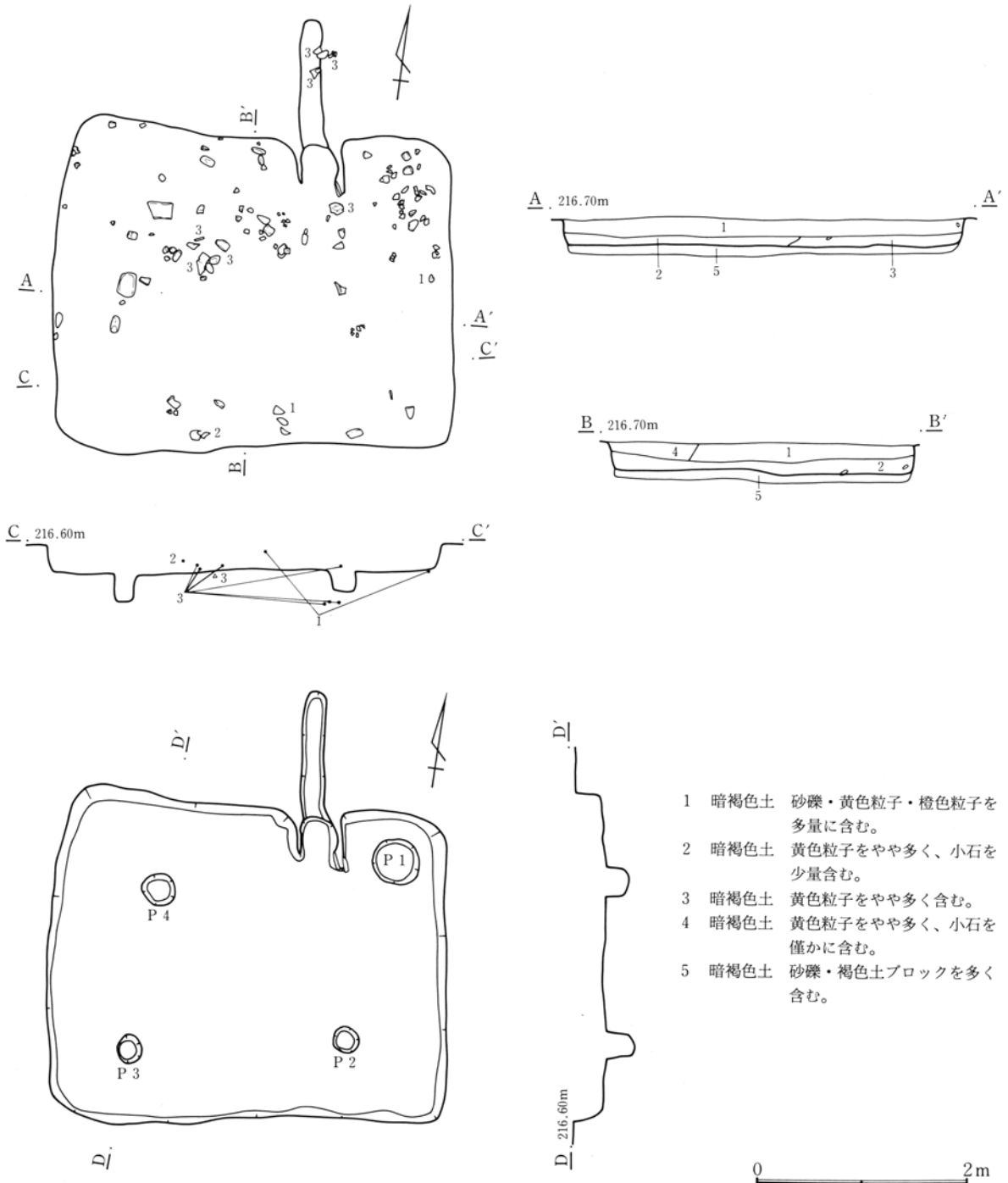
住居は隅丸長方形を呈する。住居の対角線上に柱穴と考えられる Pit が検出されているが、北東部分には検出されていない。床面は、砂礫を含む暗褐色土で貼床をしている。床面には一部に凹凸がみられるものの概して平坦で、比較的しっかりしている。

第2章 検出された遺構と遺物

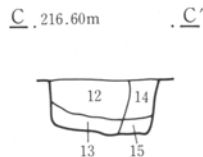
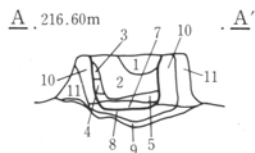
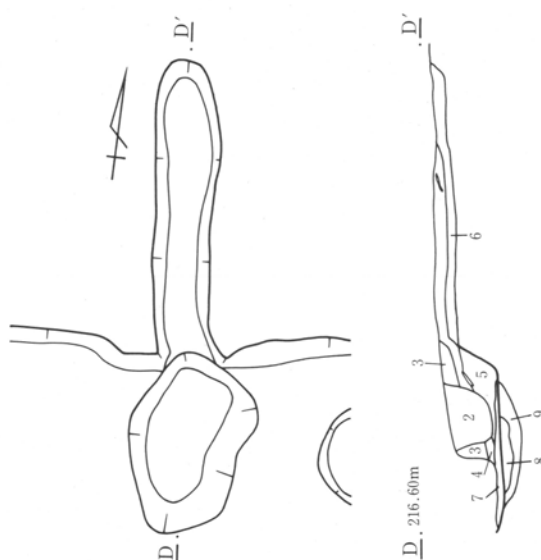
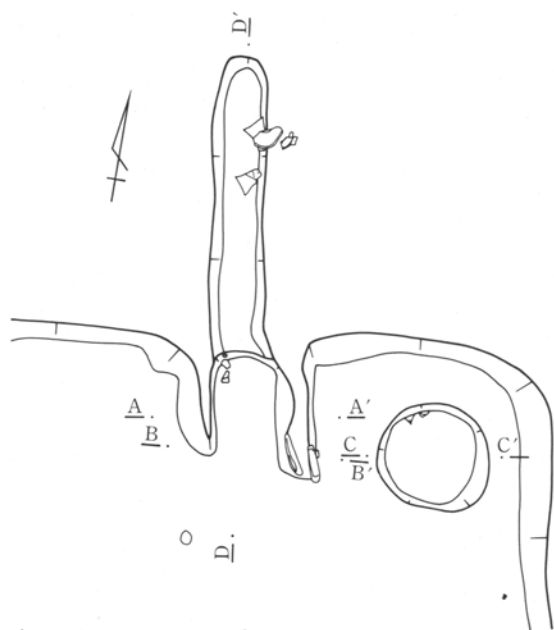
貯蔵穴は北東コーナー付近に発見された。貯蔵穴は直径45cmの円形で、床面からの深さは約20cm、底面は広く逆台形の掘り方をもつ。掘り方は床面から約10cm下方で、比較的平坦な掘り方である。

カマドについては、河原石および砂岩の割石を立てて右袖を構築している。左袖部分に石材は確認されていないが、住居内からは砂岩が出土しており、これらの石材はカマドに使用されていた可能性が考えられる。

出土遺物として土師器坏・土師器甕・須恵器横瓶がある。須恵器横瓶はすべて破片であるが、床面直上からカマド煙道部、床下にわたって出土している。



第222図 14号住居跡

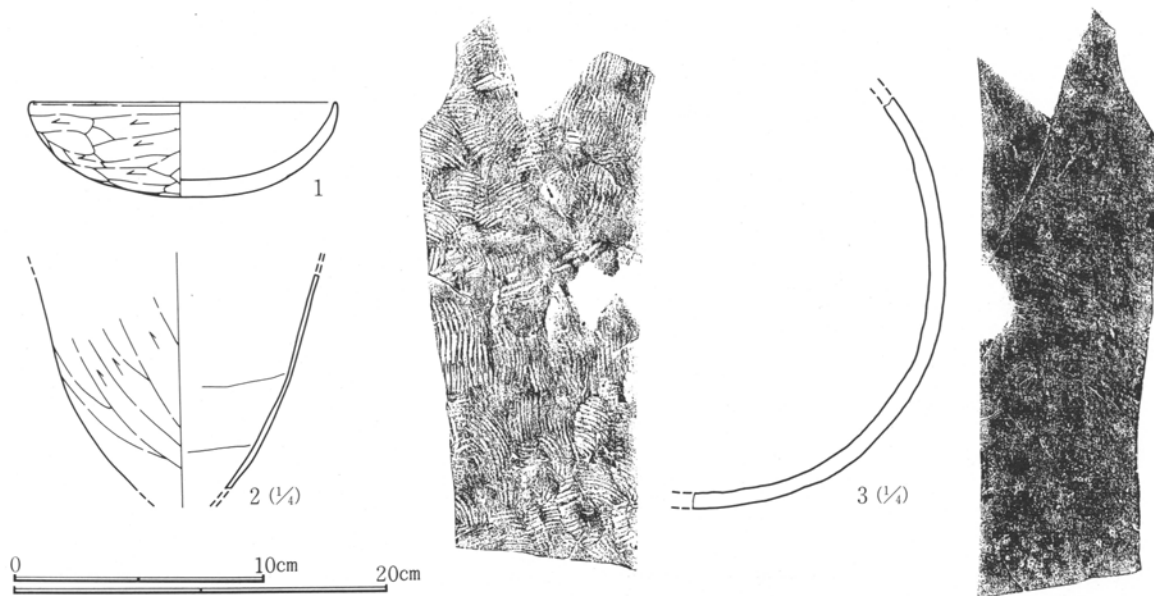


- 1 黒褐色土 砂礫を少量含む。
- 2 黒褐色土 砂礫を少量、焼土ブロックを僅かに含む。
- 3 暗褐色土 砂礫・褐色土ブロックを僅かに含む。

- 4 暗褐色土 砂礫を僅かに含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒子を少量、砂礫を僅かに含む。
- 6 褐色土 砂質。砂礫を僅かに含む。
- 7 黒褐色土 焼土・炭化物を含む。砂礫を僅かに含む。
- 8 焼土 黒褐色土ブロック・炭化物・砂礫を少量含む。
- 9 暗褐色土 砂礫を少量含む。
- 10 暗褐色土 砂礫を少量、焼土粒子を僅かに含む。
- 11 暗褐色土 焼土ブロックを少量、砂礫を僅かに含む。
- 12 黒褐色土 暗褐色土ブロックを多量に、砂礫を僅かに含む。
- 13 黒褐色土 砂質。粒子細かい。
- 14 暗褐色土 砂粒を僅かに含む。
- 15 黒褐色土 砂粒を僅かに含む。

0 1m

第223図 14号住居跡 カマド



第224図 14号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

14号住居跡出土土器観察表

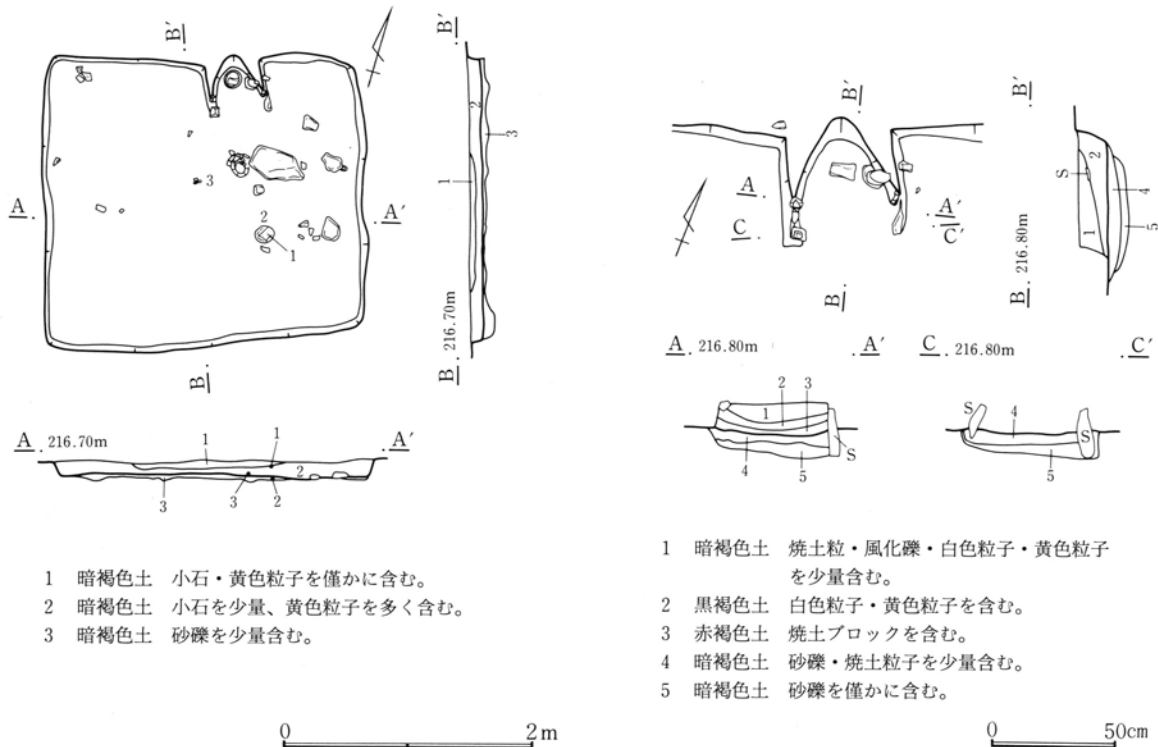
番号	器種 器形	出土位置	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 器坏	床南側 床東側	(12.2)	3.7	小砂粒を含む	黄橙	良好	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 磨滅のため不明	1/2
2	土師器 甕	床南側			小砂粒を含む	褐灰	普通	外 篋削り 内 撫で	外面スス付着
3	須恵器 横瓶	床中央 カマド内	厚さ0.7~0.9		精製	灰	良好	内外面叩き	外面自然釉付着

15号住居跡 (第225・226図、PL21・208)

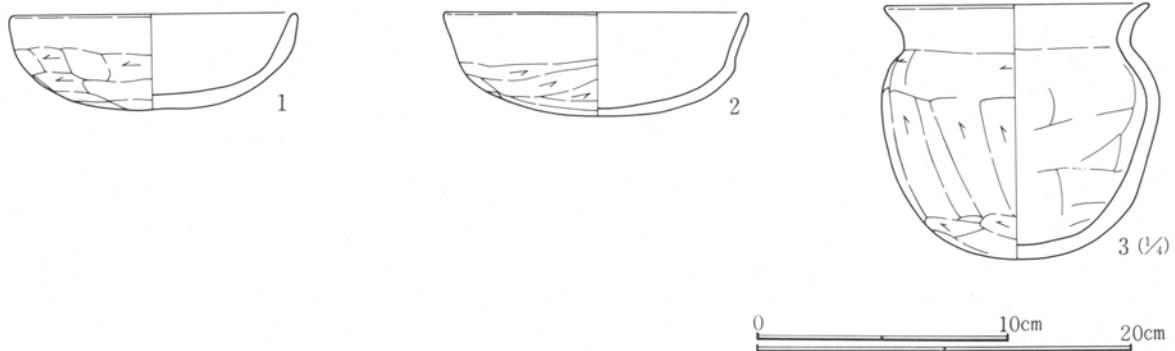
住居は方形であるが、東壁が西壁に比べて短くなっており、そのため東南および西南コーナーは直角とはならず、また南壁は北壁と平行しない。床面は平坦で、砂礫を含んだ暗褐色土で貼床しており、比較的良く踏み固められている。

柱穴および貯蔵穴は確認されなかった。掘り方は凹凸があり、床面からの深さは深いところで約10cm、浅いところで0.5cmである。カマドは砂岩の割石を袖石としているが、他の部分の残存状況は良くない。カマド付近および住居内に砂岩の割石の破片が若干みられるので、砂岩の割石はカマドの他の部分においても使われていた可能性が高い。カマドの掘り方については、焚口付近で床面より約7cm下方であるが、廃絶時の火床面は床面とほぼ同レベルとなっている。なお、火床面はあまり焼けていない。

出土遺物としては、土師器坏・土師器小型甕の他に、工作台と考えられる上面が平坦な石がある。いずれも床面付近からの出土であるが、工作台と考えられる平坦な石は約20cm×45cmの規模をもつ。



第225図 15号住居跡及びカマド



第226図 15号住居跡出土遺物

15号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	11.4	3.8	砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	完形
2	土師器 坏	床中央	12.1	4.0	砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	ほぼ完形
3	土師器 小型甕	床中央	14.1 9.4	13.5	小石・砂粒 を含む	褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	2/3

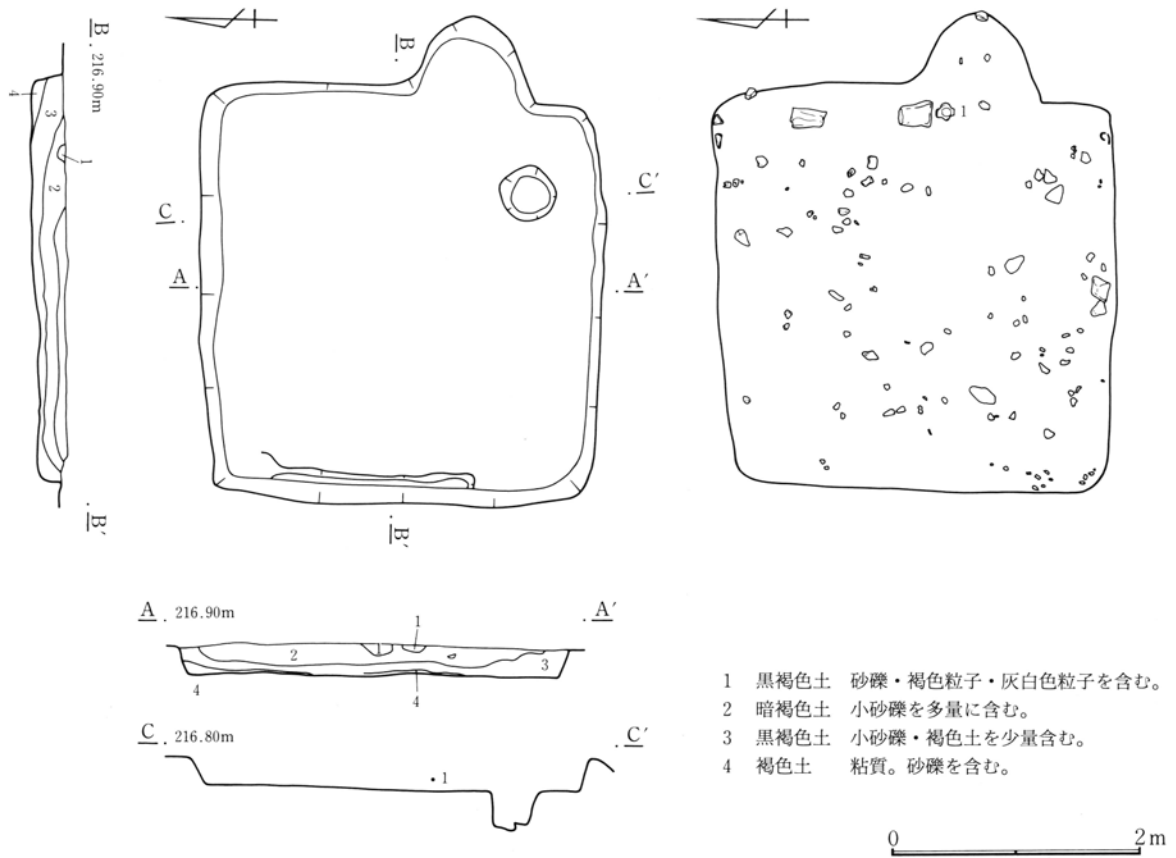
17号住居跡 (第227～229図、PL21・22・209)

住居は隅丸方形を呈する。しかしカマドが付設されている東壁よりも西壁の方が僅かではあるが短くなっており、そのため北壁の西から約3分の1のところでは北壁が若干内側に折れ、北西コーナーはやや鈍角となっている。

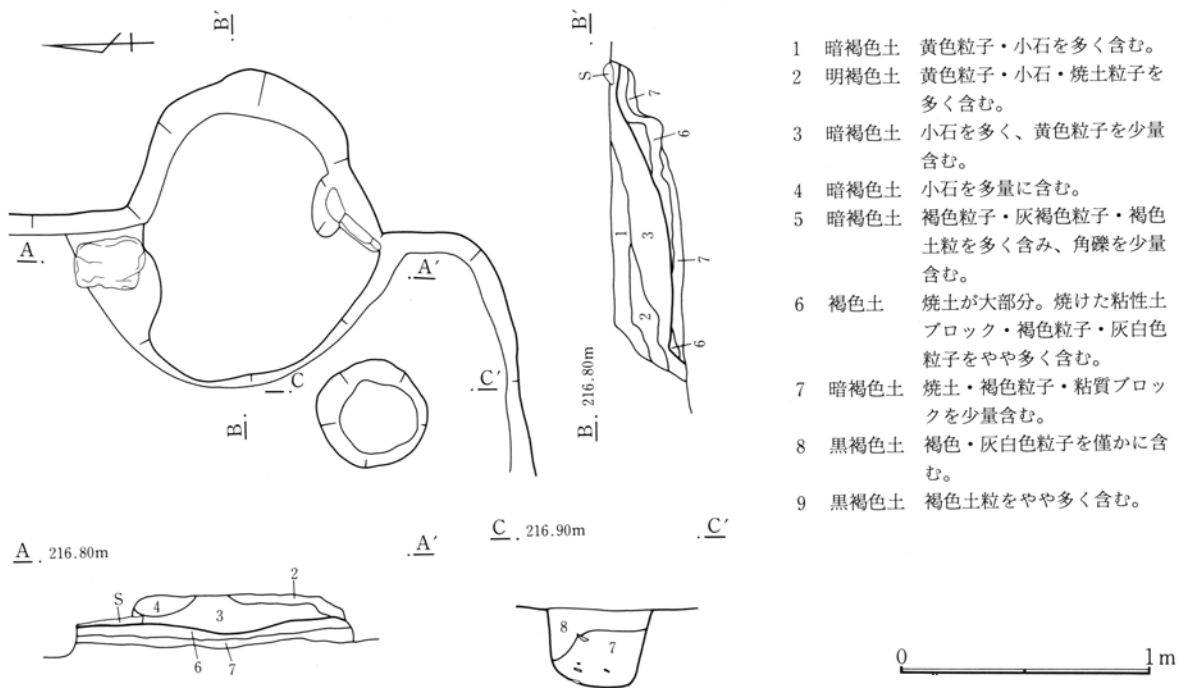
床面については、褐色粘質土で貼床をしている部分が一部存在するが、掘り方をそのまま床面としている部分が多い。床面は若干凹凸が存在するものの、ほぼ平坦で、比較的固くなっている部分と軟弱な部分がある。西壁ほぼ中央に幅6cm～10cm、深さ約2cmの壁周溝がある。この壁周溝は1.6mほど続くが、それより北側では不明瞭となっている。なお床面を精査したが、壁周溝はこの部分以外にはみられなかった。柱穴は確認されなかった。貯蔵穴は南東コーナーからやや離れた位置にあり、直径約45cm、床面からの深さ約30cmで円形である。なお、貯蔵穴の底部はほぼ平坦で広く、断面形は逆台形に近い。

カマドは東壁に付設されている。カマドの残存状態は悪く、右袖の下部が僅かに残っていたのみである。また、左袖付近には砂岩の割石があり、左袖の芯として使用されていた可能性もある。本住居のカマドの底面は、床面を掘り凹めてはおらず、僅かではあるが床面よりも高くなっている。カマド廃絶時の火床面は底面より約6cm上方で、この火床面にはカマド壁および天井部から崩落したと考えられる粘質土ブロックが焼土化していた。出土遺物は少なく、カマド焚口付近より須恵器壺が出土している他は、土師器・須恵器ともすべて小破片で、やや浮いた状態での出土である。

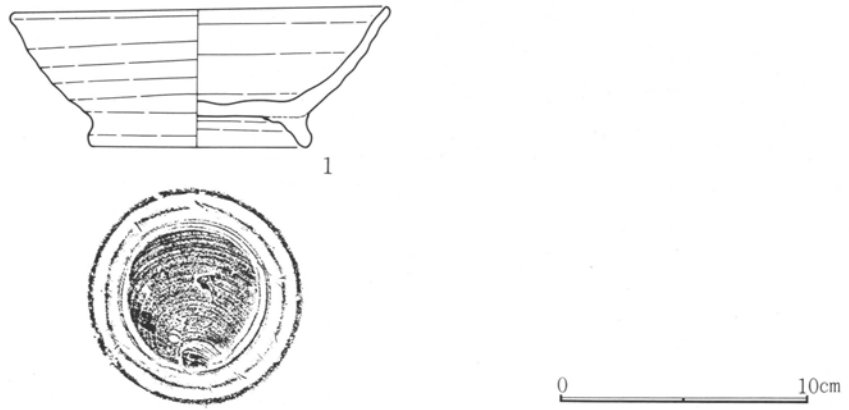
第2章 検出された遺構と遺物



第227図 17号住居跡



第228図 17号住居跡 カマド

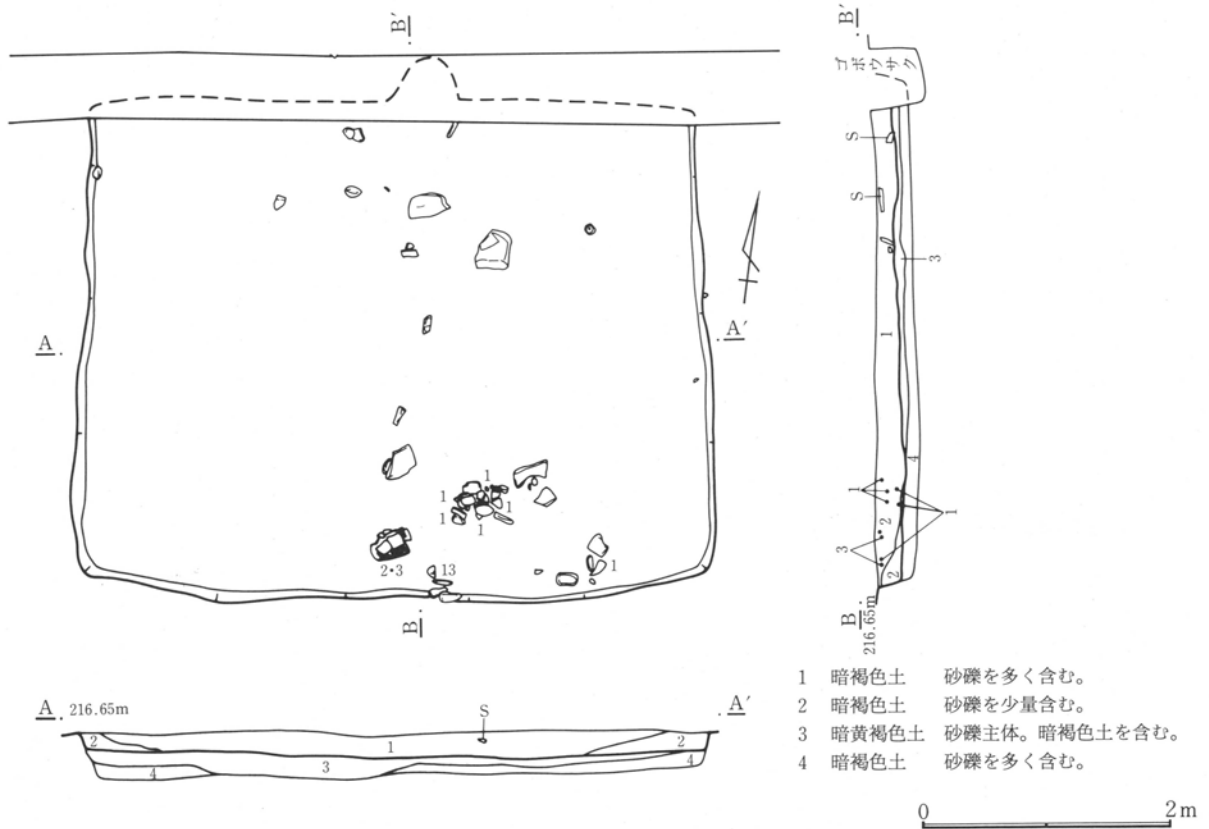


第229図 17号住居跡出土遺物

17号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	須恵器 坏	カマド周 辺	14.7 8.5	5.6	微砂粒を含 む	灰	普通	ロクロ整形 底面回転糸切り 付け高台	3/4

18号住居跡 (第230・231図、PL22・209)

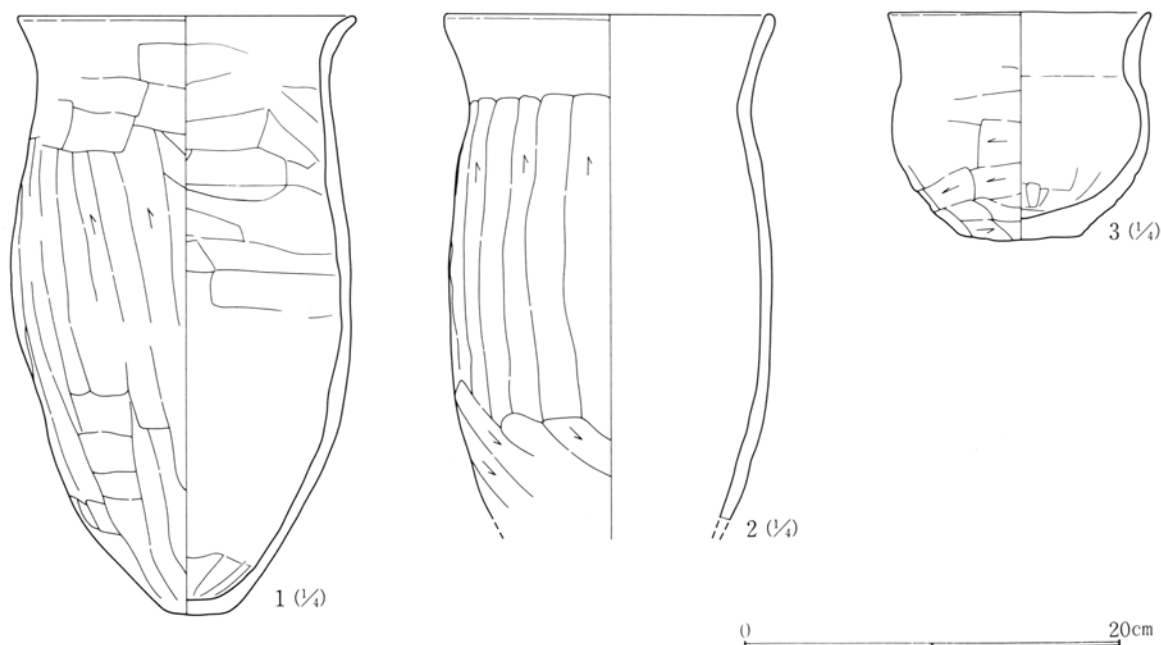


第230図 18号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

18号住居は隅丸長方形と推定される。床面はほぼ平坦で、砂礫を含む暗褐色土で貼床面としている。なお、掘り方は平坦である。柱穴および貯蔵穴は確認されていない。カマドは北壁に存在したものと考えられるが、耕作溝によって破壊されているため、詳細は不明である。

出土遺物として土師器甕3個体があるが、いずれも破片となって住居内に散乱していた。



第231図 18号住居跡出土遺物

18号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 甕	床南側	17.8 (4.2)	31.5	小石・砂粒 を含む	浅黄	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	内面輪積痕
2	土師器 甕	埋土	(17.5)	(26.3)	小石・砂粒 を多く含む	鈍い褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 磨滅のため不明	
3	土師器 小型甕	埋土	(14.0)	(12.0)	砂粒を多く 含む	鈍い橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	

20号住居跡 (第232～234図、PL22・209)

住居は隅丸方形を呈する。しかし西壁が中央付近でやや内側に折れており、そのため南西コーナーは鈍角となる。床面については、調査時点においては地山を直接床面としていたと考えていたが、遺物出土レベルから判断して10cmほど上に床面が存在した可能性もある。いずれにしても軟弱で、はっきりした硬化面は検出されていない。

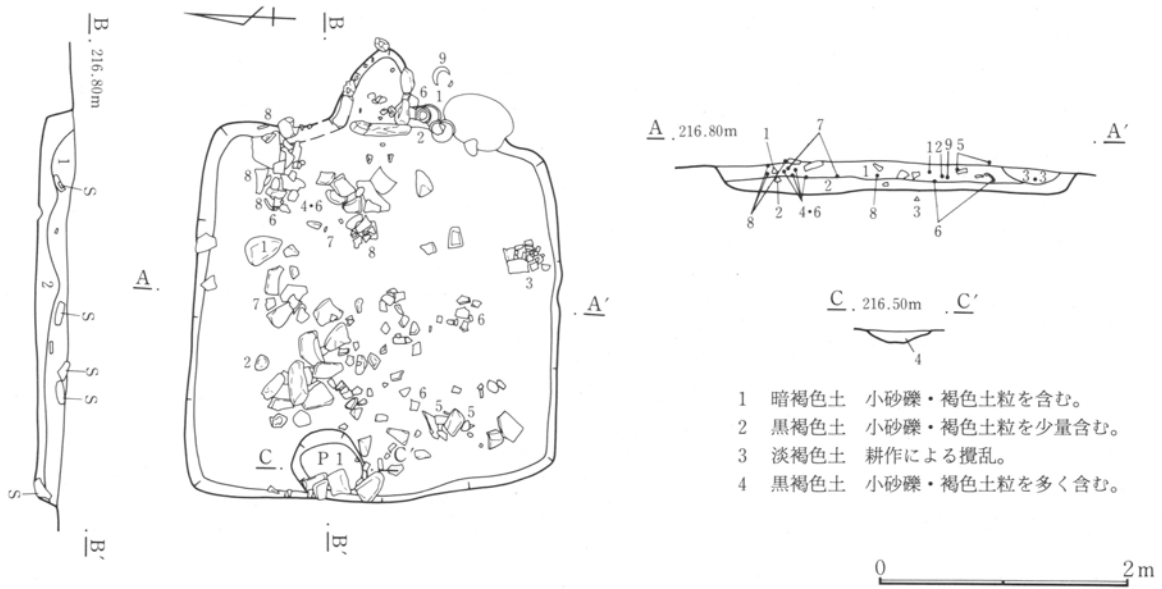
柱穴は確認されなかった。住居西壁に接して浅く小規模な土坑がある。この土坑は、直径55cm、深さ10cmの不整円形を呈しており、掘り方はU字形を呈しているが、規模・位置等から貯蔵穴の可能性はある。

カマドは東壁に付設されている。袖および側壁の一部は河原石を構築材として使用しているが、天井石に

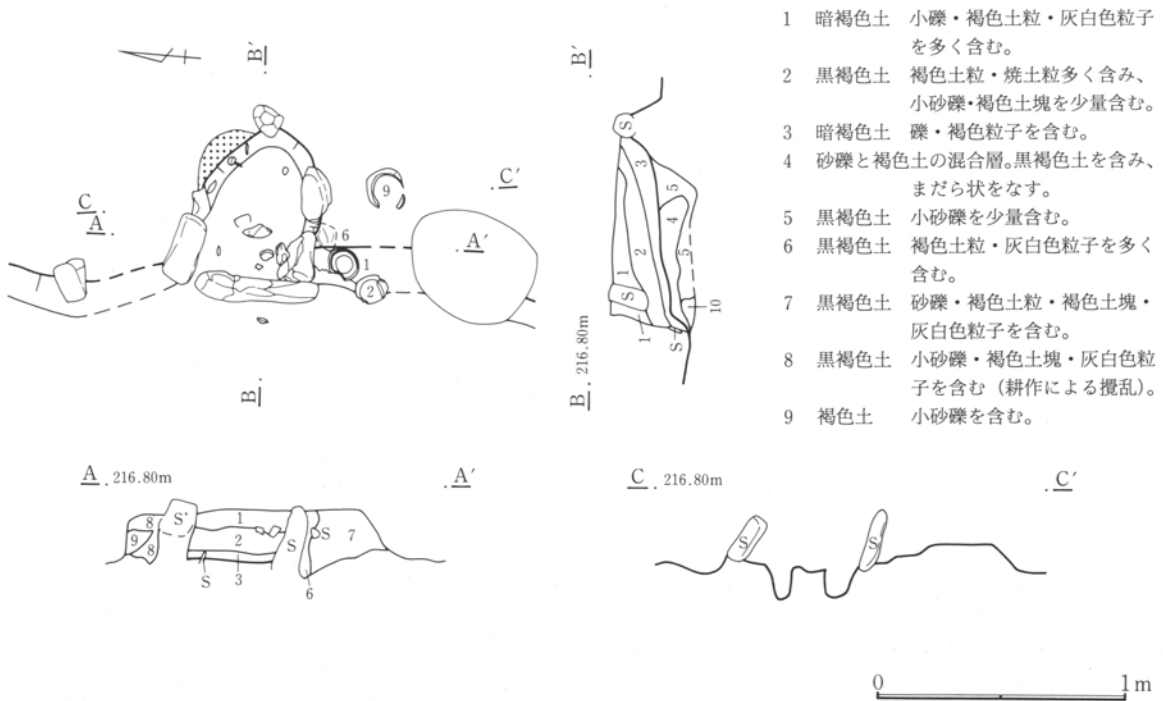
第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

ついでには砂岩の割石を使用しており、手前に落ちた状態での出土である。火床面は床面よりも高い位置にあるが、床面が10cmほど高かった場合はほぼ同レベルとなる。

出土遺物として土師器坏・土師器甕・土師器甔がある。坏2個体については、カマド右脇で火床面とほぼ同レベルから内面を上にして置かれたような状態で出土している。その他の遺物については住居の全域から出土しているが、小破片となったものが多い。

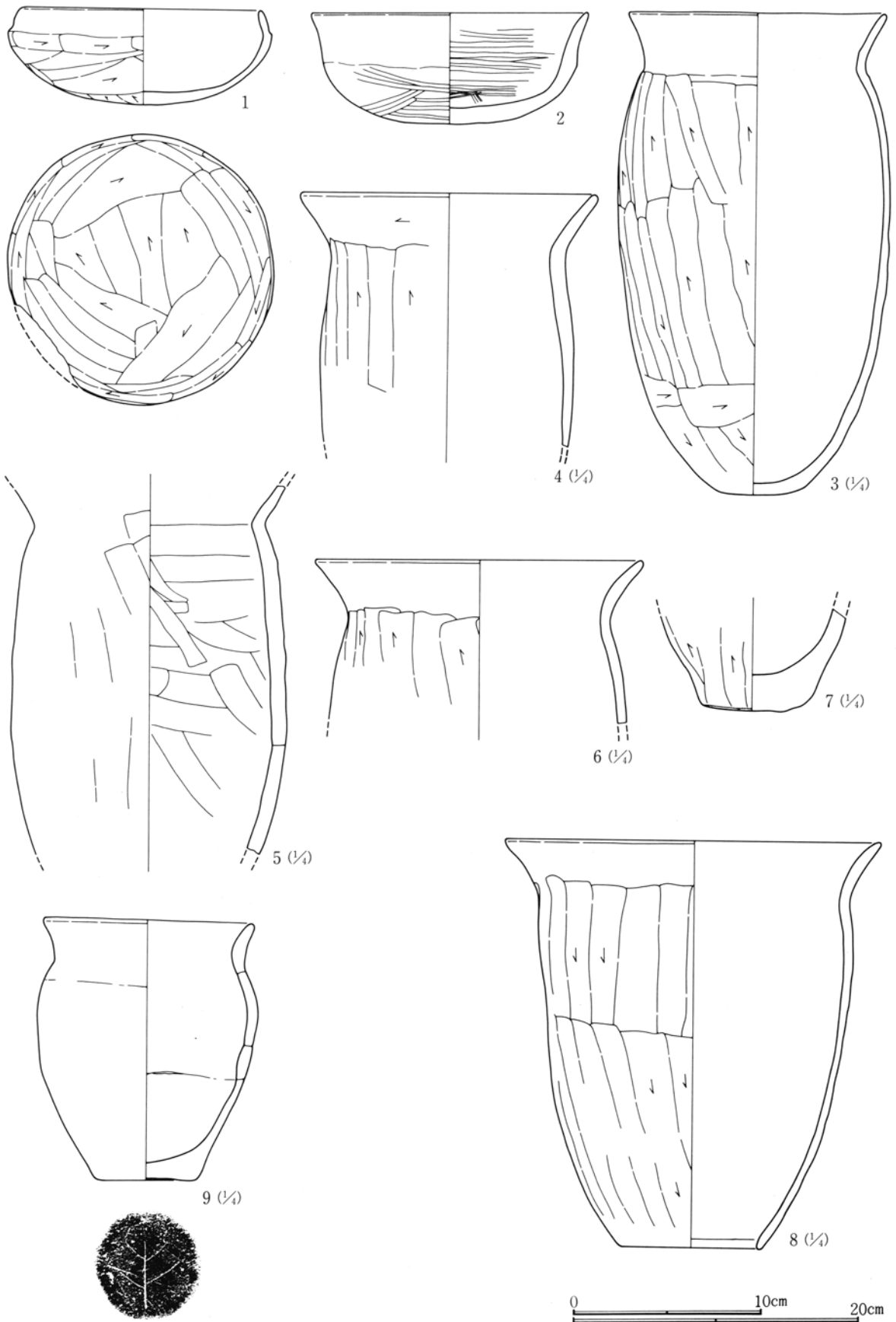


第232図 20号住居跡



第233図 20号住居跡 カマド

第2章 検出された遺構と遺物



第234図 20号住居跡出土遺物

20号住居跡出土土器観察表

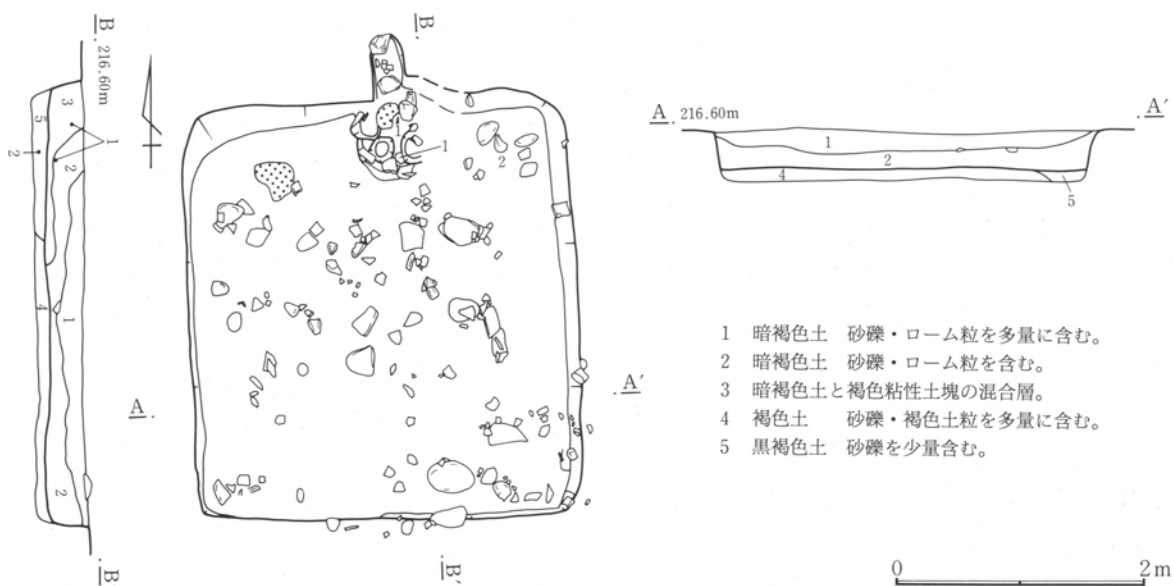
番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	12.3	5.0	小砂粒を含む	鈍い黄褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	ほぼ完形
2	土師器 坏	埋土	(14.4)	5.7	小砂粒を含む	鈍い黄橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫磨き	2/3内黒
3	土師器 甕	埋土	18.9	33.0	小石・砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
4	土師器 甕	埋土	(20.3)		小石・砂粒を含む	鈍い橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
5	土師器 甕	埋土	胴部最大径 (19.4)		小石・砂粒を含む	灰黄	普通	外 体部篋削り後撫で 内 撫で	外面スス附着
6	土師器 甕	埋土	23.0		砂粒を多く含む	鈍い橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
7	土師器 甕	埋土	5.5		小砂粒を含む	鈍い赤褐	普通	外 体部篋削り 内 撫で	
8	土師器 甕	埋土	26.0	28.3	砂粒を含む	橙	普通	外 体部篋削り 内 磨滅のため不明	一部欠損
9	土師器 甕	埋土	14.4 6.8	18.2	砂粒を含む	鈍い赤褐	普通	内外面撫で	口縁一部欠損 底部木葉痕

23号住居跡 (第235～237図、PL22・209)

住居は隅丸方形を呈する。床面は平坦で、砂礫を含む褐色土で貼床をしており、比較的良く踏み固められている。柱穴および貯蔵穴は確認されなかった。

掘り方については、本住居跡の大部分が36号住居跡の埋没土上に造られているため、平面的に検出することは困難であったが、断面においては捉えることが出来た。掘り方を断面で観察すると、床面からの深さは12cmで、ほぼ平坦となっている。

カマドは北壁のほぼ中央に付設されている。カマド袖については、褐色土で構築されているが、袖部分に

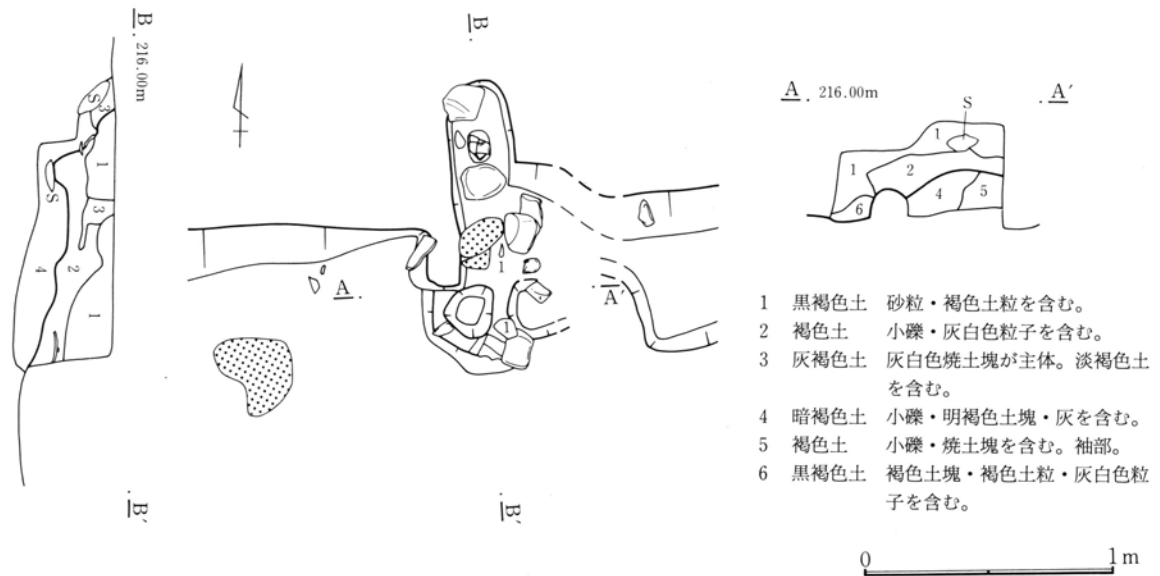


第235図 23号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

石材は使用されていない。焚口部底面は、床面とほぼ同レベルで、床面を掘り込んでいる形跡はみられない。カマドが廃絶された時点での火床面は、焚口部底面より約15cm上方である。焚口部底面と火床面との間には、灰が若干堆積していた。

出土遺物には、土師器坏が2個体ある。これらの坏は、カマド内およびカマド右の床面近くより、破片となって出土している。



23号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	カマド周 辺	13.4	5.0	小砂粒を含 む	鈍い黄 褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	3/5
2	土師器 坏	床北側	(12.5)	4.7	砂粒を含む	鈍い橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	1/3

24号住居跡 (第238～242図、PL23・210・250)

住居の東南部分約3分の1は、25号住居跡の埋没土上に造られているが、この部分の壁については明確に捉えることが出来なかった。住居はやや隅の丸くなった方形と考えられる。床面の貼床は施されている部分と施されていない部分とがあるが、床面は概して凹凸が少なく平坦である。

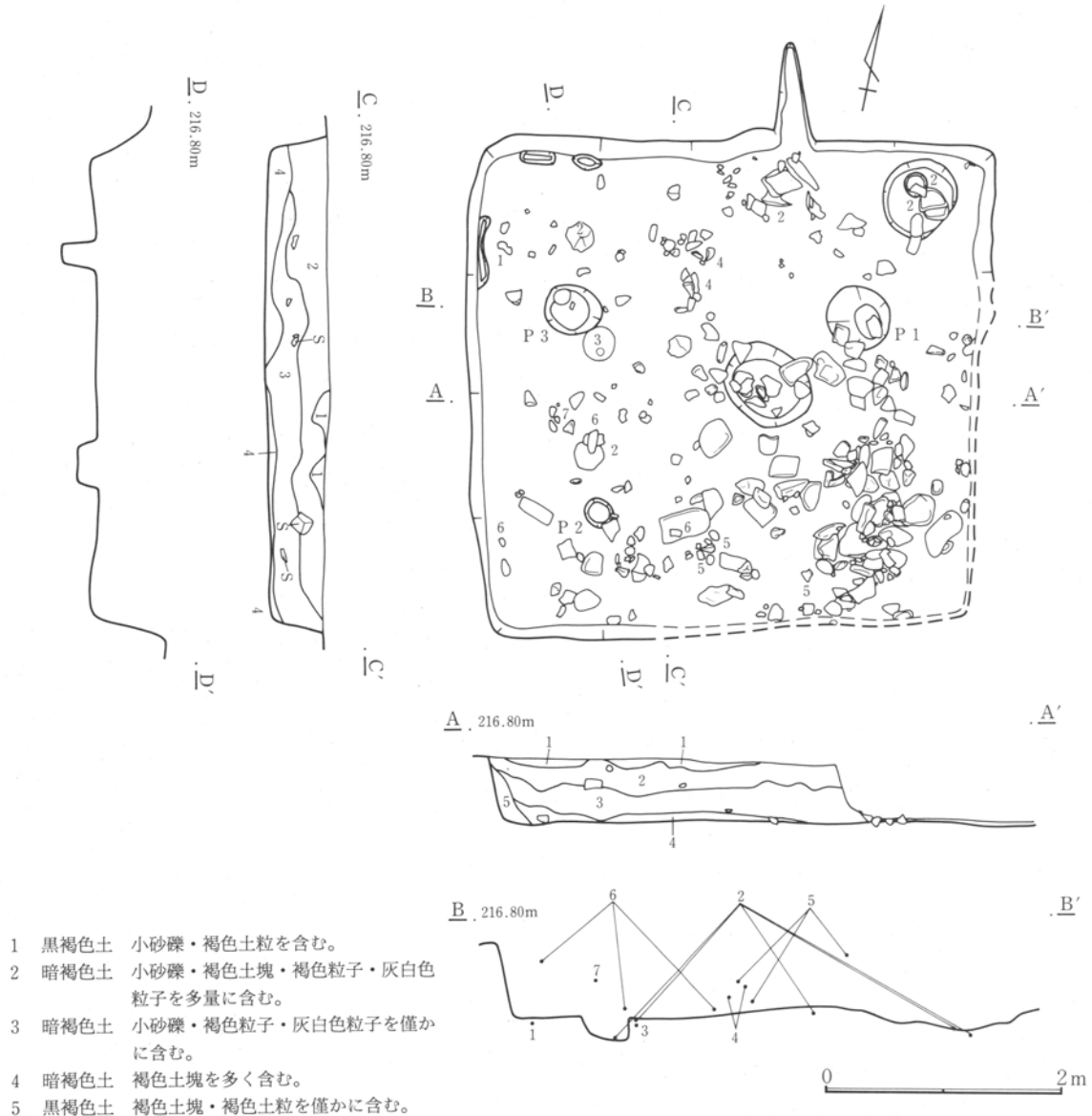
第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

柱穴については、柱穴が存在すると思われる位置に3基のPitが検出されている。このPitについては、対角線上に近い位置にはあるが、ややずれており規模もまちまちである。貯蔵穴は北東コーナー付近に発見された。貯蔵穴は直径約65cmの円形で、床面からの深さ約45cmの規模をもつ。なお貯蔵穴の底部は広いが傾斜しており、断面形は逆台形である。

住居北西コーナー付近には、壁に接して幅5cm~10cmの溝状の掘り込みが3ヶ所あるが、壁周溝にしては短く可能性は低い。また住居中央部には長径75cm、短径60cm、深さ23cmの規模をもつ楕円形の土坑がある。この土坑の掘り方はU字形を呈しており、土坑および住居の埋没状況から、住居の廃絶時には機能していたものと考えられる。

住居床面下には、北壁カマド部分から東壁を経て南壁中央部まで、壁に沿って「コ」の字状に幅0.51~1.35m、深さ30cmの溝状の掘り込みがある。

カマドは砂岩の割石で袖を構築している。左袖については倒れているものの、右袖については立った状態

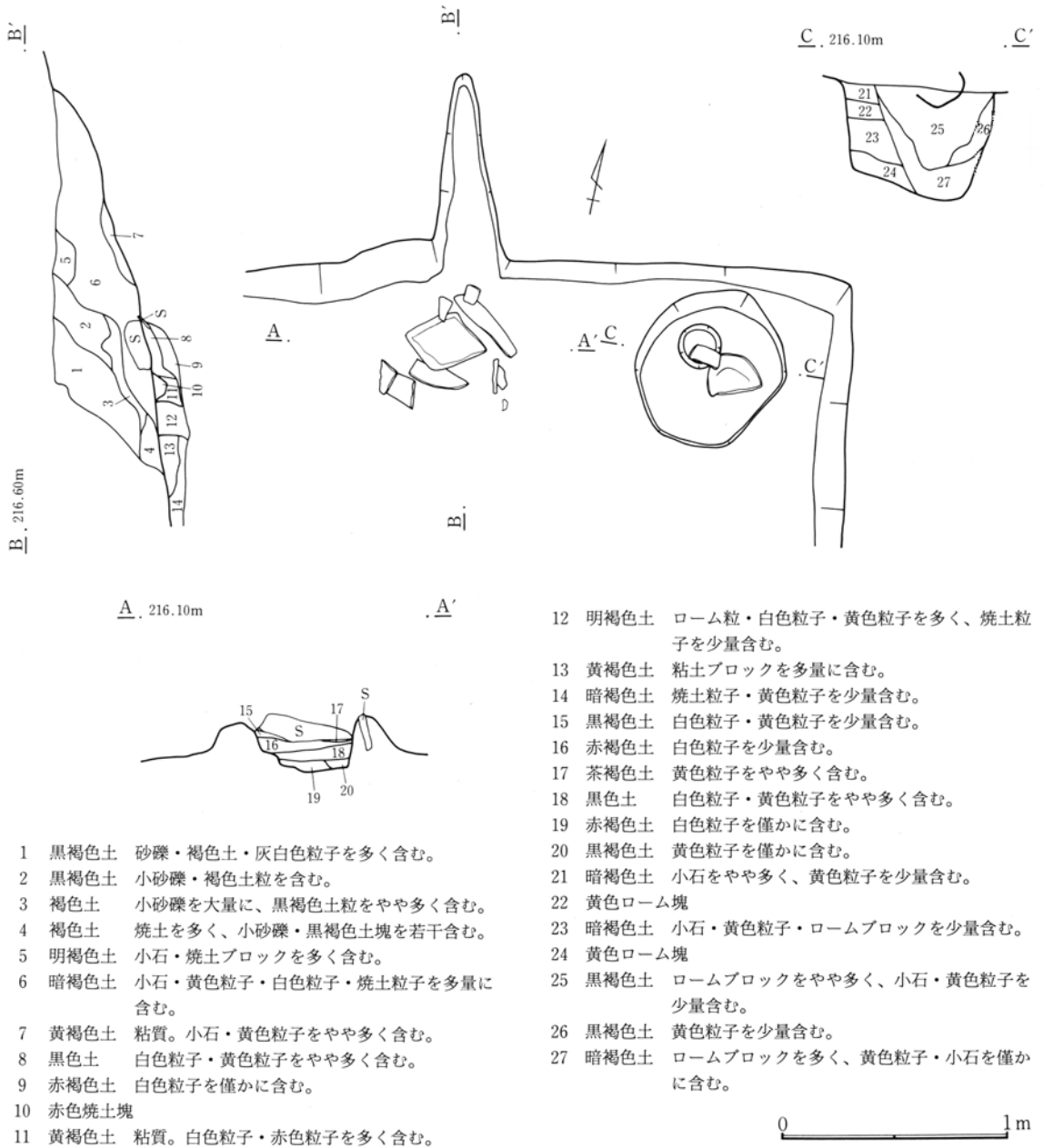


第238図 24号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

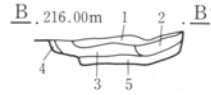
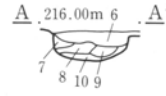
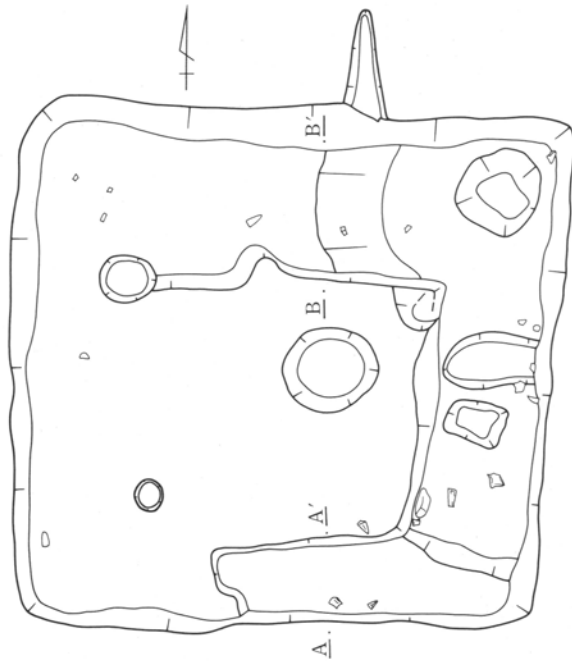
で出土しており、原位置を保っているものと考えられる。天井石についても砂岩を使用していたとみられ、割れ落ちた状態で出土している。火床面ははっきりしないが、カマドの埋没土の状況から床面とほぼ同レベルになると考えられる。

出土土器としては土師器坏・土師器甕・土師器甕・須恵器坏があり、床面上および床面から約40cm上方ぐらいまで、住居全域から出土している。



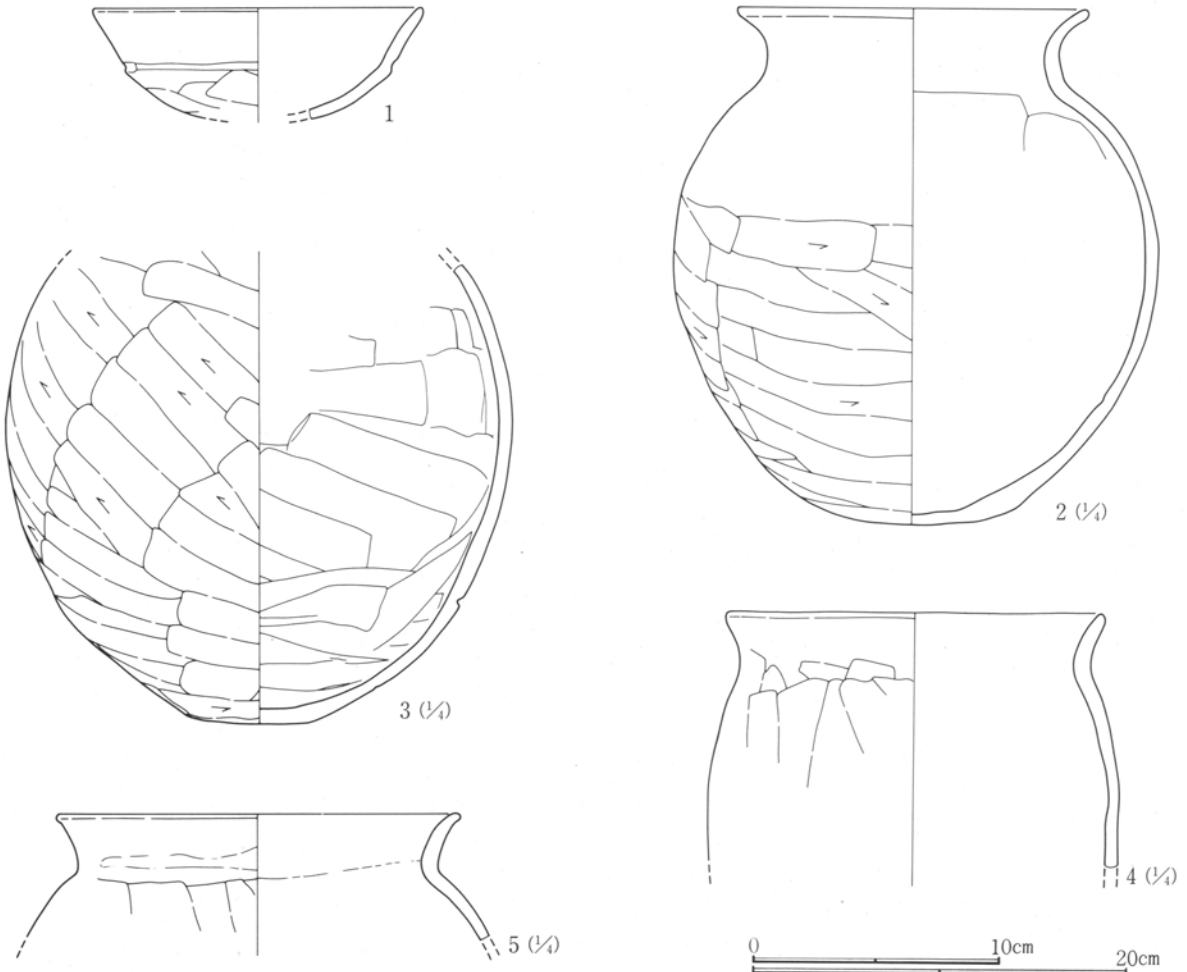
第239図 24号住居跡 カマド

第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物



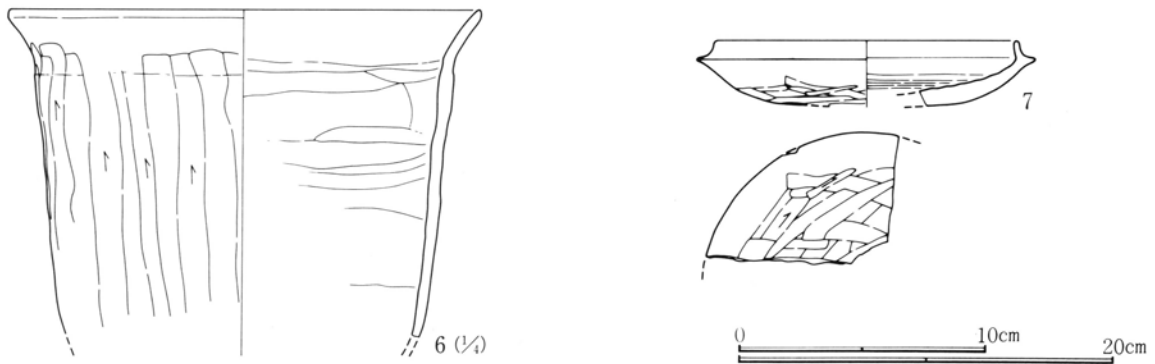
- 1 明褐色土 砂礫を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄色粒子を少量含む。
- 3 茶褐色土 ロームブロックを大量に含む。
- 4 黄褐色土 黄色粒子・白色粒子をやや多く含む。
- 5 暗褐色土 砂礫・黄色粒子・白色粒子を大量に含む。
- 6 暗褐色土 黄色粒子・橙色粒子を少量含む。
- 7 明褐色土 ローム粒を大量に含む。
- 8 暗褐色土 砂礫・黄色粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土 砂礫・黄色粒子を多く含む。
- 10 茶褐色土 ローム粒を多量に、砂礫を僅かに含む。

第240図 24号住居跡 掘り方



第241図 24号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



第242図 24号住居跡出土遺物(2)

24号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	(13.0)		小砂粒を含む	鈍い黄褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	1/3
2	土師器 甕	埋土	18.5	27.4	小砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	ほぼ完形
3	土師器 甕	埋土		6.7	小石・砂粒を含む	橙	普通	外 篋削り 内 横撫で	
4	土師器 甕	埋土	(20.0)		砂粒を含む	浅黄	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
5	土師器 甕	埋土	(21.2)		砂粒を含む	鈍い褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
6	土師器 甕	床南側	(25.0)		砂粒を含む	鈍い褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
7	須恵器 坏	埋土	(12.0)		精製	灰	良好	ロクロ整形後外面体部篋削り	1/4 自然釉付着

24号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	砥石	下位	1/2	16.5	6.7	3.7	594.8	砂岩	盤状の角礫。表面に使用面。

26号住居跡 (第243～246図、PL23・24・210・250)

住居西側3分の1程度が5号溝によって削られている。平面形は隅丸方形あるいは隅丸長方形と考えられるが、東南コーナーは直角であるものの東北コーナーは鈍角となっており、したがって南壁と北壁は厳密には平行しない。

床面は、砂礫を含む暗褐色土で約10cmほど貼床をしており、ほぼ平坦でよく踏み固められている。柱穴は住居の対角線近くに4基検出されているが、南北の柱穴の間隔に比べ、東西の柱穴の間隔が長くなっている。貯蔵穴は北東コーナー付近に発見された。貯蔵穴の規模は長径90cm、短径65cm、床面からの深さ30cmの楕円形で、掘り方はU字形を呈する。

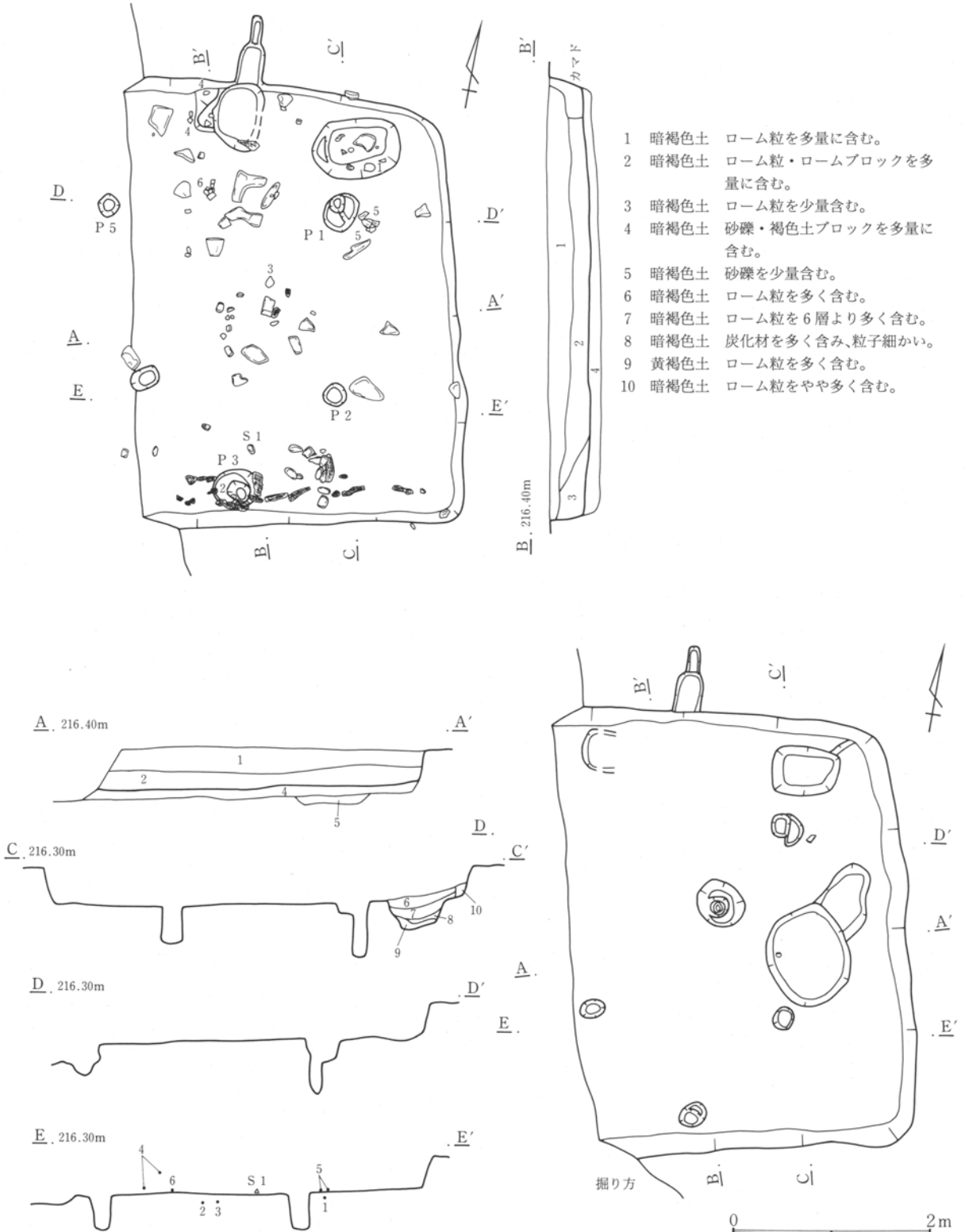
住居の掘り方においては、中央付近に直径45cm、深さ20cmのPitと、このPitと東壁との間に浅い土坑が検出されている。この浅い土坑は、長径約90cm、深さ約5cmで、同じ深さの以前に造られた土坑の上に造られている。

カマド前面から住居中央部にかけて、砂岩の割石がやや多く出土している。これらの割石はカマドの構築材であったと考えられる。しかし、カマドの左袖については暗褐色土で構築された部分が残存しており、砂岩が使用されていたか否かについては明らかではない。火床面ははっきりしないが、カマド内埋没土の状況

第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

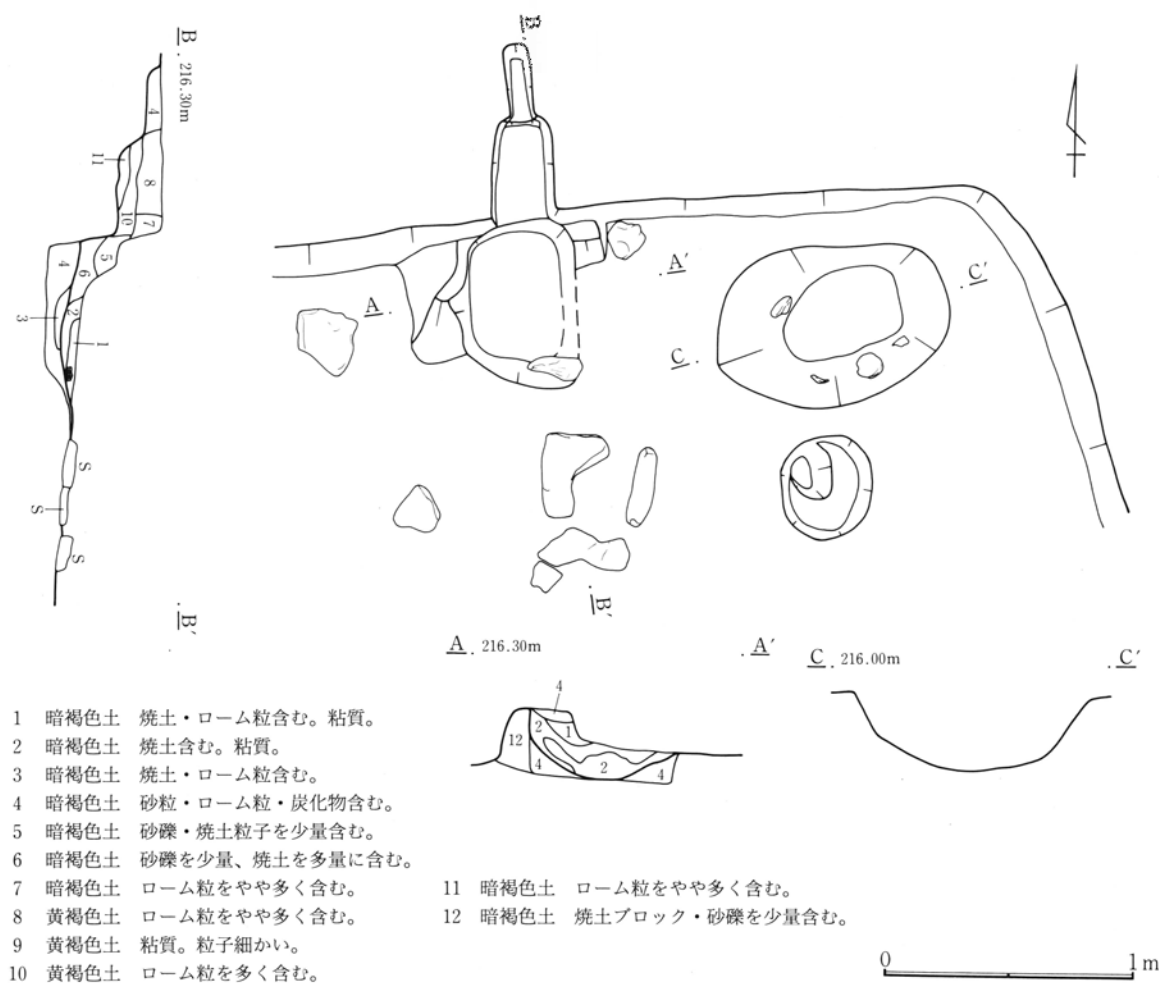
から床面とほぼ同レベルであったと考えられる。

出土遺物として土師器杯・土師器甕・こも編石がある。坏1は貯蔵穴内より、坏3は住居のほぼ中央で床面下に発見された Pit 内より出土している。その他の遺物については、床面付近からの出土である。

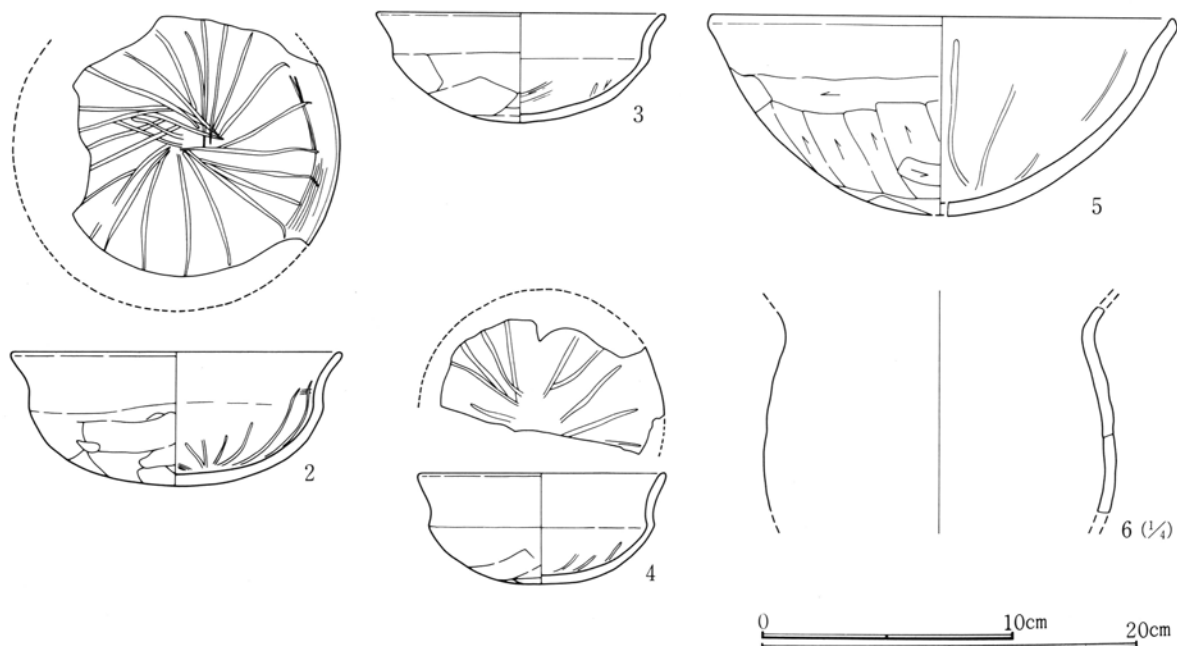


第243図 26号住居跡

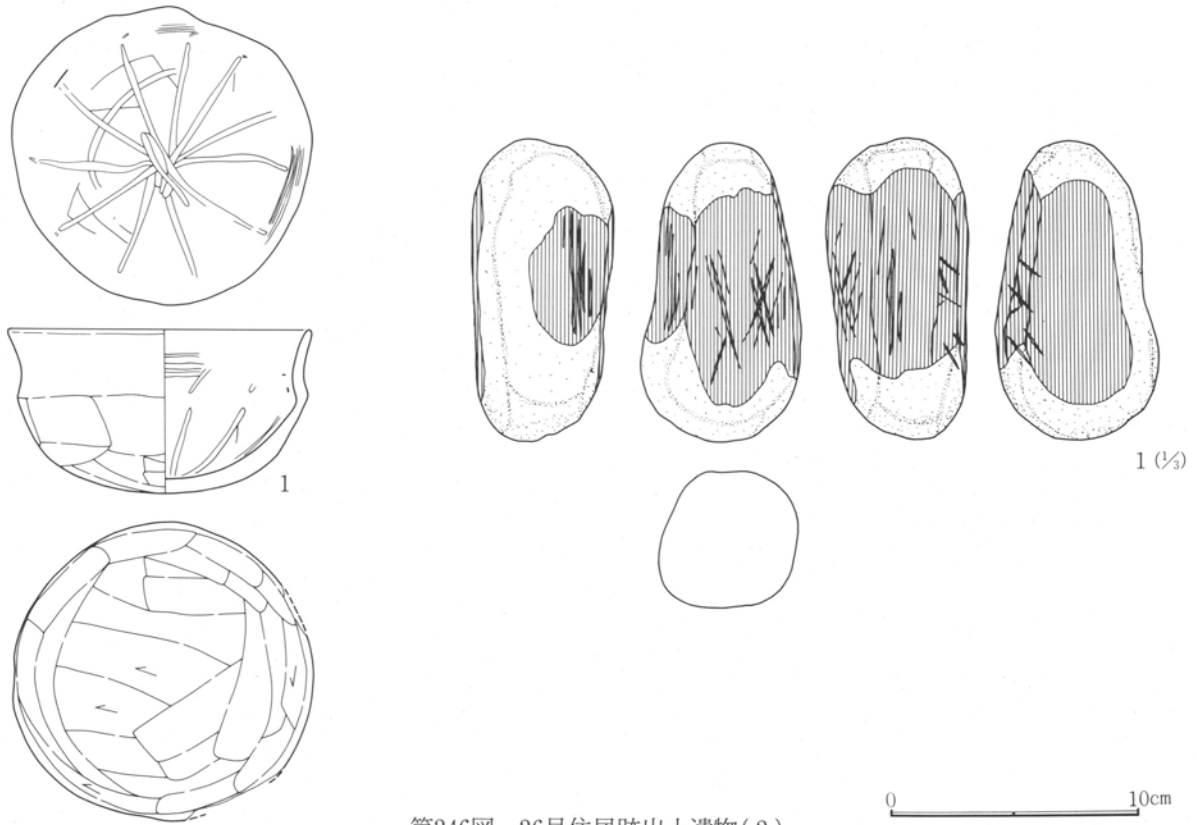
第2章 検出された遺構と遺物



第244図 26号住居跡 カマド



第245図 26号住居跡出土遺物(1)



第246図 26号住居跡出土遺物(2)

26号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 罎	貯蔵穴	12.0	6.5	砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で後暗文	ほぼ完形 内黒
2	土師器 罎	柱穴内	(13.0)	5.3	小砂粒を含 む	鈍い黄 橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部撫で後体部暗文	1/2
3	土師器 罎	柱穴内	(11.4)	4.3	砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部篋撫で	1/2
4	土師器 罎	床北側	(9.8)	(4.4)	小砂粒を含 む	鈍い褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で後暗文	1/3
5	土師器 罎形土器	床中央	(18.2)	(7.9)	小砂粒を含 む	鈍い黄	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	2/5
6	土師器 甕	床西側	胴部最大径 (18.8)		砂粒を含む	鈍い橙	不良	外 磨滅のため不明 内 口縁部～体部横撫で	破片

26号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	砥石	床下	完形	11.8	6.4	5.4	585.1	デイ	棒状の円礫。4面に使用による研磨面、裏面を除き刃ならし溝あり。
2	こも	下位	完形	11.1	8.3	4.5	671.4	変安	盤状の円礫。
3	こも	床直	完形	10.8	5.9	4.9	437.4	デイ	棒状の円礫。表裏に磨耗、両端・両側に敲打痕。
4	こも	床直	完形	12.5	6.7	5.3	498.5	変安	棒状の円礫。両端に弱い敲打。
5	こも	床直	完形	13.6	7.4	4.0	540.7	粗安	盤状の円礫。右側中央に浅い抉り。表裏に磨耗、両端に敲打痕。
6	こも	床直	完形	11.9	7.0	4.9	573.2	粗安	盤状の円礫。
7	こも	床直	ほぼ完	14.4	8.4	4.4	659.5	粗安	盤状の円礫。両端に敲打痕。
8	こも	床直	破片	9.9	8.2	5.8	862.3	ひん	石棒の破損品を転用したもの。
9	こも	床直	完形	12.9	7.2	5.2	663.6	粗安	盤状の円礫。左側に浅い抉り、両端に敲打痕。
10	こも	床直	2/3	11.5	6.5	4.6	552.3	変玄	棒状の垂円礫。上端に敲打痕。下部欠損。

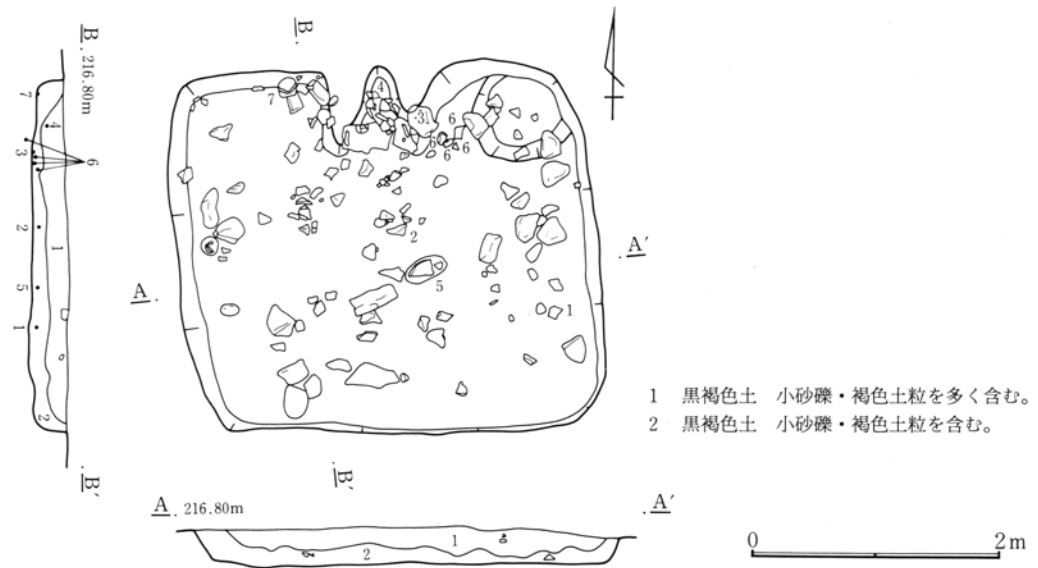
第2章 検出された遺構と遺物

28号住居跡 (第247～249図、PL24・210)

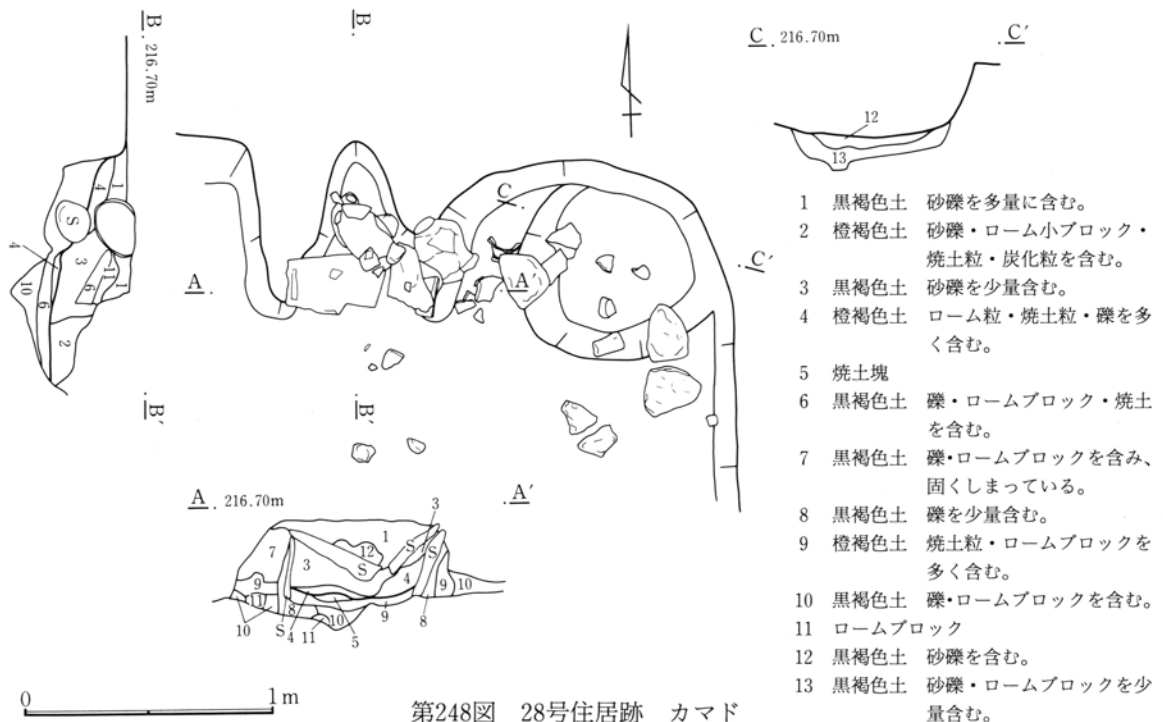
住居は隅丸方形を呈する。地山および29号住居跡埋没土を直接床面としており、ほぼ平坦な床面である。柱穴は確認されていない。貯蔵穴は円形で、壁北東隅に接している。貯蔵穴の底部は広く平坦で、断面形は浅い台形を呈す。

カマドは砂岩の切り石を袖石として、黒褐色土で袖を構築している。天井石も砂岩を使用しており、中央で割れ落ちた状態で出土している。

出土遺物として土師器環・土師器甕・土師器甔がある。甕4はカマド中央部より、甕3はカマド右脇より出土している。

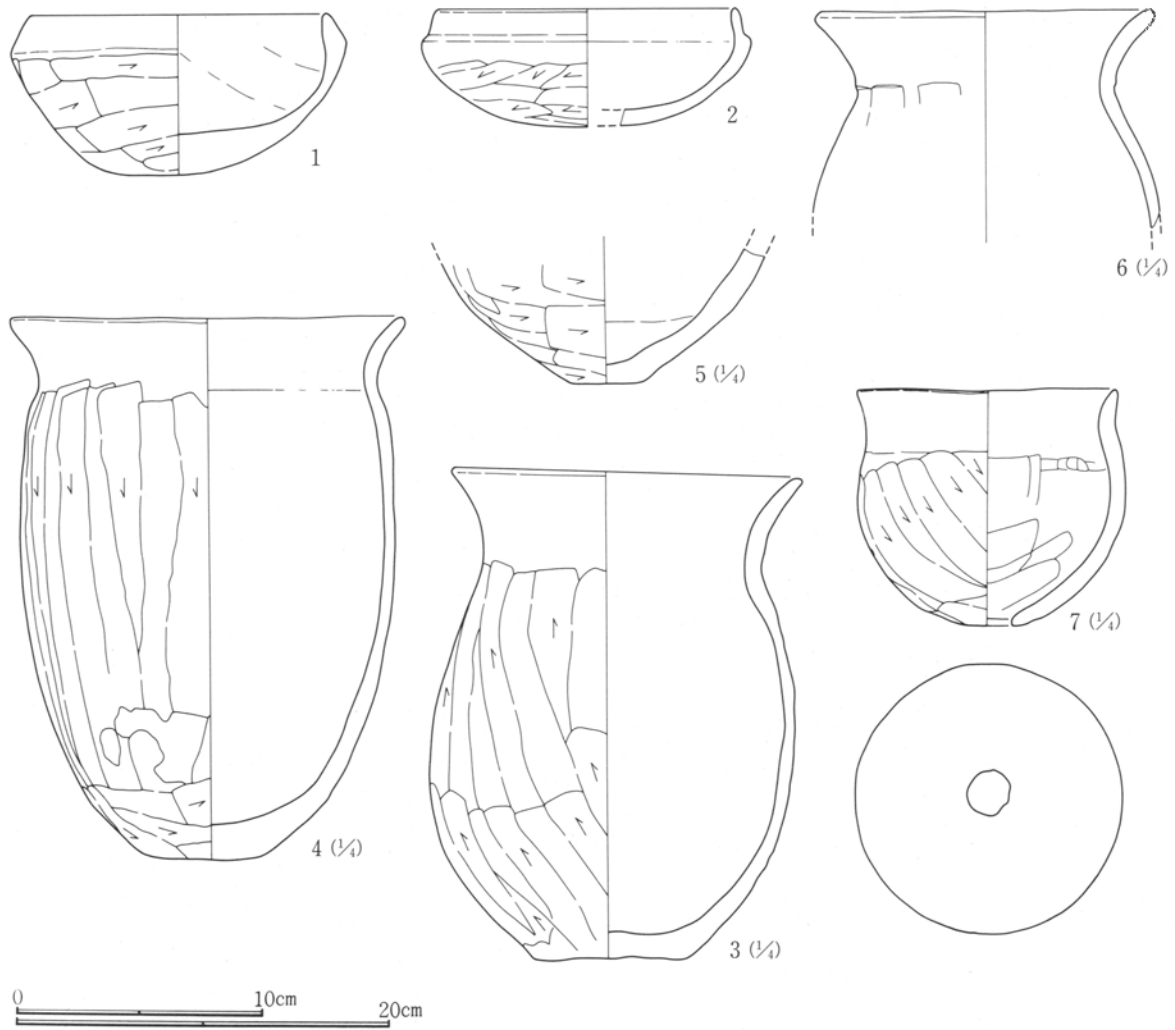


第247図 28号住居跡



第248図 28号住居跡 カマド

第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

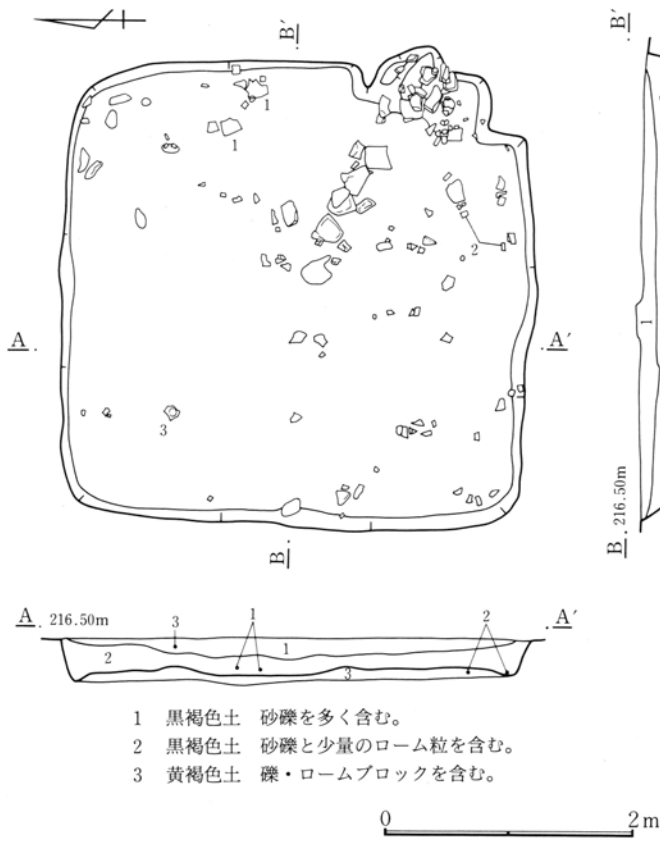


第249図 28号住居跡出土遺物

28号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	床東側	(11.6)	6.4	小石・砂粒 を含む	鈍い黄 橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横斜め撫で	2/3
2	土師器 坏	床中央	(12.0)	4.6	砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	1/3
3	土師器 甕	カマド周 辺	18.5 8.0	25.5	砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	ほぼ完形
4	土師器 甕	カマド内	(21.0) 5.1	28.7	砂粒を含む	鈍い黄 褐	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	2/3
5	土師器 甕	床中央	(3.4)		砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外 体部篋削り 内 体部横撫で	
6	土師器 甕	カマド周 辺	17.6		砂粒を含む	橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
7	土師器 甕	床北側	13.6	12.3	砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部指撫で 体部篋撫で	ほぼ完形

31号住居跡 (第250~252図、PL24・211)



- 1 黒褐色土 砂礫を多く含む。
- 2 黒褐色土 砂礫と少量のローム粒を含む。
- 3 黄褐色土 礫・ロームブロックを含む。

第250図 31号住居跡

住居は隅丸方形を呈するが、東南コーナー部については異形となっている。住居の床面は、礫およびロームを含む黄褐色土で貼床されているが、貼床が施されていない部分もあり、凹凸の多い床面である。

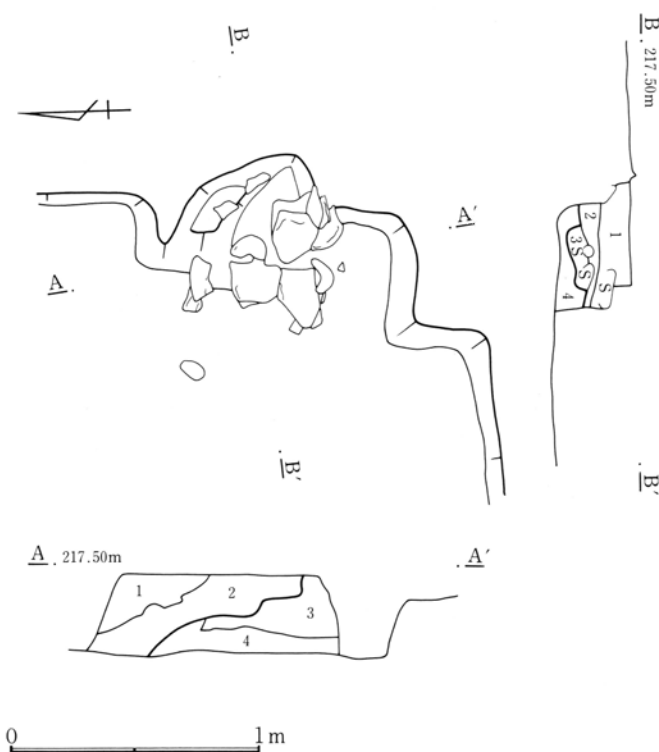
柱穴および貯蔵穴は確認されず、存在しなかったものと考えられる。

掘り方については、40号住居跡、41号住居跡、77号住居跡などの埋没土上に造られている部分が多く、この部分においては明確に掘り方として捉えることが困難であった。しかし地山に掘り込まれている部分においては、比較的平坦な掘り方となっている。なお、床下土坑等は発見されなかった。

カマドは東壁に付設されているが、東壁の中央と東南コーナー部のほぼ中間ぐらいの位置にある。カマド燃焼部等から砂岩の割石が出土しており、砂岩を構築材としていたと考えられるが、原位置を留めているものはない。

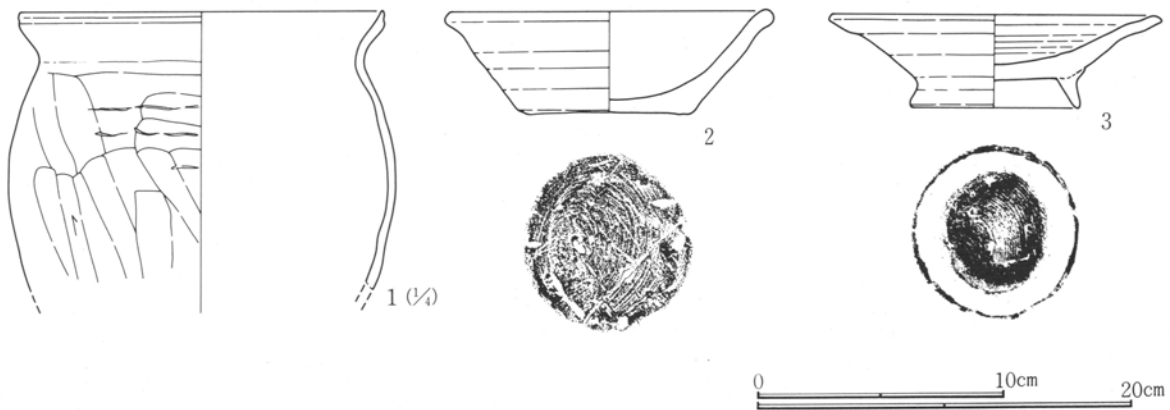
火床面ははっきりしない。しかしカマド内の埋没土の状況から、床面よりやや高い位置であった可能性がある。

出土遺物には、土師器甕と須恵器坏がある。3の須恵器坏を除いて、いずれも床面付近からの出土である。



- 1 暗褐色土 小砂礫をやや多く含み、褐色土粒・褐色土塊を若干含む。
- 2 黒褐色土 小砂礫を多量に含み、褐色土粒・褐色土塊を含む。
- 3 淡褐色土 焼土が大部分。小礫・灰白色粒子を多く含む。
- 4 黒褐色土 小砂礫・褐色土粒を多量に含む。

第251図 31号住居跡 カマド



第252図 31号住居跡出土遺物

31号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 甕	床東側	19.4		小砂粒を含む	橙	良好	外 体部篋削り後篋撫で 内 口縁部～体部撫で	
2	須恵器 坏	床南側	(12.3) 6.6	4.0	小砂粒を含む	灰	普通	ロクロ整形 底面回転糸切り	2/3
3	須恵器 坏	埋土	13.4 6.5	3.7	小砂粒を含む	灰	良好	ロクロ整形 底面回転糸切り 付け高台	1/3

36号住居跡 (第253～255図、PL25・211・250)

住居はほぼ正方形を呈する。23号住居によって約4分の1が削られている。床面は砂礫を含む暗褐色土で貼床をしており、平坦で比較的しっかりしている。

柱穴は住居の対角線上に4基検出された。貯蔵穴と考えられる Pit はカマド東側で北壁に接して発見された。貯蔵穴は、長辺が約45cmの丸味をおびた台形で、深さは約30cmである。なおこの貯蔵穴の北東部分に一部重複して楕円形の Pit がある。住居の南壁に接して溝状の掘り込みがある。この溝状の掘り込みは、幅の広い部分で85cm、幅の狭い部分で35cmであるが、床面からの深さについては西側で浅く約2cm、東側で深く約10cmとなっている。

掘り方については、縄文時代住居である68号住居、70号住居、78号住居の埋没土上に造られているため、明確に検出された部分は少ないが、凹凸のある部分が多くなっている。

カマドは南西部分を23号住居によって削られているため、左袖は殆ど残っていない。右袖についても破壊されている部分が多く、一部残存しているのみである。火床面は床面よりもやや低い位置にあり、あまり焼けていない。

出土遺物として土師器坏・土師器甕・土師器甗・ガラス小玉・砥石がある。遺物は住居のほぼ全域に分布しており、床面より5cm～10cm上方より出土している。

第2章 検出された遺構と遺物

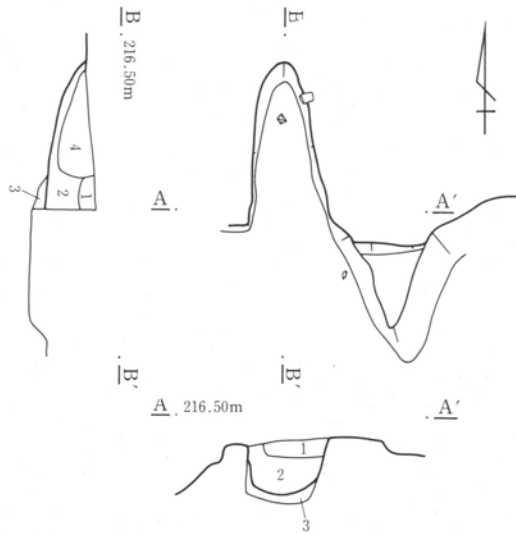


- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色土 砂礫を少量含む。 | 10 黒褐色土 砂礫を僅かに含む。 |
| 2 黒褐色土 砂礫・焼土粒子を僅かに含む。 | 11 黒褐色土 褐色土ブロックを多量に、砂礫を少量含む。 |
| 3 暗褐色土 砂礫を多く含む。 | 12 黒褐色土 砂礫・褐色土ブロックを少量含む。 |
| 4 暗褐色土 砂礫を少量、褐色土ブロックを僅かに含む。 | 13 黒褐色土 褐色土ブロックを少量含む。 |
| 5 黒褐色土 砂礫を少量含む。 | 14 黒褐色土 含有物なし。 |
| 6 黒褐色土 暗褐色土を含む。 | 15 黒褐色土 砂礫・褐色土ブロックを少量含む。 |
| 7 黒褐色土 砂礫を多く含む。 | 16 黒褐色土 砂礫・黄色粒子を少量含む。 |
| 8 黒褐色土 褐色土ブロックを多く含み、砂礫を僅かに含む。 | 17 黒褐色土 砂礫・暗褐色土ブロックを少量含む。 |
| 9 黒褐色土 砂礫・褐色土ブロックを僅かに含む。 | |

0 2m

第253図 36号住居跡

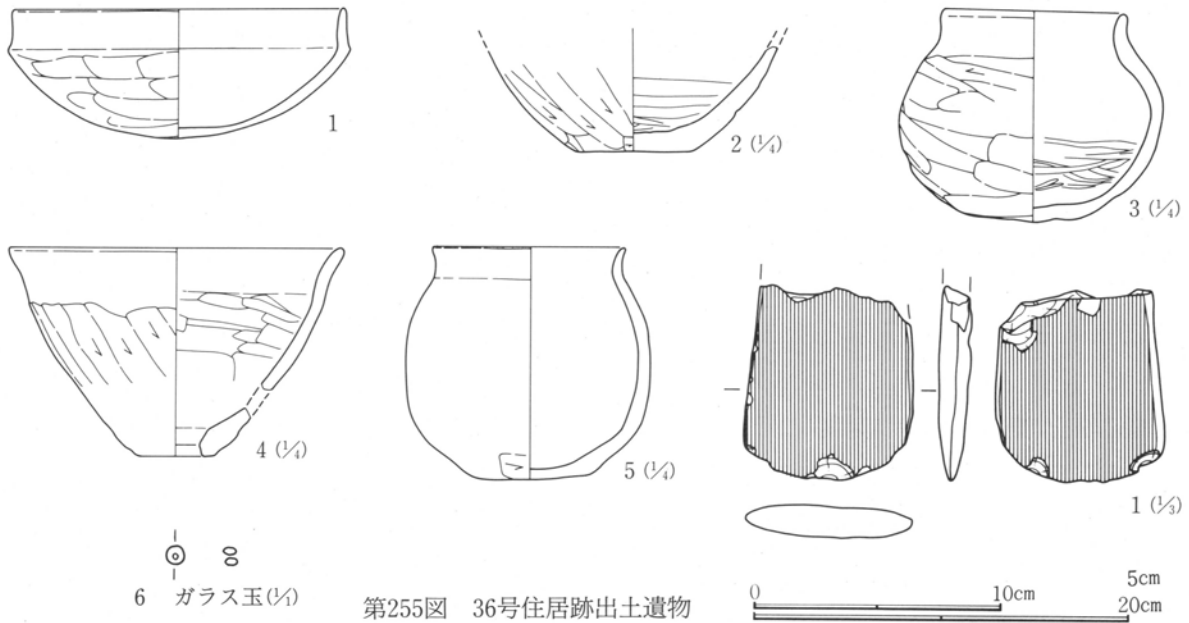
第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物



- 1 黒褐色土 砂礫を多量に含み、焼土ブロック・ロームブロックを若干含む。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物を多く含み、砂礫を少量含む。
- 3 黒褐色土 含有物なし。
- 4 黒褐色土 焼土を少量含む。



第254図 36号住居跡 カマド



6 ガラス玉(1/4)

第255図 36号住居跡出土遺物

36号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	(13.2)	5.1	小砂粒を含む	黄灰	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	1/4
2	土師器 甕	床南側		6.3	砂粒を含む	黒褐・ 橙	普通	外 体部篋削り 内 体部横撫で	
3	土師器 小型甕	床南側	9.5	12.2	小砂粒を含む	鈍い黄 橙	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫磨き	一部欠損
4	土師器 甕	床東側	(17.5)	(4.2)	砂粒を含む	明黄褐 ・黒	普通	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	
5	土師器 小型甕	床南側	(10.3)	12.2	砂粒を多く含む	明赤褐	普通	外 磨滅のため不明 内 口縁部～底部横撫で	

ガラス玉

住居覆土中からの出土で、直径2.5mm、厚さ1.2mm、穴の直径0.8mm。やや明るい空色を呈す。

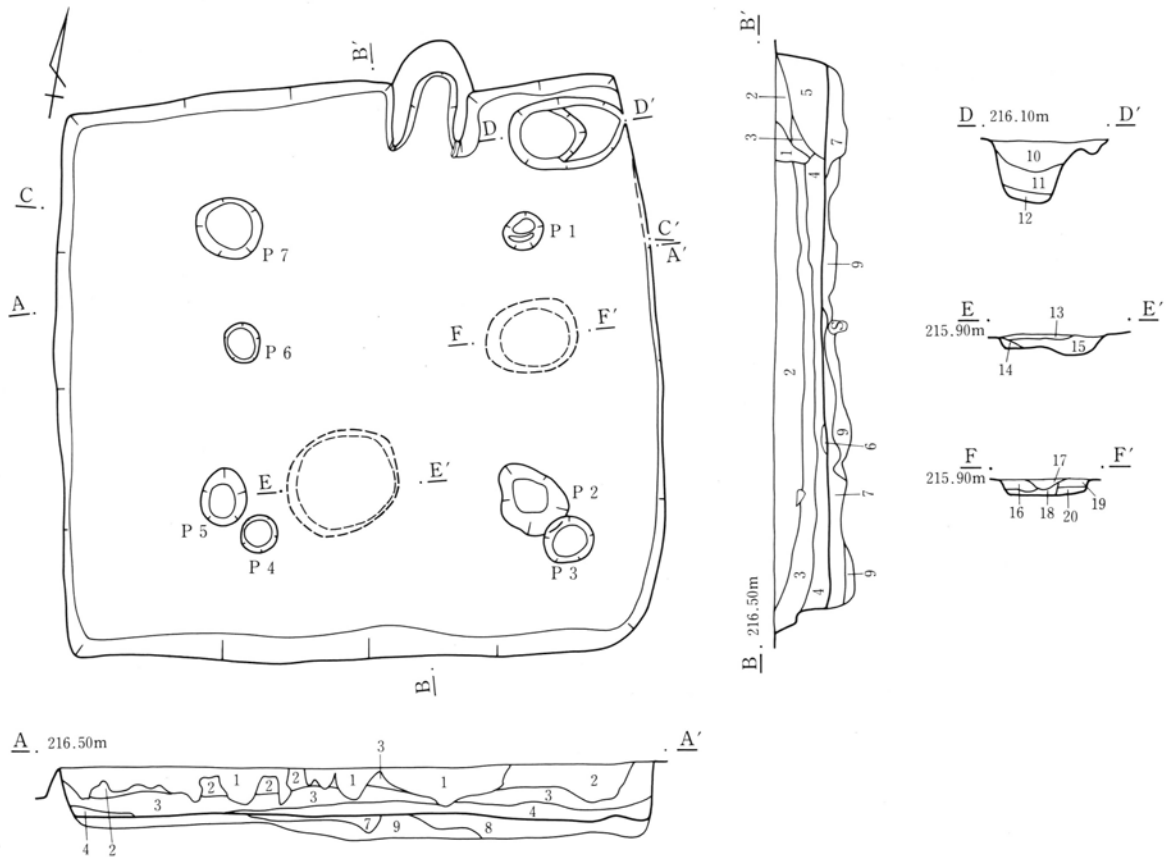
第2章 検出された遺構と遺物

36号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	残存状況	計測値 (cm・g)				石材名	特徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	砥石	不明	2/3	7.6	6.8	1.3	85.9	砂岩	表裏に使用面。上部欠損。

39号住居跡 (第256~259図、PL25・211)

住居は正方形に近いが、東西壁の方が南北壁よりもやや長くなっている。また北西コーナーは鈍角となっており、したがって厳密には南壁と北壁は平行しない。床面は粘性のある褐色土で貼床をしており、比較的しっかりしている。柱穴は住居の対角線上に検出されている。貯蔵穴は北東コーナー部分で発見された。



- | | |
|---|---|
| <p>1 黒褐色土 耕作土。</p> <p>2 黒褐色土 小砂礫を多量に、褐色土粒・褐色土塊・灰白色粒子を含む。</p> <p>3 黒褐色土 小砂礫・褐色土粒・灰白色粒子を含む。</p> <p>4 黒褐色土 小砂礫を含む。</p> <p>5 粘性褐色土塊と黒褐色土塊の混合。小砂礫・褐色土塊・灰白色粒子を多量に含む。</p> <p>6 褐色土 粘性。貼床部分。</p> <p>7 黒褐色土 褐色粘質土塊・小砂礫・褐色土粒の混合。</p> <p>8 黒褐色土 小砂礫・褐色土粒・灰白色土粒・褐色粘質土塊を多量に含む。</p> <p>9 暗褐色土 黒褐色土塊・褐色土塊・小砂礫を多量に含む。</p> | <p>10 黒褐色土 小砂礫・褐色土粒・灰白色粒子を少量含む。</p> <p>11 黒褐色土 小砂礫・褐色土塊・褐色土粒を多く含む。</p> <p>12 暗褐色土 褐色土粒が大量に混入し、黒褐色土とまだら状を呈す。砂礫を少量含む。</p> <p>13 黄褐色土 砂粒・黄色粒子を含む。</p> <p>14 黄褐色砂質土 地山の崩壊土。</p> <p>15 暗褐色土 砂粒・黄色粒子・橙色粒子を多量に含む。</p> <p>16 暗褐色土 砂粒・黄色粒子を多く含む。</p> <p>17 暗褐色土 砂粒・黄色粒子をやや多く含む。暗い色調。</p> <p>18 暗褐色土 砂粒・小石をやや多く含む。暗い色調。</p> <p>19 暗褐色土 黄褐色粒質土を多く含む。</p> <p>20 明褐色土 黄色粒子をやや多く含む。</p> |
|---|---|

0 2m

第256図 39号住居跡

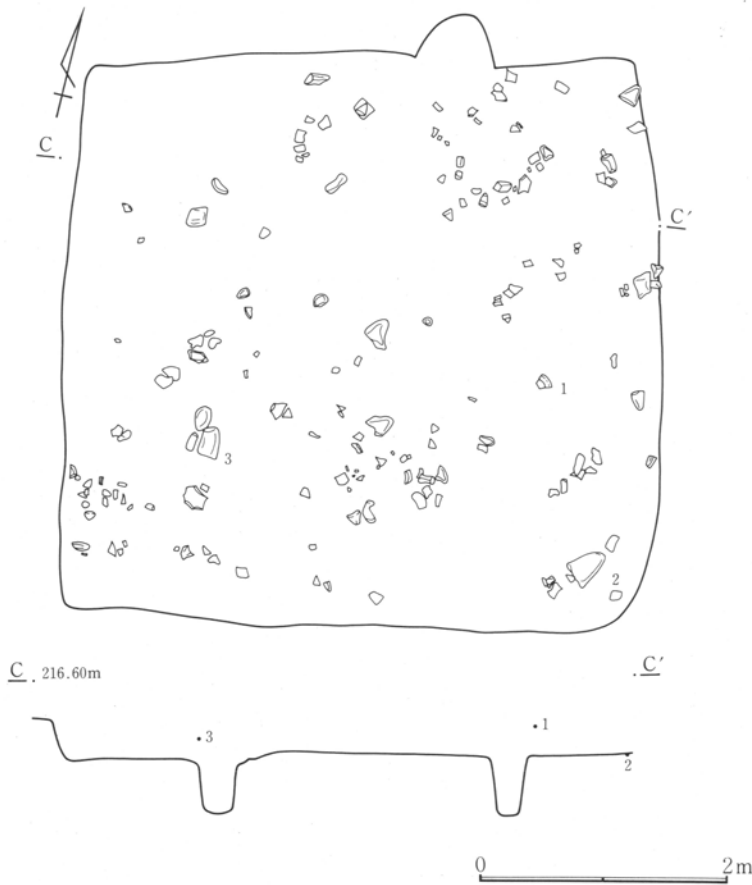
第3節 古墳時代以降の住居跡と出土遺物

貯蔵穴の平面形は長径90cm、短径55cmの楕円形であるが、西側が深さ約50cmの円形となっている。

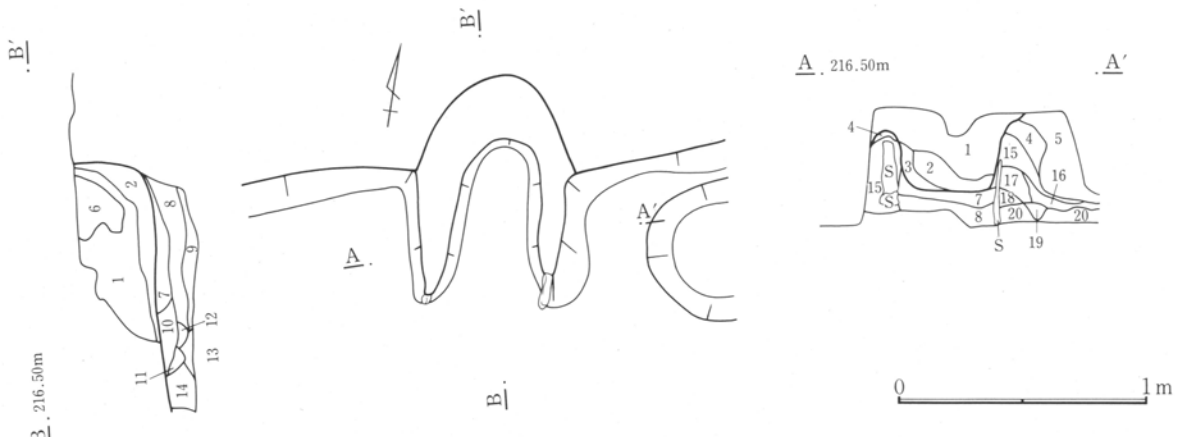
床下には長径90cm、短径80cm、深さ16cmと長径74cm、短径57cm、深さ13cmの土坑が検出されている。なお掘り方は床面から5cm~20cmで凹凸がある。

カマドの袖は砂岩の割石を芯として、暗褐色土で構築されている。火床面については、床面より7cmほど高い位置にあるが、あまり焼けていない。

出土遺物として土師器杯・土師器甕がある。



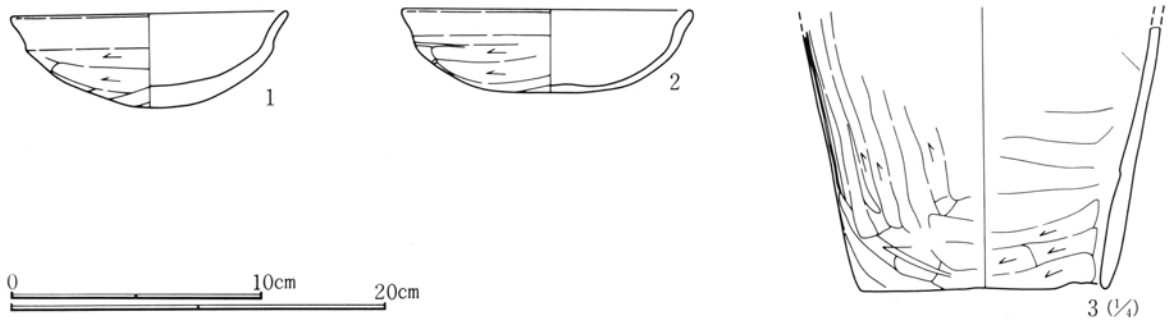
第257図 39号住居跡遺物出土状況



- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色土 小砂礫・褐色土粒・焼土塊を多く含む。 | 10 暗褐色土 焼土ブロックを多量に含む。 |
| 2 黒褐色土 小砂礫・焼土塊を僅かに含む。 | 11 暗褐色土 小砂礫・黄色粒子を少量含む。 |
| 3 暗褐色土 小砂礫を多量に、褐色土粒・灰白色粒子・焼土塊を若干含む。 | 12 焼土塊 |
| 4 暗褐色土 小砂礫・褐色土塊・褐色土粒・焼土塊をやや多く含む。 | 13 暗褐色土 砂粒・黄色粒子を少量含む。 |
| 5 黒褐色土 小砂礫・褐色土粒・褐色土塊・灰白色土粒を含む。 | 14 ローム塊 |
| 6 暗褐色土 小砂礫・褐色土塊・焼土塊を含む。 | 15 黄褐色土 ローム粒主体。砂粒・焼土粒を大量に含む。 |
| 7 黒褐色土 砂粒・焼土粒子を含む。 | 16 暗褐色土 黄色粒子をやや多く含む。 |
| 8 黒褐色土 砂粒・焼土粒子をやや多く含む。 | 17 暗褐色土 黄色粒子を含む。 |
| 9 明褐色土 砂粒を僅かに含む。 | 18 暗褐色土 ローム粒・砂粒を多く含む。 |
| | 19 暗褐色土 黄色粒子を少量含む。 |
| | 20 黒褐色土 ローム粒・小砂粒を含む。 |

第258図 39号住居跡 カマド

第2章 検出された遺構と遺物



第259図 39号住居跡出土遺物

39号住居跡出土土器観察表

番号	器種 器形	出土位置	口径 底径	器高 (cm)	胎土	色調	焼成	整成形の特徴	備考
1	土師器 坏	埋土	10.9	3.7	小砂粒を含む	橙	良好	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	1/3
2	土師器 坏	床東側	11.5	3.4	小砂粒を含む	橙	良好	外 口縁部横撫で 体部篋削り 内 口縁部～体部横撫で	1/3
3	土師器 甕	埋土	(13.0)		小砂粒を含む	橙・黒	良好	外 体部撫で・篋削り 内 体部横撫で	内面輪積痕

40号住居跡 (第260～263図、PL26・211)

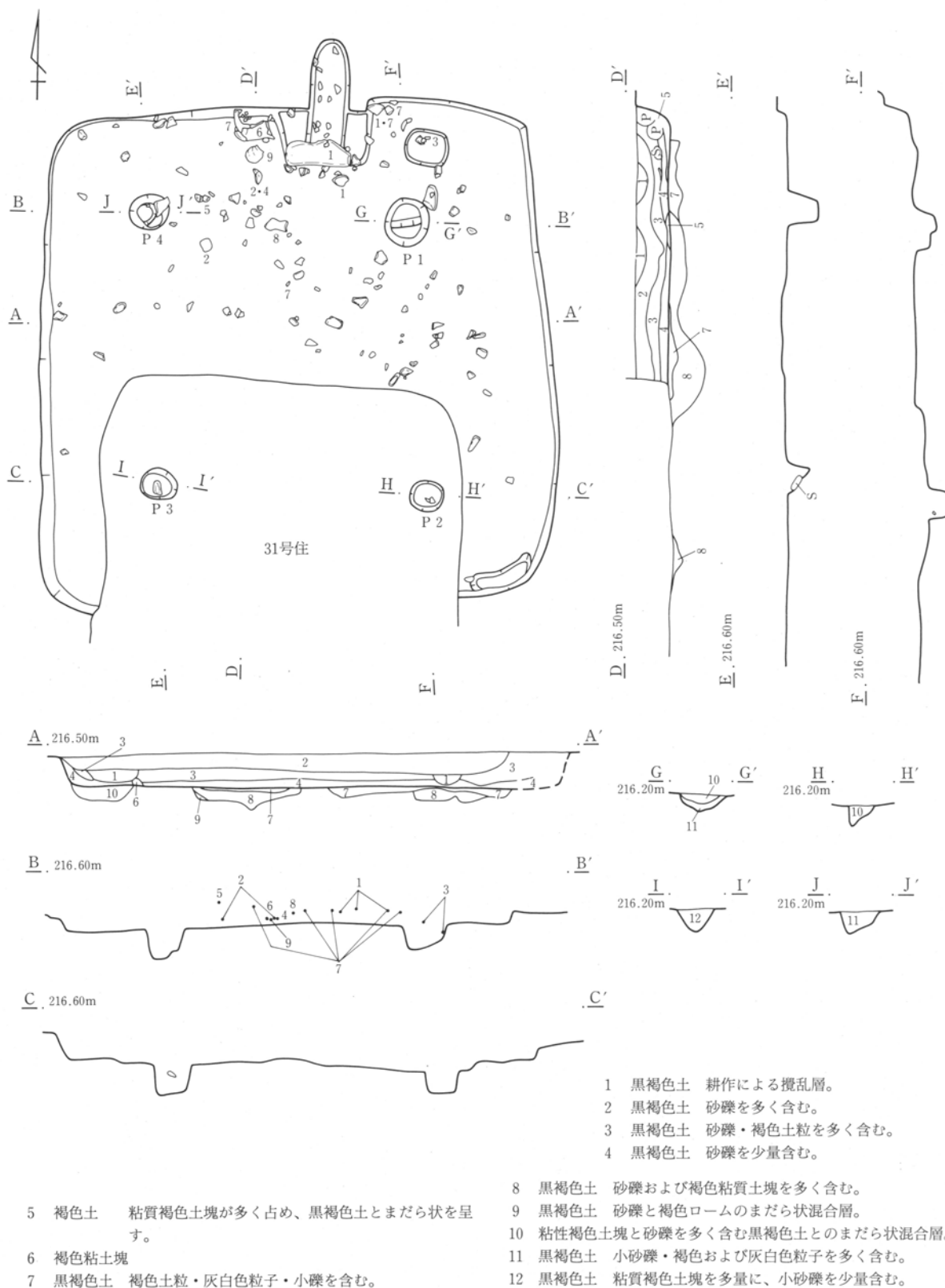
住居は隅丸方形を呈する。住居の南側約3分の1は、31号住居によって床面下約5cmが削られている。床面はほぼ平坦で、大部分は黒褐色土で貼床をしているが、一部に地山を掘り込んだ面をそのまま床面としている部分もある。

柱穴は住居の対角線上に確認された。貯蔵穴はカマド東側の北壁近くにあり、長径45cm、短径36cmの小判形を呈している。この貯蔵穴は深さ約55cmで逆台形の掘り方をもつ。

掘り方については、かなりの凹凸がある。住居掘り方面の中央やや西寄りには、直径約1m、深さ約25cmの円形の床下土坑がある。また円形床下土坑と南東コーナーの間には、不整形の床下土坑があるが、深さについては、5cm～20cmと一定していない。掘り方部分中央やや北寄りと南壁に接して、直径15cm～20cmのPitが4基存在する。このPitはいずれも深さ15cm程度のやや浅いものである。

カマドは北壁のほぼ中央に付設されている。カマド袖は砂岩の割石を芯にして構築されており、またこの砂岩は袖の天井石としても使用されていた。カマドは焚口部分を北壁に接して幅85cm、深さ20cmほど掘り込んでいるが、この部分には焼土・灰・炭化物は全く存在しなかった。火床面はカマドの埋没状況から床面とほぼ同レベルと考えられるが、焼土の存在については僅かである。

出土遺物には土師器坏および土師器甕がある。甕6と9はカマド左脇より完形で出土している。その他の遺物については、いずれも住居北半部のカマド周辺が多く、床面より5cm～20cm上方から出土している。



第260図 40号住居跡

0 2m